国史跡山王囲遺跡の研究 Ⅱ

石器・石製品・土製品・骨角器編

2021 年

弘前大学人文社会科学部　北日本考古学研究センター

国史跡山王囲遺跡の研究 Ⅱ

石器・石製品・土製品・骨角器編

2021 年

弘前大学人文社会科学部　北日本考古学研究センター

巻頭写真１　土玉類

巻頭写真２　土製耳飾

巻頭写真３　骨製髪針

目　次

巻頭写真
目次
例言
凡例

第１章　研究の経緯と方法……上條
　第１節　研究の経緯…… 1
　第２節　分析の方法…… 2
　第３節　遺物の保存処理…… 3
　第４節　研究成果の公表…… 3

第２章　出土石器の分析……早川・浅野・山本・上條
　第１節　石器の分析法・基準…… 4
　第２節　石器の概要…… 4
　第３節　石器組成…… 5
　第４節　層位別検討…… 6
　第５節　器種別検討…… 52

第３章　出土石製品の分析……木村・上條
　第１節　石製品の概要と分析法…… 68
　第２節　石棒・石刀・石剣…… 68
　第３節　独鈷状石器（独鈷石）…… 74
　第４節　円盤状石製品…… 74
　第５節　異形礫…… 79
　第６節　石製玉類…… 79
　第７節　岩版…… 80
　第８節　その他石製品…… 82

第４章　出土土製品の分析……渡邊・杉山・上條
第１節　土製品の概要…… 83
第２節　土偶…… 83
第３節　土版…… 85
第４節　土玉…… 87
第５節　土製小型垂飾…… 98
第６節　土製耳飾……106
第７節　集中出土地点について……109
第８節　円形土製品……110
第９節　ミニチュア土器……110
第10節　有孔土製品……112
第11節　円盤状土製品……112
第12節　その他土製品……112

第５章　出土骨角器・貝製品の分析……櫻庭・山口・植月・上條
第１節　骨角器・貝製品の概要……113
第２節　骨鏃……113
第３節　ヤス……113
第４節　組み合せ式ヤス……113
第５節　ヤス状刺突具……115
第６節　刺突具……115
第７節　弭形角製品……115
第８節　髪針……117
第９節　垂飾……117
第10節　管状加工垂飾……117
第11節　札状加工製品……118
第12節　勾玉……118
第13節　腰飾……118
第14節　未成品・廃材……118
第15節　漆塗貝製品……123

山王囲遺跡石器観察表……124
山王囲遺跡石製品観察表……144
山王囲遺跡土製品観察表……150
山王囲遺跡骨角器・貝製品観察表……164

図版……167

例　言

1．本書は、宮城県栗原市（旧栗原郡一迫町真坂字山王及び道満）に所在する国史跡山王囲遺跡の1965年第２・３次発掘調査出土遺物のうち、石器、石製品、土製品、骨角器の分析・研究報告書である。

2．本書の対象は、石器、石製品、土製品、骨角器である。この中には胎を動物骨や貝、粘土とする漆器を含む。

3．本研究は、2020年度に栗原市教育委員会と弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターとの間で結んだ「国史跡山王囲遺跡の出土資料に関する共同研究」協定に基づき遂行した。

4．本研究を遂行するにあたり、下記の機関、個人には資料の照会や提供、過去の調査に関する情報提供などのご協力を賜った。記して感謝申し上げる。

個人　阿子島香、小川忠博、鹿又喜隆、須藤　隆、三澤裕之

（五十音順・敬称略）

機関　東北大学文学部考古学研究室（五十音順）

5．本報告書は上條信彦を中心に、第１章 上條、第２章 早川太陽・浅野　渓・山本ひなた、第３章 木村隼士、第４章 渡邊瑛彦・杉山一樹、第５章 櫻庭陸央・山口沙織が観察・分析・執筆した。担当と参考・引用文献は章末に付した。骨角器の種同定は、植月 学と櫻庭陸央が行った。巻頭写真は小川忠博、遺物写真は上條・山本の撮影である。そのほか、出土状況など調査当時の写真は、伊東信雄教授（当時）を中心とする東北大学文学部考古学研究室による撮影である。なお、本文中における個人の敬称は省略した。

6．各層・グリッド表記、年代は『国史跡 山王囲遺跡の研究Ⅰ 漆器編』（2020年３月刊行）による。

7．本書の実測・トレース・撮影には以下の学生が参加した。参加者は以下のとおりである。
木村隼士・畑内優貴也・阿部智也・清水小春・福井麻里・下川弘喜・渡邊瑛彦・相馬玲奈・稲見ののか・沢畑瑞季・三河茉依・石岡ちひろ・石川万優子・廻立泰成・山口沙織・三和春香・萩井健太・浅野　渓・田中祥幹・菅原昌彦・森川友萌・遠藤光新・算用子眞充・石戸谷龍生・谷　勇樹・大平紋寧・葛西真生・岩瀬小夜・大山美樹（以上、人文社会科学部学部生・当時）、早川太陽・杉山一樹・櫻庭陸央・山本ひなた（以上、人文社会科学研究科大学院生・当時）

8．遺物は栗原市教育委員会所蔵である。本研究のデータは、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターで保管している。

9．本研究は、弘前大学人文社会科学部のプロジェクト予算の助成により実施した。

凡　　例

出土石器実測図、観察表の表記基準を以下に示す。

１．資料番号は、本報告書図掲載番号、弘前大学整理番号（弘大番号）、発掘調査時の遺物台帳番号（台帳番号）の３種がある。
２．器種のうち不定形石器は、刃部形成のある剥片（SC）、微細剥離のある剥片（RF）に区分される。剥片は注記があり、かつ石器となりうる素材剥片を扱う。
３．グリッド・層位は注記および台帳記載のまま掲載する。なお大文字小文字などの表記の不統一や誤記は修正した。
４．計測値は断りのない限り㎝、g単位である。観察表の（　）は残存値である。
５．不定形石器の微細剥離はルーペで観察のうえ、主要な範囲を実線で示した。
６．実測図のトーン範囲は光沢や付着物の範囲を示す。そのうち礫石器については全て赤色顔料を示す。
７．実測図では今後の資料検索の便宜のために、図番号のほか、括弧付で出土層位あるいは台帳番号を付した資料がある。
８．礫石器の白抜きの範囲は磨耗痕、斑点の範囲は自然礫面を表す。
９．以下の石材は略記号を用いる。
玄武岩：玄武、安山岩：安山、輝石安山岩：輝安、閃緑岩：閃緑、花崗岩：花崗、凝灰岩：凝灰、珪質頁岩：珪頁、粘板岩：粘板、鉄石英：鉄石、黒曜石：黒曜、珪化木：珪化
10. 付着物はアスファルトと赤色顔料、炭化物を確認した。略記号は以下の通りである。
アスファルト（Asphalt）：As、赤色顔料（Red Pigment）：RP、炭化物（Carbide）：Ca

第１章　研究の経緯と方法

第１節　研究の経緯

山王囲遺跡は栗原市一迫に所在する縄文時代晩期から弥生時代にかけての遺跡であり、縄文時代から弥生時代への変遷をたどる上で重要な遺跡として注目されていた。遺跡の研究史については前巻『国史跡山王囲遺跡の研究Ⅰ』で述べているので本章では、対象資料に関わる部分についてのみ触れる。旧一迫町（現・栗原市）が計画した小学校体育館の建設に伴い、発掘調査が必要となったことから、町が東北大学に協力を依頼し、1965 年に発掘調査が実施された。調査では縄文時代晩期の漆器類などの有機質遺物が多量に出土し、当該期の物質文化の解明に期待が寄せられた。

発掘調査の終了後、町は引き続き東北大学に出土品の整理に関する協力を求め、東北大学によって有機質遺物を含む膨大な出土資料の整理・分析が進められた。その後、概報、図録の刊行等によって主な資料の公開を行ってきたが、本報告書については未刊行である。

弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター（以下センター）は、北日本の縄文時代から弥生時代にかけての低湿地遺跡を研究対象とし、山王囲遺跡でも出土している有機質遺物の資料分析や保存処理に関する体制を整え、非破壊による資料分析を行って成果を上げてきた。センターは、研究の目的や方向性に照らし合わせ、希少な有機質遺物やそれらが層位的な出土条件を有する点などから山王囲遺跡の出土資料の調査が研究進展のために必要として、栗原市教育委員会に山王囲遺跡出土漆器に関する共同研究の実施を提案した。2015 年度に弘前大学人文社会科学部（当時：人文学部）と栗原市教育委員会は覚書を取り交わし、これに基づいて山王囲遺跡から出土した櫛や籠、装飾品などの漆器類の調査と保存が進められることとなった。あわせて、1965 年に発掘調査を実施してこれまで資料整理を担ってきた東北大学に協力を打診し、その協力のもと、山王囲遺跡出土品の全容の解明に向けてこれまでの資料整理状況の確認に着手した。

覚書による山王囲遺跡出土漆器の調査と保存に関する共同研究は 2015 年度から 2019 年度までの 5 か年計画で実施され、2020 年 3 月に報告書『国史跡 山王囲遺跡の研究Ⅰ 漆器編』が刊行された。この 5 ヶ年の共同研究により、山王囲遺跡出土の漆器類について分析機器等による解析が行われ、画像を使った具体的な製作技法の解明や、保存処理よって脆弱資料の状態が安定化し展示活用が可能になるなどの大きな成果を上げた。この成果をさらに活かすため、今回調査が行われた漆器類と同時期の遺物である土器や石器など他の出土品についても調査分析が望まれるところであり、山王囲遺跡出土品の全体像を明らかにするための更なる共同調査・研究が進められることとなった。そこで、漆製品だけでなくより発展的かつ総合的な分析を実施するために、2020 年度より 5 ヶ年計画で弘前大学人文社会科学部と栗原市教育委員会との間に新たな共同研究「山王囲遺跡出土資料の研究協力に関する協定」を 2020 年 12 月に締結した。体制は以下である。

総括・土器分析担当　関根達人（弘前大学人文社会科学部 教授）
石器ほか遺物分析担当【本書担当】　上條信彦（弘前大学人文社会科学部 教授・センター長）
自然科学的分析・保存処理担当　片岡太郎（弘前大学人文社会科学部 専任講師）
動物遺体の同定　櫻庭陸央（人文社会科学研究科大学院生）、植月　学（帝京大学 文化財研究所 准教授）
遺物の実測　木村隼士・畑内優貴也・阿部智也・清水小春・福井麻里・下川弘喜・渡邊瑛彦・相馬玲奈・稲見ののか・沢畑瑞季・三河茉依・石岡ちひろ・山本ひなた・石川万優子・廻立泰

成・山口沙織・三和春香・萩井健太・浅野　渓・田中祥幹・菅原昌彦・森川友萌・遠藤光新・算用子眞充・石戸谷龍生・谷　勇樹・大平紋寧・葛西真生・岩瀬小夜・大山美樹（以上、人文社会科学部学部生・当時）・早川太陽・杉山一樹・櫻庭陸央（以上、人文社会科学研究科大学院生・当時）

遺物のトレース　上記学生

遺物の撮影　上條信彦・山本ひなた

版組　上條信彦

巻頭写真撮影　小川忠博

共同研究機関および情報提供　栗原市教育委員会、大場亜弥

研究協力者　須藤　隆（東北大学名誉教授）

阿子島香・鹿又喜隆（東北大学大学院文学研究科、2020 年当時）

第２節　分析の方法

栗原市一迫埋蔵文化財センター（山王ろまん館）には、東北大学から返却された資料が保管されている。資料は遺物・図面・写真類がある。遺物のほとんどは東北大学調査の際に整理されたままの木製ケースに収められていた。土製品の一部はガラス製のシャーレに入れられていた。

（1）整理と掲載順

整理作業では、遺物の注記と栗原市教育委員会提供の遺物台帳ならびに写真を参照しながら、出土地区と層位の情報を照合した。また、過去の図面や対象資料を扱った東北大学学生 2 名の卒業論文データを借用して電子データ化するとともに、35 ㎜及び 6×6 白黒フィルム、35 ㎜及び 6×6 ネガカラー、35 ㎜リバーサルフィルムについては栗原市教育委員会によってスキャニングされた。本報告掲載時にはフォトショップ（Adobe 社製）により、画像のトリミング、劣化画像の鮮明化作業を行った。

遺物注記には調査当時の遺物台帳に対応するOrnamentの略記号OあるいはStoneの略記号Sを冠記号とする遺物番号S-1・2…が付されたものと、区・層位のみが付された台帳外の資料がある。さらに、遺物番号がなく台帳との照合ができなかった出土位置不明を加えた計 3 種類がある。なお遺物番号は当初付されていたものが劣化などにより読み取れなかった場合がある。これらを統一するために整理番号として通し番号（弘大番号）を付けた。ただし、後に同一個体と判明したものや、接合などにより、欠番となったものもある。日付なども頼りにできるだけ区・層位を推定した。最終的に 9 割以上の地区、グリッド、層位が特定できた。さらに調査から 50 年以上経ち、遺物のなかには劣化や変形、破損などで取り扱いが難しいもの、発掘後の遺物の移動、抽出などによって出土位置の判断が難しいもの、過去の図や写真にあっても実物がないものがあり、その資料を検索した。上記理由によって整理・照合作業は一般的な発掘資料の整理作業に比べて予想以上の時間を要することになった。

本書を作成するにあたって、石器は層位的な出土状況を重視し、台帳番号が判明するものを東区、西区の層序順で掲載した。土製品、石製品、骨角器は分類順に掲載した。

（2）実測・トレースおよび撮影

実測は考古学実習、卒業研究作成、修士論文作成の一環として実施した。一般的な方法を採用した。そのほか、骨角器など小型かつ脆弱な資料については、撮影画像からオルソ画像を作成し、これを用いて外形や断面図をデジタルトレースした。トレースはイラストレータ（Adobe 社製）を用いた。作業は

2018 ～ 2020 年度に行った。

撮影は 2020 年度に主に上條と山本が行った。機材はCanon EOS 90Dを用い、約 2,000 万画素で撮影した。デジタルカメラのデータは、タイトルを付けてハードディスクに収納した。

第３節　遺物の保存処理

漆塗の骨角器・貝製品は片岡太郎により保存処理が実施された。保存処理の詳細は 2020 年刊行『国史跡 山王囲遺跡の研究Ⅰ　漆器編』による。

第４節　研究成果の公表

分析成果は 2017 年度弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター企画展で公開・展示を行った。

2017 年度弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター企画展『大山王囲展』（弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター展示室、2017 年 10 月 7 日－2017 年 11 月 12 日）見学者数のべ約 1,500 名

○卒業研究

2016・17 年度の卒業研究で３名､2020 年度修士論文で１名が本資料を用いたテーマで研究を行い、教育面でも一定の効果を果たした。

木村隼士「縄文時代晩期後半から弥生時代における石製品の変化―宮城県山王囲遺跡を例に―」

畑内優貴也「東北地方の縄文晩期の土製玉類について」

渡邊瑛彦「縄文晩期における土製装飾品の研究―山王囲遺跡出土の土玉・耳栓を中心に―」

早川太陽「東北地方縄文時代晩期から弥生時代前期の生業変化―宮城県山王囲遺跡の石器組成から―」

○修士論文

早川太陽「石器からみた弥生時代の東北地方における水稲農耕定着過程」

東北大学文学部では、本資料を用いた下記の卒業論文が作成され、図の一部を引用した。

伊藤　浩「東北地方における縄文時代晩期の石器研究―宮城県一迫町山王囲遺跡を中心として―」（1990 年度卒業論文）

松田瑞穂「縄文・弥生時代移行期における石器の研究―宮城県一迫町山王囲遺跡出土石器の分析を中心として―」（1999 年度卒業論文）

（上條信彦）

第２章　出土石器の分析

第１節　石器の分析法・基準

記述は石質・製作法・分類（形状・機能）・大きさ（長さ・幅・厚さ・重量）・欠損状況を基本に各器種の特徴に合わせた属性を加えた。定型剥片石器（尖頭器・石鏃・石錐・石匙）は全て、その他は分類毎の典型例を対象に図示した。なお、いわゆる両面加工石器を狭義のスクレイパーとし、二次加工のある剥片（Retouched-flake；略記号「RF」）と区別した。またスクレイパーなどの刃器類や磨石・敲石などの機能的分類には、ルーペ（×10）を使用した。重量の表記は、剥片石器、磨製石斧には 1/10g 単位、礫核石器（100g 以上を目安）については 1g 単位で示している。刃角について調整加工のあるスクレイパーでは、剥離作業によって形成された刃部の稜と刃縁を結んだ線分との角度とし、二次加工のある剥片（RF）では、腹面全体と背面の稜と刃縁を結んだ線分との角度とし、それぞれ刃長の中央部分を測定した（阿子島 1984）。

なお、この中には本報告書刊行より先に山王囲遺跡の石器について論じた伊藤浩、松田瑞穂（いずれも当時 東北大学文学部生）両名の東北大学提出卒業論文において取り上げられ、かつ図化資料と重複のないもの、および新たに発見された未整理資料が含まれている。よって一部実物がないものは各図版を引用して報告書図版に加えた。

第２節　石器の概要

本章での対象資料は石核 97 点、剥片・砕片 345 点、道具としての石器 695 点、計 1,137 点である。これらは注記や台帳から出土位置が判明したものであり、これらがない資料について分析対象から外した。そのほか、後述する石剣・石刀類や円盤状石製品など石製品が約 300 点ある。

表 1 は山王囲遺跡全体の層位ごとの石器出土量である。このうち、石核や剥片・砕片などの石器製作を示す資料や利器としての定義が定まっていない上記石製品や異形礫や赤色鉱物を除く、いわゆる道具としての石器は個数全体の 61％の 694 点である。その内訳は、石鏃 240 点、尖頭器 6 点、石錐 18 点、異形石器 1 点、石箆 10 点、打製石斧 1 点、石匙 10 点、スクレイパーなど刃器類 146 点、礫器 3 点、磨製石斧 39 点、磨石・敲石類 153 点、石皿・台石類 52 点、砥石 12 点、石錘 3 点、擦切石器 1 点である。石鏃が最も多く、磨石・敲石類、刃器類、石皿・台石類と続く。

表１　山王囲遺跡石器総計表

区	層位（型式）	石鏃	尖頭器	石錐	異形石器	石箆	打製石斧	石匙	スクレイパー	RF	礫器	磨製石斧	磨石・敲石類	石皿・台石類	砥石	石錘	擦切石器	原石・石核	剥片	砕片	計
東区	7～9 層（大洞A′～山王Ⅲ）									1								4	2		7
	10～14 層（大洞A）	8	1	2		1		3	2	5		1	8	1	3			4	4		43
	15～26 層（大洞C2）	38	1	3	1	1		2	8	22		17	32	4		1	1	24	41	4	200
西区	Ⅱ層									6								2	11	1	20
	Ⅲ層（山王Ⅲ）	59	1	5		1			15	25		3	26	9		1		23	104	15	287
	Ⅳ上層（山王Ⅳ上）	10		1		1				10		1	8	4				6	15	1	57
	Ⅳ下層（大洞A′）	12		1		1			4	10			43	14	1			11	28	15	140
	Ⅳ層（大洞A′－山王Ⅳ上）								2	1	1		1	1				2	12		20
	Ⅴ層（大洞A2）	91	2	5		3	1	1	8	18	2	7	14	15	4	1		17	74	8	271
	Ⅵ層（大洞A1）	22	1	1		2		4	3	6		8	16	4	4			4	10		85
	Ⅶ層（大洞C2）											2	5								7
	計	240	6	18	1	10	1	10	42	104	3	39	153	52	12	3	1	97	301	44	1,137
	全体％	21.1	0.5	1.6	0.1	0.9	0.1	0.9	3.8	9.1	0.3	3.4	13.4	4.6	1.1	0.3	0.1	8.5	26.4	3.9	100
	石器％	34.5	0.9	2.6	0.1	1.4	0.1	1.4	6.2	14.9	0.4	5.6	22.0	7.5	1.7	0.4	0.1				

上記石器を除く石器製作に係るものとして、石核 97 点、剥片・砕片 345 点、計 442 点がある。剥片・砕片類の内訳は剥片 301 点、砕片 44 点である。なお、剥片・砕片には注記のないものが 100 点近くあり、これらを含めれば実数はさらに増える。

なお、当時作成された遺物台帳には 1,084 点が記載されている。遺物台帳には定型剥片石器、礫石器、石製品が対象となっており、石核・剥片・砕片、および不定形石器は含まれていない。登録数は石鏃 417 点、尖頭器 16 点、石錐 21 点、異形石器 1 点、石箆 12 点、打製石斧 1 点、石匙 14 点、スクレイパー 34 点、礫器 1 点、磨製石斧 40 点、磨石・敲石類 189 点、石皿・台石類 30 点、砥石 12 点である。上記実数との差は、遺物の注記が不鮮明で結果的に帰属位置が不明になったもの、今回の器種認定で器種が変わったものがあるためである。特に石鏃の注記に不明なものが多かった。ただし、台帳をもとに器種組成を検討した結果、もともと大きな割合を占める石鏃の割合がより変化するものの、各層の器種組成の変化について解釈が変わるほどの影響がないことを確認した。よって調査時の記録数と今回の実数には開きがあるものの、分析には大きな影響はないと考える。また石鏃 1 点、石匙 3 点、石箆 9 点、石核 1 点は、松田・伊藤氏の東北大学卒業論文で図化されているものの、実物が確認できなかった。これらについて図の掲載を優先させ、写真図版には加えていない。

第３節　石器組成

縄文時代晩期中葉大洞C2 式期は、東区 15 ～ 26 層と西区Ⅶ層が該当する。西区では少ないものの、晩期の基本的な器種は一通りある。なかでも石鏃とスクレイパー類（RF）と磨製石斧が目立つ。石匙や石箆は 1・2 点にとどまる。

縄文時代晩期後葉大洞A式期は東区 10 ～ 14 層と西区Ⅴ・Ⅵ層が該当する。そのうち、大洞A1 式がⅥ層、大洞A2 式がⅤ層に該当する。東区の出土量は少ない。大洞A1 式期までは定型石器の器種構成とその比率はさほど変わらない。Ⅴ層になると石鏃が 5 割以上に突出する。本対象ではこの層序から器種、数量ともに豊富になる。

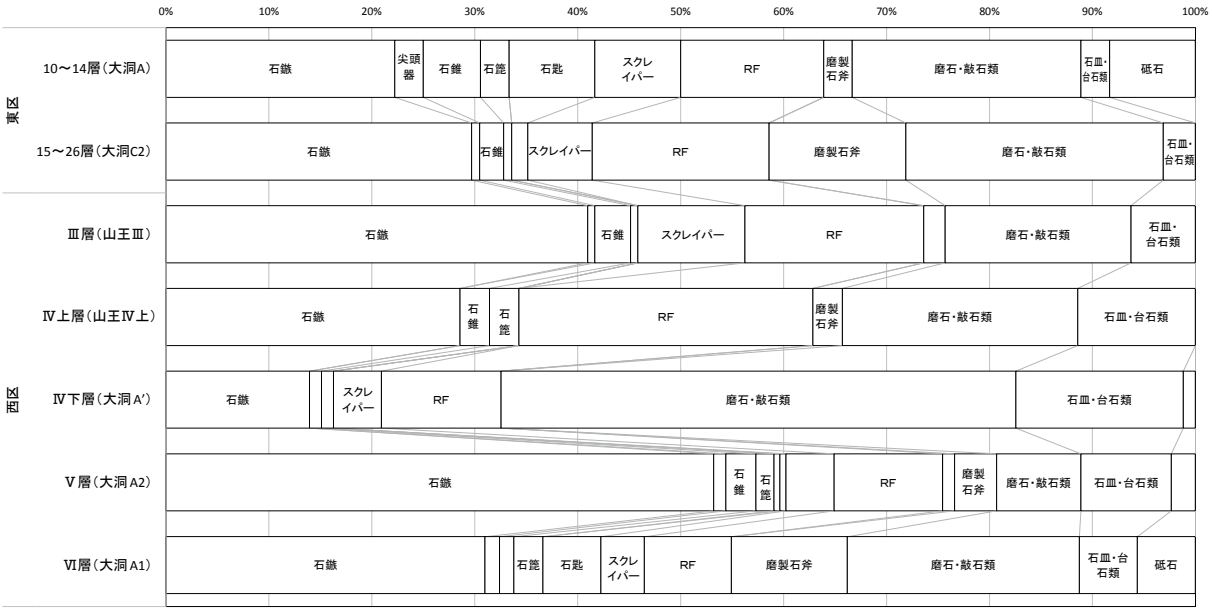


図１　山王囲遺跡石器組成

晩期終末の大洞A′式期はⅣ１・m・n層（便宜的にⅣ下層とする）が該当する。磨石・敲石類、石皿・台石類、スクレイパー類が増加し、相対的に石鏃や尖頭器、石匙、磨製石斧が減少する。特にこれまで主体的であった石鏃が全体の 15％ほどまで減少する。

弥生時代の山王Ⅳ上層式期は（砂沢式並行期）はⅣa・b・j・k層（便宜的にⅣ上層とする）が該当する。Ⅳ下層で増加した磨石・敲石類、石皿・台石類は、減少に転じる。石匙はない。相対的に石鏃や石錐、スクレイパー類が大きく増加する。

弥生時代の山王Ⅲ層式期は西区Ⅲ層が該当する。Ⅳ上層で無くなった石匙のほか、石箆も無くなる。尖頭器や砥石もごくわずかである。Ⅳ上層よりさらに石鏃とスクレイパーが増加する。

このように山王囲遺跡の石器組成は、縄文時代晩期中葉から弥生時代に至るまで、石鏃、スクレイパー類、磨石・敲石類が多く、新たな器種が導入されないという点で、縄文時代の伝統が続き、弥生化の傾向が弱かったとみられる。石鏃、尖頭器を用いた刺突猟および漁撈活動は長期にわたって生活を支えていたとみられる。しかし弥生時代に入るとその伝統に対する変化が現れる。石匙、石箆といった定形的なナイフは製作されなくなり、不定形石器が増加する。

第４節　層位別検討

検出層位は、土器の検討において出土土器の型式的なまとまりがみられる。したがって、検出された石器もおおよそこの時期範囲の様相を示す一括性が高い資料と考えられる。西区Ⅲ～Ⅴ層の出土量が多く、続いて多い東区 15 ～ 26 層を加えれば、大洞C2 式～山王Ⅲ式期までの変化を定点的に捉えることができる。以下土器群のまとまりに基づき各層位ごとに出土状況を述べる。

（1）東区７～９層（図 2-6）（図版 1）

東区における遺物の出土は 7 層以下からである。7 層は山王Ⅲ層式期であるが、この層の出土量は少なく石核 2 点、スクレイパー類 1 点の計 3 点ある。また 9 層に石核 2 点、剥片 2 点がある。なお遺物台帳にも記録がないため、定型石器はなかったとみられる。

図 2-6 はスクレイパー類である。珪質頁岩製のRFで長さ 7.6 ㎝の縦形剥片が用いられる。縦形剥片の中型に属す。これは西区Ⅲ層に現れる特徴的な大きさである。打面には原礫面が残る。下辺と左側辺に微小剥離が分布する。

石核 4 点のうち 1 点は、長さ 6.5 ㎝、幅 6.6 ㎝、重さ 92.3g で今回対象となった石核の中では大型に属す。最大剥離面も長さ 6.0 ㎝を測り、上記中型の剥片を得るための石核だったとみられる。

（2）東区 10 ～ 14 層（図 2-1 ～ 5、図 3-2 ～ 9）（図版 1・2）

東区 8 層は無遺物の間層で 9 層の資料は台帳にも記載がないため、定型石器はほとんどなかったとみられる。台帳の記録は 10 層から表れる。10 ～ 14 層は大洞A式期である。石鏃 8 点、尖頭器 1 点、石錐 2 点、石箆 1 点、石匙 3 点、スクレイパー類 7 点、磨製石斧 1 点、磨石・敲石類 8 点、石皿・台石類 1 点、砥石 3 点、計 36 点のほか石核 4 点、剥片 4 点がある。石鏃、スクレイパー類、磨石・敲石類が多い。

石鏃 8 点は、基部と茎部の形態で細分する。無茎の平基鏃 1 点と、有茎のうち茎部の長さが全長の 1/2 未満の短～中茎鏃 4 点が含まれる。そのほか、棒状や円基鏃もあり、数が少ないわりに種類は豊富である。平均長 3 ㎝ほどで素材は全て縦形剥片である。鉄石英 6 点、珪質頁岩 1 点、玉髄 1 点で鉄石英が多い。

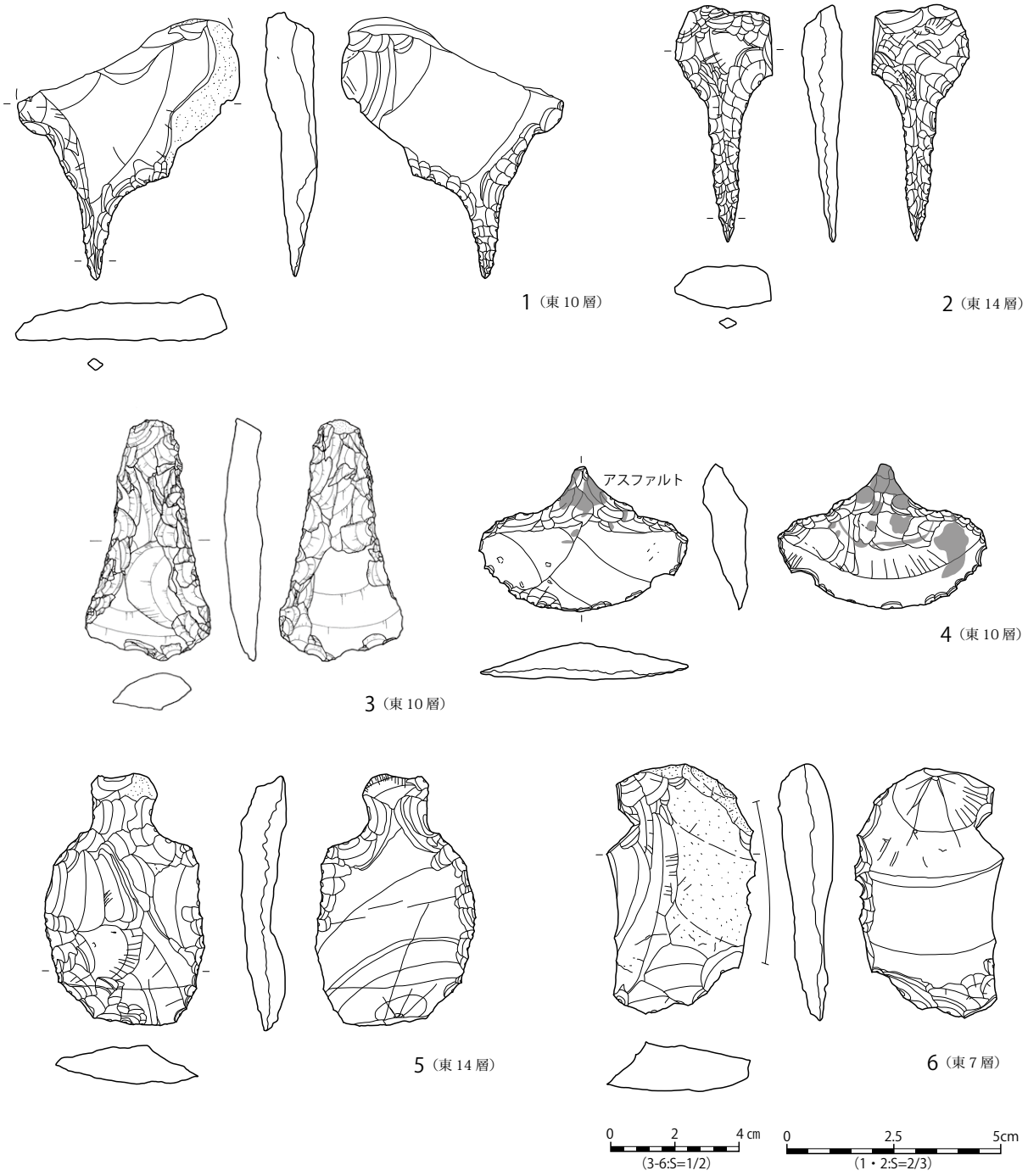


図2　山王囲遺跡東区7・10～14層出土石器

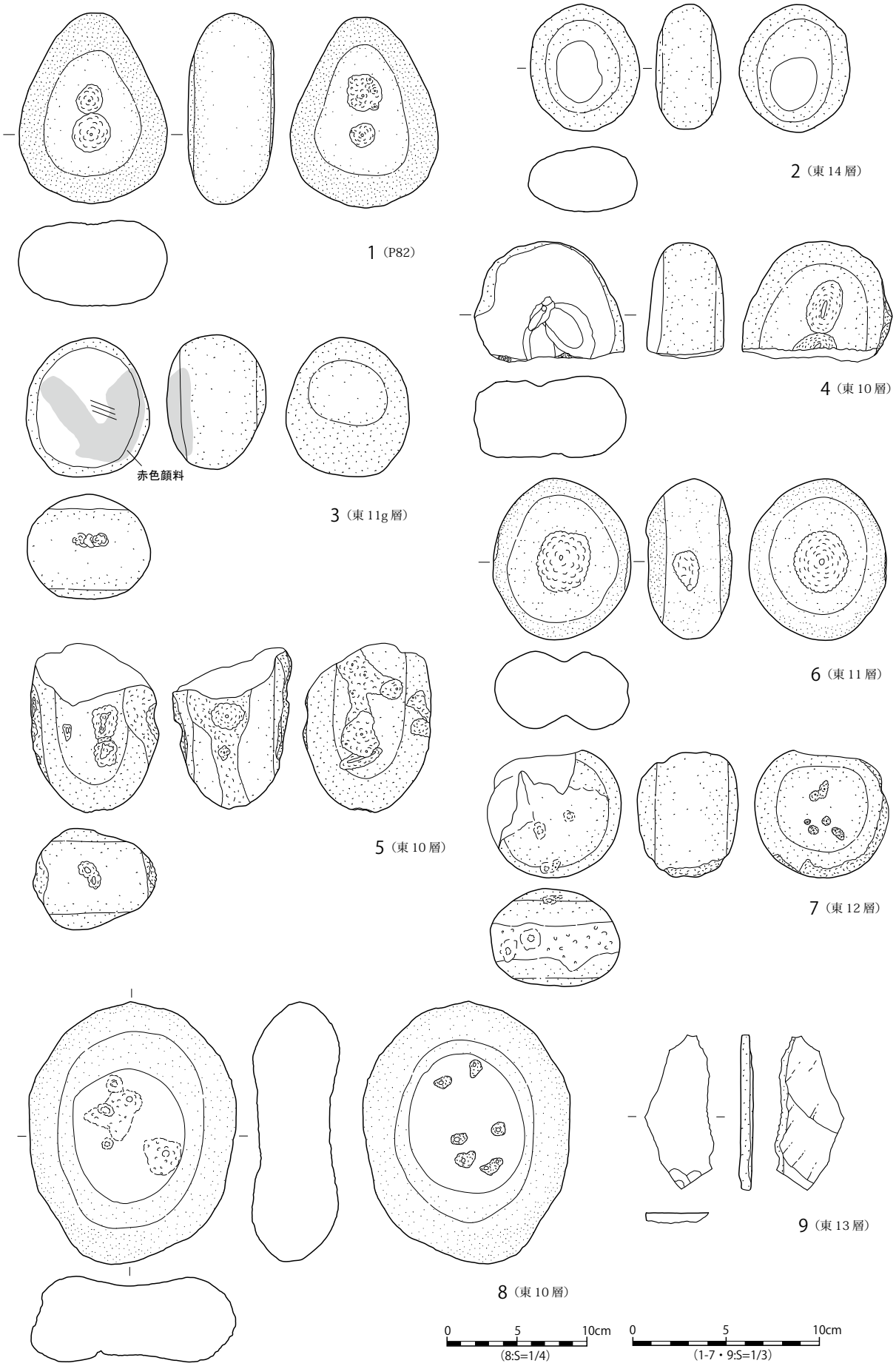


図 3　山王囲遺跡東区 10 ～ 14 層出土石器 2

図 2-1・2 は石錐である。いずれもつまみ部をもつ。図 2-2 はつまみ部も円形に整形し、錐部は 3.3 ㎝を測る。2 点とも珪質頁岩の横形剥片が用いられる。

図 2-3 は石箆である。10 層から出土した。下辺に向かって八の字形に開く形で長さ 7 ㎝、幅 4 ㎝の大型品である。実物が不明だが形態から珪質頁岩の縦形剥片が用いられる。

図 2-4・5 は石匙である。石匙はつまみ部が刃縁に対し垂直になる横形石匙と、それが平行になる縦形石匙がある。図 2-4 は 10 層出土の横形石匙である。つまみ部は上辺中央にあり、抉りを入れずに尖状になる。ここを中心にアスファルトが付着する。下辺の刃部は外湾し、両面から刃部調整するものの、その程度は弱く、素材剥片の縁辺をそのまま利用する。図 2-5 は縦形石匙である。つまみ部は粗く抉る。刃部は左右側辺にある。刃部平面形は左側辺が外湾刃、右側辺が直刃である。この石匙も両面から刃部調整するものの、その程度は弱く、素材剥片の縁辺をそのまま利用する。素材はいずれも珪質頁岩で横形石匙は横形剥片、縦形石匙は縦形剥片が用いられる。

スクレイパー類 7 点の内訳は、スクレイパー 2 点、RF5 点である。スクレイパーの素材は珪質頁岩 1 点、鉄石英 1 点である。全て横形剥片が用いられる。刃角が 60°以上で掻器に該当する。

RF は素材の形で区分できる。まず縦形 4 点と横形 1 点に分かれる。縦形の場合、極小型 1 点、小型 2 点、中型 1 点である。横形の横幅は約 5 ㎝の小型である。縦形・横形とも刃部数は 1 ヶ所のみと少なく、左右どちらか一側辺に微小剥離が確認できる。刃部角は 12 ～ 35°、平均 24°で鋭利である。石材は 5 点全て珪質頁岩である。

磨製石斧 1 点は 14 層出土の小片である。石材は硬質の砂岩である。

図 3-1 ～ 7 は磨石・敲石類である。磨石・敲石類 7 点は磨耗面のみの狭義の磨石 1 点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 6 点に区分される。さらに使用痕を磨耗痕、凹痕、敲打痕の 3 種に区分し、これら使用痕が観察された面を表裏面と上下側面の 2 つに分けて組み合わせで分類した。結果、磨類 1 点、凹類 1 点、磨＋敲類 1 点、凹＋敲類 4 点で、上下側面に敲打痕を伴うものが多い。図 3-1 は「P82」と注記がある凹類である。遺構内出土資料とみられる。図 3-2 は磨石で表裏面に弱い磨耗面が観察される。赤色顔料が付着する。径 6 ㎝、重さ 184gの小型品である。一方、図 3-3 ～ 7 は敲石である。敲石は表裏面に凹痕、側面の片方あるいは下端に敲打痕を伴う例が多い。図 3-3 は表裏面に発達した磨耗痕と下端に敲打痕が伴う。赤色顔料が付着する。石材は砂岩 3 点、安山岩 3 点、閃緑岩 1 点である。赤色顔料が付着する 2 点は全て砂岩である。

図 3-8 は石皿・台石類である。10 層出土である。多孔質の安山岩製で長径 23 ㎝、重さ 4.8 ㎏である。無整形で表裏面とも中央が円形の皿状に凹む。凹面は滑らかで、一部に凹痕が見られることから、複数の用途があったとみられる。

砥石 3 点は全て 8 ㎝程度の小片である。図 3-9 は 13 層出土である。研磨によって厚さが 0.6 ㎝と薄い。石材は泥岩である。

そのほか、石器製作に関わる石核 4 点、剥片 4 点がある。石核は全て 10 層K区に集中する。石材は全て鉄石英である。3 ～ 4 ㎝角の方形で原礫面を残す。最大剥離面の大きさ平均は長さ 2.2 ㎝、幅 2.9 ㎝で極小型の方形に近い横形剥片を得ていたとみられる。剥片 4 点のうち 2 点は長さ 5 ㎝ほどの縦形剥片である。石材は鉄石英、珪質頁岩各 2 点ある。

（3）東区 15 ～ 26 層（図 4 ～ 10）（図版 3 ～ 8）

東区 15 ～ 26 層は大洞C2 新式期である。石鏃 38 点、尖頭器 1 点、石錐 3 点、異形石器 1 点、石箆 1 点、石匙 2 点、スクレイパー類 30 点、磨製石斧 17 点、磨石・敲石類 32 点、石皿・台石類 4 点、

石錘 1 点、擦切石器 1 点、計 131 点のほか石核 24 点、剥片 41 点、砕片 4 点がある。スクレイパー類が最も多く、石鏃、磨石・敲石類と続く。これらの点は上層と変わらないが、磨製石斧が他の層に比べて突出して多い点は特徴的である。

石鏃 38 点の形態は多様である。まず有茎鏃 28 点、無茎鏃 6 点、欠損 4 点に区分される。有茎のうち茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎鏃は 7 点、1/2 ～ 1/3 の中茎鏃は 13 点あり、茎部が長くなる傾向がある。無茎鏃は尖基 4 点、円基 3 点、平基 3 点に分けられる。うち図 4-9 は刃縁が屈曲することから五角形鏃である。そのほか木葉形 4 点がある。層位的な偏りはない。長さは 0.7 ～ 3.5 ㎝、平均 2.4 ㎝で、先述した上層の 10 ～ 14 層より小型である。特にこの層に多い中茎鏃やこの層に現れた木葉形と尖基は長平均 2.4 ㎝で短い。素材は縦形剥片が 8 割以上を占める。横形剥片は鉄石英製の無茎鏃にのみ用いられる。石材は鉄石英 33 点、珪質頁岩 4 点、玉髄 1 点で鉄石英が圧倒的に多い。茎部や基部にアスファルトが付着するものが 10 点（26％）ある。無茎鏃・有茎鏃に係わらず全ての形態に付着する。

図 4-1 は短茎鏃、図 4-2・3 は中茎鏃、図 4-11 は木葉形である。無茎鏃のうち図 4-4・5・6 は尖基、図 4-7・8 は円基、図 4-9・10 は平基である。

図 4-12 は石錐である。24 層から出土した。つまみ部があり全体を整える。錐部は長さ 2.0 ㎝である。鉄石英の横形剥片が用いられる。

石箆 1 点は 17 層から出土した。長さ 9.8 ㎝、幅 6.5 ㎝の大型品であるが剥離が粗く未成品とみられる。石材は鉄石英である。

図 4-13・14 は石匙である。2 点とも縦形石匙である。17 層から出土した。図 4-13 は長さ 7 ㎝である。つまみ部にアスファルトが付着する。刃部は左右側辺にある。刃部平面形は左側辺が外湾刃、右側辺が直刃である。先端は尖状である。素材は珪質頁岩の縦形剥片である。図 4-14 は長さ 3.5 ㎝の小型品である。刃部は左右側辺にある。刃部平面形は左側辺が直刃、右側辺が外湾刃である。先端を欠く。素材は鉄石英の縦形剥片である。

図 4-15 は尖頭器である。23 層から出土した。長さ 4.0 ㎝である。石材は珪質頁岩で、基部は平基を呈する。剥離が粗いため、未成品とみられる。

図 4-16 は異形石器である。20 層から出土した。先が二股に分かれた雁股形である。長さ 4.3 ㎝、幅 3.3 ㎝である。石材は珪質頁岩である。

スクレイパー類 30 点の内訳は、スクレイパー 8 点、RF22 点である。

スクレイパー 8 点は長さ 4 ～ 12 ㎝での大型品を含む。図 4-17、図 5-1・2 はスクレイパーである。図 4-17 は長さ 12 ㎝、重さ 250g で本遺跡最大のスクレイパーである。縦形剥片の下辺を刃部とする。刃部は外湾刃で刃部角 49° であることから掻器に近い。横形剥片の下辺を主刃部とし、刃部長 9 ㎝を測る。図 5-1 の刃部形態は肉眼でも刃縁が磨滅し使用痕光沢を確認できる。

RF22 点は素材の形によって縦形 11 点と横形 11 点に分かれる。縦形の場合、極小型 3 点、小型 7 点、大型 1 点である。上層の 10 ～ 14 層に比べ、極小～小型の増加が目立つ。図 5-4 は大型品で右側辺に長い刃部がある。横形の場合、横幅は極小型 1 点、小型 7 点、中型 3 点である。縦形に比べ中型品が多い。縦形・横形とも刃部数は 1・2 ヶ所が主体である。刃部角は縦形 16 ～ 70°、平均 38°、横形 16 ～ 69°、平均 38° で大差ない。刃付（微小剥離が見られる面）は両面 4 点、片面 18 点で片面が主体である。縦形・横形ともに同じ比率である。刃部の平面形は縦形の場合、直 1 点、外湾 9 点、直＋外湾 1 点である。横形の場合、直 3 点、外湾 8 点で、いずれも外湾が多い。石材は縦形が珪質頁岩 3 点、鉄石英 8 点、横形が珪質頁岩 9 点、鉄石英 2 点で縦形と横形で珪質頁岩と鉄石英の比率が逆転

する。縦形に鉄石英が多い点は上層の 10 ～ 14 層と同じである。

図 5-3 ～ 8 はRFである。これらのうち図 5-3・5・8 は横形の中型品である。図 5-4 ～ 6 は下辺に刃部がある。図 5-3・5・6 は両面に微細剥離が見られる。

磨製石斧 19 点は略完形 1 点（図 6-4）を除き全て破損品である。原形が分かるものを図化した。多くは左右側面が平坦な定角式である。破片が多いが完形品や残存値を参考に、長さと最大幅、重さによって二分できる。小型品は長さ 7 ㎝以下、幅 4 ㎝以下、重さ 60g以下とし大型品はそれより大きい。結果、小型品 4 点、大型品 15 点ある。刃部の平面形は外湾が主体で、刃部を再研磨した 1 点（図 6-3）のみ直刃である。頭部の形態は円基と尖基がある。円基 2 点、尖基 6 点で大小問わず尖基が多い。欠損は刃部のみ 7 点、頭部のみ 6 点、頭部・刃部 5 点である。敲石の中央には再利用されたとみられる凹痕がある。大小問わず砂岩製が多い。

図 6-1 ～ 8 は磨製石斧である。図 6-1・3・5 は頭部、図 6-4・6 は刃部、図 6-2・7 は双方を欠く。図 6-4 は小型品で、その他は大型品である。図 6-7・8 のように大型品の中には敲打による整形痕が残るものがあり、その重なり合いから、敲打整形後に研磨を行ったとみられる。図 6-3 は刃部の一部が剥離した後に再度研磨された跡が残る。図 6-4 は完形品で三角形の扁平礫をそのまま利用して製作される。図 6-4・7 は一部黒く変色する。

磨石・敲石類 32 点（図 7-1 ～図 9-4）は磨耗面のみの狭義の磨石 6 点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 26 点に区分される。分類別では磨類 5 点、敲類 8 点、凹類 7 点、磨＋磨類 1 点、磨＋敲類 2 点、凹＋敲類 9 点である。このうち、表裏面に凹痕のほか、磨耗痕を伴う例は、凹類・凹＋敲類 16 点中 3 点と少ない。痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの 12 点、敲打痕を伴うもの 19 点、凹痕を伴うもの 16 点で凹痕もしくは敲打痕が観察されるものが多い。赤色顔料は 7 点に付着する。分類別では磨類 2 点、敲類 1 点、磨＋磨類 1 点、磨＋敲類 1 点、凹＋敲類 2 点に観察され、幅広い分類に付着が認められる。石材は安山岩 19 点、砂岩 8 点、頁岩 2 点、泥岩 2 点、凝灰岩 1 点である。砂岩や泥岩といった肌理の細かい石質に磨耗痕が伴う例が多い。

図 7-1 ～ 3 は磨類、図 7-4 は磨＋磨類で狭義の磨石である。図 7-1 には発達した磨耗面が観察される。図 7-4 の側面はざらつくような弱い凹凸のある磨耗面である。図 7-2・4 には赤色顔料が付着する。図 8-2、図 8-4 ～ 6 は敲類、図 8-3 は磨＋敲類で側面に敲打痕が観察される。磨＋磨の図 8-2・3 には赤色顔料が付着する。図 7-5 ～ 9、図 8-1 は凹類、図 9-1 ～ 4 は凹＋敲類である。図 7-9 や図 8-1 は表裏面に凹痕のほか磨耗痕も伴う。凹痕は凹凸面の集合が主体で深く凹むものは少ない。図 7-5 や図 9-4 には深い凹痕がある。

石皿・台石類 4 点は長径 18 ㎝ほどの無整形の扁平礫が用いられる I 類に属す。全て赤色顔料が付着する。図 10-1・2 は石皿である。図 10-1 は広い範囲は磨滅し肉眼でも観察できる縦方向の線状痕がある。図 10-2 も広い範囲が磨滅し、赤色顔料が広い範囲に付着する。

図 9-5 は擦切石器である。扁平な素材を用い、側縁に直線状の刃部を作り出す。刃縁が著しく磨滅し、刃縁に平行する線状痕が観察される。骨や石などの擦り切りの用途が推測される。東区 15 層から 1 点出土した。石材は花崗岩である。機能部は左右側縁であり、剥離による事前の加工が認められる。

図 10-3 は石錘である。1 点である。9 × 5 × 3 ㎝の安山岩の長楕円礫が用いられる。重さ 168g である。長軸中央の上下を敲打により抉る。抉り部は長さ 3.9 ㎝、幅 1.7 ㎝、深さ 0.3 ㎝である。抉り部の敲打面はやや磨滅する。

そのほか、石器製作に関わる石核 24 点、剥片 41 点、砕片 4 点がある。

図 32-1 ～ 3 は石核である。石核 24 点の石材は鉄石英 17 点、珪質頁岩 5 点、黒曜石・珪化木各 1

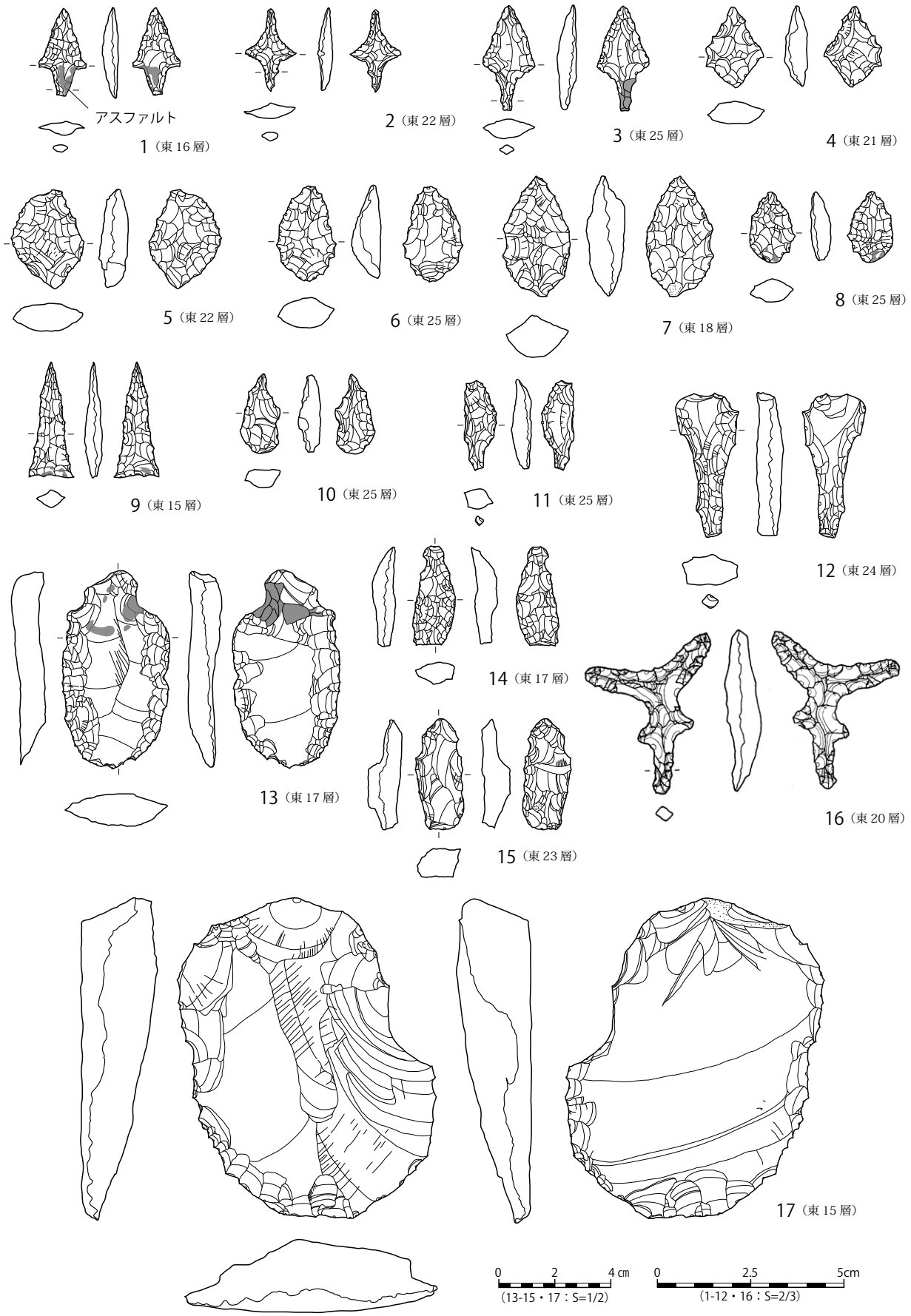


図 4　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器 1

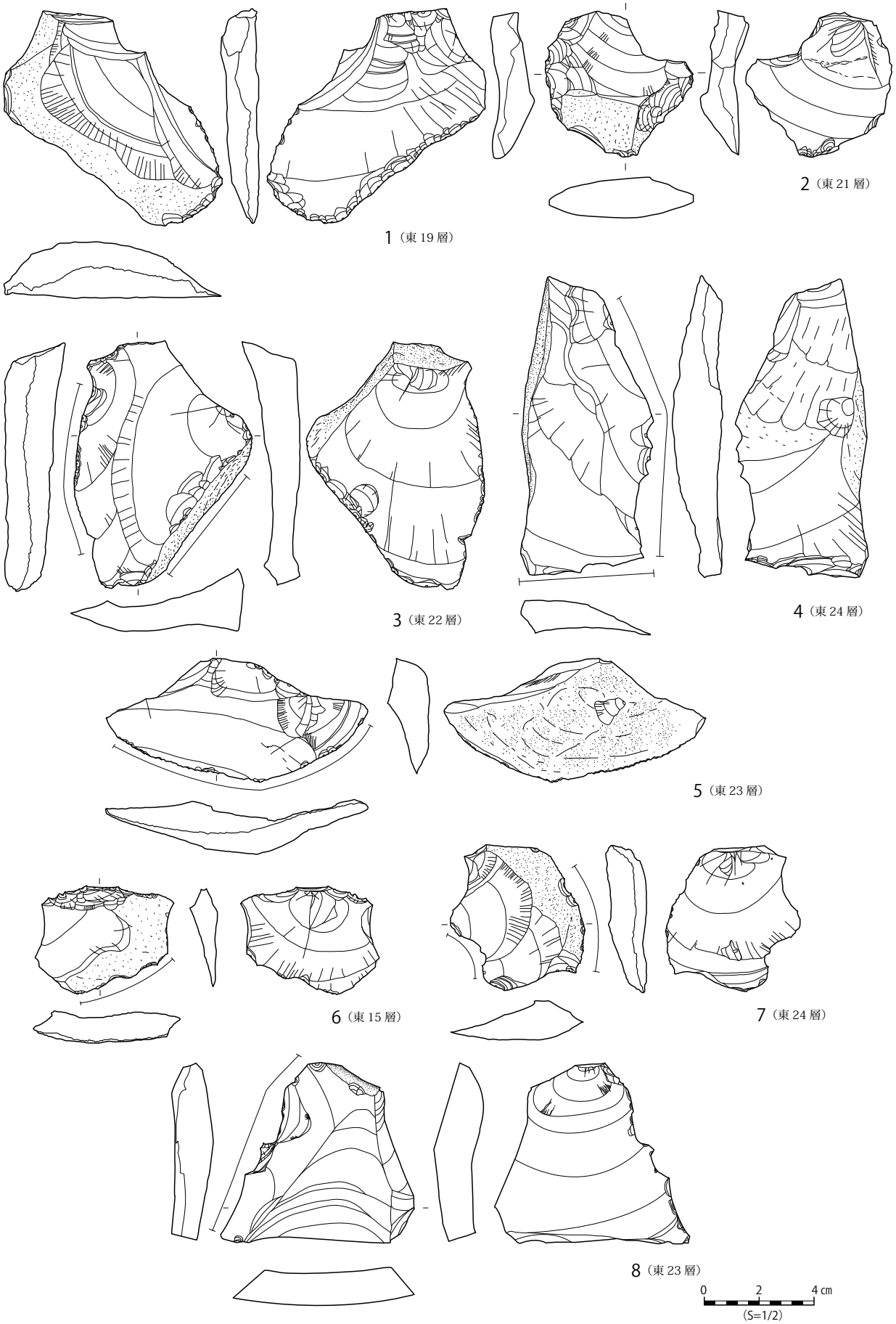


図5　山王囲遺跡東区15～26層出土石器2

図 6　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器 3

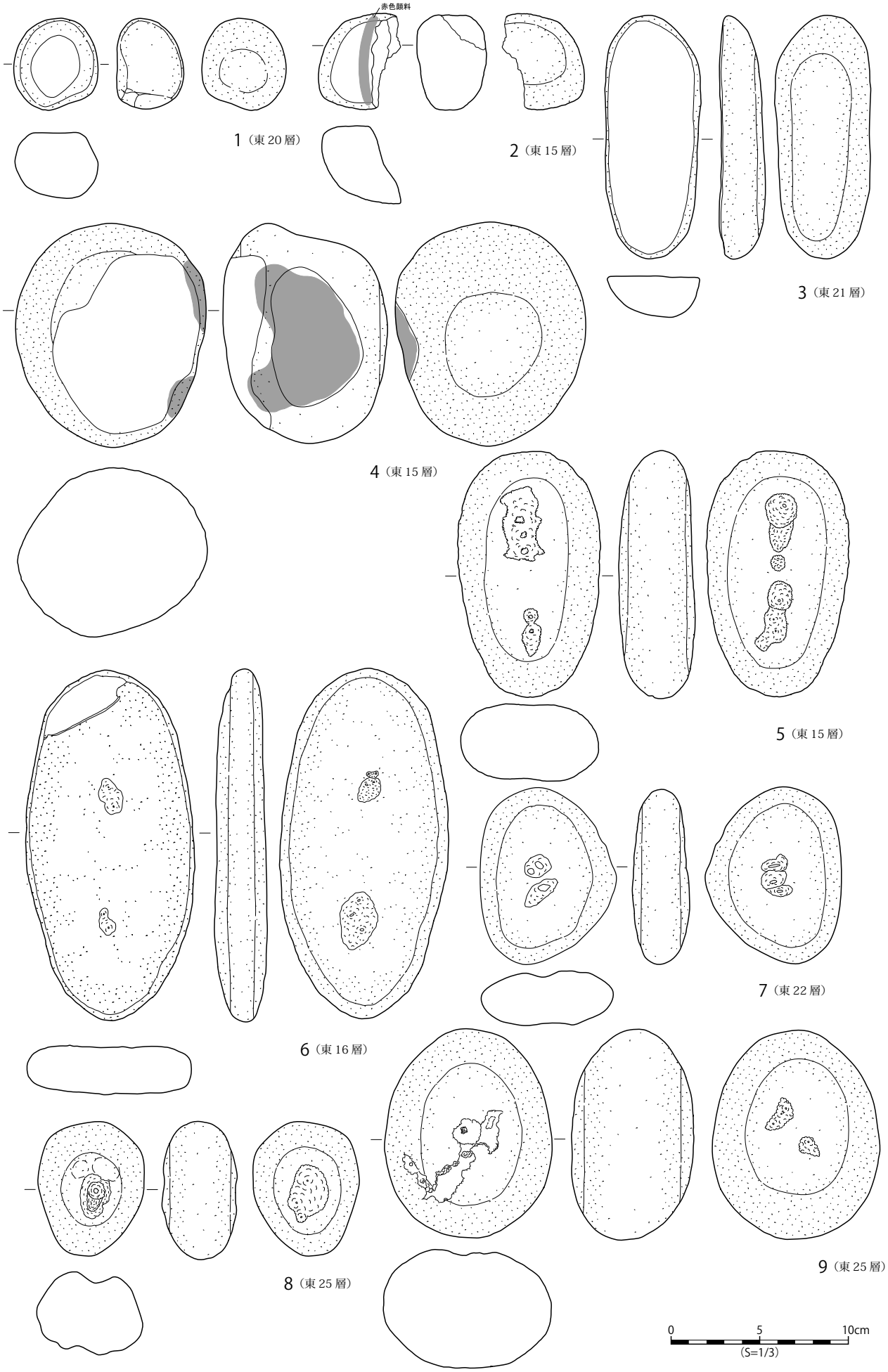


図7　山王囲遺跡東区15～26層出土石器4

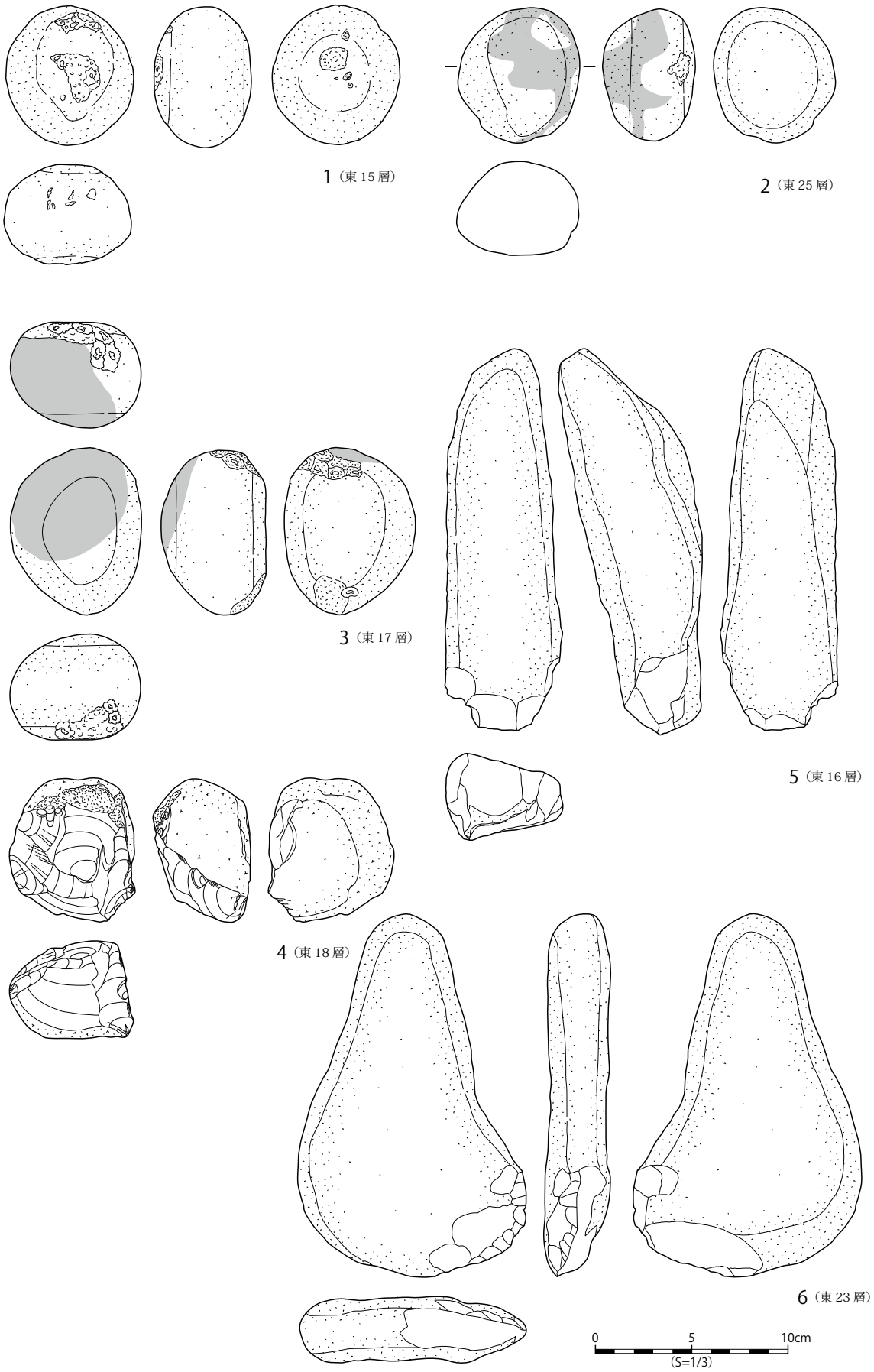


図 8　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器 5

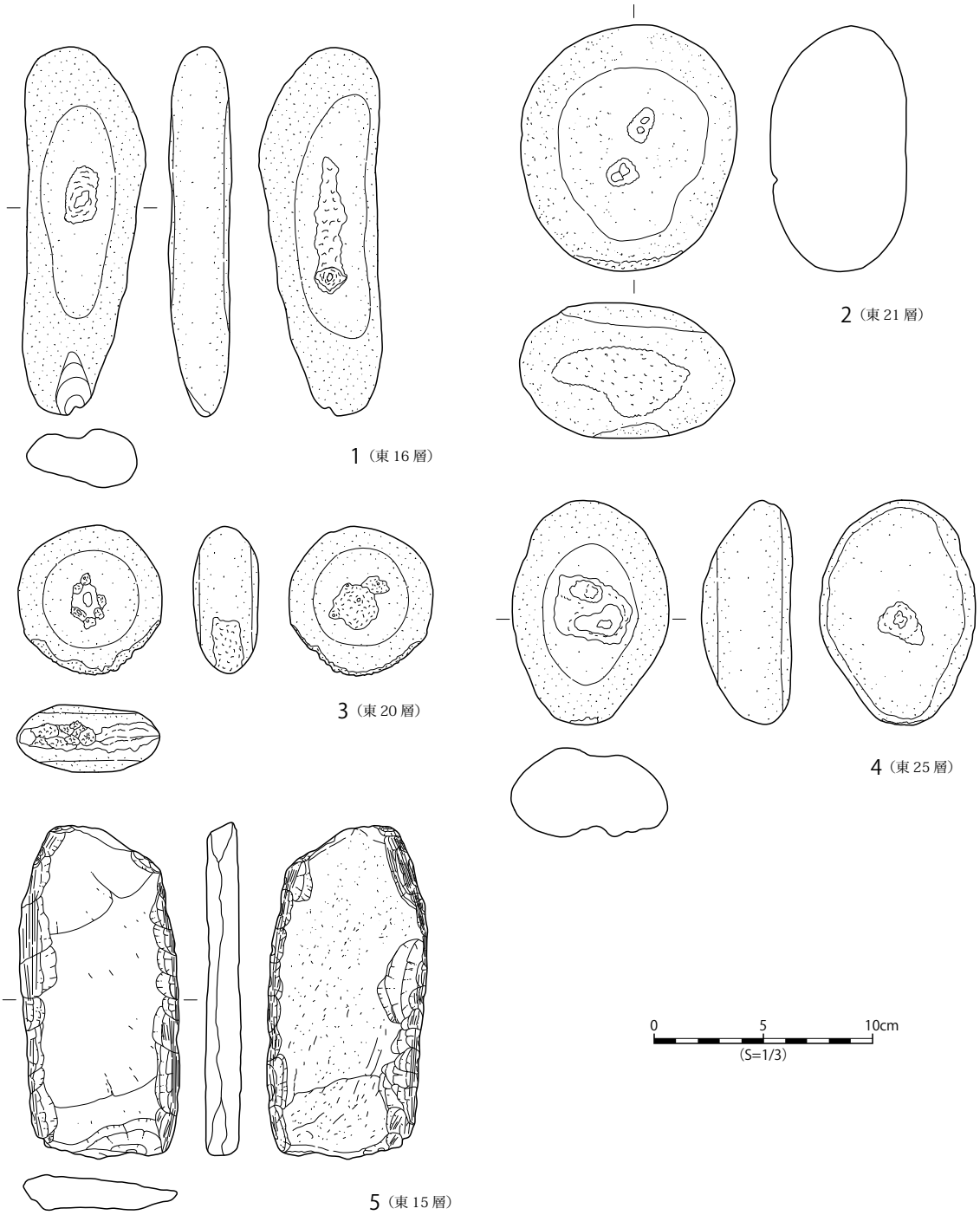


図9　山王囲遺跡東区15～26層出土石器6

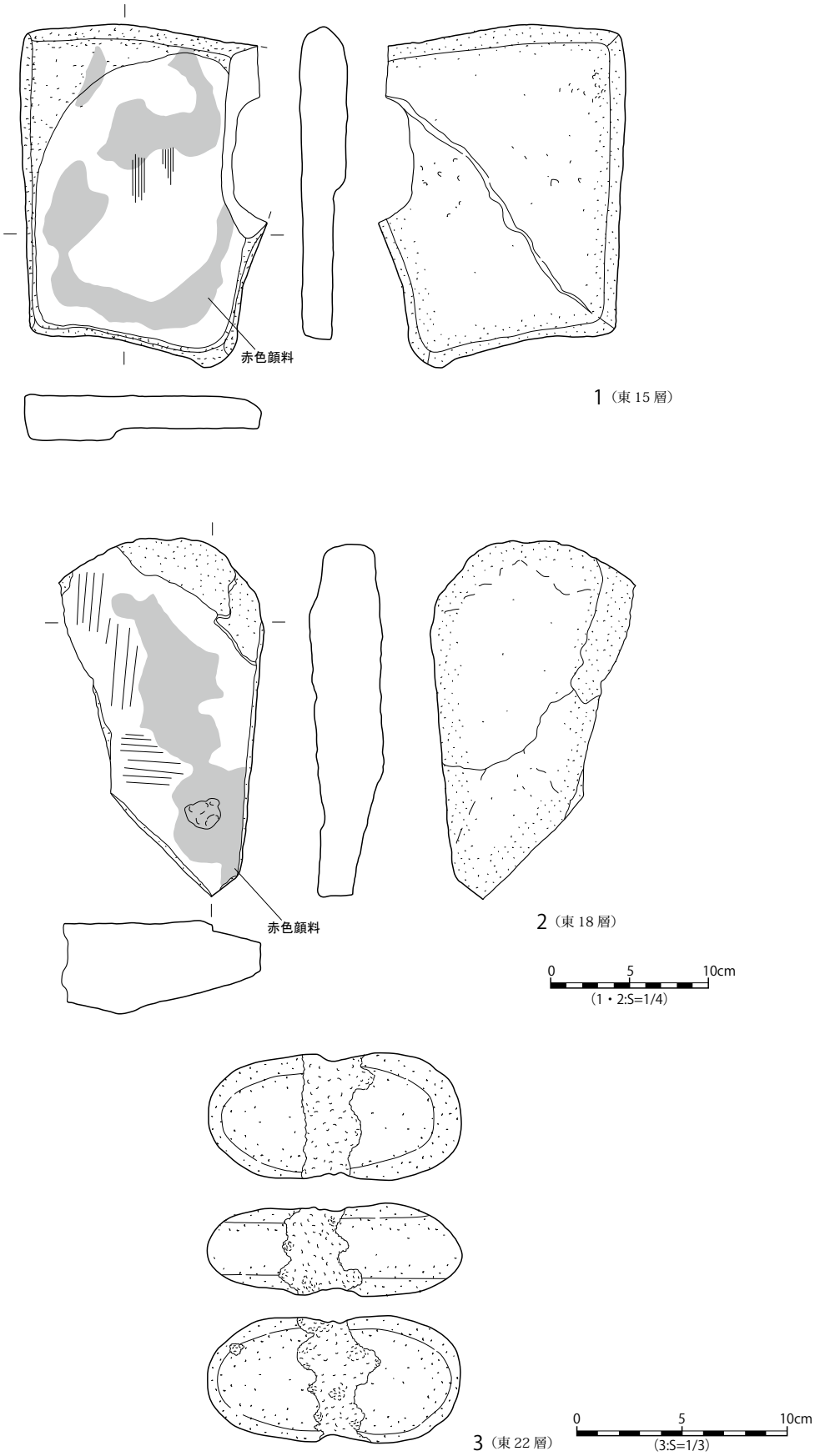


図 10　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器 7

点である。遠隔地産石材である黒曜石がある。打面調整は認められない。最大径 3.5 ～ 9.1 ㎝でばらつきがある。最大剥離面の形状と大きさで区分すると、縦形 10 点、横形 14 点ある。縦形の場合、最大剥離面の大きさは極小型 4 点、小型 5 点で最大 6.2 × 4.8 ㎝である。礫面は全てにみられる。横形の場合、最大剥離面の大きさは極小型 14 点、小型 1 点、で最大 3.2 × 4.3 ㎝で、縦形に比べ極小型が多い。礫面を残さないもの 2 点がある。

図 32-1 は鉄石英で打面調整はなく、最大剥離面の大きさは 4 ㎝より小さい極小型に属す、この層で最も多い例である。母岩の対称となる側辺を敲打し、両面から横形剥片を得る。そのため断面が楔状になる。図 32-2 は黒曜石で長径 3.5 ㎝、短径 1.8 ㎝の小型である。角柱状に割った円礫の一部を用いる。縦方向に打撃を加える。図 32-3 は珪質頁岩で大きさ 6 × 5 ㎝である。礫面を残すことから元は母岩を割って得られた大型剥片とみられる。図 28-3 と同じように対となる側辺を敲打し両面から縦形・横形の極小型～小型剥片を得る。

剥片 41 点は縦形 25 点、横形 16 点に区分される。縦形の大きさは極小型 16 点、小型 8 点、中型 1 点である。横形は極小型 9 点、小型 5 点、中型 2 点で、いずれも極小型が多い。石材は鉄石英 32 点、珪質頁岩 6 点、玄武岩・輝石安山岩・珪化木各 1 点である。珪質頁岩 6 点中 4 点が縦形と多い。鉄石英は縦形・横形の差はない。

砕片 4 点の大きさ平均は 2.3 × 1.2 × 0.8 ㎝、重さ 2.2g である。縦形で極小型の中でも小さい。全て鉄石英である。

（4）西区Ⅱ層

西区Ⅱ層は山王Ⅲ式期以降である。スクレイパー類 6 点、石核 2 点、剥片 11 点、砕片 1 点、計 20 点がある。スクレイパー類は極小～小型の RF のみで大型石器がないことから、Ⅲ層から巻き上げられた資料とみられる。

石核は 2 点とも珪質頁岩で長径 5 ㎝角の方形に近い。最大剥離面は約 3 × 5 ㎝の小型の横形剥片に相当する。原礫面は見られない。

（5）西区Ⅲ層（図 11 ～ 15）（図版 9 ～ 13）

西区Ⅲ層は山王Ⅲ式期である。石鏃 59 点、尖頭器 1 点、石錐 5 点、石箆 1 点、スクレイパー類 40 点、磨製石斧 3 点、磨石・敲石類 26 点、石皿・台石類 9 点、石錘 1 点、計 145 点のほか石核 23 点、剥片 101 点、砕片 15 点がある。石鏃とスクレイパー類が最も多く、磨石・敲石類と続く。石鏃が他の層に比べて多い点は特徴的である。

石鏃 59 点（図 11-1 ～図 11-33）の形態は多様である。まず有茎鏃 47 点、無茎鏃 4 点、未成品 2 点、欠損 5 点に区分される。有茎のうち茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎鏃は 32 点、1/2 ～ 1/3 の中茎鏃は 5 点、1/2 以上の長茎鏃は 1 点がある。そのほか木葉形 2 点がある。無茎鏃は尖基 4 点、円基 3 点、平基 2 点に分けられる。長さは 1.6 ～ 4.0 ㎝、平均 2.5 ㎝、幅は 0.6 ～ 2.2 ㎝、平均 1.2 ㎝、先端角は 35 ～ 83°、平均 55° である。素材は縦形剥片 41 点、横形剥片 16 点で縦形剥片が横形剥片のおよそ 2 倍である。石材は鉄石英 41 点、珪質頁岩 16 点、黒曜石 1 点、玉髄 1 点で鉄石英が圧倒的に多いが黒曜石や玉髄などが認められる点は特徴的である。茎部や基部にアスファルトが付着するものが 8 点（14%）ある。無茎鏃・有茎鏃に関わらず全ての形態に付着する。

図 11-1 ～ 17 は短茎鏃、図 11-22 ～ 25 は中茎鏃、図 11-18 は長茎鏃である。無茎鏃のうち図 11-19・20・21 は尖基、図 11-28・29 は円基、図 11-30・31 は平基である。図 11-32 は木葉形で

ある。

図 12-1 は尖頭器である。長さ 8.3 ㎝、幅 3.5 ㎝、重さ 44.3gの完形品である。全体の調整は粗い。基部は平基である。珪質頁岩の横型剥片が素材である。

石錐 5 点のうち 1 点は未成品でその他は完形品である。図 11-34 ～図 11-37 は全てつまみ部があり、全体が整えられる。錐部は長さ 0.6 ～ 1.6 ㎝である。錐部断面形はひし形が多い。図 11-35 には黒色物が付着し、装着の痕跡の可能性がある。石材は図 11-34 が珪質頁岩、図 11-36 が玉髄、その他は鉄石英が用いられる。

スクレイパー類 40 点の内訳は、スクレイパー 15 点、RF25 点である。

スクレイパー 15 点は長さ 3 ～ 11 ㎝で大型品を含む。縦形 10 点、横形 5 点で横形が多い。大きさは極小型 9 点、小型 5 点、大型 1 点である。刃部数は 1 ヶ所 7 点、2 ヶ所 5 点、3 ヶ所 2 点、4 ヶ所 1 点で、刃部数が 2 ヶ所以上のものが多い。刃部の平面形は外湾 5 点、直刃 7 点、外湾＋直刃 2 点で直刃と外湾刃が多い。刃部角は 12 ～ 82°、平均 32° である。刃角は 43 ～ 95° 平均 67° である。石材は珪質頁岩 10 点、鉄石英 2 点、玄武岩 3 点で、珪質頁岩が多い。

図 12-2 ～ 6 はスクレイパーである。図 12-2・3・6 は縦形、図 12-4・5 は横形である。図 12-6 は玄武岩製の小型品で左右に刃部がある。刃部は片面からの剥離で形成される。図 12-2 は珪質頁岩製の大型品である。左右に刃部があり、横に置くと横刃型石器となる。刃わたりは約 10 ㎝と長い。刃は外湾刃で刃角は 68° と大きい。図 12-3 は極小型品で下半部にアスファルトが付着する。図 12-5 は下辺を主刃部とする。下辺は直刃で刃角は 75° である。図 12-4 は長方形に丁寧に整形される。極小型品である。刃角が 80° あり大きい。

RF25 点は素材の形によって縦形 16 点と横形 9 点に分かれる。縦形の場合、極小型 6 点、小型 8 点、中型 2 点で小型が多い。横形の場合、横幅は極小型 7 点、小型 2 点で極小型が多い。刃部数は 1 ヶ所 17 点､2 ヶ所 8 点で、刃部数 1 ヶ所が多く、大きいほど刃部数が増加する。刃部角は縦形 18 ～ 70°、平均 38°、横形 26 ～ 66°、平均 42° で大差ない。刃付（微小剥離が見られる面）は縦形・横形とも全て片面である。刃部の平面形は縦形の場合、直刃 4 点、外湾 6 点、内湾 1 点、直＋外湾 2 点、直＋内湾 2 点、外湾＋内湾 1 点である。横形の場合、直 1 点、外湾 5 点、内湾 1 点、直＋外湾 1 点、外湾＋内湾 1 点で、いずれも外湾が多いが縦形のほうが直刃と組み合わさる例が多い。石材は珪質頁岩 18 点、鉄石英 5 点、玄武岩 1 点、泥岩 1 点で、珪質頁岩が多く、かつ石材が多様である。

図 12-7 はRFである。珪質頁岩製で縦形の中型品である。左側縁と下辺に微細剥離が見られる。刃部は左側縁が直刃、下辺が外湾する。刃部角は左側縁 40° と下辺 70° である。

図 12-8 ～ 10 は磨製石斧である。略完形の 1 点（図 12-8）を除き全て破損品である。全て左右側面が平坦な定角式である。先述の通り長さと最大幅、重さによって小型と大型に二分できる。図 12-8 は砂岩製の小型品である。刃部の平面形は外湾し頭部が尖る。図 12-9・10 は閃緑岩製の大型品である。いずれも頭部を欠く。刃部の平面形は外湾する。

磨石・敲石類 26 点は磨耗面のみの狭義の磨石 1 点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 25 点に区分される。分類別では磨類 1 点、敲類 1 点、凹類 10 点、凹＋敲類 14 点である。また表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例は、凹類と凹＋敲類 24 点中 13 点ある。よって痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの 15 点、敲打痕を伴うもの 15 点、凹痕を伴うもの 24 点となり、凹痕が多い。赤色顔料が付着する例が 1 点ある。石材は安山岩 23 点、花崗岩 1 点、砂岩 1 点、頁岩 1 点で安山岩に偏る。

図 13-1 ～ 7 は磨石・敲石類である。図 13-1 は磨類、図 13-2・4 は凹類、図 13-3 は敲類、図 13-5 ～ 7 は凹＋敲類である。図 13-1 は発達した磨耗面が観察される。図 13-2・4 は凹痕のほか、同

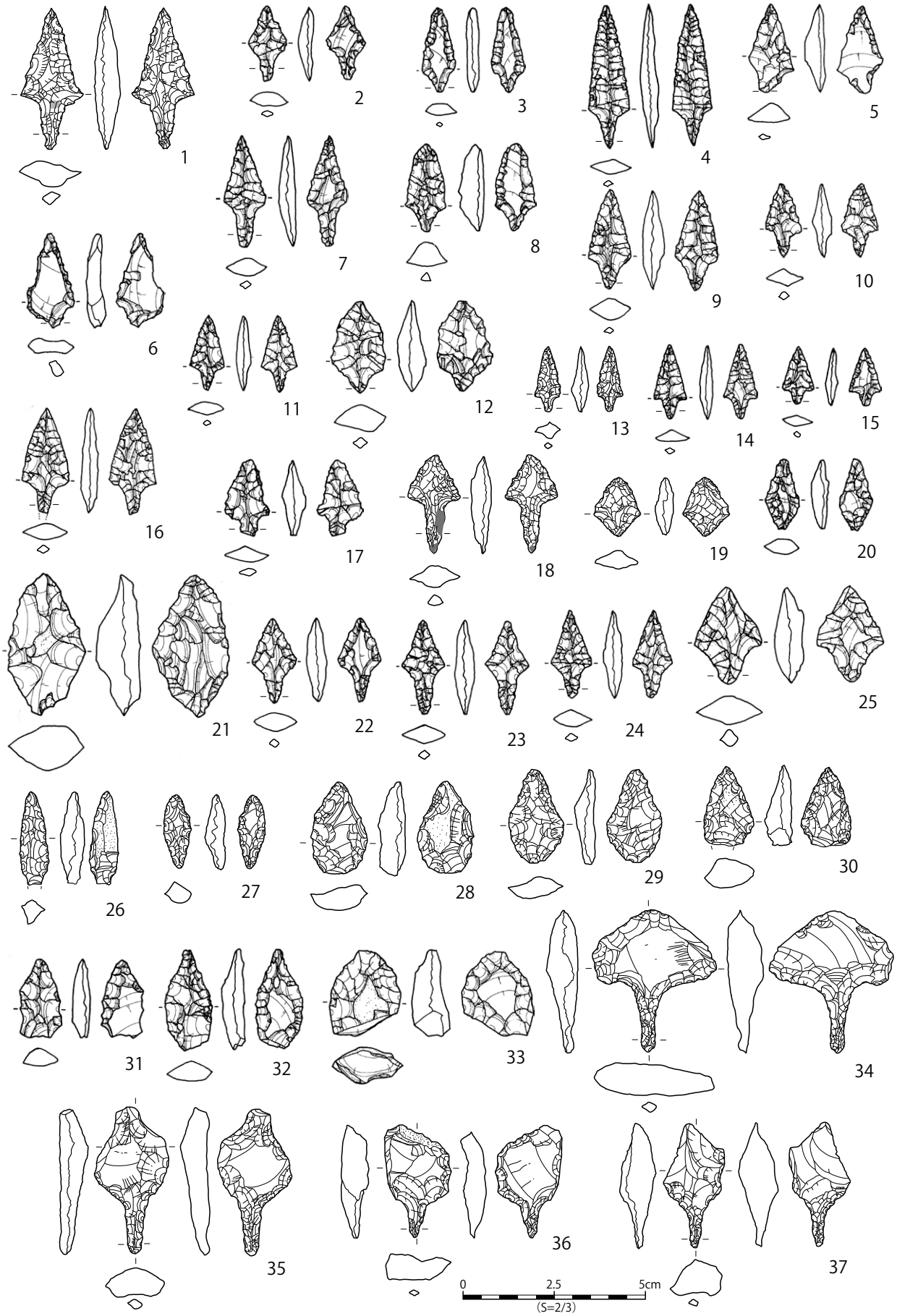


図 11　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器１

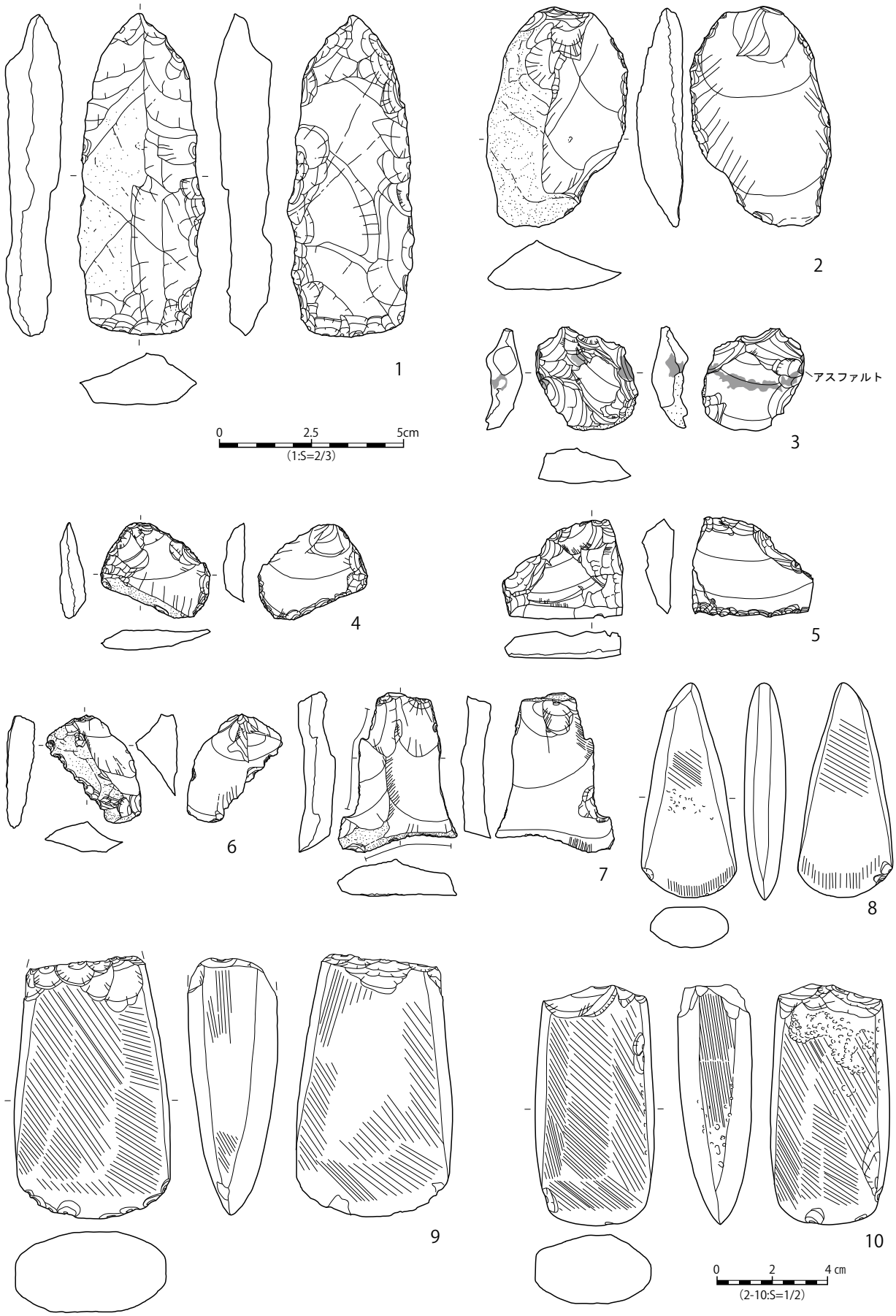


図 12　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器２

図 13　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器３

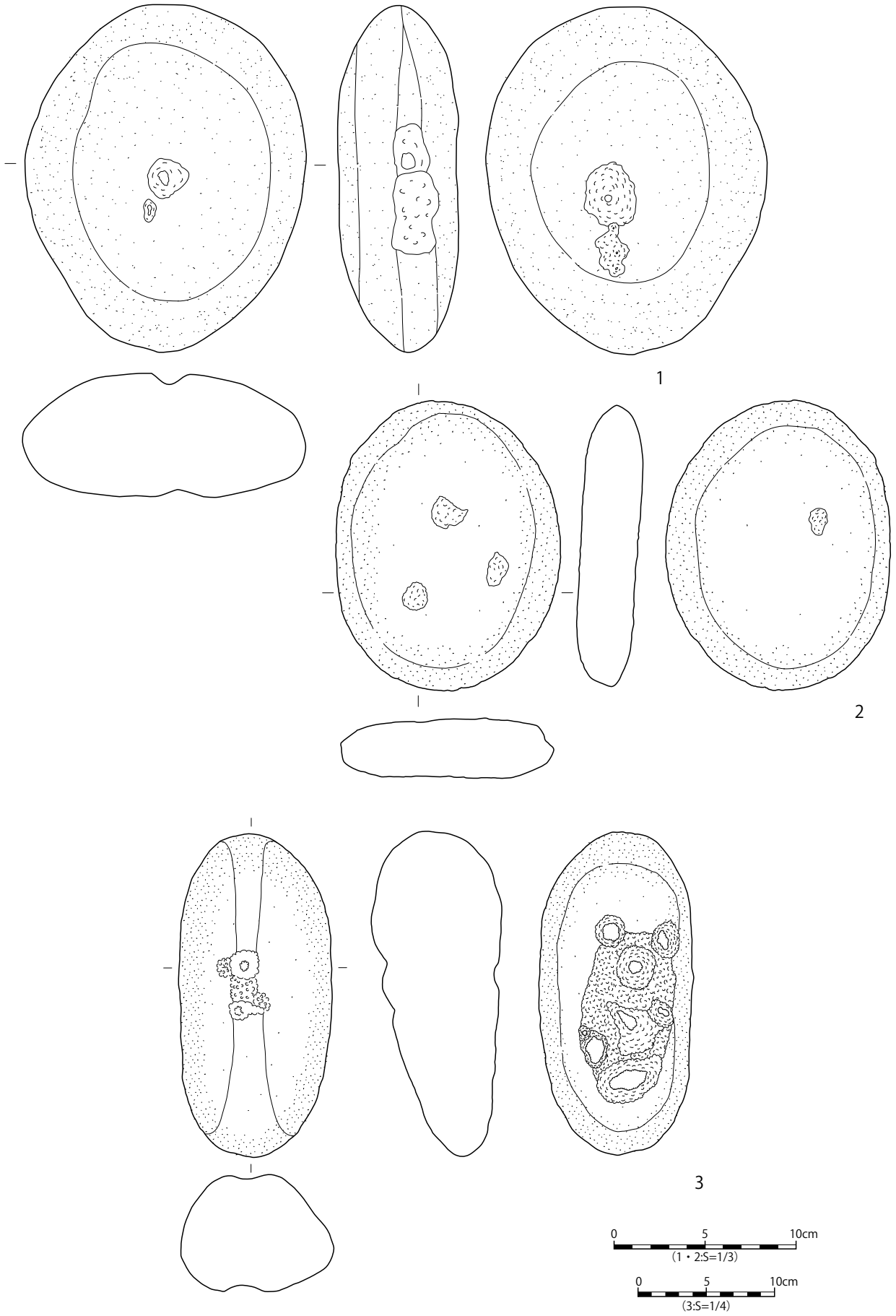


図 14　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器４

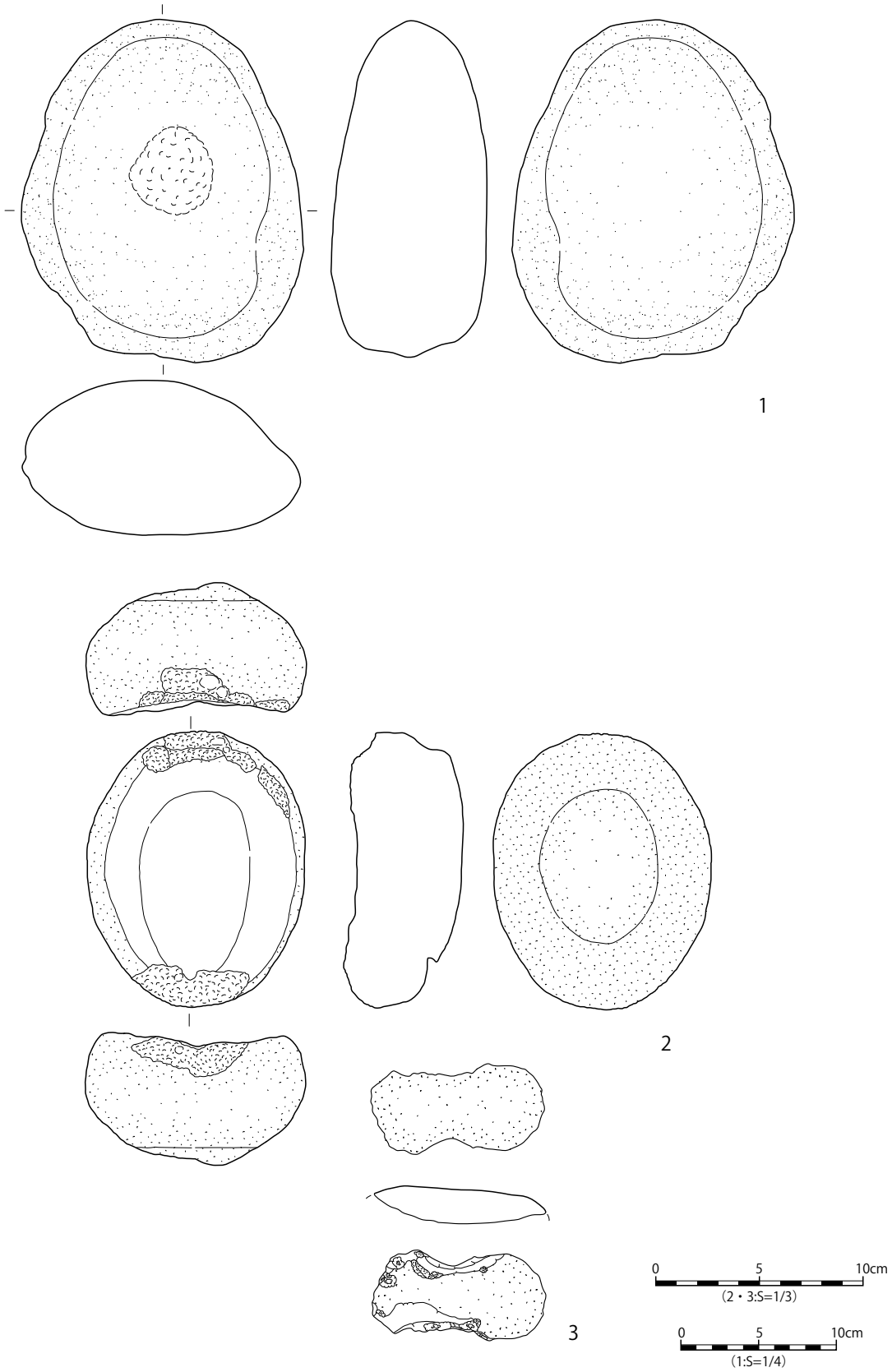


図 15　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器５

じ面に磨耗痕が伴う。図 13-3 は下端部に剥落と敲打痕が観察される。図 13-5・6 は凹痕の他に発達した磨耗痕が観察される。端部に弱い敲打痕が観察される。図 13-7 は線状の敲打痕が観察される。

石皿・台石類 9 点は、自然礫をそのまま利用した無整形のⅠ類 7 点と、凹部を形成するⅡ類 2 点がある。Ⅰ類は断面形が平坦なⅠ平類、盛り上がるⅠ凸類に細分される。Ⅰ類 7 点のうち、Ⅰ平類 5 点、Ⅰ凸類 2 点である。Ⅰ平類の使用痕は凹痕が伴うものがほとんどである。Ⅰ凸類は凹痕だけでなく、磨耗面がある例がある。Ⅱ類は全面整形され、表面には磨耗面が確認できる。石材は安山岩 6 点、砂岩 1 点、花崗岩 1 点で、整形されるⅡ類には多孔質安山岩や凝灰岩が用いられる。赤色顔料などの付着物は確認できなかった。

図 14-1 ～図 15-2 は石皿・台石類である。図 14-1 はⅠ平類で表裏面中央に 1 ヶ所深い凹痕がある。図 14-2 はⅠ平類で表面に 3 ヶ所、凹み痕がある。図 14-3 はⅠ凸類で、中央に径 5 ㎝の磨耗痕がある。磨耗痕はざらつく程度の高低差の低い磨耗痕である。図 15-1 はⅠ凸類で、最も膨らんだ表裏面の中央に大きめの凹痕がある。図 15-2 はⅡA類の完形品である。長さ 13 ㎝、幅 10 ㎝ほどの小型品で前方を敲打によって掃き出し口をつける。表面の磨耗面は 11 × 10 ㎝である。多孔質の安山岩が用いられる。

図 15-3 は石錘である。砂岩製の破片である。幅 4 ㎝が残る。おそらく長楕円礫とみられる。長軸中央上下を剥離により抉る。抉り部は長さ 3 ㎝、幅 2.7 ㎝、深さ 0.9 ㎝である。

そのほか、石器製作に関わる石核 23 点、剥片 104 点、砕片 15 点がある。

石核 23 点の石材は鉄石英 16 点、珪質頁岩 6 点、砂岩 1 点である。打面調整は認められない。最大径 3.8 ～ 13.8 ㎝、平均 4.9 ㎝でばらつきがある。最大剥離面の形状で区分すると、縦形 10 点、横形 13 点である。最大剥離面の大きさは縦形の場合、極小型 9 点、中型 1 点で大小に開きがある。原礫面を残すものは 7 点ある。横形の場合、極小型 10 点、小型 3 点で、縦形に比べ極小型が多い。原礫面を残すものが 11 点ある。

図 32-5・6 は石核である。図 32-5 は鉄石英で打面調整はなく、最大剥離面の大きさは 4 ㎝より小さい極小型に属す。径 5 ㎝ほどの母岩に対し、その角を削ぐようにランダムな方向から打撃を加える。そのため球状になる。図 32-6 は鉄石英で長径 7.4 ㎝、275g を測る大型である。打面調整はなく、まず礫面が残る面を上に縦方向から打撃を加え、縦形の中～大型剥片を得て角柱状になった後、90 度横にして横形剥片を得ている。

剥片 101 点は縦形 51 点、横形 50 点に区分される。縦形の大きさは平均長さ 3.5 ㎝で極小型 35 点、小型 16 点で極小型が多い。横形は平均幅 3.8 ㎝で極小型 31 点、小型 17 点、中型 2 点で横形のほうが大きい剥片が多い。石材は鉄石英 62 点、珪質頁岩 35 点、安山岩 2 点、玉髄・砂岩各 1 点で、鉄石英の多い。縦形・横形の差はほとんどない。

図 34-1・2 は剥片である。1 は縦形の極小型、2 は横形の小型である。

砕片 15 点の大きさ平均は 1.9 × 1.9 × 0.7 ㎝、重さ 2.6g である。全て極小型で縦形 8 点、横形 7 点でほぼ同数である。鉄石英 13 点、珪質頁岩 2 点である。

（6）西区Ⅳ上層（図 16 ～ 18）（図版 14 ～ 16）

西区Ⅳ上層は山王Ⅳ上層式（砂沢式併行）期である。石鏃 10 点、石錐 1 点、石箆 1 点、スクレイパー類 10 点、磨製石斧 1 点、磨石・敲石類 8 点、石皿・台石類 4 点、計 35 点のほか原石 1 点、石核 5 点、剥片 15 点、砕片 1 点がある。石鏃とスクレイパー類が最も多く、磨石・敲石類が続く。

石鏃 10 点の茎部をみると有茎鏃 7 点、無茎鏃 1 点、欠損 2 点に区分される。有茎鏃 7 点全てが茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎である。無茎鏃は尖基 2 点、円基 1 点に分けられる。長さは 1.6 ～ 3.3

㎝、平均 2.5 ㎝、幅は 0.9 ～ 1.6 ㎝、平均 1.3 ㎝、先端角は 47 ～ 67°、平均 58° である。上層のⅢ層との変化はない。素材は縦形剥片９点、横形剥片１点で上層よりも縦形剥片の割合が高い。石材は鉄石英７点、珪質頁岩３点である。茎部や基部にアスファルトが付着するものはない。

図 16-1 ～ 7 は石鏃である。図 16-1 ～ 4 は短茎鏃である。図 16-5・6 は尖基鏃である。図 16-6 の刃部は八の字形に開く。図 16-7 は円基鏃である。

図 16-8 は石錐である。つまみ部があるが未整形である。錐部は短い。先端は磨滅する。つまみ部に黒色物が付着する。素材は珪質頁岩の横形剥片である。

図 16-9 は石箆である。長さ６㎝、重さ 35gほどである。中型の横形剥片が用いられる。整形は粗い。上端は尖状で、下辺の刃部は外湾する。刃部角は 12° である。

スクレイパー類 10 点は、全てRFである。

RF10 点は素材の形によって縦形８点と横形２点に分かれる。縦形の場合、極小型３点、小型５点である。横形の場合、横幅は小型２点である。刃部数は１ヶ所６点、２ヶ所３点、３ヶ所１点で１ヶ所が多い。刃部角は縦形 18 ～ 85°、平均 44°、横形 25 ～ 51°、平均 45° で大差ない。刃付（微小剥離が見られる面）は縦形・横形とも全て片面である。刃部の平面形は縦形の場合、直１点、外湾３点、内湾２点、直＋内湾１点、内湾＋外湾１点である。横形の場合、直２点で、縦形に外湾と内湾が多く、横形に直刃が多い。アスファルトが１点付着する。石材は珪質頁岩９点、砂岩１点で、珪質頁岩が主体である。

図 16-10 ～ 13 はRFである。図 16-10 は極小型の横形でアスファルトが付く。アスファルトは下辺を中心に広く円形に分布することからアスファルトを取り出すための箆として使われたとみられる。図 16-11 は小型の縦形で左側辺に微小剥離痕が観察される。刃部平面は外湾する。図 16-12 は小型の横形で左右側辺と下辺に微小剥離痕が観察される。図 16-13 は小型の横形で右側辺と下辺に微小剥離痕が観察される。下辺の刃部平面は直刃である。

磨製石斧１点は頭部のみの破損品である。定角式で砂岩製である。頭部は敲打により膨らみのある円形を呈す。

磨石・敲石類８点は磨耗面のみの狭義の磨石１点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石７点に区分される。分類別では磨類１点、凹類２点、凹＋敲類４点である。また表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例は、凹類と凹＋敲類７点中２点ある。よって痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの３点、敲打痕を伴うもの４点、凹痕を伴うもの７点となり、凹痕が多い。赤色顔料が付着する例はない。石材は安山岩７点、凝灰岩１点で安山岩に偏る。

図 17-1 ～ 4 は磨石・敲石類である。図 17-1 は磨類、図 17-2 は凹類、図 17-3・4 は凹＋敲類である。図 17-1 は表面にのみ磨耗面がみられる。図 17-2 は細かな傷状の敲打痕が集中する（凹Ｄ類）。図 17-3 は表裏面に凹痕の周辺に磨耗痕が確認できる。図 17-4 の凹痕は線状（凹Ｅ類）で、同じ凹痕が下面にもある。

石皿・台石類４点は、自然礫をそのまま利用した無整形のⅠ類２点と、凹部を形成するⅡ類２点がある。Ⅰ類は２点ともⅠ平類である。Ⅰ平類の使用痕は凹痕が伴うものと広い範囲に磨耗面が観察されるものがある。Ⅱ類は凹部を皿状にくぼめる。凹部の整形痕と、その上を覆う磨耗面が確認できる。石材は４点全て安山岩である。整形されるⅡ類には多孔質安山岩が用いられる。赤色顔料の付着はⅠ平類Ⅰ点に観察される。

図 18-1 ～ 3 は石皿・台石類である。図 18-1 はⅠ平類で表裏面の広い範囲に光沢を伴うほど発達した磨耗面が観察される。磨耗面の周囲には赤色顔料が付着する。図 18-2 は一部を欠くが全体形が推定

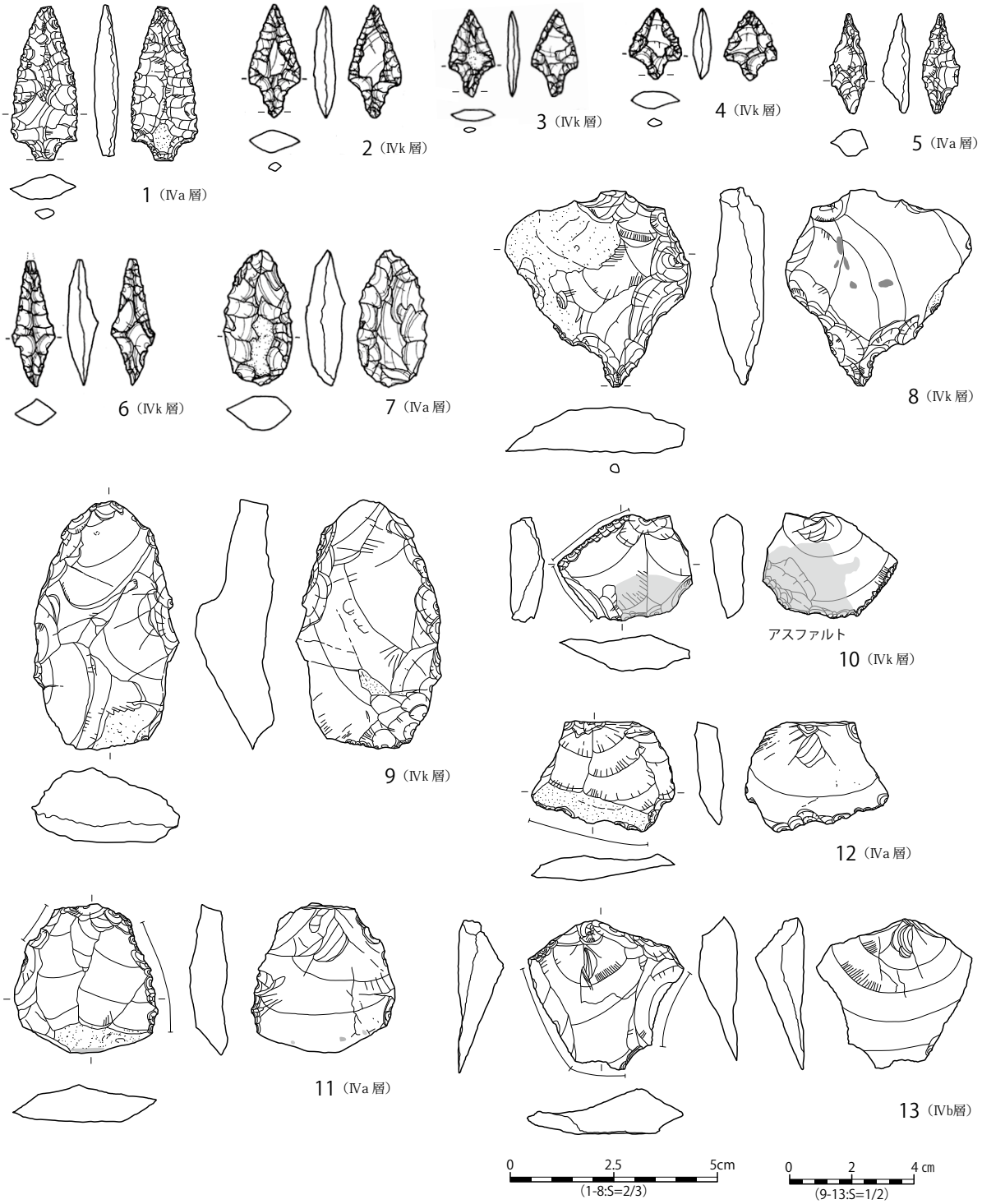


図 16　山王囲遺跡西区Ⅳa～k 層（Ⅳ上層）出土石器 1

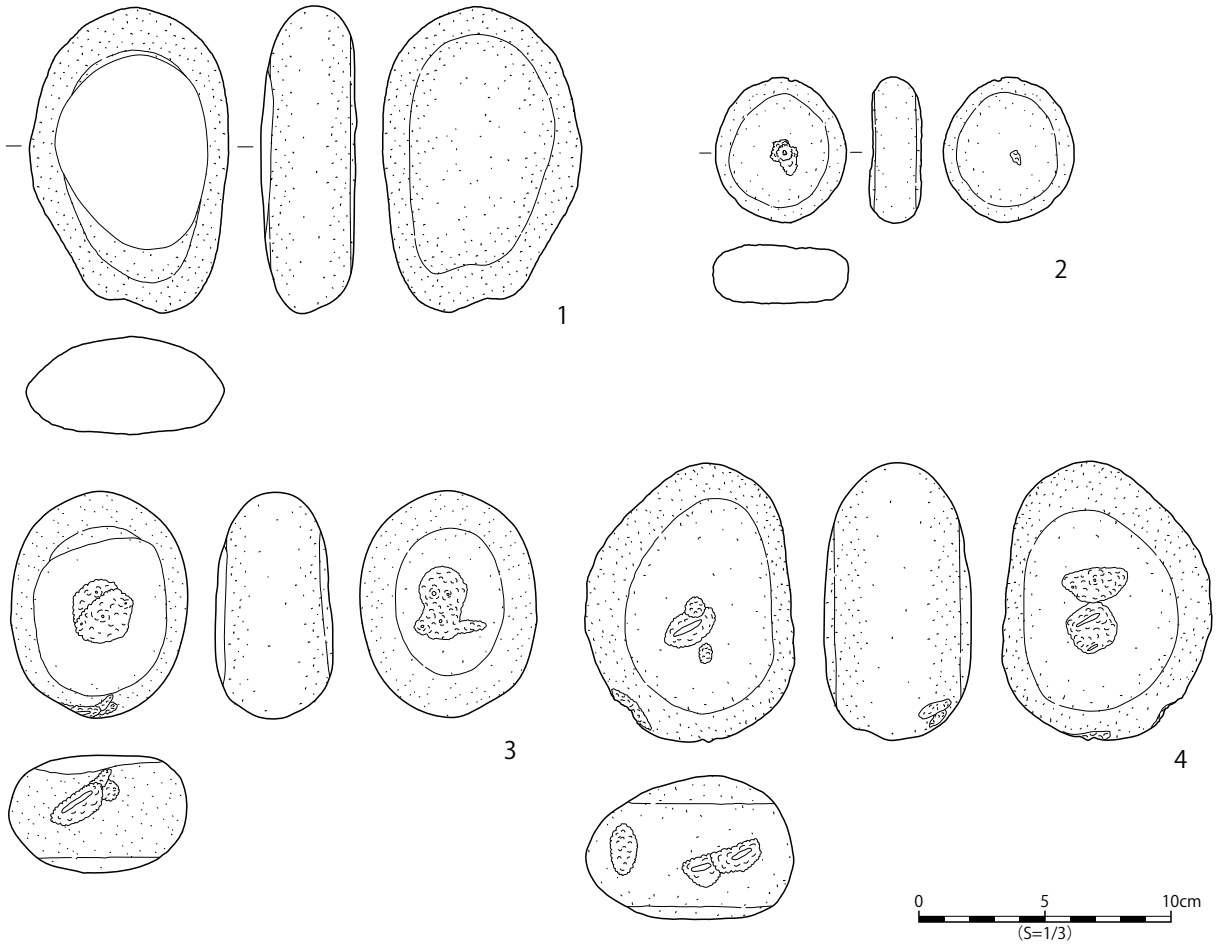


図 17　山王囲遺跡西区Ⅳa ～ k 層（Ⅳ上層）出土石器２

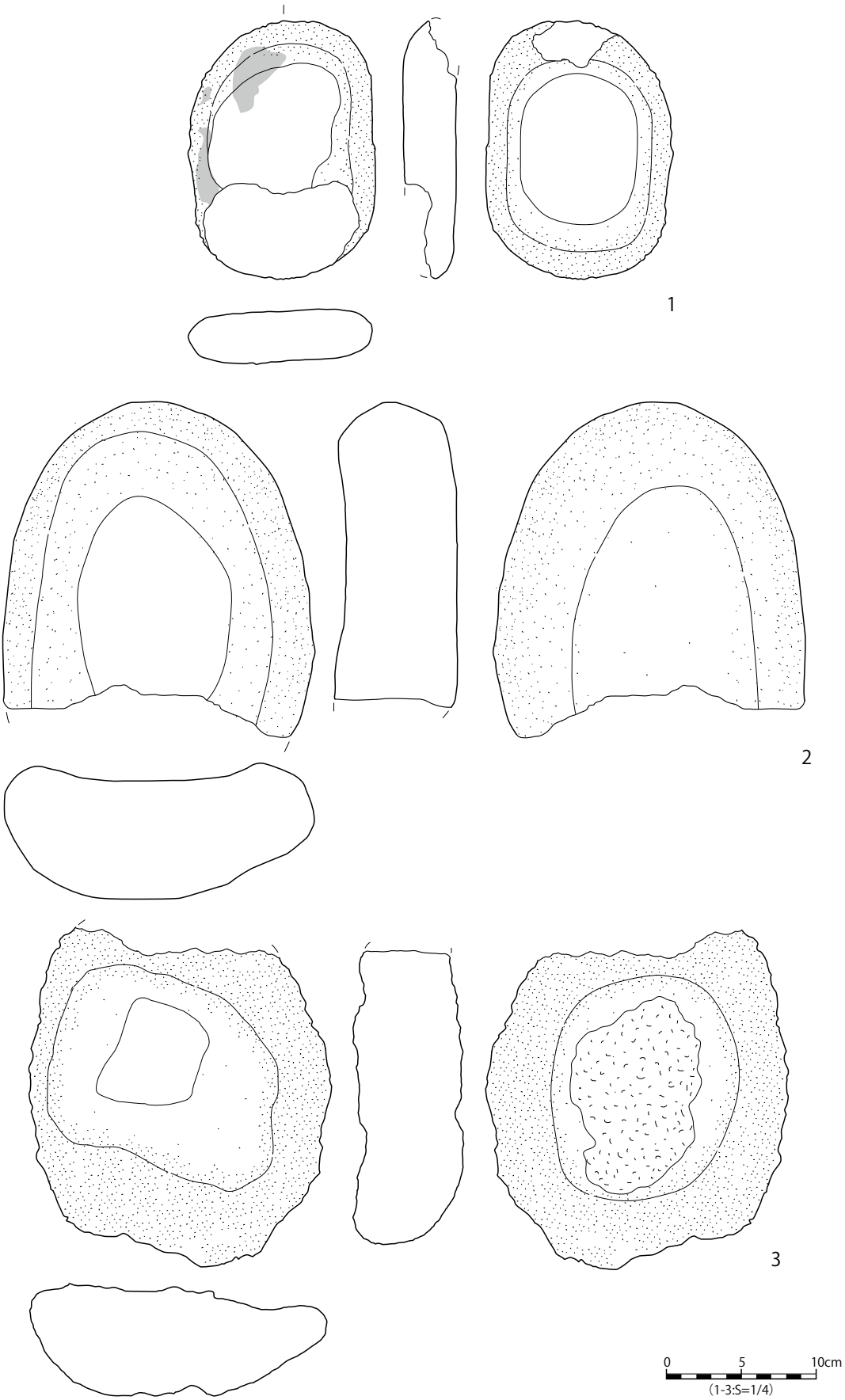


図 18　山王囲遺跡西区Ⅳa ～ k 層（Ⅳ上層）出土石器３

できるⅡ類である。復元長約 30 ㎝で、形成される凹部は長さ 25 ㎝、幅 16 ㎝、深さ 1 ㎝の皿状を呈す。磨耗痕はこの中央に推定長径 15 ㎝、短径 10 ㎝の範囲に認められる。図 18-3 もⅡ類で全体形が復元できる。復元長約 30 ㎝で、形成される凹部は長さ 25 ㎝、幅 13 ㎝の盆状を呈す。磨耗痕はこの中央推定長径 10 ㎝、短径 8 ㎝の範囲に認められる。磨耗面が弱く、使用初期段階の資料とみられる。

そのほか、石器製作に関わる石核 6 点、剥片 15 点、砕片 1 点がある。

石核 6 点の石材は鉄石英 4 点、珪質頁岩 1 点、砂岩 1 点である。打面調整は認められない。最大径 2.8 ～ 5.6 ㎝、平均 4.7 ㎝で 100g を超える大型がない。最大剥離面の形状で区分すると、縦形 1 点、横形 5 点で、横形が多い。最大剥離面の大きさは縦形・横形問わず全て極小型である。礫面を残すものが 4 点で原礫面を残すものが多い。

剥片 15 点は縦形 11 点、横形 4 点に区分される。縦形 11 点の大きさは平均長さ 3.5 ㎝で極小型 7 点、小型 4 点で極小型が多い。横形の横幅は極小型 2 点、小型 2 点である。石材は鉄石英 6 点、珪質頁岩 9 点である。

図 34-3・4 は剥片である。いずれも縦形で 3 は極小型、4 は小型である。3 は原礫面が残り、4 は原礫面が残らない。

砕片 1 点は鉄石英で大きさ 1.8 × 1.4 × 0.3 ㎝、重さ 0.5g の小片である。

（7）西区Ⅳ下層（図 19 ～ 22）（図版 14・17 ～ 19）

西区Ⅳ下層は大洞A′式期である。石鏃 12 点、石錐 1 点、石箆 1 点、スクレイパー類 14 点、磨石・敲石類 43 点、石皿・台石類 14 点、砥石 1 点、計 86 点のほか石核 11 点、剥片 28 点、砕片 15 点がある。磨石・敲石類が最も多く、スクレイパー類、石鏃、石皿・台石類と続く。上層とは異なり、磨石・敲石類と石皿・台石類が多い点は特徴的である。

石鏃 12 点の形態は 4 種ある。まず有茎鏃 6 点、無茎鏃 3 点、欠損 3 点に区分される。有茎鏃について茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎鏃 5 点のほか棒状鏃 1 点がある。無茎鏃は尖基 2 点、円基 1 点がある。長さは 1.6 ～ 4.0 ㎝、平均 2.5 ㎝、幅は 1.7 ～ 2.9 ㎝、平均 2.3 ㎝、先端角は 45 ～ 82°、平均 63° である。素材は縦形剥片 11 点、横形剥片 1 点で縦形剥片が圧倒的である。石材は鉄石英 11 点、珪質頁岩 1 点で鉄石英が圧倒的に多い。茎部や基部にアスファルトが付着するものはない。

図 19-1 ～図 19-6 は石鏃である。図 19-1 ～ 3 は短茎鏃、図 19-4・5 は尖基鏃、図 19-6 は棒状鏃である。図 19-3 の刃部は八の字形に広がる。図 19-5 は未成品とみられる。図 19-6 は幅に対して厚みがある。

図 19-7 は石箆である。珪質頁岩製で上部を欠く。幅は 2.4 ㎝である。左右側辺は直線状で刃部はやや外湾する。刃角は 62° を測る。

図 19-8 はスクレイパー類である。スクレイパー類 14 点の内訳は、スクレイパー 4 点、RF10 点である。

スクレイパー 4 点は縦形 3 点と横形 1 点に分かれる。縦形の場合、極小型・小型・中型各 1 点である。横形 1 点は小型に属す。刃部数は 2 ヶ所 3 点、3 ヶ所 1 点で 2 ヶ所以上が多い。刃部角は縦形 3 点が 17 ～ 62°、平均 34° で 1 点のみ刃部角 60° 以上で掻器に該当する。横形 10 ～ 41° である。刃付は 4 点とも両面である。刃部の平面形は縦形の場合、外湾 1 点、直＋外湾 2 点である。横形は外湾のみで、縦形に外湾が多い。アスファルトの付着はない。石材は 4 点とも珪質頁岩である。

図 19-9・10 はスクレイパーである。いずれも縦形の珪質頁岩を素材とする。9 は中型、10 は小型である。左右に主刃部がある。刃部は両面加工で外湾刃を基本とする。

RF10 点は素材の形によって縦形 5 点と横形 5 点に分かれる。縦形の場合、極小型 1 点、小型 4 点である。横形の場合、横幅は極小型 2 点、小型 3 点である。刃部数は 1 ヶ所 5 点、2 ヶ所 4 点、3 ヶ所 1 点である。刃部角は縦形 17 ～ 72°、平均 42°、横形は 19 ～ 36°、平均 25° で横形のほうが鋭利である。刃付（微小剥離が見られる面）は横形 3 点が両面であるのが特徴的である。その他は片面である。刃部の平面形は縦形の場合、直 1 点、外湾 2 点、直＋外湾 2 点である。横形の場合、直 5 点、外湾 4 点で、縦形に外湾が多く、横形に直刃が多い。アスファルトの付着はない。石材は珪質頁岩 6 点、鉄石英 4 点で上層に比べ鉄石英が増加する。

図 19-8 はRFである。縦形の小型である。左右に微小剥離痕が観察される。刃部の平面形は右側が外湾刃で、左が直刃である。刃部角は 32° と 64° である。石材は鉄石英である。

図 19-11 は礫器である。表裏面に敲打痕がある。敲打痕は細かく傷状である。

磨石・敲石類 42 点は磨耗面のみの狭義の磨石 7 点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 35 点に区分される。分類別では磨類 6 点、磨＋磨類 1 点、凹類 17 点、凹＋敲類 16 点、敲類 2 点である。また表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例は、凹類と凹＋敲類 33 点中 9 点ある。よって痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの 16 点、敲打痕を伴うもの 18 点、凹痕を伴うもの 33 点となり、凹痕だけでなく、磨耗痕を伴うものも多い。赤色顔料は磨類 4 点に付着し、磨耗痕と赤色顔料製作との関連がうかがえる。石材は安山岩 34 点、砂岩 4 点、泥岩 2 点、凝灰岩 1 点、閃緑岩 1 点、頁岩 1 点で安山岩に偏る。赤色顔料付着資料は、砂岩、泥岩、頁岩といった肌理の細かい石材に付着する。

図 20-1 ～図 21-3 は磨石・敲石類である。図 20-1 は磨類、図 20-2 は磨＋磨類、図 20-3・4 は凹類、図 20-5 は敲類、図 20-6 ～ 8、図 21-1 ～ 3 は凹＋敲類である。図 20-1 には赤色顔料が付着する。図 20-2 の下面に磨耗痕が観察される例は上層では見られず、この層に現れる。ざらつくような凹凸の弱い磨耗痕が確認できる。図 20-7・8 の凹痕は線状（凹E類）である。図 21-2 は上下面に長軸に対し斜め方向の敲打面がある。図 21-3 は径 10 ㎝以上の大型品で、片手で持つことが難しく扁平であることから据え置いて使ったとみられる。表裏面には中央に計 3 ㎝の半球状の凹痕がある。

石皿・台石類 14 点は、自然礫をそのまま利用した無整形のⅠ類 10 点と、凹部を形成するⅡ類 4 点がある。さらにⅠ類は断面形でⅠ凸類 1 点、Ⅰ平類 9 点に区分される。Ⅰ平類の使用痕は磨耗面が狭い範囲に集中的にみられるもの（a類）1 点、広い範囲に磨耗面が観察されるもの（b類）7 点、敲打痕が伴うもの 2 点がある。Ⅱ類は 4 点とも凹部を皿状にくぼめる。凹部の整形痕と、その上を覆う磨耗面が確認できる。石材は安山岩 9 点、礫岩 2 点、凝灰岩 2 点、泥岩 1 点である。整形されるⅡ類には多孔質の安山岩が用いられる。赤色顔料の付着はいずれもⅠ平類 2 点に観察される。

図 21-4、図 22-1 ～ 3 は石皿・台石類である。図 21-4 はⅡ類で長さ 17 ㎝、幅 12 ㎝を測る。磨耗面は奥側のほうが発達し、前方には掃き出し口が付く。図 22-1 はⅠ平a類である。表面に径 15 ㎝の敲打整形痕があり、礫面を平坦に整える。敲打整形された平坦面は磨耗し赤色顔料が付着する。図 22-2 はⅠ凸敲である。20 ㎝程の楕円礫が用いられる。表面は膨らみ、その中央に径 3 ㎝程の円形の敲打痕がある。図 22-3 はⅡ類の完形品である。長さ約 30 ㎝の安山岩製である。形成される凹部は長さ 27 ㎝、幅 16 ㎝で低い縁部を作り出し浅い盆状を呈す。

図 22-4 は砥石である。砂岩製の破片である。厚さ 0.7 ㎝で扁平ある。厚さが薄いのは研磨の結果によるとみられる。研面の幅は 10 ㎝以上と広い。よって磨製石斧や石剣・石刀などの大型磨製石器が対象だったとみられる。

そのほか、石器製作に関わる石核 11 点、剥片 28 点、砕片 15 点がある。

石核 11 点の石材内訳は鉄石英 6 点、珪質頁岩 2 点、黒曜石・輝石安山岩・珪化木各 1 点である。

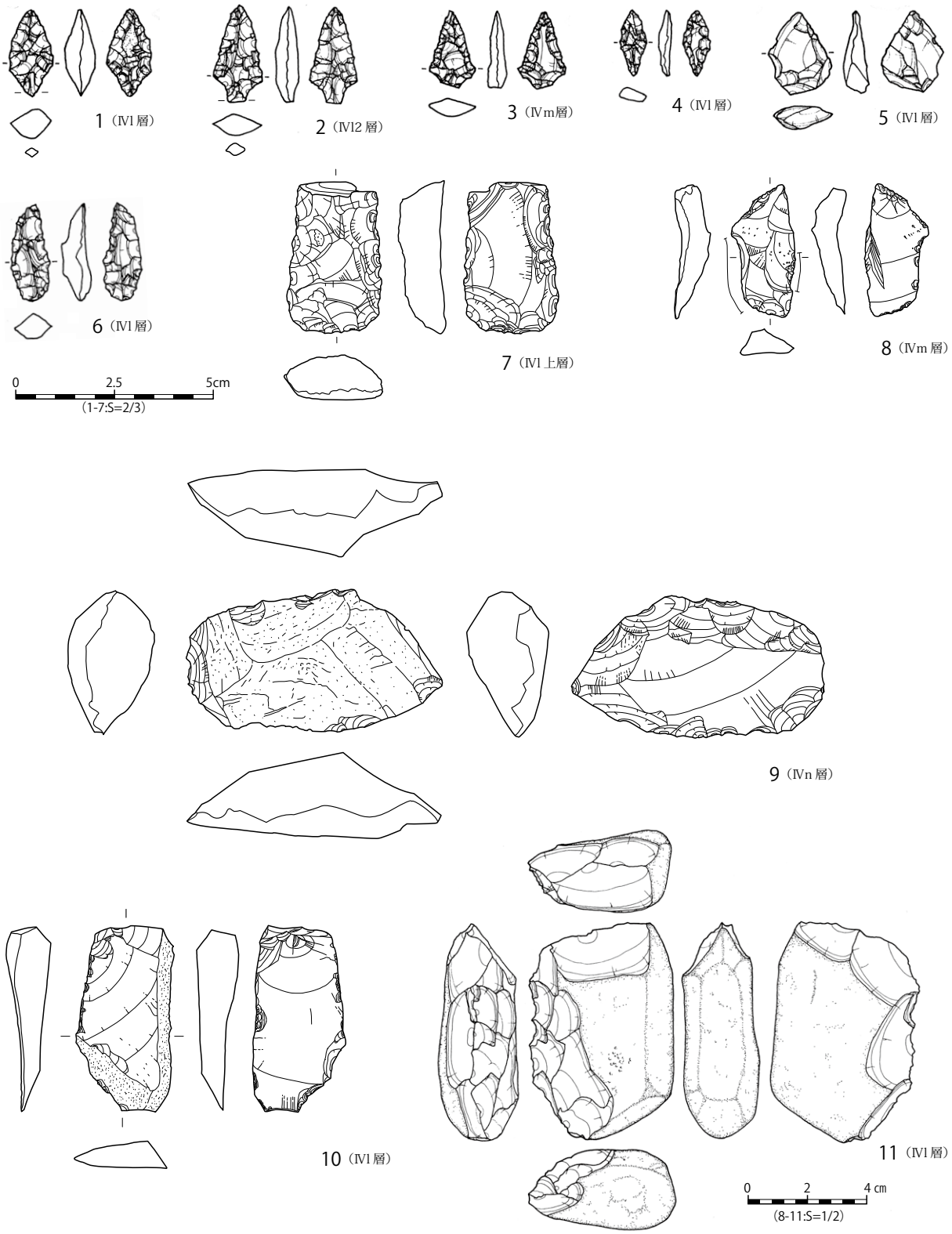


図 19　山王囲遺跡西区Ⅳl・m・n 層（Ⅳ下層）出土石器 1

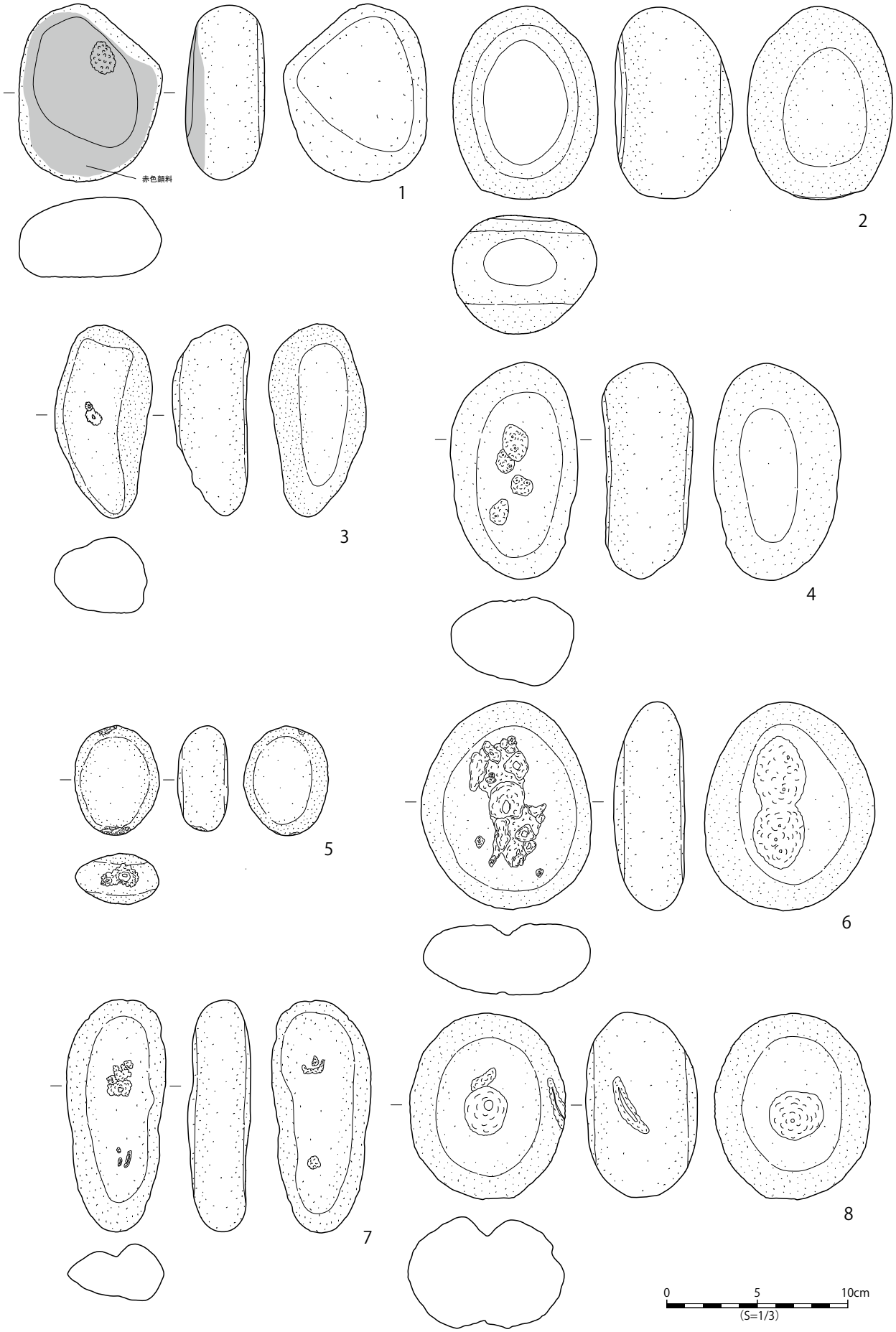


図 20　山王囲遺跡西区Ⅳl ～ n 層（Ⅳ下層）出土石器２

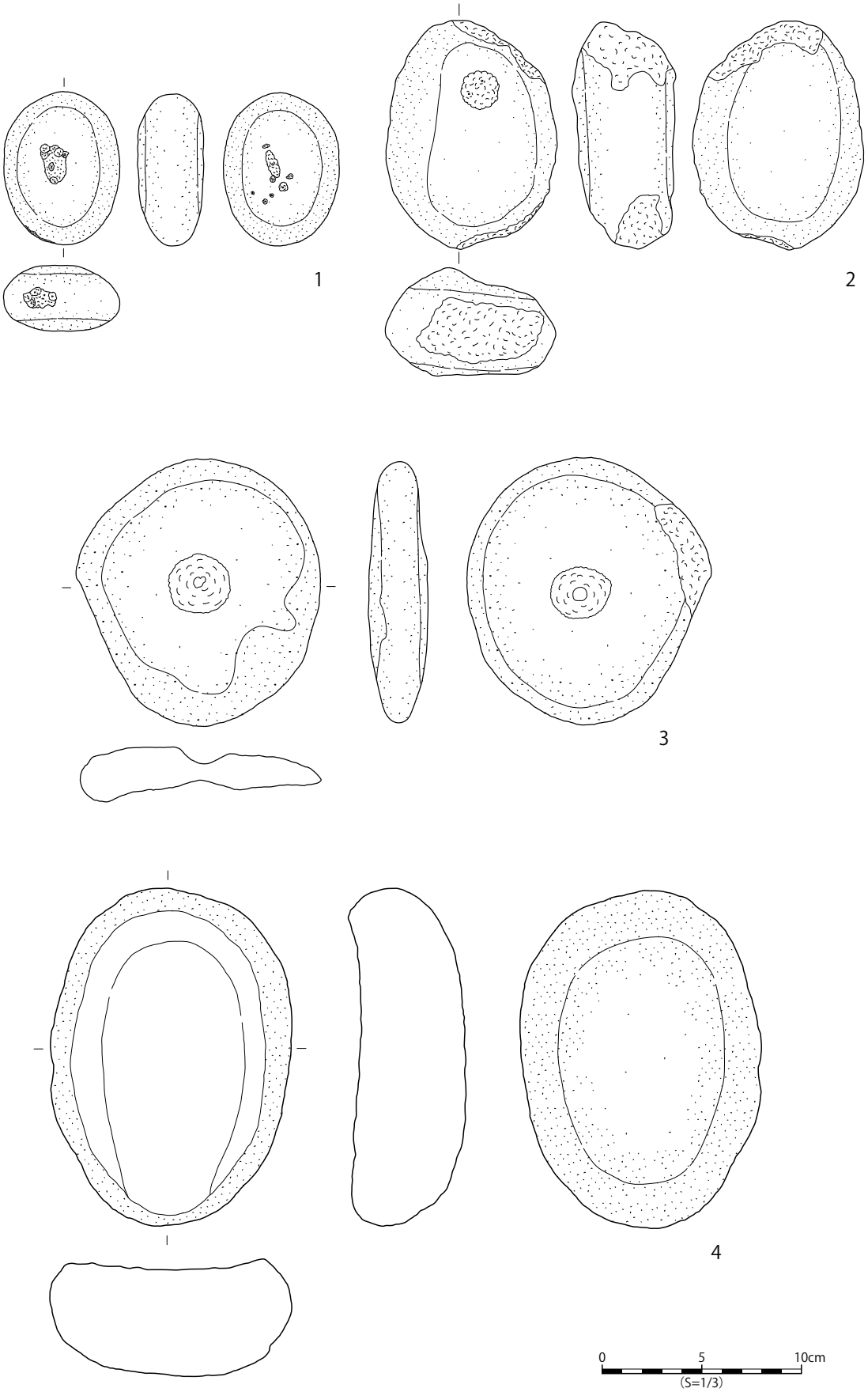


図 21　山王囲遺跡西区Ⅳl ～ n 層（Ⅳ下層）出土石器３

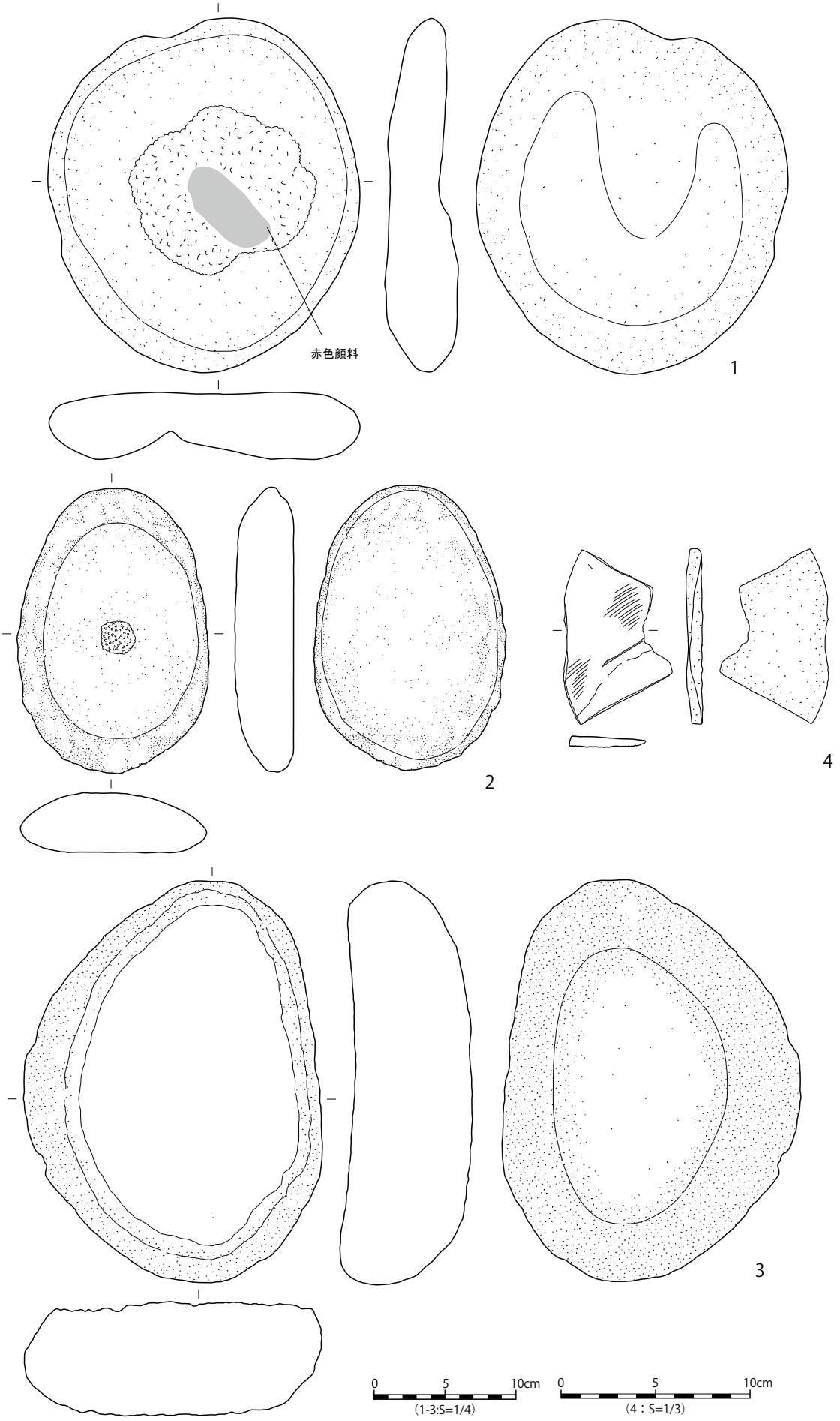


図 22　山王囲遺跡西区Ⅳl ～ n 層（Ⅳ下層）出土石器４

黒曜石を含む点が特徴である。打面調整は認められない。最大径 2.6 ～ 7.5 ㎝、平均 4.6 ㎝で 100gを超える大型３点がある。最大剥離面の形状で区分すると、縦形４点、横形７点で、横形が多い。最大剥離面の大きさは縦形・横形問わず極小型主体である。礫面を残すものが 11 点中９点で原礫面を残すものが多い。なお黒曜石の石核は 3.5 × 4.0 × 1.0 ㎝、16gで３㎝角の方形に近い剥片を得ていたとみられる。

図 33-1・2 は石核である。図 33-1 は珪化木で大きさ 7.4 × 4.9 × 3.2 ㎝、128gで大型に属す。径８㎝ほどの母岩を半裁した後、その周縁を巡るように敲打して、主に極小～小型の横形剥片を得ている。図 33-2 は黒曜石で 3.5 × 4.0 × 1.0 ㎝で小型である。扁平で礫面を残す。

剥片 28 点は縦形 12 点、横形 16 点に区分される。縦形 13 点の大きさは平均長さ 3.9 ㎝で極小型７点、小型５点である。横形は極小型７点、小型９点である。いずれも小型が多い。石材は鉄石英 19 点、珪質頁岩９点で鉄石英が多い。図 34-5 は鉄石英の縦形剥片である。

砕片 15 点は鉄石英 13 点、珪質頁岩２点で平均大きさ 1.7 × 1.5 × 0.6 ㎝、重さ 1.2gの小片である。

（８）西区Ⅳ層

Ⅳ層のうちａ～ｎ層の細分が不明な資料がある。スクレイパー類３点、磨石・敲石類１点　石皿・台石類１点、石核２点、剥片 12 点がある。スクレイパー類はスクレイパー２点、RF1 点である。磨石・敲石類１点は磨類である。石皿・台石類はⅠ平敲類である。石核１点は鉄石英で径４㎝、約 55gである。剥片 12 点の石材は鉄石英２点、珪質頁岩９点、黒曜石１点である。縦形９点、横形３点ある。縦形・横形とも極小型である。図 34-6 ～ 9 は珪質頁岩で同一母岩資料である。全て縦形の極小型である。

（９）西区Ⅴ層（図 23 ～ 27）（図版 21 ～ 24）

西区Ⅴ層は大洞A2 式期である。石鏃 91 点、尖頭器２点、石錐５点、石箆３点、打製石斧１点、石匙１点、スクレイパー類 26 点、礫器２点、磨製石斧７点、磨石・敲石類 14 点、石皿・台石類 15 点、砥石４点、石錘１点、計 172 点のほか、石核 17 点、剥片 74 点、砕片８点がある。石器の数量では本対象のなかで最も多い。器種別では石鏃が突出して多く、スクレイパー類、磨石・敲石類、石皿・台石類と続く。上層とは異なり、石鏃が多い点は特徴的である。

石鏃 91 点の形態は 11 種で多様である。55 点が完形品である。まず有茎鏃 71 点、無茎鏃８点、欠損・未成品で不明 12 点に区分される。有茎鏃について茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎鏃 45 点、1/3 ～ 1/2 の中茎鏃 18 点、1/2 以上の長茎鏃１点がある。また、木葉形１点、棒状１点がある。無茎鏃は尖基３点、円基５点、平基２点、凹基１点がある。円・平基が増え、凹基が見られる点が、この層の特徴である。長さは 2.0 ～ 5.5 ㎝、平均 2.8 ㎝、幅は 1.0 ～ 2.5 ㎝、平均 1.5 ㎝、先端角は 43 ～ 83°、平均 66° である。Ⅳ下層に比べ先端角は変わらないが、幅が小さくなり細身のものが多くなる。素材は縦形剥片 65 点、横形剥片 17 点で縦形剥片が圧倒的である。石材は鉄石英 65 点、珪質頁岩 25 点、玉髄１点で鉄石英が多いものの珪質頁岩も一定量占める。茎部や基部にアスファルトが付着するものは６点ある。

図 23-1 ～図 23-22 は石鏃である。図 23-1 ～ 10 は短茎鏃、図 23-11 ～ 16 は中茎鏃、図 23-17 は長茎鏃、図 23-18 は尖基鏃、図 23-19 は棒状鏃、図 23-20 は円基鏃、図 23-21 は凹基鏃、図 23-22 は木葉形鏃である。刃部をみると、図 23-2・7・12 は八の字状に下が開く。図 23-7・8 は刃部上半が屈曲し五角形になる。図 23-1・2・5・9・15 にはアスファルトが付着する。図 23-19 の棒状鏃は長さ５㎝で珪質頁岩製である。石錐の可能性もあるが、上端部が尖り刺突機能を有すことから

石鏃とした。図 23-21 の凹基鏃は長さ 3 ㎝あり、早期などにみられる凹基鏃の中では大型である。

石錐 5 点のうち 2 点は錐部のみの破損品である。ほか 3 点はつまみ部をもつ。長さ 3 ～ 4 ㎝に対し錐部の長さは 0.8 ～ 1.2 ㎝で短い。つまみ部の整形は粗い。全て鉄石英製である。図 23-23 は石錐である。長さ 4.2 ㎝である。つまみ部の整形は粗い。錐部は 1 ㎝で短い。

図 23-24・25・26 は石箆である。珪質頁岩製で長さ 6 ～ 8 ㎝である。左右側面は直線的であるが片側がやや湾曲する。刃角は 50° ほどである。刃部平面形は外湾する。実物がある 2 点は珪質頁岩の小～中型の横形剥片が用いられる。

図 23-27 は石匙である。つまみ部が刃縁に対し垂直になる横形石匙である。全体が丁寧に整形される。つまみ部は上辺やや右にあり、つまみ部は大きい。下辺の刃部は扇形に外湾し、両面から刃部調整する。素材は珪質頁岩で横形剥片が用いられる。

図 24-1・2 は尖頭器である。1 は残存長 5.3 ㎝、幅 2.2 ㎝、重さ 19.9g で先端を欠く。全体の調整が粗く未成品とみられる。基部は円基である。珪質頁岩の横型剥片が素材である。2 は長さ 5.2 ㎝、幅 2.5 ㎝である。形態は非対称の木葉形であることから、片側を柄にはめ込むような刃器であった可能性が高い。鉄石英の縦型剥片が素材である。

図 24-3 ～ 7 はスクレイパー類である。これら 26 点の内訳は、スクレイパー 8 点､RF18 点である。

スクレイパー 8 点は縦形 4 点と横形 4 点に分かれる。縦形の場合、小型 1 点、中型 2 点で、中型が多い。横形は極小型に属す。刃部数は 1 ヶ所 1 点、2 ヶ所 6 点、3 ヶ所 1 点である。刃部角は縦形 36 ～ 66°、平均 49°、横形 13 ～ 67°、平均 34° である。刃付は両面 3 点、片面 1 点である。刃部の平面形は縦形が直 2 点、外湾 2 点、横形が直、外湾、内湾、直＋外湾各 1 点である。石材は珪質頁岩 6 点、鉄石英 2 点である。

図 24-3・4 は縦形のスクレイパーである。図 24-3 は上部 1/3 を欠き、復元すると長さ 10 ㎝以上の大型品となる。縁辺を楕円形に整える。剥離は粗い。図 24-4 は重さ 214g の大型縦形剥片が用いられる。下辺と右側辺に刃部をつくる。刃部の剥離は粗く、いずれも 40° 以上であり、掻器のような機能が推定される。

RF18 点は素材の形によって縦形 6 点と横形 12 点に分かれる。縦形の場合、極小型 2 点、小型 4 点である。横形の場合、横幅は極小型 4 点、小型 7 点で、小型が多い。刃部数は 1 ヶ所 18 点、3 ヶ所 2 点で、1 ヶ所が多い。刃部角は縦形 14 ～ 63°、平均 30°、横形 14 ～ 63°、平均 35° で大差ない。刃付（微小剥離が見られる面）は両面 3 点で、その他は片面である。刃部の平面形は縦形の場合、直 1 点、外湾 4 点、直＋内湾 1 点である。横形の場合、直 2 点、外湾 6 点、内湾 2 点、直＋外湾 2 点で、縦形・横形問わず、外湾が多い。アスファルトの付着はない。原礫面を有すもの 18 点中 15 点ある。石材は珪質頁岩 12 点、鉄石英 5 点、黒曜石 1 点である。

図 24-5・6 は横形の RF である。いずれも小型で下辺を中心に微小剥離痕が観察される。刃部角は 40° ほどと鈍い。剥片形状のまま、下辺の刃部平面形は外湾する。図 24-7 は縦形の RF である。小型で側辺に直刃の刃部がある。刃部角は 39° である

図 24-8、図 25-2 は礫器である。いずれも中型の横形礫が用いられる。重さ 250g 以下である。図 24-8 は安山岩で下辺にある刃部は粗く外湾する。刃部角は 28° である。図 25-2 は砂岩で下辺から右側辺にかけての刃部は粗く外湾する。なお、これらは大きさから円盤状石製品の未成品とも考えられる。

図 25-1 は打製石斧である。柄に取り付ける上半部とみられるが、剥離が粗いため石刀などの未成品の可能性が残る。大きさは 11.5 ㎝× 6.9 ㎝× 2.7 ㎝、289.4g を測る。打製石斧とすれば、長さ 20 ㎝程の大型品に復元される。素材は珪化木である。中部・関東地域にみられる打製石斧と異なり厚みがあ

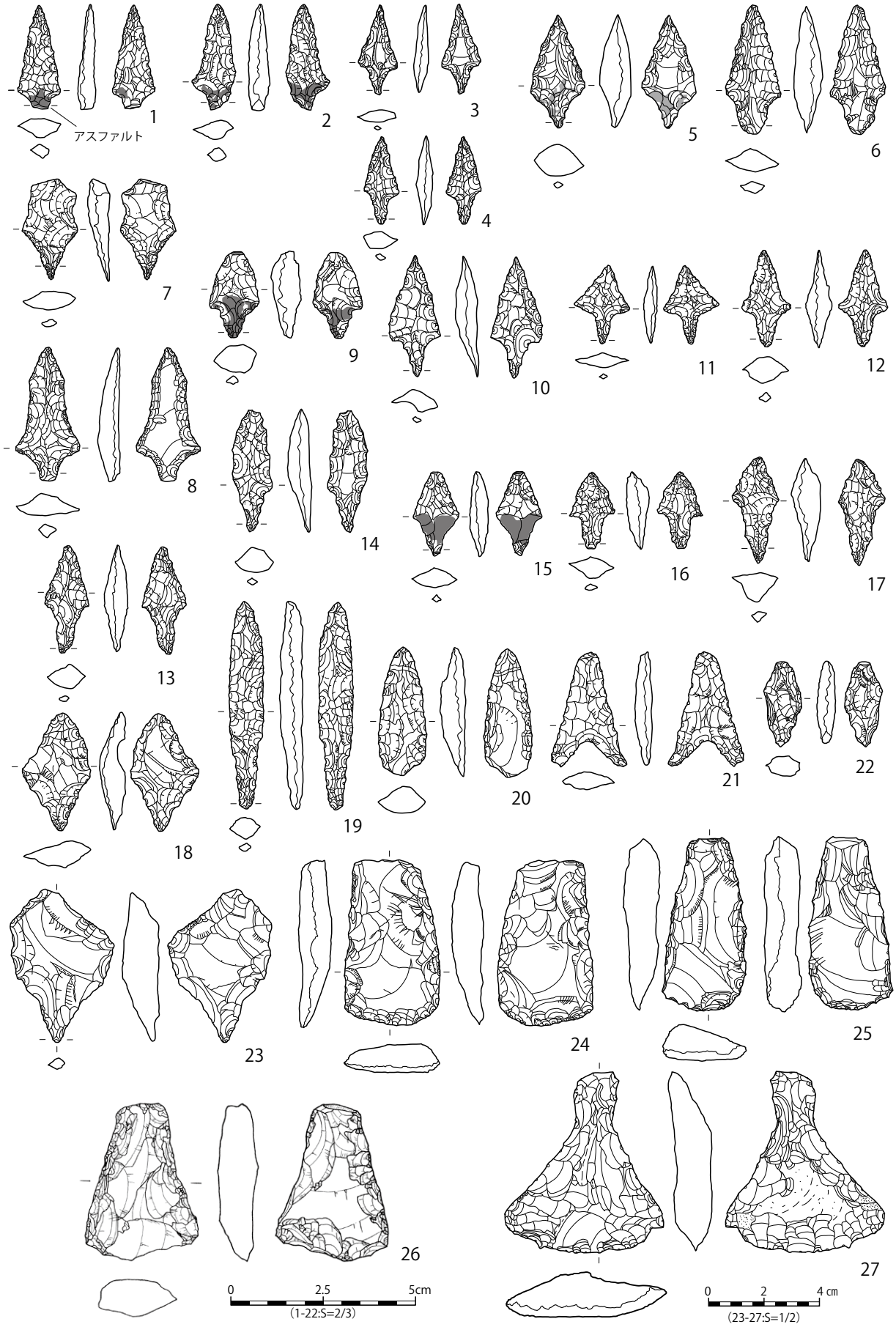


図 23　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器１

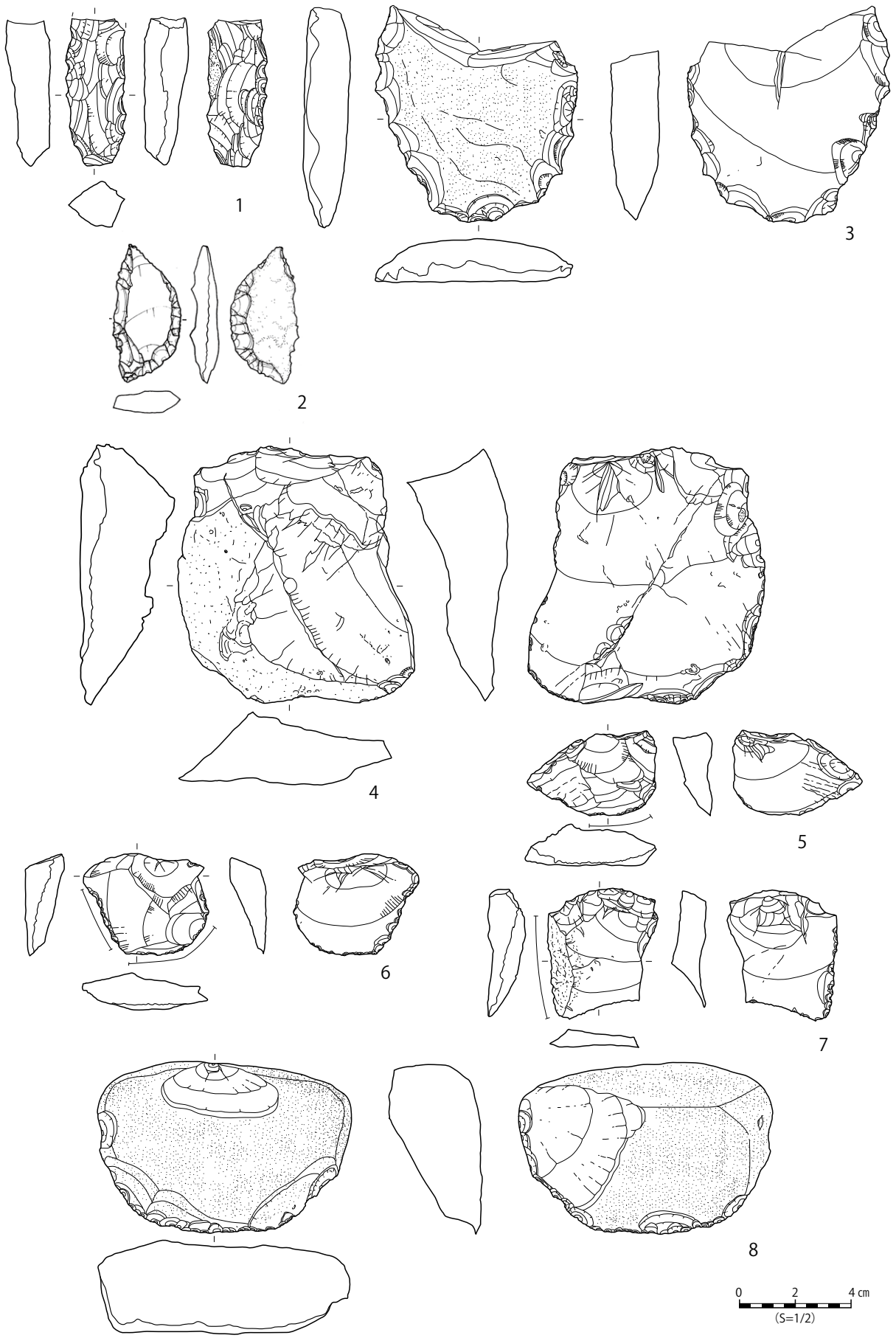


図 24　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器２

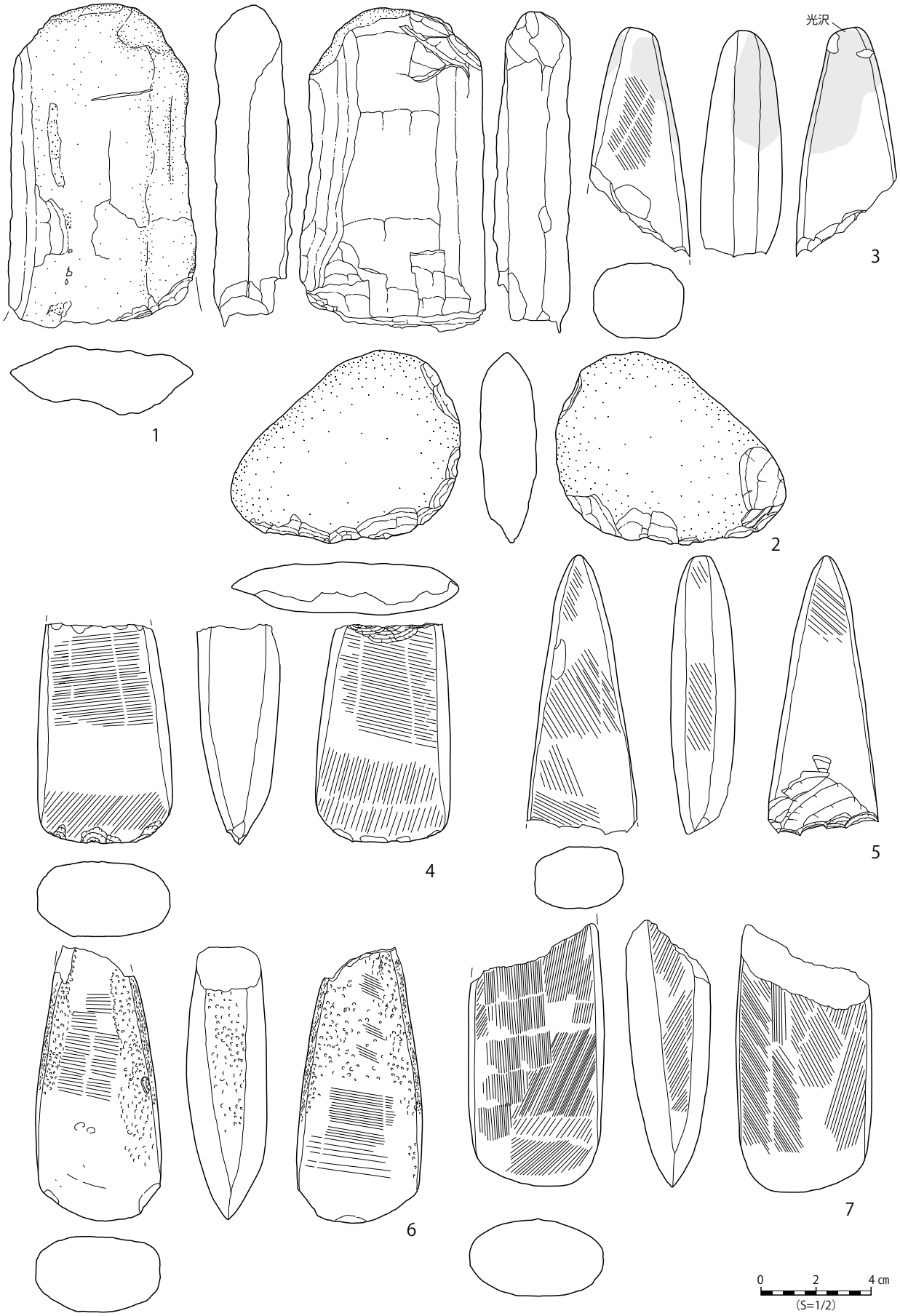


図 25　山王囲遺跡西区Ｖ層出土石器３

り、刃部に顕著な磨耗痕は認められない。

磨製石斧７点は全て頭部か刃部を欠く。全て左右側面が平坦な定角式である。長さと最大幅、重さによって小型と大型に二分できる。小型品は長さ７㎝以下、幅４㎝以下、重さ 60g 以下とし大型品はそれより大きい。結果、小片の１点を除く６点が大型品である。刃部が残る３点の平面形は外湾である。頭部の形態は円基１点と尖基１点がある。石材は砂岩４点、閃緑岩４点である。

図 25-3 ～ 7 は磨製石斧である。図 25-3 は頭部から中ごろまで光沢が広がる。おそらく柄との装着痕とみられる。図 25-6 には上半の側面から表裏面角にかけて敲打整形痕が観察される。

磨石・敲石類 14 点は磨耗面のみの狭義の磨石３点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 11 点に区分される。分類別では磨類３点、凹類８点、凹＋敲類３点である。また表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例はなかった。この点は上層には見られない特徴である。以上より痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの３点、敲打痕を伴うもの３点、凹痕を伴うもの 12 点となり、凹痕が多く、上層に比べ敲打痕が少ない。赤色顔料は磨類２点に付着し、磨耗痕と赤色顔料製作との関連がうかがえる。ただし赤色顔料付着資料は上層の肌理の細かな石質とは異なる安山岩に付着する。石材は安山岩 12 点、砂岩２点で安山岩に偏る。

図 26-1 ～ 3 は磨石・敲石類である。図 26-1 は磨類、図 26-2・3 は凹類である。図 26-1 には発達した磨耗面と長軸に対しやや斜め方向の多数の線状痕が観察できる。図 26-3 の凹痕には線状のもの（凹Ｅ類）が含まれる。

石皿・台石類 15 点は、自然礫をそのまま利用した無整形のⅠ類８点と、凹部を形成するⅡ類７点がある。上層に比べてⅡ類が多い。さらにⅠ類の断面形は全てⅠ平類である。Ⅰ平類の使用痕は、磨耗面が狭い範囲に集中的にみられるもの（a類）はなく、広い範囲に磨耗面が観察されるもの（b類）４点、敲打痕が伴うもの（敲類）４点である。Ⅱ類は７点とも凹部を皿状にくぼめる。凹部の整形痕と、その上を覆う磨耗面が確認できる。石材は安山岩 12 点、砂岩１点、閃緑岩１点である。整形されるⅡ類には多孔質の安山岩が用いられ、使用痕に敲打痕があるものには硬質の閃緑岩が含まれる。赤色顔料の付着はいずれもⅠ平類１点に観察される。

図26-5・6、図27-1～3は石皿・台石類である。図26-5はⅠ平b類である。径20㎝以上、重さ3.8㎏の大型である。表裏面中央に径 15 ㎝ほどの広い範囲に発達した磨耗面が広がる。 図 26-5 はⅠ平敲類で表面中央に径３～４㎝の敲打痕が観察される。一部に赤色顔料が付着する。図 27-1 ～ 3 は凹部が作出されたⅡA類である。図 27-1 は完形品で 12 × 10 ㎝で小型品である中央が凹み前方側に磨耗面が伸びる。裏面には径４㎝ほどの大きな凹痕が残る。図 27-2 は完形品で 27 × 16 × 7 ㎝、2.4 ㎏である。全面を敲打整形して平面形を長楕円にし、盆状に低い縁部を作り出す。この縁部の内側中央径７×５㎝の範囲に磨耗痕が観察される。図 27-3 は２つに割れていたものが接合し、ほぼ完形品となる。２つを合わせた全体形は、32 × 26 × 6 ㎝、2.3 ㎏である。全面を敲打整形して平面形を卵形にし、皿状に緩やかな湾曲を作り出す。裏面のも皿状に窪める。最も凹む中央径 13 × 11 ㎝の範囲に磨耗痕が観察される。

砥石４点全て破片である。厚さ 0.4 ～ 3.7 ㎝で扁平ある。厚さが薄いのは研磨の結果によるとみられる。石材は砂岩３点、泥岩１点で、きめの細かいものが用いられる。

図 27-4・5 は砥石である。図 27-4 は砂岩製で大型品の一部とみられ、表面に広い研ぎ面の一部が見える。一方、図 27-5 は 1/2 程度の破片で、全体形が長さ 16 ㎝、幅８㎝、重さ 100g と推定される。扁平な長楕円形で４× 1.5 ㎝程の細長い研ぎ面が観察される。よって、骨角器などの小型品の研磨に用いられたとみられる。石材は泥岩である。

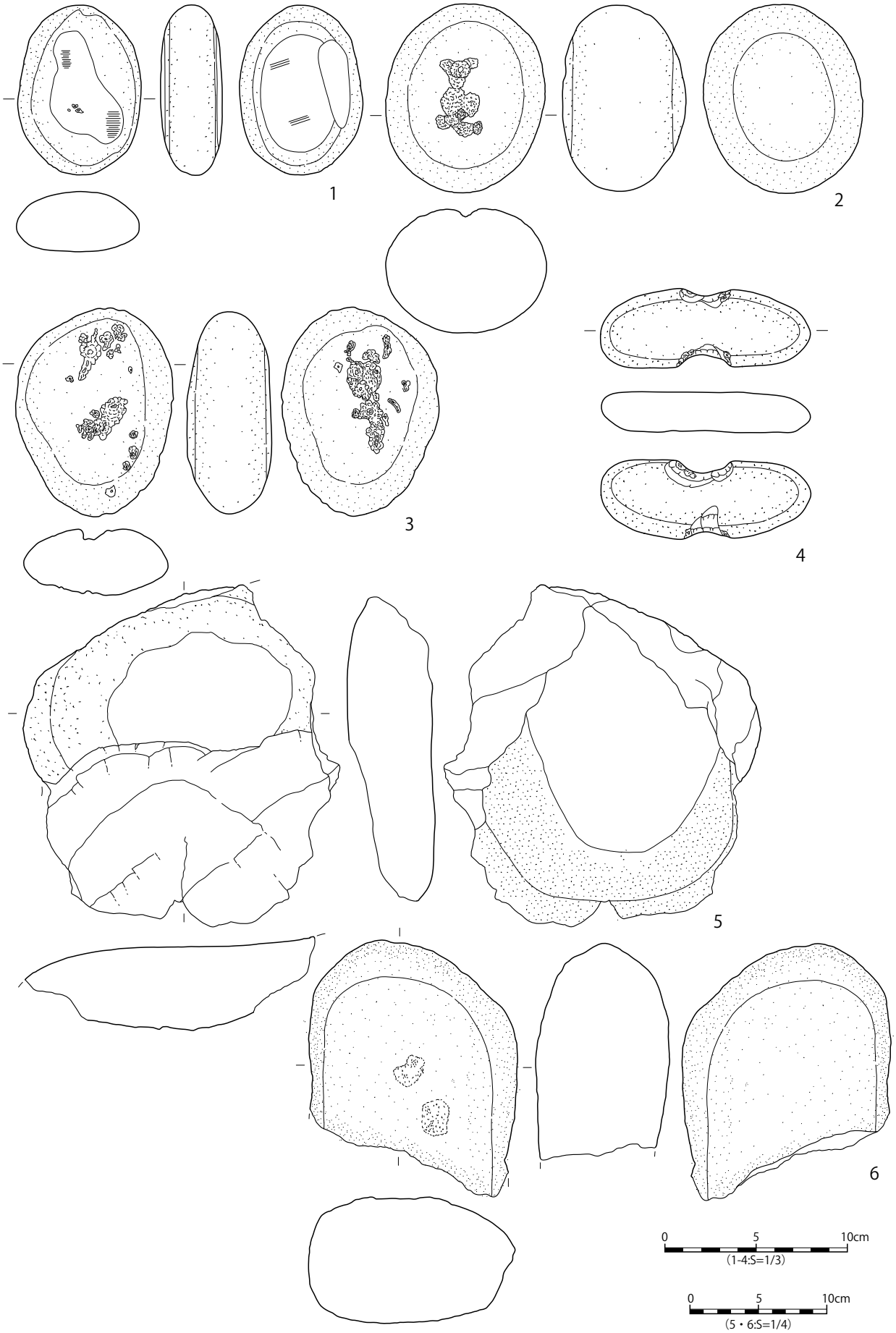


図 26　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器４

図 27　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器５

図 26-4 は石錘である。12 × 4 × 2 ㎝の砂岩の長楕円礫が用いられる。重さ 137.5gである。長軸中央上下を剥離により抉る。抉り部は長さ 3 ㎝、幅 2.9 ㎝、深さ 0.8 ㎝である。西区Ⅲ層の例（図 15-3）とほぼ同じ形状、加工である。抉り部の剥離面は磨滅しており、この部分に何かを括り付けていたことがうかがえる。

そのほか、石器製作に関わる石核 17 点、剥片 74 点、砕片 8 点がある。

石核 17 点の石材は鉄石英 11 点、珪質頁岩 5 点、安山岩 1 点である。打面調整は認められない。最大径 2.1 ～ 8.2 ㎝、平均 4.2 ㎝で 100gを超える大型 1 点である。最大剥離面の形状で区分すると、縦形 5 点、横形 12 点で横形が多い。最大剥離面の大きさは縦形の場合、極小型 3 点、小型 1 点、中型 1 点である。横形の場合、極小型 9 点、小型 3 点でⅣ下層に比べ小型が増える。礫面を残すものが 15 点ある。

図 33-3 は珪質頁岩の石核である。大きさ 7.7 × 5.3 × 3.5 ㎝、126gで大型に属す。径 8 ㎝ほどの母岩を半裁した後、その外周を敲打して、主に極小～小型の横形剥片を得ている。そのため、断面形が楔形を呈する。

剥片 74 点は縦形 34 点、横形 40 点に区分され、横形が多い。縦形 34 点の大きさは平均長さ 3.3 ㎝で、上層に比べ短い。極小型 27 点と小型 7 点で極小型が多い。横形 22 点は平均幅 3.8 ㎝で、極小型 26 点、小型 14 点である。石材は鉄石英 41 点、珪質頁岩 31 点、砂岩・玉髄各 1 点で鉄石英が多い。

砕片 8 点は鉄石英 5 点、珪質頁岩 2 点、黒曜石 1 点で平均大きさ 2.2 × 1.6 × 0.7 ㎝、重さ 1.6gで縦形が多い。黒曜石 1 点は 2.0 × 1.9 × 0.5 ㎝、1.1gである。

（10）西区Ⅵ層（図 28 ～ 30）（図版 25 ～ 27）

西区Ⅵ層は大洞A1 式期である。石鏃 22 点、尖頭器 1 点、石錐 1 点、石箆 2 点、石匙 4 点、スクレイパー類 9 点、磨製石斧 8 点、磨石・敲石類 16 点、石皿・台石類 4 点、砥石 4 点、計 71 点のほか、石核 4 点、剥片 10 点がある。器種別では石鏃が最も多く、磨石・敲石類、スクレイパー類と続く。

石鏃 22 点の形態は 5 種でⅤ層に比べ少なくなる。破損品が多く完形品は 12 点のみである。まず有茎鏃 18 点、無茎鏃 2 点、未成品 2 点に区分される。有茎鏃について茎部の長さが全長の 1/3 未満の短茎鏃 12 点、1/3 ～ 1/2 の中茎鏃 4 点がある。また、棒状 1 点がある。無茎鏃は尖基 1 点、円基 2 点である。円基が減り、木葉形や平基、凹基がなくなる。長さは 1.8 ～ 3.8 ㎝、平均 2.8 ㎝、幅は 1.0 ～ 1.9 ㎝、平均 1.3 ㎝、先端角は 48 ～ 78°、平均 61° である。Ⅴ層に比べ先端角がやや鋭くなり、幅がⅣ下層よりもさらに狭くなり、より細身となる。素材は縦形剥片 20 点、横形剥片 2 点で縦形剥片が圧倒的である。石材は鉄石英 18 点、珪質頁岩 2 点、玉髄 2 点で鉄石英が主体となる。茎部や基部にアスファルトが付着するものは 22 点中 6 点あり、付着率が 27％で本分析の中で最も高い。

図 28-1 ～ 6 は石鏃である。図 28-1 ～ 3 は短茎鏃、図 28-4 は中茎鏃である。図 28-5 は棒状鏃、図 28-6 は円基鏃である。図 28-1・2 の茎部にはアスファルトが付着する。2 点とも刃部はやや外湾する。石材は図 28-1 ～ 5 が鉄石英、図 28-6 が玉髄である。

図 28-7 は石錐である。不定形に調整されたつまみ部をもつ。長さ 2.7 ㎝に対し錐部の長さは 0.9 ㎝で短い。玉髄製である。

図 28-8 は尖頭器である。5.2 × 1.9 × 1.1 ㎝、11gで珪質頁岩の横形剥片が用いられる。柳葉形で丁寧に整形される。先端角は 75° である。基部は平坦である。石材の一部に化石とみられる黒色部が挿入する。

図 28-9・10 は石箆である。図 28-9 は珪質頁岩製で長さ 7.6 ㎝である。側面の一部を欠くが左右側

面は直線的で長台形を呈す。下辺の刃部平面形は直線状である。刃角は 78° である。図 28-10 は長さ 4.5 ㎝の小型品である。左右側面が大きく内湾し撥形を呈す。下辺の刃部平面形は外湾する。刃角は 80° である。図 28-9 は中型の横形剥片、図 28-10 は小型の縦形剥片が用いられる。

図 28-11 ～ 14 は石匙である。5 点中 1 点が未成品である。つまみ部が刃縁に対し垂直になる横形石匙 2 点と並行する縦形 2 点がある。縦形がある点は特徴的である。また大きさは縦型のほうが横形よりも大きい。図 28-11・12 は縦形石匙である。いずれもつまみ部は刃縁に対してやや傾く。11 は玄武岩製で被熱により全体が劣化する。刃部は左右それぞれ外湾刃と直刃で、先端は尖る。両面から刃部調整する。刃角は 53° である。つまみ部にアスファルトが付着する。12 も刃部は左右それぞれ外湾刃と直刃で、先端は尖る。両面から刃部調整する。刃角は 60° である。図 28-13・14 は横形石匙である。いずれも刃部中央よりやや偏ってつまみ部がある。13 のつまみ部は抉りが不明瞭で靴形を呈す。刃部は大きく外湾し先端が尖る。両面から刃を付ける。刃角は 50° である。14 のつまみ部は明瞭に抉られる。刃部は直刃である。刃角は 100° でかなり鈍い。素材は全て小～中型の横形剥片である。

図 29-1 ～ 3 はスクレイパー類である。スクレイパー類 9 点の内訳は、スクレイパー 3 点、RF 6 点である。

図 29-1 はスクレイパーである。中型の縦形剥片が用いられる。刃部平面形は直刃で刃部角は 60° ほどである。

RF 6 点は素材の形によって縦形 4 点と横形 2 点に分かれ、縦形のほうが多い。大きさは縦形の場合、小型 1 点、中型 3 点で、中型が主体である。一方横形の幅から極小型、小型各 1 点に属す。刃部数は 1 ヶ所 2 点、2 ヶ所 3 点、3 ヶ所 1 点である。刃部角は縦形 15 ～ 41°、平均 31° である。横形は 18 ～ 32°、平均 26° である。刃付（微小剥離が見られる面）は両面 4 点と多い。刃部の平面形は縦形の場合、直、外湾、直＋外湾、外湾＋内湾各 1 点である。横形は直 2 点である。原礫面を有すもの 6 点中 5 点ある。石材は珪質頁岩 4 点、鉄石英 2 点である。

図 29-2・3 はRFである。いずれも珪質頁岩の小～中型の縦形剥片が用いられる。外形の一部を粗く調整するが、刃部は素材剥片をそのまま利用する。左右側縁に微小剥離痕が観察される。2 はノッチ状の抉りが見られるため、石匙の未成品の可能性もある。刃部平面形は外湾＋直刃である。刃部角は 15°、41° である。3 は外湾刃である。刃部角は 30°、41° で鋭い。

磨製石斧 8 点は全て頭部か刃部を欠く。全て左右側面が平坦な定角式である。長さと最大幅、重さによって小型 1 点と大型 7 点に二分できる。刃部が残る 2 点の平面形は外湾である。頭部の形態は円基 1 点と尖基 3 点があり尖基が多い。石材は砂岩 3 点、凝灰岩 3 点、閃緑岩 1 点、玄武岩 1 点で、石材が多様化し、凝灰岩が含まれる。

図 29-4 ～ 8 は磨製石斧である。図 29-7 は小型品でその他は大型品である。図 29-5・6・8 の頭部は尖基である。

磨石・敲石類 16 点は磨耗面のみの狭義の磨石 4 点と、凹痕や敲打痕を伴う敲石 12 点に区分される。分類別では磨類 4 点、凹類 3 点、敲類 1 点、磨＋敲類 2 点、凹＋敲類 6 点である。また表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例が 1 点ある。以上より痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの 7 点、敲打痕を伴うもの 9 点、凹痕を伴うもの 9 点となり、上層に比べ磨耗痕が増える。赤色顔料は磨類 2 点、凹類 1 点、敲類 1 点、磨＋敲類 2 点、計 6 点に付着し、15 点中 6 点が赤色顔料製作と関連する。これら赤色顔料が付着する石材は安山岩 4 点、砂岩 2 点で、Ⅴ層と同じく安山岩にも付着する。石材は安山岩 11 点、砂岩 4 点、頁岩 1 点で安山岩に偏る。

図 30-1・2 は磨石・敲石類である。図 30-1 は磨＋敲類、図 30-2 は凹＋敲類である。図 30-1 には

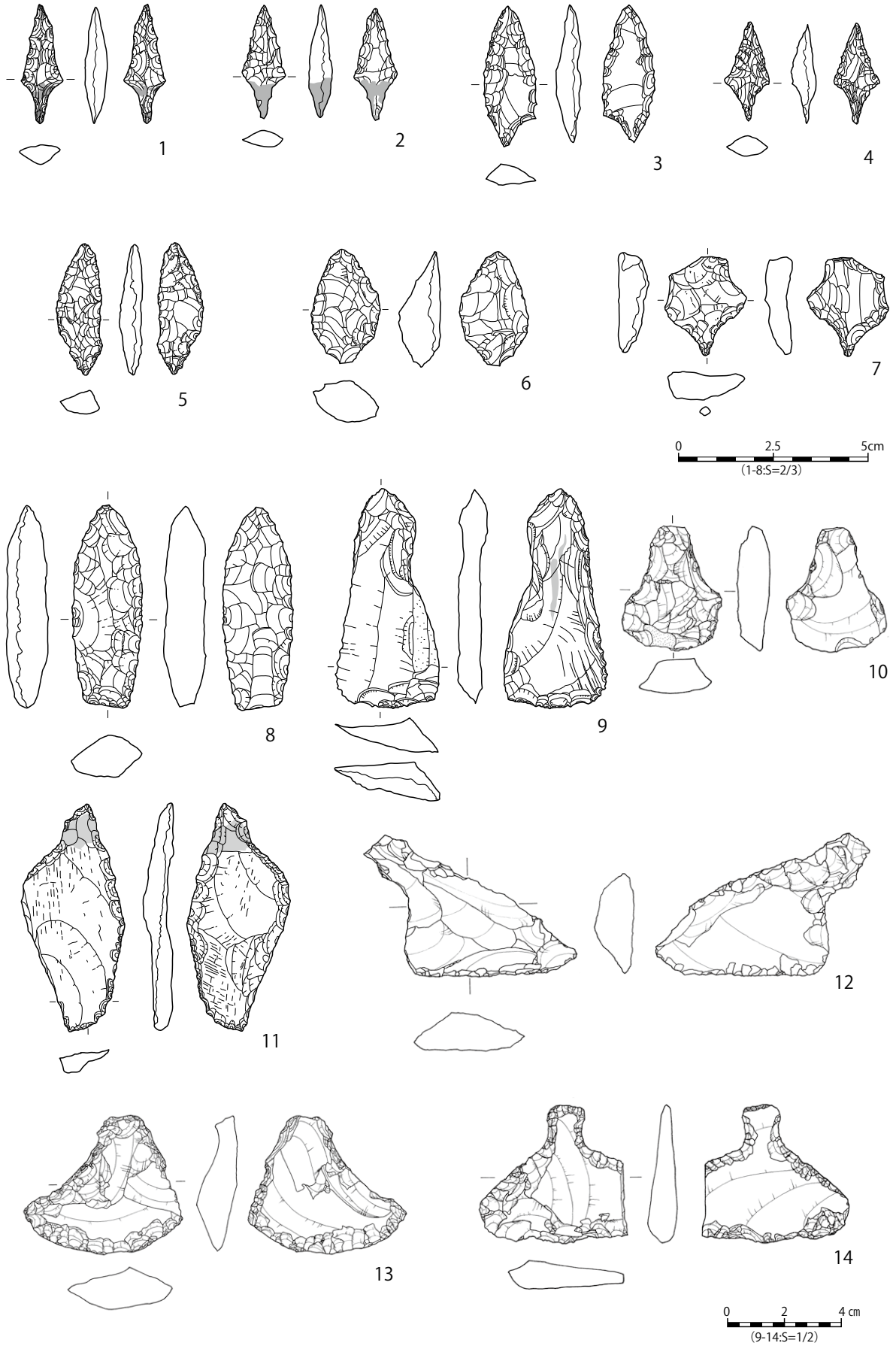


図 28　山王囲遺跡西区Ⅵ層出土石器 1

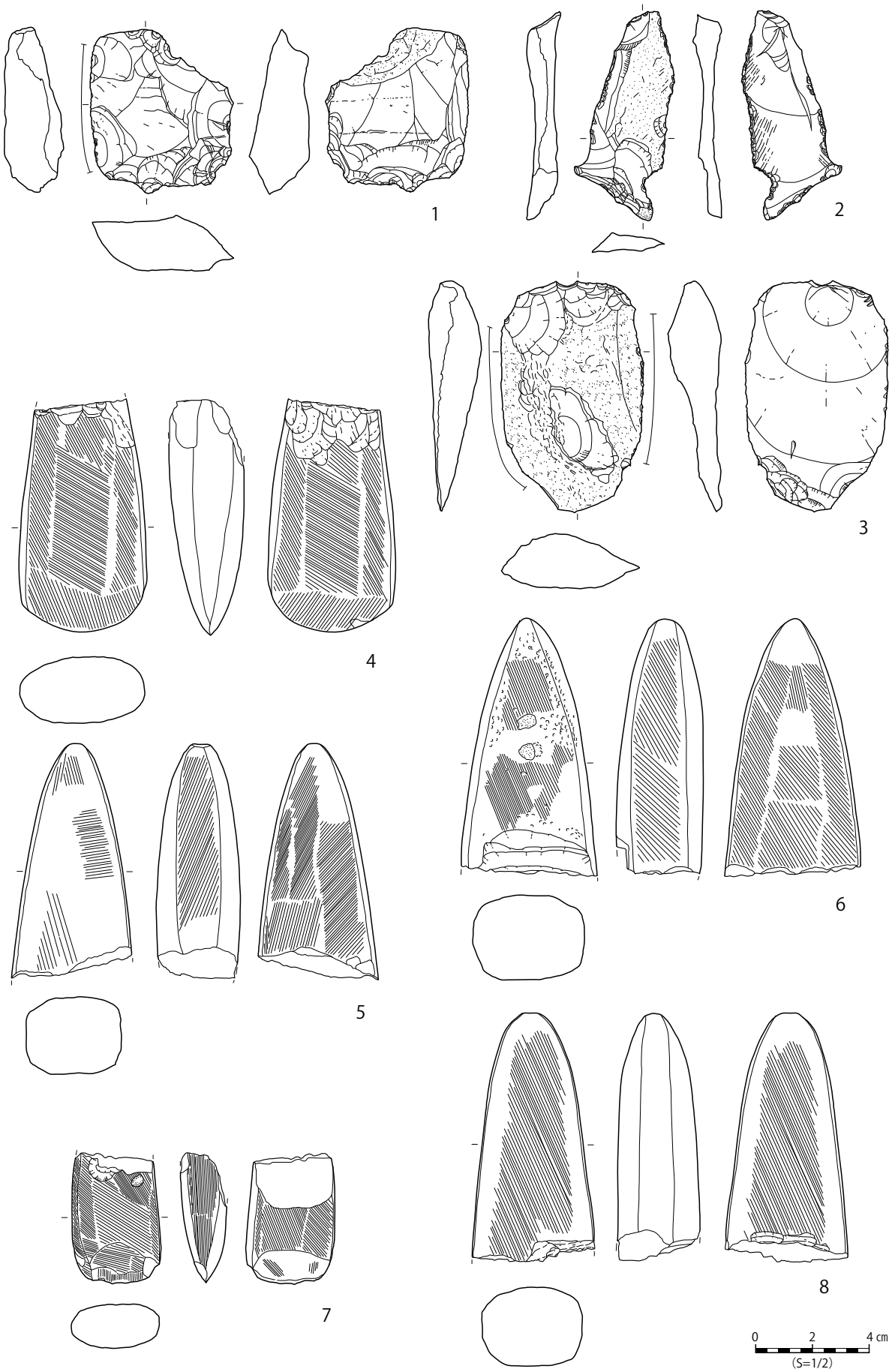


図 29　山王囲遺跡西区Ⅵ層出土石器２

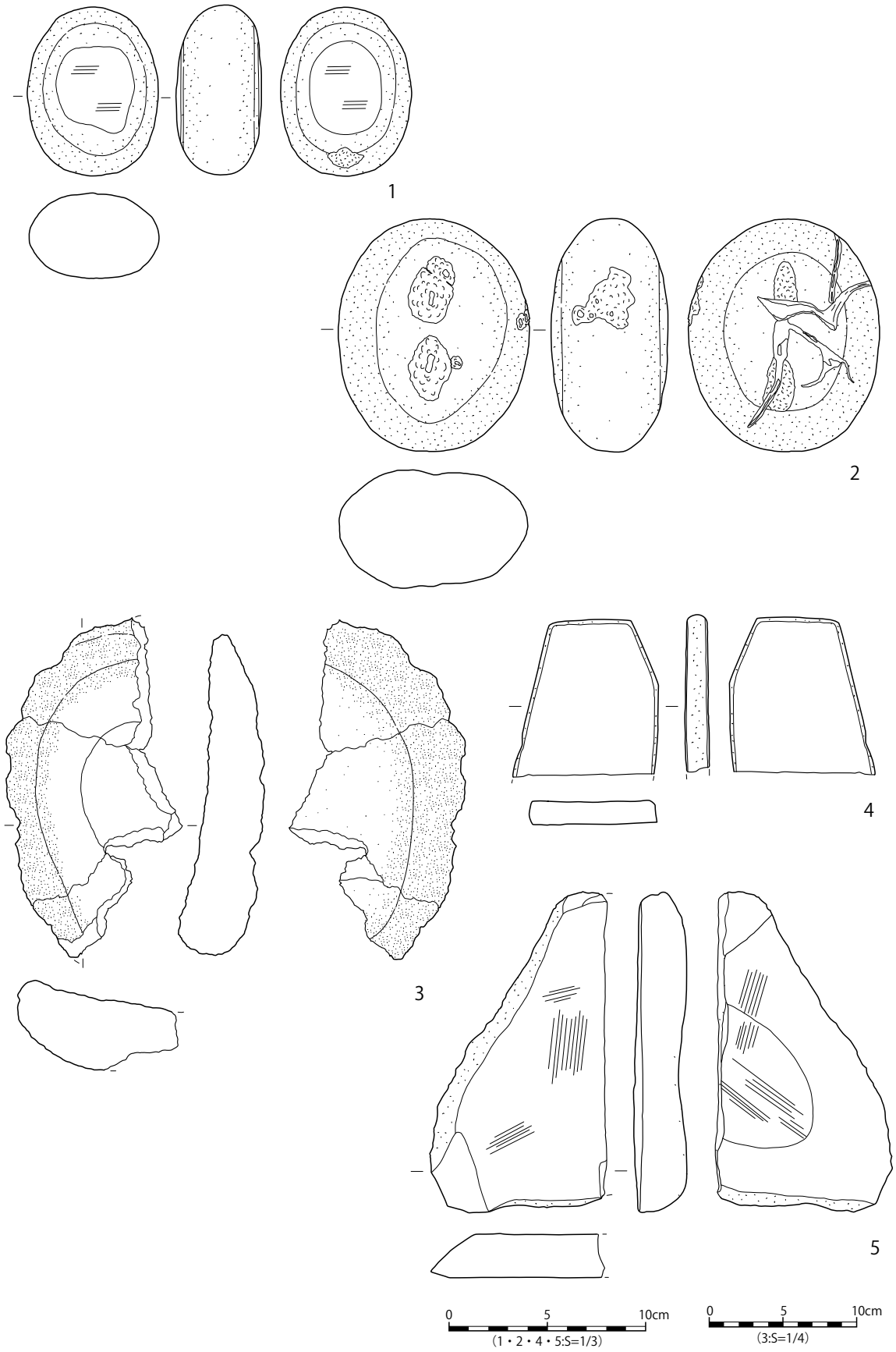


図 30　山王囲遺跡西区Ⅵ層出土石器３

発達した磨耗面と長軸に対し垂直方向の多数の線状痕が観察できる。図 30-2 には長軸に対し上下 2 ヶ所の凹痕がある。

石皿・台石類 4 点は、自然礫をそのまま利用した無整形のⅠ類 1 点と、凹部を形成するⅡ類 3 点がある。ただし、Ⅱ類 3 点が接合したため実数は 1 点となる。

図 30-3 は石皿・台石類である。図 30-3 はⅡ類で径 22 ㎝が残存し、復元すると径 30 ㎝ほどの大型になる。連続敲打によって皿状に凹部を窪めた後、使用する。凹部中央にある磨耗痕は径 10 ㎝ほどである。石材は全て安山岩である。うち図 30-3 は多孔質安山岩である。

砥石は 4 点全て破片である。厚さ 1.3 ～ 2.3 ㎝で扁平である。石材は砂岩 2 点、泥岩 2 点で、きめの細かいものが用いられる。図 30-4 は幅 10 ㎝ほどの手持ち型の砥石である。表裏面が広く磨耗する。線状痕は不明瞭である。石材は泥岩である。

図 30-4・5 は砥石である。図 30-5 は幅 16 ㎝の扁平礫が用いられ据え置き型の砥石である。広い範囲に研磨面がある。さらにそのなかに楕円形に凹む範囲がある。その範囲は長さ 10 ㎝、幅 8 ㎝と推定される。よって磨製石斧などの大型品の研磨に用いられたとみられる。

そのほか、石器製作に関わる石核 4 点、剥片 10 点がある。

石核 4 点の石材は鉄石英 1 点、珪質頁岩 2 点、玄武岩 1 点である。打面調整は認められない。最大径 4.5 ～ 9.0 ㎝、平均 7.8 ㎝で 100g を超える大型 3 点がある。最大剥離面の形状で区分すると、すべて横形となる。最大剥離面の大きさは極小型 1 点、小型 1 点、中型 1 点である。4 点全てが礫面を残す。

図 33-4 は母岩の角を割って得た大型剥片が用いられる。大型剥片の割面の角を上から連続敲打して横形剥片を得ている。

剥片 10 点は鉄石英 6 点、珪質頁岩 3 点、砂岩 1 点である。縦形 3 点、横形 7 点に区分される。縦形は極小型 1 点、小型 2 点、横形は 7 点全て小型である。

（11）西区Ⅶ層（図 31）（図版 28）

西区Ⅶ層は大洞 C2 式期である。磨製石斧 2 点、磨石・敲石類 5 点、計 7 点である。土器の量に対して石器の量が極めて少ない。なお当時作成された遺物台帳でも磨石・敲石類 5 点を含む 8 点の記録にとどまっており、発掘調査時点ですでに出土数が少なかったことが分かる。

磨石・敲石類 5 点（図 31-1 ～ 3）は磨石がなく、すべて凹痕や敲打痕を伴う敲石に区分される。分類別では凹類 2 点、凹＋敲類 3 点である。磨石はないが、表裏面に凹痕のほか磨耗痕が観察される例が 1 点ある。以上より痕跡数別にみると磨耗痕を伴うもの 1 点、敲打痕を伴うもの 3 点、凹痕を伴うもの 5 点となる。赤色顔料付着資料はない。石材は安山岩 4 点、砂岩 1 点で安山岩に偏る。

図 31-1 ～ 3 は凹＋敲類で、表裏面に凹痕、側縁に敲打痕がある。図 31-1・3 には中央に擂鉢状の深い凹痕がある。

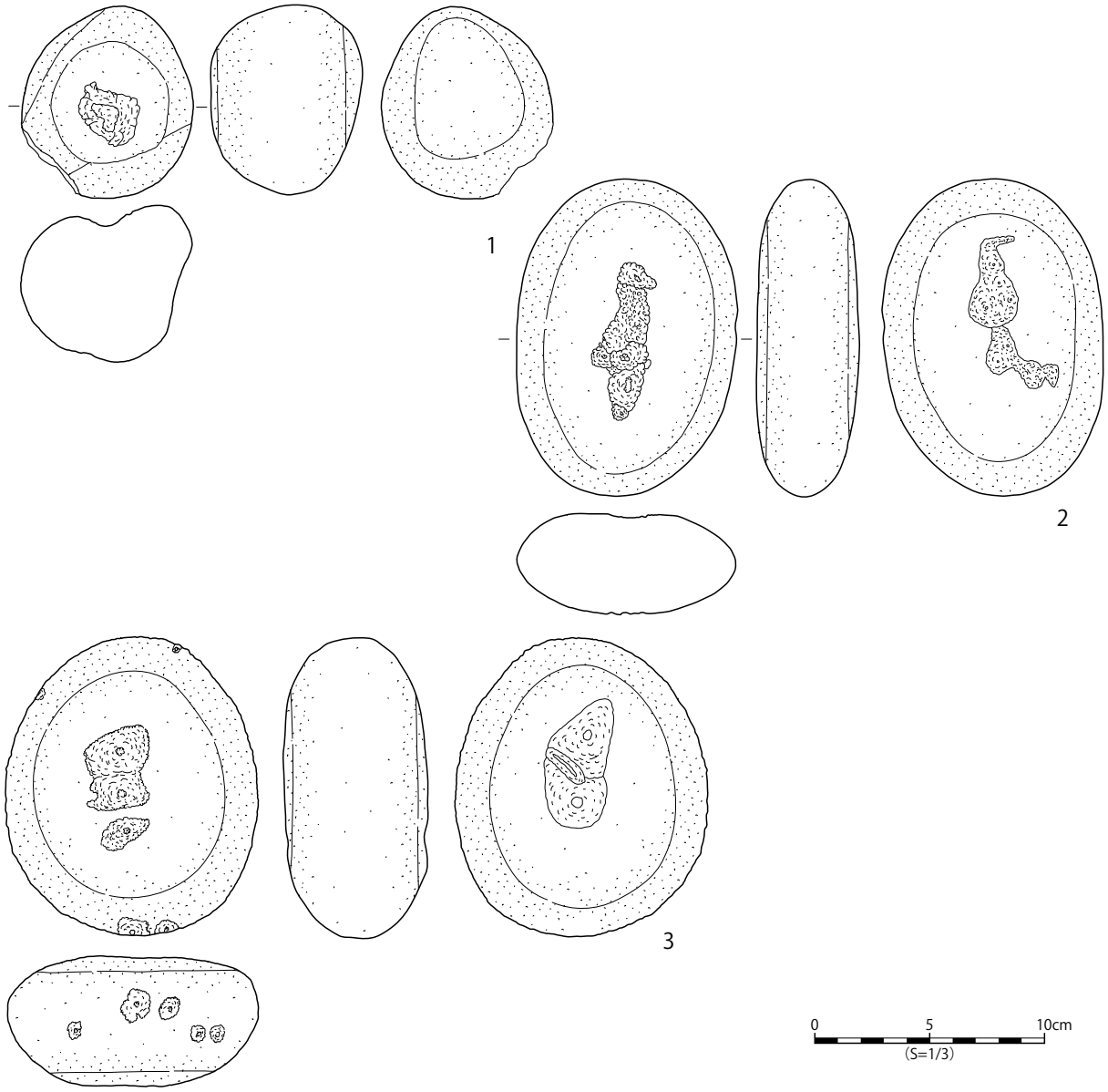


図 31　山王囲遺跡西区Ⅶ層出土石器

第５節　器種別検討

本節では層位ごと検出された器種に対し、分類および属性間の比較を行い、層位間の変化を検討する。

（1）石核（図 32・33）（図版 29・30）

1 度以上剥片剥離作業が行われた資料で 93 点検討した。うち、現物のない 1 点を除く総重量は 5,368.1gである。大きさ平均は長 4.79 ㎝×幅 4.43 ㎝×厚 2.24 ㎝、重量 65.46gである。形質頁岩と鉄石英の角礫・亜角礫・円礫が主体である。分類は、剥離作業の手順から 4 区分した。

Ⅰ．剥離作業面を固定して求心的に石核の周辺から剥離するもの（図 32-1、図 33-1・3）
東区 15 ～ 26 層に 5 点ある。西区ではⅢ層 2 点、Ⅱ層およびⅣ層上層で各 1 点ずつ、Ⅳ下層で 3 点、Ⅴ層で 4 点ある。

Ⅱ．打面、剥離作業面を固定しながら、石核の両面から剥離するもの（両面剥離的）（図 32-3・5）
東区 15 ～ 26 層に 2 点ある。西区ではⅢ層で 3 点、Ⅳ下層で 1 点ある。

Ⅲ．打面、剥離作業面を固定しながら、同一方向への打撃で剥離するもの（図 32-2、図 33-4）
東区 15 ～ 26 層に 3 点ある。西区ではⅢ層で 3 点、Ⅱ層、Ⅳ上層、Ⅵ層で各 1 点ずつある。

Ⅳ．打面、剥離作業面とも固定せず、ランダムに剥離するもの（図 32-4）
本遺跡の石核に見られる剥離手順で最も多い。東区では 7 ～ 14 層で 8 点、15 ～ 26 層で 11 点ある。西区ではⅢ層で 11 点、Ⅳ上層で 5 点、Ⅳ下層で 8 点、Ⅴ層で 10 点ある。

また、同一個体内で剥離作業面によって異なる剥離作業の手順がとられる場合、「Ⅰ＋Ⅳ」のように、上記分類を組み合わせて分類した。東区では 15 ～ 26 層でⅠ＋Ⅱ類、Ⅰ＋Ⅲ類、Ⅰ＋Ⅳ類が各 1 点ずつ出土している。西区ではⅢ層でⅠ＋Ⅲ類 2 点、Ⅰ＋Ⅳ類 1 点、Ⅳ層でⅡ＋Ⅳ類 1 点、Ⅴ層でⅠ＋Ⅱ類 1 点、Ⅲ＋Ⅳ類 2 点、Ⅵ層でⅠ＋Ⅳ類 1 点が出土している。これらの複合タイプは、主に 2 つの剥離作業面で固定しながら、それぞれ別の剥離手順がとられるものであるが、Ⅰ＋Ⅳ類は求心状剥離に先行して、ランダムな剥離によって縁辺を打ち割るような手順がとられる。

表 2-1　石核属性表

区	層位	計上数	分類					計測値（平均）				最大剥離面（平均）		剥離面数	剥離角	原礫形状						石材					
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	複合	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	長さ(cm)	幅(cm)	平均	平均	亜角礫	角礫	円礫	不定形	不明	無	珪質頁岩	鉄石英	黒曜石	安山岩	珪化木	砂岩
東区	7 ～ 14 層	8	0	0	0	8	0	3.9	4	1.8	31.3	2.7	3.6	6	86	1	3	0	0	2	2	1	7	0	0	0	0
	15 ～ 26 層	24	5	2	3	11	Ⅰ＋Ⅱ、Ⅰ＋Ⅲ、Ⅰ＋Ⅳ各 1 点	4.3	4.8	2.4	62.9	3	3.2	8	86	4	6	1	1	9	3	5	17	1	0	1	0
西区	Ⅱ層	2	1	0	1	0	0	5.6	4.6	2.5	46.6	3.3	2.8	7	111	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
	Ⅲ層	22	2	3	3	11	Ⅰ＋Ⅲ 2 点、Ⅰ＋Ⅳ 1 点	4.6	4.4	2	58	2.9	3.2	7	89	4	6	0	0	9	3	6	15	0	0	0	1
	Ⅳ上層	6	0	0	1	5	0	4.7	3.9	2.4	49.5	2.4	3.2	7	87	1	0	0	0	4	1	0	5	0	1	0	0
	Ⅳ下層	12	3	0	0	8	Ⅱ＋Ⅳ 1 点	5	4.7	2.2	72.2	2.3	3	7	86	3	1	1	0	6	1	3	6	1	1	1	0
	Ⅴ層	17	4	0	0	10	Ⅲ＋Ⅳ 2 点、Ⅰ＋Ⅱ 1 点	4.2	4	2.2	39.8	2.6	2.7	7	92	3	1	2	0	9	2	5	11	0	1	0	0
	Ⅵ層	3	0	1	1	0	Ⅰ＋Ⅳ 1 点	7.8	7.8	3.7	255.4	5.5	5.2	11	―	1	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0

表 2-2　石核石材の属性

石材	計上数	分類					計測値（平均）				最大剥離面（平均）		剥離面数	剥離角	礫面形状					
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	複合	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	長(cm)	幅(cm)	平均	平均	亜角礫	角礫	円礫	不定形	不明	無
頁岩	24	4	1	5	10	Ⅰ＋Ⅳ 2 点、Ⅰ＋Ⅱ、Ⅰ＋Ⅲ各 1 点	5.6	4.9	2.5	88.4	3.3	3.4	7	84	5	4	1	0	11	3
鉄石英	62	9	4	3	41	Ⅲ＋Ⅳ 2 点、Ⅰ＋Ⅱ、Ⅰ＋Ⅲ、Ⅰ＋Ⅳ各 1 点	4.1	4.1	2.1	43.1	2.6	3	7	90	11	13	2	2	25	9

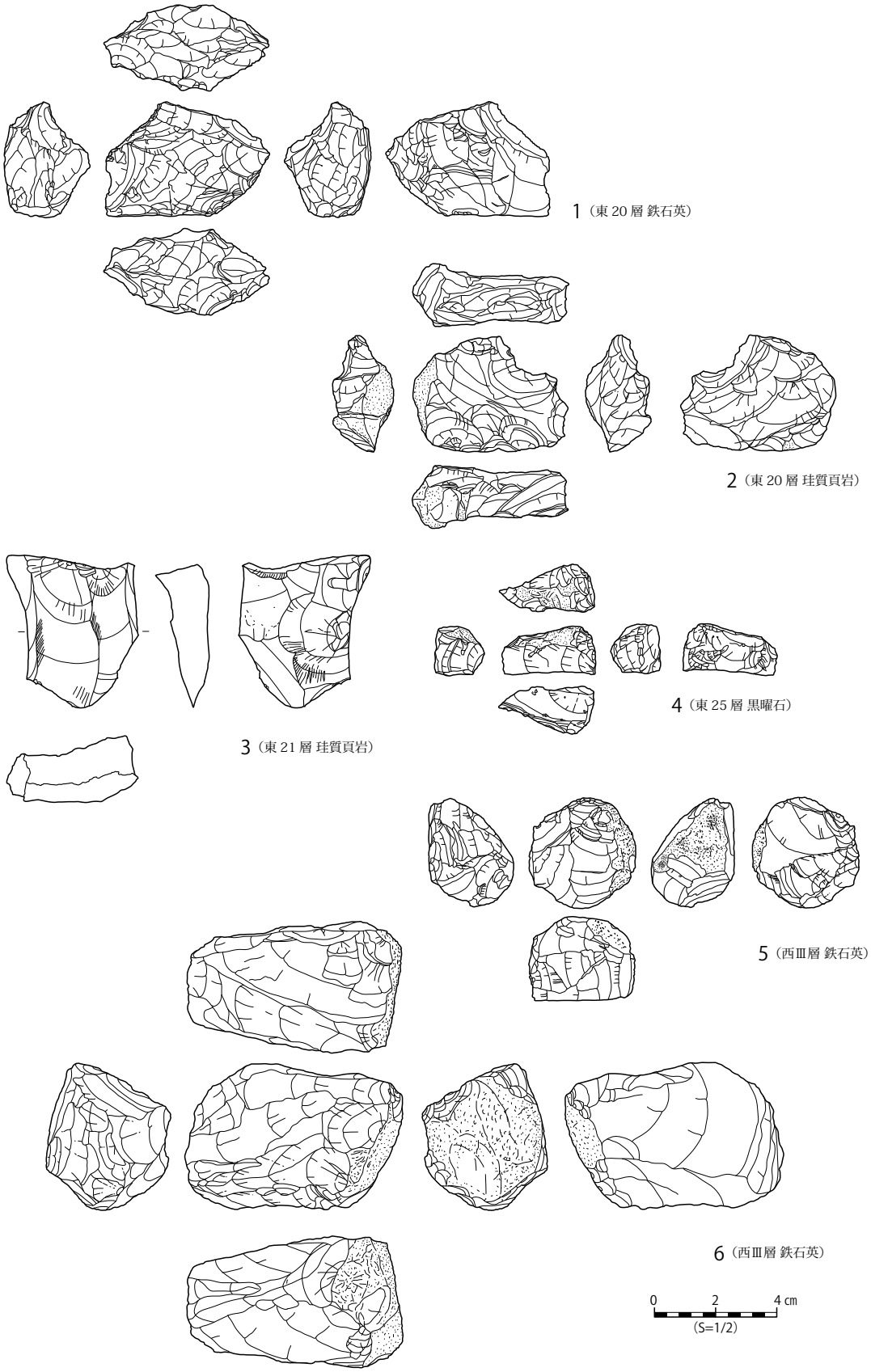


図 32　山王囲遺跡出土石核 1

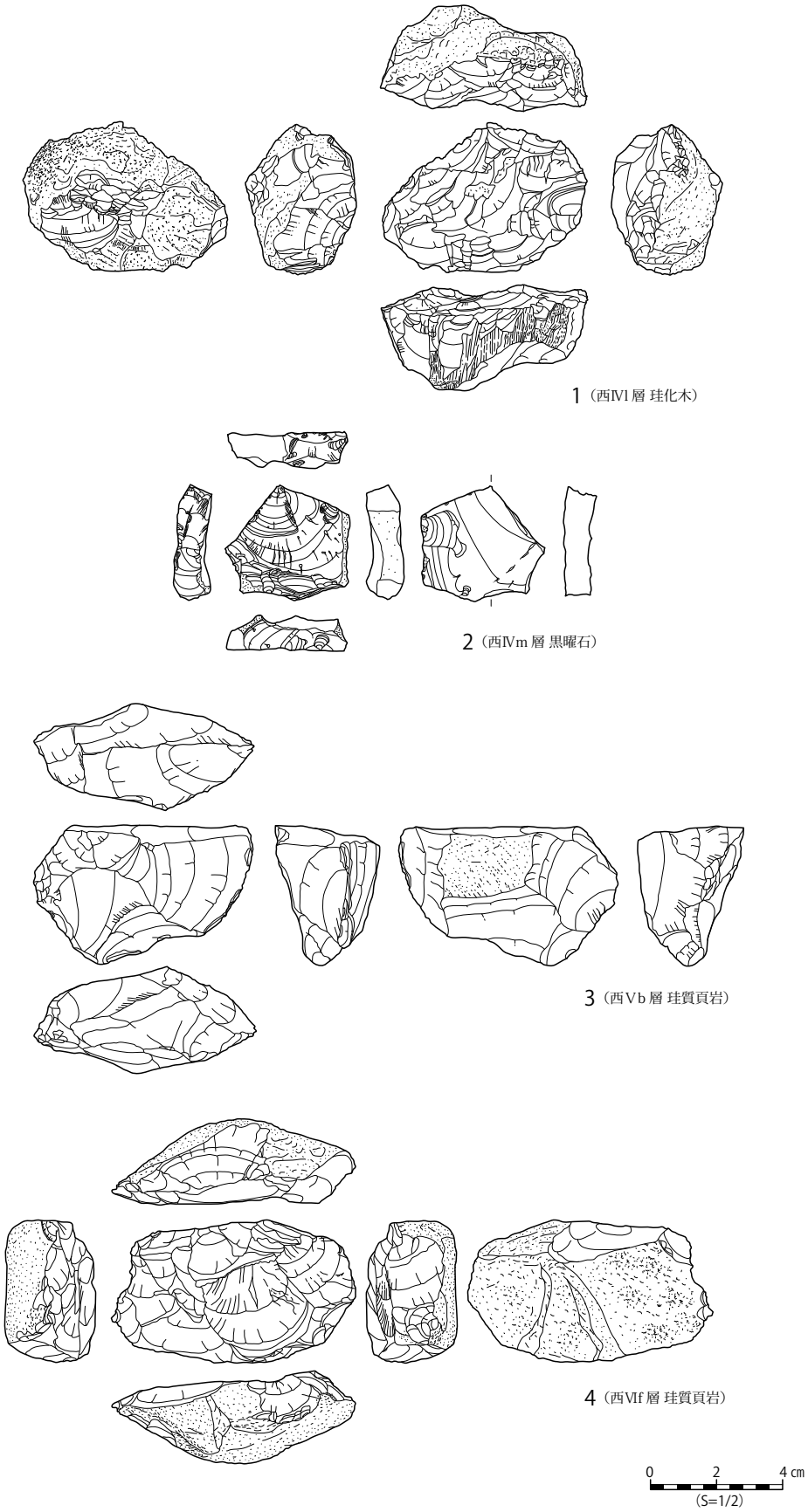


図 33　山王囲遺跡出土石核２

各層位での分類ごとの出土傾向をみると、東区 15 ～ 26 層ではⅣ類とⅠ類が主体であるが、Ⅲ類、Ⅱ類、Ⅰ類とⅡ、Ⅲ、Ⅳがそれぞれ複合したものが少数ながら出土しており、剥離手順にバラエティーがみられる。一方、7 ～ 14 層では出土石核全てがⅣ類で、剥離手順の多様性がみられなくなる。西区では、Ⅴ層とⅣ下層でⅠ類とⅣ類が主体で、少数の複合タイプがみられる組成となっているが、Ⅳ上層ではⅣ類が突出するようになる。Ⅲ層ではⅤ層・Ⅳ下層での組成と同様の傾向を示す。Ⅱ層ではⅠ類とⅢ類のみがみられる組成となる。

各層位での大きさ平均は、他の層位に比べて出土点数が少ない西区Ⅵ層とⅡ層を除くと、おおよそ長さ 4 ㎝前後から 5 ㎝前後、幅 4 ㎝前後、厚さ 2 ㎝前後に収まる。しかし、重さは各層位で差が大きい。遺跡内に持ち込まれた原石サイズの差が反映されていると考えられる。最大剥離面の大きさは、西区Ⅵ層で長さ・幅共に最も大きいが、他の層位では長さ・幅共に 2 ～ 3 ㎝前後で、概ね横長剥片を作出した剥離面を残す。剥離面数は、Ⅵ層で 11 面と最も多いが、他の層位では平均して 7 面の剥離面を残し、層位ごとの差はみられない。剥離角は西区Ⅱ層で最も大きいが、他の層位では概ね 80°後半～ 90°前後の値となる。これらの項目でやや突出した数値を示す層位は、石核の出土点数が他の層位に比べて大幅に少ないため注意が必要である。石材は各層位とも鉄石英と珪質頁岩が主体で、少数の黒曜石や安山岩、珪化木、砂岩が伴う。剥片石器での使用石材の傾向とも符合的な組成を示す。

次に、石核のうち、本遺跡での主要石材である鉄石英と珪質頁岩での傾向について述べる。剥離手順は、両者ともⅣ類が最も多い。珪質頁岩ではⅣ類に続いてⅠ類とⅢ類が多いが、鉄石英ではⅣ類に続いてⅠ類が多く、次点のⅡ類とⅢ類がほぼ同数みられる。石材による剥離手順の差を示している可能性がある。大きさ平均は、珪質頁岩が長さ、幅、厚さで鉄石英よりも高い数値を示し、重さは珪質頁岩が 2 倍を超える。遺跡内に持ち込まれている原礫サイズに差があると考えられる。それに対応して、最大剥離面においても珪質頁岩の方が大きい傾向を示している。剥離面数、剥離角、礫面形状についても、両者はほぼ同じ傾向を示している。

個々の最大剥離長と幅をみると横長が多い傾向にある。石材は珪質頁岩と鉄石英が主体的に存在する。また、一部例外が認められるものの、珪質頁岩の石核は約 100 ～ 200g超の重いものがみられるのに対し、鉄石英は 10g程度～ 50g程度のやや小さいものが主である。

（2）剥片・砕片（図 34）（図版 31）

母岩から剥離され、微小剥離痕もみられず、刃部形成もされていない「未使用」の剥片で、定型石器の素材や刃器の素材となりうるものを剥片、その際に産出された石器製作に適さないような細かなものを砕片（チップ）とした。剥片の打点を基準として縦と横の最大値を計測し、剥片の縦の値が横の値よりも大きいものを縦形剥片、剥片の横の値が縦の値よりも大きいものを横形剥片とした。打点のわからないものに関しては、リングの方向等から打点の位置を推定し計測した。層位が分かる計 295 点を計測した。

縦形剥片に関しては剥片の縦の値を基準とし、横形剥片に関しては横の長さを基準として、極小・小型・中型・大型の 4 つに分類した。なお、その分類基準は町田勝則氏の論文を基にした（町田 2002）。

極小型（最大長 4.0 ㎝未満）：摘まみ具（三指でつまんで作業する）。182 点。

小型（最大長 4.0 ～ 6.9 ㎝）：摘まみ具（五指あるいは四指でつまんで作業する）。111 点。

中型（最大長 7.0 ～ 9.9 ㎝）：握り具。5 点。

大型（最大長 10.0 ～ 12.9 ㎝）：握り具。0 点。

極小型が 6 割以上を占める。大きさ平均は長 3.3 ㎝、幅 3.2 ㎝、厚 1.1 ㎝、重量 11.0g である。縦形 52.7％と横形 47.3％の比 9：8 で縦長のほうがやや多いが、有意な差ではない。以下分類別にみる。

表 3-1　剥片属性表

区	層	縦形										横形										石材			
		計上数	分類				計測値平均					計上数	分類				計測値平均					珪質頁岩	鉄石英	黒曜石	砂岩他
			極小	小	中	大	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	剥離角		極小	小	中	大	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	剥離角				
東区	9～14 層	3	1	2			4.6	1.8	0.8	6.3	91°（計測可能剥片 1 点の測定値）	3	2	1			2.3	3.5	1.1	9.5	―（計測不可剥片のため）	3	3		
	15～26 層	25	16	8	1		3.8	2.7	1.5	11.4	105°	16	9	5	2		2.9	4.1	1.2	17.0	103°	6	32		3
計・平均		28	17	10	1	0	3.8	2.6	1.5	10.7	104°	19	11	6	2	0	2.8	3.9	1.2	15.4	103°	9	35	0	3
西区	Ⅱ層	6		6			4.8	3.1	1.2	14.9	107°	5	3	2			2.7	3.8	1.1	13.3	106°	7	4		
	Ⅲ層	51	35	16			3.5	2.6	1.0	8.7	114°	50	31	17	2		2.7	3.8	1.0	10.5	112°	35	62		4
	Ⅳ層	32	21	11			3.7	2.8	1.3	9.4	110°	23	12	11			3.0	4.0	1.1	14.0	106°	27	27	1	
	Ⅴ層	30	21	9			3.5	2.2	1.1	7.3	109°	41	24	17			2.8	3.9	1.3	12.9	110°	28	41		2
	Ⅵ層	3	1	2			3.9	2.9	1.1	11.9	115°	7		7			3.6	5.0	1.1	20.1	117°	3	6		1
計・平均		122	78	44	0	0	3.6	2.7	1.1	8.8	111°	126	70	54	2	0	2.9	3.9	1.1	12.8	110°	100	140	1	7

表 3-2　剥片石材の属性

石材別		東区		西区				
		9～14 層	15～26 層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳ層	Ⅴ層	Ⅵ層
珪質頁岩	縦形	2	4	3	12	17	8	
	横形	1	2	4	17	10	20	3
鉄石英	縦形	1	19	3	34	14	20	3
	横形	2	13	1	23	13	18	3
砂岩他	縦形		2		2	1		
	横形		1		2		2	1

a　縦形剥片は 150 点計測した。西区Ⅲ層 51 点、同Ⅳ層で 32 点が多い。

a. 極小型　95 点。西区Ⅲ層 35 点、同Ⅳ・Ⅴ層で各 21 点と続く。

b. 小型　54 点。西区Ⅲ層 16 点、同Ⅳ層 11 点と続く。

c. 中型　東区 15 層で 1 点出土している。

大型はない。

縦形剥片の分類ごとの変化は大きく、極小型と小型の比がおおよそ 2：1 で推移する。剥離角はおよそ 100° 後半～ 110° 前半である。

横形剥片は 145 点計測した。西区Ⅲ層 50 点、同Ⅴ層で 41 点と多い。

a. 極小型　81 点。西区Ⅲ層 31 点、同Ⅴ層 24 点と続く。

b. 小型　61 点。西区Ⅲ層と同Ⅴ層で各 17 点と多い。

c. 中型　4 点。東区 20 層と 23 層で各 1 点、西区Ⅲ層で 2 点出土している。

大型はない。

横形剥片は、西区Ⅲ層でその下層に比べて極小型が大きく増加し、中型も現れる。剥離角はおよそ 100° 後半から 110° 前半の範囲に収まり、縦形剥片との差はみられない。

石材は珪質頁岩 109 点と鉄石英 175 点で、鉄石英のほうが多い。そのほか砂岩と安山岩が 3 点ある。自然面を残す剥片が多い。層位別に石材ごとの剥片形状の傾向をみると、珪質頁岩は西区Ⅴ層で縦形剥片と横形剥片の比は 2：5 で横形剥片が多いが、西区Ⅲ・Ⅳ層では横形剥片が卓越する傾向はみられなくなる。一方、鉄石英は西区Ⅳ・Ⅴ層で、ほぼ 1：1 で推移するものの、西区Ⅲ層で縦形剥片の割合が増加する。砕片は 44 点、82.0g である。剥片より少ないのは、低湿地遺跡調査の中で、小さい砕片は泥に紛れて回収されなかった点、注記が難しく未注記の資料が多く、層位ごとの判別が難しかった点の 2 つが要因とみられる。よって実数はこれよりかなり多いとみられる。ただし、層位的にみると西区Ⅲ～Ⅴ層の出土量が多く石核、剥片と同じ傾向がみられる。石材は剥片と同じく鉄石英と珪質頁岩がみられ、鉄石英が 7 割ほどを占める。黒曜石 1 点がある。

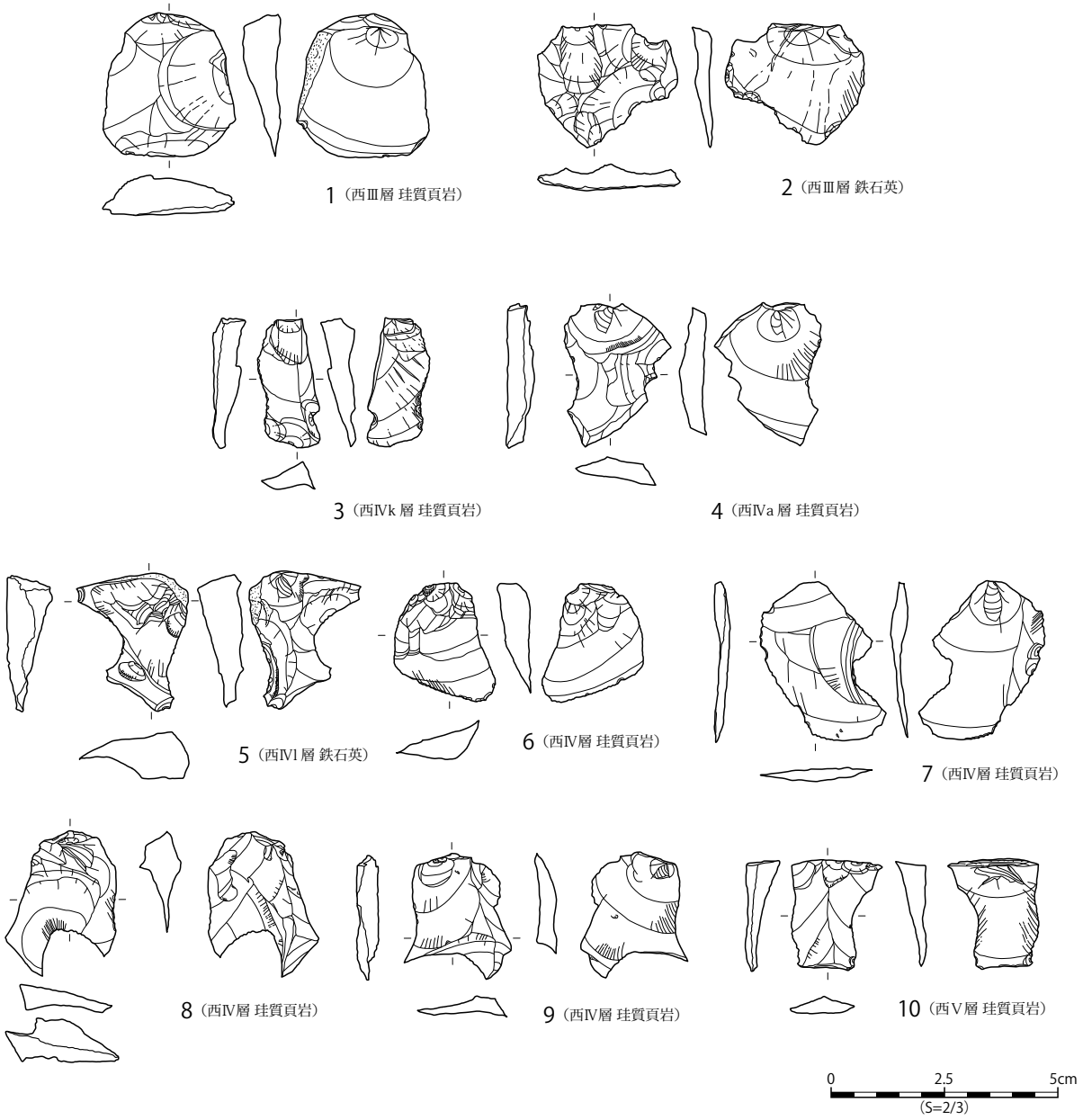


図 34　山王囲遺跡出土剥片

（3）石鏃（図 3-1～11、図 11-1～33、図 16-1～6、図 19-1～6、図 23-1～22、図 28-1～6）（表 4）

両面側縁に調整剥離が施された打製石鏃が未成品含めて 240 点ある。西区Ⅴ層 91 点で最も多く、西区Ⅲ層 59 点、東区 15 ～ 26 層 38 点と続く。なお、遺物台帳には 417 点の記載がある。台帳では西区Ⅲ層 117 点で最も多く、東区 15 ～ 26 層 107 点、西区Ⅴ層 94 点が記載されている。

茎部の有無、茎部の長さ、基部の形の 3 つの観点で分類した。（図 35）。まず茎部の有無により有茎鏃と無茎鏃に大別した。次に長さを 6 分割し、茎部長が全体の 1/2 以上におよぶものは「長茎」、1/3 以上 1/2 未満のものは「中茎」、1/3 未満のものを「短茎」とした。さらに、基部形態を凸基・平基に 2 分した。なお有茎の凹基鏃はなかった。そのほか、基部がないものとして、茎部が菱形を呈す尖基、刃部と茎部の比がほぼ同じ木葉形、細身のものを棒状がある。無茎鏃は平基・凹基・円基に分類した。結果、12 種に分類できた（図 35 細別）。

各分類を層位別にみると、有茎・無茎ともには各層位に通じて認められる。有茎鏃のなかでは、西区Ⅴ層で長凸があり、東区 15 ～ 26 層や西区Ⅴ層では中凸・中平が一定量しめるのに対し、西区Ⅲ・Ⅳ層ではこれらがない。よって大洞Ａ式期から大洞Ａ′式期にかけて茎部の短茎化がうかがえる。この点は、相対的に機能する刺突部分が徐々に長くなっていることを示す。尖基、木葉、棒状は、西区Ⅲ層で増加する。凹基は西区Ⅴ層のみにある。円基、平基は各層で一定数占め続ける。

大きさ平均をみると、西区Ⅴ・Ⅵ層で長 2.8 ㎝、幅 1.4 ㎝、重さ 2g であるのに対し、西区Ⅲ・Ⅳ層で長 2.5 ㎝、幅 1.2 ㎝、重さ 1.5g となっている。西区Ⅴ層とⅣ層の間で細身化、軽量化という傾向がある。このように大洞Ａ′式期には形態と大きさに変化が認められる。

機能部である鏃身をみると、刃長や刃幅は各層大きな変化はない。鏃身側辺部の形状は、各層とも直刃が主体的である。

アスファルトの付着は有茎鏃の茎部を中心に全体の 14％、31 点に認められる。層位別には東区 15 ～ 26 層 26％、西区Ⅵ層 29％、同Ⅴ層 6％、同Ⅳ層 5％、同Ⅲ層 15％である。西区Ⅴ層（大洞Ａ′式期）になると減少する。

素材剥片は縦形 186 点、横形 42 点で、縦形が 8 割を占める。各層をみると、西区Ⅲ層で横形が 27％を占め目立つ。石鏃に礫面を残す例は全体の 18％、44 点ある。これも西区Ⅲ層で増加する。

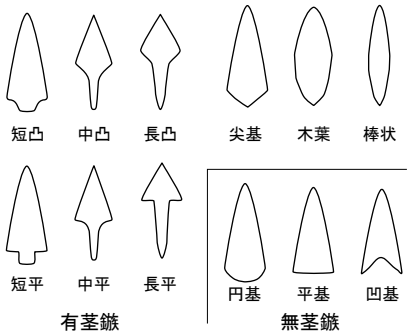


図 35　石鏃分類模式図

表 4　石鏃属性表

層位	計上数	分類													計測値（平均）				機能部（平均）				側辺部形状			装着痕跡	石材				素材剥片			礫面
		短凸	短平	中凸	中平	長凸	長平	尖基	木葉	棒状	円基	平基	凹基	分類不可	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	刃長(cm)	刃幅(cm)	先端角(度)	茎長(cm)	外湾	直線	内湾	アスファルト	鉄石英	硅質頁岩	玉髄	黒曜石	縦	横	不明	有
西Ⅲ層（山王Ⅲ層式）	59	24	8	5			1	4	2	3	3	2		7	2.5	1.2	1.1	1.5	1.1	0.9	42	0.7		56	1	8	41	16	1	1	41	16	2	16
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層式）	10	4	3					2			1			0	2.5	1.2	0.6	1.5	1.1	1.0	43	0.7		7	3	0	7	3			9	1		3
西Ⅳ下層（大洞Ａ'式）	12	5						2		1	1			3	2.3	1.3	0.6	1.6	1.0	0.8	45	0.6		9	2	1	11	1			11	1		3
西Ⅴ層（大洞Ａ2 式）	91	42	3	16	2	1		3	1	1	5	2	1	14	2.8	1.5	0.8	2.6	1.1	1.0	43	0.8		81	1	6	65	25	1		65	17	9	11
西Ⅵ層（大洞Ａ1 式）	22	12		4				1		1	2			2	2.8	1.4	0.8	1.7	1.0	0.9	46	0.8		18	4	6	18	2	2		20	2		4
東 10~14 層（大洞Ａ1･Ａ2 式）	8	3		1						1	1	1		1	2.9	1.5	0.7	2.7	1.5	1.3	46	0.6		7		0	6	1	1		8			2
東 15a~26 層（大洞Ｃ2 式新）	38	6	1	13				4	4		3	3		4	2.4	1.4	0.7	1.8	1.1	1.1	51	0.7	1	33	2	10	33	4	1		32	5	1	5
計	240	96	15	39	2	1	1	16	7	7	16	8	1	31	2.6	1.4	0.8	2.1	1.1	1.0	60	0.7	1	211	13	31	181	52	6	1	186	42	12	44

石材は鉄石英 181 点、珪質頁岩 52 点の２種が主である。特に、鉄石英は全体の７割以上を占め、どの層でも大きな変化はない。そのほか玉髄６点、黒曜石１点がある。このうち黒曜石製は短凸類で西区Ⅲ層検出である。また玉髄製の１点は西区Ⅵ層出土で数少ない円基鏃である。形態分類別にみると、西区Ⅴ層で特徴的な中・長茎鏃は鉄石英がほとんどを占める。そのなかで凹基鏃は珪質頁岩製である。よって分類した一部の形態で石材との相関が認められる。

（４）石錐（図 1-1・2、図 3-12、図 11-34 ～ 37、図 16-8、図 23-23、図 28-7）

長い尖部をもち、穿孔作業が想定される資料である。18 点ある。平均長 3.6 ㎝、平均幅 2.6 ㎝、平均厚 0.8 ㎝、平均重量 5.5gである。錐先端には破損や使用による摩耗の激しいものが一定数ある。晩期中葉から弥生時代前期まで通時的にみられ、特に晩期終末から弥生時代までが多い。

全て、頭部と錐部の境が明瞭なつまみ付きである。錐部は全て両面加工され断面形は三角形、菱形、長方形、楕円形に４区分したが、層位的な傾向はない。石材は鉄石英、珪質頁岩、玉髄があり、鉄石英使用が最も多い。石鏃に次いで使用石材が多様で、どれかを集中して使う傾向はない。３点にタール状に薄く広がる黒色物がみられる。

（５）石箆（図 1-3、図 16-9、図 19-7、図 23-24・25、図 28-9）

撥形の縦に長い剥片を利用した剥片石器で、刃部が下辺に調整剥離で作出されたものである。未成品含め 10 点ある。長方形と撥形の２種がある。現物のないものを除く平均長は 6.88 ㎝、平均幅 4.12 ㎝、平均厚 1.81 ㎝、平均重量 62.5gである。石箆は大洞A′式期Ⅳ層までみられ、弥生時代に入るとほとんどなくなる。

石材はほとんどが珪質頁岩で、１点玄武岩、未成品に鉄石英が用いられる。現物のないものの石材は不明だが恐らく頁岩系で、時代を通じて石器製作に用いられてきたことがわかる。付着物は１点のみに黒色付着物が観察できる。アスファルトかの判断が難しいほど微量である。

（６）石匙（図 1-4・5、図 3-13・14、図 23-27、図 28-11 ～ 14）

つまみが形成された刃器で 10 点ある。石匙はつまみ部を上にした場合の形態から縦形と横形に分類する。縦形５点、横形４点、未成品１点がある。このうち、図はあるが実物がない資料が３点ある。大きさの平均は、長 5.9 ㎝、幅 4.3 ㎝、厚 1.9 ㎝、重量 24.7gである。図 3-14 の石匙のみ鉄石英製の小型品である。出土層位は東区 10 ～ 14 層２点、同 17 層２点、西区Ⅴ層１点、同Ⅵ層５点で、大洞C2 式～A式期にまとまる。形態分類別では縦形が東区 14・17 層、西区Ⅵ層、横形が東区 10 層、西区Ⅴ・Ⅵ層にあり、数が少ないものの大洞C2 式期から大洞A式期にかけて縦形から横形への変化がうかがえるかもしれない。

刃部数は横形が下辺１辺のみであるの対し、縦形は左右２辺に刃部形成する。刃付は全て両面である。刃長は 2.7 ～ 6.1 ㎝、刃角は 44 ～ 68°、刃部角は９～ 11°で形態分類との相関はない。刃部形態は縦形が直刃と外湾刃の組み合わせ、横形が外湾刃である。

つまみ部の長さは 0.6 ～ 1.8 ㎝、幅 0.7 ～ 2.1 ㎝で、形態分類との相関はない。つまみ部の反対側にある先端部の形状は円形、尖形の２種がある。形態分類との相関はない。

アスファルトは７点中３点に付着する。つまみ部の抉りに付着する。これらのうち１点はつまみだけでなく石器上半分を巻くように付着しており、石匙の装着方法の一例をうかがい知ることができる。

石材は珪質頁岩４点、玄武岩１点、鉄石英１点で、珪質頁岩が多い。

（7）尖頭器（図 3-15、図 12-1、図 24-1・2、図 28-8）

剥離加工によって、刺突機能が付加された資料である。6 点ある。長さ 4.0 ～ 8.3 ㎝、幅 1.9 ～ 3.5 ㎝で全て 10 ㎝以下である。数が少ないものの、東区 23 層、西区Ⅵ層といった大洞C2 ～A式期の資料に比べ、西区Ⅲ層の資料（図 12-1）は一回り大きい。刃部の長さは 2.1 ～ 4.7 ㎝、刃部幅 0.6 ～ 3.1 ㎝、刃部角は 10 ～ 12°、刃角 67 ～ 75° でまとまりはない。図 3-15、図 24-1 は未成品である。基部先端は図 3-15、図 28-8 が平坦だが、西区Ⅲ層（図 12-1）のものは弧状である。図 3-15 には刃部左右の片側にアスファルトとみられる黒色物が付着する。また図 24-2 は左右が非対称である。これらは先端形から尖頭器としての機能を推定したが、実際には刃部片側を柄に差し込んでアスファルトで接着しナイフとして使用された可能性が高い。

石材は全て珪質頁岩 4 点、鉄石英 1 点、砂岩 1 点である。鉄石英が少ない点で、石鏃とは異なる選択性がうかがわれる。素材剥片は縦形 4 点、横形 1 点で、縦形剥片の利用が多い。

（8）スクレイパー類（図 2-6、図 4-17、図 5-1 ～ 8、図 12-2 ～ 7、図 16-10 ～ 13、図 19-8 ～ 10、図 24-3 ～ 7、図 29-1 ～ 3）（表 5）

不定形の両面加工石器であるスクレイパーと、いわゆる二次加工のある剥片（リタッチドフレイク：RF）に 2 区分される。147 点ある。器種判定の基準は、スクレイパーは剥片縁辺に連続した調整剥離を施したもの、リタッチドフレイクは剥片縁辺に使用した際の微細剥離痕が肉眼でも観察できるほど顕著なものをとした。内訳はスクレイパー 43 点、リタッチドフレイク 104 点で、圧倒的にリタッチドフレイクが多い。それぞれの計測値平均はスクレイパー平均長 4.7 ㎝、幅 4.2 ㎝、厚 1.4 ㎝、重量 38.4g、リタッチドフレイク平均長 4.2 ㎝、幅 3.9 ㎝、厚 1.1 ㎝、重量 19.2g である。スクレイパーのほうが一回り大きい素材が用いられる。

スクレイパーは縦形 24 点、横形 19 点ある。層序が明確な 41 点について表 5 にまとめた。縦形は大洞A～A′式期に比べ山王Ⅲ式期のほうで増加する。大きさをみると山王Ⅲ式期は極小～小型が多いが、大洞A′式期以前は小～中型が多い。刃部数をみると、1 ヶ所 16 点、2 ヶ所 18 点、3 ヶ所以上 6 点ある。2 ヶ所以上は大洞A2 式期に増加する。刃部角は 30° 以下 34 ヶ所、31 ～ 45° 18 ヶ所、46 ～ 90° 19 ヶ所ある。大洞A～A′式期は 31° 以上が多い一方、山王Ⅲ式期は 45° 以下が多い。刃角は 70° 以下 37 点、71 ～ 90° 34 点でほぼ半々である。次に刃部平面形は外湾刃 17 ヶ所が最も多く、続いて直刃 15 ヶ所である。横形において山王Ⅲ層式期に直刃が増える。石材は珪質頁岩 29 点が最も多く鉄石英が続き、層位的な変化は認められない。原礫面が観察される例はどの層も約 6 割程度で推移する。

リタッチドフレイク（RF）は縦形 60 点、横形 43 点ある。層序が明確な 95 点について表 5 にまとめた。縦形は山王Ⅲ層式期に多く、大洞A′式期以前では横形が多い点が特徴的である。また大きさをみると山王Ⅲ式期は極小～小型が多いが、下層ほどは小～中型が多い。相関して刃長も下層ほど長くなる。さらに刃部数をみると、1 ヶ所 69 点、2 ヶ所 21 点、3 ヶ所以上 5 点ある。2 ヶ所以上は大洞A2 式期以降に増加する。これらの傾向は上記のスクレイパーでも同じであった。刃部角は 30° 以下 51 ヶ所、31 ～ 45° 45 ヶ所、46 ～ 90° 32 ヶ所ある。刃角は 30° 以下 5 点、31 ～ 70° 96 点、71 ～ 90° 27 点で、スクレイパーとは異なり、31 ～ 70° が多い。上層ほど掻器に該当する 71 ～ 90° が増加する。刃部平面形は外湾刃 51 ヶ所が最も多く、続いて直刃 20 ヶ所で層位間の変化は認められない。刃付は両面側に見られる例 17 点あり、大洞A′より下層で認められる。石材は珪質頁岩 66 点が最も多く鉄石英 26 点と続き、層位的な変化は認められない。原礫面が観察される例はどの層も約 7 割程度で推移する。このように、不定形石器は形態、大きさ、刃部において弥生時代との違いを見出すことができる。

表５　スクレイパー類属性表

1. スクレイパー

時期（区・層位）	分類	計上数	計測値平均（cm・g）				大きさ分類				刃部																		アスファルト付着	石材				
			長さ	幅	厚さ	重さ	極小	小	中	大	刃数 1	刃数 2	刃数 3~	刃長(cm)	刃部角（カウント数）~30	刃部角 ~45	刃部角 ~90	刃角（カウント数）~30	刃角 ~70	刃角 ~90	刃縁形状 直	刃縁形状 外湾	刃縁形状 内湾	刃縁形状 外+内	刃縁形状 直+外	刃縁形状 直+内	刃付両面数		鉄石英	頁岩	黒曜石	その他	礫面 あり
西Ⅲ層（山王Ⅲ層）	縦	10	4.6	3.5	1.2	28.8	6	3		1	5	5		3.7	8	5	2		9	6	3	4			2		5	1	1	8		1	7
	横	5	3.8	4.4	1.1	23.6	1	2			2		3	2.9	9	1	2		6	6	4	1					4		1	2		2	3
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層）	縦	0																																
	横																																	
西Ⅳ下層（大洞 A'）	縦	3	7.4	4.1	2.2	68.8	1	1	1			2	1	5.1	4	1	2		3	4		1			2		3			3			2
	横	1	3.6	4	0.64	10.2	1					1		2.6	1	1			1	1		1					1			1			0
西Ⅴ層（大洞 A2）	縦	4	3.7	5.2	1.8	85.8		1	1			4		5.7		4	4		7	1	2	2					2			4			3
	横	4	2.1	3.1	1.0	8.4	3	1			1	2	1	1.5	3	2	3		2	6	1	1	1		1		4		2	2			1
西Ⅵ層（大洞 A1）	縦	1	6.6	5.6	2.11	65.3		1			1			3.3			1			1	1						0			1			1
	横	2	3.5	4.4	1.3	26	1	1			2			3.5	2				2		1	1					0		1	1			1
東10~14層（大洞 A1・A2）	縦	0																																
	横	3	2.6	4.2	1.4	16.4	1	1			1	1		4.1			3			3	1	1					1		1	1			2
東15a~26層（大洞 C2新）	縦	5	5.8	4.1	1.2	56.8	1	2		1	4	1		4.1	3	3			1	5	2	3					3	1	1	4			2
	横	3	3.9	6	3.5	36.5	1	1	1			2	1	4.4	4	1	2		6	1		2			1		2		1	2			2
計・平均		41	4.3	4.4	1.6	38.8	16	14	3	2	16	18	6	3.7	34	18	19	0	37	34	15	17	1	0	6	0	25	2	8	29	0	3	24

2. リタッチドフレイク（RF）

時期（区・層位）	分類	計上数	計測値平均（cm・g）				大きさ分類				刃部																		アスファルト付着	石材				
			長さ	幅	厚さ	重さ	極小	小	中	大	刃数 1	刃数 2	刃数 3~	刃長(cm)	刃部角（カウント数）~30	刃部角 ~45	刃部角 ~90	刃角（カウント数）~30	刃角 ~70	刃角 ~90	刃縁形状 直	刃縁形状 外湾	刃縁形状 内湾	刃縁形状 外+内	刃縁形状 直+外	刃縁形状 直+内	刃付両面数		鉄石英	頁岩	黒曜石	その他	礫面 あり
西Ⅲ層（山王Ⅲ層）	縦	15	4.6	3.3	1.0	15.7	6	8	1		9	6		2.7	8	7	5		17	4	3	7	1		2	2	0		2	12		1	11
	横	9	3.3	4.4	1.0	13.4	5	3	1		7	2		2.5	3	4	4		9	2	1	5	1	1	1		0		3	6			7
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層）	縦	8	4.5	3.4	1.2	15.8	3	5			5	2	1	2.8	4	2	6		8	4	1	3	2	1		1	0			7		1	6
	横	2	3.6	4.3	1.0	15		2			1	1		2.9	1	1	1		3		2						0	1		2			1
西Ⅳ下層（大洞 A'）	縦	5	4.4	2.9	1.0	10.3	1	4			1	3	1	2.8	3	2	5		6	4	1	2			2		0		3	2			4
	横	5	3.1	4.3	1.1	14.1	2	3			4	1		3.6	5	1			5	1	1	4					3		1	4			3
西Ⅴ層（大洞 A2）	縦	6	4.4	3.4	1.3	18.7	2	4			6			3.1	3	2	1		3	5	1	4				1	1		2	4			6
	横	12	3.5	4.6	1.0	14.2	5	7			10		2	2.5	8	4	4		12	4	2	6	2		1	1	2		3	8	1		9
西Ⅵ層（大洞 A1）	縦	4	7.7	3.8	1.3	34.4		1	3		1	3		5.2	4	3			7		1	1		1	1		3			4			3
	横	2	3	3.9	0.7	7.6	1	1			1		1	2.7	4			4			2						1		2				2
東10~14層（大洞 A1・A2）	縦	4	5.5	3.9	1.2	26.5	1	2	1		4			3.5	3	1			4		1	2			1		2			4			3
	横	1	3.6	5.2	1.3	21.8			1		1			3.7	1			1				1					1			1			1
東15a~26層（大洞 C2新）	縦	11	4.9	3.5	1.2	23.1	3	7		1	8	3		3.6	2	9	4		13	1	1	8	1		1		0		8	3			6
	横	11	4.1	5.9	1.3	34.4	2	6	3		11			4.2	2	9	2		9	2	3	8					4		2	9			9
計・平均		95	4.3	4.1	1.1	18.9	31	53	10	1	69	21	5	3.3	51	45	32	5	96	27	20	51	7	3	9	5	17	1	26	66	1	2	71

（9）磨製石斧（図 6-1 ～ 8、図 12-8 ～ 10、図 25-3 ～ 7、図 29-4 ～ 8）（表 6）

39 点ある。多くが破片であるため、復元される最大幅が 4.0 以上のものを大型、それ未満を小型とした。大型は長さ 13 ㎝、幅 5.0 ㎝、重さ 400gほどに復元される。一方、小型は、長さ 7 ㎝、幅 3 ㎝、重さ 50gほどであり、違いは明瞭である。大型 33 点と小型 6 点あり、およそ大型が小型の 5 倍程度ある。双方とも大洞C2 から山王Ⅲ層式期まで継続的にみられる。頭部の形は円基と尖基に分けた。縄文時代晩期までは双方あるが、弥生時代には尖基のみとなる。

研磨痕の下に敲打整形痕を残すことから、製作手順は敲打整形後の研磨が推定される。側辺を面取りするものが多い。擦痕は刃部を下にした際、右下方向になる場合が多い。よって研磨方向に一定の規則性があるとみられる。石材は砂岩、閃緑岩、凝灰岩、玄武岩がある。ただし、肉眼による判定のため、さらに細分、変更の可能性がある。砂岩、閃緑岩が主体的であるが、弥生時代になると凝灰岩などが無

くなり石材が限定されるようである。

弥生時代の石斧で東北地方南部では大陸系の蛤刃石斧や柱状片刃石斧などがよくみられる。しかし山王囲遺跡の石斧には大陸の要素を持ったものは確認されなかった。

表 6　磨製石斧属性表

層位	分類	計上数	刃部（平均）		頭部形			石材			
			刃幅（cm）	刃部角（度）	円基	尖基	欠	砂岩	凝灰岩	閃緑岩	玄武岩
西Ⅲ層（山王Ⅲ層）	大型	2	4.4	17.5			2			2	
	小型	1	3.3	18.0		1		1			
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層）	大型	1	—	—		1		1			
	小型	0									
西Ⅳ下層（大洞 A'）	大型	0									
	小型	0									
西Ⅴ層（大洞 A2）	大型	7	4.3	21.3	1	2	4	4		3	
	小型	0									
西Ⅵ層（大洞 A1）	大型	7	4.1	25.0	1	3	3	3	2	1	1
	小型	1	2.1	19.0			1		1		
西Ⅶ層（大洞 C2 新）	大型	2	—	—			2	2			
	小型	0									
東 10~14 層（大洞 A1・A2）	大型	1	—	—			1	1			
	小型	0									
東 15a~26 層（大洞 C2 新）	大型	13	4.3	20.5	1	4	8	10	2	1	
	小型	4	3.0	—	1	2	1	4			
計・平均		39	4.0	20.2	4	13	22	26	5	7	1

（10）磨石・敲石類（図 3-1 ～ 7、図 7-1 ～ 9、図 8-1 ～ 6、図 9-1 ～ 4、図 13-1 ～ 7、図 17-1 ～ 4、図 20-1 ～ 8、図 21-1 ～ 3、図 26-1 ～ 3、図 30-1・2、図 31-1 ～ 3）（表 7・8）

使用痕跡で判断される石器のうち、片手での持ち上げが可能な資料。東区 39 点、西区 113 点、遺構内 1 点の計 153 点出土した。うち西区 30 点、東区 25 点、遺構内 1 点の計 56 点を図示した。

a．石材・大きさ

石材は安山岩が 113 点（75％）と主体的である。次に多いのが砂岩 23 点（15％）であり、他に頁岩、泥岩、閃緑岩、凝灰岩、花崗岩が少量ある。図 8-4 は石核を転用したものである。それ以外はすべて楕円礫か亜角礫である。

大きさは長さ 5.2 ～ 20.4 ㎝、平均長さ 10.1 ㎝、幅 4.6 ～ 12.2 ㎝、平均幅 7.6 ㎝、厚さ 0.9 ～ 9.1 ㎝、平均厚さ 4.4 ㎝、重さ 50 ～ 1680g、平均重さ 509g である。

b．分類

すべて採集礫を加工せずそのまま利用される。

磨類　表裏面に磨耗面が観察されるもの。20 点。

凹類　表裏面に凹痕が観察されるもの。51 点。

敲類　側面もしくは上下面に敲打痕が観察されるもの。12 点。

磨＋磨類　表裏面と側面に磨耗面が観察されるもの。2 点。

磨＋敲類　表裏面に磨耗面が、側面もしくは上下面に敲打痕が観察されるもの。5 点。

凹＋敲類　表裏面に凹痕が、側面もしくは上下面に敲打痕が観察されるもの。59 点。

他に不明 4 点がみられた。

凹類・凹＋敲類が主体的で、110 点（72％）ある。表裏面と側面・上下面の複数面に使用痕をもつ磨＋磨・磨＋敲・凹＋敲が 66 点（43％）ある。また凹類・凹＋敲類は同一面に磨耗痕と凹痕が併存するものを含むことから、複合的な機能・用途をもつものが多いと考えられる。

出土層位の特徴は、西区Ⅳ下層において磨・凹・凹＋敲類が急増し、西区Ⅳ上層で減少し、西区Ⅲ層で再び凹・凹＋敲類が増加する点である。また東区では 10 ～ 14 層において全体的に減少し、9 層より上層では出土しない。

ｃ．使用痕

【磨耗痕】

磨Ａ類　他の礫面に比べ凹凸がなく、結晶・基質ともに滑らかで、光を当てると光沢をおびるほど、特に磨耗しているもの。

磨Ｂ類　他の礫面に比べ、結晶が滑らかであるが基質がさほど磨耗、損耗していないもの。平滑な高所に弱い光沢がみられるもの。

磨Ｃ類　他の礫面に比べ、結晶・基質ともにやや滑らかで、基質を中心に損耗しているもの。結晶と基質の高低差が小さく、結晶の高所が磨耗し、丸みをおびているもの。触感はざらつく。

磨Ｄ類　自然礫面より結晶部分が滑らかであるものの、磨耗せず自然礫面の表面形状をそのまま維持するもの。手ずれなどの軽度の接触や、使用痕の発達初期に生じるような、やや磨耗しているもの。

磨Ｅ類　いわゆる擦痕。引っ掻き傷状の線状痕。

【凹痕】

凹Ａ類　平面形が円形で断面がスリバチ状に深く凹むもの。凹みの内面が滑らかで摩滅する。

凹Ｂ類　尖状物への敲打の連続によって、敲打痕が集中して凹みが形成される。凹痕の集合体。凹痕の内部は粗い。

凹Ｃ類　尖状物への敲打の連続によって、敲打痕の浅い広がりを形成するもの。凹Ｂ類の初期段階も含まれる。

凹Ｄ類　尖状物への敲打の連続による凹痕のうち、凹Ｂ・凹Ｃ類に比べて径１㎜以下の小さく細かな傷が集合しているもの。なお、結晶粒が抜け落ちやすい岩石、多孔質な岩石では判別しにくく、頁岩などの硬質かつ緻密な岩石でのみ観察可能である。

凹Ｅ類　板状の長い角を有するものへの敲打の連続によって、線状・溝状の凹みを形成しているもの。

【敲打痕】

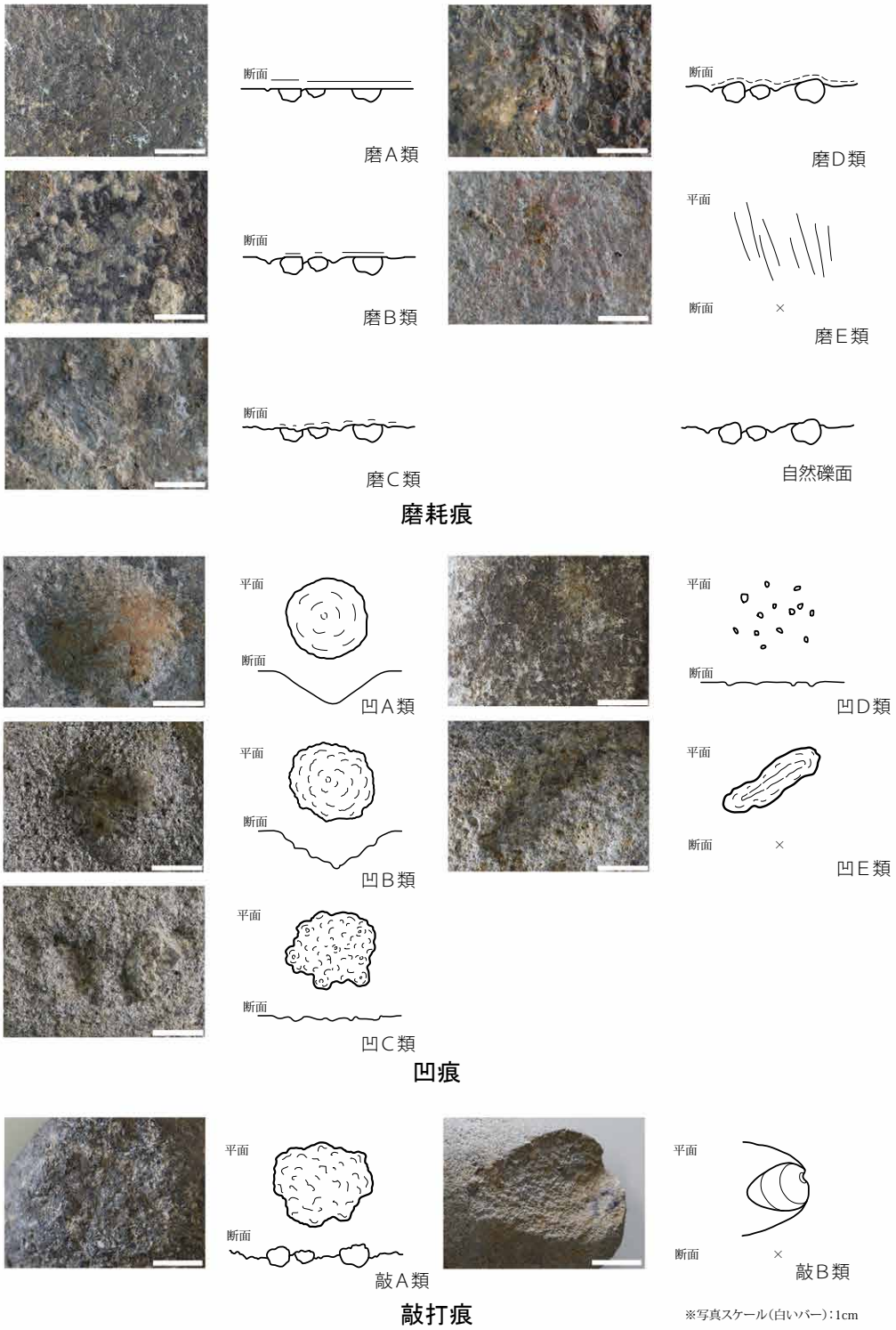
敲Ａ類　結晶・基質の粒子が粗い。鉱物の脱落や損傷が激しく、高低差が大きいもの。敲打による面形成に類似するもの。

表７　磨石・敲石類属性表

分類	計上数	計測値平均				石材							使用痕（カウント数）											
		長さ	幅	厚さ	重量	安山	花崗	閃緑	凝灰	砂岩	珪頁	泥岩	磨Ａ	磨Ｂ	磨Ｃ	磨Ｄ	磨Ｅ	凹Ａ	凹Ｂ	凹Ｃ	凹Ｄ	凹Ｅ	敲Ａ	敲Ｂ
磨	20	9.3	6.9	4.3	422	7				10	3	2	5	21		1	2			3	1			
凹	51	10.4	7.8	4.5	504	45			1	3		1		24				5	14	67	2	7	1	
敲	12	11.1	7.6	4.6	513	7			1	3	1			1									10	10
磨＋磨	2	11.6	9.4	7.8	1226	2								2	1	1							1	
磨＋敲	5	9.6	7.1	4.1	385	3				1	1		3	3		1	2						5	1
凹＋敲	59	10.6	8.0	4.5	539	49	1	2		6		1		24				8	29	70		27	79	1

表８　磨石・敲石類出土層位

区・層位（型式） ＼ 分類	磨	凹	敲	磨＋磨	磨＋敲	凹＋敲
西Ⅲ層（山王Ⅲ層式）	1	10	1			14
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層式）	2	2				4
西Ⅳ下層（大洞A'式）	6	17	3	1		16
西Ⅴ層（大洞A2式）	3	8				3
西Ⅵ層（大洞A1式）	4	3			2	6
西Ⅶ層（大洞C2式新段階）		2				3
東10~14層（大洞A1･A2式）	1	1			1	4
東15a~26層（大洞C2式新段階）	5	7	8	1	2	9



分類	0	1	2	3	4	5	6
平面模式図							
断面模式図							

図 36　礫石器使用痕模式図

敲Ｂ類　いわゆる剥落。打点もしくはリングの観察が可能なもの。単発的な強い衝撃による破損。

磨類は磨Ｂ類が主体である。磨Ｃ類は磨＋磨類の１点のみに認められる（図 20-2）。凹類と凹＋敲類は凹Ｃ類が主体で、磨Ｂ類と併存するものが多くみられる。凹＋敲類は凹類と比べて凹Ｂ類と凹Ｅ類の割合が比較的高い。磨＋敲類、凹＋敲類は敲Ａ類が主体的だが、敲類は敲Ｂ類が多く認められる。図 3-4 は表面に凹痕とともに研磨面が認められ、石器製作用の敲石であると同時に砥石としても利用されたと考えられる。石材は粒の粗い閃緑岩であり、荒研ぎ用であることが想定される。

【使用痕の面形状】

０類　面形成がないもの。

１類　一つの平坦面あるいは凸曲面をなすもの。そのうち平坦面は短軸断面、長軸断面ともに観察可能なもの。

２類　一つの平坦面あるいは凸曲面をなすもの。そのうち平坦面が外周を巡り短軸断面よりも長軸断面での観察が可能なもの。

３類　石材の短軸にそって数個の平坦面を形成するもの。平坦面は、短軸断面で数面、長軸断面で１面観察が可能なもの。

５類　石材の長短軸問わず多数の平坦面を形成するもの。平坦面は、短軸断面で数面、長軸断面でも数面観察可能で凸状を呈するもの。いわゆる凸多面体。

６類　石材の長軸に対し斜めの方向の平坦面を形成するもの。

磨耗痕・敲打痕ともに０・１類が主体で、これらの割合は同程度である。２・３・５・６類はすべて敲打痕である。

【付着物】

赤色顔料が付着したものが東区９点、西区 14 点の計 23 点認められた（図 2-2・3、図 7-2・4、図 8-2・3、図 20-1、図 26-1）。うち 17 点は磨耗痕が認められる資料である。磨Ｂ類がほとんどで、面形成する１類としない０類の割合は同程度である。多量に出土している層位は、東区 15a～ 26 層（7 点）、西区Ⅳ下層（5 点）、西区Ⅵ層（6 点）である。

(11) 石皿・台石類（図 3-8、図 10-1・2、図 14-1 ～ 3、図 15-1・2、図 18-1 ～ 3、図 21-4、図 22-1 ～ 3、図 26-6、図 27-1 ～ 3、図 30-3）（表 9・10）

使用痕跡で判断される石器のうち、持ち上げが困難で、据え置いて使用することが想定される資料。西区 47 点、東区５点の計 52 点出土した。うち西区 21 点、東区３点の計 24 点図示した。

ａ．石材・大きさ

石材は安山岩が主体的で、42 点（81％）である。他に花崗岩、砂岩、閃緑岩、泥岩、礫岩が少量ある。磨石・敲石類の組成と類似する。

大きさは、長さ 12.9 ～ 28.4 ㎝、平均長さ 18.8 ㎝、幅 11.1 ～ 24.9 ㎝、平均幅 16.4 ㎝、厚さ 1.5 ～ 10.0 ㎝、平均厚さ 5.8 ㎝、重さ 961 ～ 4,920g、平均重さ 2,480g である。

ｂ．分類

分類は上條（2015）に拠った。無加工のⅠ類と製作痕跡のあるⅡ類の両方がみられた。

Ⅰ類　採集礫をそのまま使用したもの。33 点。

Ⅱ類　凹部の形成痕跡があるもの。18 点。

またⅠ類を断面形状から３区分（凸・平・凹）した。原礫の断面が外湾する凸類、平坦な平類、磨耗により深く内湾する凹類がある。Ⅰ平類が主体で、29 点（62％）あり、他はⅠ凸類３点（6％）、Ⅰ

凹類１点（2％）と少量である。Ⅰ平類は破損品が 20 点（43％）と多くあり、Ⅰ凸・Ⅰ凹類は少量ながらすべて完形品である。

さらに、Ⅰ類を使用痕の種類とその広がりから３区分（a・b・敲）した。磨耗痕の広がりが狭い範囲に集中するa類と、広く均一なb類、敲打痕が広がる敲類がある。b・敲類が主体であり、b類はⅠ平b類が 17 点（36％）、敲類はⅠ凸敲類３点とⅠ平敲類 10 点の計 13 点（28％）である。a類はⅠ平a類２点、Ⅰ凹a類１点の計３点（6％）である。

Ⅱ類は、断面形が不定形な凹部を形成するA類のみ認められた。さらに破損により不明なもの以外は、掃き出し口のあるもの（1 類）とないもの（2 類）に２区分した。ⅡA2 類が８点と最も多く、ⅡA1 類が６点、掃き出し口が不明なものが４点である。うち 12 点（66％）が破損品である。

出土層位の特徴は、西区では西Ⅴ層でⅠ平・ⅡA類が共に増加し、Ⅰ平類が次の西Ⅳ下層でも出土量を維持するのに対し、ⅡA類が減少する点である。なおⅠ平類は西区Ⅳ上層で減少し、西区Ⅲ層で再び増加する。また東区ではそもそも出土量が少ない。

c．使用痕

分類は前項の磨石・敲石類に拠った。磨A・B・D類、凹A・B・C・E類、敲A類が認められた。磨B類と凹C類が多く認められ、中でもⅡA類はすべてが磨B類を有する。同一面に磨耗痕と凹痕が併存する例はほとんどなく、Ⅰ凹a類（図 3-8）の１点のみである。またⅠ類のなかで表裏両面を使用しているものは 16 点（48％）だが、破損品は 20 点中７点（35％）であるのに対し、完形品は 13 点中９点（69％）と高い割合で表裏両面を使用している。

d．付着物

赤色顔料が付着したものが東区４点、西区５点の計９点認められる（図 10-1・2、図 18-1、図 22-1、図 26-6）。すべてⅠ平類である。使用痕の広がりはa類２点、b類５点、敲類１点である。磨B類を有するものが多い。多量に出土している層位は、東区 15a～26 層（4 点）で、大洞C2 式期である。

(12) 砥石（図 2-9、図 22-4、図 27-4・5、図 30-4・5）

細粒の石材を利用した、帯状の研磨面をもつ資料。西区９点、東区３点の計 12 点出土した。うち西区６点、東区１点の計７点図示した。石材は砂岩８点、次いで泥岩４点である。すべて破損品であり、板状である。長さと幅が 10 ㎝以下で、厚さ１㎝前後の、小さく薄いものが多い。研磨面は表面のみ使

表９　石皿・台石類属性表

分類	計上数	法量平均				破損	石材						使用痕							
		長さ	幅	厚さ	重量		安山	花崗	砂岩	閃緑	泥岩	礫岩	磨A	磨B	磨D	凹A	凹B	凹C	凹E	敲A
Ⅰ凸	3	21.9	14.2	7.8	2807		2		1								2	2		
Ⅰ平	29	17.2	15.6	5.1	1913	20	21	1	3	1	1	2	4	18	3	2	2	10	8	6
Ⅰ凹	1	23.3	18.5	7.7	4800		1							2				2		
ⅡA	18	18.2	15.5	6.4	1660	12	18							18		1	1	1		3

表10　石皿・台石類出土層位

区・層位（型式） ＼ 分類	Ⅰ凸	Ⅰ平	Ⅰ凹	ⅡA
西Ⅲ層（山王Ⅲ層式）	2	5		2
西Ⅳ上層（山王Ⅳ上層式）		1		2
西Ⅳ下層（大洞A'式）	1	9		4
西Ⅴ層（大洞A2 式）		8		7
西Ⅵ層（大洞A1 式）		1		3
東 10~14 層（大洞A1･A2 式）			1	
東 15a~26 層（大洞C2 式新段階）		4		

用しているものが 10 点と、表裏両面使用しているものが２点ある。いずれも研磨面が表面または表裏面の全面を覆っているものが多い。また研磨面の断面はいずれも湾曲せず、平坦である。多量に出土する層位は西区Ⅵ・Ⅴ層で、いずれも 4 点出土している。

(13) 石錘（図 10-3、図 15-3、図 26-4）

紐を掛ける部位があり、錘としての機能が想定される資料。西区２点、東区１点の計３点出土した。石材は砂岩、泥岩、安山岩が一点ずつである。いずれも長さが 10 ㎝程度、重さが 150g 程度の小形品である。すべて礫の短軸に、打ち欠きによって抉り部を作り出す。図 26-4 は機能部に紐ずれ痕が認められる。出土層位は東区 22 層、西区Ⅲ層、西区Ⅴ層である。

（早川太陽・浅野　渓・山本ひなた・上條信彦）

第３章　出土石製品の分析

第１節　石製品の概要と分析法

今回対象とする石製品は、石棒・石刀・石剣類 68 点、独鈷状石器 4 点、円盤状石製品 343 点、異形礫 4 点、石製玉類 31 点、岩版 5 点、その他石製品 2 点である。

整理の手順はまず遺物の注記をもとに台帳との照合作業を行った。次に注記が不鮮明あるいは不明なものを含めて、新たに弘前大学の整理番号として遺物番号（弘大番号）をつけた。その後石棒・石刀・石剣で胴部断面形態や柄頭形態がわかるもの 48 点、独鈷状石器 4 点、円盤状石製品 49 点、異形礫 4 点、石製玉類 31 点、岩版 5 点、その他石製品 2 点の計 143 点を図示した。また、円盤状石製品については長径による分類を、その他のものに関しては先行研究をもとに分類した。

第２節　石棒・石刀・石剣

計 68 点ある。器種判断は、断面形が円形で刃部がないものを石棒、片側面に刃部があるものを石刀、両側面に刃部をもつものを石剣とした。すべて破損し、完形品はない。なお小片で断面形が不明なものも多数ある。そこで、器種判断が難しいものは一括して石刀・石剣類とする。また破片を再利用した刃器が 1 点ある。なお、整理の過程で、対象外の 1957・58 年調査出土資料 5 点（石棒 2 点、石刀 2 点、石刀・石剣類 1 点）が含まれていることが分かった。そこで、参考資料としてこれも掲載した。結果、石棒 10 点、石刀 32 点、石剣 4 点、石刀・石剣類 21 点、石刀片利用成品 1 点に区分される。なお型式分類は後藤（1986・1987）に拠った。

上記 68 点のうち、台帳などから出土位置を推定したものは 63 点である。出土区は東区 32 点、西区 24 点、そのほか 2 点である。層序別では、東区 7b 層（山王Ⅲ式期）1 点、東区 10 ～ 14 層（大洞A式期）9 点、東区 15 ～ 26 層（大洞C2 式期）22 点である。西区は西区Ⅲ層（山王Ⅲ式期）7 点、西区Ⅴ層（大洞A2 式期）7 点、西区Ⅵ層（大洞A1 式期）8 点、西区Ⅶ層（大洞C2 式期）2 点である。大洞A′～山王Ⅳ上層式期の西区Ⅳa・b・j・k 層（以下Ⅳ上層）および西区Ⅳ l ・m・n 層（以下Ⅳ下層）にはない。

石材は粘板岩が大半を占め 58 点（85％）で、頁岩が 3 点（3％）、砂岩 2 点、玄武岩・安山岩・緑色岩・珪化木がそれぞれ 1 点である。また 73 点のうち 17 点（25％）が被熱、白く変色する。

（1）石棒（図 37-1 ～ 9）（図版 32）

石棒 10 点のうち残存率が比較的高い 9 点を図化した。その他は小片である。1・2 は頭部が無文の石棒である。1 は西区Ⅲ層出土である。胴部部分で破断、かつ縦半分が欠損する。長さ約 21 ㎝分が残存し、復元すると長さ約 50 ㎝の両頭石棒になるとみられる。頭部は径 3.1 ㎝である。全面に研磨痕を残す。粘板岩製である。2 は東区 12 層出土である。頭部と胴部の一部を残す。粘板岩製である。3 は東区 21 層出土である。長さ約 26 ㎝分が残存し、長さ 40 ～ 50 ㎝の単頭石棒になるとみられる。頭部は径 3.4 ㎝の胴張で縦断面が四角形であり、2 条の沈線の間に半円状の沈線が施される。胴部には縦方向の研磨痕が観察される。粘板岩製である。4 は東区 10 層出土で、3 と同じく縦方向の研磨痕が全面に観察される。5・6 は 1957・58 年出土資料である。5 は棒状で頭部を明瞭に作り出さない無頭石棒である。頭部～胴部 20 ㎝ほどが残存し、復元長さ 40 ～ 50 ㎝とみられる。5 ～ 8 は表面全体に連続敲打による整形痕が全面に観察され、それを覆うように縦方向の研磨痕がある。粘板岩製である。9 は珪化木製で研磨痕が一部に残る。

（2）石刀（図 37-10 ～ 12、図 38-1 ～ 12、図 39-1 ～ 15）（図版 32 ～ 34）

石刀 32 点のうち残存率が比較的高い 30 点を図化した。その他は小片である。図 37-10・11 は石棒に比べ、断面が扁平な長方形を呈す。10・11 はいわゆる九年橋型石刀とみられる。10 は西区Ⅲ層出土の柄部である。頭部は幅 2.9 ㎝の台形で 3 条の沈線を巡らす。刃部を失うが、柄部と胴部の境界に 2 条の沈線が巡る。頁岩製である。11 は東区 22 層出土である。頭部は幅 3.1 ㎝の台形で、無文である。柄は短く、頭部から 2 ㎝のところから刃部が始まる。刃の平面形は直刃である。棟には幅 2 ㎜程度の断面Ｖ字形の溝が施される。粘板岩製である。12 は東区 25 層出土である。長さ約 21 ㎝が残存する。頭部は径 2.7 ㎝の卵形である。上下各 2 条の沈線が巡る。柄は短く、頭部から 2 ㎝のところから刃部が始まる。刃の平面形は直刃である。棟は円形である。粘板岩製である。

図 38-1 ～ 9 は柄部のみの破片である。1 は東区 18 層出土である。頭部は二段ある。頭部は台形で、縁に沿って台形の沈線を表裏面それぞれに巡らす。刃の一部が残るが刃関が明瞭ではない。粘板岩製で被熱している。柄頭の一部が黒色化する。2 は東区 13 層出土である。頭部は三角形で造りがやや粗い。粘板岩製である。3 は東区 20 層出土である。刃部が破損するが頭部から 22 ㎝が残り、復元すると長さ 35 ～ 40 ㎝とみられる。形態は九年橋型石刀である。頭部は台形で、上下 2 条の沈線を巡らし、その間に横位の弧文を左右側面に沿って挿入する。柄頭左右側面の下部には孔を穿つ。柄は 10 ㎝と長い。刃部は直刀で刃関が明瞭につく。棟は平坦でそこに幅 2 ㎜程度の断面Ｖ字形の溝を入れる。粘板岩製である。4 は西区Ⅲ層出土である。九年橋型石刀と推定される。頭部は台形で無文である。柄は 5 ㎝ある。棟の断面は円形で、幅 2 ㎜程度の断面Ｖ字形の溝を入れる。粘板岩製である。5 ～ 8 は頭部が円形の柄部である。5 は西区Ⅵ層出土である。頭部は楕円形で端部のみ面取りする。柄の長さは 8 ㎝ほどあり長い。粘板岩製である。6・7 は幅広形の柄部である。6・8 は東区 19 層、7 は西区Ⅶ層出土、9 は層位不明である。柄頭から約 20 ㎝が残存し、復元長さ 40 ～ 45 ㎝と推定される。頭部は明瞭に作り出さない。柄はほとんどなく、頭部直下から、刃部を研ぎ出す。刃部は残存部では内反りで先端に近づくと外反りに変わる可能性がある。棟の断面は円形である。粘板岩製である。8 は柄頭と柄部が沈線で区画されるが、明瞭には頭部を作り出さない。柄部は約 10 ㎝と長く、刀身に向かって広がることから、刀身幅はそれより大きいとみられる。

図 38-10 ～図 39-14 は刀身の一部である。図 39-1・8・13 は西区Ｖ層、図 39-2 は西区Ⅲ層、図 39-4・5 は東区 10 ～ 14 層、図 39-6・7 は東区 15 ～ 25 層、図 39-9 は西区Ⅵ層、図 39-10・12 は西区Ⅶ層、図 38-11・図 39-3 は 1957・58 年調査出土である。図 38-10 ～図 39-4 は細形で、図 39-5 ～ 14 は幅広形である。刃部は図 38-10 ～ 12、図 39-1・2 が直刃、図 39-3 ～ 14 が内反る。棟の平面形は図 38-10、図 39-1 ～ 5・7 ～ 14 が外湾、図 38-11・12、図 39-8 が直線状である。棟の断面は図 38-10 ～ 12、図 39-1 ～ 4 は平坦面を作り出し、図 39-5 ～ 14 は円形あるいは不明瞭である。全て粘板岩製である。図 39-15 は未加工であるが、棒状で片側面が刃部様であるため、石刀様の搬入礫として掲載した。石材は安山岩である。

（3）石剣（図 40-1・2）（図版 35）

石剣 4 点のうち残存率が比較的高い 2 点を図化した。その他は小片である。図 40-1・2 は石剣の剣身の一部である。1 は西区Ⅲ層出土である。扁平で幅 3.3 ㎝である。左右両側に刃部を作り出す。2 は西区Ⅵ層出土である。棒状で、形態や製作技法は図 37-4・5 の石棒に類似する。全体を連続敲打により整形した後、研磨する。刃付けが不明瞭で、刃部角は他に比べ鈍く、断面形が杏仁形になる。粘板岩製である。

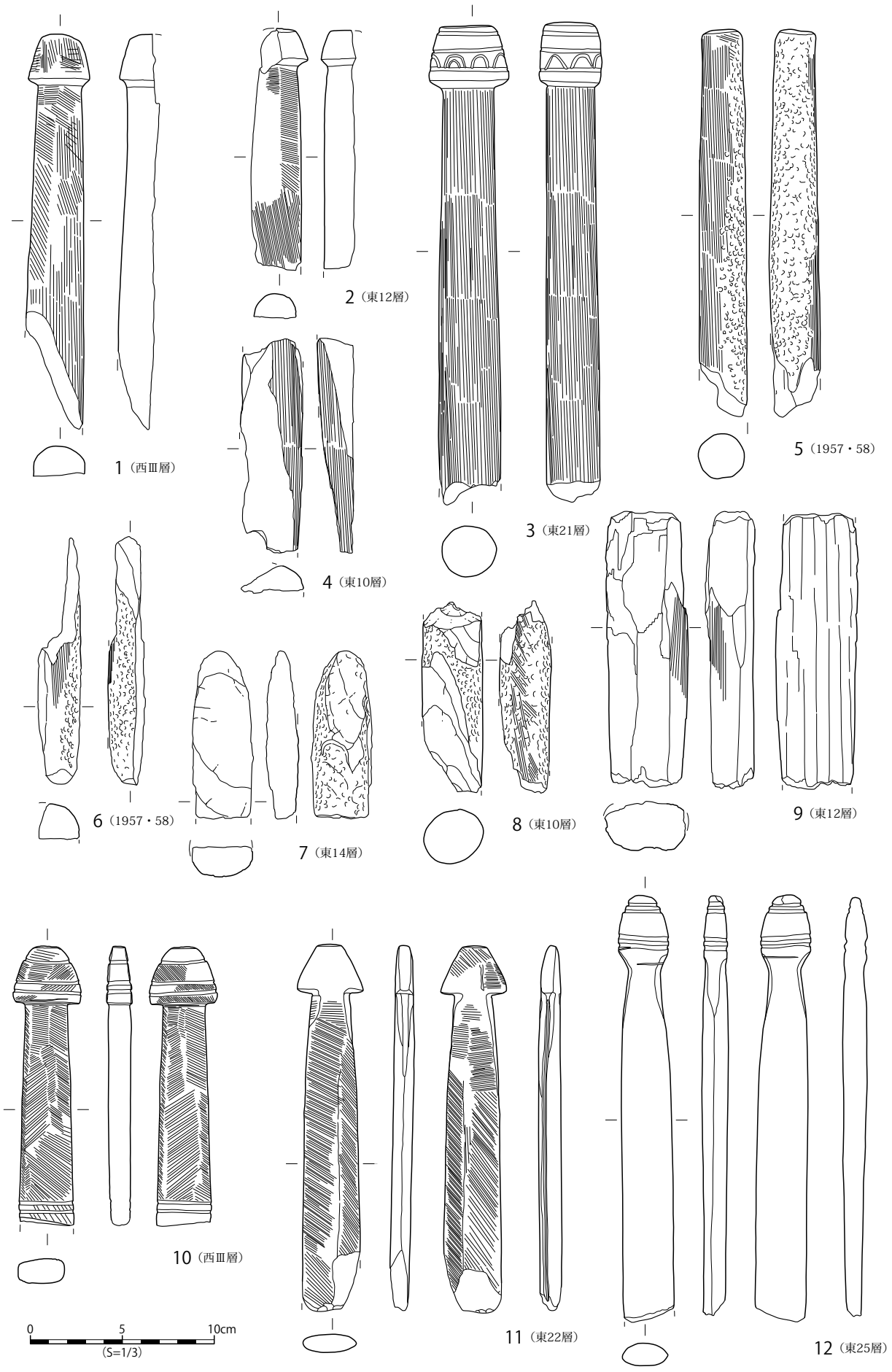


図 37　山王囲遺跡石製品１　石棒・石刀

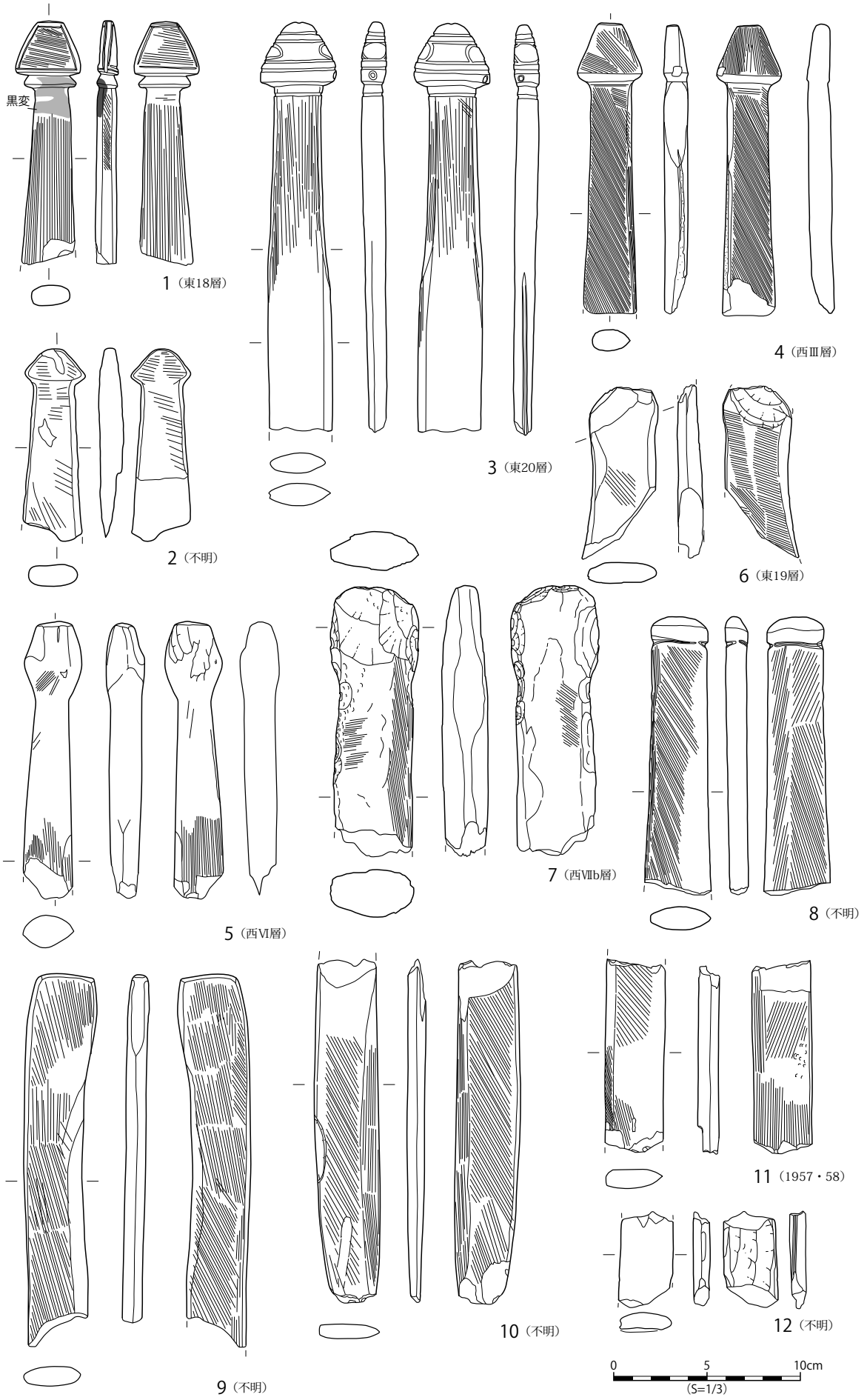


図 38　山王囲遺跡石製品２　石刀

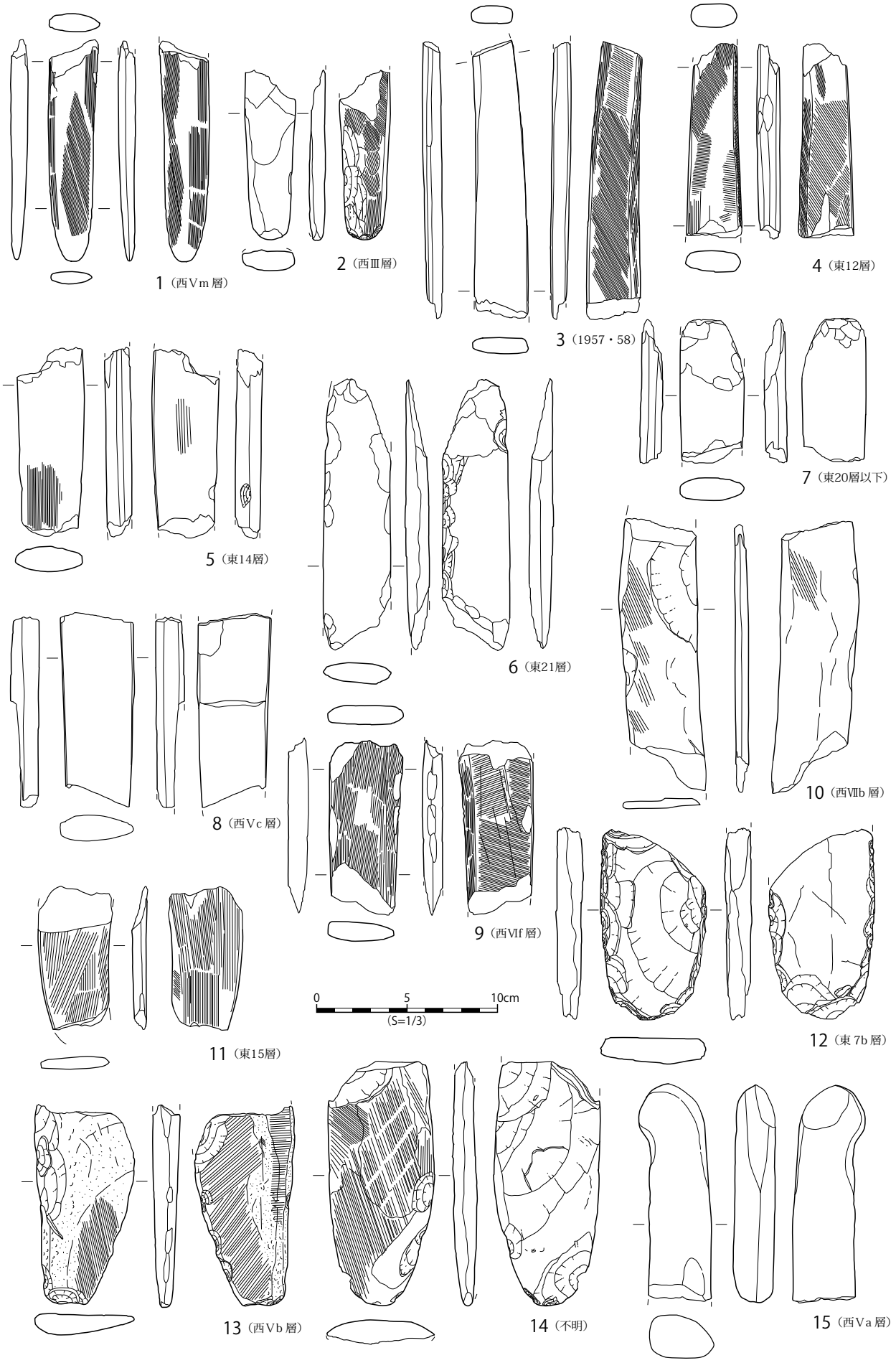


図 39　山王囲遺跡石製品３　石刀

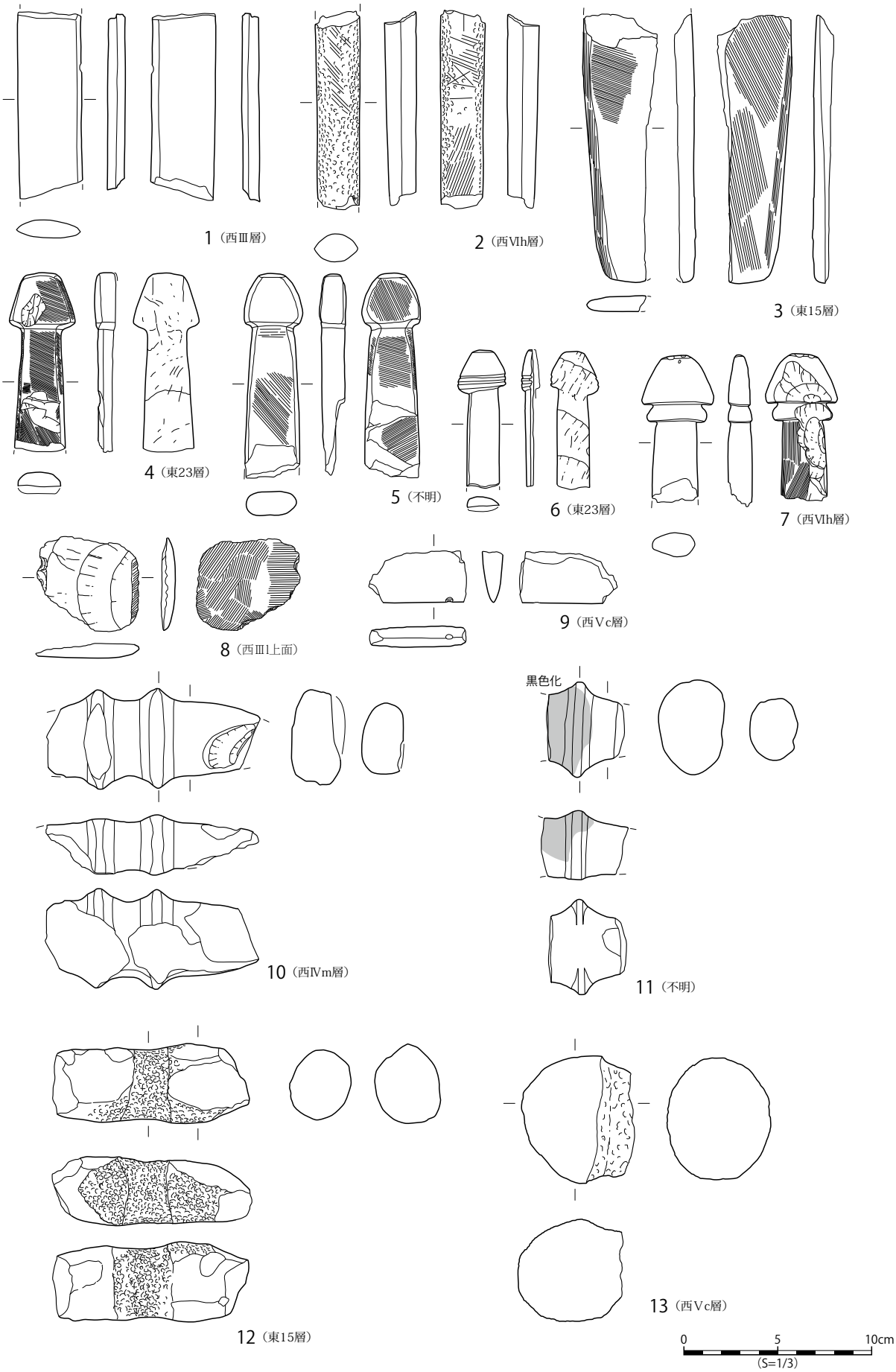


図 40　山王囲遺跡石製品４　石剣、石刀・石剣類、独鈷状石器

（4）石刀・石剣類、石刀片利用製品（図 40-3 ～ 9）（図版 35）

石刀・石剣類 21 点のうち残存率が比較的高い 7 点を図化した。その他は小片である。刃部がない柄部のみの資料で、石剣か石刀のいずれかと判断される。全て断面が扁平で、図 40-4 ～ 7 には台形の頭部がある。

3 は東区 15 層出土である。刀身のみで幅広形の石刀の可能性が高い。4 は東区 23 層出土である。頭部は台形で無文である。粘板岩製で被熱し変色する。5 は丸みのある台形で無文である。6 は東区 23 層出土である。4 と同様に縦半分を欠く。頭部は台形で 2 条の沈線を巡らす。粘板岩製で被熱により変色する。5 は西区Ⅵ層出土である。頭部は 2 段の台形で無文である。粘板岩製で、被熱により変色する。8 は 3 ㎝角の石刀片の剥離面縁辺を研磨し刃部を作り出す。西区Ⅲ層出土である。9 は他とは異なる石材が使われ、刃部様の断面Ｖ字形の小片である。擦切石器にもみられるが、擦痕がないため、便宜的に石刀・石剣類に加えた。西区Ｖ層出土である。

第３節　独鈷状石器（独鈷石）（図 40-10～13）（図版 35）

独鈷状石器（独鈷石）は 4 点出土した。すべて破損品である。図 40-10 は大洞A′式期の西区Ⅳｍ層出土である。被熱により半分が変色する。左右先端を欠くが、左右先端が尖状で長幅 15 ㎝程に復元される。左右 2 条の隆帯が巡り、全体形は反る。図 40-11 は中央の一部である。隆帯が残る。全体形は図 40-10 に類似する。被熱し、中央の隆帯間が黒色化する。12 は東区 15 層出土である。未成品とみられる。連続敲打によって中央に幅 3 ㎝ほどの溝を巡らせる。隆帯はまだ形成されていない。11 は大洞A式期の西区Ｖ層出土である。半分ほどが残る。本資料は他と異なり、中央に溝を巡らせるのみで、その他には整形痕はない。連続敲打によって中央に溝を巡らせる。石材は 10・12・13 が安山岩、11 が砂岩である。

第４節　円盤状石製品（図 41～43-12）（図版 36 ～ 38）

円盤状石製品は扁平な素材の周縁を剥離や敲打により円形に整形した石製品である。「石製円盤」や「円盤状石器」の呼称があるが、本書では「円盤状石製品」と呼称する。

円盤状石製品は計 343 点ある。調査区別では東区 170 点、西区 122 点、不明 51 点ある。大きさ平均は長径 6.1 ㎝、短径 5.7 ㎝、厚さ 1.8 ㎝、重量 123g である。層位別では東区 9b 層（大洞A′式期）1 点、同 10 ～ 14 層（大洞A式期）19 点、同 15 ～ 26 層（大洞C2 式期）149 点、西区Ⅳ下層（大洞A′式期）12 点、同Ｖ層（大洞A1 式期）17 点、同Ⅵ層（大洞A1 式期）71 点、同Ⅶ層（大洞C2 式期）21 点であり、大洞C2 式期を中心に大洞A1 式期まで盛行する。大洞A2 式期に急減し、山王Ⅳ上層式期や山王Ⅲ層式期など弥生時代へは継続しない。

石材は全 344 点中 260 点が安山岩で全体の 77％を占める。次いで凝灰岩 37 点（11％）、砂岩 18 点（5％）、閃緑岩 7 点、頁岩・粘板岩各 5 点ずつ、玄武岩 4 点、玉髄 2 点である。礫面の状態から河川転礫とみられ、ほとんどは付近の河川にある扁平礫を搬入してきたとみられる。また付着物は、全体の 3％にあたる 10 点にあり、それらのうちアスファルトが 3 点、アスファルトもしくはススの可能性がある黒色物が 5 点、赤色顔料が 3 点に付着する。被熱により変色する例が 6 点ある。

分類については本遺跡で出土している円盤状石製品は長径と短径がほぼ 1：1 の円形に整えられる。分類の際には、欠損品の多さを考慮し、残存率が高い長径による分類を行った。また長径と重量は比例する。そこで、長径を基準に小型・中型・大型に分類した。

小型：長径が 5 ㎝未満のもの。18 ～ 90g、平均 43g、48 点。

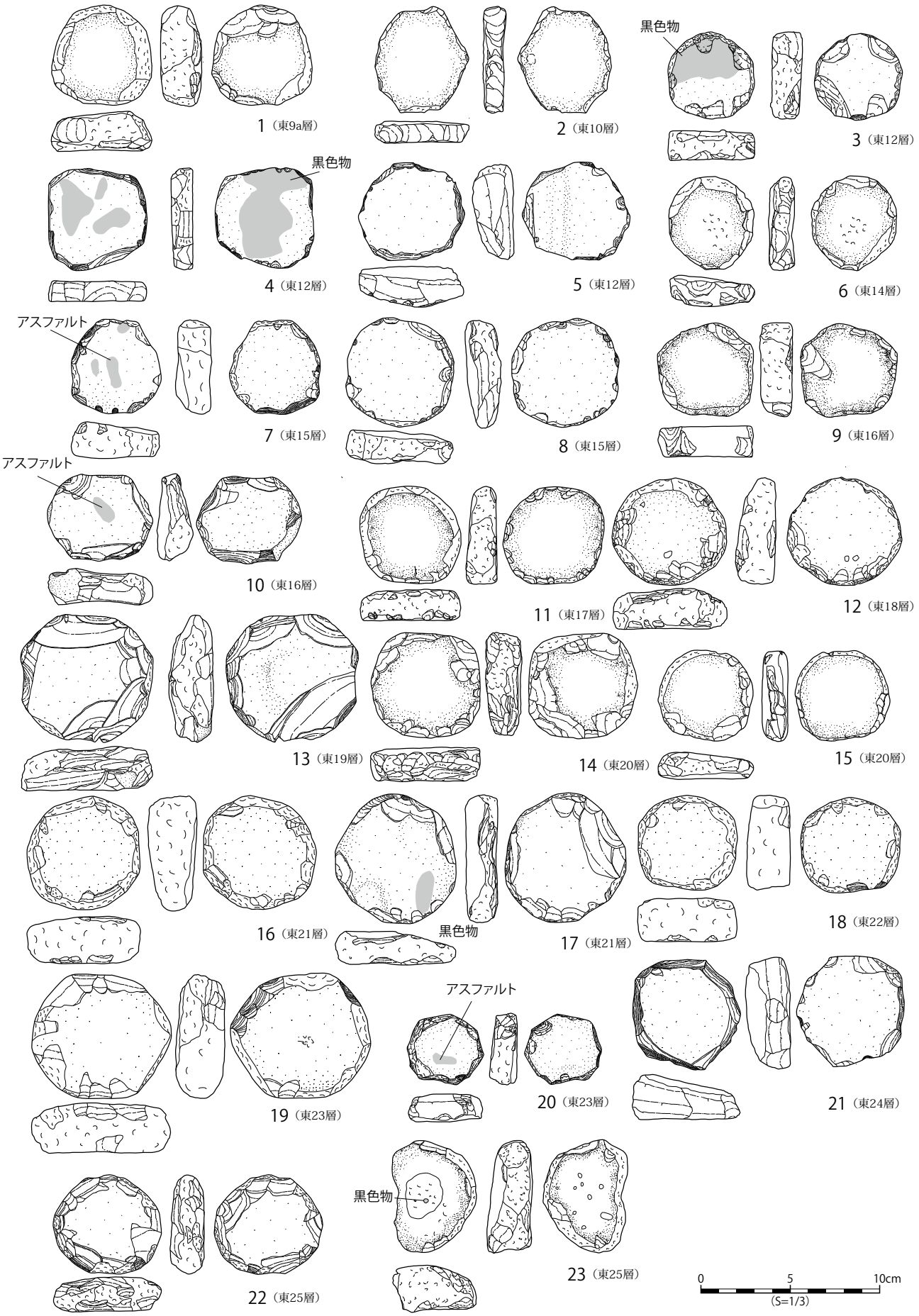


図 41　山王囲遺跡石製品５　円盤状石製品

中型：長径が 5 ㎝以上 7 ㎝未満のもの。30 ～ 190g、平均 100g、221 点。
大型：長径が 7 ㎝以上のもの。60 ～ 800g、平均 240g、75 点。

中型が 6 割以上を占める。製作は扁平礫の周縁を硬い台石などに叩きつけて角を取る方法を用いたとみられる。そのため、打点がつぶれた剥落が周囲に観察され、最終的に周縁は石器製作用ハンマーの使用痕と同じような敲打面を形成する。さらに周縁に観察される敲打面の角が磨滅しているものもあり、これは使用痕と判断される。

図 41-1 は東区 9a 層出土である。径 5.5 ㎝、厚さ 2.1 ㎝、重さ 111g で中型に属す。連続敲打によって周縁が円形に整えられる。

図 41-2 ～ 6 は東区 10 ～ 14 層出土である。東区 10 ～ 14 層 19 点の大きさ平均は径 5.8 ㎝、厚さ 1.7 ㎝、重さ 110g で小型 5 点、中型 11 点、大型 3 点で、ほぼ平均的である。図 41-3・4 には黒色物が付着する。石材は安山岩 14 点、凝灰岩 2 点、砂岩 1 点、粘板岩 2 点である。

図 41-7 ～図 42-2 は東区 15 ～ 26 層出土である。東区 15 ～ 26 層 149 点の大きさ平均は径 6.2 ㎝、厚さ 1.8 ㎝、重さ 123g で小型 22 点、中型 91 点、大型 36 点で、大型化する。図 41-7・10・21 にアスファルトが付着する。アスファルトは表面のみ中央に長径 2 ㎝ほどの楕円形の範囲に付着する点が共通する。また図 41-17・24、図 42-1 に黒色物が付着する。いずれも点的に広い範囲に認められる。図 41-19 は軟質な凝灰岩が用いられる。表面に 2 条 1 単位とする 3 本の放射状の線刻がある。裏面はランダム方向の線状痕が多数ある。同じように図 42-1 にも表面に 2 条 1 単位とする 3 本の放射状の線刻がある。製作法や大きさは円盤状石製品と同じである。図 41-20・24、図 42-2 のような中央に敲打の集中による凹痕が観察されるものが 6 点ある。大型品に多く、凹痕は磨石・敲石類の凹痕分類凹B・凹D類があり、比較的細かな敲打痕が集中する。よって大型品の一部には台石としての用途もあったとみられる。石材は安山岩 106 点、凝灰岩 4 点、頁岩 2 点、玄武岩 1 点、砂岩 1 点、閃緑岩 2 点、粘板岩 1 点で、安山岩を主体としつつも、種類は多様である。

図 42-3・4 は西区Ⅳ下層出土である。西区Ⅳ下層 12 点の大きさ平均は径 6.3 ㎝、厚さ 1.9 ㎝、重さ 132g で小型 2 点、中型 7 点、大型 3 点である。図 42-3 は大型、図 42-4 は小型品である。図 34-3 には中央に敲打の集中による凹痕が観察される。図 42-3 は大型品であることから、東区 15 ～ 26 層で観察されたものと同じように台石としての用途もあったとみられる。石材は安山岩 7 点、凝灰岩 3 点、砂岩 2 点である。

図 42-5 ～ 14 は西区Ⅴ層出土である。西区Ⅴ層 17 点の大きさ平均は径 6.6 ㎝、厚さ 1.8 ㎝、重さ 138g で小型 1 点、中型 12 点、大型 4 点でⅣ下層と同じ傾向である。図 42-9・13 に赤色顔料が付着する。赤色顔料の付着は他の層では見られず、この層の特徴かもしれない。図 42-14 は半球の頭を欠いた形状で側縁を剥離する。円盤状石製品の未成品とみられる。形状の特徴から、もとは大型石棒の一部であった可能性がある。円盤状石製品の石材は安山岩 10 点、凝灰岩 6 点、閃緑岩 1 点である。

図 43-1 ～ 9 は西区Ⅵ層出土である。西区Ⅵ層 71 点の大きさ平均は径 6.0 ㎝、厚さ 1.9 ㎝、重さ 117g で小型 13 点、中型 45 点、大型 13 点で、上層に比べ小型が増加する。図 43-8 は本対象中最も小さいもので、径 3.6 ㎝、重さ 18g である。片面からの剥離で円形に整える。中型品 1 点に赤色顔料が付着する。数の割には付着物が少ない。石材は安山岩 61 点、凝灰岩 6 点、玉髄 1 点、頁岩 2 点、粘板岩 1 点である。

図 43-10・11 は西区Ⅶ層出土である。西区Ⅶ層 21 点の大きさ平均は径 6.1 ㎝、厚さ 1.8 ㎝、重さ 117g で小型 1 点、中型 17 点、大型 3 点で、西区Ⅵ層や同時期の東区 15 ～ 26 層と同じ傾向にある。付着物はない。図 43-10・11 とも中型品である。石材は安山岩 16 点、凝灰岩 3 点、玄武岩 1 点、砂

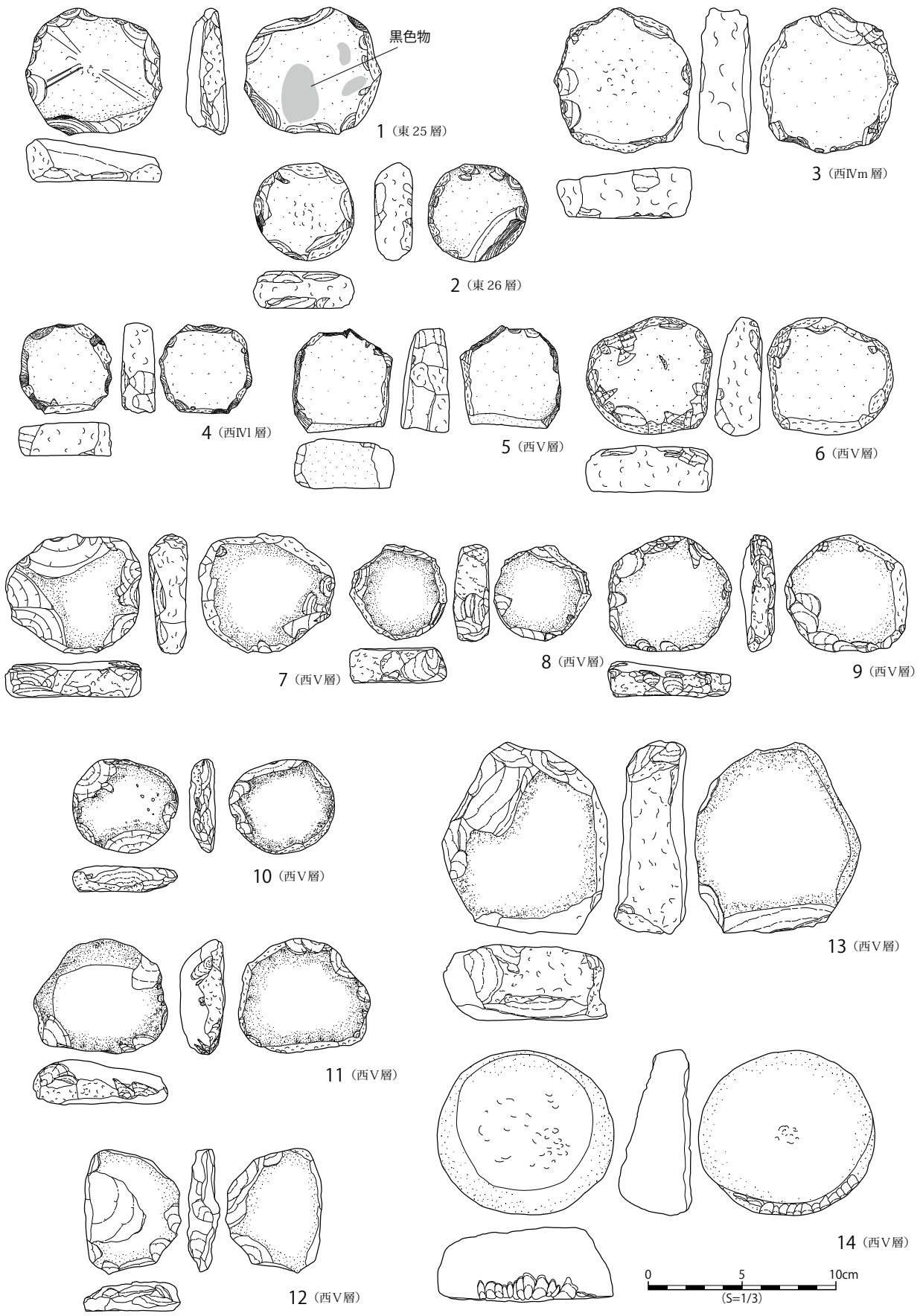


図 42　山王囲遺跡石製品６　円盤状石製品

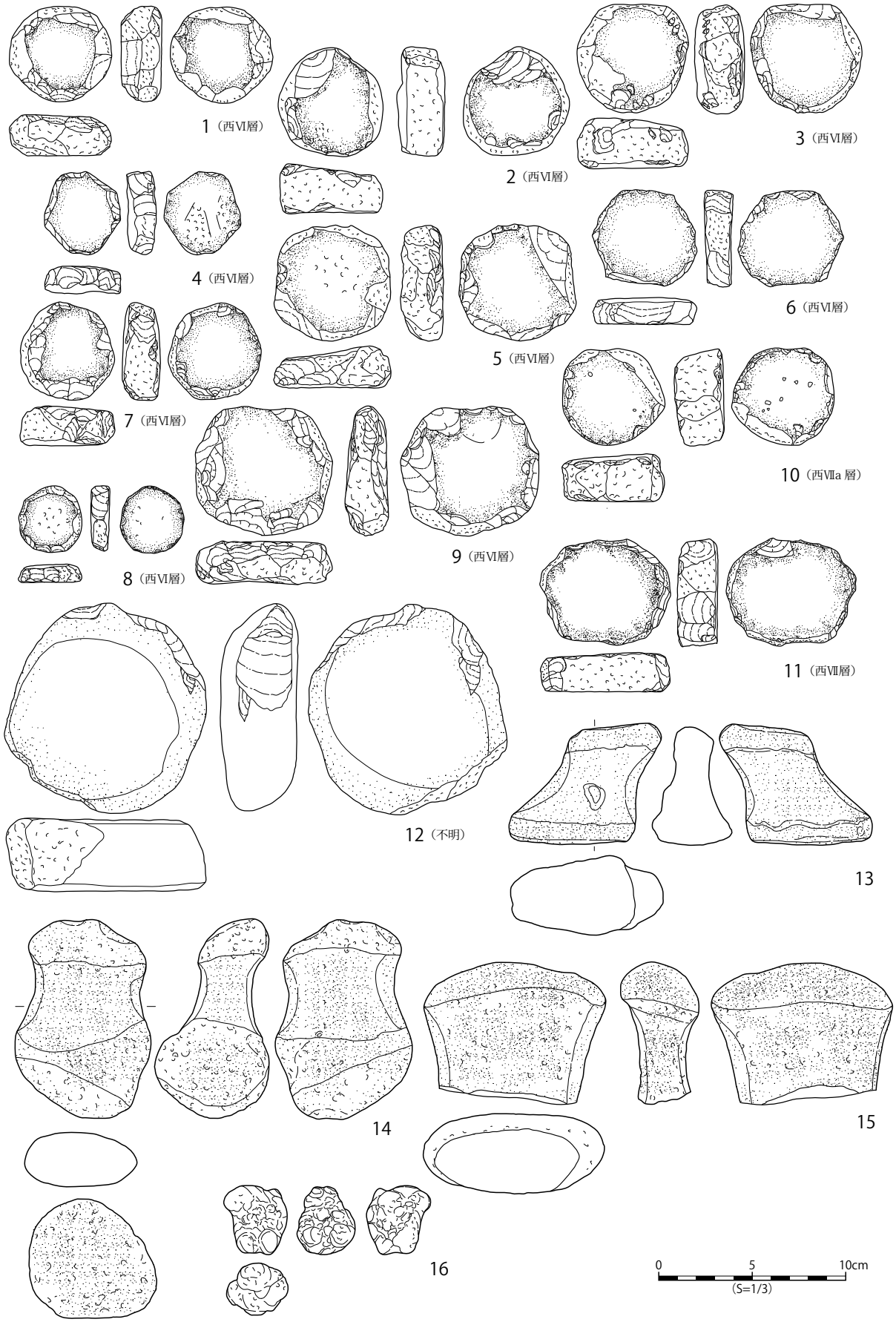


図 43　山王囲遺跡石製品７　円盤状石製品・異形礫

岩１点である。

図 43-12 は出土区不明である。本対象中最も大きい例で径 10.3 ㎝、厚さ 4.1 ㎝、重さ 759g である。礫の側縁に敲打面が観察され、剥落痕が少ないことから未成品とみられる。

第５節　異形礫（図 43-13～16）（図版 38）

搬入された自然礫のうち、使用痕や製作痕がなく楕円や球などとは異なり、後に使用の可能性がほとんどない不定形なもの。4 点ある。図 43-13 ～ 15 は中央がくびれる。図 43-13 は大洞C2 式期の東区 23 層出土である。石材は砂岩である。図 43-14 は東区 15 層出土である。石材は安山岩である。図 43-15 は層位不明である。石材の軟質な部分が水流による浸食作用で削りとられた結果、このような形になったとみられる。石材は安山岩である。下部は破損する。図 43-16 は大洞A式期の東区 13 層出土である。凝灰岩製で、硬質な部分が連接した複数の球状を呈す。

第６節　石製玉類（図 44-1～31）（図版 39）

石製玉類は計 31 点ある。なお玉類は後述する土製品にも多数あるため、ここでは石製に限り説明する。勾玉・平玉・丸玉・管玉の４種がある。内訳は勾玉３点、平玉 25 点、丸玉１点、管玉２点である。なお台帳では勾玉２点、管玉１点、平玉（小玉・青玉）23 点、計 26 点分が記載されている。その層序をみると、勾玉は３点とも西区Ⅴ層、平玉（小玉・青玉）は東区 15 ～ 26 層３点、西区Ⅴ層 19 点、西区Ⅵ層１点、不明３点、管玉１点は東区 14 層、西区Ⅴ層各１点である。西区Ⅴ層（大洞A2 式期）が多い。これは西区Ⅴb5 層において勾玉１点、平玉 15 点、土玉８点が一括出土したという記載がある。よって石製玉類の多くは大洞A式期で、弥生時代はほとんどなく、大洞C2 式期まで遡るものがあるとみられる。石材同定は肉眼での観察では限界があるため、ヒスイかどうか確認するために、比重測定、磁性観察を実施した。その結果、確実なヒスイは１点のみで、ネフライト 18 点、緑色凝灰岩８点、凝灰岩４点となる。ヒスイ以外の石材は今後の分析によりさらに細分される可能性がある。

図 44-1 ～ 3 は勾玉３点である。大きさは長さ 1.2 ～ 1.5 ㎝、厚さ 0.2 ～ 0.4 ㎝、重さ 0.4 ～ 0.9g で３点ともほぼ同じ大きさである。これらは晩期の勾玉の中では小型で薄い。また整形の程度が小さく、礫素材の形態をそのまま生かして作られるため、形がやや歪である。３点ともネフライト製である。図 44-1 は頭部に刻み目がない定形勾玉である。頭部と尾部の大きさはほぼ同じである。図 37-2 は頭部に刻み目を持つ定形勾玉である。内側の湾曲が弱くその上部に１本刻み目を入れる。図 37-3 も頭部に刻み目を持つ定形勾玉である。

図 44-4 は管玉である。西区Ⅴ層出土である。約半分が残り、残存長 0.6 ㎝で小型である。石材は緑色岩である。

図 44-5 ～ 30 は平玉 26 点である。東区 15 ～ 26 層（大洞C2 式期）３点、西区Ⅴ層 19 点、西区Ⅵ層１点ある。西区Ⅴ層が多く、西区Ⅴb5 層の一括出土品も含まれる。大きさは径 0.5 ～ 1.2 ㎝、平均径 0.8 ㎝、厚さ 0.2 ～ 0.9 ㎝、平均厚さ 0.4 ㎝、重さ 0.1 ～ 0.9g、平均重さ 0.27g である。おおむね径と厚さの比が２：１で表裏面を平坦に面取りする平玉である。石材はヒスイ１点、ネフライト 14 点、緑色凝灰岩７点、凝灰岩４点である。凝灰岩・緑色凝灰岩の平均径 0.8 ㎝、ネフライトの平均径 0.7 ㎝でネフライトのほうが一回り小さい。図 44-5 は凝灰岩製の未成品で、表裏面を平坦に研磨し穿孔した後に、周縁を円形になるように研磨整形する。図 44-6 は本資料中最も小さい平玉で径 0.5 ㎝、厚さ 0.2 ㎝である。

図 44-29 は丸玉で、小玉のなかでは本資料中最も大きい。ヒスイ製である。径 1.2 ㎝、厚さ 0.9 ㎝である。

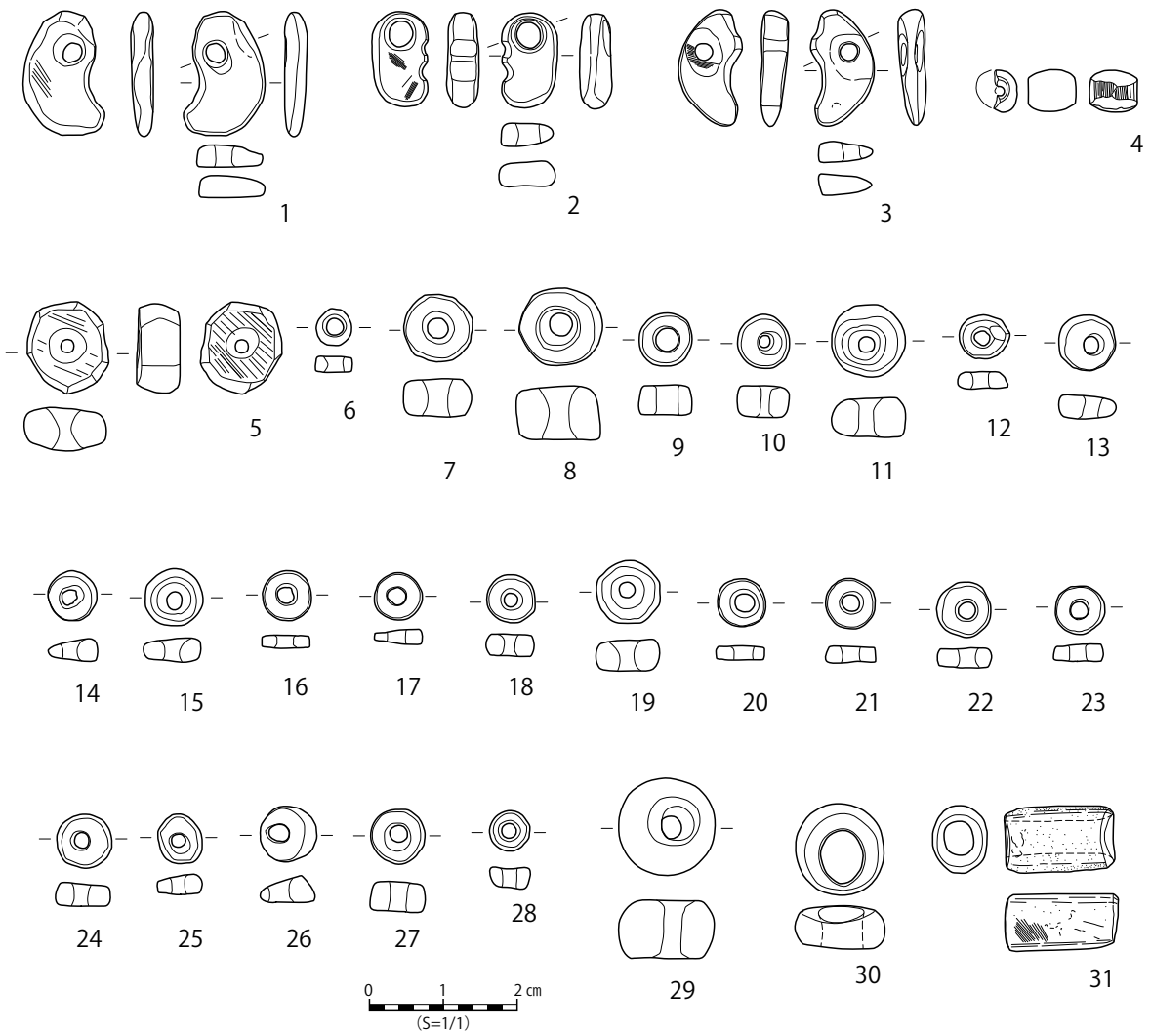


図 44　山王囲遺跡石製品８　玉類

図 44-31 はネフライト製の管玉である。注記はないが台帳から東区 14 層（大洞A式期）出土と推定される。被熱により劣化する。長さ 1.4 ㎝、最大径 0.8 ㎝、1.3g である。横断面は短楕円で、縦断面は中央がやや膨らむ。

第７節　岩版（図 45-1 ～ 5）（図版 40）

岩版は 5 点ある。出土位置は西区Ⅴ層（大洞A2 式期）2 点、西区Ⅵ層（大洞A1 式期）3 点で、大洞A式期にまとまる。図 45-1 は 7.5 ㎝角の扁平四角形の礫を無加工でそのまま用い、線刻する。刻文は表裏面にあり、両面とも正中線を入れ、左右に弧文を入れる。弧文が表面に左右 2 単位ずつ、裏面には左右 1 単位ずつ配される。各弧文は一～三重ある。図 45-2 も図 45-1 に類似する。5 ㎝角の扁平四角形の礫をそのまま用いる。刻文は正中線がないが、上下 2 つの凹みがある。表裏面の各左右に 1 単位の弧文が配される。図 45-3 は岩版側面の一部とみられる。西区Ⅴ層出土である。比較的軟質な凝灰岩が用いられているため劣化が進む。破片 4.5 ㎝分が残り、全体形は幅 10 ㎝ほどの長方形もしくは長楕円形の大型品に復元される。刻文は表裏面とも多重の弧文がみられる。図 45-4 は緻密な細粒砂岩

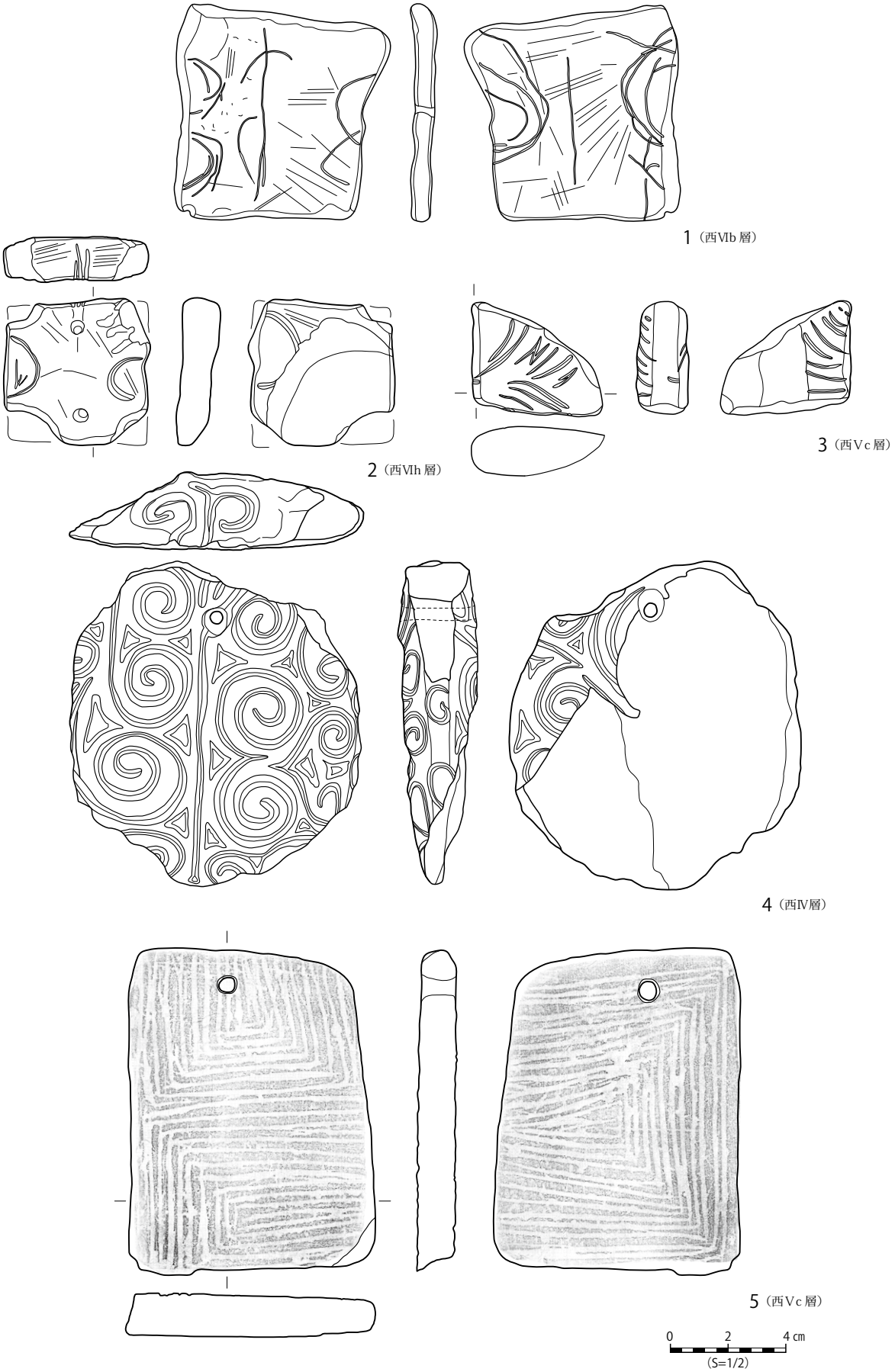


図 45　山王囲遺跡石製品９　岩版

で裏面を欠くが全体形は復元できる。注記がないものの、伊東・須藤（1985）によれば西区Ⅵ層とみられる。全体形が楕円形でハンバーグ状を呈する。長さ 11 ㎝、重さ 200g以上の大型品である。刻文は端部に孔がある正中線を入れ、その左右に三単位の渦巻き文を縦に配す。この渦巻文から派生して側面近くにも渦巻文を埋める。渦巻文間の隙間には三叉文を充填する。裏面は刻文の大部分を欠くが渦巻文があったとみられる。孔は貫通する。図 45-5 は西区Ⅴ層出土である。1/4 ほど 11 × 8.5 ㎝分が残る。復元すると 20 × 16 ㎝の大型品になる。板状の凝灰岩の角を研磨し、長方形にする。刻文は表裏面とも多重のコの字形文で、表面は上下 2 単位、裏面は 1 単位を全面に配す。本来はおそらくこの文様が左右上下対称に配置されていたとみられる。上部側に穿孔する。この穿孔も左右 2 つあったうちの 1 つとみられる。

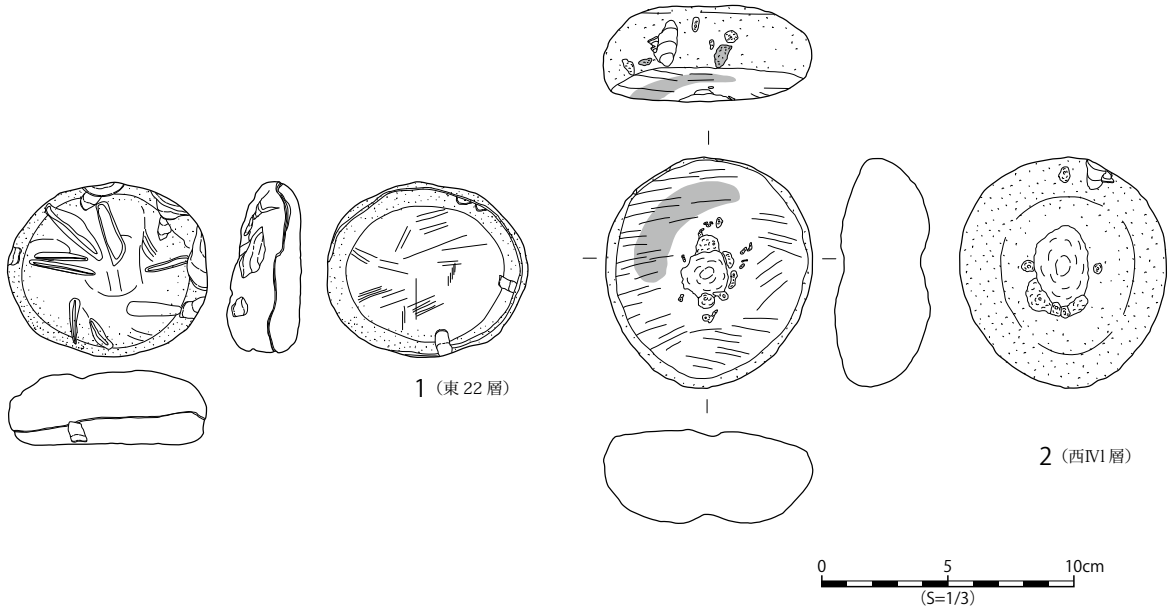


図 46　山王囲遺跡石製品 10　その他石製品

第８節　その他石製品（図 46-1・2）（図版 41）

軽石あるいは凝灰岩といった軟質な石材を加工した製品である。出土位置は東区 22 層と西区Ⅳ1層で、大洞C2 式～大洞A式期に該当する。一見磨石のようにみえるが、軟質な素材で意図的な面取りや凹み、沈刻がある。図 46-1 は表面に放射状に沈刻を入れ、側辺に 1 条の沈刻が巡る。裏面は研磨し平坦にする。2 は表裏面中央に径 3 ㎝、深さ 1 ㎝ほどの凹みを入れる。この凹みは平面形が円形、断面形が半円状で、内面が磨かれ定型的である。このことから使用痕跡の凹痕とは異なり、意図的に作り出された凹みと判断した。赤色顔料が付着する。

（木村隼士・上條信彦）

第４章　出土土製品の分析

第１節　土製品の概要

土製品は質・量ともに豊富である。土偶 22 点、土版６点、土玉類 391 点、土製小型垂飾 397 点、耳飾 53 点、円形土製品１点、ミニチュア土器２点、有孔土製品１点、円盤状土製品２点、そのほか小片３点、全９種計 875 点ある。特に土玉類・土製小型垂飾・耳飾といった装飾品は 841 点あり、全国的に屈指の量である。

整理の手順は遺物の注記をもとに台帳との照合作業を行った。また注記が不鮮明あるいは不明なものもあるため、新たに弘前大学の整理番号として遺物番号（弘大番号）をつけた。また土玉類、土製小型垂飾、耳飾は集中出土例があるため、グリッド単位でも検討する。

グリッドについては 1965 年の発掘調査において、第一次調査の発掘区をとりこみ西北－東南の方位に長さ 16 m、幅 12 mの調査区が設定された。この調査区を３×３のグリッドで４段６列に仕切り、西南隅から東北方にＡ～Ｘのグリッド名が与えられている。出土地点の分析はこのグリッド・層位を基準に行う。また、注記が不明なものは弘○といった独自の番号を付けている。

第２節　土偶（図 47・48）（図版 42・43）

土偶は 22 点ある。全て破片で完形品はない。東区 10 点、西区 12 点である。層位別では東区 10 ～ 14 層２点、東区 15 ～ 26 層８点、西区Ⅲ層２点、西区Ⅳ下層３点、西区Ⅴ層６点、西区Ⅵ層１点である。時期別では山王Ⅲ式期２点、大洞A′式期１点、大洞A2 式期６点、大洞A1 式期１点、大洞C2 式期８点で、おおよそ大洞C2 式期から山王Ⅲ層式期まであるが、山王Ⅳ上層式併行の例はない。

1・2 は東区 10 ～ 14 層出土である。1 は胴部の頭髪とみられ左右にＴ字形に広がる。2 は右肩～腕部である。3 ～ 8、22・23 は東区 15 ～ 26 層出土である。22・23 は注記がなく台帳記載からの推測に拠る。3 ～ 8 は中空土偶である。3 は頭部、4 は右脚部である。3 と 4 は同一個体とみられる。3 は頭部右側の一部で眼が分かる。5 ～ 7 は上脚部の一部である。5・6 は一度外れて破断面をアスファルトで補修した跡が残る。8 は胴～上脚部である。正中線を入れ、臍部を穿孔する。22 は左腕部で肩部に渦巻き文を入れる。23 は右腕部で、肩先にはＢ突起がある。

9・10 は西区Ⅲ層出土である。9 は中空の頭部でブリッジ状の頭髪があったとみられる。目は１条の沈線のみで表現し、耳は穿孔する。10 は右胴～腕部である。肩から胸まで隆帯を入れ、その上を多数の刺突文を入れる。11 ～ 13 は西区Ⅳ下層出土である。11 は中空の頭部で幅 10 ㎝を超える大型品である。頭髪は 9 と同じブリッジ状であるが、眼や口は刻目を入れた隆帯で環状に表現する。12 は中実の胴部下半～上脚部である。腹部から脚部にかけて細かな刺突が多数施される。13 は頭髪上部である。横方向の多重沈線で表現される。図 48-1 ～ 6 は西区Ⅴ層出土である。1 は胴～左腕部、2 は右肩～腕部である。いずれも胴部は中空だが腕部は小さめで中実になる。上半は横沈線を３条ほど入れる。1 の腹部は正中線を入れその両脇に連続弧文を施す。3 は頭部である。頭髪を欠くが、ブリッジ状の頭髪があったとみられ、基本型は図 47-11 と同じである。眼や口は刻目を入れた隆帯で環状に表現する。4 ～ 6 は胴下半の一部である。うち 4・5 は上脚部である。4 の股は穿孔する。4・5 ともに一度外れたとみられ、破断面にアスファルトによる補修跡が残る。6 は胴下部から左脚部が残る。胴部は中空で、脚部は中実である。正中線は刺突で表現し、その両脇を二重の連続弧文を施す。下腹部は多数の刺突を施し、上脚部は同心円文である。脚部の底部は大きく開き、おそらく直立できるとみられる。6 は中実の上半部である。板状の小型品で、中空の大型品とは異なる造りである。両耳は大きく穿孔し、眼

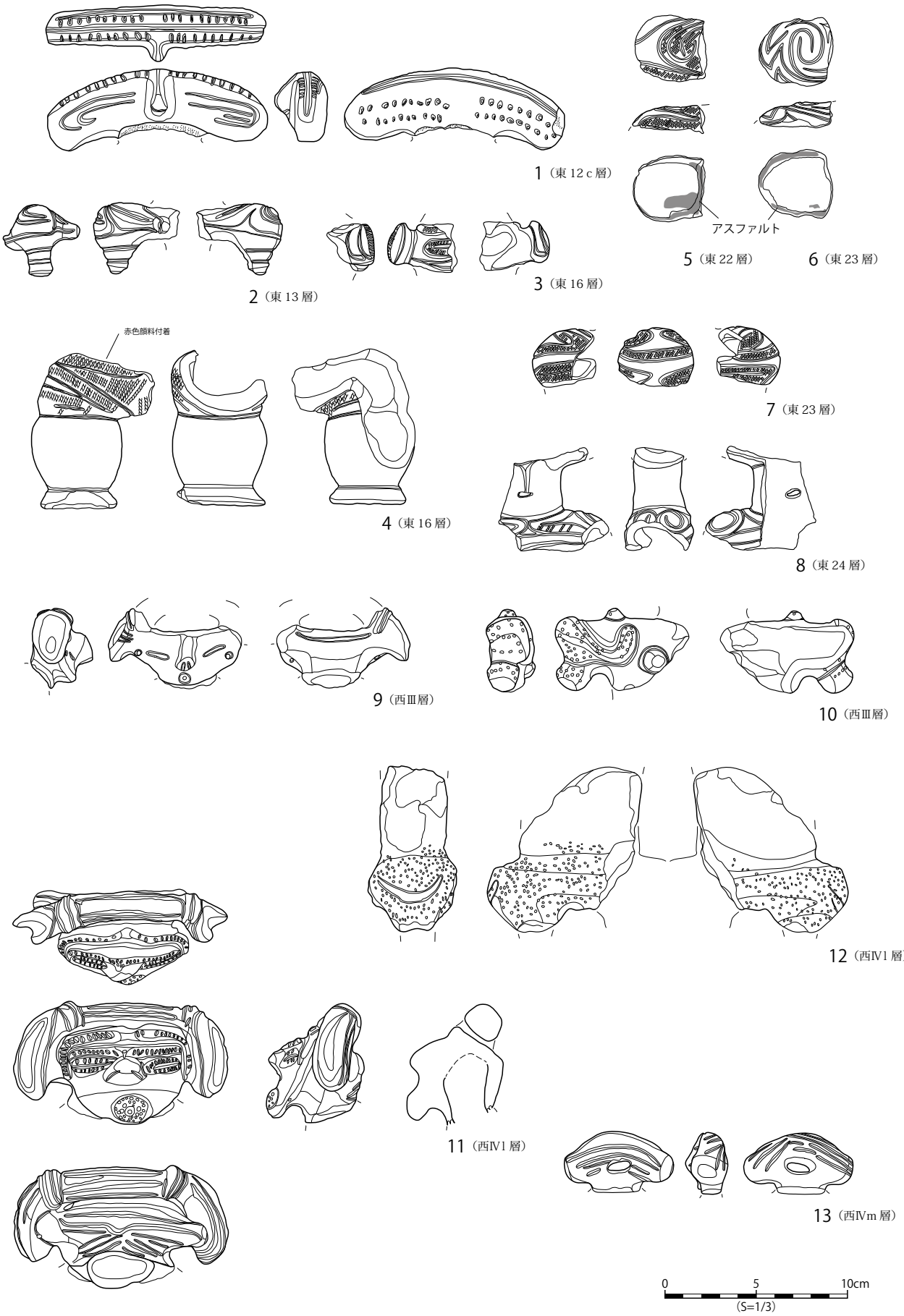


図 47　山王囲遺跡土製品 1　土偶 1

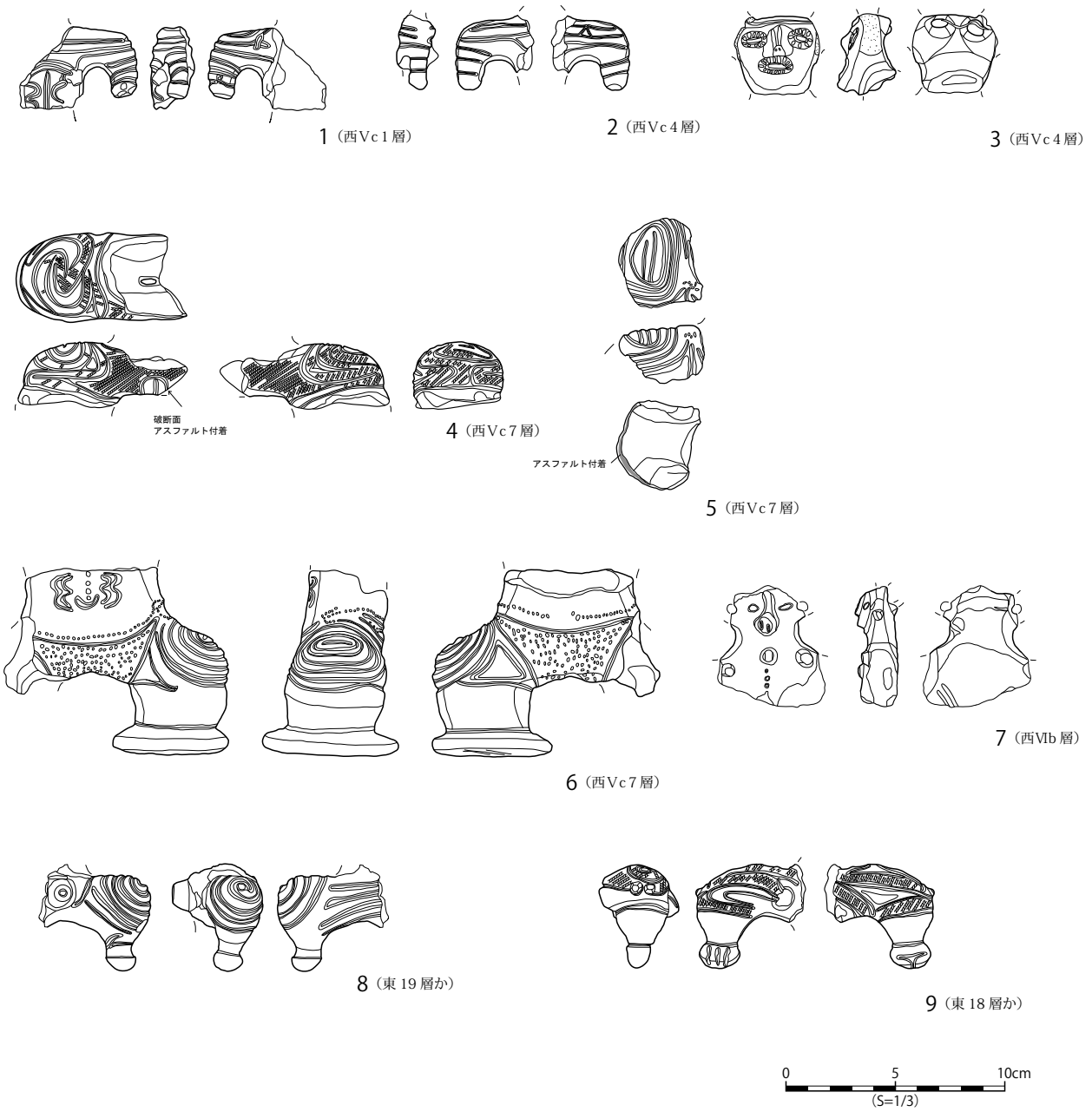


図 48　山王囲遺跡土製品２　土偶２

と口は刺突で表現される。両胸は粘土を貼り付け、その間隔が広い。正中線は刺突で表現される。

第３節　土版（図49）（図版44）

土版は６点ある。全て西区Ⅴ～Ⅶ層出土である。１～３は西区Ⅴ層出土で大洞A2 式期に属す。１～３は方形である。１は大型品の一部、２は４㎝角の小型品、３は大型品の 1/4 程度の破片で長さ 14 ㎝ほどに復元される。主文様は３点全て同じである。文様は正中線を入れ、両脇に多重のコの字形文を上下２単位配置する。このモチーフは岩版（図 45-5）にもある。２は上部の左右に２ヶ所穿孔があり、３も同じ穿孔があったとみられる。６は西区Ⅶ層出土である。方形で７㎝角の小型品である。文様は

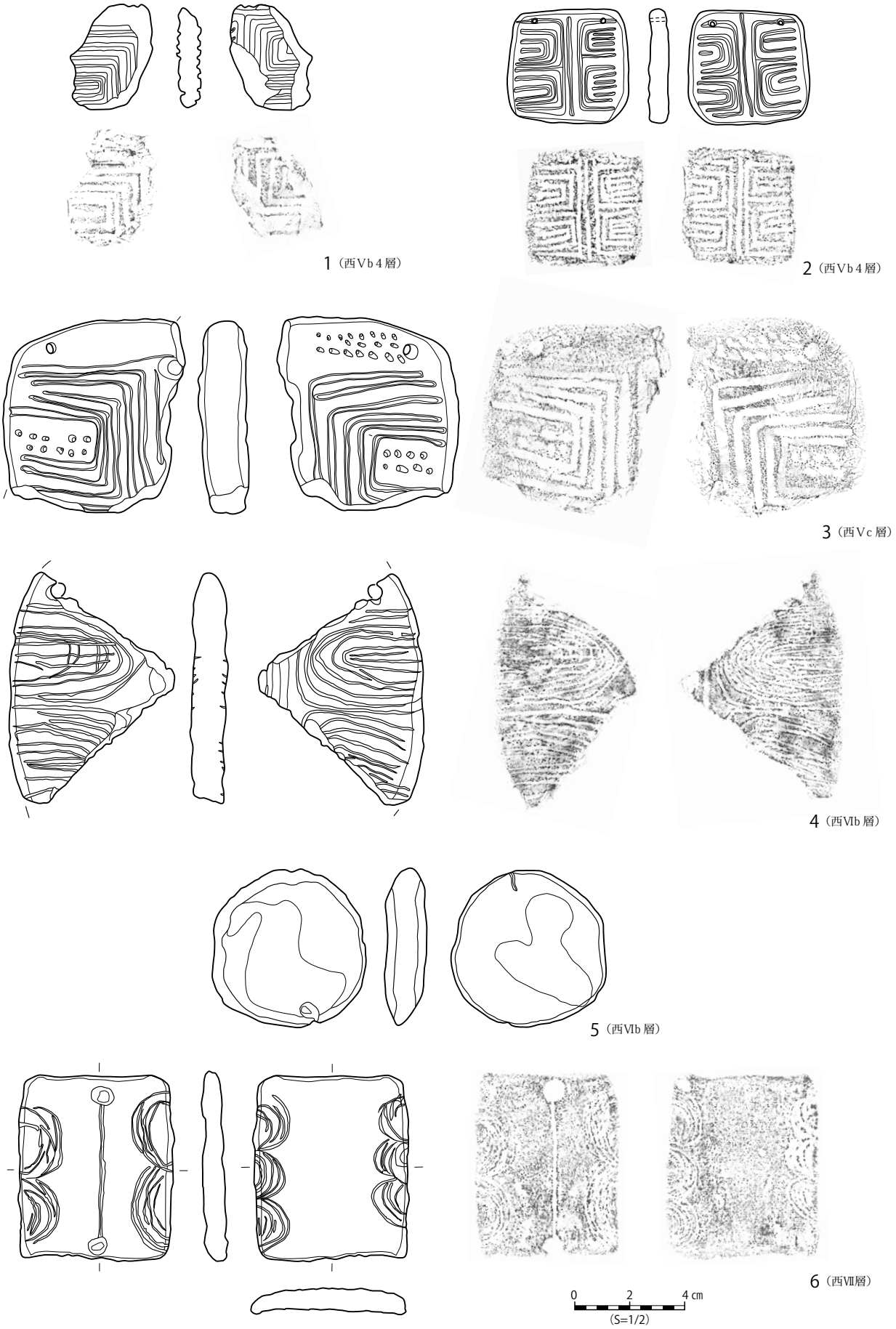


図 49　山王囲土製品３　土版

１～３と異なり、上下に凹みのある正中線を入れ、左右両脇に連続する多重の弧文を配置する。弧文は表面が２単位、裏面は３単位ある。硬質で一見岩版に見える。施文モチーフも岩版（図 45-1・2）に類似する。4・5 は西区Ⅵ層出土で、大洞A1 式期に属す。4 はハンバーグ形の楕円形、5 は小型の円形である。4 は 8.4 × 6.1 ㎝で 1/4 ほどが残り、16 × 12 ㎝の大型品に復元される。文様モチーフは 6 と同じで、正中線をいれ、左右両脇に連続する多重の弧文を配置する。上部の左右に２ヶ所穿孔があったとみられる。5 は円板形で無文、無穿孔である。

第４節　土玉

（1）土玉類の分類

土玉類は集中出土地点２ヶ所を除けば390点ある。平面・断面形態、施文による種類は丸玉・棗玉・平玉・括れ玉・管玉・楕円玉・方形玉・施文玉・円盤玉・十字玉・三角玉・勾玉・Ｖ字形垂飾など少なくとも 12 種と多様である（図 50）。

丸　玉：主に球状。平面・断面ともに正円に近いもの。5 点（図 51-1 ～ 5）。

棗　玉：平面は円形で、小口面を面取りすることで、断面が隅丸長方形を呈するもの。66 点（図 51-6 ～ 71）。

平　玉：平面は円形で、小口面を広く面取りすることで、断面が長方形を呈するもの。23 点（図 52-1 ～ 23）。

括れ玉：平面が円形で、断面が隅丸方形に近いもののうち、側面中央に沈線を巡らせることで全体形が括れるもの。108 点（図 53-1 ～ 78、図 54-1 ～ 30）。さらに穿孔の位置によってＡ・Ｂ類に分ける。

管　玉：円柱状を呈するもの。直径 1 に対して厚さが 1.5 以上のもの。側面中央に沈線を巡らせる。7 点（図 54-31 ～ 37）。

楕円玉：側面を面取りすることにより、平面・断面ともに楕円形を呈するもの。沈線を巡らせ施文する。78 点（図 55-1 ～ 78）。

方形玉：側面と上下面、小口面を面取りすることにより、平面・断面ともに隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するもの。55 点（図 56-1 ～ 55）。

施文玉：棗玉、楕円玉、方形玉を基調として、その外面に単沈線以外の文様があるものを便宜的にここに区分する。26 点（図 57-1 ～ 26）。

円盤玉：円盤状を呈し、側面から穿孔する。施文がある例もある。4 点（図 57-27 ～ 30）。

十字玉：沈線などにより、側面が十字形を呈するもの。2 点（図 57-31・32）。

三角玉：小口面が三角形を呈するもの。2 点（図 57-33・34）。

Ｖ字形垂飾：下部が二股に分かれた逆Ｖ字形の垂飾。2 点（図 57-35・36）。

そのほか、破損により形態分類不明が 11 点ある。

９割近くの土玉類は赤色顔料が付着することから、赤彩され、赤色顔料が認められなかったものも、摩耗により赤彩が剥がれたと

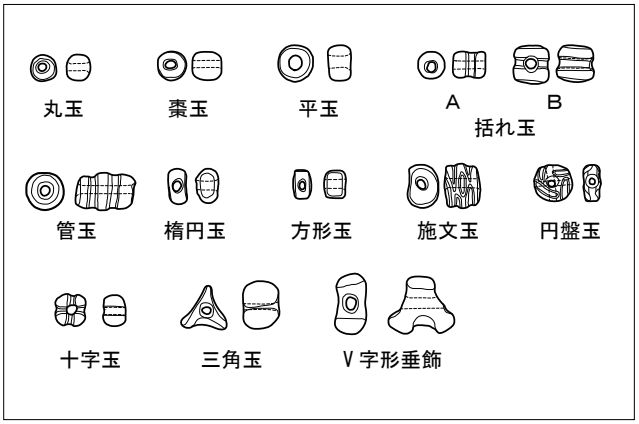


図 50　土玉類の分類

思われるものが多く、土玉類は全て赤彩されたと推定される。また胎土が黒色なものが 232 点（60%）あり、土器とは異なり、ススが吸着するようなおき火といった比較的低温下での焼成が考えられる。

（2）土玉類の分類別分析

a．丸玉（図 51-1 ～ 5）（図版 45）

5 点あり、出土数は少ない。西区 4 点、不明 1 点である。出土層位は西区Ⅴ層（大洞A2 式期)3 点、Ⅵ層（大洞A1 式期）1 点で、西区Ⅴ層にまとまる。

大きさは長さ 4.1 ～ 7 ㎜・平均 5.1 ㎜、幅 3.6 ～ 4.2 ㎜・平均 3.98 ㎜、厚さ 2.7 ～ 4.5 ㎜・平均 3.9 ㎜、孔径 0.8 ～ 1.7 ㎜・平均 1.26 ㎜、重さは 0.1 ～ 0.2g・平均 0.12gである。断面は円形に近いが、正円はなくやや歪む。全て赤彩される。

b．棗玉（図 51-6 ～ 71）（図版 45）

66 点ある。東区 1 点、西区 64 点、不明 1 点で西区に偏る。層位は東区 11 層（大洞A式期）1 点、西区Ⅴ層（大洞A2 式期）39 点、西区Ⅵ層（大洞A1 式期）23 点で大洞A式期を通じてみられる。特に西区Ⅳa・Ⅴc7・Ⅴc1 層で 10 数点あり、およそ西区Ⅵ層上層から西区Ⅴ層下層の間に集中する。西区Ⅴ層上層では少なくなる。グリッド別では西区ではＭグリッド 11 点、Ｑグリッド 16 点、Ｕグリッド 10 点とⅤc層の分布域に多い。

大きさは径 2.3 ～ 11.4 ㎜・平均 5.26 ㎜、厚さ 2.8 ～ 8.7 ㎜・平均 4.68 ㎜、孔径 0.9 ～ 3.6 ㎜・平均 1.95 ㎜、重さは 0.1 ～ 0.7g・平均 0.16gである。図 51-7・61・70・71 は径約 8 ㎜で平均より 2 倍ほどの大型品である。図 51-6・7・9 のように径よりも長さが短く臼玉に近いものと、図 51-61・65・66・70・71のように、径よりも長さが大きく管玉に近いものがある。ほとんどに赤彩がされる。

c．平玉（図 52-1 ～ 23）（図版 46）

23 点ある。東区 2 点、西区 21 点ある。層位は東区 10 層 1 点、東区 21 層 1 点、西区Ⅵ層 2 点、西区Ⅴ層 19 点で圧倒的に大洞A2 式期の西区Ⅴ層に多い。棗玉と同じくⅤc7 層とⅤc1 層が 7・8 点と集中する。西区Ⅵ層上層で現れはじめ西区Ⅴ層下・中層で集中し、西区Ⅴ層上層では少なくなる傾向である。グリッド別ではＭ・Ｒグリッド各 5 点が目立ち、これも棗玉と同じである。

大きさは径 3.2 ～ 7.3 ㎜・平均 4.8 ㎜、長さ 2.4 ～ 5.2 ㎜・平均 3.2 ㎜、孔径 0.9 ～ 2.6 ㎜・平均 1.86 ㎜、重さは 0.1 ～ 0.2g・平均 0.11gである。図 52-3 は径 4 ㎜の最小品、図 52-2 は径 7 ㎜で最大品である。図 52-2 は東区 21 層出土で唯一大洞C2 式期に位置づけられる。またこの資料は大きさの割には軽いため、胎が粘土ではなく植物である可能性がある。ほとんどが赤彩される。

d．括れ玉（図 53-1 ～ 78、図 54-1 ～ 30）（図版 47・48）

108 点ある。小鼓形を呈し表裏の小口面に穿孔されるものをA類、円筒形を呈し、側面に穿孔されるものをB類とした。括A類 102 点、括B類 6 点ある。東区 1 点、西区 105 点、不明 2 点ある。層位は東区 11 層 1 点、西区Ⅳ上層 1 点、西区Ⅴ層 92 点、西区Ⅵ層 11 点であり、大洞A2 式期の西区Ⅴ層に多い。特にⅤc7 層 61 点、Ⅴc4 層とⅤc1 層で 10 数点出土しており、棗玉や平玉と同じく、Ⅴc7 層に偏る。グリッド別では西区Ｑグリッド 31 点、Ｍグリッド 25 点、Ｎグリッド 19 点で、Ｍグリッドは棗玉や平玉と同じであるが、Ｑ・Ｎグリッドに多いのは特徴的である。括B類は西区Ⅴ層のみにあり、なかでも西区Ⅴc7 層Ｎグリッドに多い。

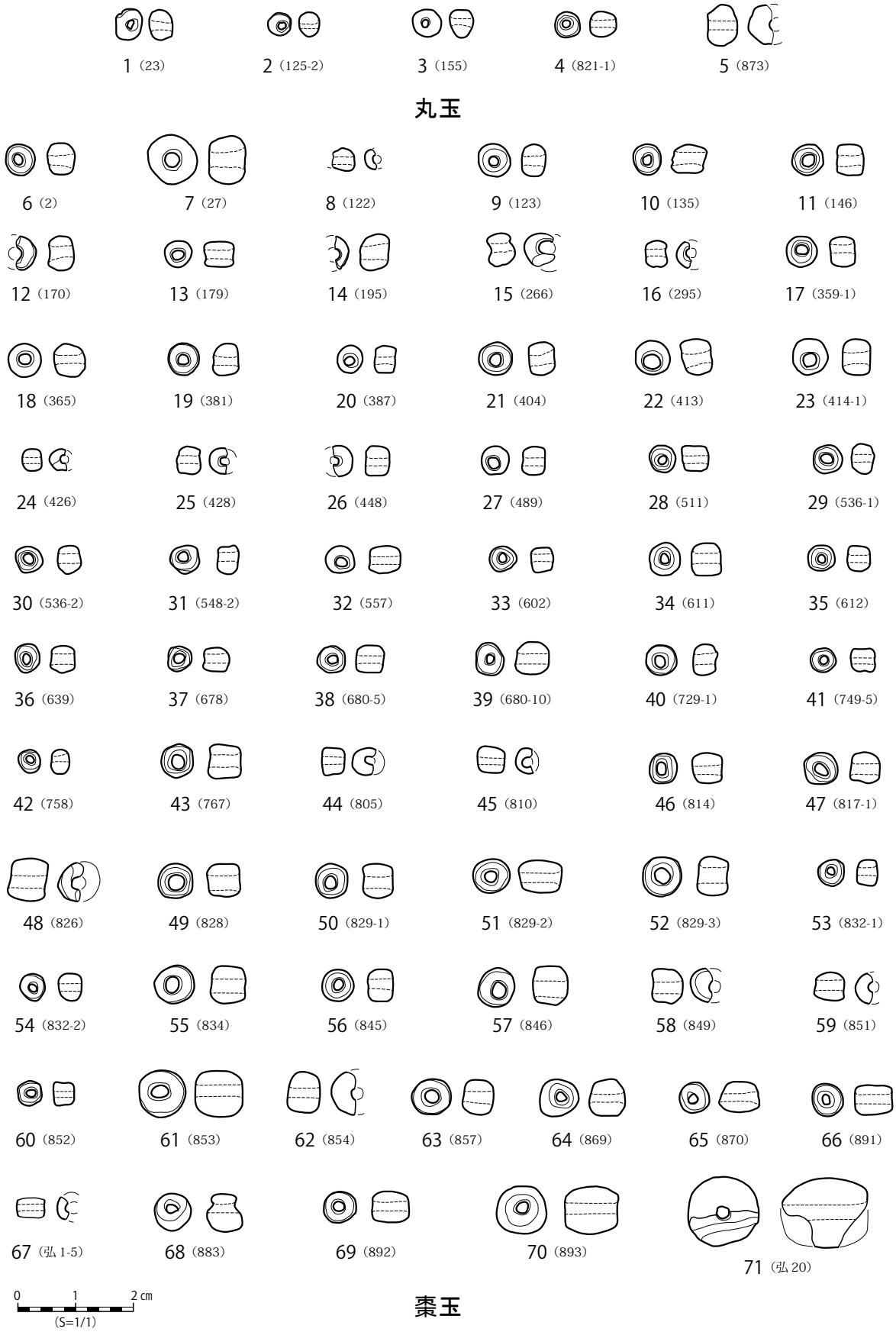


図 51　山王囲遺跡土玉類１（丸玉・棗玉）

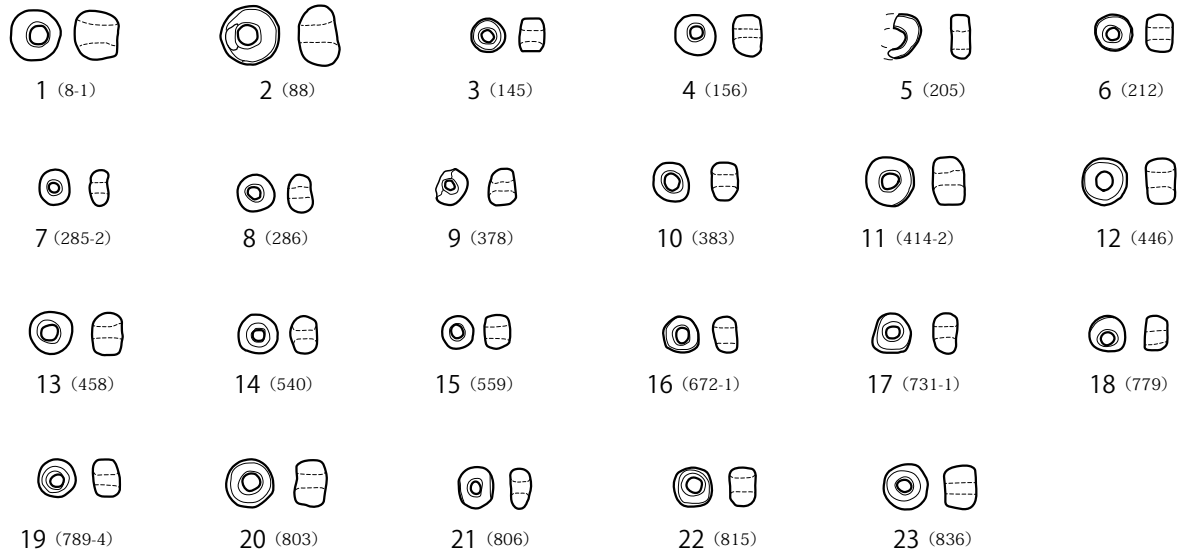


図 52　山王囲遺跡土玉類２（平玉）

全て側面に２・３㎜ほどの沈線を一周巡らせることで全体形が括れる。大きさは、径３～ 9.3 ㎜・平均 4.8 ㎜、長さ 2.2 ～ 6.7 ㎜・平均 4.6 ㎜、孔径 1.1 ～ 2.9 ㎜・平均 1.95 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.3g・平均 0.16gである。図 53-1 ～図 54-24 は括A類、図 54-25 ～ 30 は括B類である。括A類をみると、図 53-36・56・57 は径３㎜ほどの最小品、図 53-58 が径７㎜ほどの最大品である。図 53-16・20・54・57 など、長さ３㎜以下で径より短く円盤状であるのに対し、図 53-35・48・72、図 54-20 ～ 24 などは径より長さが大きく管玉に近くなる。括B類をみると、図 54-25・26 の２点は上下を面取りせず小型垂飾に類似する。27 ～ 30 は上下を面取りして円柱形にし、側面に２・３㎜ほどの沈線を巡らせた後、その沈線の上に穿孔する。27・28・30 は沈線を一周巡らせるが、29 は二周巡らせる。全てに赤色顔料が付着する。

ｅ．管玉（図 54-31 ～ 37）（図版 48）

７点ある。柱状あるいは棒状を呈し、径と長さの比が１：1.5 程度のものである。全て西区出土である。層位は西区Ⅴ層６点、西区Ⅵ層１点で上記の土玉類と同じ傾向にある。なかでもⅤc7 層５点を占める。グリッド別ではN～Sグリッド各１・２点と散漫する。

大きさは径３～ 5.7 ㎜・平均 4.2 ㎜、長さ 4.8 ～ 7.5 ㎜・平均 6.4 ㎜、孔径 1.1 ～ 2.5 ㎜・平均 1.2 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.2g・平均 0.15gである。32 は沈線を一周巡らせ、括れ玉に類似するが、その他は２周以上の沈線を巡らせる。37 は長さが 8.5 ㎝で最も長く沈線も４本巡る。全てに赤色顔料が付着する。

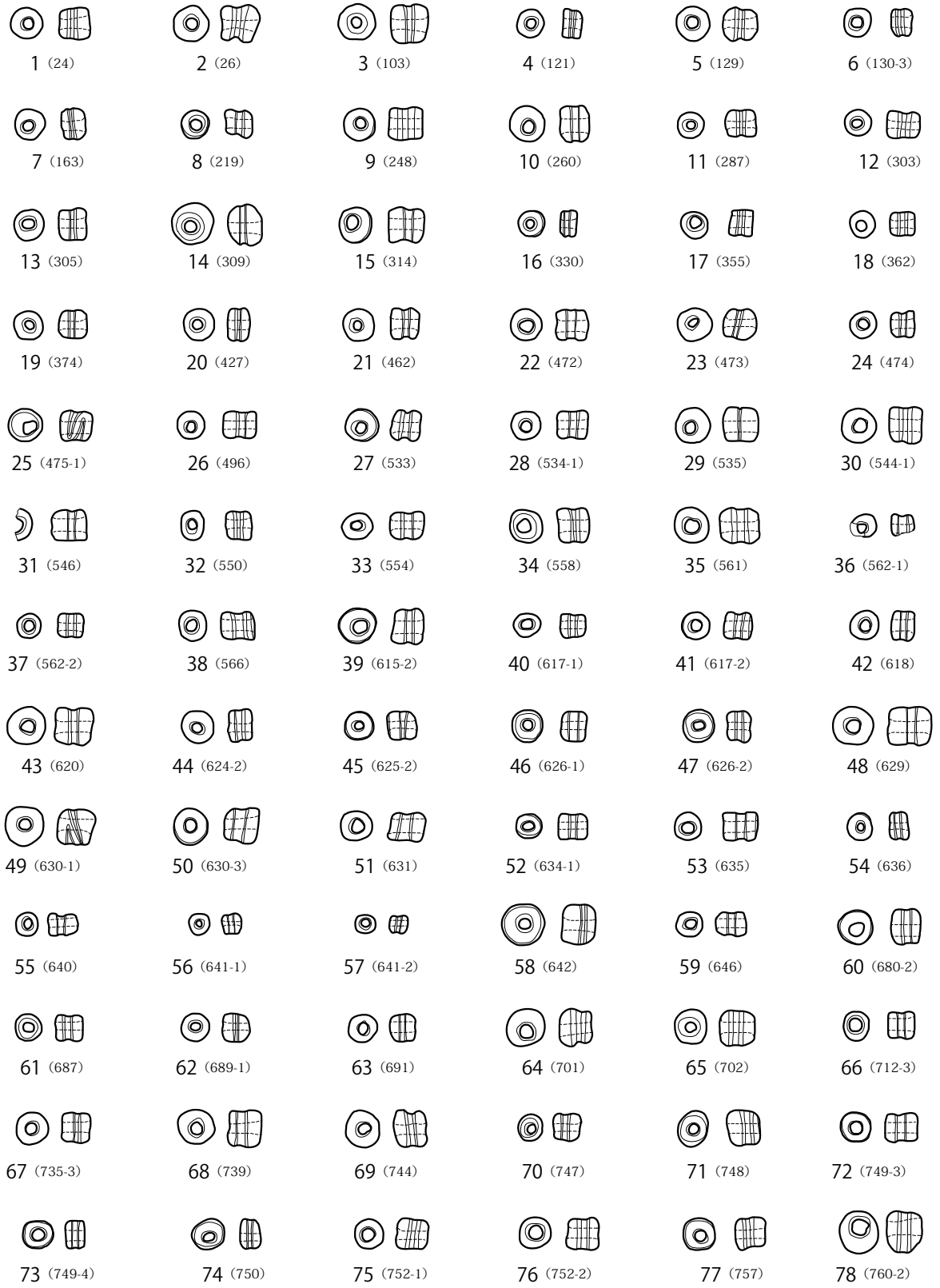


図 53　山王囲遺跡土玉類３（括れ玉）

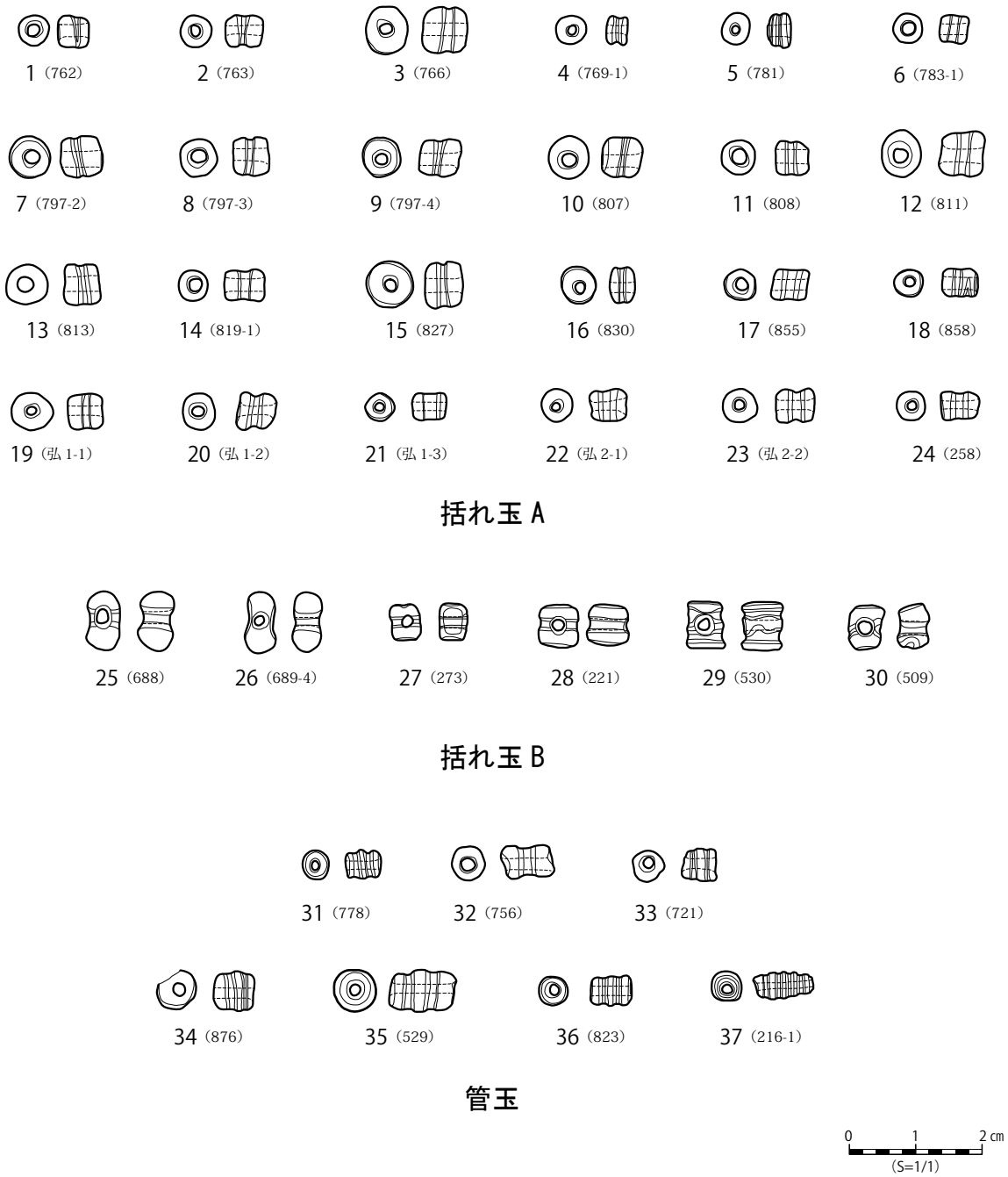


図 54　山王囲遺跡土玉類４（括れ玉・管玉）

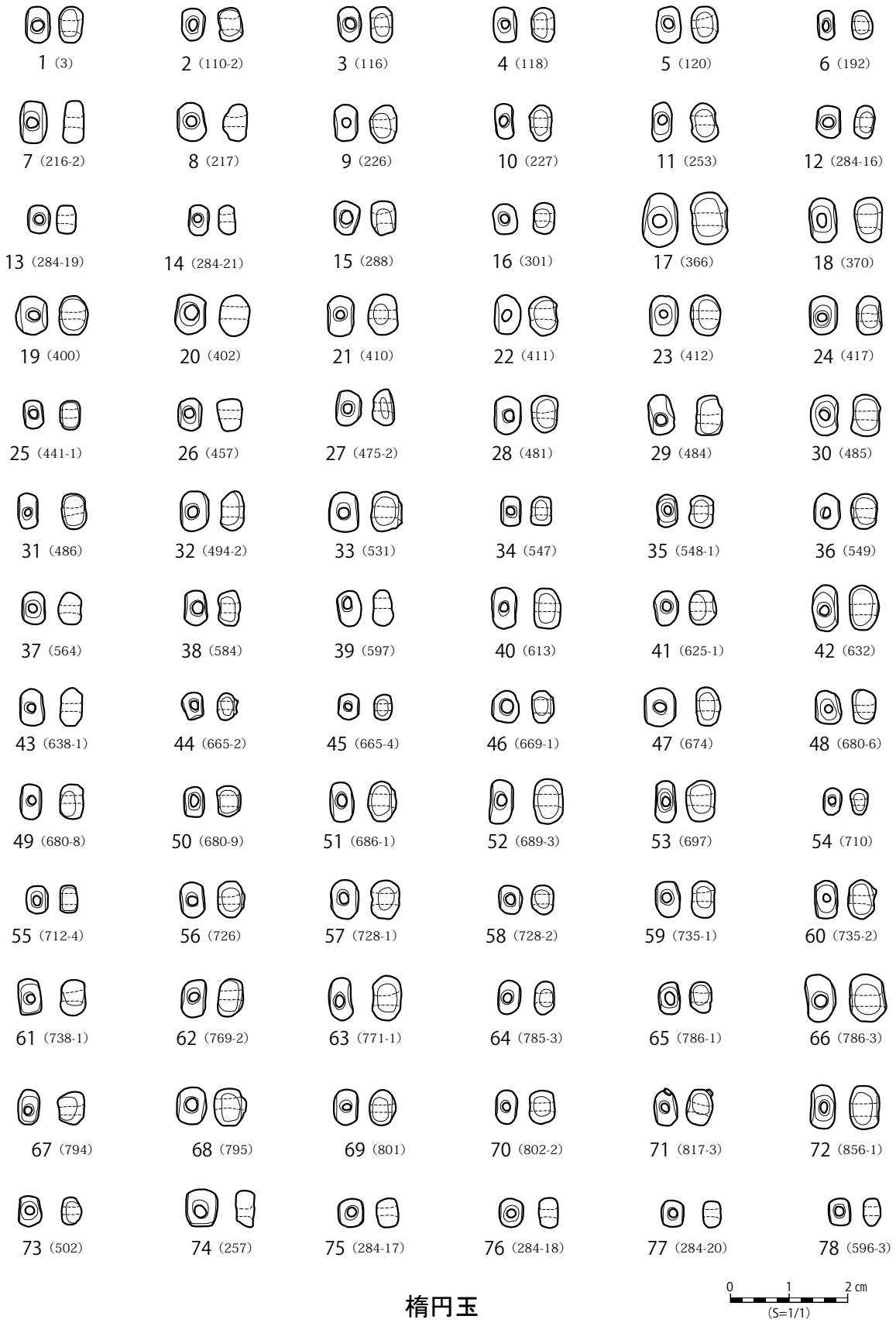


図 55　山王囲遺跡土玉類５（楕円玉）

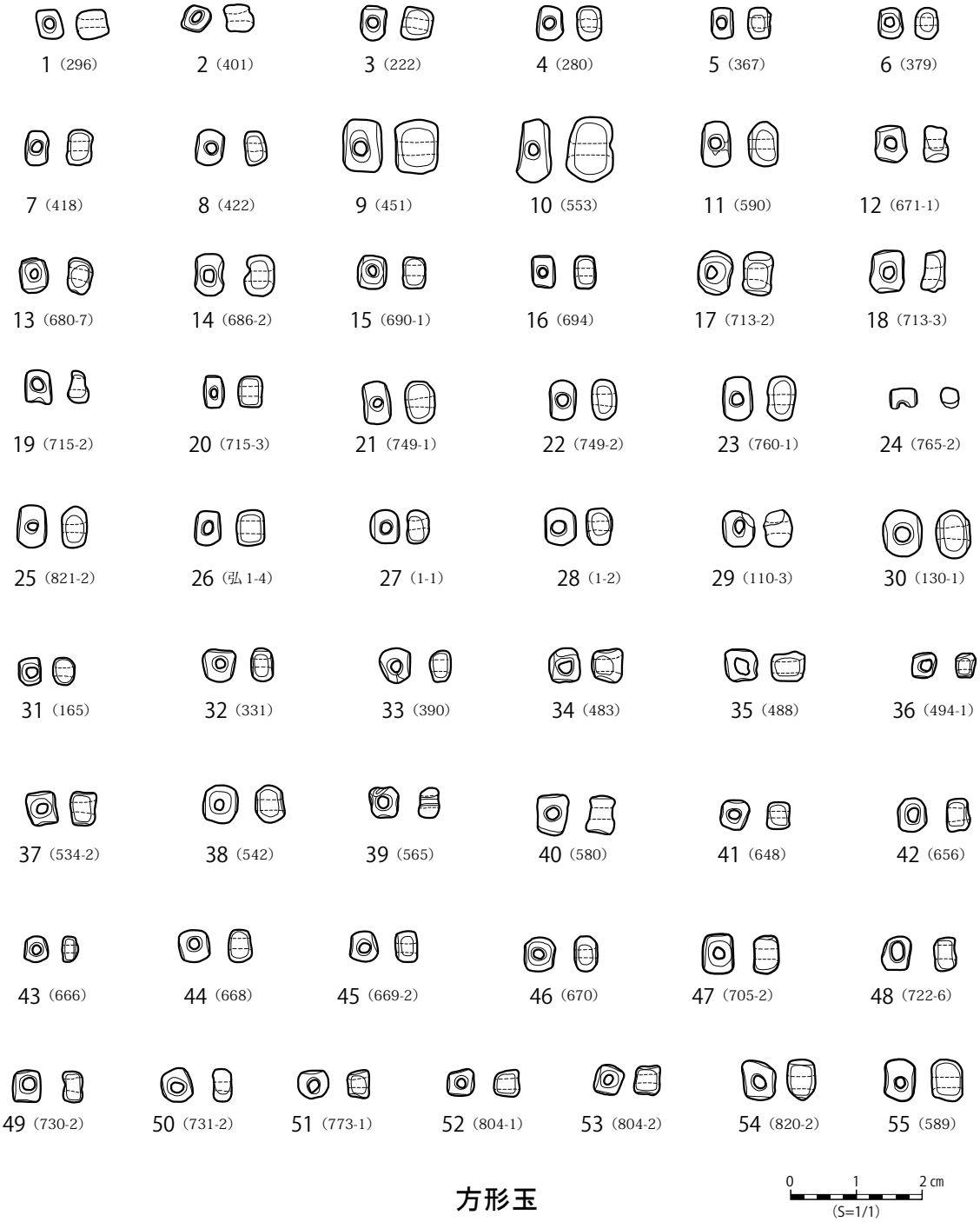


図 56　山王囲遺跡土玉類６（方形玉）

ｆ．楕円玉（図 55-1 ～ 78）（図版 49）

78 点ある。78 点全て西区出土である。層位は西区Ⅳ下層 1 点、西区Ｖ層 68 点、西区Ⅵ層 2 点で、大洞A2 式期の西区Ｖ層が圧倒的である。特にＶc7 層で 40 点とまとまり、大洞A′式期には激減する。グリッド別ではＮグリッド 16 点、Ｒグリッド 15 点、Ｍ・Ｑグリッド 10 点が目立ち、上記ほかの土玉類と同じ傾向にある。

形態は板状工具で粘土玉を挟んで左右側面をつぶすことで、つぶされた部分が平坦となり、断面が隅丸長方形となる。大きさは長径 4.2 ～ 8.4 ㎜・平均 5.8 ㎜、短径 2.5 ～ 5.1 ㎜・平均 3.8 ㎜、長さ 2.5 ～ 5.7 ㎜・平均 3.7 ㎜、孔径 0.9 ～ 3.1 ㎜・平均 1.72 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.5g・平均 0.13gである。最大径は楕円玉のため上下間にあり、6 ㎜を超えるものが 31 点と半数近くを占める。図 55-17・66 は最大品である。一方、図 55-45・54 は径 4 ㎜程の最小品である。図 55-19・21・22・23・37 などは写真をみると穿孔部周辺がわずかに平坦であり、穿孔後にはみ出した粘土を切り落とした跡と推定される。全てに赤色顔料が付着する。

ｇ．方形玉（図 56-1 ～ 55）（図版 50）

55 点ある。側面だけでなく、上下面と小口面も面取りすることにより立方体、直方体に近くなり、平面・断面ともに隅丸方形あるいは隅丸長方形、ひし形を呈する。全て西区出土である。層位は西区Ⅳ下層 1 点、西区Ｖ層 50 点、不明 4 点で、上記の土玉類と同じく大洞A2 式期の西区Ｖ層にまとまる。なかでもＶc7 層 19 点、Ｖc1 層 7 点でこれも上記土玉類と同じ傾向にある。グリッド別ではＮグリッド 25 点が突出する。

形態は楕円玉と同じ要領で左右側面をつぶすことで、つぶされた部分が平坦となる。さらに上下もつぶす。ただし、上下の平坦面は凹面となる例が多いことから、指でつまんで整形したとみられる。大きさは長径 2.6 ～ 9.8 ㎜・平均 5.2 ㎜、短径 2 ～ 5.3 ㎜・平均 4.0 ㎜、長さ 1.1 ～ 7.1 ㎜・平均 3.5 ㎜、孔径 1.1 ～ 2.8 ㎜・平均 1.8 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.4g・平均 0.13gである。図 56-9・10 は長径 7 ㎜を超える最大品である。一方、図 56-31 は径 4 ㎜程の最小品である。図 56-1・2 のように小口面が菱形となるものと、図 56-3・4・5 など小口面が長方形になるものがある。全てに赤色顔料が付着する。

ｈ．施文玉（図 57-1 ～ 26）（図版 51）

上記棗玉、楕円玉、方形玉を基調として、その外面に単沈線以外の文様があるものを便宜的にここに区分する。26 点ある。全て大洞A2 式期の西区Ｖ層出土である。なかでもＶc7 層 17 点と集中し、上記土玉類と同じ傾向にある。グリッド別ではＭグリッド 6 点、Ｎグリッド 4 点にまとまり、これも他の土玉類と同様である。

施文までの製作法は楕円玉と同じで、左右側面をつぶして平坦面を作り出した後、そこに沈線で施文する。大きさは長径 4.5 ～ 8.6 ㎜・平均 6.0 ㎜、長さ 3.7 ～ 6.8 ㎜・平均 4.8 ㎜、孔径 0.6 ～ 2.9 ㎜・平均 1.8 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.5g・平均 0.18gである。楕円玉に比べ径は同じであるが、長さはやや長い。図 57-11・21・24 は長径 7 ㎜を超える大型品である。施文手順は製作と並行して行われているようであり、両面の小口に当たる場所に沈線を巡らせて区画、あるいはそこを境に切断する。施文モチーフは主に、二重沈線を巡らせ、その間に刺突をいれるもの（4・5・6・11・14 など）と、沈線を十字に交差させその交点に刺突を入れるもの（21・24）、沈線を渦巻き状に巡らせるもの（8・12・17）の 3 種がある。25 の写真（図版 51）をみると、小口面に板のような植物圧痕が残り、面取りの方法が分かる。全てに赤色顔料が付着する。

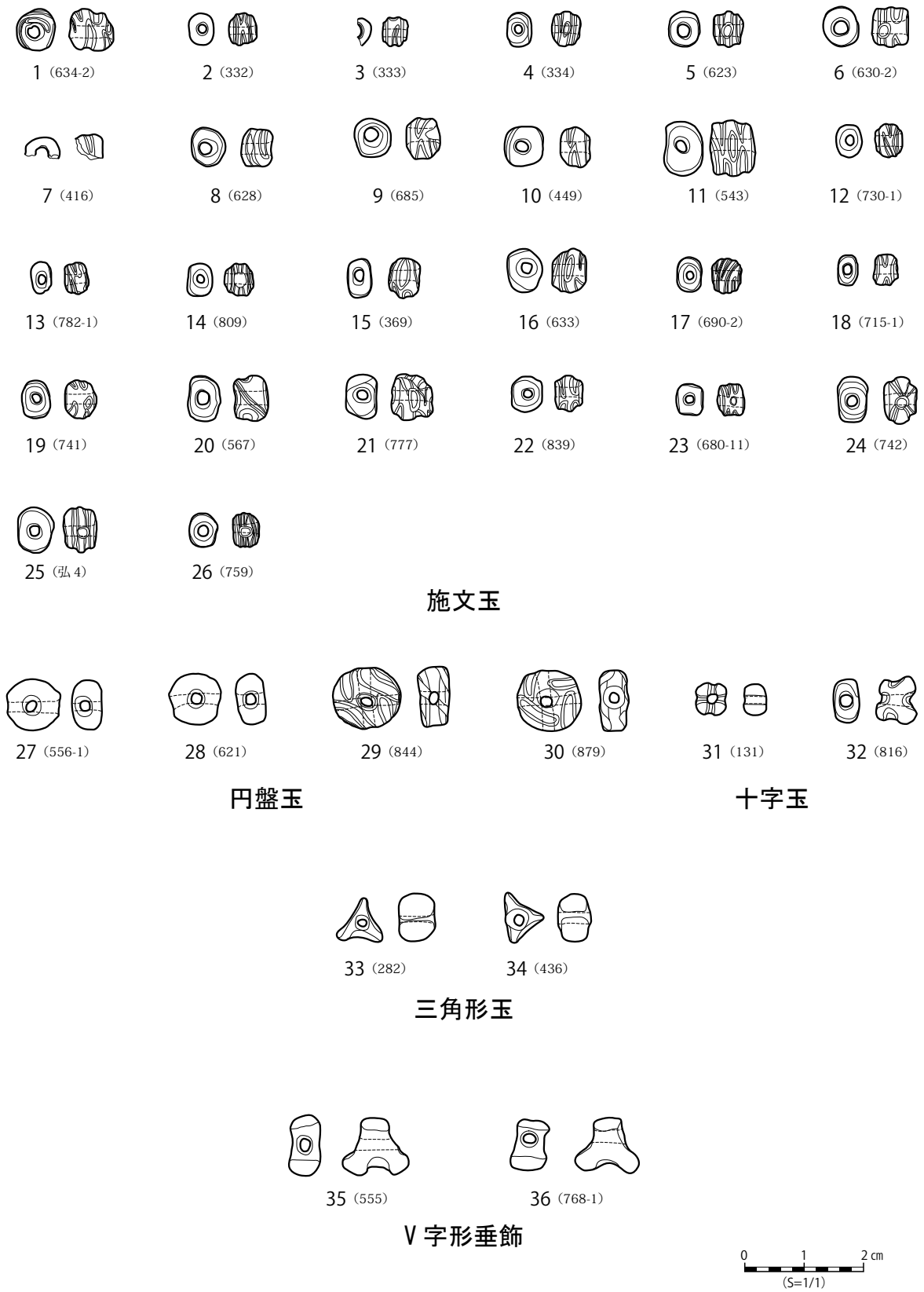


図 57　山王囲遺跡土玉類７（施文玉・円盤玉・十字玉・三角玉・V 字形垂飾）

ｉ．円盤玉（図 57-27 ～ 30）（図版 51）

4 点ある。円盤状を呈し、側面から穿孔する。無文と有文の 2 種がある。27・28 は無文で西区Ｍグリッド Ｖｃ層出土である。側面と表裏面双方から穿孔され、内部で穿孔が十字に交差する。大きさは径 8.6 ㎜、長さ 5 ㎜ほどで他の土玉類に比べて大型である。29・30 は西区層位不明である。赤漆が塗布されるため、漆器類が多数出土しているＶ層以下に属すとみられる。上記無文と同じく側面と表裏面双方から穿孔され、内部で穿孔が十字に交差する。施文は穿孔部を取り巻くように弧文が入れられる。大きさは径約 10 ㎜、長さ 4.8 ㎜で、土玉類の中で大型品である。

ｊ．十字玉（X字玉）（図 57-31・32）（図版 51）

2 点ある。沈線を十字に施文することで、平面形が十字形を呈す。31 は、西区Ｖａ層出土である。沈線を十字に入れ、その交点を穿孔する。大きさは径 4.7 ㎜で他の土玉類と同じ大きさである。32 は西区Ⅵ層出土である。X字状を呈する。沈線を十字に深く入れ、側面に穿孔する。径 7.6 ㎜で大型品である。いわゆる四隅突出土製品に類似する。赤色顔料が付着する。

ｋ．三角玉（図 57-33・34）（図版 51）

2 点ある。側面を指でつまむことによって、小口面が内湾する三角形を呈す。33・34 とも形態や胎土、焼成も同じで出土位置も西区Ｎグリッド Ｖｃ1 層であることから、本来はセットだった可能性がある。大きさは径約 7 ㎜、長さ約 5.5 ㎜で、土玉類の中では大型に属す。類例は、北海道～青森県津軽地方と岩手県北部～中部に認められるが個数は非常に少ないとされる（金子 2016）。

ｌ．Ｖ字形垂飾（図 57-35・36）（図版 51）

2 点ある。下部が二股に分かれた逆Ｖ字形の垂飾でいずれも西区Ｖｃ7 層出土である。三角形にした粘土塊を三指でつまむことで、三叉状に成形する。内湾する二辺に穿孔する。高さ約 9 ㎜、横幅約 10 ㎜、厚さ 4.7 ㎜、重さ 0.5g である。いずれも赤色顔料が付着する。

第５節　土製小型垂飾

土製小型垂飾は 399 点ある。そのほか集中部の資料を出土状態のまま取り上げた資料２点もあり、実数がさらに多い。いわゆる瓢箪小玉類（金子 2006）で、これらは高さ３～ 10 ㎜と玉類の中では小さく、かつ上部が薄い穿孔部、下部が水滴形に膨らむ構造であり、装飾的な効果を高めるために吊り下げる機能をもつことから、「垂飾」とした。

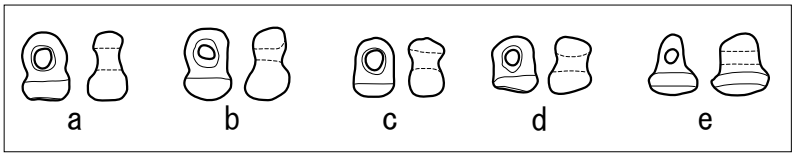


図 58　土製小型垂飾の分類

（1）土製小型垂飾の分類

土製小型垂飾は平面形により以下のように分類した（図 58）。

ａ類：南京鍵のような形を呈するもの。上部の穿孔の下がくびれ、上・下部の境に沈線を巡らせるなど、その境を明瞭にする。下部が水滴形に膨らみ、底面は平坦か凹む。かつ上部のほうが下部より大きいものが多い。133 点（図 59-1 ～図 60-61）。

ｂ類：達磨形を呈するもの。上部の穿孔の下がくびれ、上・下部の境に沈線を巡らせるなど、その境を明瞭にする。下部が水滴形に膨らみ、底面が丸い。かつ下部のほうが上部より大きいものが多い。41 点（図 61-1 ～ 41）。

ｃ類：楕円形を呈するもの。上下部間の括れが弱く、下部が球状に膨らみ、底面が丸い。かつ上下部の大きさが同じものが多い。102 点（図 62-1 ～図 63-24）。

ｄ類：縦長の蒲鉾形を呈するもの。上下部間の括れが弱く、下部が球状に膨らむが、底面は平坦か凹む。117 点（図 64-1 ～図 65-39）。

ｅ類：側面観が逆Ｔ字形あるいはスタンプ形を呈するもの。上下部間の括れが強く、下部が三角錐状に開き、底面は平坦か凹む。4 点（図 65-40 ～ 43）。

ａ～ｅ類ほぼ全てに赤色顔料が付着することから、赤彩されたと推定される。また胎土が黒色なものが 217 点（54％）あり、土器とは異なり、土玉類と同じようにススが吸着するようなおき火といった比較的低温下での焼成が考えられる。

（2）土製小型垂飾の分類別分析

ａ．ａ類（図 59-1 ～図 60-61）（図版 52・53）

133 点ある。東区２点、西区 131 点ある。層位は東区 10 層２点、西区Ⅳ下層２点、西区Ⅴ層 101 点、西区Ⅵ層４点、不明 24 点で土玉類と同じく大洞A2 式期の西区Ⅴ層にまとまる。特にⅤc7 層で 56 点、Ⅴc1 層で 24 点と集中する。西区Ⅳ上層と東区 15 ～ 26 層および西区Ⅶ層にはないことから大洞A1 式期に出現し、大洞A2 式期で最盛期を迎え、弥生時代には消滅するとみられる。グリッド別ではＲグリッド 27 点、Ｎグリッド 22 点、Ｍ・Ｑグリッド 14 点でＲグリッドが多い。

上部の穿孔部と大きさは高さ 4.3 ～ 10.2 ㎜・平均 6.3 ㎜、幅 3.1 ～ 7.3 ㎜・平均 4.4 ㎜、厚さ 2.5 ～ 6.6 ㎜・平均 4.1 ㎜、孔径１～ 3.1 ㎜・平均 1.8 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.5 ｇ・平均 0.14 ｇである。図 59-29、図 60-17・19 は高さ 10 ㎜を超える大型品である。一方、図 60-24・25 は高さ 4.3 ㎜の小型品である。

図 59-2・29・59・61・71 などのように上下の段の分かれ目を沈線ではっきりと区切るものが多い。図 60-10・16・32・38 の４点は上部の頭に沈線を入れる。また図 60-39 ～ 61 のように下部がつぶれてスタンプ形になる例もある。

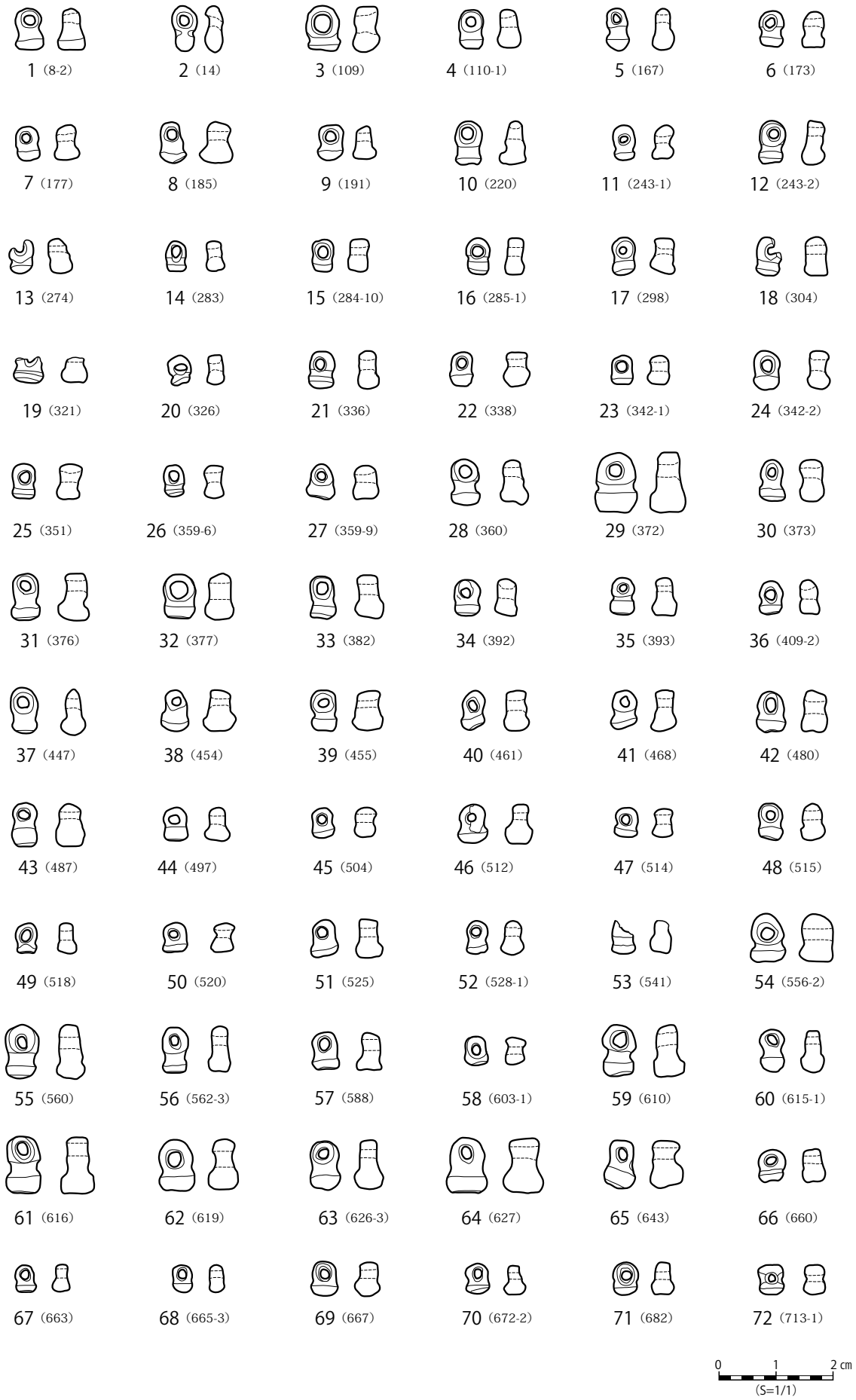


図 59　土製小型垂飾 1 （ａ類）

図 60　土製小型垂飾２（a 類）

ｂ．b類（図 61-1 ～ 41）（図版 54）

41 点ある。底面が丸くかつ下部のほうが上部より大きいものが多いのを特徴とする。全て西区出土である。層位は西区Ⅳ下層 1 点、西区Ⅴ層 36 点、西区Ⅵ層 2 点、不明 1 点で、a類と同じく大洞A2式期の西区Ⅴ層にまとまる。なかでもⅤc7層17点、Ⅴc1層9点と集中する。グリッド別ではNグリッド 11 点、Mグリッド 10 点が多く、a類に多かったRグリッドは少ない。

大きさは高さ 4.8 ～ 9.7 ㎜・平均 7.1 ㎜、幅 3.1 ～ 6.1 ㎜・平均 4.3 ㎜、厚さ 2.9 ～ 5.6 ㎜・平均 4.0 ㎜、孔径 0.8 ～ 3.5 ㎜・平均 1.7 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.3 ｇ・平均 0.14gである。A類に比べ底面が丸い分高さが大きくなる。図 61-21・36 などは高さ 9 ㎜を超える大型品である。一方図 61-3 は高さ 4.8 ㎜の小型品である。図 61-6・14・24・26・37 などのように上下の段の分かれ目を沈線ではっきりと区切るものが多い。

ｃ．c類（図 62-1 ～図 63-24）（図版 55・56）

102 点ある。全て西区出土ある。層位は西区Ⅳ下層 1 点、西区Ⅴ層 95 点、西区Ⅵ層 1 点、不明 5 点で、上記と同じく大洞A2 式期の西区Ⅴ層にまとまる。なかでもⅤc7 層 29 点、Ⅴc1 層 27 点、Ⅴc4 層 13 点と集中する。グリッド別ではRグリッド 22 点、Nグリッド 20 点、Mグリッド 16 点で、a類と同じ傾向にある。

形態的には上下部間の括れが不明瞭で弱い。これは、a・b類が上下の段の分かれ目を沈線で区切ることで括れを強調していたのに対し、c類にはこの方法がとられず主に指でつまんで窪ませることに起因するとみられる。

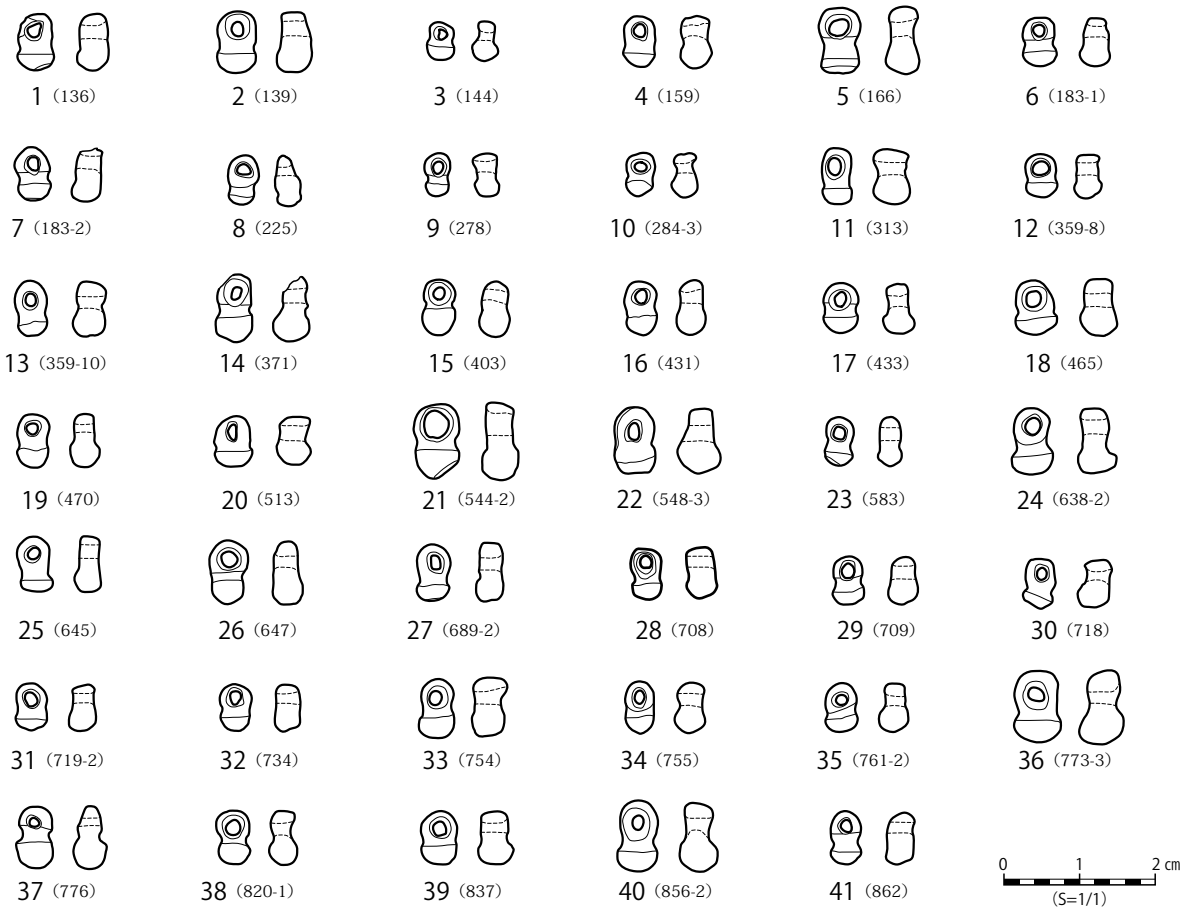


図 61　土製小型垂飾３（b 類）

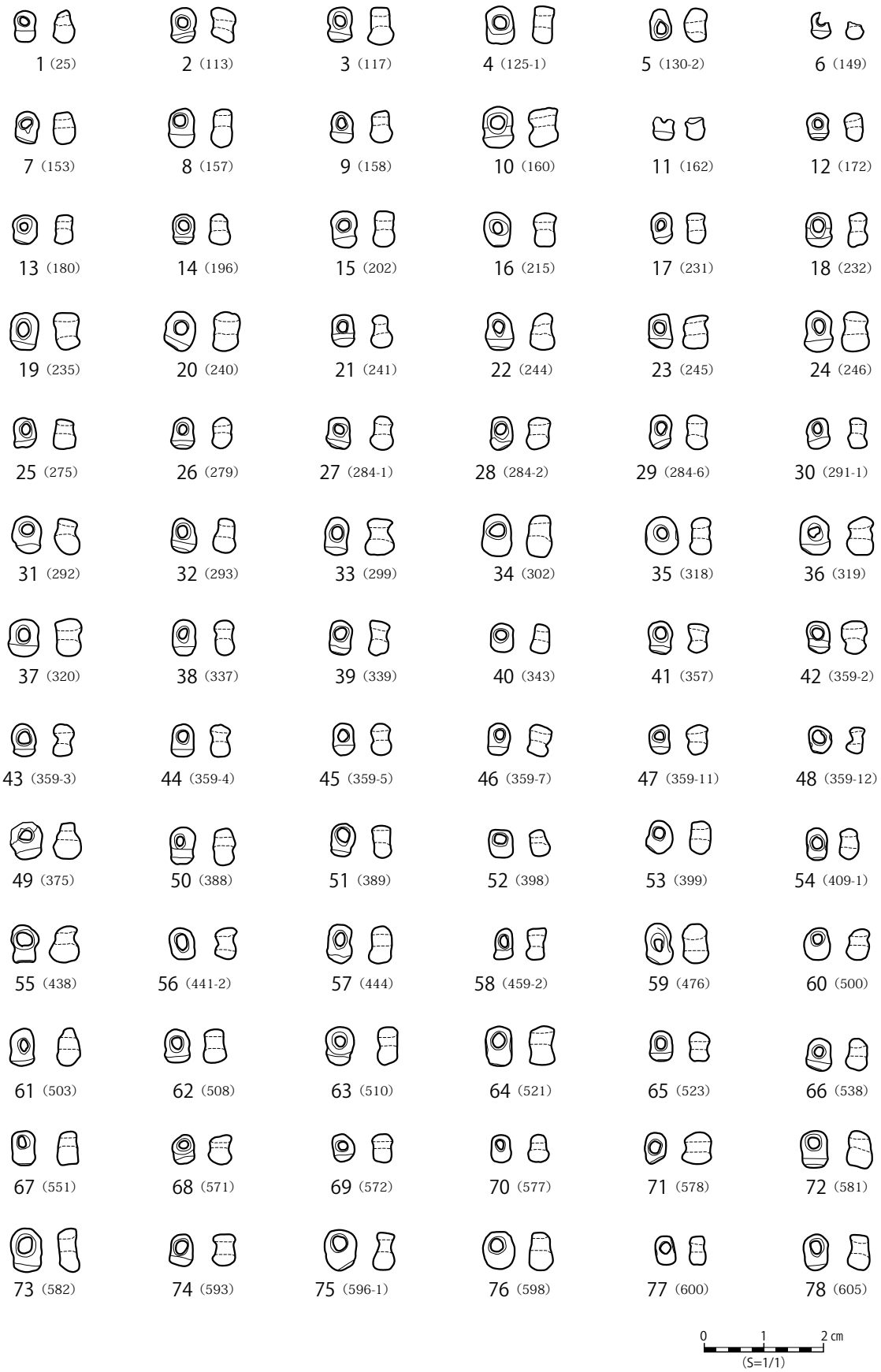


図 62　土製小型垂飾４（c 類）

大きさは高さ 4.3 ～ 7.5 ㎜・平均 5.5 ㎜、幅 2.9 ～ 5 ㎜・平均 3.9 ㎜、厚さ 2.2 ～ 5 ㎜・平均 3.4 ㎜、孔径 0.9 ～ 3 ㎜・平均 1.9 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.2g・平均 0.11g である。a・b 類に比べ全体的に小ぶりで、高さ 8 ㎜を超える大型品はない。図 63-2・19 は高さ約 7.5 ㎜でｃ類のなかでは大型品である。図 62-12・28、図 63-4 が高さ 4.3 ㎜の小型品である。図 62-16・35・75・76、図 63-16 など、くびれがほとんどなく楕円形に近い。図62-48・56・58などは造りがやや粗く、孔径のほうが下部よりも大きい。

ｄ．d類（図 64-1 ～図 65-39）（図版 57）

117 点ある。全て西区出土である。層位は西区Ⅴ層 104 点、不明 13 点で、ほぼ全て大洞A2 式期の西区Ⅴ層に属す。なかでもⅤc7 層 44 点、Ⅴc4 層 18 点、Ⅴc1 層 15 点とまとまる。グリッド別ではNグリッド 30 点、Rグリッド 26 点、Mグリッド 11 点とａ・c類と同じ傾向にある。

c類と同じく、形態的には上下部間の括れが不明瞭で弱い。c類と同じく、主に指でつまんで窪ませていたとみられる。c類とは異なり底面平坦か凹む。この作業によって、下部のほうが上部よりも膨らむ。底面の平坦面は縦軸に対し斜め向きの場合も多い。大きさは高さ 3.8 ～ 7.5 ㎜・平均 5.2 ㎜、幅 2.7 ～ 5.8 ㎜・平均 4.0 ㎜、厚さ 2.4 ～ 5.5 ㎜・平均 3.5 ㎜、孔径 0.9 ～ 2.7 ㎜・平均 1.8 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.2g・平均 0.11g である。c類と同じく、a・b 類に比べ全体的に小ぶりで、高さ 8 ㎜を超える大型品はない。図 64-49、図 65-9 は高さ約 7.5 ㎜ほどでｄ類のなかでは大型品である。図 64-64、図 65-10 が高さ 3.8 ㎜ほどの小型品である。図 64-16・35・75・76、図 65-16 など、くびれがほとんどなく楕円形に近い。図 64-49 は上部の頭に沈線を入れる。図 64-2・3・15、図 65-21・34・38 などのように、下部がつぶれて穿孔が中央にある例もある。

ｅ．e類（図 65-40 ～ 43）（図版 58）

4 点ある。全て西区出土である。層位は西区Ⅴ層 2 点、西区Ⅵ層 2 点で数が少ないにもかかわらず大洞A1 式期の西区Ⅵ層に多い。グリッド別ではDグリッド 3 点を占める。大きさは高さ 5.1 ～ 7.4 ㎜、幅 4.8 ～ 6.8 ㎜、厚さ 3.2 ～ 5.1 ㎜、重さ 0.1 ～ 0.3g である。寸法はｂ類に近い。図 65-43 のみ高さ 7.4 ㎜の大型品で側面から穿孔される点で他とは異なる。

図 63　土製小型垂飾５（c 類）

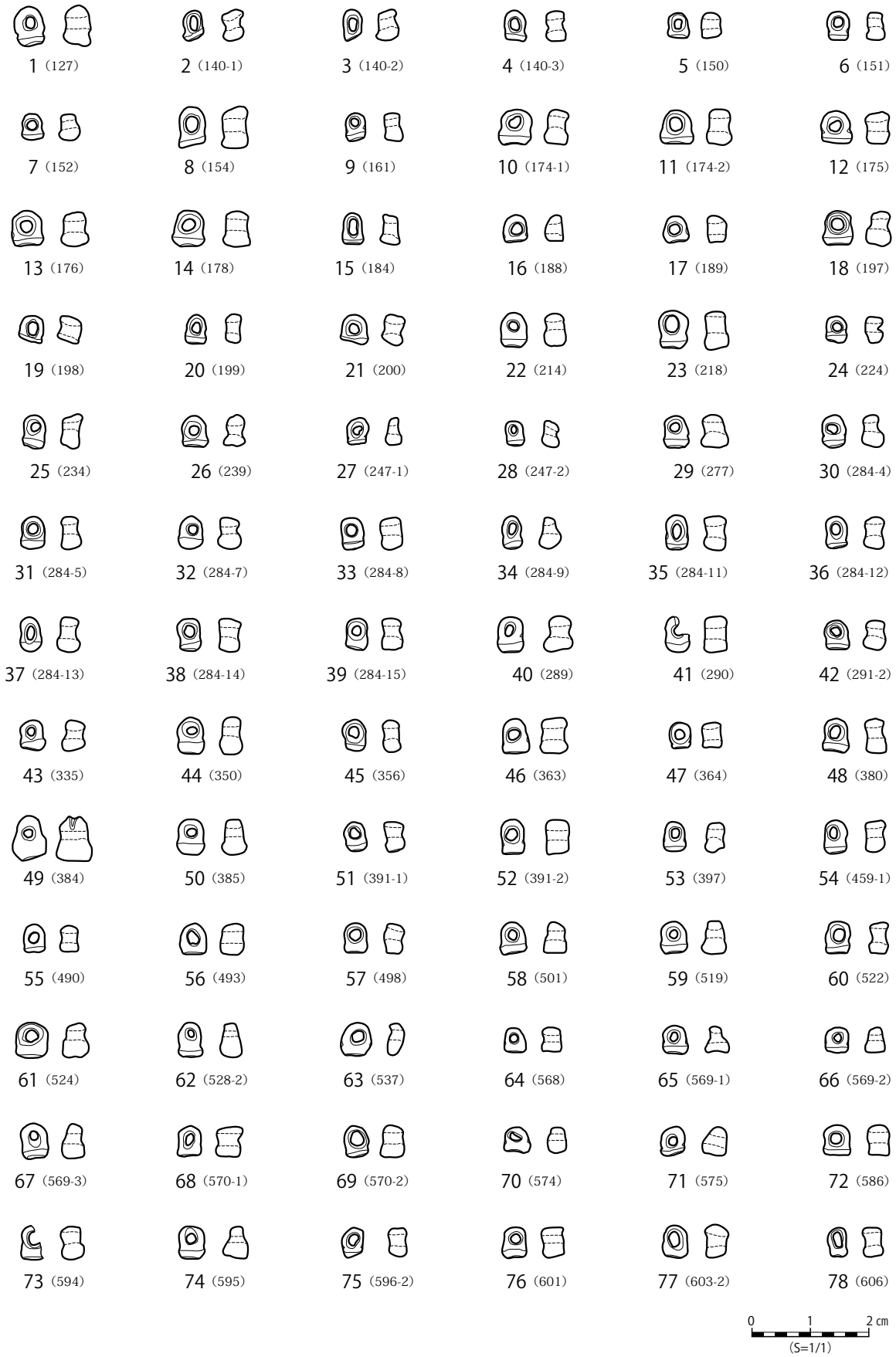
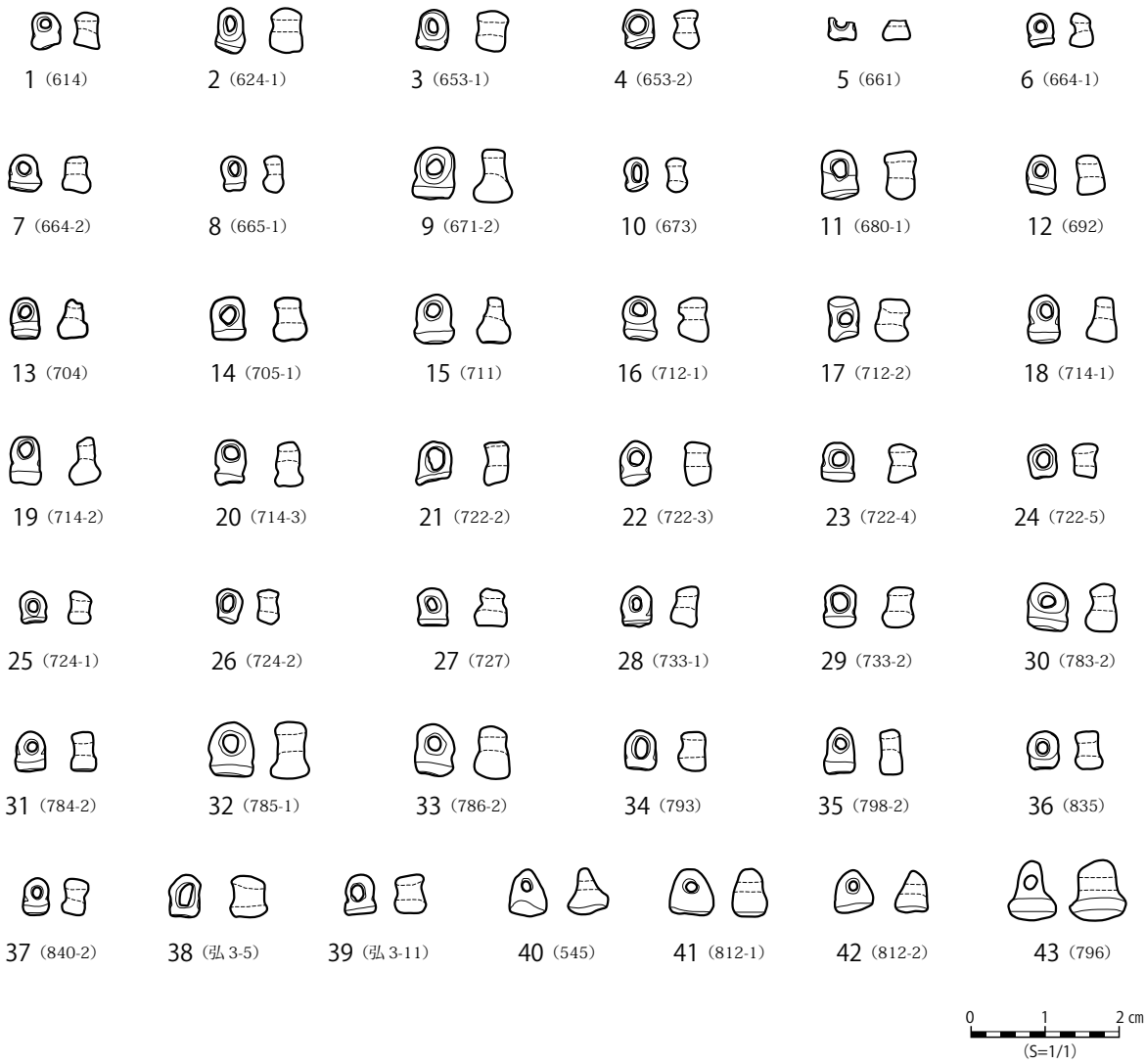


図 64　土製小型垂飾６（d 類）



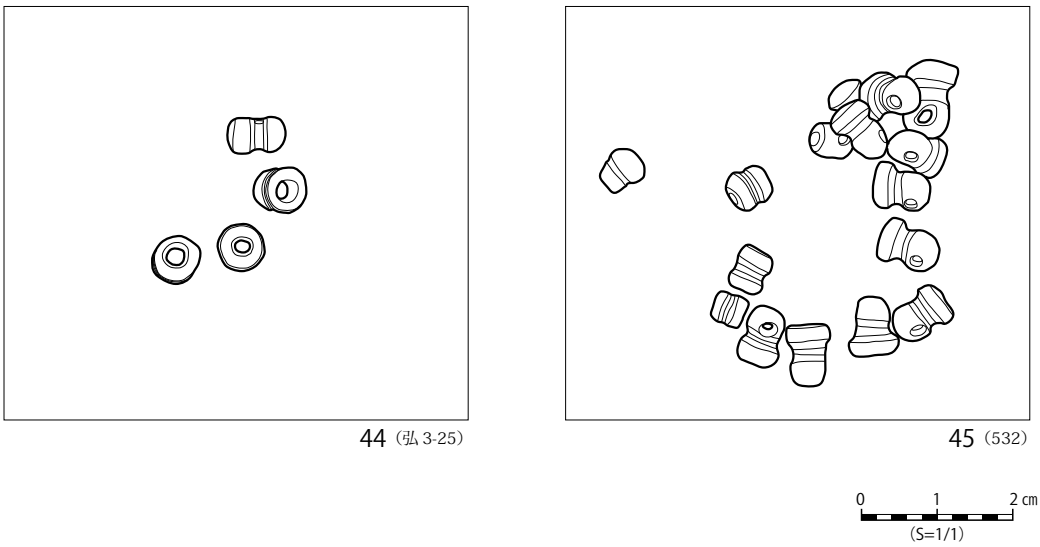


図 65　土製小型垂飾７（d 類・集中地点）

第６節　土製耳飾

53 点ある。土製耳飾の分類は平面・断面形態により３種に分類した。

（1）土製耳飾の分類（図 66）

- ネジ状：頭部が盛り上がり、周縁断面が角張るネジのような形で規格的である。装着部を中心に片側が大きくなる左右非対称で肥厚し開く。無文で貫通孔がある。赤色顔料を塗彩する。39 点（図 67-1 ～ 28、図 68-1 ～ 11）。
- 猪口状：片方の径が大きいもの。断面形が装着部から端までやや内湾する。11 点（図 68-12 ～ 22）。
- 臼　状：装着部を中心に内外双方が対称的に開く。3 点（図 68-23 ～ 25）。
  滑車形耳飾はない。

（2）土製耳飾の分類別分析

a．ネジ状（図 67-1 ～ 28、図 68-1 ～ 11）（図版 60・61）

39 点ある。土製耳飾では最も多い。完形・略完形 30 点、半分以下の破片 9 点がある。東区 2 点、西区 37 点である。内訳は東区 10 層 2 点、西区Ⅳ下層 3 点、西区Ⅴ層 28 点、不明 6 点であり、大洞 A2 式期の西区Ⅴ層、大洞 A′式期のⅣ下層にまとまる。なかでもⅤc7 層 8 点、Ⅴc4 層 5 点で土玉類とほぼ同じ傾向にある。グリッド別ではＱグリッド 10 点、Ｎグリッド 5 点が目立つ。なお図 67-1・27 および図 67-9・10、図 67-2・図 68-2 はそれぞれセットで取上げされており、耳飾りの使用・廃棄を知るうえで貴重な例である。

形態は中央が括れた円柱（一葉双曲面）で、その両端が隆起する。一方の端はキノコのカサのように開き、もう一方は角張りつつ突出した後すぼまる。多くは両端に貫通孔を穿たれる。耳栓の耳朶の穿孔箇所に、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆を塗布のものが多い。ネジ状の大きさは高さ 12 ～ 20 ㎜・平均 17 ㎜、外部径 13 ～ 21 ㎜・平均 18 ㎜である。各部位ごとの高さをみると、外部 4 ～ 7 ㎜・平均 5.3 ㎜、装着部 5 ～ 9 ㎜・平均 6.4 ㎜、内部 2 ～ 8 ㎜・平均 5.2 ㎜である。また外部以外の径は、装着部 6 ～ 10 ㎜・平均 8.2 ㎜、内部 9 ～ 14 ㎜・平均 11.4 ㎜、孔 2 ～ 8 ㎜・平均 5.6 ㎜である。重さは 1.3 ～ 4.8g・平均 2.8g である。ほぼ全て赤彩が施される。

穿孔の断面形をみると、①平行になるもの（図 67-3・4・6 ほか）、②外部から内部にかけて漏斗形になるもの（図 67-1・5 ほか）、③外部から内部にかけて内湾するもの（図 67-9・15 ほか）がある。内訳は①平行 14 点、②漏斗形 13 点、③内湾 3 点である。また炭とみられる黒色付着物が、図 67-6・8・13 など 12 点に認められる。また図 67-1・6・19 など 4 点には灰とみられる白色付着物が認められる。

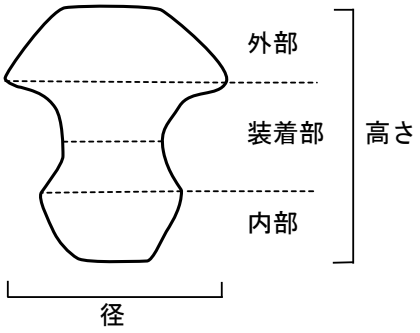


図 66　ネジ状の部位及び計測範囲

b．猪口状（図 68-12 ～ 22）（図版 61）

11 点ある。完形・略完形 6 点、半分以下の破片 5 点があり破損品が多い。西区 8 点、不明 3 点ある。内訳は西区Ⅳ上層 2 点、西区Ⅴ層 4 点、西区Ⅵ層 1 点で大洞 A2 式

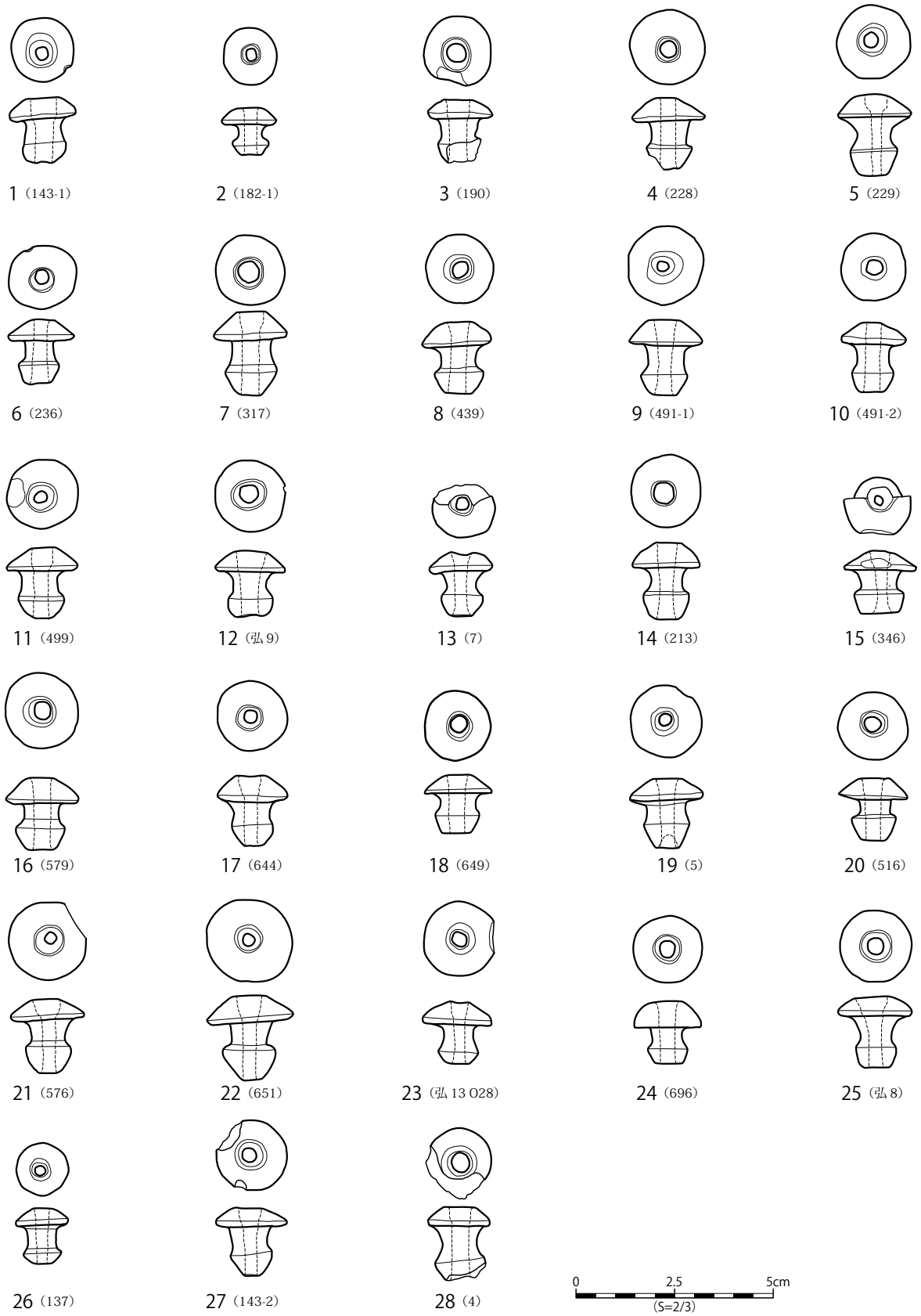
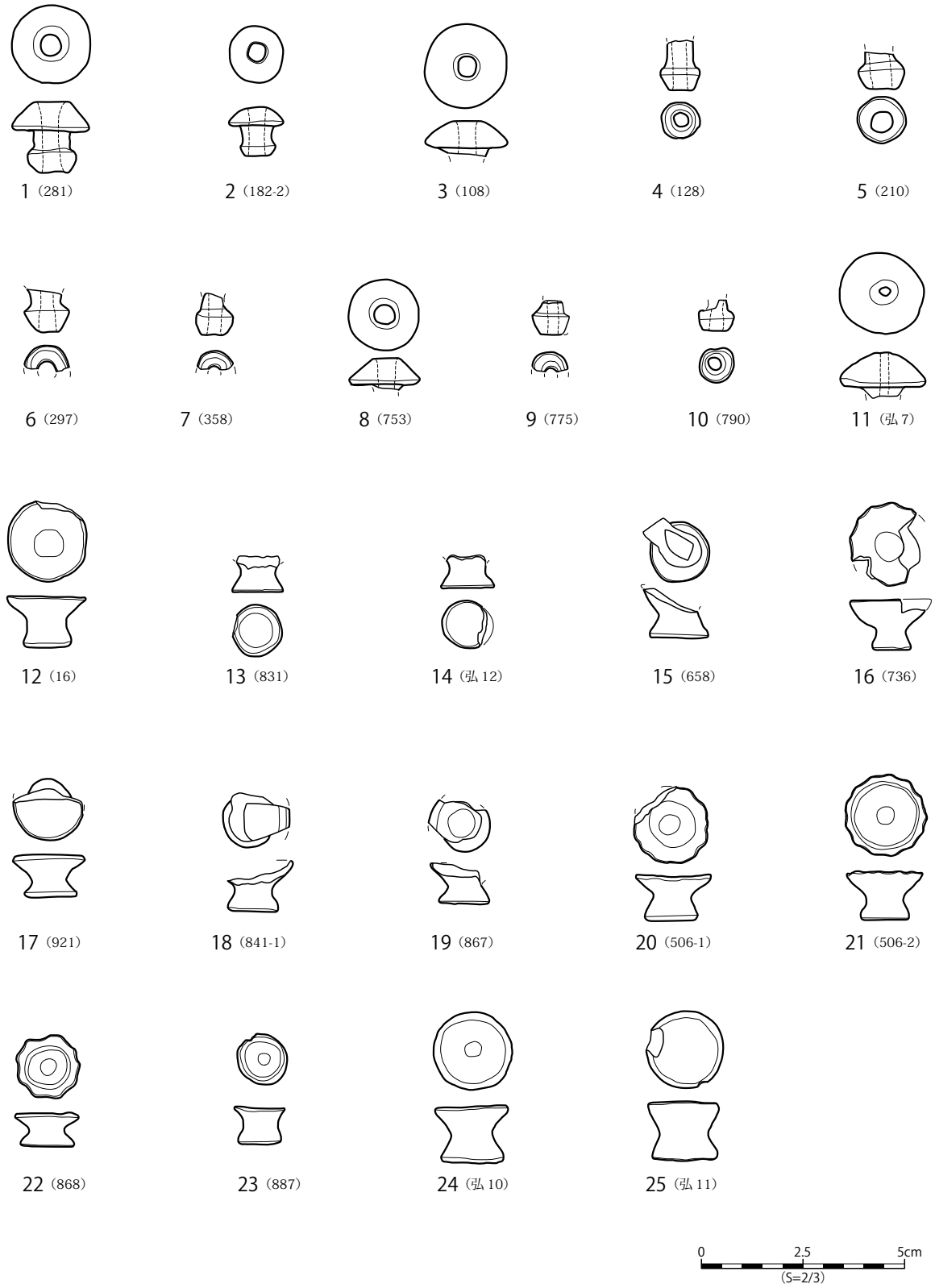


図 67　土製耳飾１（ネジ状）



1-11：ネジ状、12-22：猪口状、23-25：臼状

図 68　土製耳飾２（ネジ状・猪口状・臼状）

期の西区Ｖ層のほか、山王Ⅳ上層式期のⅣ上層にも認められる点はネジ状と異なる。グリッド別でＲグリッド３点が目立つ。図 16-20・21 はセットで取上げされており注目される。

形態は側面が括れた円柱（一葉双曲面）で、中央が狭く、両端に向かって開く。外部と内部の径が大きく異なるのが特徴である。耳栓の耳朶の穿孔箇所に、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。器壁が薄い。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆で覆うものが多い。図 68-12・16 のように側面の湾曲が弱いものから、図 68-17・20・22 のように屈曲に近いものまである。また外部周縁を花弁形に波状にするものがある。図 68-16・20・21・22 の４点ある。特に図 68-20・21 はセットで出土しその特徴が共通する。

猪口状の大きさは高さ８～ 14 ㎜・平均 11 ㎜、外部径 13 ～ 23 ㎜・平均 17 ㎜で、ネジ状に比べ高さは低いが、外部径はほぼ同じである。外部以外の各部位の径は、装着部８～ 10 ㎜・平均 8.9 ㎜、内部 12 ～ 15 ㎜・平均 12.8 ㎜で、ネジ状に比べ最大値は同じだが、最小値がやや大きい。重さは 1.1 ～ 2.4g・平均 1.7g で、薄造りのため、ネジ状に比べ軽量である。ほぼ全て赤彩が施される。

ｃ．臼状（図 68-23 ～ 25）（図版 61）

３点ある。３点とも完形・略完形である。全て西区出土ある。内訳は西区Ⅳ上層１点、不明２点で、山王Ⅳ上層式期のⅣ上層にも認められる点は猪口状と同じでネジ状と異なる。グリッドはＲグリッドである。

形態は側面が括れた円柱（一葉双曲面）で、中央が狭く両端に向かって開く。外部と内部の径がほぼ同じ点が特徴である。耳栓の耳朶の穿孔箇所に、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。側面の湾曲が弱く猪口状に比べ器壁が厚い。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆で覆うものが多い。猪口状に比べ外部周縁の装飾はない。

臼状の大きさは高さ９～ 14 ㎜・平均 12 ㎜、外部径 13 ～ 18 ㎜・平均 16 ㎜で、猪口状とほぼ同じである。外部以外の各部位の径は、装着部８～ 12 ㎜・平均 10.2 ㎜、内部 11 ～ 17 ㎜・平均 14.4 ㎜で、猪口状に比べ装着部の径が大きい。重さは 1.1 ～ 3.0g・平均 2.3g で、猪口状に比べ重い。ほぼ全て赤彩が施される。

第７節　集中出土地点について

石製玉類、土玉類、土製小型垂飾、骨角製装飾品には、狭い範囲から集中して検出された例が複数ある。実際、出土状態のまま土壌ごと取り上げられたのが図 65-44・45（図版 59）である。図 65-45 は西区Ｖc4 層、図 65-44 は注記がないが、西区Ｖ層とみられる。このように、出土状態のまま取り上げを行ったのは、玉類の用途を知るうえで貴重である。細かな資料を丁寧に掘り上げ、意識的に記録に残そうとした当時の調査参加者の努力には敬意を表したい。

図 65-44 は４点、図 65-45 は 16 点が一括出土する。図 65-44 は土玉類の平玉３点と土製小型垂飾ａ類で構成される。それぞれ、径や長さが７㎜ほどの大型品である。平玉は形態や製作法が類似することから製作者が同じで一連の資料であったとみられる。図 65-45 は括れ玉Ａ類３点と土製小型垂飾ａ類 13 点で構成される。括れ玉３点と土製小型垂飾ａ類 13 点はそれぞれまとまっており、一連のものだとすると、括れ玉と土製小型垂飾を部分ごとにまとまりをもたせながら、組み合わせていたと推定される。

このほか、出土時にまとまって検出されたとみられる例が、台帳の記載から散見される（表 11）。土玉類 391 点中 142 点（36％）、土製小型垂飾 399 点中 168 点（42％）、土製耳飾 54 点中９点（17％）が該当し、層位やグリッドがまとまっているように、かなり集中的に検出されたようである。

なお、土玉・土製小型垂飾・土製耳飾は、遺構と関連せずに検出され、西区ではばらつきがあるものの出土地点がある程度集中し、遺物が密集する層があるという傾向がある。これらの遺物は遺構とは異なる脈略でまとまって廃棄されたものと考えられる。

第８節　円形土製品（図69-1）（図版62）

周縁を花弁状に刻んだ円盤状の土製品。半分ほどが欠ける。1 点ある。径 2.6 ㎝、厚さ 0.4 ㎝で薄い。

第９節　ミニチュア土器（図69-2・3）（図版62）

2 点ある。形態は深鉢形と壺形がある。いずれも大洞A2 式期の西区Ⅴ層出土である。2 は深鉢形である。径 3.2 ㎝、高さ 3.0 ㎝である。手づくねでつくられ、指圧痕が残る。3 は壺形である。口径 3.6 ㎝、高さ 3.0 ㎝の無頸壺である。

表 11　土玉類、土製小型垂飾、耳飾の集中出土例の組み合わせ

台帳番号	土玉類											土製小型垂飾					耳飾	
	丸	棗	括A	括B	方	平	楕円	管	円盤	施文	V字	a	b	c	d	e	ネジ状	猪口状
821	1				1													
125	1													1				
829		3																
536		2																
832		2																
680		2	1		1		3			1				2	1			
749		1	2		2													
414		1				1												
817		1					1					1						
548		1					1						1					
359		1										2	2	7				
729		1										1						
797			3									1						
562			2									1						
626			2									1						
630			2							1								
617			2															
641			2															
752			2															
689			1	1			1						1					
130			1		1									1				
534			1		1													
760			1		1													
735			1				2											
712			1				1								2			
475			1				1											
625			1				1											
769			1				1											
634			1							1								
615			1									1						
819			1									1						
544			1										1					
624			1												1			
783			1												1			
715					2					1								
713					2							1						
1					2													
804					2													
731					1	1												
110					1		1					1						
494					1		1											
669					1		1											
686					1		1											
690					1					1								
730					1					1								
722					1							1			4			
773					1								1	1				
820					1								1					

台帳番号	土玉類											土製小型垂飾					耳飾	
	丸	棗	括A	括B	方	平	楕円	管	円盤	施文	V字	a	b	c	d	e	ネジ状	猪口状
671					1										1			
705					1										1			
789						1						3						
8						1						1						
285						1						1						
672						1						1						
284							6					1	1	3	10			
665							2					1			1			
786							2								1			
728							2											
216							1	1										
771							1					2		1				
738							1					2						
785							1					1			1			
802							1					1						
638							1						1					
856							1						1					
596							1							1	1			
441							1							1				
556									1			1						
782										1				1				
768											1	1						
719												4	1					
716												3						
840												2			1			
243												2						
342												2						
788												2						
761												1	1					
409												1		1				
528												1			1			
603												1			1			
183													2					
291														1	1			
459														1	1			
784														1	1			
140															3			
569															3			
714															3			
174															2			
247															2			
391															2			
570															2			
653															2			
664															2			
724															2			
733															2			
812																2		
143																	2	
182																	2	
491																	2	
506																		2

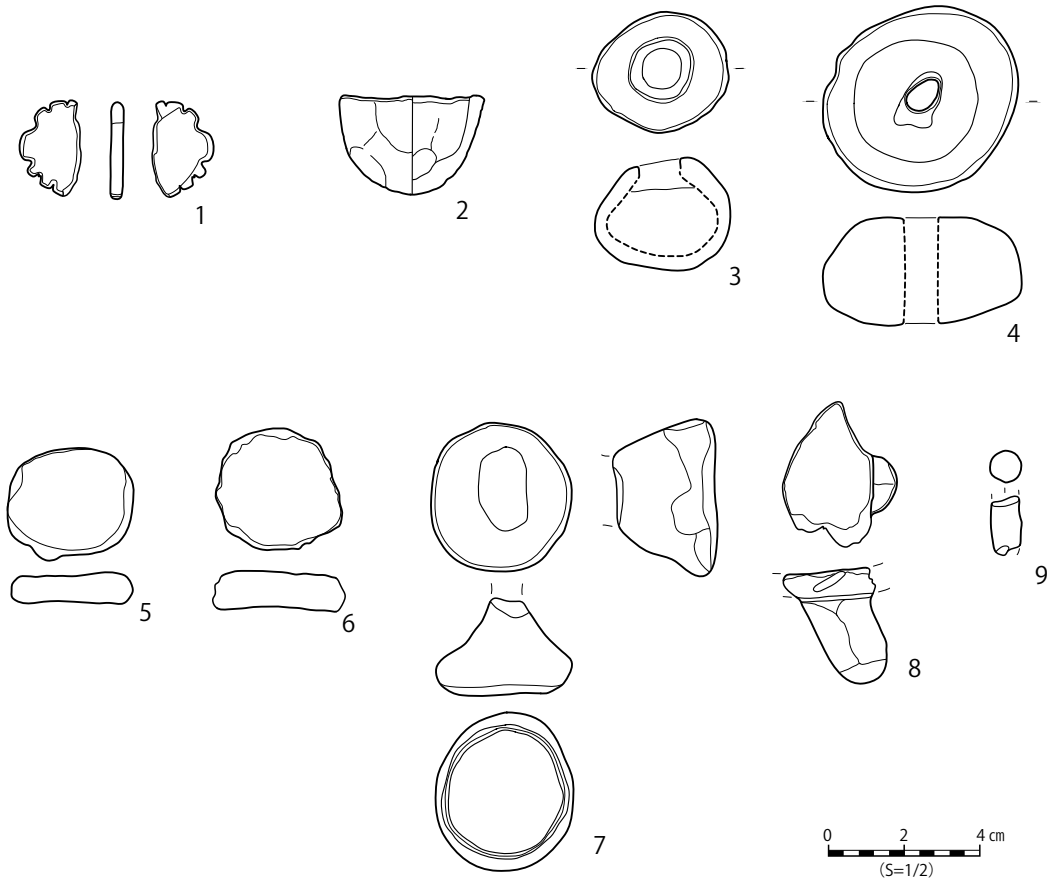


図 69　土製品（円形・ミニチュア・有孔・円盤状ほか）

第10節　有孔土製品（図69-4）（図版62）

丸餅形で中央に貫通孔がある土製品である。1 点ある。西区Ⅴ層Ｓグリッド出土である。径 5 ㎝程、厚さ 2.9 ㎝である。

第11節　円盤状土製品（図69-5・6）（図版62）

土器片利用品で 2 点ある。2 点とも土器片の無文部を利用する。径 3 ㎝程の小型である。6 は東区 23 層出土で大洞C2 式期に属す。

第12節　その他土製品（図69-7～9）（図版62）

図69-7～9は土製品あるいは土器装飾の一部とみられるが、どの部位か判別ができないものである。3 点ある。7 は径 3.7 ㎝の円錐形で、上面は破損する。底面には周に沿って沈線が巡る。赤色顔料の付着はなく、全体的に劣化する。土偶の一部の可能性がある。8 は中空土偶の腕部あるいは脚付土器の脚部とみられる。棒状の箇所は長さ 2.6 ㎝、径 1.6 ㎝である。9 は棒状で両端を欠く。長さ 1.5 ㎝が残り、径 0.8 ㎝である。

（渡邊瑛彦・杉山一樹・上條信彦）

第５章　出土骨角器・貝製品の分析

第１節　骨角器・貝製品の概要

本調査で検討する骨角器と貝製品は 65 点に及ぶ。器種は、骨鏃など狩猟具、ヤスといった漁労具、骨針、刺突具といった工具、髪針、垂飾、勾玉などの装飾品、漆塗貝製品など 13 種にわたる。内訳は骨鏃２点、ヤス３点、組み合せ式ヤス７点、ヤス状刺突具８点、刺突具９点、弭形角製品１点、髪針６点、垂飾６点、管状加工垂飾３点、札状加工垂飾１点、腰飾２点、勾玉３点、漆塗貝製品４点、未成品・廃材９点、器種不明２点で、ヤスなどの刺突具類が多い。なお、このなかには破損や劣化により器種認定が推定に留まるものもあり、その場合には疑問符を付した。

東区 37 点、西区 24 点で、東区の出土数が多い。出土層序は低湿地にあたる東区 13 層～ 25 層、西区Ｖｂ～Ⅶａ層でおおよそ晩期後半の大洞C2 ～大洞A2 式期に属す。内訳は東区 10 ～ 14 層１点、東区 15 ～ 26 層 34 点、西区Ｖ層 11 点、西区Ⅵ層 12 点、西区Ⅶ層１点で大洞C2 式期の東区 15 ～ 26 層、および大洞A1・２式期の西区Ｖ・Ⅵ層がまとまっている。注記が不鮮明なため所属層位不明なものが若干あるが、台帳の日付や順序から上記の層序と同じで大洞C2 ～A2 式期に属すとみられる。以下器種別に述べる。

第２節　骨鏃（図 70-1・2）（図版 63）

着柄のための茎をもち、茎とは反対側の先端部を尖らせるもの。２点ある。いずれも東区Ｉグリッド、23 層で大洞C2 式に属す。長さ５～６㎝、幅１㎝未満で細身である。１は鹿角製で、器体部と茎部が明確に分かれ、段をなす。断面は円形である。２は器体部と茎部の境が括れるものである。器体部は菱形で茎部が器体部より長い。断面は扁平である。被熱による黒色部がある。全面が劣化し、研磨痕は不明瞭である。

第３節　ヤス（図 70-3・4、図 73-4）（図版 63・66）

外形がまっすぐで、片側または両側に複数の逆刺があるもの。３点ある。なお斜行着柄加工のあるものは組み合せ式ヤス、器体部と基部が不明瞭で逆刺のないものをヤス状刺突具として区別する。東区 17 層、同 25 層、不明、各１点で大洞C2 式期に属す。鹿角製である。図 70-3・4 は、いずれも長さ 15 ㎝ほどの大型品で逆刺は両側に 10 程度ある。しかしその位置はランダムで、浅く、抉る程度である。図 73-4 も同類の先端付近とみられるが劣化が激しく、逆刺は劣化により欠損する。

第４節　組み合せ式ヤス（図 70-5～11）（図版 63）

先端の向きに対して、基部が斜めに切られており（斜行着柄加工）、柄に装着した際に外側に分岐したような形状になるもの。７点ある。ほとんどが東区 15 ～ 26 層で、大洞C2 式期に属す。東区Ｈ～Ｌグリッドから検出した。逆刺付２点と、逆刺無５点がある。逆刺付は 10 ㎝を超える。図 70-5・6 は逆刺付である。逆刺は両側にある。鹿角製で斜行着柄加工された平坦な基部にアスファルトが付着する（図版参照）。その反対側には、紐を結びつけるための抉りがある。５は完形品、６は先端を欠く。

図 70-7 ～ 11 は逆刺無である。これらのうち、図 70-7 ～ 9 は、長さ６～８㎝、径 0.5 ～ 0.7 ㎝で断面が円形で直線状である。挟み込む構造でないため、これ自体が組み合せ式ヤスの器体に接合して、その逆刺部として機能していたとみられる。全面が研磨され、黒色物が付着する。拡大観察ではアスファルトと同じ色、質感であることから（図版参照）、器体と接合するためにアスファルトが塗られて

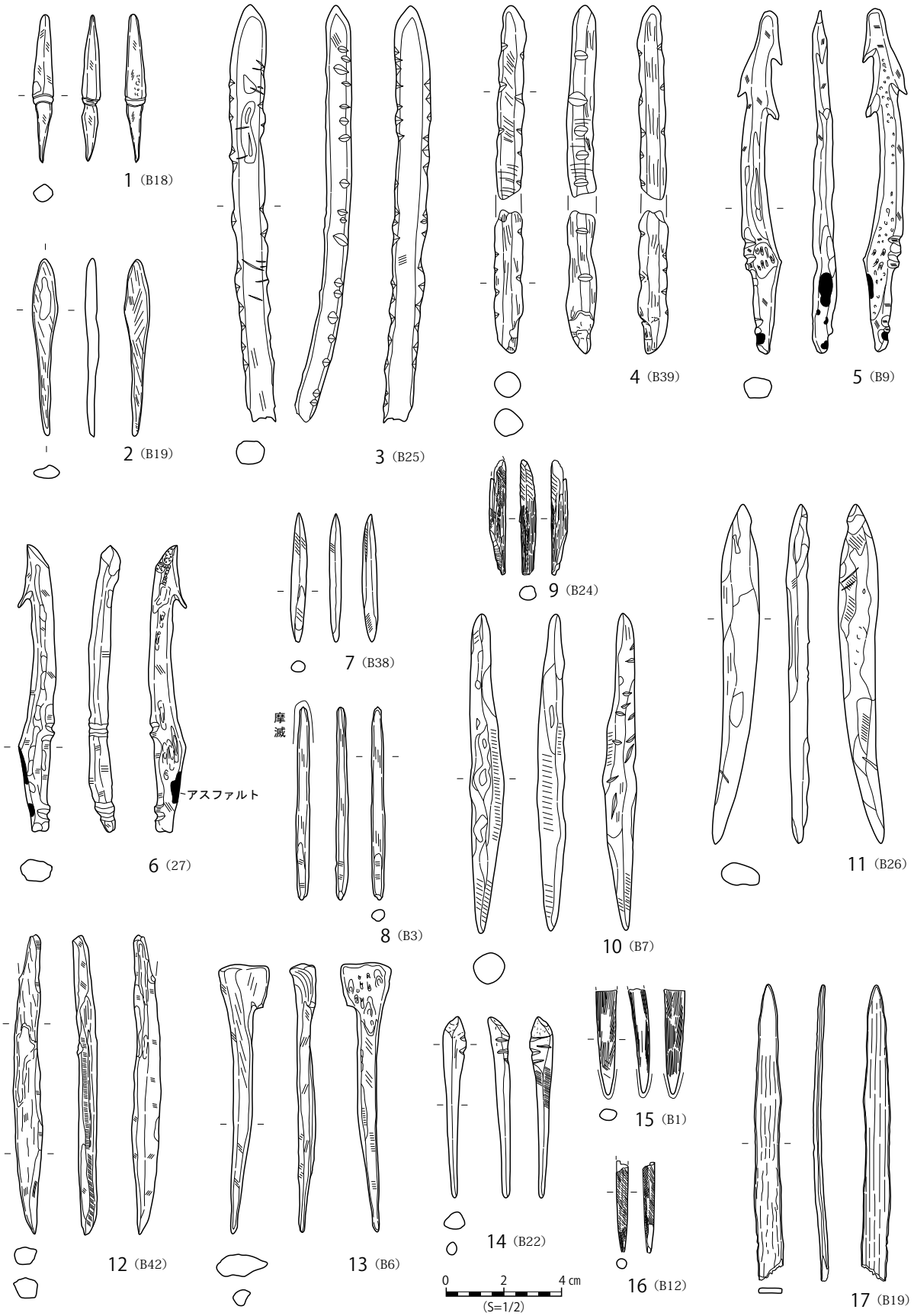


図 70　山王囲遺跡骨角器 1

いたと推測される。7 は片側に刃をつけ先端を尖らせる。8 の先端は磨滅する。10・11 は長さ 10 ㎝、幅 1 ㎝を超える。劣化により基部などが不明瞭だが、全体形が湾曲し平坦な面があることから逆刺と接合する組み合せ式ヤスの器体と推定される。鹿角製である。

第５節　ヤス状刺突具（図 70-12、図 72-1～6、図 73-5）（図版 63・65・66）

刺突部があるものの、逆刺がなく、かつ茎部と基部に明確な区別ないものをまとめた。このなかには本来ヤスであったものの欠損や劣化により器種判定が難しかったものも含む。東区 1 点、西区 6 点、層区不明 1 点、計 8 点ある。層位は東区 25 層 1 点、西区Ⅴ・Ⅵ層 6 点で、大洞C2 ～大洞A2 式期に属す。鹿角製あるいはシカ中手・中足骨製である。全て長さ 5 ㎝以上である。図 70-12 は長さ 10 ㎝を超える。シカ中手・中足骨製である。図 72-1・2・4 は大きさが長さ 8 ㎝ほど、幅 1 ㎝未満で、断面が扁平である。シカ中手・中足骨製である。端部の一方を欠く。先端を研磨し鋭利にする。3 は骨鏃の可能性もあるが、鏃としては先端が丸いため刺突具とした。鹿角製である。5・6 はいずれも劣化、変形するものの、長さ 10 ㎝以上、断面円形の棒状の刺突具と推定される。劣化により研磨痕は観察しにくい。図 73-5 は破片であるが、図 70-12 と同じ形状で長さ 10 ㎝を超えるとみられる。

第６節　刺突具（図 70-13～17、図 72-7・8、図 73-6・7）（図版 63・65・66）

器体の一方を尖らせ、刺突機能を有する。もう一方は着柄加工や、穿孔、装飾がなく自然面を残す。このなかにはもともと骨針や髪針であったものの欠損や劣化により器種判定が難しかったものも含む。東区 4 点、西区 2 点、層区不明 2 点の計 8 点ある。層序は東区 15 ～ 26 層 3 点、西区Ⅴ・Ⅵ層各 1 点、不明 3 点で、大洞C2 ～A2 式期に属す。細身で断面円形、直線状のもの（6 点）と、柳葉形で断面扁平なもの、錐状の先端部があるもの、シカ尺骨製で太身のもの、各 1 点の 4 種に分けられる。

図 70-13 ～ 17 は東区出土である。図 70-13 ～ 16、図 72-7・8 は細身で断面円形、直線状のものである。図 70-13・14 は完形品でその他は先端部のみである。13 は長さ 9.2 ㎝で、刺突部の長さ 7.5 ㎝、径 0.5 ㎝である。14 は長さ 6.2 ㎝、刺突部の長さ 4 ㎝、径 0.4 ㎝で基部に比べ長い刺突部を持つのが特徴である。13 の基部は自然面を残すが、14 には刻目がある。図 70-15 は鹿角などの先端部を利用して作られたもので縦方向の研磨痕を残す。図 70-16 は全面を丁寧に研磨され、断面は正円である。被熱により変色する。図 70-17 は柳葉形で断面扁平である。東区 18 層出土で大洞C2 式期に属す。長さ 10 ㎝以上ある。哺乳類の肋骨製とみられる。図 72-7・8 は西区出土である。図 72-7・8 は細身で断面円形、直線状のもので先端側 5 ㎝ほどが残存する。7 は西区Ⅴ層、8 は西区Ⅵ層出土である。7 は全体が磨滅する。8 は管骨を割いた後、先端を研磨し刺突部を作り出す。図 73-6・7 は層位不明である。図 73-6 は錐状の先端部があるもの、図 73-7 はシカ尺骨製で太身のものに該当する。6 は鹿角片の端の両側が抉れ、その先端が細く突き出し錐状をなす。錐部は径 1.3 ㎝で磨滅し線状痕が観察できる。7 はシカ左尺骨の遠位側を尖らし、近位端側を握り部とする。近位端側の片側には傷状の痕跡がある（図版参照）。

第７節　弭形角製品（図 71-1）（図版 64）

鹿角の枝部・角幹部を輪切りあるいは枝部の先をそのまま用い、その内部のスポンジ質をくり抜いて貫通させるか、ソケット状にする。短型で装飾はない。図 71-1 は鹿角先端部の加工品である。下側に溝を巡らせる。下面は凹ませてソケット状にする。表面は磨滅して光沢がある。

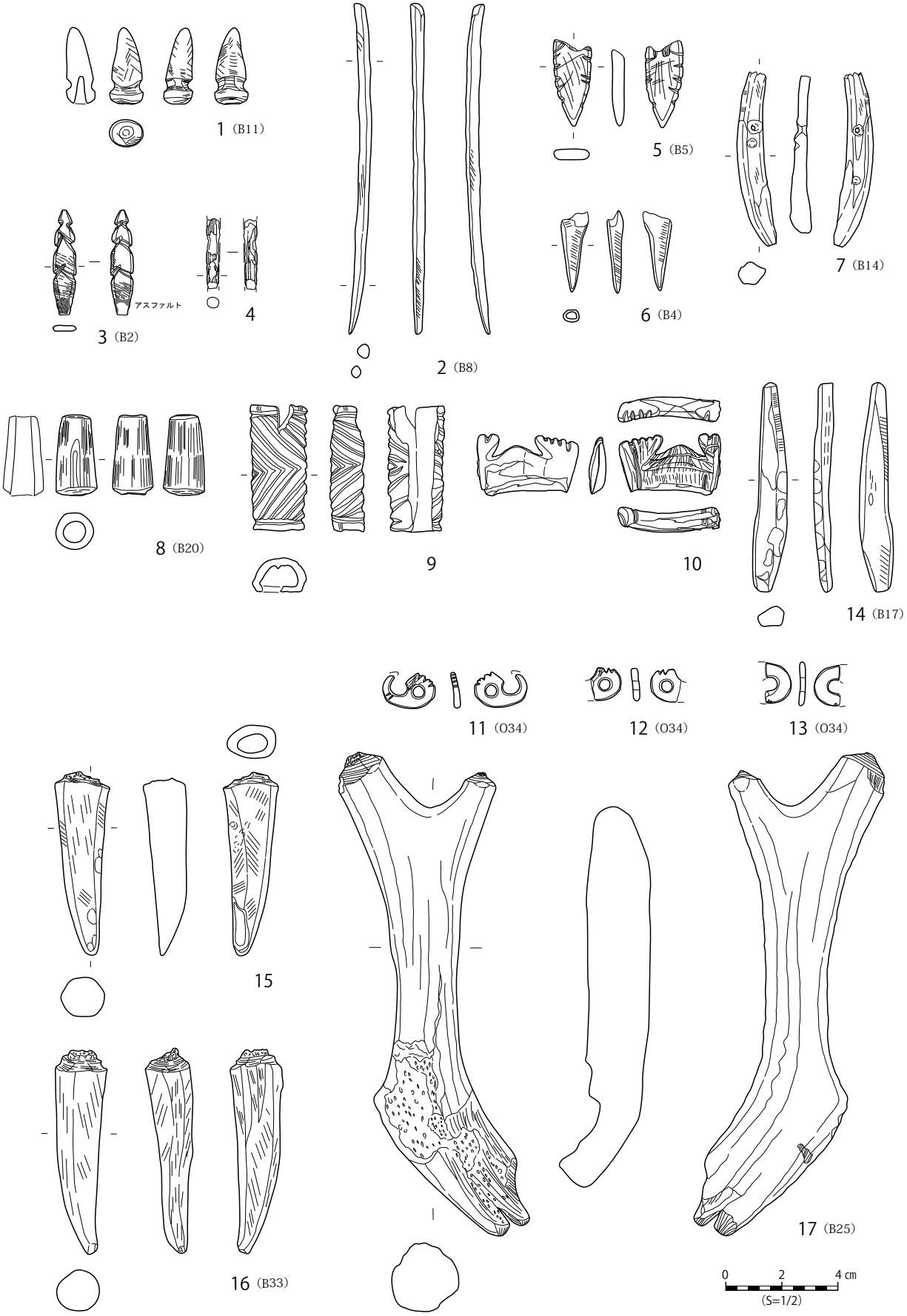


図 71　山王囲遺跡骨角器２

第８節　髪針（図71-2～4、図72-9～11）（巻頭写真3、図版64・65）

全体が細長い針のようなかたちになっており、針先ではない一方に装飾がみられる例や赤漆が残る例がある。東区４点、西区２点の計６点ある。東区 10 ～ 14 層１点、東区 15 ～ 26 層２点、西区Ⅴ層１点、西区Ⅵ層２点で大洞C2 ～A2 式期に属す。加飾部がないタイプと加飾部があるタイプ、いわゆるかんざしに二分される。加飾部がないタイプは１点、加飾部があるタイプは４点ある。加飾部は個々に特徴があり同じものはない。

図 71-2・3 は大洞C2 式期に属す東区 15 ～ 26 層出土である。2 は長さ 11.8 ㎝、径 0.5 ㎝と細く長い。針部のみで骨の形状から加飾部がないタイプとみられる。赤漆が微量に付着する。3 は針部を欠くとみられる加飾部である。加飾部は沈刻によって両側に３つの抉りを入れる。欠損部にアスファルトが付着し（図版 64 参照）、接着剤として利用したとみられる。ただし本資料はその形状から両側の抉りを逆刺とみることもでき、ヤスの可能性もある。図 71-4 は東区 13 層出土で、大洞Ａ式期に属すとみられる。径0.4 ㎝の直線状で針部の一部とみられる。表面は光沢を帯びるほど磨滅する。赤漆が付着する。

図 72-9 ～ 11 は西区Ⅴ・Ⅵ層出土である。9 は先端を一部欠くものの全体形がうかがえる。長さ 12.1 ㎝分が残る。シカ中手・中足骨製とみられる。加飾部は骨の形を利用し抉りを入れる。10 は針部の６㎝ほどが残る。径 0.5 ㎝で赤漆が付着する。

11 は加飾部が大きく立体的な優品である。西区Ⅵ層検出である。長さ 8.0 ㎝が残り、加飾部は最大径 3.9 ㎝を測る。全面が赤漆塗である。シカ肩甲骨製であり、関節から外側縁の一部を残し、関節窩周囲を加飾部とする。加飾部の上縁に刻みを巡らし、その下に４つの孔を入れる。孔は貫通、未貫通各２ヶ所ある。この部位を装飾品として用いるのは珍しい。

第９節　垂飾（図71-5～7、図72-12・13・17）（図版64・65）

装飾的な効果を高めるために身体につけて吊り下げる構造のあるものである。このうち、環状、札状など特徴的な形は別記する。なお、欠損により全体形が不明で他器種の可能性がある場合には器種名に疑問符を付した。計６点ある。東区３点、西区３点である。東区は全て 15 ～ 23 層で大洞C2 式期に属す。西区はⅤ層１点、Ⅶ層１点で大洞C2 ～A2 式期に属す。鹿角またはイノシシ下顎歯製がほとんどである。図 71-5・6 は先端が尖り半分以上を欠くため、刺突具など他器種の可能性がある。5 は鹿角製である。5・6 とも断面扁平で 5 には両側に刻目がある。図 71-7、図 72-13 はイノシシ下顎切歯製の垂飾である。いずれも右第１切歯が用いられる。長さ６㎝、幅１㎝ほどである。図 71-7 は貫通孔が１ヶ所、図 72-13 は２ヶ所ある。図 71-7 は未貫通の孔が表裏各１ヶ所ある。図 72-13 の２ヶ所の孔には黒色物が充填され塞がれる。図 72-12 は歯牙である。片面（図左）は自然面を残すが、もう一方の面は水平に研磨した面が一部残存する。穿孔があると推測される基部を欠くが、垂飾の可能性が高いと判断した。図 72-17 は、シカの手根骨に穿孔したものである。

第10節　管状加工垂飾（図71-8・9、図72-14）（図版64・65）

垂飾のうち、鹿角や環状骨を輪切りにして管のように加工される。径に比べて全長が長いものとした。3 点ある。いずれも東区 15 ～ 26 層とみられ、大洞C2 式期に属す。図 71-8 は輪切りにした角枝部を素材とし、内部の海綿質をくり抜いて貫通させる。長さ 2.7 ㎝、最大径 1.4 ㎝である。装飾はないものの、表面には縦方向の溝状の凹みが１条あるが、加工か自然か判然としない。

図 71-9 は装飾加工がある好例である。長さ 4.3 ㎝、最大径 1.8 ㎝で、素材は断面形からシカ中手・中足骨の遠位部と判断される。表面には矢羽状の沈刻が巡る。他の骨角器にくらべ白色化しており、被

熱している可能性がある。図 71-14 は西区Ⅵ層で大洞A1 式期に属す。輪切りにした骨を素材とし、内面をくり抜いて貫通させる。長さ 1.9㎝、最大径 1.1㎝である。装飾はなく、表面は磨滅して光沢がある。

第11節　札状加工製品（図71-10）（図版64）

素材を扁平に切断加工した後、表面に彫刻を施した札状の製品である。1 点ある。東区 15 層出土で大洞C2 式期に属す。長さ 3.6 ㎝、幅 2 ㎝、厚さ 0.7 ㎝で、素材はイノシシ雄下顎犬歯で、舌側エナメル質の一部を切断して用いている。上辺を三叉状に抉り、残った上辺に連続的に刻目を入れる。

第12節　勾玉（図71-11～13）（図版64）

歯牙や貝殻の一部を切り出して勾玉状の製品にする。3 点ある。全て東区 10 層出土で、図版から石製玉類とともに集中して出土したことが分かる。エナメル質を素材としており、幅の広さからイノシシ雄下顎犬歯を使用している可能性が高い。図 71-11 はほぼ完形で長さ 1.9 ㎝、幅 1.2 ㎝、厚さ 0.3 ㎝を測る。2 ㎝に満たない小型品である。製作手順は素材を楕円形に切り出す。次に上下 2 ヶ所に穿孔、その際、一方の孔径をやや大きくする。穿孔後、大きい方の穿孔に切り込みを入れ尾部と抉り部を作り出す。頂部には刻目を入れ、装飾する。図 71-12・13 は接合しないものの同一個体とみられる。復元される大きさや製作手順は図 71-11 と同じである。

第13節　腰飾（図72-15・16）（図版65）

鹿角の叉状部を利用した有孔の叉状製品で、彫刻がある例もある。2 点ある。西区Ⅵ層出土で大洞A1 式期に属す。いずれも鹿角を素材とする。図 72-15 は長さ 2.4 ㎝、幅 1.5 ㎝で全面に赤漆が塗られる。穿孔部を上にした場合、2 本の軸が直角に交わる。

図 72-16 は彫刻がある好例である。長さ 9.1 ㎝、幅 1.3 ㎝である。基本形は図 72-15 と同じで、穿孔部を上にした場合、2 本の軸が直角に交わる。断面は海綿質が除かれ、U字形を呈す。文様は端部と交叉部に円文を配し、一方の軸に連続弧文、もう一方に入組三叉文を挿入する。彫刻文様の内面には漆とみられる物質が残存する。

第14節　未成品・廃材（図71-14～17、図73-1～3）（図版64・66）

製品の製作途中あるいは製作過程で除かれた加工痕を残す資料である。9 点中 7 点図示した。東区 5 点、西区 4 点を見出した。東区資料は全て 15 ～ 26 層で大洞C2 式期に属す。西区資料はⅥ層で大洞A1 式期に属す。図 73-1 ～ 3 以外は鹿角を素材とする。東区の図 71-14 は長さ 7.4 ㎝、幅 1.2 ㎝の短冊状に分割したものである。全面を研磨する。特に基部を面取りするように研磨されており（図版参照）、ヤスあるいは組合式ヤスの未成品とみられる。図 71-12・13 は鹿角先端、逆に図 71-14 は角の第 2 ～第 3 分岐に当たり、いずれも端部に切断痕跡が残る。角幹部を取り出した残部とみられる。図 71-14 と図版 64 にみられるように切断痕は、複数の面が巡り、面には擦切痕が残る。石器で切り込みを入れて抉った後、折り取って素材を得ていたと推定される。西区の図 73-1 は上下端に横位の研磨痕が残る。骨製で、形状からイノシシ腓骨製の箆状製品の可能性があり、その場合は製品かもしれない。図 73-2 はイノシシ左尺骨製。長さ 11.9 ㎝で特に近位端が磨滅し、使用痕、ないしは握り部とするために成形している可能性がある。図 73-7 のような尺骨を用いた近位端側を握り部とする刺突具の未成品もしくは先端を欠損した製品とみられる。図 73-3 は骨製。先端が磨滅し刺突具の製作途中あるいは、この段階で刺突具として機能していたとみられる。

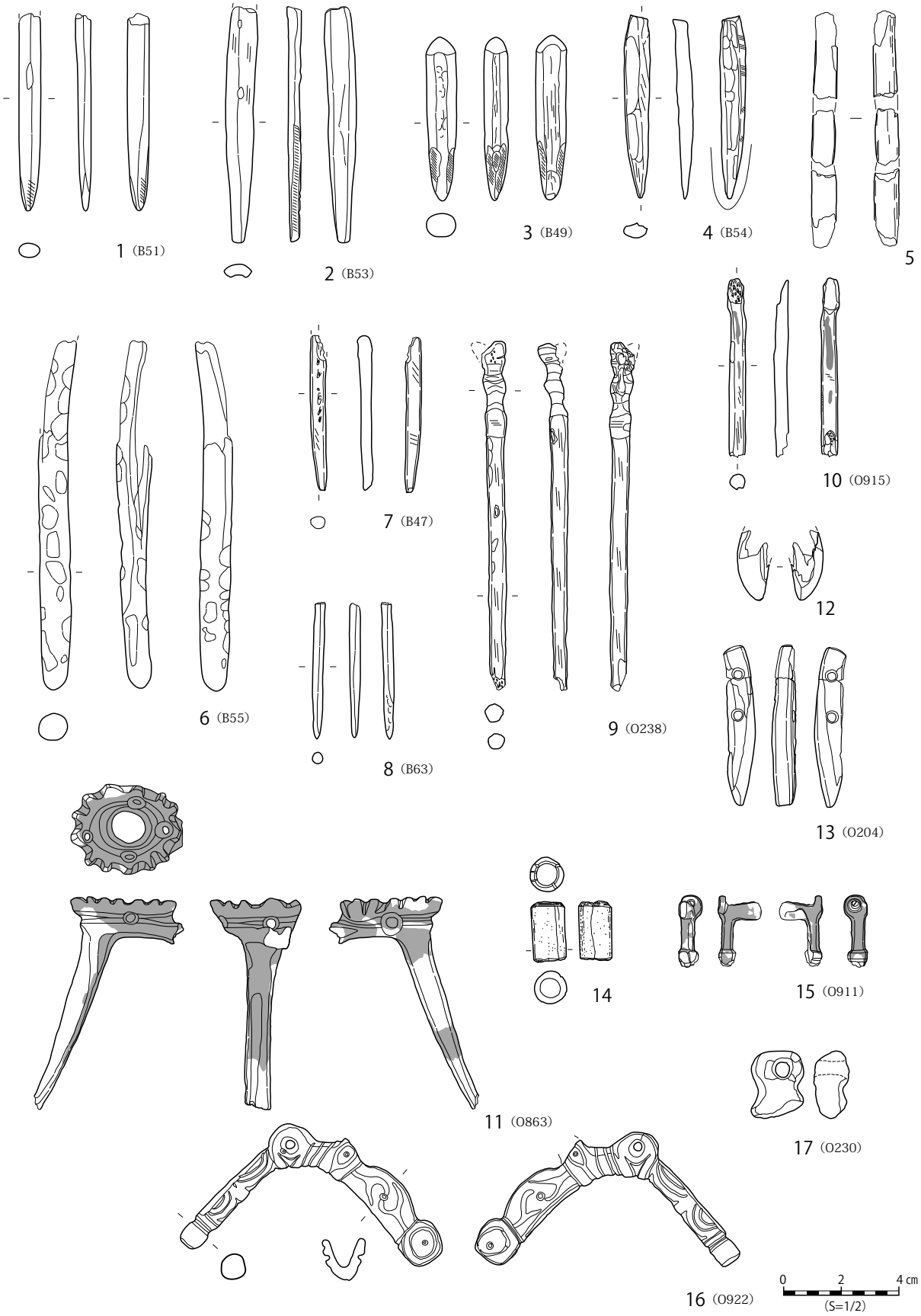


図 72　山王囲遺跡骨角器３

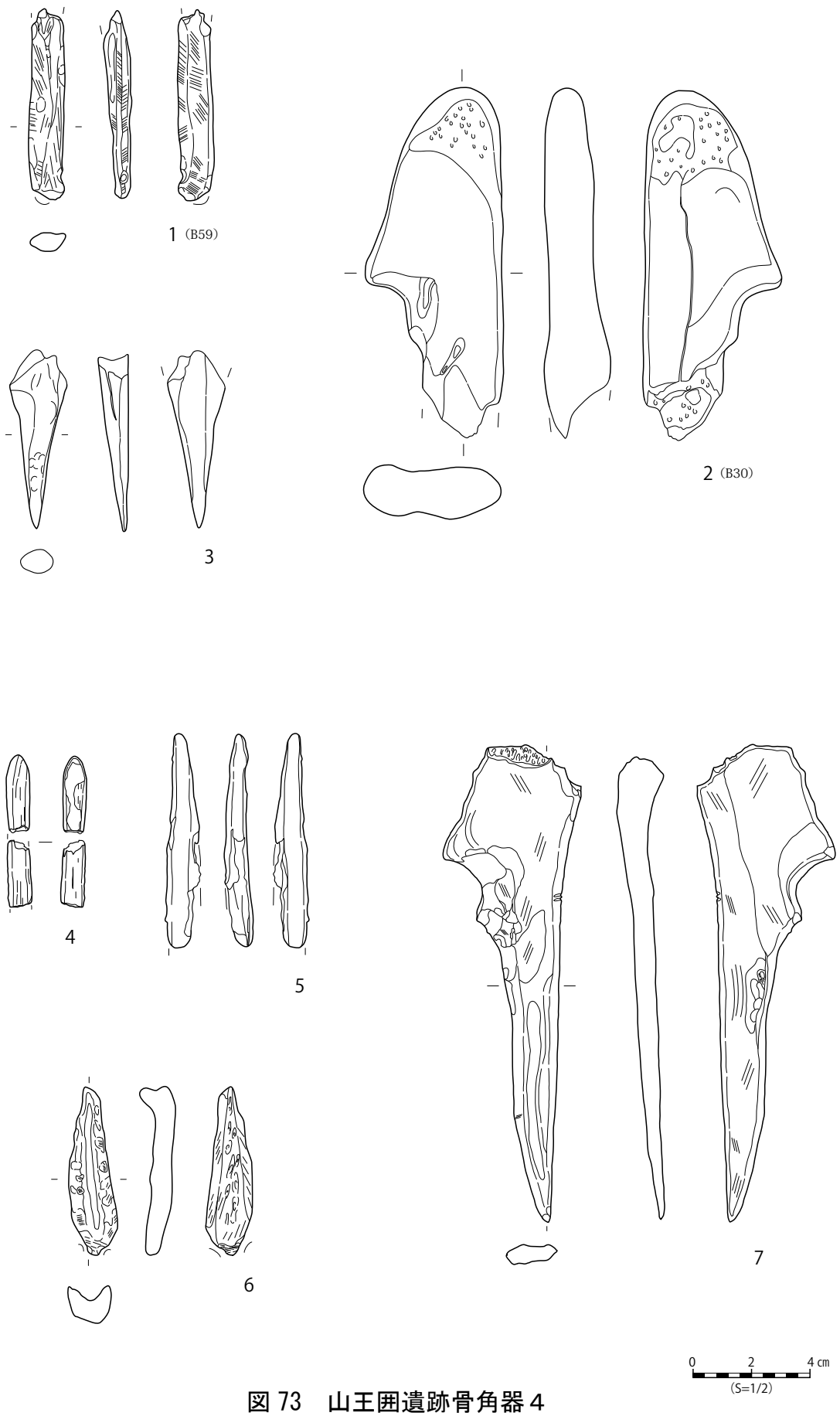


図 73　山王囲遺跡骨角器４

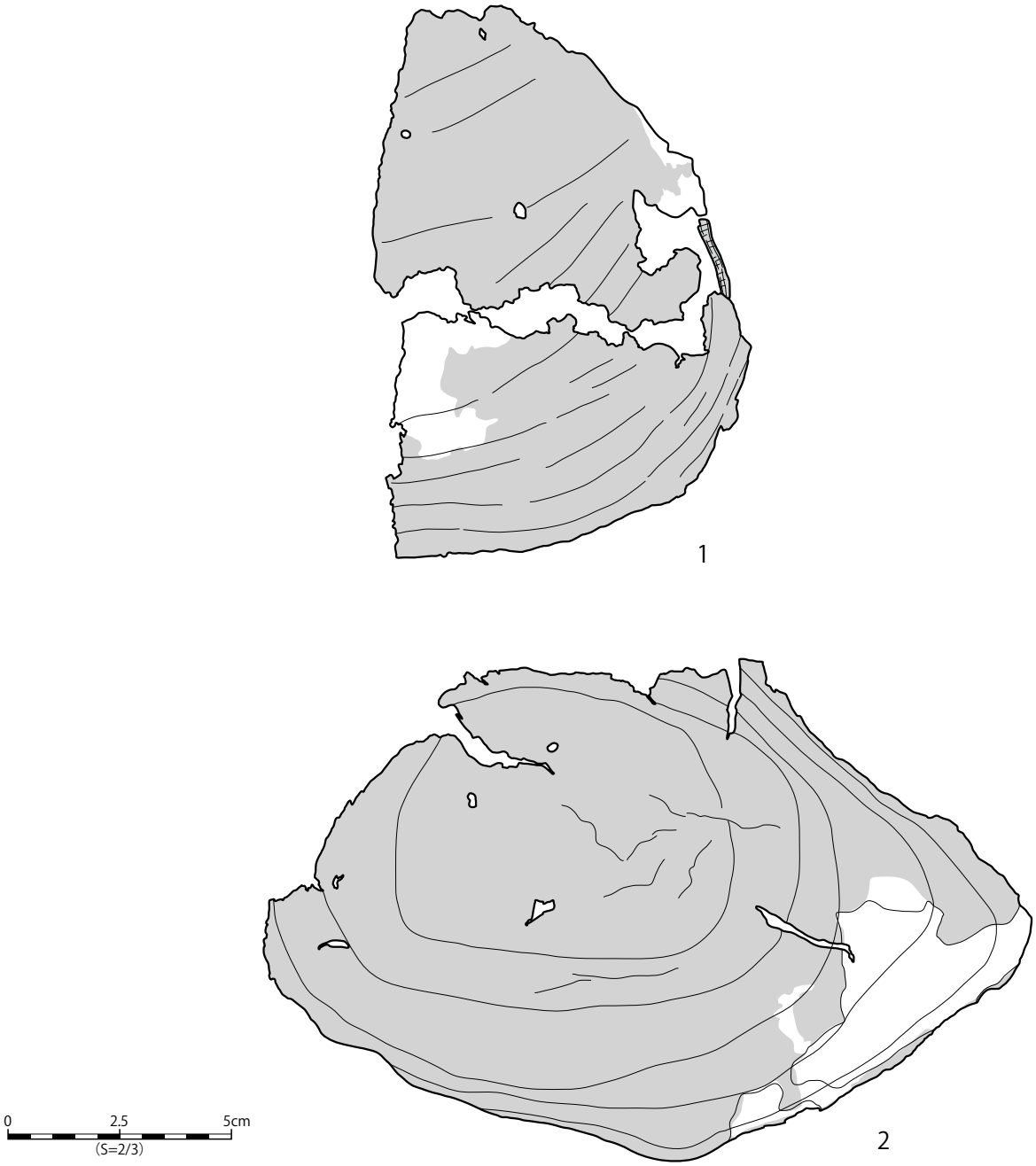
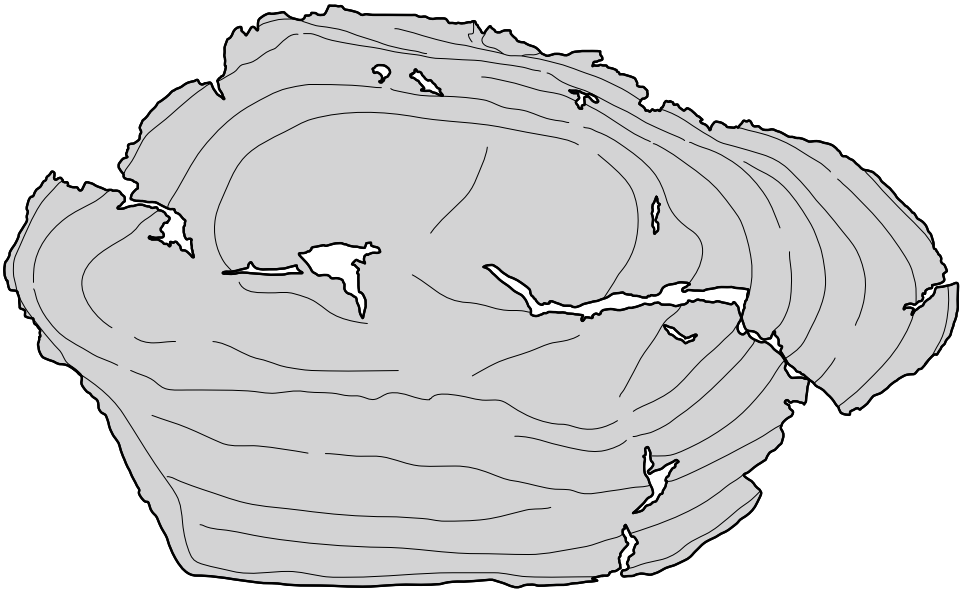
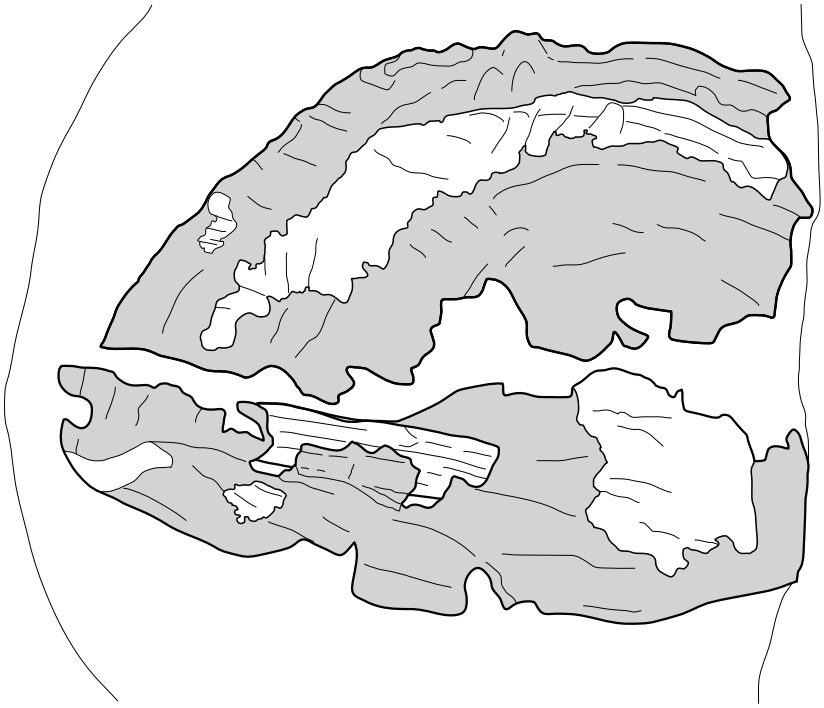


図 74　山王囲遺跡漆塗貝製品 1



1



2

0　2.5　5cm
(S=2/3)

図 75　山王囲遺跡漆塗貝製品２

第15節　漆塗貝製品（図74・75）（図版67・68）

幅10㎝以上の大型の二枚貝に漆が塗られている資料である。4点ある。なお本研究では全体形が推測できる資料を掲載、その外面を図化した。そのほか掲載外の小片が複数ある。素材はイシガイ科とみられる淡水性の貝で、殻は消失し殻皮のみ残存する。東区３点、西区１点あり、東区は３点とも15～26層出土で大洞C2式期、西区はⅥ層で大洞A1式期に属す。大きさは完形品で殻長16～19㎝、殻高10～12㎝で破損品もおおよそ同じ大きさに復元できる。図74-1は保存のため和紙に裏打ちされた状態で外面のみ観察できる。半分程度が残り、外面には赤漆が全面に塗られる。図74-2は殻長16.7㎝、殻高10.4㎝を測る完形品である。左殻で外面に赤漆が全面に塗られるが、内面は赤漆が部分的に残る。図75-1も殻長18.9㎝、殻高11.2㎝を測る。図74-2と同型品で、左殻で外面に赤漆が前面に塗られるが、内面は赤漆が部分的に残る。図75-2は劣化が著しく、土壌ごと取上げられた資料である。本研究によってクリーニング、保存処理を行った。殻長12.3㎝、殻高9.3㎝が残る。殻の部位は不明である。土壌に赤色顔料が沈着し全面に赤漆が塗られていたとみられる。

（櫻庭陸央・山口沙織・植月　学・上條信彦）

表 12　山王囲遺跡石器観察表

石鏃

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	先端角	茎部有無	茎部長	基部形態	側辺部形態	素材剥片	欠損	礫面	備考
	492	143	石鏃	東		10C2	鉄石	中凸	(1.5)	1.0	0.5	0.5		欠	欠	35	有	0.8	凸基	直欠	縦	基部	無	
	493	316	石鏃	東		10C2	鉄石	短凸	3.0	1.5	0.8	2.5		1.2	1.1	38	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	未成品
	494		石鏃	東	Cd(L)	10	鉄石	無平	2.5	2.0	0.7	3.3		1.3	1.7	59	無	—	平基	直	縦	完	無	未成品？
	896	319	石鏃	東		11	鉄石	棒状	(2.0)	0.7	0.5	0.7		(1.6)	0.7	28	有	(0.4)	棒	直	縦	先端・基部	無	
	897	319c	石鏃	東		11	鉄石	無円	(3.1)	2.0	0.7	4.5		2.5	2.0	82	無	—	円基	直	縦	基部	無	
	901	232	石鏃	東		12	玉髄	短凸	(1.9)	1.2	0.4	0.6		1.3	1.2	52	有	(0.4)	凸基	直	縦	基部	有	
	498		石鏃	東	Cb(J)	12	鉄石		3.1	2.5	1.5	9.0		—	—	—	—	—	—	—	縦	—	有	
	505	305	石鏃	東		14	珪頁	短凸	(2.6)	1.4	0.4	0.8		1.4	0.8	29	有	0.3	凸基	直	縦	茎部折	無	弥生
図 4-9	523		石鏃	東	Bb(F)	15	鉄石	無平	3.1	1.2	0.5	1.0	As	1.6	0.8	22	無	—	平基	直	横	完	無	
図 4-1	528	258	石鏃	東		16	鉄石	短平	2.4	1.3	0.4	0.7	茎部As	1.0	0.8	41	有	0.6	平基	直	縦	完	無	弥生
	529	395	石鏃	東		16	鉄石	短凸	(2.5)	1.0	0.4	0.8	茎部As	1.3	0.8	28	有	(0.3)	凸基	直	縦	完	無	
図 4-7	538	477	石鏃	東		18	鉄石	無円	3.2	2.0	1.0	5.2		1.7	1.8	70	無	—	円基	直	横	完	有	
	539	398	石鏃	東		18 ？	鉄石	木葉	2.4	1.9	0.7	2.2		1.2	1.3	97	有	0.6	欠	直	縦	完	無	
	547	375	石鏃	東		20	鉄石	短凸	2.3	1.0	0.3	0.4		0.9	0.7	36	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	弥生
	783		石鏃	東	Cc(K)	20	鉄石	—	3.3	2.0	1.1	7.0		—	—	—	—	—	—	—	縦	—	有	未成品
図 4-4	557	384	石鏃	東		21	鉄石	尖◇	2.1	1.5	0.6	1.4		1.1	1.2	63	有	0.6	尖基	片側湾曲	横	完	無	
	554	324	石鏃	東		21	珪頁	中凸	(2.1)	1.1	0.5	0.9		(0.7)	0.9	—	有	0.8	凸基	直	縦	先端折	無	
	555	381	石鏃	東		21	鉄石	欠	(1.1)	1.0	0.5	0.5		欠	欠	60	欠	欠	欠	直	縦	茎部折	無	
	556	382	石鏃	東		21	鉄石	中凸	(2.4)	1.2	0.3	0.6		(0.9)	0.8	43	有	0.8	凸基	直	縦	先端・刺し折	無	
	558	386	石鏃	東		21	鉄石	中凸	(2.4)	1.2	0.6	1.0		(0.7)	0.8	30	有	0.7	凸基	直	縦	先端・茎部折	無	
図 4-2	568	454	石鏃	東		22	鉄石	中凸	2.2	1.4	0.4	0.5		0.6	0.5	38	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
図 4-5	570	448	石鏃	東		22	鉄石	尖◇	(2.7)	2.0	0.8	3.6		1.3	1.8	60	有	1.2	尖基	直	縦	完	無	
	567	450	石鏃	東		22	鉄石	中凸	1.8	1.2	0.4	0.5	茎部As	0.5	0.7	61	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	569	456	石鏃	東		22	玉髄	中凸？	(1.6)	1.1	0.4	0.5	As	0.6	0.5	44	有	0.3	凸基	直	縦	茎部	無	
	574	443	石鏃	東		22	珪頁	中凸	(1.6)	0.9	0.4	0.5	As	0.7	0.6	31	有	0.3	凸基	直	縦	茎部折	無	
	742	383	石鏃	東		22	鉄石	無円	3.3	2.4	1.1	7.8		1.8	2.2	—	無	—	円基	一部湾曲	横	完	有	
	575	510	石鏃	東		23	鉄石	中凸	(1.8)	1.2	0.5	0.6		0.6	0.5	43	有	0.6	凸基	直	縦	茎部	無	
	589		石鏃	東	Cb(J)	24	鉄石		2.1	2.0	0.4	1.6		—	—	—	—	—	—	—	縦	—	無	未成品（無茎凹基）
図 4-3	619	526	石鏃	東		25	鉄石	中凸	2.8	1.4	0.5	1.4	茎部As	1.0	0.9	45	有	1.0	凸基	直	縦	完	無	
図 4-6	612	507	石鏃	東		25	鉄石	尖◇	2.5	1.5	0.8	2.8		1.3	1.4	48	有	0.8	尖基	直	縦	完	無	
図 4-8	618	490	石鏃	東		25	鉄石	無円	1.8	1.2	0.6	1.0	As	1.0	1.1	45	無	—	円基	直	縦	完	無	
図 4-10	608	461	石鏃	東		25	珪頁	無平	2.1	1.1	0.4	1.0		1.0	0.8	31	無	—	平基	直	縦	完	無	
図 4-11	606	504	石鏃	東		25	珪頁	木葉	2.4	(0.8)	(0.5)	0.9		1.2	(0.8)	欠	有	0.5	凸基	直	縦	基部半	無	
	11		石鏃	東	Ba(E)	25	鉄石		2.5	1.7	0.8	3.4		—	—	—	—	—	—	直	縦	—	有	未成品
	610	465	石鏃	東		25	鉄石	木葉	(1.7)	1.3	0.6	1.3		0.7	1.2	—	有	0.2	凸基	直	縦	茎・先端	無	
	744	479	石鏃	東		25	鉄石	木葉	(2.6)	1.7	0.5	2.1		1.4	1.5	110	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	605	501	石鏃	東		25	鉄石	中凸	2.1	0.8	0.4	0.5		0.7	0.5	28	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	607	506	石鏃	東		25	鉄石	短凸	2.8	1.9	0.7	3.7		1.4	1.7	62	有	0.7	凸基	直		完	無	
	609	464	石鏃	東		25	鉄石	中凸	(1.6)	1.1	0.4	0.7		0.7	0.8	58	有	0.2	凸基	直	縦	茎部折	無	
	611	468	石鏃	東		25	鉄石	中凸	1.4	0.9	0.5	0.6		0.6	0.7	60	有	0.4	凸基	直	縦	完	無	
	613	487	石鏃	東		25	鉄石	短凸	3.5	1.6	1.1	4.0		1.5	1.5	43	有	1.1	凸基	直	縦	完	無	未成品？
	614	515	石鏃	東		25	鉄石	尖◇	1.8	1.3	0.5	0.8		0.5	0.5	61	有欠	0.7	尖基	直	縦	完	無	
	615	474	石鏃	東		25	鉄石	短凸	0.7	0.9	0.5	0.9		0.7	0.9	49	有	0.5	凸基	直	縦	完	無	図版 69
	3	473	石鏃	東		25	鉄石	短凸	(1.8)	1.1	0.5	0.7	As	0.8	0.7	39	有	0.3	凸基	直	縦	茎部折	無	
	617	478	石鏃	東		25	鉄石	中凸	(1.8)	1.1	4.0	0.6	As	0.8	0.7	35	有	0.3	凸基	直	縦	茎部折	無	
	745	490	石鏃	東		25	鉄石	無平	2.4	2.1	0.6	4.0		1.3	2.0	85	無	—	平基	湾曲	横	完	有	
図 11-1	46	4	石鏃	西		Ⅲ l	珪頁	短凸	4.0	1.7	0.7	2.5	一部As	1.8	1.3	40	有	1.2	凸基	直	横	完	無	
図 11-2	57	546	石鏃	西		Ⅲ a	鉄石	短凸	2.1	1.0	0.4	0.5		0.7	0.6	55	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-3	55	542	石鏃	西		Ⅲ a	鉄石	短凸	2.4	0.9	0.3	0.6	茎部As	1.2	0.7	25	有	0.4	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-4	82	43	石鏃	西		Ⅲ k	珪頁	短凸	4.0	1.1	0.4	1.3		1.8	0.9	20	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-5	87	114	石鏃	西		Ⅲ k	珪頁	短凸	2.5	1.2	0.6	1.1		1.2	0.8	39	有	0.5	凸基	直	縦	完	有	松田実測
図 11-6	94	88	石鏃	西		Ⅲ c2	鉄石	短凸	2.6	1.2	0.4	1.4		1.3	0.7	39	有	0.6	凸基	直	縦	完	有	松田実測
図 11-7	48	127	石鏃	西		Ⅲ l	鉄石	短凸	3.1	1.1	0.5	1.0	茎部・基部下半As	1.5	1.0	36	有	1.0	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-8	74	567	石鏃	西		Ⅲ l	鉄石	短凸	2.4	1.1	0.6	1.5		1.1	0.9	31	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-9	63	502	石鏃	西		Ⅲ	黒曜	短凸	2.8	1.1	0.6	1.2		1.3	0.9	34	有	0.7	凸基	直	縦	完	有	産地分析No.5、松田実測

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	先端角	茎部有無	茎部長	基部形態	側辺部形態	素材剥片	欠損	礫面	備考
図 11-10	64	558	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短凸	2.1	1.0	0.5	0.5		0.9	0.7	40	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-11	65	559	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短凸	2.1	0.9	0.4	0.4		0.9	0.6	38	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-12	66	561	石鏃	西		Ⅲ	珪頁	短凸	(2.6)	1.5	0.7	2.1		(1.1)	1.3	60	有	0.4	凸基	直	横	先端折	無	松田実測
図 11-13	68	564	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短平	1.8	0.7	0.4	0.3	茎部As	0.9	0.5	31	有	0.3	平基	直	縦	完	無	
図 11-14	86	113	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	短平	2.1	0.9	0.3	0.4		0.9	0.6	32	有	0.6	平基	直	横	完	無	松田実測
図 11-15	50	137	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	短平	1.6	0.9	0.3	0.2	茎部微量As	0.8	0.6	40	有	0.4	平基	直	横	完	無	松田実測
図 11-16	97	184	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	短平	2.9	1.3	0.4	1.1		1.3	0.9	37	有	0.8	平基	直	横	完	無	松田実測
図 11-17	75	568	石鏃	西		Ⅲl	玉髄	短平	(2.1)	1.2	0.6	0.8		1.0	0.9	45	有	(0.5)	平基	直	縦	茎部	無	松田実測
図 11-18	47	73	石鏃	西		Ⅲa	鉄石	長平	2.6	1.3	0.5	1.0	茎部As	0.7	1.2	59	有	1.4	平基	直	横	完	無	
図 11-19	69	122	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	尖◇	1.6	1.2	0.5	0.7		0.5	0.7	56	有	0.6	尖基	直	横	完	無	
図 11-20	70	126	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	尖◇	(2.0)	0.9	0.4	0.6		(0.5)	0.7	55	有	1.1	尖基	直	縦	先端折	無	松田実測
図 11-21	73	566	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	尖◇	3.9	2.0	12.2	7.5		1.3	1.5	44	有	1.8	尖基	片辺湾曲	縦	完	有	松田実測
図 11-22	54	554	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	中凸	2.3	1.2	0.5	0.8		0.8	0.9	58	有	0.8	凸基	直	横	完	無	松田実測
図 11-23	51	161	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	中凸	2.6	1.3	0.5	0.8		0.9	0.6	48	有	1.0	凸基	直	横	完	無	松田実測
図 11-24	92	54	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	中凸	2.4	1.1	0.5	0.8		0.9	0.6	40	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-25	89	51	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	中凸	2.7	1.8	0.8	2.8		1.0	1.2	67	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-26	628	37	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	棒状	(2.5)	0.7	0.7	1.2		1.4	0.7	26	不明瞭	欠	棒	直	縦	茎部欠折	無	
図 11-27	93	87	石鏃	西		Ⅲc2	鉄石	棒状	2.1	0.7	0.5	0.7		0.6	0.5	41	不明瞭	欠	棒	直	横	完	無	
図 11-28	79	40	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	無円	2.1	1.5	0.7	2.9		1.3	1.4	61	無	無	円基	直	縦	完	有	
図 11-29	60	70	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	無円	2.6	1.5	0.5	1.6		1.3	1.4	43	無	無	円基	直	縦	完	有	
図 11-30	78	39	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	無平	(2.2)	(1.4)	0.7	1.9		1.2	1.0	42	欠	欠	平基	直	縦	茎部折	無	
図 11-31	71	134	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	無平	2.1	1.1	0.5	1.1		1.2	1.0	56	無	無	平基	直	縦	完	無	松田実測
図 11-32	98	555	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	木葉	(2.8)	1.2	0.6	1.8		1.2	1.1	55	欠	欠	欠	直	縦	茎部折	無	松田実測
図 11-33	95	89	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	?	(2.3)	(1.9)	(1.0)	4.2		欠	欠	欠	有か	欠	欠	直	縦	下半部	有	未成品？松田実測
	59	69	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	?	(1.7)	1.3	0.6	0.7		欠	欠	—	有	(1.0)	凸基	直	縦欠	下半残存	無	
	61	74	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短凸	(2.0)	1.3	0.4	1.2		1.0	1.4	53	有	(0.4)	凸基	直	縦	先端折	有	
	62	75	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短凸	2.4	1.2	0.7	1.3		0.9	1.0	40	有	0.7	凸基	直	横	完	無	
	67	563	石鏃	西		Ⅲ	鉄石	短凸	3.0	1.3	0.5	1.1		1.5	1.0	31	有	0.6	凸基	直	横	完	無	
	104		石鏃	西		Ⅲ	珪頁	未成品	3.5	1.7	4.4	2.6		—	—	—	—	—	—				無	
	56	545	石鏃	西		Ⅲa	鉄石	短凸	(2.8)	1.2	0.7	1.4	基部下半As	1.5	0.7	25	有	(0.4)	凸基	直	横	茎部折	無	
	58	549	石鏃	西		Ⅲa	鉄石	短凸	(2.2)	1.7	0.9	2.0		0.8	0.9	57	有	(0.5)	凸基	直	縦	茎部折	有	分類 長の可能性
	49	136	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	短平	(2.5)	1.0	0.5	1.1		1.2	0.9	28	有	(0.5)	平基	直	横	先端・茎部折	無	
	52	544	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	短凸	2.4	0.9	0.4	0.5		1.2	0.8	35	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	53	553	石鏃	西		Ⅲc	鉄石	短凸	2.6	1.2	0.6	1.4		1.1	1.1	40	有	0.7	凸基	直	縦	完	有	
	88	50	石鏃	西		Ⅲc2	鉄石	短凸	1.9	1.0	0.4	0.5		0.7	0.7	38	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	
	90	52	石鏃	西		Ⅲc2	珪頁	短凸	2.4	1.5	0.9	2.7		1.1	1.4	40	有	0.3	凸基	直	縦	完	無	
	91	53	石鏃	西		Ⅲc2	鉄石	棒状	2.7	1.1	0.6	1.8		1.4	1.1	32	不明瞭	欠	棒	直	縦	完	有	
	96	177	石鏃	西		Ⅲc2	鉄石	短凸	(2.4)	1.4	0.4	1.0	黒色物	1.2	0.8	39	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	99	557	石鏃	西		Ⅲc2	鉄石	短平	(1.6)	0.6	0.3	0.2	先端部黒色物	0.8	0.4	26	有	(0.2)	平基	直	横	茎部折	無	
	629		石鏃	西	Dd(P)	Ⅲk	鉄石	?	2.5	1.2	0.5	1.0	黒色物	1.4	0.7	26	有か	欠	平基	直	縦	茎部折	無	弥生？
	77	38	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	?	(1.8)	1.7	0.6	1.4		欠	欠	57	有か	欠	欠	直	横	上半残存	無	
	80	41	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	尖◇	2.5	1.5	0.7	2.2		1.1	1.3	53	欠	0.9	尖基	直	縦	完	有	
	81	42	石鏃	西		Ⅲk	珪頁	短平	(2.8)	1.2	0.4	1.1		1.5	0.9	29	有	(0.2)	平基	直	縦	茎部折	無	
	83	45	石鏃	西		Ⅲk	珪頁	?	(2.3)	1.5	0.7	1.4		欠	欠	50	有か	欠	欠	直	縦	上半残存	無	
	84	95	石鏃	西		Ⅲk	鉄石	無円？	(2.6)	1.5	0.7	2.0		1.4	1.3	40	無	無	円欠	直	縦	茎部折	有	
	85	108	石鏃	西		Ⅲk	珪頁	中凸	2.0	1.1	0.5	0.6		0.5	0.7	62	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	72	135	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	短凸	(1.7)	0.8	0.5	0.4		0.8	0.5	34	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	76	569	石鏃	西		Ⅲl	鉄石	短凸	2.0	0.9	0.5	0.7	茎部As	0.8	0.9	58	有	0.5	凸基	直	縦	完	有	
	165		石鏃	西	Db(N)	Ⅲl上	珪頁	未成品	3.2	2.2	9.6	6.6		—	—	—	—	—	—				無	
	630		石鏃	西		Ⅲl面	珪頁	木葉？	2.5	1.6	0.4	1.8		欠	欠	欠	有	0.5	凸基	直	縦	上半	無	
図 16-1	240	570	石鏃	西		Ⅳa	珪頁	短平	(3.7)	1.5	0.6	2.6		(1.8)	1.3	35	有	(0.4)	平基	直	横	先端微小折、茎部折	無	
図 16-2	234	585	石鏃	西		Ⅳk	鉄石	短凸	2.7	1.2	0.5	1.2		1.2	1.0	43	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	松田実測
図 16-3	237	588	石鏃	西		Ⅳk	珪頁	短凸	2.2	1.1	0.3	0.4		0.9	0.8	55	有	0.5	凸基	直	縦	完	無	松田実測

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	先端角	茎部有無	茎部長	基部形態	側辺部形態	素材剥片	欠損	礫面	備考
図 16-4	235	586	石鏃	西		Ⅳk	鉄石	短凸	1.6	1.2	0.4	0.6		0.6	0.8	74	有	0.4	凸基	片面湾曲	縦	完	無	松田実測
図 19-1	247	626	石鏃	西		Ⅳl	鉄石	短凸	2.3	1.0	0.8	1.4		0.9	0.9	46	有	0.6	凸基	片面湾曲	縦	完	無	松田実測
図 19-2	233	697	石鏃	西		Ⅳl2	珪頁	短凸	(2.4)	1.2	0.6	1.3		1.2	0.8	34	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎部折	無	松田実測
図 19-3	なし	748	石鏃	西	Ec(S)	Ⅳm	鉄石	短凸	1.9	1.2	0.4	0.8		不明	不明	不明	有	不明	凸基	直	横	茎部折	無	松田実測 現物なし
図 16-5	241	571	石鏃	西		Ⅳa	珪頁	尖◇	2.5	0.9	0.6	0.9		1.0	0.7	35	欠	0.8	尖基	直	縦	完	無	
図 16-6	238	590	石鏃	西		Ⅳk	鉄石	尖◇	(3.1)	1.0	0.7	1.2		(1.3)	0.7	28	欠	1.0	尖基	片面湾曲	縦	先端微小折	無	松田実測
図 19-4	248	687	石鏃	西		Ⅳl	鉄石	尖◇	1.7	0.6	0.3	0.3	黒色物	0.6	0.5	38	欠	0.8	尖基	直	縦	完	有	松田実測
図 19-5	245	618	石鏃	西		Ⅳl	鉄石	尖◇	(2.2)	(1.6)	0.6	1.4	未成品	0.8	1.2	67	欠	欠	尖基	直	縦	茎部折	無	松田実測
図 19-6	246	623	石鏃	西		Ⅳl	鉄石	棒状	2.6	1.0	0.7	1.2		1.3	0.8	56	不明瞭	欠	棒	先端湾曲	縦	完	無	松田実測
図 16-7	242	573 (①)	石鏃	西		Ⅳa	鉄石	無円	3.3	1.6	0.8	4.5		1.7	1.6	46	無	—	円基	片面湾曲	縦	完	有	松田実測
	243	573 (②)	石鏃	西		Ⅳa	鉄石	短平	(1.7)	1.0	0.4	0.6		0.8	0.7	40	有	0.3	平基	直	縦	茎部折	無	
	236	587	石鏃	西		Ⅳk	鉄石	短平？	(2.1)	1.1	0.6	0.9		欠	欠	34	有	1.0	平基	直	縦	先端折	有	
	239	598	石鏃	西		Ⅳk	鉄石	短凸	2.9	1.6	0.8	2.2		1.3	1.1	40	有	0.7	凸基	直	縦	茎部微小折	有	
	244	611	石鏃	西		Ⅳl	鉄石	—	(2.0)	1.4	0.5	1.2		欠	欠	40	欠	欠	欠	直	縦	茎部折	無	
	232	695	石鏃	西		Ⅳl2	鉄石	—	(1.8)	1.6	0.4	1.1		欠	欠	49	欠	欠	欠	直	縦	上半残存	無	
	642	693	石鏃	西		Ⅳl2	鉄石	短凸？	(2.7)	1.8	0.5	3.1		欠	欠	欠	有	(0.3)	凸基	直	縦	先端・茎部折	有	
	643	694	石鏃	西		Ⅳl2	鉄石	無円	(2.5)	1.7	0.8	3.7		欠	欠	欠	無茎欠	—	円基	直	縦	先端折	有	
	641	621	石鏃	西	Ed(T)	Ⅳl	鉄石	—	2.9	1.5	0.9	3.1		欠	欠	38	欠	欠	欠	若干湾曲	縦	—	無	未成品
	249		石鏃	西		Ⅳm	鉄石	短凸？	(2.0)	1.2	0.4	0.7		1.0	0.8	35	有	0.3	凸基	直	縦	茎部折	無	
図 23-1	697	819	石鏃	西	Dc(O)	Ⅴc3	鉄石	短凸	2.9	1.3	0.5	1.1	As	1.5	0.8	24	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	
図 23-2	345	759	石鏃	西	Db(N)	Ⅴb3	珪頁	短凸	2.8	1.2	0.5	1.2	茎部As	1.4	0.7	25	有	(0.5)	凸基	直	縦	茎部折	無	
図 23-3	352	734	石鏃	西	Db(N)	Ⅴ	鉄石	短凸	2.4	1.1	0.4	0.6		1.1	0.7	38	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	2021 年度追加図化資料
図 23-4	349	828	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴ	鉄石	短凸	(2.4)	1.0	0.5	0.7		(1.1)	0.7	40	有	0.7	凸基	直	縦	先端折	無	2021 年度追加図化資料
図 23-5	343	865	石鏃	西	Db(N)	Ⅴc1	鉄石	短凸	3.1	1.4	0.9	2.8	茎部As	1.4	1.2	45	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	2021 年度追加図化資料
図 23-6	713	764	石鏃	西	Ed(T)	Ⅴm	鉄石	短凸	3.5	1.6	0.6	2.3		1.5	1.1	30	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	2021 年度追加図化資料
図 23-7	649	919	石鏃	西	Db(N)	Ⅴc7	珪頁	短凸	(2.7)	1.5	0.6	1.6		欠	欠	欠	有	1.0	凸基	直	縦	先端折	無	五角形鏃
図 23-8	700	871	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc4	珪頁	短凸	3.6	1.7	0.5	2.2		1.6	1.0	46	有	(0.6)	凸基	直	縦	茎部折	無	五角形鏃
図 23-9	346	812	石鏃	西	Fb(V)	Ⅴc	鉄石	短平	2.4	1.4	0.8	1.9	茎部As	0.9	1.1	44	有	0.7	平基	直	縦	先端折	無	
図 23-10	351	866	石鏃	西	Dd(P)	Ⅴ	鉄石	短平	3.3	1.3	0.6	1.7		1.4	1.1	45	有	1.0	平基	直	縦	茎部端	無	2021 年度追加図化資料
図 23-11	350	716	石鏃	西	Da(M)	Ⅴ	鉄石	中凸	2.0	1.4	0.4	0.5		0.7	0.7	65	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
図 23-12	347	807	石鏃	西	Db(N)	Ⅴ	珪頁	中凸	2.6	1.2	0.6	0.9		0.9	0.6	35	有	0.9	凸基	直	横	完	無	
図 23-13	678	822	石鏃	西	Dc(O)	Ⅴc3	鉄石	中凸	2.9	1.2	0.6	1.2		1.0	0.9	39	有	1.1	凸基	直	縦	完	無	
図 23-14	667	803	石鏃	西	Ec(S)	Ⅴb4	珪頁	中凸	3.3	1.2	0.7	2.0		1.4	1.0	30	有	1.1	凸基	直	縦	完	無	2021 年度追加図化資料
図 23-15	344	915	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	中平	(2.1)	1.3	0.5	0.8	茎部As	(0.7)	0.9	50	有	0.9	平基	直	横	先端折	無	
図 23-16	711	827	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc3	珪頁	中平	2.1	1.2	0.5	0.9		0.6	0.8	46	有	0.9	平基	直	縦	完	無	
図 23-17	654	897	石鏃	西	Db(N)	Ⅴc7	鉄石	長凸	2.8	1.3	0.7	1.7		0.6	0.9	50	有	1.6	凸基	直	縦	完	無	
図 23-18	658	908	石鏃	西	Fa(U)	Ⅴc7	珪頁	尖◇	3.2	1.9	0.6	2.1		1.1	1.3	53	有	1.2	尖基	直	縦	完	無	
図 23-19	353	888	石鏃	西	Da(M)	Ⅴ	珪頁	棒状	5.5	1.0	0.6	3.2		2.6	0.9	21	有	1.4	棒状	直	縦	完	無	台帳　ポイント
図 23-20	671	840	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc1	鉄石	無円	3.5	1.3	0.7	3.0		1.9	1.2	19	無	—	円基	直	横	完	無	不純物
図 23-21	707	734	石鏃	西	Db(N)	Ⅴb	珪頁	無凹	3.0	1.9	0.5	1.6		1.5	1.2	29	無	—	凹基	直	縦	完	無	
図 23-22	683	881	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc4	鉄石	木葉	(2.2)	0.9	0.5	1.0		1.2	0.9	40	有	0.4	凸基	直	縦	完	無	
	907	773	石鏃	西	Dd(P)	Ⅴ	鉄石	短凸	2.4	1.2	0.5	0.8		1.6	1.2	40	有	0.8	凸基	直	横	完	無	
	908	774	石鏃	西	Dd(P)	Ⅴ	鉄石	短凸？	(2.3)	(1.3)	0.4	1.1		(2.2)	(1.2)	36	有	—	平基	直	縦	茎・先端部折	有	
	348	714	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴ	珪頁	短凸	(3.2)	1.2	0.6	1.4		1.6	0.9	26	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	362		石鏃	西		Ⅴ	鉄石	—	2.7	2.2	1.0	6.2		—	—	—	—	—	—	—	—	—	有	未成品？
	428		石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴa	鉄石	—	3.3	2.1	0.8	7.0		—	—	—	—	—	—	—	—	—	有	未成品？

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	先端角	茎部有無	茎部長	基部形態	側辺部形態	素材剥片	欠損	礫面	備考
	342		石鏃	西	NRV？	V b	珪頁	短平	(2.6)	1.0	0.5	0.9	黒色物	1.4	0.9	28	有	(0.4)	平基	直	縦	茎部折	無	
	361		石鏃	西	NRV？	V b	鉄石	—	2.3	2.5	0.8	3.8		—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	未成品
	660	717	石鏃	西	Da(M)	V b	鉄石	短凸？	(2.0)	1.3	0.4	0.8		欠	欠	欠	有	0.7	凸基	直	縦	先端折	無	
	661	718	石鏃	西	Da(M)	V b	鉄石	—	(1.9)	(1.1)	(0.4)	0.3		欠	欠	欠	有	0.8	凸基	直	横欠	機能部折	無	
	662	719	石鏃	西	Ea(Q)	V b	珪頁	無円	3.9	2.4	0.9	7.8		2.1	2.1	62	無	—	円基	直	縦	完	有	
	663	720	石鏃	西	Ea(Q)	V b	鉄石	中凸	2.2	1.3	0.7	1.5		0.7	1.0	72	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	
	356		石鏃	西	Eb(R)	V b1	珪頁	—	3.4	2.3	1.0	5.8		—	—	—	—	—	—	—	—	—	有	未成品
	693	745	石鏃	西	Db(N)	V b1	珪頁	短凸？	(1.9)	1.3	0.7	1.1		(0.7)	0.7	欠	有	(0.2)	凸基	直	縦	先端・茎折	無	
	664	796	石鏃	西	Dc(O)	V b4	鉄石	短凸	3.0	1.4	0.9	2.4		1.2	1.1	54	有	0.6	凸基	直	縦	完	有	
	666	799	石鏃	西	Dd(P)	V b4	鉄石	—	(1.3)	(0.8)	(0.4)	0.4		欠	欠	欠	有	0.9	凸基欠	直	縦欠	機能部折	無	
	668	813	石鏃	西	Ec(S)	V b4	鉄石	中凸？	(1.8)	1.3	0.5	0.9		0.7	0.8	52	有	(0.4)	凸基	直	横	茎部折	無	
	429		石鏃	西	Dc(O)	V b5	珪頁	—	5.0	2.9	1.3	18.1		—	—	—	—	—	—	—	—	—	無	未成品
	665	795	石鏃	西	Eb(R)	V b5	珪頁	中凸	2.2	1.1	0.8	1.0		0.8	0.8	40	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	670	836	石鏃	西	Dc(O)	V b5	鉄石	—	(2.2)	2.0	0.8	3.1		欠	欠	欠	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎・先端折	無	
	669	817	石鏃	西	Ec(S)	V b5	珪頁	—	(2.5)	1.4	0.7	2.3		1.4	1.2	48	欠	欠	欠	直	横	茎部折	無	
	710	816	石鏃	西	Ec(S)	V b5	珪頁	短凸	(3.0)	1.3	0.8	1.5		1.4	0.7	25	有	(0.5)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	708	790	石鏃	西	Eb(R)	V b5	鉄石	短凸	2.4	1.4	0.6	1.0		0.9	1.0	46	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	685	708	石鏃	西	Ea(Q)	V c	鉄石	中凸	(2.0)	1.2	0.6	1.0		欠	欠	欠	有	0.8	凸基	直	縦	先端折	無	
	686	709	石鏃	西	Ea(Q)	V c	鉄石	中凸	2.2	1.2	0.5	0.7		0.9	0.7	41	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	687	711	石鏃	西	Ea(Q)	V c	鉄石	無円	3.0	1.8	0.9	4.5		1.6	1.7	52	無	—	円基	直	縦	完	無	
	688	713	石鏃	西	Ea(Q)	V c	鉄石	短凸	3.1	1.6	0.8	2.6		1.1	1.0	40	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	
	1148	707	石鏃	西	Fa(U)	V c	鉄石	—	2.4	1.5	0.3	0.8		—	—	—	—	—	—	—	横	—	有	剥片から移動、未成品
	694	838	石鏃	西	Da(M)	V c1	鉄石	短凸	(2.2)	1.3	0.7	1.1		0.9	0.7	38	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	695	839	石鏃	西	Da(M)	V c1	鉄石	短凸	2.0	1.2	0.4	0.5		0.8	0.6	38	有	0.5	凸基	直	横	完	無	
	696	858	石鏃	西	Dc(O)	V c1	鉄石	中凸	2.4	1.4	0.6	1.1		0.8	1.0	62	有	0.8	凸基	一部湾曲	横	完	無	
	673	860	石鏃	西	Dc(O)	V c1	鉄石	中凸	2.2	1.2	0.5	1.1		0.7	0.9	63	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	674	862	石鏃	西	Dc(O)	V c1	鉄石	無平	2.0	2.2	7.8	2.5		1.1	1.6	45	無	—	平基	直	横	完	無	
	675	863	石鏃	西	Dc(O)	V c1	鉄石	短凸	2.4	1.1	0.7	1.3		1.0	0.8	58	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	672	844	石鏃	西	Ea(Q)	V c1	鉄石	短凸	2.8	1.5	0.8	2.5		1.0	1.0	52	有	0.9	凸基	直	縦欠	完	無	
	718	845	石鏃	西	Ea(Q)	V c1	鉄石	—	(2.4)	(1.3)	0.5	1.2		欠	欠	欠	—	—	—	—	—	—	—	未成品　台帳ドリル
	709	841	石鏃	西	Ea(Q)	V c1	珪頁	無円	4.0	(2.3)	0.5	5.1		2.3	2.1	60	無欠	—	円基	直	横	完	無	
	676	843	石鏃	西	Ea(Q)	V c2	鉄石	短凸？	(2.0)	(1.1)	0.6	1.1		(0.8)	0.8	欠	有	(0.4)	平基	直	横	茎・先端・関部折	無	
	677	821	石鏃	西	Dd(P)	V c3	珪頁	短凸？	(1.8)	1.4	0.6	1.1		欠	欠	7	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎・先端折	無	
	712	867	石鏃	西	Dd(P)	V c3	鉄石	短凸	2.7	1.5	0.6	1.4		1.1	0.7	36	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	679	835	石鏃	西	Ec(S)	V c3	珪頁	短凸	2.2	1.2	0.6	0.7		0.6	0.5	44	有	0.6	凸基	直	縦	完	無	
	717	829	石鏃	西	Ec(S)	V c3	鉄石	—	3.8	2.1	1.0	6.9		欠	欠	欠	—	—	—	—	—	—	—	未成品
	681	879	石鏃	西	Da(M)	V c4	鉄石	短凸？	(2.0)	1.2	0.6	1.2		1.1	1.0	50	有	欠	凸基欠	直	縦	茎部折	無	
	682	880	石鏃	西	Da(M)	V c4	鉄石	短凸	2.5	1.2	0.5	1.2		1.0	1.0	49	有	0.7	凸基	直	横	完	無	
	684	884	石鏃	西	Ea(Q)	V c4	珪頁	短凸？	(2.1)	1.5	0.4	1.0		1.0	0.9	43	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	698	882	石鏃	西	Ea(Q)	V c4	鉄石	短凸？	(2.1)	1.2	0.5	0.8		1.2	0.7	39	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	701	883	石鏃	西	Ea(Q)	V c4	鉄石	中凸	2.3	1.3	0.8	1.2		0.8	0.9	56	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	699	872	石鏃	西	Eb(R)	V c4	鉄石	短凸	(2.4)	1.3	0.5	1.0		1.1	0.7	34	有	(0.4)	凸基	直	欠	茎部折	無	
	680	868	石鏃	西	Fb(V)	V c4	鉄石	中凸	2.1	1.4	0.7	1.1		0.6	0.9	57	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	354		石鏃	西	Eb(R)	V c7	鉄石	—	2.2	1.9	0.5	1.3		—	—	—	—	—	—	—	—	—	有	未成品
	650	889	石鏃	西	Da(M)	V c7	鉄石	中凸	2.2	(1.4)	0.5	0.8		0.7	1.0	36	有	0.9	凸基	直	横	刺し折	有	
	691	918	石鏃	西	Db(N)	V c7	珪頁	短凸	2.6	1.6	0.9	1.6		1.0	1.0	52	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	715	896	石鏃	西	Db(N)	V c7	鉄石	無平	(2.2)	1.5	0.6	1.5		(1.3)	1.4	欠	無	—	平基	直	縦	先端欠け	無	
	651	891	石鏃	西	Ea(Q)	V c7	鉄石	短凸	2.6	1.3	0.6	1.6		0.9	0.9	40	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	652	892	石鏃	西	Ea(Q)	V c7	鉄石	短凸	(2.1)	1.4	0.6	1.0		欠	欠	欠	有	0.8	凸基	直	縦	先端折	無	
	653	893	石鏃	西	Ea(Q)	V c7	鉄石	中凸	2.5	1.5	0.7	1.2		0.8	0.9	56	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	
	656	900	石鏃	西	Ea(Q)	V c7	鉄石	—	(2.2)	1.9	0.6	1.4		欠	欠	欠	有	1.2	凸基	直	横	機能部折	無	
	657	902	石鏃	西	Ea(Q)	V c7	鉄石	短凸	(2.2)	1.2	0.5	1.2		1.0	0.9	42	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	先端角	茎部有無	茎部長	基部形態	側辺部形態	素材剥片	欠損	礫面	備考
	689	912	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc7	鉄石	短凸？	(3.5)	1.9	1.2	6.1		欠	欠	欠	有	1.3	凸基	直	縦	先端折	有	五角形？
	690	914	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc7	珪頁	尖◇？	(2.0)	1.1	0.7	0.9		欠	欠	欠	不明瞭	(1.0)	尖基欠	直	縦	機能部折	無	
	702	904	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc7	鉄石	短凸	(2.9)	1.3	0.5	1.3		1.5	0.8	25	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	714	894	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc7	鉄石	短凸	2.7	1.5	0.9	1.6		1.1	0.8	40	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	716	911	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅴc7	玉髄	無円	2.7	2.3	1.0	5.3		1.3	1.8	60	無	—	円基	直	縦	完	有	
	655	898	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	尖◇	(2.9)	1.2	0.6	1.4		1.5	1.1	38	欠	(0.9)	尖基	直	横	完	無	
	692	916	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	短凸	2.4	1.3	0.7	1.3		0.9	0.8	50	有	0.7	凸基	直	縦	完	無	
	703	895	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	中凸	2.5	1.2	0.6	1.1	茎部As	0.8	0.9	41	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	
	704	906	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	短凸	(2.9)	1.4	0.6	1.4		(1.0)	0.9	欠	有	0.9	凸基	直	縦	先端部折	無	
	705	906	石鏃	西	Eb(R)	Ⅴc7	珪頁	短凸？	(2.3)	1.3	0.5	1.0		(1.0)	0.7	31	有	(0.3)	凸基	直	縦	先端・茎折	無	
	659	909	石鏃	西	Fa(U)	Ⅴc7	鉄石	短凸	(2.2)	1.2	0.3	0.8		1.2	0.9	42	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	706	922	石鏃	西	Fa(U)	Ⅴc7	鉄石	短凸	(1.8)	1.1	0.4	0.5		0.8	0.8	45	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	
図28-1	448	932	石鏃	西	Dc(O)	Ⅵa	鉄石	短凸	3.2	1.3	0.5	1.4	茎部As	1.3	0.8	31	有	1.0	凸基	直	縦	完	無	
図28-2	451	983	石鏃	西	Eb(R)	Ⅵd	鉄石	短凸	3.0	1.2	0.5	1.2	茎部As	1.3	0.9	32	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	
図28-3	735	993	石鏃	西	Eb(R)	Ⅵd	鉄石	短凸	3.8	1.4	0.6	2.9		1.8	1.3	38	有	0.6	凸基	直	縦	完	有	
図28-4	445	950	石鏃	西		Ⅵ	鉄石	中凸	2.6	1.2	0.5	1.0		1.0	0.8	41	有	0.9	凸基	直	縦	完	無	
図28-5	733	982	石鏃	西	Db(N)	Ⅵd	鉄石	棒状	3.4	1.2	0.5	2.1		1.7	1.1	38	不明瞭	0.9	棒状	湾曲	縦	完	無	
図28-6	444		石鏃	西	Eb(R)	Ⅵd	玉髄	無円	3.0	1.9	1.1	5.0	黒色物	1.5	1.8	57	無	—	円基	湾曲	縦	完	無	
	446	928	石鏃	西		Ⅵa	鉄石	短凸	3.0	1.2	0.6	1.2		1.2	0.7	33	有	0.7	凸基	湾曲	縦	完	無	未成品？
	726	923	石鏃	西	Da(M)	Ⅵa	珪頁	短凸？	(2.1)	1.2	0.6	1.0		1.0	0.8	41	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	725	920	石鏃	西	Dc(O)	Ⅵa	鉄石	短凸	2.3	1.4	0.7	1.5		0.7	0.8	33	有	0.5	凸基	直	縦	完	有	
	727	931	石鏃	西	Dc(O)	Ⅵa	鉄石	短凸	(2.5)	1.5	0.5	1.3		(0.8)	1.0	60	有	0.8	凸基	直	縦	先端折	無	
	447	927	石鏃	西	Ea(Q)	Ⅵa	鉄石	短凸	2.5	1.0	0.4	0.8	茎部As	1.0	0.7	30	有	0.7	凸基	直	横	完	無	
	729	978	石鏃	西	Dd(P)	Ⅵb	鉄石	尖◇	(2.2)	1.5	0.5	1.6		1.2	1.3	48	不明瞭	(0.7)	尖基	直	縦	茎部折	有	
	728	967	石鏃	西	Fa(U)	Ⅵb	玉髄		(1.4)	1.2	0.5	0.7		欠	欠	欠	有	(0.3)	凸基	直	縦	茎・先端折	有	
	730	973	石鏃	西	Fa(U)	Ⅵb	鉄石	短凸	(2.0)	1.3	0.5	0.7		0.9	0.8	56	有	(0.5)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	449	972	石鏃	西	Da(M)	Ⅵc	鉄石	中凸？	(1.9)	1.2	0.5	0.6	茎部As	0.7	0.8	欠	有	(0.5)	凸基	直	縦	茎部・先端	無	
	450	977	石鏃	西	Ec(S)	Ⅵc	鉄石	短凸？	(1.8)	1.2	0.5	0.7	茎部As	0.9	0.8	47	有	(0.2)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	454		石鏃	西	Eb(R)	Ⅵd	鉄石	無円	2.2	1.3	0.5	1.3		1.2	1.2	79	無	—	円基	直	縦	完	無	
	452	991	石鏃	西	Db(N)	Ⅵd	珪頁	短凸	(2.3)	1.2	0.5	0.8	茎部As	(0.7)	0.9	欠	有	0.7	凸基	直	縦	先端折	無	
	732	981	石鏃	西	Db(N)	Ⅵd	鉄石	中凸？	(1.6)	1.1	0.4	0.7		0.5	0.6	37	有	(0.4)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	734	989	石鏃	西	Db(N)	Ⅵd	鉄石		(1.7)	0.9	0.4	0.6		1.0	0.8	37	有欠	(0.3)	凸基	直	縦	茎部折	無	
	731	992	石鏃	西	Eb(R)	Ⅵd	鉄石	短凸	2.6	1.1	3.3	0.8		1.0	0.9	53	有	0.8	凸基	湾曲	横	完	無	
	453	1074	石鏃	西	Da(M)	Ⅵh	鉄石	中凸	1.8	1.2	0.4	0.6		0.5	0.8	75	有	0.8	凸基	直	縦	完	無	

尖頭器

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部長	刃部幅	先端角	基部形態	欠損	礫面	備考
図4-15	585		尖頭器	東	Ba(E)	23	珪頁		4.0	2.7	1.0	7.5	基部黒色物	2.1	0.6	42	平基	刃部縦半	有	未成品
図12-1	632	12	尖頭器	西	Eb(R)	Ⅲa～Ⅲb	珪頁		8.3	3.5	1.5	44.3	無	4.7	3.1	52	円	完	無	
図24-1	721	910	尖頭器	西	Ea(Q)	Ⅴc7	珪頁		(5.3)	2.2	1.6	18.9	無	(2.7)	2.0	54	基部	先端	無	未成品
図24-2	648	852	尖頭器	西	Eb(R)	Ⅴc1	鉄石		5.2	2.5	0.8	11.7	無	2.8	2.4	9	無欠	欠	無	松田卒論、実測
図28-8	455	940	尖頭器	西		Ⅵb	珪頁		5.2	1.9	1.1	11.2	無	2.7	1.8	41	平基	完	無	化石混入
	899		尖頭器	東		11	砂岩		(3.6)	(2.7)	1.0	9.9	無	(3.6)	(2.7)	52	—	刃部下半	無	

石錐

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	長	幅	厚さ	刃付	断面形	欠損	礫面	装着痕跡	備考
図 2-1	495	140	石錐	東		10	珪頁		(5.2)	(5.4)	0.8	21.0		2.1	1.2	0.7	両	三角	基部	有	無	
図 2-2	506	253	石錐	東		14	珪頁		5.5	2.3	0.9	7.3		3.3	0.9	0.5	両	菱	完	無	無	
	902	238	石錐	東		19	珪頁		3.5	1.9	0.6	4.2		1.8	1.6	0.6	両	菱	完	無	無	
	914		石錐	東		21	珪頁		(2.0)	(3.1)	(1.0)	5.7		(0.8)	(1.0)	0.4	両	楕円	基部・機能部	無	無	基部、錐部欠
図 4-12	590	492	石錐	東		24	鉄石		(3.9)	2.8	0.7	3.8		(2.0)	0.8	0.65	両	三角	機能部折	無	無	錐部先端欠
図 11-34	110	547	石錐	西		Ⅲa	珪頁		3.8	3.4	0.8	6.9		1.6	0.6	0.7	両	菱	完	有	無	
図 11-35	111	433	石錐	西		Ⅲl	鉄石		3.9	2.0	0.8	3.8	黒色物	1.3	0.5	0.4	両	菱	完	無	有	
図 11-36	112	76	石錐	西		Ⅲ	玉髄		(3.1)	(1.8)	0.7	3.4		0.8	0.5	0.4	両	菱	基部	無	無	不純物
図 11-37	631	134	石錐	西		Ⅲc	鉄石		3.5	1.8	0.9	3.1		1.0	0.4	0.47	両	三角	完	有	無	
	114		石錐	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石		3.5	2.8	0.6	5.1		1.1	0.8	0.5	―	長方	完	有	無	未成品
図 16-8	253	589	石錐	西		Ⅳk	珪頁		(4.7)	4.5	1.2	22.1	黒色物	(0.7)	1.1	0.5	両	三角	機能部折	有	無	
	905	765	石錐	西	Fc(W)	Ⅳm	鉄石		1.6	1.2	0.7	1.1	黒色物	1.1	0.9	0.6	両	菱	完	無	無	
図 23-23	368	777	石錐	西		Ⅴ	鉄石		4.2	2.8	1.0	9.4		1.0	1.0	0.7	両	菱	完	無	無	微細剥離
	370		石錐	西	Db(N)	Ⅴb1	鉄石		(2.1)	1.4	0.7	3.0		(0.6)	(0.6)	(0.5)	欠	菱	機能部	無	無	未成品
	720	851	石錐	西	Db(N)	Ⅴc1	鉄石		4.7	4.0	1.4	15.3		1.2	1.9	0.42	片刃	三角	完	有	無	未成品
	369	873	石錐	西		Ⅴc4	鉄石		(2.2)	(0.6)	(0.4)	(0.7)		(2.2)	(0.6)	(0.4)	両	菱	基部	無	無	錐部のみ
	719	784	石錐	西	Fc(W)	Ⅴn	鉄石		2.9	3.0	1.1	0.8		0.8	1.3	0.47	片刃	三角	完	有	無	未成品
図 28-7	737	936	石錐	西	Ea(Q)	Ⅵb	玉髄		2.7	2.3	0.7	3.9		0.9	1.1	0.56	両刃	菱	完	無	無	

異形石器

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	備考
図 4-16	551	389	異形石器	東		20	珪頁		4.3	3.3	0.7	3.7		松田実測

石箆

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃長	刃幅	刃付	刃角	刃部角	平面形	頭部形	欠損	礫面	備考
図 2-3			石箆	東		10	―		7.5	3.8	1.3	―		3.8	1.3	片刃	45	20	外湾	丸	完	有	伊藤実測、実物不明
	532	349	石箆	東		17	鉄石		9.8	6.5	4.0	207.6		―	―	―	―	―	―	―	―	有	未成品
	904	119	石箆	西	Ea(Q)	Ⅲ	珪頁		6.3	3.3	1.5	37.6		2.9	0.6	両	74	20	外湾	丸	完	無	H17.3.23 搬入
図 16-9	283		石箆	西	Da(M)	Ⅳk	玄武		6.1	4.6	1.7	35.1		1.8	0.8	片刃	59	31	外湾	尖基	完	無	
図 19-7	315		石箆	西	Da(M)	Ⅳl上	珪頁		(3.8)	2.4	1.1	14.2		2.0	1.3	両	58	21	直線	欠	基部	無	
図 23-24	372	715	石箆	西		Ⅴc	珪頁		6.0	3.3	1.2	30.2		3.3	0.8	両	58	22	外湾	―	基部	無	
図 23-25	373	756	石箆	西		Ⅴk	珪頁		8.0	4.1	1.7	60.2		4.2	0.5	両	56	26	外湾	方形	完	無	
図 23-26			石箆	西		Ⅴ	―		5.6	6.6	1.6	―											伊藤卒論実物不明
図 28-9	736	955	石箆	西	Da(M)	Ⅵb	珪頁		7.6	3.8	1.1	27.7	黒色物	3.5	0.7	両刃	69	20	直刃	尖	完	有	
図 28-10			石箆	西		Ⅵ	―		4.5	3.6	1.7	―											伊藤実測実物不明

石匙

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部数	刃長	刃幅	刃付	刃角	刃部角	平面形態	つまみ長	つまみ幅	先端形	欠損	礫面	備考
図 2-4	496	150	石匙	東		10	珪頁	横形	4.5	6.4	1.1	21.9	As	1	3.3	0.7	両	46	23	外湾・円形刃	0.6	1.6	尖	完	無	
	898	319b	石匙	東		11	珪頁	縦形	(3.1)	2.3	0.6	5.1		1	1.6	0.2	片	64	28	直	(0.7)	(0.8)	欠	つまみ	無	
図 2-5	507	208	石匙	東		14	珪頁	縦形	6.4	5.5	1.3	46.1		2	右 5.6 左 4.7	右 0.6 左 0.9	両	右 43 左 53	右 20 左 15	右直刃 左外湾・円形刃	1.5	2.1	円	完	無	
図 4-13	534	274	石匙	東		17	珪頁	縦形	7.0	3.8	1.1	30.3	As	3	右 5.4 下 1.6 左 5.1	右 0.9 下 0.1 左 0.9	両	右 48 下 56 左 49	右 23 下 27 左 22	右直刃 下・左外湾円形	1.2	2.0	尖	完	無	
図 4-14	535		石匙	東	Cc(K)	17	鉄石	縦形	3.5	1.4	0.7	3.8		2	右 2.7 左 2.7	右 0.8 左 0.7	両	右 69 左 70	右 45 左 51	右外湾円形 左直刃	0.7	0.7	円	先端折	無	
図 23-27	371	886	石匙	西		Ⅴc4	珪頁	横形	6.4	5.5	1.6	41.5		1	4.9	0.7	両	66	22	外湾・円形刃	1.8	1.5	円	完	有	
図 28-11	456		石匙	西	Dc(O)	Ⅵb	珪化	縦形	7.9	3.5	0.6	19.2	As	1	6.1	0.4	両	59	11	外・円＋直	1.4	1.2	尖	完	無	被熱？
図 28-12		946	石匙	西	Db(N)	Ⅵb	―	縦形	8.3	4.1	1.5	―		2	6	0.4	両	60	40	外・円＋直	2.2	1.8	尖	完	無	伊藤実測、実物不明
図 28-13		1075	石匙	西	Db(N)	Ⅵh	―	横形	4.7	5.6	1.3	―		1	5.6	0.8	両	50	30	外湾	1.5	2	尖	完	無	伊藤実測、実物不明
図 28-14		949	石匙	西	Da(M)	Ⅵb	―	横形	4.7	(5.0)	1.0	―		1	(5.0)	0.8	両	100	58	直	1.3	1.3	欠	1/3	無	伊藤実測、実物不明

打製石斧

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	備考
図 25-11	818	778	打製石斧	西	Dd(P)	Ⅴn	珪化		11.5	6.9	2.7	289.4		

スクレイパー類

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部位置	刃部数	刃部長(下)	刃部長(右)	刃部長(左)	刃部幅(下)	刃部幅(右)	刃部幅(左)	刃部角(下)	刃部角(右)	刃部角(左)	刃角(下)	刃角(右)	刃角(左)	刃付	刃部平面形	礫面	備考
図 2-6	480		RF	東	Db(N)	7	珪頁	縦	7.6	4.8	1.6	51.1		右	1		2.8			0.4			21			61		片面	直	有	
	895		SC	東	Cc(K)	9b	珪頁	横	(4.9)	(5.4)	1.3	26.2		左	1			(2.8)			0.2			15			69	片面	直	無	
	487		RF	東	Cc(K)	10	珪頁	縦	6.0	4.3	1.9	57.2		左	1			2.1			0.2			20			57	片面	下:外、左:直	有	
	488		RF	東	Ba(E)	10	珪頁	縦	5.2	2.9	1.3	13.6		右	1		4.0			0.8			35			41		両面	直	有	
	489		RF	東	Cc(K)	10	珪頁	横	3.6	5.2	1.3	21.8		左	1			3.7			0.1			24			55	両面	外	有	
	499		RF	東	Cb(J)	12	珪頁	縦	7.4	5.4	1.0	29.4		右	1		4.8			0.2			12			39		両面	外	有	
	502		SC	東	Ca(I)	13	鉄石	横	2.6	4.4	1.6	15.6		下	1	4.1			1.5			50			75			両面	外	有	
	779		RF	東	Cd(L)	13	珪頁	縦	3.3	3.0	0.5	5.7		右	1		3.1			0.1			29			42		片面	外	無	
	509		SC	東	Cd(L)	14	珪頁	横	(3.6)	4.0	1.3	17.1		右左	2		(1.7)	(1.9)		0.1	0.3		70	56		71	62	片面	直	有	上半部破損
図 4-17	522	278	SC	東		15	珪頁	縦	11.8	8.8	2.4	248.3		下	1	9.0			1.5			25			49			両面	外	有	
図 5-1	741	276	SC	東		19	珪頁	横	5.2	9.5	1.4	68.9		左右	2		2.9	7.4		0.2	0.3		24	50		50	68	両面	右:直、左:外	有	刃部摩滅
図 5-2	559		SC	東	Bb(F)	21	珪頁	横	4.6	5.2	1.3	35.1		左右	2		4.5	5.4		0.3	0.5		52	27		88	63	片面	外	有	
図 5-3	573		RF	東	Bd(H)	22	珪頁	横	6.6	9.1	2.2	101.9		右	2		2.7	8.2		1.1	0.4		69	38		80	52	両面	外	有	
図 5-4	599		RF	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	11.0	4.8	1.4	80.0		下右	2	11.2	4.2		0.7	0.5		16	26		66	70		片面	外	有	
図 5-5	578		RF	東	Ba(E)	23	珪頁	横	4.5	9.8	0.9	43.0		下	1	8.8			0.2			34			57			両面	外	有	
図 5-6	521		RF	東	Aa(A)	15	珪頁	横	3.8	5.6	0.8	15.3		下	1	3.7			0.2			20			49			両面	直	有	
図 5-7	782		RF	東	Cc(K)	20	珪頁	横	4.6	6.0	1.4	29.7		右	1		3.4			0.3			50			72		片面	外	有	
図 5-8	873		RF	東	Cb(J)	23	珪頁	横	6.2	7.1	1.5	77.2		左	1			6.0			0.9			32			73	片面	直	有	
	514		RF	東	Cb(J)	15	鉄石	縦	5.4	4.3	1.0	19.9		右	1		2.9			0.1			35			64		片面	外	有	
	517		RF	東	Cb(J)	15	鉄石	縦	3.8	2.4	1.0	11.7		右左	2		1.3	2.9		0.3	0.3		40	70		59	81	片面	直	無	
	520		RF	東	Ca(I)	15	珪頁	横	3.4	5.6	2.0	24.7		下	1	4.7			0.1			45			68			両面	外	有	
	530		RF	東	Cc(K)	16	珪頁	横	5.2	5.4	1.8	46.7		右	1		4.8			0.4			42			67		片面	外	有	
	531		RF	東	Ba(E)	16	鉄石	縦	3.3	2.7	1.1	9.8		右	1		1.4			0.2			46			54		片面	外	無	
	543		SC	東	Bc(G)	18	鉄石	横	1.8	3.3	7.9	5.5		上左右	3		上:1.9 右:1.9	1.7		上:0.5 右:0.3	0.7		上:16 右:39	20		上:71 右:61	57	両面	外	無	
	740	344	SC	東	Cc(K)	18	珪頁	縦	4.1	(2.5)	0.5	5.4		左	1			3.5			0.3			16			61	片面	外	有	右半部破損
	545		RF	東	Cb(J)	19	珪頁	縦	5.0	3.1	1.7	25.1		左	1			4.1			0.7			42			64	片面	外	無	
	903	320	SC	東	Bd(H)	21	珪頁	縦	4.9	2.6	0.6	9.4		左	1			5.0			0.6			10			67	両面	外	無	
	561		RF	東	Cb(J)	21	珪頁	横	3.2	4.5	0.9	13.4		左	1			2.1			0.2			16			69	片面	外	無	
	872		RF	東	Ba(E)	21 ?	珪頁	縦	5.1	4.3	1.3	24.0		左右	2		3.1	3.9		0.1	0.1		34	30		61	58	片面	右:直、左:外	有	
	562		RF	東		21	珪頁	横	3.5	4.4	0.9	11.7		右	1		3.4			0.07			42			55		片面	外(一部内)	無	注記「山王」
	571		RF	東	Cb(J)	22	鉄石	縦	4.4	3.0	0.9	9.1		左	1			3.0			0.8			35			55	片面	外	無	
	583		RF	東	Ba(E)	23	鉄石	縦	4.6	4.5	1.7	38.7		左	1		2.8			0.4				38			61	片面	外	有	
	580		SC	東	Ba(E)	23	鉄石	縦	3.8	2.3	1.1	7.0		左	1			3.5			1.2			41			88	両面	直	無	
	593		RF	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	4.0	3.3	1.1	12.1		右	1		2.3			0.5			52			71		片面	外	有	
	596		RF	東	Cb(J)	24	鉄石	横	2.3	4.0	1.2	11.1		右	1		1.6			0.07			31			51		片面	直	有	
	597		RF	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	2.4	2.3	0.5	2.7		上	1		上 0.5			上 0.06			上 58			上 69		片面	外	無	
	624		RF	東	Ba(E)	25	鉄石	横	2.2	3.1	0.8	3.6		下	1	0.7			欠			34			58			片面	外	有	
	626		SC	東	Ba(E)	25	珪頁	縦	4.4	2.8	1.2	13.8	黒色物	下右	2	1.6	2.0		0.8	0.6		41	40		72	67		片面	直	無	
	627		RF	東	Ba(E)	25	珪頁	縦	5.2	3.9	1.6	20.7		下	1	3.2			0.2			34			53			片面	内	有	
	870		RF	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	5.2	3.3	1.0	13.2		左	1			5.0			0.1			16			47	片面	外	有	
	871		RF	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	6.0	7.1	1.5	45.1		下	1	3.8			0.1			16			55			片面	直	有	
	915		RF	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	4.6	3.8	0.7	15.4		右	1		1.1			0.04			56			58		片面	直	有	
	4		RF	西	Dc(O)	Ⅱc	鉄石	縦	3.1	2.9	1.4	9.1		下	1	1.9			欠			49			76			片面	内	有	
	5		RF	西	Dc(O)	Ⅱc	鉄石	縦	3.0	2.9	1.1	4.8		右	1		2.9			欠			32			50		片面	内・くの字	有	
	7		RF	西	Fd(X)	Ⅱe	珪頁	縦	3.7	3.2	1.1	10.1		右	1		2.8			欠			33			45		片面	外(一部内)	有	
図 12-6	161		SC	西	Ed(T)	Ⅲa	玄武	縦	5.7	3.2	1.3	21.1		左右	2		4.5	4.2		0.5	0.2		30	36		45	56	片面	右:外、左:直	有	
図 12-2	134	P119 or 116	SC	西		Ⅲc	珪頁	縦	10.9	6.4	2.4	153.4		左右	2		9.2	9.7		0.4	0.6		26	40		50	68	右:片面、左:両面	外	有	横刃形石器
図 12-4	637	17	SC ?	西	Ed(T)	Ⅲk	玄武	横	3.7	5.3	1.0	23.2		上下左右	4	3.9	3.2 (上) 3.6	2.2	0.5	0.7 (上) 0.7	0.4	12	20 (上) 16	54	43	66 (上) 80	55	両面	外	有	
図 12-3	113		SC	西	Ba(E)	Ⅲ	鉄石	縦	4.0	3.3	1.1	15.7	As	左右	2		1.8	2.3		0.5	0.7		25	37		60	63	両面	外	有	アスファルト分析資料
図 12-5	638	29	SC	西	Ed(T)	Ⅲa	珪頁	横	4.3	(3.6)	1.0	17.5		下上左	3	(4.1)	上 (2.2)	(1.3)	0.5	上 1.1	0.3	18	上 20	22	75	上 80	64	下・上:両面、左:片面	直	無	右半部破損

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部位置	刃部数	刃部長(下)	刃部長(右)	刃部長(左)	刃部幅(下)	刃部幅(右)	刃部幅(左)	刃部角(下)	刃部角(右)	刃部角(左)	刃角(下)	刃角(右)	刃角(左)	刃付	刃部平面形	礫面	備考
	100		SC	西	Ea(Q)	Ⅲ	珪頁	横	3.3	3.5	1.1	18.1		下	1	3.5			1.2			24			90			両面	直	有	
	145		SC	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	縦	4.1	(5.5)	0.9	16.6		下	1	(3.1)			0.8			21			64			片面	直	無	下刃部破損
	911		SC	西	Ed(T)	Ⅲ	珪頁	縦	3.6	3.4	1.2	13.5		左	1			3.1			0.2			26		56	片面	直	有	ピット
図 12-7	160		RF	西	Dc(O)	Ⅲc2	珪頁	縦	7.5	5.6	1.3	42.2		下左	2	4.4		5.6	0.3		0.1	70		40	78		55	片面	内	有	
	153		RF	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	縦	4.1	3.3	0.8	7.5		右	1		2.9			0.1			20			45		片面	外	有	
	164		RF	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	横	2.7	3.1	1.0	7.9		下左	2	2.2		1.0	0.6		0.1	30		27	60		74	片面	外	有	
	126		RF	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	横	2.8	3.3	0.9	6.6		右	1		1.9			0.2			66			78		片面	内	有	
	633		RF	西	Ec(S)	Ⅲ	珪頁	横	4.3	5.6	0.9	13.7		右	1		1.7			0.2			38			60		片面	外	無	
	157		RF	西	Ec(S)	Ⅲ	珪頁	縦	5.5	3.7	1.4	33.6		左右	2		2.0	2.6		0.5	0.4		50	27		68	56	片面	右:内、右:直	有	
	1144		RF	西	Ed(T)	Ⅲ	鉄石	縦	4.3	3.4	1.4	16.1		下右	2	2.2	1.6		0.4	0.7		44	60		79	70		片面	下・右:直	有	ピット
	115		RF	西	Db(N)	Ⅲ?	珪頁	縦	4.6	3.1	1.5	18.9		右	1		1.8			0.3			22			47		片面	外	有	
	1143		SC	西		Ⅲ	鉄石	横	(2.8)	(3.2)	0.9	7.6		下	1	1.8			0.5			30			66			両面	直	有	上半部破損
	109		SC	西	Ed(T)	Ⅲa	珪頁	縦	3.3	3.2	1.4	19.6		上	1		上 3.1			上 0.8			上 36			上 80		両面	直	有	
	129		RF	西	Ed(T)	Ⅲa	珪頁	縦	3.8	2.6	1.0	7.8		右	1		2.9			欠			24			56		片面	外(右一部内)	無	
	136		RF	西	Cc(K)	Ⅲb	珪頁	縦	2.7	2.2	0.8	4.8		右	1		2.2		0.3				35			50		片面	外	有	
	166		RF	西	Dc(O)	Ⅲb	珪頁	縦	2.3	1.7	0.6	2.5		右	1		1.3			0.1			43			76		片面	直	有	
	119		RF	西	Cc(K)	Ⅲc	珪頁	縦	2.7	2.4	0.7	4.1		下	1	1.4			1.0			46			63			片面	直	無	
	140		RF	西	Cc(K)	Ⅲc	珪頁	縦	5.0	4.5	0.9	18.0		左	1			4.3			0.2			31		54		片面	外	有	
	142		RF	西	Cc(K)	Ⅲc	珪頁	横	5.3	5.7	1.8	42.5		下	1	5.3			欠			37			51			片面	直	有	
	116		SC	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	縦	3.1	2.5	0.8	6.2		左右	2		2.7	2.0		0.5	0.2		51	28		58	72	両面	右:外、左:直	無	
	143		RF	西	Fc(W)	Ⅲc2	珪頁	横	3.9	7.5	0.7	18.6		左	1			2.5			0.6			34			53	片面	右:内、左:外	有	
	158		RF	西	Dc(O)	Ⅲc2	玄武	縦	6.8	4.2	1.3	38.1		上下	2	1.8	(上) 3.7		0.1	(上) 0.2		61	(上) 24		77	(上) 61		片面	外	有	
	159		RF	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	横	2.6	3.7	0.8	5.4		左右	2		1.8	2.5		0.1	欠		41	26		48	53	片面	右:直、左:外・くの字	有	
	916		SC	西	Dc(O)	Ⅲc2	珪頁	縦	3.8	2.2	1.4	10.3		左右	2		2.5	2.7		0.7	1.1		28	35		78	95	—	—	—	
	141		RF	西	Fc(W)	Ⅲc2	珪頁	横	2.6	2.8	0.7	4.9		右	1		2.7			0.7			52			64		片面	外	無	
	639	77	SC	西	Eb(R)	Ⅲc2	珪頁	縦	2.4	3.3	1.0	8.6		右	1		3.1			0.5			53			79		両面	外	有	
	636		RF	西		Ⅲc2 攪乱	珪頁	縦	6.8	2.5	1.2	15.5		左右	2		3.1	1.8		0.1	0.1		43	41		70	56	片面	右:直、左:内	無	
	137		RF	西	Ba(E)	Ⅲc 上	珪頁	縦	3.9	3.8	0.7	9.4		左右	2		1.2	3.6		0.3	0.4		21	47		52	55	片面	右:直、左:外	有	
	640	18	RF	西	Ed(T)	Ⅲk	珪頁	横	3.4	4.5	1.3	18.5		右	1		3.1			0.3			60			70		片面	外	有	
	634		RF	西	Cb(J)	Ⅲk	鉄石	横	2.2	3.2	0.9	2.8		左	1			3.0			欠			51		64		片面	外	有	
	123		RF	西	Dd(P)	Ⅲk	珪頁	縦	5.5	3.5	1.0	13.2		左	1			4.0			欠			22		57		片面	直	有	
	125		SC	西	Dd(P)	Ⅲk	玄武	横	4.0	4.5	1.5	29.6		下右左	3	2.6	2.4	3.8	0.5	0.3	0.2	82	23	38	86	65	89	片面	直	無	
	144		RF	西	Db(N)	Ⅲl 上	珪頁	縦	3.0	2.6	0.6	4.0		左	1			2.4			欠			18			47	片面	外	無	
	133		SC	西	Fb(V)	Ⅲl 上	珪頁	縦	4.7	4.2	1.0	22.7		下	1	4.1			欠			18			74			片面	外	有	
	162		RF	西	Ed(T)	Ⅲm	泥岩		6.3	3.4	0.9	15.3		左	1			2.9			0.4			23			61	片面	直	有	
図 16-10	295		RF	西	Da(M)	Ⅳk	珪頁	横	(3.3)	4.3	1.1	15.2	As	上左	2		上 2.1	(2.3)		上 0.2	0.1		上 25	51		上 53	62	片面	直	無	左刃部破損
図 16-11	256		RF	西	Ec(S)	Ⅳa	珪頁	縦	4.8	4.7	1.0	24.9		左右	2		4.2	4.0		0.2	0.6		19	40		72	66	片面	外	有	
図 16-12	262		RF	西	Ec(S)	Ⅳa	珪頁	横	3.6	4.3	0.8	14.7		下	1	3.7			0.4			40			46			片面	直	有	
図 16-13	297		RF	西	Ec(S)	Ⅳb	珪頁	縦	4.5	4.8	1.3	19.9		下左右	3	1.7	2.7	3.6	0.1	0.1	0.1	19	52	46	48	55	57	片面	下・右:内、左:直	無	
	258		RF	西	Ec(S)	Ⅳa	珪頁	縦	3.6	1.7	0.6	4.2		右	1		2.5			0.6			42			50		片面	外	有	
	257		RF	西	Ec(S)	Ⅳa	珪頁	縦	4.9	3.9	1.3	18.2		右	1		3.5			0.3			18			48		片面	内	有	
	302		RF	西	Da(M)	Ⅳk	珪頁	縦	3.8	1.9	1.8	9.3		左	1			2.3			0.03			58			62	片面	外	無	
	294		RF	西	Da(M)	Ⅳk	珪頁	縦	4.2	3.2	0.6	9.2		左右	2		1.6	3.8		計測不能	0.6		85	55		88	74	片面	右:内、左:外	有	
	280		RF	西	Ea(Q)	Ⅳk	珪頁	縦	6.8	3.5	1.7	33.9		左	1			2.6			0.3			62			75	片面	内	有	
	305		RF	西	Eb(R)	Ⅳk	砂岩	縦	3.4	3.2	1.1	7.0		右	1		1.3			欠			29			40		片面	直	有	
図 19-8	313		RF	西		Ⅳm	鉄石	縦	4.6	2.3	0.9	7.8		左右	2		0.9	2.6		0.1	0.1		32	64		45	66	片面	右:外、左:直	有	
	275		RF	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.3	3.0	0.9	4.1		左右	2		2.2	2.7		0.2	0.1		11	26		57	40	片面	外	有	
	299		SC	西		Ⅳ	珪頁	横	2.3	3.9	0.9	10.3		下上	2	2.4	上: 3.2		0.4	上: 0.6		40	上: 78		77	上: 94		片面	直	有	
	906	580	SC	西		Ⅳ	珪頁	縦	9.8	2.4	1.7	34.2		左右	2		8.8	7.7		0.2	0.5		30	61		76	87	両面	直	無	
	281		RF	西	Fd(X)	Ⅳl	珪頁	横	3.5	4.9	1.1	14.7		下右	2	5.0	3.6		0.2	0.3		19	26		57	61		両面	外	有	
	645	670	SC	西		Ⅳl	珪頁	横	3.6	4.0	0.6	10.2		左右	2		2.9	2.2		0.5	0.4		41	11		74	50	左:両面、右:片面	外	無	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部位置	刃部数	刃部長(下)	刃部長(右)	刃部長(左)	刃部幅(下)	刃部幅(右)	刃部幅(左)	刃部角(下)	刃部角(右)	刃部角(左)	刃角(下)	刃角(右)	刃角(左)	刃付	刃部平面形	礫面	備考
図 19-10	868	674	SC	西		Ⅳl	珪頁	縦	6.2	3.4	1.6	30.0		左右	2		5.5	5.8		0.4	0.5		62	24		69	73	両面	右:直、左:外	有	
	264		RF	西	Ea(Q)	Ⅳl2	鉄石	縦	4.6	2.6	1.5	10.1		左	1			4.1			欠			50			53	片面	外	有	
	289		RF	西	Ea(Q)	Ⅳl2	珪頁	縦	4.5	3.4	0.8	11.8		左右	2		3.8	3.1		0.5	0.3		64	50		72	60	片面	直	有	
	312		RF	西	Ea(Q)	Ⅳl2	鉄石	横	2.2	2.9	0.5	3.6		左	1			1.7			0.1			28			60	片面	直	有	
	266		RF	西	Eb(R)	Ⅳl2	珪頁	縦	5.2	3.1	0.9	12.8		下左右	3	5.0	1.8	2.9	0.5	0.2	欠	72	17	30	77	52	67	片面	下・左:外、右:直	無	
	293		RF	西	Fb(V)	Ⅳl2	珪頁	横	3.1	4.9	1.6	13.5		下	1	4.7			0.4			36			71			両面	外	無	
	285		RF	西	Ea(Q)	Ⅳl2	珪頁	横	2.7	2.9	0.8	6.8		左	1			1.6			0.5			20			52	片面	外	無	
	647	609	SC	西	Fb(V)	Ⅳl面	珪頁	縦	(2.8)	(1.8)	(0.7)	3.5		右左	2		(1.4)	(2.9)		0.4	0.3		17	24		45	65	両面	左:直、右:外	無	右半部破損
	300		RF	西	Fd(X)	Ⅳm	珪頁	横	3.9	6.1	1.4	31.8		左	1			4.9			計測不能			23			45	両面	外	有	
図 19-9	644	732	SC	西	Ed(T)	Ⅳn	珪頁	縦	8.6	4.7	2.9	107.6		下左右	3	2.7	5.2	6.7	0.6	1.2	0.9	39	45	25	80	89	84	両面	外	有	
	646	747?	RF	西	Ec(S)	Ⅳn	鉄石	縦	3.0	2.9	1.0	9.0		左右	2		1.9	2.3		0.6	0.8		18	31		71	88	片面	外	有	
図 24-3	426		SC	西	Ea(Q)	Ⅴc2	珪頁	縦	(8.2)	7.5	1.7	103.2		左右	2		6.5	8.4		1.1	1.0		40	45		60	64	両面	外	有	上半部破損
図 24-4	427		SC	西	Ea(Q)	Ⅴc2	珪頁	縦	9.2	8.4	3.4	214.1		下左	2	5.6		6.3	0.2		0.6	47		40	67		62	片面	外	有	
図 24-5	385		RF	西	Ea(Q)	Ⅴa	珪頁	横	3.5	4.7	1.2	16.1		下	1	3.6			0.3			40			53			片面	外	無	
図 24-6	389		RF	西		Ⅴb4	珪頁	横	3.7	4.6	1.1	16.8		下左右	3	3.1	1.5	3.1	0.2	0.1	0.2	53	56	31	70	63	61	両面	左・右:直、下:外	有	
図 24-7	387		RF	西	Eb(R)	Ⅴb3	珪頁	縦	4.8	3.9	0.8	16.3		左	1			2.8			0.5			39			55	片面	直	有	
	408		RF	西	EFab?	Ⅴb4	鉄石	横	3.4	3.8	1.0	15.1		下	1	2.0			0.2			45			69			片面	直	有	
	409		RF	西	EFab?	Ⅴb4	鉄石	横	2.4	4.0	0.8	9.3		下	1	2.3			0.6			26			81			片面	外	有	
	398		SC	西	Ea(Q)	Ⅴa	鉄石	横	(2.6)	4.1	1.0	12.2		下	1	(4.8)			1.2			67			80			両面	内	有	左半部破損
	420		RF	西	N.R.V	Ⅴb	珪頁	横	4.6	5.8	1.5	27.9		右	1		3.8			0.09			16			44		片面	外	有	
	390		RF	西		Ⅴb	珪頁	横	(2.4)	(2.9)	0.6	8.3		右	1		(1.7)			0.3			19			53		片面	外	無	下半部破損
	418		RF	西	Db(N)	Ⅴb1	鉄石	縦	4.0	3.5	1.3	21.0		右	1		3.6			0.4			16			80		両面	外	有	
	392		RF	西	Eb(R)	Ⅴb3	鉄石	縦	5.5	4.2	1.7	24.9		左	1			2.5			0.2			14			52	片面	外	有	
	383		RF	西	Eb(R)	Ⅴb3	黒曜	横	2.4	5.0	1.0	8.3		左	1			1.5			0.06			67			72	片面	直	無	
	365		SC	西	Eb(R)	Ⅴb3	珪頁	縦	(2.7)	2.0	0.8	5.8		下右	2	(2.5)	(1.3)		0.8	0.4		66	48		84	66		下:両面、右:片面	直	無	上半部破損
	412		RF	西	Db(N)	Ⅴb4	珪頁	横	3.7	5.9	0.8	13.4		右	1		1.7			0.02			16			43		片面	内	有	
	414		RF	西	Db(N)	Ⅴb4	珪頁	横	5.0	3.9	1.1	21.5		下右左	3	1.4	3.1	2.5	0.7	0.4	0.2	28	66	14	80	64	62	下:両面、右:片面、左:片面	下・右:直、左:外	有	
	723	794	SC	西	Eb(R)	Ⅴb5	珪頁	横	(3.0)	(3.1)	1.0	7.2		下右	2	(2.9)	0.7		0.5	0.4		14	40		81	84		両面	外	無	右半部破損
	376		RF	西	Fa・b	Ⅴb5	珪頁	横	3.1	3.3	0.8	8.6		左	1			2.8			0.4			20			65	片面	外	有	
	724	808	RF	西	Ec(S)	Ⅴb5	珪頁	縦	3.3	3.2	1.2	12.6		右	1		2.7			0.01			32			57		片面	直	有	
	415		RF	西	Da(M)	Ⅴc1	鉄石	横	3.0	4.5	1.3	14.5		下	1	1.1			0.1			35			54			片面	内	有	
	1145		SC	西	Da(M)	Ⅴc1	珪頁	縦	4.6	3.0	1.4	19.9		下左	2	4.4		3.2	0.9		0.7	55		36	65		69	片面	直	有	
	722	834	SC	西	Ec(S)	Ⅴc3	珪頁	横	2.2	(3.8)	0.8	8.7		下上左	3	(3.4)	上(3.3)	2.2	0.6	上0.5	0.7	13	上53	14	75	上76	68	下:両面、上・左:片面	下・上:直、左:外	無	上刃部、下刃部破損
	421		RF	西	Dd(P)	Ⅴc7	珪頁	縦	4.3	1.3	1.3	6.5		右	1		4.1			0.2			63			80		片面	外	有	
	1146		SC	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	2.0	2.1	1.1	5.5		下左	2	1.7		1.4	0.5		0.7	36		55	64		81	下:両面、左:片面	直	無	
	490		RF	西	Fd(X)	Ⅴk	珪頁	横	3.7	5.5	0.6	11.0		下	1	3.3			0.1			20			85			片面	外	有	
	407		RF	西	Dc(O)	Ⅴn	珪頁	縦	4.6	4.2	1.3	31.0		左	1			2.5			0.2			19			86	片面	外	有	
	1147		SC	西	Cc(K)	Ⅵ?	鉄石	横	2.0	3.5	0.8	5.7		左	1			1.5			0.4			32			62	片面	直	無	
図 29-3	460		RF	西	Dc(O)	Ⅵh2	珪頁	縦	8.2	5.1	1.9	67.5		左右	2		6.9	6.8		0.1	0.2		30	41		47	63	両面	外	有	
	474		RF	西	D	Ⅵd	珪頁	縦	9.1	2.7	1.2	28.0		右	1		6.0			0.04			39			58		片面	直	有	
	467		RF	西	Db(N)	Ⅵf	鉄石	横	3.1	3.4	0.7	9.2		下右左	3	2.1	上1.7	2.0	0.6	0.05	0.7	29	上28	32	70	上44	46	下・上:両面、左:片面	直	有	
図 29-2	459		RF	西	Db(N)	Ⅵh	珪頁	縦	7.3	3.2	0.8	16.2		左右	2		5.4	3.2		0.3	0.2		15	41		53	64	両面	右:直、左:外	無	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部位置	刃部数	刃部長（下）	刃部長（右）	刃部長（左）	刃部幅（下）	刃部幅（右）	刃部幅（左）	刃部角（下）	刃部角（右）	刃部角（左）	刃角（下）	刃角（右）	刃角（左）	刃付	刃部平面形	礫面	備考
	473		RF	西	Da(M)	Ⅵb	珪頁	縦	6.3	4.2	1.2	25.8		左右	2		3.5	5.1		0.2	0.2		24	29		56	64	両面	右:内、左:外	有	
	466		SC	西	Db(N)	Ⅵb	珪頁	横	5.0	5.2	1.7	46.3		下	1	5.1			0.7			18			62			片面	外	有	
	469		RF	西	Eb(R)	Ⅵb	鉄石	横	2.8	4.3	0.8	5.9		下	1	4.1			0.2			18			35			片面	直	有	
図29-1	462		SC	西	Db(N)	Ⅵb	珪頁	縦	6.6	5.6	2.1	65.3		左	1			3.5			0.1			59			71	片面	直	有	

礫器

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃部位置	刃部数	刃部長（下）	刃部長（右）	刃部長（左）	刃部幅（下）	刃部幅（右）	刃部幅（左）	刃部角（下）	刃部角（右）	刃部角（左）	刃角（下）	刃角（右）	刃角（左）	刃付	刃部平面形	礫面	備考
図19-11	186	619	礫器	西	Fd(X)	Ⅳl	砂岩	横	10.3	7.2	4.0	431.2		上左	2		上:7.0	9.9		上:3.4	3.6		上:42	46		上:69	81	両刃	外・円	有	松田実測
図24-8	381	801	礫器	西	Ec(S)	Ⅴl4	安山	横	6.5	8.7	3.2	232.0		下	1	7.8		1.8				28			75			両刃	外・円	有	凹みあり
図25-2	1149		礫器	西	Ed(T)	Ⅴk	砂岩	横	6.7	8.0	2.0	125.7		下	1	8.4		1.1				39			71			両刃	直	有	

磨製石斧

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	刃幅	刃部角	刃角	平面形態	頭部形態	装着痕	欠損	使用痕方向	使用痕頻度	礫面	備考
	508		磨製石斧	東	Cd(L)	14	砂岩	小型	(3.3)	(2.9)	(2.3)	(27.4)	無	欠	欠		欠	欠	欠	ほぼ欠	欠	欠	欠	
図6-1	760	415	磨製石斧	東		17	砂岩	大型	(9.7)	6.2	2.6	241.8	無	5.6	24	52	円刃	欠	欠	頭部	直行	高	無	
図6-2	761	336	磨製石斧	東		20	砂岩	大型	(7.5)	4.8	2.8	(173.1)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	
図6-3	763	539	磨製石斧	東		20	凝灰	大型	(6.7)	4.4	2.2	(92.9)	無	4.2	21	59	直刃	欠	欠	頭部	右下	高	無	刃部再研磨
図6-4	765	317	磨製石斧	東		21	砂岩	小型	(4.7)	3.3	1.2	(24.4)	無	3.0	欠	欠	円刃	円基	無	刃部	直行	高	無	黒色化
図6-5	768	388	磨製石斧	東		22	凝灰	大型	(7.6)	3.8	2.4	(115.5)	無	3.2	18	57	円刃	欠	無	頭部	右下		無	
図6-6	767	378	磨製石斧	東		22	砂岩	大型	(11.1)	5.2	2.9	(236.4)	無	欠	欠		欠	円基	無	刃部	欠	欠	無	
図6-7	865	469	磨製石斧	東	Ba(E)	25	閃緑	大型	(10.5)	4.7	2.9	(240.2)	無	4.5	欠		円刃欠	欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	黒色化
図6-8	866	535	磨製石斧	東	Ca(I)	25	砂岩	大型	(10.3)	(4.6)	2.9	(186.9)	無	欠	欠		欠	尖基		刃部	欠	欠	無	
	758	282	磨製石斧	東		15	砂岩	小型	(3.6)	(2.8)	(1.9)	(36.9)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	台帳　石錘
	759	347	磨製石斧	東		19	砂岩	大型	(9.3)	5.0	(2.7)	(157.0)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	
	762	337	磨製石斧	東		20	砂岩	大型	(6.4)	(4.2)	(2.9)	(112.8)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	欠	欠	無	
	764	540	磨製石斧	東		20	砂岩	大型	(4.3)	(3.8)	(2.9)	(60.9)	無	欠	欠		欠	尖基欠	無	刃部	欠	欠	無	
	766	334	磨製石斧	東		21	砂岩	大型	(6.9)	(5.4)	(2.9)	(156.2)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	
	868		磨製石斧	東	Cd(L)	21	砂岩	大型	(7.3)	5.3	2.0	(107.1)	無	4.2	19	58	円刃	欠	無	頭部	右下	高	無	
	576	402	磨製石斧	東	Ca(I)	23	砂岩	小型	(4.1)	(3.2)	(2.5)	(40.6)	黒色物	欠	欠		欠	尖基	無	2/3程	欠	欠	無	
	769	509	磨製石斧	東		25	砂岩	大型	(6.2)	(3.7)	(2.7)	(71.2)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	欠	欠	無	
	770	517	磨製石斧	東		25	砂岩	小型	(4.8)	(3.5)	(2.6)	(53.8)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	欠	欠	無	
図12-8	746	5	磨製石斧	西	Eb(R)	Ⅲa	砂岩	小型	7.8	3.4	1.5	51.3	無	3.3	18	51	円刃	尖基	無	頭部先端	右下	高	無	
図12-9	748	71	磨製石斧	西	Aa(A)	Ⅲc？	閃緑	大型	(9.3)	5.6	3.3	(269.1)	無	5.3	15	51	円刃	不明	無	頭部	右下	高	無	
図12-10	747	28	磨製石斧	西	Ab(B)	Ⅲa？	閃緑	大型	(8.8)	4.0	2.5	146.0	無	3.5	20	58	円刃	不明	無	頭部	右下	高	無	
	254		磨製石斧	西		Ⅳa	砂岩	大型	(5.1)	(3.5)	2.6	(51.7)	無	欠	欠		欠	円基	無	過半	欠	欠	無	
図25-3	374	782	磨製石斧	西	Ed(T)	Ⅴn	閃緑	大型	(8.4)	(3.8)	2.8	(113.7)	無	欠	欠		欠	円基	無	刃部	右下	高	無	一部黒色化
図25-4	749	753	磨製石斧	西	Ea(Q)	Ⅴl	閃緑	大型	(8.0)	4.8	2.9	(198.4)	無	4.6	24	65	円刃	欠	無	頭部	左下	高	無	
図25-5	375	820	磨製石斧	西	Dc(O)	Ⅴb5	砂岩	大型	(10.2)	(4.1)	2.3	(129.0)	無	欠	欠		欠	尖基	有	刃部	右下	高	無	全体的に茶色く変色
図25-6	863	712	磨製石斧	西	Ea(Q)	Ⅴc	砂岩	大型	(9.9)	4.3	2.8	(209.8)	無	4.2	18	60	円刃	欠	無	頭部	右下	高	無	
図25-7	864	768	磨製石斧	西	Dd(P)	Ⅴl	砂岩	大型	(9.7)	4.5	3.0	(193.6)	無	4.1	22	67	円刃	欠	無	頭部	直行・左下	高	無	全体的に茶色く変色
	750	864	磨製石斧	西	Ea(Q)	Ⅴc1	砂岩	大型	(3.5)	(3.8)	(2.7)	(62.1)	無	欠	欠		欠	欠	無	ほぼ欠	欠	欠	無	全体的に茶色く変色
	751	903	磨製石斧	西	Eb(R)	Ⅴc7	閃緑	—	(4.1)	(2.9)	(2.4)	(26.9)	無	欠	欠		欠	尖基	無	ほぼ欠	欠	欠	無	
図29-4	754	1045	磨製石斧	西	Ea(Q)	Ⅵh	凝灰	大型	(8.1)	4.4	2.5	(142.1)	無	4.1	25	64	円刃	欠	欠	頭部	表：右下 裏：左下	高	無	
図29-5	753	966	磨製石斧	西	Eb(R)	Ⅵb	砂岩	大型	(8.3)	(4.2)	2.8	(139.2)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	表：右下 裏：左下	高	無	
図29-6	752	929	磨製石斧	西	Ea(Q)	Ⅵa	閃緑	大型	(9.4)	(4.9)	3.0	(202.6)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	右下	高	無	
図29-7	757	1072	磨製石斧	西	Da(M)	Ⅵh	凝灰	小型	(4.7)	3.0	1.5	(36.9)	無	2.1	19	56	円刃	欠	欠	頭部	右下	高	無	台帳　石錘
図29-8	755	1050	磨製石斧	西	Dc(O)	Ⅵh	砂岩	大型	(8.8)	(4.5)	2.8	(169.4)	無	欠	欠		欠	尖基	無	刃部	右下	高	無	
	756	1058	磨製石斧	西	Da(M)	Ⅵh	砂岩	大型	(6.1)	(4.0)	(2.3)	(84.7)	無	欠	欠		欠	円基欠	無	頭部・刃部	欠	欠	無	
	432		磨製石斧	西	Db(N)	Ⅵi	玄武	大型	13.4	5.3	3.4	438.0	無	—	—		—	欠	無	頭部・刃部	—	—	有	未成品
	458		磨製石斧	西	Eb(R)	Ⅵe	凝灰	大型	(10.7)	(5.1)	(1.7)	(99.9)		欠	欠		欠	欠	欠	頭部、刃部	欠	欠	無	縦割れ、表面残存
	885	47	磨製石斧	西	Ca(I)	Ⅶ	砂岩	大型	(10.9)	5.1	3.2	(328.8)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部、刃部	欠	欠	無	T-3
	886	49	磨製石斧	西	Ca(I)	Ⅶ	砂岩	大型	(12.8)	4.9	3.3	(298.0)	無	欠	欠		欠	欠	無	頭部、刃部	欠	欠	無	T-3

磨石・敲石類

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	計測値 ( ):残存値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	付着物	使用痕 表面	裏面	左面	右面	上面	下面	備考
図 3-1	18		磨石・敲石類				安山	凹	10.2	8.1	4.6	509		凹C	凹C	—	—	—	—	P82
図 3-2	503		磨石・敲石類	東	Cd(L)	14	砂岩	磨	6.9	5.8	3.5	184	RP	磨B0	磨B0	—	—	—	—	
図 3-3	839	1038	磨石・敲石類	東	Fa(U)	11g	砂岩	磨＋敲	7.4	6.6	5.4	380	RP	磨A0	磨D	—	—	—	敲A0	
図 3-4	481	141	磨石・敲石類	東	Ca(I)	10	閃緑	凹＋敲	7.9	(6.1)	4.2	(297)		磨B0+凹E	磨B0+凹E	凹E	敲A0	欠	—	
図 3-5	837	139	磨石・敲石類	東		10	安山	凹＋敲	(9.0)	6.9	5.5	(386)		凹B	凹B+凹C	—	凹C	欠	敲A0	
図 3-6	838		磨石・敲石類	東	Cb(J)	11	砂岩	凹＋敲	8.5	7.4	4.6	358		凹A	凹A	—	敲A0	—	—	
図 3-7	498		磨石・敲石類	東	Cb(J)	12	安山	凹＋敲	7.0	6.1	5.3	298		凹C	凹C	—	敲A0	欠	敲A5	
	890		磨石・敲石類	東	Cb(J)	10~14	安山	凹	12.3	7.6	3.9	504		凹C	凹C	—	—	—	—	
	504		磨石・敲石類	東		14	泥岩	不明	(6.0)	(3.5)	0.9	(21)		凹C	欠	欠	欠	欠	欠	残存 1/3 以下
	511		磨石・敲石類	東	Ba(E)	15	砂岩	磨	(6.5)	(3.9)	(3.4)	(99)		磨B0	—	欠	欠	—	欠	
	848	246	磨石・敲石類	東		16	砂岩	磨	(7.7)	5.1	3.0	(145)	RP	磨B1	欠	—	—	欠	欠	
図 7-1	546	196	磨石・敲石類	東	Cc(K)	20	頁岩	磨	5.2	4.7	3.7	138		磨A1	—	—	—	—	—	
図 7-2	843	301	磨石・敲石類	東		15	砂岩	磨	6.9	(5.6)	4.0	(143)	RP	磨B1	—	—	—	—	欠	
図 7-3	552		磨石・敲石類	東	Cc(K)	21	泥岩	磨	13.8	5.4	2.5	254		磨B1	—	—	—	—	—	
図 7-4	600	538	磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	安山	磨＋磨	12.4	10.7	9.1	1680	RP	磨B0	敲A0	—	磨D	—	—	
図 7-5	840	287	磨石・敲石類	東		15	安山	凹	13.9	8.0	4.0	683		凹A+凹C	凹A+凹C	—	—	—	—	残存 1/3 以下
図 7-6	847	256	磨石・敲石類	東	Cb(J)	16	砂岩	凹	19.5	9.3	2.7	(639)		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 7-7	853	420	磨石・敲石類	東		22	安山	凹	10.1	7.7	3.2	290		凹B	凹B+凹C	—	—	—	—	
図 7-8	859	531	磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	安山	凹	7.6	6.0	4.9	173		凹B	凹C	—	—	—	—	
図 7-9	857	514	磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	安山	凹	11.9	9.4	6.8	1020		磨B0+凹C	磨B0+凹C	—	—	—	—	
	854	355	磨石・敲石類	東		22	安山	凹	(6.8)	6.0	3.9	(144)		凹C	凹C	—	—	—	欠	
図 8-1	510		磨石・敲石類	東	Bb(F)	15	安山	凹	7.2	6.6	4.9	314		磨B1+凹C	凹C	—	—	—	—	
図 8-2	861	533	磨石・敲石類	東		25	安山	敲	7.0	6.2	4.8	268	RP	—	—	—	敲A0	—	—	
	602		磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	安山	敲	(18.1)	7.8	6.7	(1420)		—	—	—	—	—	敲B	
	603		磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	安山	敲	10.7	(9.1)	3.3	(370)		—	—	敲B	敲B	欠	敲A1+敲B	
	604		磨石・敲石類	東	Ba(E)	25	砂岩	敲	(13.2)	8.4	8.2	(1400)		—	—	—	—	磨B1	敲A6+敲B	
	860	505	磨石・敲石類	東		25	安山	敲	(13.0)	6.9	2.7	(402)		—	—	—	—	—	敲B	
図 8-3	849	290	磨石・敲石類	東		17	安山	磨＋敲	8.6	6.8	5.6	424	RP	磨B1	—	—	—	敲A3	敲A1	
図 8-4	536		磨石・敲石類	東		18	頁岩	敲	(7.8)	7.6	4.7	(354)		—	—	—	—	—	敲A0	石核を転用
図 8-5	525		磨石・敲石類	東	Cb(J)	16	砂岩	敲	20.4	7.0	6.3	944		—	—	—	—	敲A0	敲B	
図 8-6	856	491	磨石・敲石類	東		23	凝灰	敲	18.7	11.7	3.2	824		—	—	—	敲B	—	—	
	527	291	磨石・敲石類	東	Ba(E)	16	安山	磨＋敲	12.0	(9.8)	2.7	(290)		磨B1	—	—	—	—	敲A0	
図 9-1	846	257	磨石・敲石類	東	Cb(J)	16	泥岩	凹＋敲	16.9	5.6	2.8	302		凹B+凹E	凹C	—	—	—	敲B	
図 9-2	851	352	磨石・敲石類	東	Ba(E)	21	安山	凹＋敲	11.3	9.9	6.2	937		凹C	—	—	—	—	敲A0	
図 9-3	850	511	磨石・敲石類	東		20	安山	凹＋敲	6.8	6.6	3.0	182		凹C	凹C	敲A0	—	—	敲A1	
	841	841	磨石・敲石類	東		15	安山	凹＋敲	11.6	9.7	3.7	569		凹E	凹B	—	—	—	敲A6	
	842	283	磨石・敲石類	東		15	砂岩	凹＋敲	11.2	8.5	4.9	625		凹C	凹C	—	—	—	敲A0	
図 9-4	858	489	磨石・敲石類	東		25	安山	凹＋敲	10.2	7.1	3.8	312		凹A	凹C	—	—	—	敲A0	
	526		磨石・敲石類	東	Fb(V)	16	砂岩	凹＋敲	(11.6)	4.8	4.0	(329)		凹C+凹E	欠	—	—	欠	敲A0	
	852	332	磨石・敲石類	東		21	安山	凹＋敲	(7.1)	6.6	3.7	(262)	RP	磨B0+凹C	凹C	—	—	欠	敲A1	
	601		磨石・敲石類	東	Ca(I)	25	安山	凹＋敲	13.6	(8.3)	5.0	(703)	RP	凹C	凹C	欠	敲A2	欠	—	
図 13-1	20		磨石・敲石類	西		Ⅲ	頁岩	磨	7.3	6.2	5.4	347		磨B1+凹C	凹C	—	—	—	—	
	19		磨石・敲石類	西		Ⅲ	安山	凹＋敲	11.3	6.9	4.0	468		磨B0+凹B+凹C	凹B+凹C	—	—	—	敲A0	
	14		磨石・敲石類	西		Ⅲ	安山	凹＋敲	8.2	7.1	2.7	205		凹C	—	—	—	—	敲A0	
	12	P83	磨石・敲石類	西		Ⅲk	安山	凹	9.3	7.7	4.8	441		磨B1+凹B	凹E	—	—	—	—	
	36	548	磨石・敲石類	西	Fa(U)	Ⅲa	安山	凹	8.9	7.7	3.0	301		磨B0+凹A	磨B1+凹C	—	—	—	欠	
	21		磨石・敲石類	西	Cc(K)	Ⅲb	安山	凹＋敲	10.4	9.2	5.4	749		凹B	凹C	敲A0	敲A0	—	—	
図 13-2	28	181	磨石・敲石類	西	Bc(G)	Ⅲc2	安山	凹	9.7	7.3	5.2	520		磨B1+凹A	磨B1+凹A	—	—	—	—	
	16	145	磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹＋敲	9.3	7.9	4.6	519		磨B1+凹C	磨B1+凹C	—	敲A0	—	—	
	23		磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹＋敲	13.6	11.4	5.0	1007		凹C	—	—	敲A0	—	—	
	26	551	磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹＋敲	12.2	9.3	5.9	893		磨B1+凹C	磨B0+凹B	—	—	—	敲A0	
	34	132	磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹＋敲	10.4	10.0	4.7	611		凹C	—	敲A0	敲A0	—	敲A0	
図 13-3	39	176-1	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅲc2	安山	敲	11.0	8.8	5.1	700		—	—	—	—	—	敲A0	
	24	176-2	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅲc2	安山	凹	10.9	7.4	4.0	387		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 13-4	27	129	磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹	11.2	7.7	5.4	667		磨B1+凹C	凹C	—	—	—	—	
	30	102	磨石・敲石類	西		Ⅲc2	安山	凹	9.3	7.0	4.6	406		磨B1+凹C	磨B1+凹C	—	—	—	—	
	786	77	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅲc2	安山	凹	13.2	8.8	6.1	995		磨B0+凹C	凹C	—	—	—	—	
図 13-5	37	86	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅲc2	安山	凹＋敲	12.0	8.0	3.3	449		磨B1+凹C	凹B+凹C	—	—	—	敲A0	
	25	103	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅲc2	安山	凹＋敲	14.4	5.6	4.8	457		凹C	凹C	—	—	敲A0	敲A0	
	29	105	磨石・敲石類	西		Ⅲc2	安山	凹＋敲	10.7	7.8	4.1	412		凹C	凹C	—	敲A0	—	—	
	33	99	磨石・敲石類	西		Ⅲc2	安山	凹＋敲	8.9	(7.7)	3.6	(360)		凹B	凹B	—	敲A0	—	—	
図 13-6	40	85	磨石・敲石類	西		Ⅲc2	安山	凹＋敲	11.5	8.7	4.3	643		磨B1+凹C+凹E	磨B0+凹C	—	—	—	敲A0	
	38	100	磨石・敲石類	西		Ⅲc2	花崗	凹＋敲	9.9	9.7	4.3	526		磨B1+凹B	凹B	—	敲A0	—	敲A0	
	887	560	磨石・敲石類	西	Fa(U)	Ⅲc2	安山	凹	12.7	8.6	4.3	597		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 13-7	35	550	磨石・敲石類	西		Ⅲc	安山	凹＋敲	10.9	9.8	6.3	812		凹E	凹C	—	凹E	—	—	
	11	128	磨石・敲石類	西		ⅢI	安山	凹	12.6	8.7	4.3	668		磨B1+凹C	凹C	—	—	—	—	
	888	123	磨石・敲石類	西	Ca(I)	ⅢI上面	砂岩	凹	8.4	6.6	4.5	361	RP	凹E	—	—	—	—	—	
	794	633	磨石・敲石類	西		Ⅳ	安山	磨	11.3	9.2	7.3	860		磨B1	—	—	—	—	—	
図 17-1	206	595	磨石・敲石類	西		Ⅳk	安山	磨	12.2	8.2	3.7	520		磨B0	—	—	—	—	—	
図 17-2	184		磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅳk	凝灰	凹	5.7	5.4	2.1	53		凹D	凹D	—	—	—	—	
	203	596	磨石・敲石類	西	Dd(P)	Ⅳk	安山	凹	7.0	(4.7)	4.0	(170)		磨B0+凹C	磨B0+凹C	—	—	—	欠	
図 17-3	188	584	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅳk	安山	凹＋敲	9.0	7.0	4.6	383		磨B1+凹C	磨B0+凹C	—	—	—	凹E	
	189	594	磨石・敲石類	西		Ⅳk	安山	凹＋敲	10.4	(7.8)	5.1	(417)		凹C	—	—	—	欠	敲A0	
図 17-4	205	595	磨石・敲石類	西		Ⅳk	安山	凹＋敲	11.1	8.0	5.6	637		凹E	凹C	—	—	敲A0	敲A0 ＋凹E	
	792	593	磨石・敲石類	西		Ⅳk	安山	凹＋敲	11.9	11.5	3.7	618		凹C	凹C	—	—	—	敲A1	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	計測値 ( ):残存値 長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	付着物	使用痕 表面	裏面	左面	右面	上面	下面	備考
図 20-1	213	629	磨石・敲石類	西	Ed(T)	Ⅳl	頁岩	磨	9.7	8.6	4.4	456	RP	磨A0	磨B0+凹C	—	—	—	—	
	222	600	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	磨	12.4	7.2	6.5	852	RP	磨B0	—	—	—	—	—	
	799	691	磨石・敲石類	西		Ⅳl	泥岩	磨	7.6	7.4	3.8	290	RP	磨A1	磨A1	—	—	—	—	
図 20-2	226	725	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳm	安山	磨+磨	10.7	8.1	6.5	772		磨B1	—	—	—	—	磨C1	
	194	672	磨石・敲石類	西		Ⅳl	泥岩	凹	7.1	(4.0)	1.9	(61)		凹B	凹B	—	—	—	欠	
	196	616	磨石・敲石類	西	Fa(U)	Ⅳl	安山	凹	12.0	9.3	5.3	759		磨B1+凹B	磨B0+凹B	—	—	—	—	
	197	614	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅳl	安山	凹	11.4	8.7	3.6	423		凹C	凹C	—	—	—	—	
	198	604	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	凹	7.0	6.6	3.2	93		凹C	—	—	—	—	—	
	200	601	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	凹	9.8	7.8	4.1	401		凹C	凹C	—	—	—	—	
	201	606	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	凹	9.1	8.0	6.2	536		磨B1+凹C	—	—	—	—	—	
	208	617	磨石・敲石類	西	Fa(U)	Ⅳl	安山	凹	11.9	10.7	5.9	838		凹C	—	—	敲A0	—	—	
	225	639	磨石・敲石類	西	Fb(V)	Ⅳl	安山	凹	9.1	6.8	4.5	372		磨B1+凹B	磨B1+凹C	—	—	—	—	
	227	622	磨石・敲石類	西	Fd(X)	Ⅳl	安山	凹	11.7	10.3	4.0	670		凹C	磨B0	—	—	—	—	
	209	615	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅳl	砂岩	敲	7.1	(7.0)	4.5	(275)		—	—	—	—	敲A6+敲B	敲B	
図 20-3	169		磨石・敲石類	西	Fa(U)	Ⅳl	安山	凹	10.6	5.4	4.3	280		凹C	—	—	—	—	—	
図 20-4	185		磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅳl2	安山	凹	12.0	7.1	4.9	487		凹C	—	—	—	—	—	
	193	612	磨石・敲石類	西	Fb(V)	Ⅳl	安山	凹+敲	7.2	6.0	2.8	153		凹C	—	—	—	—	敲A0	
	195	602	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	凹+敲	10.8	9.8	4.1	572		磨B1+凹C+凹E	磨B0+凹E	—	敲A0	敲A0	—	
図 20-5	798	637	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅳl	安山	敲	5.9	4.7	2.8	86		—	—	—	—	敲A0	敲A0	
	204	608	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	凹+敲	10.1	8.2	4.5	563		磨B1+凹B	凹B	—	敲A0	—	—	
	210	671	磨石・敲石類	西		Ⅳl	安山	凹+敲	12.0	7.2	5.0	570		凹C	凹C	—	—	—	敲A0	
	215	624	磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅳl	安山	凹+敲	8.1	7.7	2.5	212		磨B1+凹C	凹C	敲A0	敲A0	—	敲A0	
	220	627	磨石・敲石類	西	Dd(P)	Ⅳl	安山	凹+敲	11.3	8.5	4.9	593		凹B+凹C	凹C	—	敲A1	—	敲A0	
	223	638	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅳl	安山	凹+敲	12.6	11.0	4.6	901		磨B0+凹C	—	—	敲A0	—	—	
	797	625	磨石・敲石類	西	Dd(P)	Ⅳl	安山	凹+敲	13.0	7.5	5.0	635		凹C+凹E	凹C	—	—	—	敲A0	
	172		磨石・敲石類	西	Fb(V)	Ⅳl2	安山	凹	(9.7)	(6.9)	(3.5)	(243)		凹C	欠	—	—	—	欠	
図 20-6	168		磨石・敲石類	西	Ed(T)	Ⅳn	安山	凹	11.4	9.1	3.8	537		凹B+凹C	凹B+凹C	—	—	—	—	
図 20-7	216	723	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅳm	安山	凹+敲	12.7	5.4	3.4	337		凹B+凹E	凹C	—	敲A0	—	—	
	190	701	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅳl2	安山	凹+敲	10.5	7.2	3.2	318		凹B	凹C	—	敲A0	—	—	
	207	700	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅳl2	安山	凹+敲	9.9	8.5	4.6	511		磨B1+凹B	磨B0+凹C	—	敲A1	敲A1	敲A1	
	173		磨石・敲石類	西	Fb(V)	Ⅳm	砂岩	磨	12.4	7.7	7.2	916	RP	磨D	—	—	—	—	—	
	174		磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅳm	砂岩	磨	(6.5)	(4.6)	(1.7)	(48)	RP	磨B1	欠	欠	欠	欠	欠	残存 1/3 以下
	214	727	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳm	安山	凹	10.3	9.5	6.2	810		磨B0+凹C	磨B0+凹C	—	—	—	—	
	218	731	磨石・敲石類	西	Ed(T)	Ⅳm	安山	凹	8.8	7.1	3.5	281		凹C	凹C	—	—	—	—	
	221	724	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳm	安山	凹	9.7	7.4	5.6	481		凹E	凹C	—	—	—	—	
	228	702	磨石・敲石類	西	Ed(T)	Ⅳm	安山	凹	14.6	8.6	3.6	603		凹B+凹C	凹C	—	—	—	—	
図 20-8	199	686	磨石・敲石類	西		Ⅳl	安山	凹+敲	10.3	8.6	6.1	490		凹B+凹E	凹B	—	凹E	—	—	
	211	726	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳm	安山	凹+敲	9.6	6.5	5.4	482		凹E	凹E	—	—	—	敲A0	
図 21-1	219	728	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳm	閃緑	凹+敲	7.6	5.8	3.3	210		凹C	凹C	—	—	—	敲A0	
図 21-2	170		磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅳl2	安山	凹+敲	11.6	8.6	5.0	350		凹C	—	—	—	敲A1	敲A1	
	230	722	磨石・敲石類		Ec(S)	Ⅳm	安山	不明	(8.2)	(5.2)	(1.4)	(77)		磨B	欠	欠	欠	欠	欠	残存 1/3 以下
	224	749	磨石・敲石類	西	Dc(O)	Ⅳn	安山	磨	(11.8)	8.8	5.7	(780)		磨A0	—	—	—	—	—	
図 21-3	191	762	磨石・敲石類	西	Dd(P)	Ⅳl	砂岩	凹+敲	13.1	12.2	2.6	557		凹A	凹A	—	—	—	敲A1	
	341		磨石・敲石類	西	N.R.V	Ⅴb	砂岩	磨	(6.1)	(5.1)	(3.1)	(130)		磨B0	欠	欠	—	欠	欠	残存 1/3 以下
	802	741	磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅴb1	安山	凹	13.0	8.9	4.2	718		凹C	凹C	—	—	—	欠	
	796	740	磨石・敲石類	西	Fc(W)	Ⅴb1	安山	凹	11.9	10.1	5.8	990		磨B1+凹C	凹E	—	—	—	—	
	812	811	磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅴb1	安山	凹	8.9	8.2	4.8	453		凹B	凹B	—	—	—	—	
	807	744	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅴb1	安山	凹+敲	11.2	8.3	5.1	722		磨B1+凹B	凹C	敲A0	敲A0	—	敲A1+敲A6	
	809	742	磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅴb1	安山	凹+敲	10.0	6.4	3.7	310		磨B0+凹E	凹E	—	—	—	—	
	805	751	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅴb2	安山	凹	10.2	6.8	3.0	281		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 26-1	863	771	磨石・敲石類	西	Dd(P)	Ⅴl	安山	磨	9.2	6.8	3.4	316	RP	磨B1+磨E	磨B1+磨E	—	—	—	—	
	815	789	磨石・敲石類	西	Ec(S)	Ⅴn	安山	磨	11.9	7.5	3.6	508	RP	磨B0	—	—	—	—	—	
	811	781	磨石・敲石類	西	Ed(T)	Ⅴn	安山	凹	11.1	9.2	6.0	773		凹C	—	—	—	—	—	
図 26-3	318		磨石・敲石類	西		Ⅴb4	安山	凹	11.3	8.7	4.7	579		凹C+凹E	凹C+凹E	—	—	—	—	
	800	800	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅴc1	安山	凹+敲	12.7	11.7	7.0	1220		凹C	—	敲A0	敲A0	—	敲A0	
	804	913	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅴc7	砂岩	凹	9.0	7.1	4.7	364		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 26-2	810	869	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅴc7	安山	凹	10.3	8.7	6.9	856		凹C	—	—	—	—	—	
	833	944	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵb	砂岩	磨	7.6	6.4	3.9	286	RP	磨B1	磨B0+凹D	—	—	—	—	
	830	987	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵd	砂岩	磨	8.5	6.9	4.3	355	RP	磨B0	—	—	—	—	—	
	826	986	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵd	安山	凹	7.4	6.4	3.7	254	RP	凹C	—	—	—	—	—	
	435		磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵe	安山	凹+敲	7.6	(5.5)	(4.3)	(245)		凹C	—	—	—	欠	敲A1	
	824	1018	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵg	安山	凹	7.8	6.0	3.7	239		磨B0+凹C	凹C	—	—	—	—	被熱
	440		磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵh	砂岩	磨	5.2	5.0	1.5	50		磨B1	—	—	—	—	—	
	434		磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	安山	磨	(8.5)	7.9	(6.3)	(313)		磨B1	欠	—	—	欠	欠	
図 30-1	433		磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	頁岩	磨+敲	8.6	6.6	4.3	380		磨A1+磨E	磨A1+磨E	—	—	—	敲A0	
	823	1027	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	安山	凹	9.8	7.5	5.6	507		凹E	—	—	—	—	—	
	832	1067	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	安山	磨+敲	11.4	8.3	2.3	354	RP	磨B1	—	—	—	—	敲B	
	820	1042	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵh	安山	凹+敲	9.9	6.4	4.0	373		凹B+凹E	凹C+凹E	—	—	敲A0	敲A0	
	821	1060	磨石・敲石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	砂岩	凹+敲	11.0	8.3	6.4	604		凹C	磨B1+凹E	敲A0	敲A0	—	凹C	
	822	1035	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅵh	安山	凹+敲	5.5	4.6	3.9	110		凹B	—	—	—	敲A6	敲A6	
	829	680	磨石・敲石類	西		Ⅵl	安山	敲	8.1	7.0	3.4	253	RP	—	—	—	—	—	敲A1	
	889		磨石・敲石類	西		Ⅵ	安山	凹+敲	9.3	8.3	4.2	392	RP	凹C	凹C	—	—	—	敲A0	
図 30-2	825	678	磨石・敲石類	西		Ⅵl	安山	凹+敲	8.7	7.8	5.8	896		凹B	凹C	敲A0	敲A0	—	—	
	475		磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅶb	安山	凹	(10.2)	6.6	4.2	(371)		凹C	凹C	—	—	—	欠	
	476		磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅶb	安山	凹	8.3	7.4	3.4	231		凹C	—	—	—	—	—	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	計測値 ( ):残存値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	付着物	使用痕 表面	裏面	左面	右面	上面	下面	備考
図 31-1	834	1104	磨石・敲石類	西	Db(N)	Ⅶb	砂岩	凹＋敲	8.4	6.9	6.8	569		磨B0＋凹A	—	—	—	—	敲A1	
図 31-2	835	1086	磨石・敲石類	西	Da(M)	Ⅶb	安山	凹＋敲	13.7	9.5	4.4	804		凹B＋凹C	凹B＋凹C	—	敲A0	敲A0	敲A0	
図 31-3	836	1112	磨石・敲石類	西	Eb(R)	Ⅶb	安山	凹＋敲	12.8	10.8	5.4	1080		凹A	凹B＋凹E	—	敲A0	—	凹C	

石皿・台石類

図番号	弘大	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	計測値 ( ):残存値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	付着物	使用痕 表面	裏面	左面	右面	上面	下面	備考
図 3-8	876	139	石皿・台石類	東		10	安山	Ⅰ凹a	23.3	18.5	7.7	4800		磨B＋凹C	磨B＋凹C	—	—	—	—	
	844	289	石皿・台石類	東	Ba(E)	15	砂岩	Ⅰ平b	(10.5)	(7.0)	1.5	(136)	RP	磨B	欠	欠	—	欠	欠	
図 10-1	845	302	石皿・台石類	東		15	安山	Ⅰ平b	18.1	(13.0)	2.5	(648)	RP	磨B	—	—	—	—	—	
図 10-2	537	335	石皿・台石類	東	Ca(I)	18	安山	Ⅰ平b	17.3	(9.1)	3.6	(667)	RP	磨B	—	—	—	—	—	
	862	502	石皿・台石類	東		25	砂岩	Ⅰ平a	(12.8)	(11.1)	2.5	(292)	RP	磨B	—	欠	—	欠	—	
	321	120	石皿・台石類	西	Ca(I)	Ⅲk	安山	Ⅰ平b	(11.2)	(7.8)	6.5	(393)		磨B	—	欠	—	欠	欠	残存 1/3 以下
図 15-2	784	62	石皿・台石類	西	Dd(P)	Ⅲk	安山	ⅡA1	13.3	10.6	5.4	642		磨B	—	—	—	敲A	敲A	
	17	145	石皿・台石類	西		Ⅲc	安山	Ⅰ平敲	(13.6)	(11.3)	6.2	(923)		凹C	—	欠	—	—	—	
	31	160	石皿・台石類	西		Ⅲc	花崗	Ⅰ平敲	13.5	(10.7)	5.3	(1020)		凹C	—	—	—	欠	敲A0	
図 14-1	13	556	石皿・台石類	西		Ⅲc2	安山	Ⅰ平敲	19.1	15.4	6.3	2120		凹A	凹B＋凹C	—	敲A0	—	—	
図 14-2	22		石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅲc2	安山	Ⅰ平敲	15.8	12.4	3.3	961		凹C	凹C	—	—	—	—	
図 14-3	10	130	石皿・台石類	西		Ⅲc	安山	Ⅰ凸敲	23.6	11.1	9.3	2120		凹B	凹B	—	—	—	—	
図 15-1	872	106	石皿・台石類	西		Ⅲc2	砂岩	Ⅰ凸a	21.9	18.0	10.0	4920		凹C	—	—	—	—	—	
	785	152	石皿・台石類	西		Ⅲc2	安山	ⅡA1	(20.8)	(10.8)	(5.4)	(973)		磨B	—	—	欠	欠	—	残存 1/3 以下
	819	576	石皿・台石類	西		Ⅳ	安山	Ⅰ平敲	15.6	14.8	4.9	1400		凹E	凹A	—	—	—	—	
	1150	1053	石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅳh	砂岩	不明	(5.2)	(3.7)	2.7	(67.1)	RP	磨B	—	欠	—	欠	欠	残存 1／3 以下
図 18-1	875		石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅳk	安山	Ⅰ平b	(21.6)	15.6	4.4	(2460)	RP	磨A	磨B	—	磨D	欠	欠	
図 18-2	877	591	石皿・台石類	西	Fc(W)	Ⅳk	安山	ⅡA2	(20.6)	20.9	8.2	(3360)		磨B	—	—	—	—	—	
図 18-3	879	575	石皿・台石類	西	Fd(X)	Ⅳa	安山	ⅡA2	(21.1)	18.2	6.9	(2380)		磨B	敲A	—	—	—	—	
図 22-1	878	605	石皿・台石類	西	Da(M)	Ⅳl	安山	Ⅰ平a	25.0	22.0	5.0	3340	RP	凹C	—	—	—	—	—	
	175	603	石皿・台石類	西	Da(M)	Ⅳl	礫岩	Ⅰ平b	17.5	13.7	(9.3)	(2360)		磨B	—	欠	—	—	—	
	202	613	石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅳl	安山	Ⅰ平b	(12.6)	(10.2)	4.3	(595)		磨B	—	—	—	—	欠	
	795	631	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳl	安山	Ⅰ平b	16.1	15.6	3.6	1220		磨B	磨B	—	敲A0	—	—	
	871	632	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳl	安山	Ⅰ平b	16.1	13.5	8.4	2100		磨B	—	—	—	—	—	
図 21-4	186	685	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳl	安山	ⅡA1	16.9	12.2	5.5	1051		磨B	—	—	—	—	—	
	790	628	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳl	安山	ⅡA1	18.4	11.0	6.5	1101		磨B	凹B	—	—	—	敲A	
図 22-3	880	622	石皿・台石類	西	Fd(X)	Ⅳl	安山	ⅡA2	28.4	24.9	8.3	4380		磨B＋敲A	—	—	—	—	—	
	176		石皿・台石類	西	Ea(Q)	Ⅳl2	泥岩	Ⅰ平b	(11.6)	(8.4)	(4.9)	(467)		磨A	—	欠	—	欠	欠	残存 1/3 以下
	187		石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅳl2	安山	Ⅰ平敲	(21.2)	(18.3)	9.5	(3400)		凹B＋凹C	凹C	—	—	—	欠	
	181	748	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅳm	礫岩	Ⅰ平b	(18.5)	(15.3)	5.3	(1980)	RP	磨B	—	欠	—	—	欠	
	212	583	石皿・台石類	西	Ea(Q)	Ⅳm	安山	Ⅰ平b	12.9	(7.6)	3.4	(477)		磨B	—	欠	—	—	—	
図 22-2	874	770	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳm	安山	Ⅰ凸敲	20.1	13.5	4.2	1380		凹C	—	—	—	—	—	
	791	752	石皿・台石類	西	Ed(T)	Ⅳm	安山	ⅡA	(23.4)	(17.5)	6.7	(1560)		磨B	—	欠	—	—	欠	残存 1/3 以下
	326	736	石皿・台石類	西	Fb(V)	Ⅴb	安山	Ⅰ平敲	(9.7)	(8.0)	4.0	(238)		凹E	凹C	欠	欠	欠	—	残存 1/3 以下
	329	736	石皿・台石類	西	Fb(V)	Ⅴb	安山	ⅡA	(26.9)	(23.9)	8.3	(2760)		磨B	—	—	欠	—	欠	
図 26-6	884	743	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴb1	安山	Ⅰ平敲	(15.1)	15.1	9.0	(3280)	RP	敲A	—	—	—	—	欠	
	801	758	石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅴb2	閃緑	Ⅰ平敲	14.1	12.7	4.4	1080		敲A	敲A	—	—	—	—	
	320		石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴc	安山	Ⅰ平b	16.0	14.7	5.4	1060		凹E	凹E	—	—	—	—	
図 27-1	322	760	石皿・台石類	西	Fb(V)	Ⅴb3	安山	ⅡA1	11.9	9.7	4.6	404	黒い付着物	磨B	凹A＋凹C	敲A	—	—	—	黒い付着物
	325	769	石皿・台石類	西	Dd(P)	Ⅴl	安山	ⅡA	13.3	(9.5)	4.4	(516)		磨B	—	—	—	—	欠	
図 26-5	873	785	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴn	安山	Ⅰ平b	(22.8)	(22.4)	6.5	(3820)		磨A	磨A	欠	欠	欠	欠	
	883	787	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴn	砂岩	Ⅰ平b	(19.4)	16.4	(8.1)	(2900)		磨B	磨D	欠	磨D	欠	欠	
	869	779	石皿・台石類	西	Dd(P)	Ⅴn	安山	Ⅰ平敲	23.3	21.2	6.3	3940		凹E	凹C	—	—	—	—	
図 27-3	324	788	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴn	安山	ⅡA2	16.0	(13.0)	5.7	(1400)		磨B	—	—	—	—	—	接合
図 27-3	328	785	石皿・台石類	西	Ec(S)	Ⅴn	安山	ⅡA2	(17.0)	(13.0)	5.8	(944)		磨B	—	—	—	—	—	接合
	808	805	石皿・台石類	西	Dd(P)	Ⅴb4	安山	ⅡA	(24.1)	(14.6)	6.1	(1820)		磨B	—	—	—	—	欠	
	882	806	石皿・台石類	西	Eb(R)	Ⅴb5	安山	Ⅰ平b	(13.8)	(10.1)	7.3	(1180)		磨B	磨B	欠	—	欠	欠	
図 27-2	327	870	石皿・台石類	西	Db(N)	Ⅴc7	安山	ⅡA1	27.2	16.2	6.5	2380		磨B	—	—	—	—	敲A	
図 30-3	430		石皿・台石類	西	Db(N)	Ⅵf	安山	ⅡA2	(12.7)	(11.4)	(4.9)	(402)		磨B	—	—	欠	—	欠	828、870 と接合
図 30-3	828	1036	石皿・台石類	西	Dc(O)	Ⅵg	安山	ⅡA2	(7.0)	(5.0)	(4.6)	(83)		磨B	—	—	欠	—	欠	430、870 と接合
図 30-3	870	1036	石皿・台石類	西	Dc(O)	Ⅵg	安山	ⅡA2	(10.1)	(8.0)	(4.4)	(213)		磨B	—	—	欠	—	欠	430、828 と接合
	881	1033	石皿・台石類	西	Ea(Q)	Ⅵh	安山	Ⅰ平b	(15.2)	15.9	3.9	(1380)		磨B	磨B	欠	—	—	—	被熱

砥石

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	計測値 ( ):残存値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	砥面数	備考
	482		砥石	東	Cd(L)	10	砂岩	(8.2)	(6.6)	1	(53)	1	
	484		砥石	東	Cb(J)	10	砂岩	(8.0)	(7.6)	2	(87)	1	
図 3-9	500		砥石	東	Bd(H)	13	泥岩	(8.3)	(3.3)	1	(20)	1	
図 22-4	867	733	砥石	西		Ⅳn	砂岩	(9.2)	(5.6)	(0.7)	(33)	1	
	331		砥石	西	NRV?	Ⅴb	砂岩	(4.2)	(2.7)	0	(6)	2	
図 27-4	337		砥石	西	Dd(P)	Ⅴm	砂岩	(8.9)	(7.7)	1	(152)	1	
図 27-5	339		砥石	西	Ea(Q)	Ⅴa	泥岩	(8.4)	(7.6)	1	(52)	1	
	340		砥石	西	Ed(T)	Ⅴb4	砂岩	(11.3)	(7.6)	4	(271)	1	
図 30-4	442		砥石	西	Ea(Q)	Ⅵh	泥岩	(9.9)	(7.6)	1	(130)	1	
図 30-5	443		砥石	西	Eb(R)	Ⅵb	泥岩	(17.6)	9	2	(390)	2	
	436		砥石	西	Db(N)	Ⅵh	砂岩	(6.9)	(5.9)	(1.5)	(61)	1	
	438		砥石	西		Ⅵ	砂岩	(4.7)	(2.7)	(0.8)	(11)	1	

石錘

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	計測値 ( ):残存値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	抉り部 長さ(cm)	幅外(cm)	幅内(cm)	深さ(cm)	備考
図 10-3	855	S387	石錘	東		22	安山	9.2	4.5	3.07	168.0	3.9	1.7	0.7	0.3	
図 15-3	789	S125	石錘	西		Ⅲj	泥岩	(8.6)	4.5	1.6	(66.3)	3	2.7	0.7	0.9	
図 26-4	788	S823	石錘	西	Da(M)	Ⅴc3	砂岩	11.6	4.2	2.42	137.5	3.3	2.9	0.4	0.8	

擦切具

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	計測値 ( ):残存値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	機能部	備考
図 9-5	867	261	擦切石器	東	Cb(J)	15	花崗	15.3	7.0	1.76	309.3	左右側縁	磨耗痕

石核

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	分類	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	打面調整	最大剥離長	最大剥離幅	剥離面数	剥離角	礫面	礫面形状	備考
	479		石核	Ⅳ	東	Da(M)	7b	珪頁	横	3.0	4.0	1.6	11.9		無	2.1	4.3	3	—	有	角礫	
	917		石核	Ⅳ	東	Db(N)	7b	鉄石	横	6.5	6.6	2.1	92.3		無	6.0	5.3	6	—	有	不明	剥片素材石核
	891		石核	Ⅳ	東	Ab(B)	9	鉄石	縦	4.9	1.9	1.3	9.5		無	2.0	1.9	5	84	有	不明	
	892		石核	Ⅳ	東	Ab(B)	9	鉄石	横	2.9	3.0	1.3	9.4		無	1.6	2.7	8	87	無	—	
	491		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	10	鉄石	横	3.2	6.1	2.0	31.3		無	3.2	6.1	3	—	有	亜角礫	剥片素材石核
	918		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	10	鉄石	縦	3.4	3.0	2.1	19.3		無	2.1	2.8	10	—	無	—	
	919		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	10	鉄石	縦	4.4	4.3	2.9	63.3		無	2.0	3.1	8	—	有	角礫	
	920		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	10	鉄石	縦	3.1	2.9	1.3	13.7		無	2.6	2.9	5	—	有	角礫	剥片素材石核
	519		石核	Ⅳ	東	Ca(I)	15	鉄石	横	2.2	6.2	2.0	27.8		無	3.0	2.1	12	—	有	不明	
	921		石核	Ⅳ	東	Cb(J)	15	鉄石	縦	2.1	2.6	1.6	9.8		無	1.9	1.5	11	—	無	—	
	541		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	18	鉄石	縦	6.7	6.5	3.1	80.3		無	6.1	6.4	4	—	有	角礫	
	542		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	18	鉄石	横	2.9	5.0	2.3	41.9		無	2.1	4.3	6	—	有	亜角礫	
図 32-1	548		石核	Ⅰ	東		20	鉄石	横	4.5	6.4	3.4	77.9		無	2.4	3.4	16	114	有	不明	
図 32-3	550		石核	Ⅱ	東	Bd(H)	20	珪頁	縦	5.0	5.9	2.3	55.5		無	4.0	3.9	9	—	有	角礫	
	922		石核	Ⅱ	東	Cc(K)	20	鉄石	横	3.5	5.1	2.6	58.9		無	3.2	2.6	6	98	有	角礫	
	923		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	20	鉄石	縦	8.1	5.9	4.8	190.5		無	6.9	4.8	7	87	有	角礫	
	924		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	20	鉄石	縦	7.1	9.1	3.0	178.5		無	3.4	4.5	1	75	有	不定形	原石形状残す
	925		石核	Ⅳ	東	Cc(K)	20	鉄石	縦	7.1	6.0	4.0	145.1		無	6.2	3.1	7	—	有	亜角礫	
	565		石核	Ⅲ	東	Bb(F)	21	珪頁	縦	4.7	4.0	1.5	33.7		無	4.7	2.3	8	84	有	不明	
	560		石核	Ⅰ	東	Cd(L)	21	珪頁	横	4.6	5.1	2.3	58.5		無	1.4	2.8	7	75	有	亜角礫	
	563		石核	Ⅳ	東		21	鉄石	縦	3.4	3.8	1.2	11.1		無	2.4	1.6		82	有	不明	
	926		石核	Ⅰ＋Ⅲ	東	Cb(J)	22	鉄石	横	4.2	2.8	2.0	23.8		無	1.8	2.9	8	—	有	角礫	
	584		石核	Ⅰ	東	Ba(E)	23	鉄石	横	3.8	4.8	1.7	37.8		無	2.9	2.2	14	84	有	不明	
	743	422	石核	Ⅳ	東	Ba(E)	23	鉄石	縦	5.4	5.1	2.4	75.3		無	5.4	4.8	8	76	有	不明	
	927		石核	Ⅲ	東	Ba(E)	23	鉄石	横	4.1	2.4	2.3	25.2		無	2.0	3.2	2	—	有	角礫	
	928		石核	Ⅰ	東	Cb(J)	24	鉄石	横	3.9	4.2	1.6	31.5		無	1.4	2.0	2	86	有	円礫	原石形状残す
	929		石核	Ⅳ	東	Cb(J)	24	鉄石	横	4.1	2.8	2.4	18.6		無	1.4	3.9	10	100	有	不明	
	930		石核	Ⅰ	東	Ba(E)	25	珪化	横	5.8	9.0	3.8	282.4		無	2.8	3.1	12	—	有	亜角礫	
	931		石核	Ⅰ＋Ⅱ	東	Ba(E)	25	珪頁	横	3.2	2.6	1.2	7.0		無	2.1	2.5	10	80	無	—	
	932		石核	Ⅳ	東	Ba(E)	25	鉄石	横	3.9	2.1	2.1	11.8		無	1.8	3.2	14	—	無	—	
図 32-2	933		石核	Ⅲ	東	Ba(E)	25	黒曜	横	1.8	3.5	1.8	11.5		無	1.2	3.2	7	88	有	不明	産地分析 no.7
	934		石核	Ⅰ＋Ⅳ	東		25	珪頁	横	2.0	3.8	1.9	16.3		無	1.2	2.5	8	74	有	不明	
	935		石核	Ⅲ	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	5.4	5.9	2.6	67.0		無	4.0	1.1	7	—	有	不明	剥片素材石核
	936		石核	Ⅰ	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	5.7	3.2	2.3	26.1		無	2.5	4.5	6	111	有	不明	剥片素材石核
	937		石核	Ⅰ＋Ⅲ	西	Ba(E)	Ⅲ	珪頁	縦	5.3	4.0	1.5	17.3		無	1.8	3.0	11	—	有	不明	
	938		石核	Ⅰ＋Ⅲ	西	Eb(R)	Ⅲ	砂岩	横	4.0	5.6	2.1	48.4		無	3.0	3.9	11	70	有	角礫	
	939		石核	Ⅰ	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	横	4.3	5.7	2.2	45.8		無	2.4	3.7	7	79	有	亜角礫	
	940		石核	Ⅳ	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	2.5	4.7	1.0	14.2		無	2.3	2.6	7	—	無	—	剥片素材石核
	941		石核	Ⅲ	西	Fb(V)	Ⅲa	鉄石	縦	3.5	3.4	1.1	13.3		無	3.5	2.4	4	124	有	角礫	
図 32-4	942		石核	Ⅳ	西	Fb(V)	Ⅲa	鉄石	横	4.1	4.3	3.2	59.6		無	3.0	3.7	8	—	有	角礫	
	148		石核	Ⅳ	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	1.6	3.6	1.2	7.1		無	1.6	2.2	6	59	有	不明	
	943		石核	Ⅱ	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	5.9	6.0	2.1	64.4		無	2.0	2.1	11	114	有	不明	
	944		石核	Ⅳ	西	Cc(K)	Ⅲc	珪頁	横	2.6	2.4	1.7	7.2		無	1.2	2.5	7	—	無	—	
	124		石核	Ⅲ	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	縦	2.5	2.3	1.0	4.6		無	2.0	1.6	5	—	無	—	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	分類	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	打面調整	最大剥離長	最大剥離幅	剥離面数	剥離角	礫面	礫面形状	備考
	945		石核	Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	横	7.8	7.5	3.9	204.6		無	5.6	6.9	5	—	有	亜角礫	弘946と接合、2021年度追加図化資料
	946		石核	Ⅲ	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	縦	13.8	6.7	3.0	283.4		無	9.7	5.8	7	—	有	角礫	弘945と接合、2021年度追加図化資料
	947		石核	Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	縦	3.4	2.5	1.3	9.7		無	2.5	1.9	5	—	有	不明	
図32-5	948		石核	Ⅱ	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	横	7.4	5.6	4.8	275.8		無	3.3	6.2	5	—	有	角礫	
	949		石核	Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	縦	4.0	4.8	1.4	28.7		無	3.8	3.3	8	90	有	不明	
	950		石核	Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	横	4.4	3.7	2.7	32.2		無	2.2	3.6	9	99	有	不明	
	951		石核	Ⅳ	西	Cb(J)	Ⅲc1	鉄石	横	3.4	4.2	1.8	18.9		無	2.3	2.4	7	—	有	不明	
	952		石核	Ⅰ＋Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	縦	4.5	5.7	1.9	47.8		無	3.4	2.5	11	91	有	不明	
	163		石核	Ⅳ	西	Ec(S)	Ⅲc2	鉄石	横	2.0	3.8	2.4	19.1		無	3.8	1.8	5	—	有	亜角礫	
	953		石核	Ⅱ	西	Fc(W)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.5	3.4	1.1	12.3		無	1.3	1.2	7	83	有	角礫	
	954		原石	—	西	Fc(W)	Ⅲc2	鉄石	横	4.3	6.0	2.3	56.6		無	—	—	—	—	有	亜角礫	
	955		石核	Ⅰ	西	Ea(Q)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.5	3.8	1.1	17.9		無	2.1	2.5	8	76	有	亜角礫	
	956		石核	Ⅳ	西	Gg(Ｙ)	Ⅲh	鉄石	縦	6.3	3.2	2.0	44.2		無	1.6	4.6	6	95	有	不明	
	957		石核	Ⅳ	西	Db(N)	Ⅳ	鉄石		4.7	4.2	2.6	54.6		無	1.6	2.8	1	86	有	不定形	1回の剥離のみ、原石形状残す
	303		石核	Ⅰ	西	Dc(O)	Ⅳ・Ⅴ	珪頁	横	6.2	8.2	2.5	81.8		無	3.2	2.4	8	74	有	不明	
	958		石核	Ⅳ	西	Ec(S)	Ⅳh	鉄石	横	2.8	2.5	1.9	8.7		無	1.5	2.6	7	78	有	不明	
	959		石核	Ⅳ	西	Db(N)	Ⅳk	安山	縦	5.1	4.1	2.3	48.1		無	3.8	3.5	4	—	有	不明	
	960		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅳk	鉄石	横	5.6	4.6	3.3	83.7		無	1.9	4.7	9	94	有	不明	
	961		石核	Ⅲ	西	Ed(T)	Ⅳk	鉄石	横	4.9	4.5	3.3	95.6		無	3.0	2.5	3	88	有	亜角礫	原石形状残す
	962		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅳk	鉄石	横	5.3	2.8	1.9	24.9		無	1.6	2.2	14	—	無	—	
	963		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅳk	鉄石	横	4.3	4.6	1.9	36.1		無	2.7	3.9	6	—	有	不明	剥片素材石核
	964		石核	Ⅳ	西	Fa(U)	Ⅳl	珪頁	縦	7.5	6.7	5.0	267.2		無	2.0	3.5	2	—	有	亜角礫	
	965		石核	Ⅳ	西	Ea(Q)	Ⅳl	輝安	横	5.9	7.4	0.4	187.3		無	4.5	7.0	6	—	有	不明	
	966		石核	Ⅳ	西	Fc(W)	Ⅳl	鉄石	横	4.8	4.6	3.6	73.2		無	3.1	3.9	2	—	有	角礫	原石形状残す
図33-1	967		石核	Ⅰ	西	Da(M)	Ⅳl2	珪化	横	7.4	4.9	3.2	128.1		無	2.0	2.0	11	103	有	円礫	
	968		石核	Ⅳ	西	Ea(Q)	Ⅳl2	鉄石	縦	4.2	4.4	1.5	16.7		無	2.4	1.2	6	87	有	不明	
	969		石核	Ⅳ	西	Ea(Q)	Ⅳl2	珪頁	横	4.0	2.6	2.3	20.0		無	1.6	3.1	8	—	有	不明	
	970		石核	Ⅳ	西	Fb(V)	Ⅳl2	鉄石	縦	3.9	2.6	1.8	16.7		無	1.9	3.0	7	—	有	不明	
	971		石核	Ⅳ	西		Ⅳl2	鉄石	横	3.6	4.2	2.1	24.5		無	1.7	2.6	7	—	有	亜角礫	
図33-2	972		石核	Ⅱ＋Ⅳ	西	Cc(K)	Ⅳm	黒曜	横	3.5	4.0	1.0	15.5		無	1.4	1.6	16	80	有	不明	産地分析no.6
	973		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅳm	鉄石	横	5.6	3.4	2.1	28.7		無	2.1	3.6	7	—	無	—	
	974		石核	Ⅰ	西	Fc(W)	Ⅳm	鉄石	縦	2.9	2.8	0.9	6.9		無	1.3	1.8	4	—	有	亜角礫	
	975		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅴb	鉄石	横	2.9	3.5	1.7	11.0		無	2.2	2.3	3	100	有	不明	
	395		石核	Ⅳ	西		Ⅴb	鉄石	横	3.4	3.7	1.2	16.7		無	2.0	1.3	8	92	無	—	剥片素材石核
	403		石核	Ⅰ＋Ⅱ	西		Ⅴb	鉄石	横	1.2	3.4	0.9	3.6		無	1.2	2.1	9	—	有	不明	剥片素材石核
	976		石核	Ⅲ＋Ⅳ	西	Db(N)	Ⅴb1	鉄石	横	3.1	2.8	1.8	14.4		無	2.1	1.4	7	91	有	不明	
図33-3	390		石核	Ⅰ	西	Eb(R)	Ⅴb1	珪頁	横	7.7	5.3	3.5	125.7		無	3.9	3.5	8	—	有	亜角礫	
	977		石核	Ⅳ	西		Ⅴb3	安山	縦	5.2	3.7	3.5	48.8		無	3.1	2.7	5	—	有	不明	
	978		石核	Ⅳ	西		Ⅴb4	珪頁	縦	6.9	5.5	2.3	90.2		無	5.5	3.7	5	—	有	円礫	
	979		石核	Ⅳ	西		Ⅴb4	鉄石	横	2.5	3.5	2.4	14.7		無	1.6	1.4	5	—	有	不明	
	980		石核	Ⅲ＋Ⅳ	西	Ec(S)	Ⅴb4	鉄石	縦	2.4	2.6	1.5	8.5		無	1.9	1.8	15	—	有	不明	
	382		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅴb4	珪頁	横	6.1	5.1	3.2	82.8		無	3.1	4.2	8	—	有	不明	
	981		石核	Ⅳ	西	Ed(T)	Ⅴb4	珪頁	縦	2.1	3.3	1.2	5.1		無	2.1	1.4	8	—	有	不明	
	982		石核	Ⅳ	西	Dc(O)	Ⅴb5	鉄石	横	4.0	3.6	2.5	18.3		無	2.3	2.8	7	—	有	角礫	
	983		石核	Ⅰ	西	Eb(R)	Ⅴb5	鉄石	横	3.4	3.5	1.9	27.7		無	1.9	1.1	9	91	有	円礫	
	984		石核	Ⅳ	西	Ea(Q)	Ⅴc2	鉄石	横	3.9	2.5	2.0	14.3		無	1.9	4.1	6	88	無	—	
	985		石核	Ⅰ	西	Ec(S)	Ⅴc7	鉄石	横	5.6	6.7	1.7	71.7		無	4.0	4.8	5	90	有	亜角礫	
	986		石核	Ⅰ	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	3.5	3.9	2.2	33.4		無	2.7	1.9	8	—	有	亜角礫	
	425		石核	Ⅳ	西	Dd(P)	Ⅴk	珪頁	縦	8.2	4.9	3.6	90.0		無	3.4	5.0	5	—	有	不明	剥片素材石核
	987		原石		西	Cc(K)	Ⅵh	鉄石	横	4.5	2.5	1.3	19.1		無	—	—	—	—	有	亜角礫	
	988		石核	Ⅰ＋Ⅳ	西	Db(N)	Ⅵh	珪頁	横	7.6	9.6	4.8	400.4		無	5.9	3.2	17	—	有	角礫	剥片素材石核
図33-4	463		石核	Ⅲ	西	Ea(Q)	Ⅵf	珪頁	横	8.6	4.8	2.9	137.2		無	3.3	3.8	8	—	有	亜角礫	
	989		石核	Ⅱ	西	Eb(R)	Ⅵh	輝安	横	7.2	9.1	3.5	228.5		無	7.2	8.6	9	—	有	角礫	

剥片

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	剥離角	付着物	礫面	備考
	893		剥片	東	Ab(B)	9	珪頁	縦	3.4	1.6	0.7	3.8	—	無	有	
	894		剥片	東	Ab(B)	9	鉄石	横	2.4	3.2	1.4	16.8	—	無	有	
	990		剥片	東	Cc(K)	10	鉄石	縦	5.1	2.0	1.0	6.7	91	無	有	
	738	139	剥片	東		10	珪頁	縦	5.2	1.9	0.7	8.3	—	無	無	
	780		剥片	東	Bd(H)	13	鉄石	横	1.3	2.3	0.6	1.6	—	無	有	
	991		剥片	東	Ca(I)	13	珪頁	横	3.1	4.9	1.2	10.2	—	無	有	
	515		剥片	東	Cb(J)	15	玄武	縦	7.3	3.1	2.0	22.0	—	無	有	P144
	516		剥片	東	Cb(J)	15	鉄石	横	2.1	3.2	1.1	7.3	—	無	有	
	518		剥片	東	Cb(J)	15	鉄石	縦	3.6	2.4	1.0	9.1	121	無	有	
	992		剥片	東	Cb(J)	15	鉄石	横	2.2	2.9	1.1	6.5	—	無	有	P144
	524		剥片	東		15	鉄石	縦	2.3	2.2	0.5	2.4	104	無	有	
	739	313	剥片	東		15	鉄石	縦	4.2	3.0	1.4	14.6	121	無	有	
	533		剥片	東	Cc(K)	17	鉄石	縦	3.4	2.1	1.0	6.1	—	無	無	
	540		剥片	東	Bd(H)	18	鉄石	縦	4.3	2.7	1.2	12.3	85	無	有	
	993		剥片	東	Cc(K)	18	鉄石	縦	6.1	3.1	2.0	36.5	89	無	有	
	994		剥片	東	Ba(E)	19	鉄石	横	2.9	3.0	0.7	6.9	125	無	有	
	549	191	剥片	東	Cc(K)	20	鉄石	縦	5.6	4.8	1.7	38.2	96	無	有	
	781		剥片	東	Cc(K)	20	輝安	横	6.3	8.6	3.1	102.7	97	無	有	
	564		剥片	東		21	鉄石	縦	3.9	3.2	0.6	4.6	—	無	無	
	566		剥片	東		21	鉄石	縦	4.0	3.0	0.6	6.0	130	無	有	
	572		剥片	東	Cb(J)	22	鉄石	横	2.8	4.1	0.9	9.7	102	無	有	
	579		剥片	東	Ba(E)	23	珪頁	横	5.0	7.3	2.1	41.9	—	無	有	
	581		剥片	東	Ba(E)	23	鉄石	縦	2.7	2.1	1.3	9.5	—	無	有	
	582		剥片	東	Ba(E)	23	珪化	縦	5.2	3.1	1.5	18.0	—	無	有	
	995		剥片	東	Ba(E)	23	珪頁	横	2.9	3.5	11.7	12.9	—	無	有	
	996		剥片	東	Ba(E)	23	珪頁	縦	3.7	1.8	0.8	9.2	—	無	有	
	997		剥片	東	Ba(E)	23	鉄石	縦	2.6	2.3	0.8	6.8	—	無	有	
	998		剥片	東	Cb(J)	23	鉄石	縦	2.7	2.5	1.2	7.3	—	無	有	
	587		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	2.6	1.6	0.5	1.5	—	無	無	
	591		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	3.5	4.7	1.3	20.7	—	無	有	
	592		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	3.0	4.6	1.4	18.1	109	無	有	
	594		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	2.3	4.0	1.4	10.3	—	無	有	
	595		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	4.4	1.4	1.2	5.0	—	無	無	
	598		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	1.9	3.2	0.9	5.3	—	無	有	
	999		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	1.3	3.5	0.6	4.4	—	無	無	
	1000		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	2.2	2.1	0.6	2.9	—	無	無	
	1001		剥片	東	Cb(J)	24	珪頁	横	2.6	2.7	0.9	3.8	—	無	無	
	1002		剥片	東	Cb(J)	24	珪頁	縦	3.8	2.2	0.9	8.1	—	無	有	
	1003		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	横	2.0	2.8	1.1	5.9	—	無	有	
	1004		剥片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	2.8	2.6	1.0	5.2	—	無	有	
	621		剥片	東	Ba(E)	25	鉄石	横	1.5	3.5	0.7	3.6	—	無	無	
	622		剥片	東	Ba(E)	25	珪頁	縦	5.3	4.7	1.0	18.8	96	無	有	
	623		剥片	東	Ba(E)	25	鉄石	横	3.8	4.5	1.2	20.5	103	無	有	
	1005		剥片	東	N．R？	25	鉄石	横	2.5	2.7	1.2	8.4	—	無	有	
	1006		剥片	東	Ba(E)	25	鉄石	横	2.5	3.2	0.4	4.6	—	無	有	
	1007		剥片	東	Ba(E)	25	鉄石	縦	2.9	1.8	1.1	6.6	—	無	有	
	625		剥片	東	Ca(I)	25	鉄石	縦	3.2	3.0	1.5	12.1	104	無	無	
	1008		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	5.1	3.7	1.2	21.9	—	無	有	
	1009		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	5.9	2.7	2.3	23.7	—	無	無	
	1010		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	2.2	5.7	2.0	22.0	—	無	有	
	1011		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	縦	5.1	3.2	0.5	10.4	107	無	有	
	1012		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	5.0	5.1	1.3	35.2	—	無	有	
	1013		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	1.7	2.7	0.5	2.0	99	無	無	
	1014		剥片	西	J1	Ⅱa	珪頁	横	2.3	2.4	0.7	2.3	108	無	無	
	2		剥片	西	Dc(O)	Ⅱc	鉄石	縦	4.3	2.2	1.4	13.4	—	無	有	
	9		剥片	西	Dc(O)	Ⅱc	鉄石	横	2.2	3.2	1.0	5.1	112	無	有	
	6		剥片	西	Dc(O)	Ⅱe	鉄石	縦	4.1	2.7	0.4	3.1	107	無	無	
	3		剥片	西	Fd(X)	Ⅱe	鉄石	縦	4.1	3.8	1.1	16.8	—	無	有	
	909		剥片				鉄石	縦	3.6	2.5	0.5	4.4	98	無	有	第一号炉内
	910		剥片	西	Ed(T)	Ⅲ	鉄石	縦	3.5	2.4	0.5	3.4	—	無	有	ピット
	912		剥片	西	Fa(U)		鉄石	横	2.4	3.0	1.3	6.5	101	無	有	Pit14
	913		剥片	西	Fa(U)		鉄石	縦	3.6	3.4	0.9	8.4	101	無	有	Pit14
	103		剥片	西	Ba(E)	Ⅲ	珪頁	縦	1.6	3.6	0.9	4.6	—	無	有	
	132		剥片	西	Ba(E)	Ⅲ	珪頁	縦	4.4	3.2	1.1	11.8	—	無	有	
	1015		剥片	西	Ba(E)	Ⅲ	鉄石	横	3.2	7.0	0.9	20.9	—	無	有	
	1016		剥片	西	Cd(L)	Ⅲ	鉄石	縦	2.6	1.2	1.1	4.8	—	無	有	
	167		剥片	西	Dc(O)	Ⅲ	鉄石	横	2.1	2.7	0.9	3.6	—	無	有	
	1017		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	横	2.7	3.7	0.8	9.3	—	無	有	
	1018		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	縦	4.1	2.7	0.6	4.9	—	無	有	
	1019		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	縦	4.0	3.5	1.0	10.8	117	無	有	
	1020		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	珪頁	横	3.5	4.4	0.6	9.1	108	無	無	
	1021		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	横	3.1	3.3	0.9	9.9	—	無	有	
	1022		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	縦	3.0	1.8	0.5	4.7	127	無	無	
	1023		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	横	2.4	3.6	0.8	8.1	110	無	無	
	1024		剥片	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	横	2.5	2.6	1.0	7.0	—	無	有	
	156		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	3.0	5.0	0.8	9.5	124	無	有	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	剥離角	付着物	礫面	備考
	1025		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	珪頁	縦	3.5	1.9	0.7	4.1	111	無	有	
	1026		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	3.9	2.4	0.8	10.3	107	無	有	
	1027		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	2.6	2.9	1.1	7.3	112	無	有	
	1028		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	2.7	2.1	0.4	2.0	—	無	無	
	1029		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	2.3	2.2	1.2	3.4	—	無	有	
	1030		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	2.8	2.6	1.1	7.5	—	無	有	
	1031		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	2.9	2.4	0.7	5.8	96	無	無	
	1032		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	安山	横	4.3	9.0	2.4	67.7	—	無	有	
	1033		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	不明	1.9	2.8	0.9	5.1	—	無	無	
	1034		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	2.9	3.6	1.3	13.3	—	無	有	
	1035		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	縦	3.4	3.2	0.8	8.5	107	無	無	
	1036		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	2.6	3.4	1.0	10.7	—	無	有	
	1037		剥片	西	Ed(T)	Ⅲ	鉄石	縦	2.6	2.3	1.0	5.0	131	無	有	
	1038		剥片	西	Ed(T)	Ⅲ	砂岩	縦	4.4	4.0	3.0	42.9	—	無	有	T3 ピット
	1039		剥片	西	Ed(T)	Ⅲ	鉄石	横	2.2	2.5	0.6	2.2	120	無	無	
	1040		剥片	西		Ⅲ	珪頁	横	2.2	3.5	0.8	6.8	—	無	有	
	1041		剥片	西		Ⅲ	鉄石	縦	2.3	2.0	0.9	4.3	112	無	無	
	1042		剥片	西		Ⅲ	鉄石	縦	4.0	2.8	1.0	6.7	—	無	無	
	1043		剥片	西		Ⅲ	珪頁	横	2.4	4.7	1.0	9.9	—	無	無	
	1044		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	3.0	2.5	1.0	7.0	—	無	無	
	152		剥片	西	Ac(C)	Ⅲa	鉄石	縦	2.6	2.2	0.8	3.7	—	無	有	
	1045		剥片	西	Eb(R)	Ⅲa	珪頁	横	2.7	4.2	0.8	8.1	114	無	有	
	121		剥片	西	Ed(T)	Ⅲa	鉄石	縦	3.9	3.0	0.8	10.9	103	無	有	
	1046		剥片	西	Ed(T)	Ⅲa	珪頁	横	2.2	2.5	0.4	2.9	102	無	無	
	1047		剥片	西	Ed(T)	Ⅲa	鉄石	縦	2.9	1.9	1.0	5.0	—	無	有	
	147		剥片	西	Dc(O)	Ⅲb	鉄石	横	2.7	3.6	0.5	4.3	—	無	無	
	1048		剥片	西	Ea(Q)	Ⅲb	鉄石	横	3.9	4.3	1.2	15.8	—	無	有	
	102		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	珪頁	縦	2.6	1.8	1.0	5.1	121	無	有	
	108		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	1.9	2.1	0.5	2.2	108	無	有	
	149		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	4.1	1.7	1.0	5.5	—	無	有	
	151		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	3.1	2.7	0.4	5.1	123	無	有	
	154		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	5.1	3.0	1.1	15.4	122	無	有	
図 34-2	155		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	3.5	4.1	0.7	5.8	105	無	無	
	1049		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	2.5	2.1	1.0	5.6	—	無	有	
	1050		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	2.8	3.2	1.1	7.1	—	無	有	
	1051		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	2.2	3.5	0.8	6.5	—	無	無	
	1052		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	不明	2.3	3.2	1.2	6.4	—	無	無	
	118		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	玉髄	縦	3.5	3.1	0.7	6.7	—	無	無	
	1053		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	横	2.3	5.5	1.4	12.9	—	無	有	
	1054		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	縦	3.2	3.1	0.7	3.2	110	無	無	
	1055		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	横	3.2	3.6	0.8	9.5	122	無	無	
	1056		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	横	2.1	2.6	0.7	4.2	104	無	有	
	1057		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	不明	2.6	2.2	1.1	4.7	—	無	無	
	1058		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	横	4.5	4.7	0.9	15.2	109	無	有	
	1059		剥片	西	Fa(U)	Ⅲc	鉄石	縦	4.1	1.6	1.1	7.3	—	無	有	
	1060		剥片	西		Ⅲc	鉄石	縦	3.2	2.6	1.0	6.2	—	無	有	
	1061		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc	珪頁	横	2.5	6.5	2.6	31.1	—	無	有	
	138		剥片	西	Ed(T)	Ⅲc	珪頁	横	2.5	3.4	0.9	5.8	—	無	有	
	139		剥片	西	Fb(V)	Ⅲc	珪頁	横	2.1	2.7	0.4	2.2	—	無	無	
	774		剥片	西	Fb(V)	Ⅲc	珪頁	横	2.0	4.6	0.9	7.3	—	無	有	
	1062		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	縦	4.9	3.7	1.4	27.8	118	無	有	
	1063		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	横	2.6	2.7	0.7	4.2	122	無	無	
	1064		剥片	西	Eb(R)	Ⅲc2	鉄石	縦	2.8	2.3	0.5	3.0	—	無	有	
	135		剥片	西	Ec(S)	Ⅲc2	珪頁	縦	2.7	4.1	1.0	7.8	124	無	有	
	1065		剥片	西	Ec(S)	Ⅲc2	珪頁	縦	4.3	2.7	0.9	10.6	93	無	有	
	1066		剥片	西	Ec(S)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.5	3.3	0.9	10.3	—	無	有	
	1067		剥片	西	Ec(S)	Ⅲc2	鉄石	横	3.4	4.0	1.0	14.3	126	無	有	
図 34-1	122		剥片	西	Fb(V)	Ⅲc2	珪頁	縦	4.0	3.8	1.2	15.0	116	無	有	
	130		剥片	西	Fc(W)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.3	3.2	0.7	5.2	120	無	有	
	1068		剥片	西	Fc(W)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.3	2.5	1.1	6.1	—	無	有	
	1069		剥片	西	Fc(W)	Ⅲc2	鉄石	縦	2.8	2.4	1.1	6.8	—	無	有	
	105		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.2	2.3	1.0	7.6	—	無	有	
	1070		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	横	1.9	3.8	1.3	8.2	—	無	有	
	1071		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	鉄石	縦	3.0	2.4	1.2	8.4	—	無	無	
	1072		剥片	西	Dc(O)	Ⅲc2	珪頁	縦	3.9	3.3	1.3	15.9	—	無	無	
	1073		剥片	西	Cc(K)	Ⅲc上	珪頁	縦	4.5	2.4	0.7	9.0	—	無	有	
	1074		剥片	西	Fc(W)	Ⅲk	珪頁	縦	4.7	3.0	0.7	9.2	101	無	有	
	1075		剥片	西	Fc(W)	Ⅲk	鉄石	縦	3.9	2.7	0.7	6.7	120	無	有	
	1076		剥片	西	Fc(W)	Ⅲk	鉄石	横	2.0	3.2	0.9	6.8	—	無	無	
	1077		剥片	西	Fc(W)	Ⅲk	珪頁	横	2.3	4.5	0.8	9.3	—	無	有	
	131		剥片	西	Dc(O)	Ⅲk	鉄石	横	4.2	4.4	1.0	19.7	—	無	有	
	150		剥片	西	Dc(O)	Ⅲk	珪頁	縦	3.7	2.9	0.7	7.0	—	無	有	
	1078		剥片	西	Dc(O)	Ⅲk	珪頁	縦	6.1	4.6	1.0	21.8	118	無	有	
	117		剥片	西	Dd(P)	Ⅲk	珪頁	横	2.9	3.6	1.2	1.1	90	無	有	
	1079		剥片	西	Dd(P)	Ⅲk	珪頁	縦	3.8	3.3	1.4	19.6	115	無	有	
	1080		剥片	西	Dd(P)	Ⅲk	珪頁	横	2.6	3.0	1.3	7.7	—	無	無	
	146		剥片	西	Fd(X)	Ⅲk	安山	横	5.8	6.1	1.5	43.4	107	無	有	
	106		剥片	西	Da(M)	Ⅲl	鉄石	横	2.4	3.3	0.9	6.2	103	無	有	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	剥離角	付着物	礫面	備考
	1081		剥片	西		Ⅲ l	珪頁	横	3.9	4.3	1.0	16.0	—	無	有	
	120		剥片	西	Dc(O)	Ⅲ l	珪頁	横	2.2	2.4	1.3	5.7	—	無	無	
	127		剥片	西	Dc(O)	Ⅲ l	鉄石	横	2.2	3.3	1.2	10.7	—	無	有	
	128		剥片	西	Dc(O)	Ⅲ l	珪頁	縦	4.0	2.4	0.9	4.4	—	無	無	
	635		剥片	西	Fc(W)	Ⅲ l 上	鉄石	縦	4.3	3.7	0.9	10.7	113	無	有	
	1082		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ m	鉄石	縦	2.3	2.4	0.9	4.5	120	無	有	
	1083		剥片	西	Ec(S)	Ⅲ m	珪頁	横	3.2	4.0	0.7	5.2	114	無	有	
	101		剥片	西	Dd(P)	Ⅲ r	珪頁	縦	2.7	1.5	0.8	3.2	—	無	無	
	284		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ	鉄石	縦	5.2	3.4	1.8	27.5	—	無	有	
図 34-6	270		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.2	3.1	0.8	7.1	109	無	無	
図 34-8	271		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.9	3.1	1.0	8.4	—	無	無	
	272		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	横	2.0	2.5	0.9	3.5	106	無	無	
	273		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.1	3.0	0.7	4.8	108	無	無	
	274		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	横	2.4	3.0	0.7	3.0	104	無	有	
	276		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.5	2.0	2.4	3.3	—	無	無	
図 34-9	277		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	3.7	3.1	0.6	4.8	108	無	無	
	278		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	2.9	2.8	0.3	2.3	—	無	無	
図 34-7	279		剥片	西	Dd(P)	Ⅳ	珪頁	縦	4.7	3.3	0.4	4.5	106	無	無	
	1084		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ	鉄石	横	2.8	3.2	1.4	12.7	—	無	有	
	292		剥片	西		Ⅳ	黒曜	縦	2.9	2.2	0.4	2.5	—	無	有	
	259		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ a	珪頁	縦	4.2	2.3	0.6	6.9	113	無	有	
	260		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ a	珪頁	縦	3.7	3.1	1.0	11.0	—	無	有	
	261		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ a	珪頁	横	2.5	3.3	0.9	9.1	107	無	有	
図 34-4	263		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ a	珪頁	縦	4.3	3.2	0.7	7.5	104	無	有	
	1085		剥片	西		Ⅳ a	珪頁	縦	2.5	1.9	1.2	4.4	—	無	有	
	267		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ a2	珪頁	縦	3.1	2.7	1.0	9.6	111	無	有	
	1086		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ b	鉄石	縦	4.4	3.3	1.6	22.1	113	無	無	
	288		剥片	西	Da(M)	Ⅳ k	鉄石	縦	2.6	2.5	1.0	7.8	119	無	有	
	290		剥片	西	Da(M)	Ⅳ k	珪頁	縦	3.6	3.2	0.6	8.0	—	無	無	
	268		剥片	西	Dc(O)	Ⅳ k	珪頁	横	4.3	4.7	1.1	23.2	108	無	有	
	1087		剥片	西	Eb(R)	Ⅳ k	鉄石	横	2.7	1.6	1.2	6.2	—	無	無	
	1088		剥片	西	Eb(R)	Ⅳ k	鉄石	縦	2.3	4.9	0.8	6.6	84	無	有	
図 34-3	255		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ k	珪頁	縦	3.8	1.6	0.8	4.1	—	無	無	
	311		剥片	西	Ed(T)	Ⅳ k	鉄石	横	2.1	2.2	0.4	1.8	119	無	有	
	1089		剥片	西	Ed(T)	Ⅳ k	鉄石	縦	4.5	3.1	1.2	14.5	—	無	有	
	298		剥片	西	Ac(C)	Ⅳ l	珪頁	横	2.8	2.9	1.1	11.6	—	無	無	石囲内
	309		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	鉄石	横	2.7	3.1	1.2	9.9	—	無	有	
	310		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	鉄石	横	1.9	2.3	0.4	1.6	—	無	無	
	1090		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	鉄石	横	4.0	5.3	0.6	13.8	109	無	有	
	1091		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	鉄石	縦	2.9	2.8	1.1	9.4	—	無	無	
	1092		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	珪頁	縦	3.8	1.9	1.0	3.8	—	無	有	
	1093		剥片	西	Fa(U)	Ⅳ l	鉄石	横	2.0	2.4	1.5	4.9	—	無	無	
	304		剥片	西	Dc(O)	Ⅳ l	珪頁	縦	4.4	2.1	0.8	5.1	—	無	無	
	269		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l	鉄石	横	3.5	3.8	1.2	16.8	—	無	有	
	296		剥片	西	Fb(V)	Ⅳ l	珪頁	横	4.4	4.9	1.7	29.1	—	無	有	
	1094		剥片	西	Fc(W)	Ⅳ l	珪頁	縦	5.5	4.5	1.0	27.0	—	無	有	
図 34-5	314		剥片	西		Ⅳ l	鉄石	縦	3.8	3.3	1.3	9.9	—	無	有	
	265		剥片	西	Da(M)	Ⅳ l2	鉄石	横	3.0	4.9	1.0	12.0	114	無	有	
	1095		剥片	西	Dc(O)	Ⅳ l2	鉄石	横	3.8	5.5	1.7	31.8	—	無	有	
	306		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	縦	3.7	2.5	1.1	10.9	—	無	有	
	307		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	珪頁	横	2.2	4.9	1.2	13.7	—	無	有	
	308		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	縦	4.8	4.2	0.8	25.9	113	無	有	
	1096		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	縦	2.3	2.2	1.2	6.1	—	無	有	
	1097		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	横	2.7	3.6	1.2	10.1	—	無	有	
	1098		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	横	2.2	4.8	1.5	12.5	—	無	有	
	1099		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2	鉄石	縦	3.7	2.2	9.4	7.1	—	無	有	
	291		剥片	西	Fb(V)	Ⅳ l2	珪頁	横	5.0	5.5	1.1	21.9	—	無	有	
	1100		剥片	西	Fb(V)	Ⅳ l2	珪頁	横	3.8	4.6	1.7	16.0	—	無	無	
	1101		剥片	西	Ea(Q)	Ⅳ l2 面	鉄石	縦	3.0	1.9	1.2	5.7	—	無	有	
	301		剥片	西	Da(M)	Ⅳ l面	珪頁	横	2.9	3.3	0.7	6.1	—	無	無	
	1102		剥片	西	Da(M)	Ⅳ l面	鉄石	縦	4.5	3.2	1.2	7.9	—	無	有	
	1103		剥片	西	RorS	Ⅳ m	鉄石	縦	4.1	2.7	2.1	15.2	—	無	有	
	1104		剥片	西	Ec(S)	Ⅳ n	鉄石	横	4.8	5.3	2.1	50.2	—	無	有	
	1105		剥片	西	Fb(V)	Ⅴ b5	珪頁	縦	5.0	2.1	1.8	10.8	—	無	有	
	1106		剥片	西	Fb(V)	Ⅴ b5	珪頁	縦	3.2	2.2	0.6	4.4	110	無	有	
	358		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	珪頁	横	1.9	2.0	0.6	2.9	116	無	有	
	393		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	珪頁	横	2.5	4.5	1.0	22.6	105	無	無	
	399		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	縦	4.4	1.8	1.2	7.3	—	無	無	
	401		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	縦	4.7	2.2	0.7	2.1	100	無	無	
	405		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	縦	2.7	1.5	0.5	1.7	112	無	無	
	1107		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	縦	2.1	1.8	0.3	0.9	115	無	無	
	1108		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	縦	3.0	2.3	2.1	10.6	—	無	有	
	1109		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	横	1.6	2.5	1.0	3.4	—	無	有	
	1110		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	横	2.4	3.1	1.6	10.8	—	無	無	
	388		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	砂岩	横	5.8	6.2	2.0	58.1	—	無	有	
	396		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	横	4.1	6.2	2.3	45.2	—	無	有	
	1111		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	横	4.3	5.1	0.9	23.1	—	無	有	
	1112		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴ a	鉄石	横	2.5	3.6	1.7	14.3	—	無	有	

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	剥離角	付着物	礫面	備考
	384		剥片	西		Ⅴb	珪頁	横	3.3	4.9	1.1	15.4	115	無	無	
	386		剥片	西		Ⅴb	鉄石	縦	3.0	2.4	0.9	3.3	89	無	有	
	391		剥片	西		Ⅴb	珪頁	横	2.4	2.8	0.3	2.4	—	無	有	
	397		剥片	西		Ⅴb	鉄石	横	2.8	3.0	1.0	8.1	79	無	有	
	402		剥片	西		Ⅴb	鉄石	縦	2.3	2.2	0.7	3.1	119	無	有	
	404		剥片	西		Ⅴb	鉄石	横	2.3	2.8	0.7	3.5	—	無	有	
	1113		剥片	西		Ⅴb	珪頁	縦	2.2	3.1	1.0	7.8	121	無	有	
	1114		剥片	西		Ⅴb	珪頁	横	3.2	4.0	0.9	12.2	109	無	有	
	1115		剥片	西		Ⅴb	鉄石	縦	4.2	1.9	1.3	8.7	—	無	有	
	1116		剥片	西		Ⅴb	鉄石	縦	3.0	1.6	1.4	4.2	116	無	無	
	1117		剥片	西		Ⅴb	鉄石	横	2.4	3.1	1.2	7.8	—	無	有	
	1118		剥片	西		Ⅴb	鉄石	横	1.7	3.1	0.8	4.3	—	無	有	
	1119		剥片	西		Ⅴb	鉄石	横	2.2	3.5	1.1	8.0	—	無	有	
	355		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb1	鉄石	横	1.7	2.5	0.8	3.6	—	無	有	
	1120		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb1	鉄石	縦	2.8	2.0	1.1	5.3	115	無	無	
	422		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb2	鉄石	縦	4.0	2.6	1.0	5.3	—	無	無	
	357		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb3	鉄石	縦	5.2	1.4	1.5	8.9	—	無	無	
	1121		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb3	鉄石	縦	2.6	1.7	1.1	4.5	—	無	有	
	1122		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb3	鉄石	横	2.1	2.3	1.2	5.9	—	無	有	
	1123		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb3	鉄石	横	1.8	3.5	1.4	10.0	—	無	有	
	1124		剥片	西		Ⅴb3	珪頁	縦	1.8	4.6	1.4	12.1	—	無	有	
	1125		剥片	西		Ⅴb3	鉄石	縦	3.3	2.0	1.3	5.9	—	無	有	
	1126		剥片	西		Ⅴb3	珪頁	横	2.7	2.8	1.2	8.2	109	無	有	
	1127		剥片	西		Ⅴb3	珪頁	縦	5.6	3.2	2.1	31.2	—	無	無	
	1128		剥片	西		Ⅴb3	珪頁	横	3.5	4.5	1.0	14.1	115	無	有	
	1129		剥片	西		Ⅴb3	鉄石	横	2.2	2.8	1.0	5.3	114	無	有	
	1130		剥片	西		Ⅴb3	鉄石	縦	2.5	2.4	0.9	6.6	76	無	有	
	411		剥片	西	Db(N)	Ⅴb4	珪頁	横	2.1	3.7	0.8	4.2	—	無	無	
	413		剥片	西	Db(N)	Ⅴb4	珪頁	横	2.4	5.7	1.0	11.3	—	無	有	
	772		剥片	西	Ec(S)	Ⅴb4	珪頁	横	4.1	4.3	0.8	8.9	115	無	有	
	363		剥片	西		Ⅴb4	鉄石	縦	2.4	1.6	0.9	3.4	—	無	有	
	1131		剥片	西		Ⅴb4	珪頁	横	2.6	3.3	1.5	5.5	—	無	無	
	419		剥片	西	Uv	Ⅴb5	珪頁	横	3.0	3.3	0.8	8.1	105	無	有	
	1132		剥片	西	Uv	Ⅴb5	鉄石	縦	2.3	1.4	0.9	3.1	—	無	有	
	771		剥片	西	Eb(R)	Ⅴb5	珪頁	縦	2.9	2.6	0.5	2.9	119	無	有	
	416		剥片	西	Ec(S)	Ⅴb5	鉄石	横	3.0	4.5	1.6	20.5	—	無	有	
	1133		剥片	西	Ec(S)	Ⅴb5	鉄石	縦	2.8	1.6	0.8	3.2	111	無	無	
	1134		剥片	西	Ec(S)	Ⅴb5	玉髄	横	3.2	3.5	1.2	15.5	106	無	無	
	773		剥片	西	Fb(V)	Ⅴb5	鉄石	縦	2.6	2.5	0.5	2.8	—	無	無	
	1135		剥片	西	O.S	Ⅴc1	鉄石	縦	3.1	2.7	1.0	9.0	114	無	有	
	417		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴc4	珪頁	横	3.2	4.0	1.5	15.6	104	無	有	
	410		剥片	西	Db(N)	Ⅴc7	珪頁	横	3.6	6.7	1.6	41.1	112	無	無	
	377		剥片	西	Ea(Q)	Ⅴc7	珪頁	横	3.4	5.3	1.0	12.9	110	無	有	
	394		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	4.1	4.8	0.6	11.3	—	無	有	
	400		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	2.2	3.3	0.6	3.2	109	無	有	
	423		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	縦	4.0	2.5	1.0	9.4	—	無	有	
	424		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	2.3	3.5	0.6	4.1	—	無	有	
	775		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	珪頁	横	2.1	3.6	1.3	9.5	—	無	無	
	776		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	縦	3.1	2.2	0.7	5.1	111	無	有	
	777		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	珪頁	縦	6.3	3.5	1.7	28.0	120	無	無	
	1136		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	鉄石	横	2.5	4.6	2.2	16.3	111	無	有	
	1137		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	珪頁	横	5.3	5.7	7.9	17.2	111	無	有	
	1138		剥片	西	Eb(R)	Ⅴc7	珪頁	横	2.9	3.2	1.4	17.7	—	無	有	
	1139		剥片	西	EF	b～a	珪頁	縦	3.5	2.3	1.0	5.8	—	無	有	
	1140		剥片	西	EF	b～a	珪頁	縦	2.5	1.5	0.8	2.8	—	無	有	
	1141		剥片	西	EF	b～a	珪頁	横	1.7	1.9	0.4	1.0	129	無	有	
	379		剥片	西	Dc(O)	Ⅴn	珪頁	縦	3.7	3.6	1.5	17.6	—	無	有	
	406		剥片	西	Dc(O)	Ⅴn	珪頁	縦	3.7	2.8	0.6	6.3	119	無	無	
図 34-10	378		剥片	西	Ec(S)	Ⅴn	珪頁	縦	3.1	2.6	1.0	4.3	98	無	有	
	1142		剥片	西		Ⅵn	鉄石	縦	3.0	2.9	1.6	9.6	—	無	有	
	457		剥片	西	Db(N)	Ⅵb	珪頁	横	3.8	5.5	0.7	10.2	—	無	有	
	468		剥片	西	Db(N)	Ⅵb	鉄石	横	3.2	5.1	1.6	25.6	125	無	有	
	472		剥片	西	Db(N)	Ⅵb	鉄石	横	3.5	4.9	1.6	26.7	—	無	有	
	464		剥片	西	Dc(O)	Ⅵb	鉄石	横	4.9	5.6	1.2	36.5	115	無	有	
	465		剥片	西	Eb(R)	Ⅵb	珪頁	横	3.7	4.5	1.3	21.7	117	無	有	
	471		剥片	西	Eb(R)	Ⅵb	鉄石	縦	4.6	2.9	1.3	18.8	115	無	有	
	470		剥片	西	—	Ⅵb?	鉄石	縦	4.2	3.0	0.5	7.3	114	無	有	
	461		剥片	西	Db(N)	Ⅵh	砂岩	横	3.1	5.0	1.0	12.2	—	無	有	
	778		剥片	西	Ec(S)	Ⅵl	珪頁	横	3.2	4.4	0.5	7.7	110	無	有	

碎片

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	石材	分類	長	幅	厚	重	付着物	備考
			碎片	東	Cb(J)	15	鉄石	縦	2.7	1.1	0.7	2.1		P144
			碎片	東	Cc(K)	20	鉄石	縦	2.4	1.9	1.4	4.8		
			碎片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	3.0	1.1	0.7	1.7		
			碎片	東	Cb(J)	24	鉄石	縦	1.2	0.8	0.4	0.3		
			碎片	西	Dc(O)	Ⅱc	鉄石	縦	3.2	1.2	0.7	3.1		
			碎片	西	Eb(R)	Ⅲ	鉄石	縦	2.2	1.5	0.7	2.8		
			碎片	西	Ec(S)	Ⅲ	鉄石	横	1.7	2.2	0.8	2.9		
			碎片	西	Ed(T)	Ⅲ	珪頁	横	1.6	2.2	0.4	1.4		
			碎片	西		Ⅲ	鉄石	縦	2.0	1.4	0.6	1.9		
			碎片	西		Ⅲ	鉄石	縦	2.0	1.7	0.6	1.3		
			碎片	西	D	Ⅲb	鉄石	横	1.9	1.9	0.5	2.0		
			碎片	西	D	Ⅲc	鉄石	横	1.6	2.4	1.4	4.4		
			碎片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	縦	2.2	1.2	0.5	0.9		
			碎片	西	Cc(K)	Ⅲc	鉄石	横	2.1	2.5	0.6	2.8		
			碎片	西	Dc(O)	Ⅲc	鉄石	横	2.1	2.4	0.7	3.8		
			碎片	西	Fb(V)	Ⅲc	鉄石	横	1.3	2.5	0.3	1.0		
			碎片	西		Ⅲc	鉄石	縦	2.2	1.6	0.8	3.9		
			碎片	西	Dc(O)	Ⅲl	珪頁	縦	1.4	1.1	0.7	0.6		
			碎片	西		Ⅲl上	鉄石	縦	2.1	2.0	0.9	4.8		P45
			碎片	西		Ⅲl上	鉄石	縦	2.5	1.8	0.8	4.6		P45
			碎片	西	Ed(T)	Ⅳk	鉄石	縦	1.8	1.4	0.3	0.5		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	1.6	1.1	0.6	1.1		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	1.8	1.5	0.4	0.9		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	横	1.7	2.0	0.7	1.8		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	0.9	0.8	0.1	0.1		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	1.6	0.6	0.2	0.2		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	1.7	1.5	0.4	0.6		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	1.5	1.3	0.8	1.0		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	2.4	2.1	0.6	1.6		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	縦	2.1	1.4	0.6	1.4		
			碎片	西	Fa(U)	Ⅳl	鉄石	横	1.1	1.2	0.2	0.4		
			碎片	西	RorS	Ⅳm	鉄石	横	1.0	2.2	0.7	0.9		
			碎片	西	RorS	Ⅳm	鉄石	縦	1.9	1.6	0.7	1.6		
			碎片	西	RorS	Ⅳm	鉄石	縦	1.7	1.3	0.9	1.7		
			碎片	西		Ⅳm	珪頁	横	1.9	2.6	0.6	1.8		
			碎片	西		Ⅳm	珪頁	縦	2.1	1.5	1.1	2.3		
			碎片	西		Ⅴ	珪頁	縦	2.5	2.0	0.9	2.7		
			碎片	西	Ea(Q)	Ⅴa	鉄石	縦	2.2	1.2	0.6	1.5		
			碎片	西	Ea(Q)	Ⅴa	鉄石	縦	2.2	1.1	0.5	0.8		
			碎片	西	Ea(Q)	Ⅴa	鉄石	横	1.5	1.7	0.7	1.2		
			碎片	西		Ⅴb	鉄石	横	2.1	2.1	0.6	2.0		
			碎片	西		Ⅴb	珪頁	縦	2.9	1.2	0.9	1.9		
			碎片	西		Ⅴb	黒曜	縦	2.0	1.5	0.8	1.8		
			碎片	西	Ea(Q)	Ⅴc7	鉄石	縦	2.1	1.9	0.5	1.1		山王 905

表 13　山王囲遺跡石製品観察表

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
図 37-1	1	13		西		Ⅲa	石棒		粘板岩	頭～胴	21.3	3.1	(1.7)	163.5	
図 37-2	4	173		東		12	石棒		粘板岩	頭～胴	11.0	2.3	(1.1)	47.2	
図 37-3	6	340		東	Ba(E)	21	石棒		粘板岩	頭～胴	25.9	4.3	3.4	520.6	
図 37-4	3	144		東	Cb(J)	10	石棒		粘板岩	胴？	10.9	3.3	(1.6)	65.3	被熱
図 37-5	7			1957・58			石棒		粘板岩	頭～胴	20.9	2.5	2.5	264.7	1957・58 年調査資料
図 37-6	8			1957・58			石棒		粘板岩	胴	12.7	2.4	(1.7)	55.1	1957・58 年調査資料 未成品？
図 37-7	5	209	171-2	東		14	石棒		玄武岩	胴	(8.9)	3.1	(1.6)	61.8	未成品
図 37-8	2	183	650427	東	Cd(L)	10	石棒		粘板岩	胴？	(10.0)	3.1	(2.7)	100.1	
図 37-9	10	650525	169-11	東	O	12	石棒		珪化木	胴？	(13.7)	4.1	2.1	182.8	被熱
	9			東	Ca(I)	16	石棒		粘板岩	小片	(5.3)	1.7	(0.4)	5.2	
図 37-10	12	72		西	Aa(A)	Ⅲc	石刀		頁岩	柄	(15.1)	2.9	1.1	103.4	
図 37-11	17	377		東		22	石刀		粘板岩	柄～胴	(19.8)	3.1	0.9	113.9	沈線
図 37-12	18	512		東	Bb(F)	25	石刀		粘板岩	柄～胴	(20.9)	2.7	1.2	176.1	
図 38-1	16	S326		東	Ca(I)	18	石刀		粘板岩	柄～胴	(12.7)	2.7	0.9	58.8	被熱
図 38-2	447	S255		東	Bd(H)	13	石刀		粘板岩	柄	(10.2)	3.0	1.2	56.6	
図 38-3	21		650502	東	Cd(L)	20	石刀		頁岩	柄～胴	(22.0)	3.4	1.3	188.4	沈線
図 38-4	29	543		西	Ea(Q)	Ⅲm	石刀		粘板岩	柄～胴	(15.5)	2.4	1.2	94.0	
図 38-5	30	10??		西		Ⅵ	石刀		粘板岩	柄～胴	(15.0)	2.6	1.8	120.7	頭部に痕？
図 38-6	456	348		東	Cc(K)	19	石刀		粘板岩	柄	(9.1)	3.6	1.0	52.6	
図 38-7	446	S1115		西	Dc(O)	Ⅶb	石刀		安山岩	柄	(13.7)	4.2	2.2	207.9	
図 38-8	455	S307		東	Bb(F)	19	石刀		粘板岩	柄	(14.7)	3.5	1.1	123.5	
図 38-9	36		不明	不明			石刀		粘板岩	柄	(19.9)	3.1	0.9	136.1	
図 38-10	23			1000SN			石刀		粘板岩	刀身	(18.3)	3.4	0.9	108.6	
図 38-11	25			1957・58			石刀		粘板岩	刀身	(10.0)	3.2	1.1	69.9	1957・58 年調査資料
図 38-12	392			不明			石刀		粘板岩	刀身	(4.9)	2.8	(0.8)	19.1	沈線　被熱
図 39-1	457	772		西	Ed(T)	Ⅴm	石刀		粘板岩	刀身	(12.1)	2.4	0.7	39.7	被熱
図 39-2	13	73		西	Aa(A)	Ⅲc	石刀		粘板岩	刀身	(8.8)	2.7	0.7	27.8	
図 39-3	24			1957・58			石刀		粘板岩	刀身	(14.4)	2.9	0.9	81.3	1957・58 年調査資料
図 39-4	14	S169		東		12	石刀		粘板岩	柄～刀身	(10.3)	2.9	1.2	57.4	被熱
図 39-5	15	203		東		14	石刀		粘板岩	柄～刀身	(10.0)	3.6	1.7	7.2	沈線　被熱
図 39-6	448			東	Cd(L)	21	石刀		粘板岩	刀身	(14.5)	3.5	1.2	81.7	
図 39-7	449			東		20~	石刀		粘板岩	刀身	(7.8)	3.3	1.1	44.6	被熱
図 39-8	19	917		西	Eb(R)	Ⅴc7	石刀		粘板岩	柄～刀身	(9.5)	3.8	1.4	87.0	
図 39-9	20	1008		西	Db(N)	Ⅵf	石刀		粘板岩	柄～刀身	(9.3)	3.8	2.0	68.8	
図 39-10	31	1110		西	Db(N)	Ⅶb	石刀		粘板岩	刀身	(15.0)	4.2	(0.7)	76.3	未成品？
図 39-11	28	234		東		15	石刀		粘板岩	刀身	(7.9)	3.9	0.7	31.1	
図 39-12	450			西	Db(N)	Ⅶb	石刀		粘板岩	刀身	(10.4)	5.6	1.3	113.0	未成品
図 39-13	26	793		西		Ⅴb4	石刀		粘板岩	刀身	(10.4)	5.3	1.5	106.2	未成品？
図 39-14	27			不明			石刀		粘板岩	刀身	(13.0)	5.6	1.3	126.5	未成品
図 39-15	52		422-8	西	Ea(Q)	Ⅴa	石刀		安山岩	柄	(11.2)	3.6	2.2	164.8	礫
	22			1000SN		1	石刀		粘板岩	刀身	(19.7)	3.6	1.2	121.9	沈線
	452	174		東	不明	10	石刀		粘板岩	刀身	(7.6)	(3.6)	0.5	19.3	
	32	1020		西	Db(N)	Ⅵg	石剣		粘板岩	胴	(8.0)	3.0	(0.9)	36.8	被熱？
	35			東	Acd(CD)	21	石剣		粘板岩	胴	(8.6)	2.6	2.0	77.2	
図 40-1	34			西	Ac(C)	Ⅲk	石剣		砂岩	胴	(9.6)	3.3	0.9	54.5	
図 40-2	33	1032		西	Db(N)	Ⅵh	石剣		粘板岩	胴	(10.3)	2.4	1.6	78.3	
図 40-3	455	288		東	Ba(E)	15	石刀・石剣類		粘板岩	刀身	(14.2)	(3.7)	1.2	78.8	
図 40-4	41	406		東	Bb(F)	23	石刀・石剣類		粘板岩	柄	(9.4)	2.5	0.9	34.0	被熱
図 40-5	444			東	Cc(K)	16	石刀・石剣類		粘板岩	柄	(10.5)	2.5	1.3	69.4	
図 40-6	42	427		東	Bb(F)	23	石刀・石剣類		粘板岩	柄	(7.2)	1.7	(0.6)	9.6	被熱
図 40-7	44	1066		西	Da(M)	Ⅵh	石刀・石剣類		粘板岩	柄	(7.7)	2.3	1.1	44.1	被熱
	454	262		東	Cb(J)	16	石刀・石剣類		粘板岩	刀身	(5.4)	2.5	0.8	18.8	
	37		mar.28.58	1957・58			石刀・石剣類		粘板岩	胴～先端	(18.0)	5.7	1.8	307.5	1957・58 年調査資料 未成品
	39	268		東	Ca(I)	15	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(8.1)	2.0	(0.9)	17.7	被熱
	40	286		東	Ba(E)	15	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(7.1)	3.8	(0.6)	32.3	被熱
	53	300	429-小箱 2(1)	東		15	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(5.5)	1.1	(1.1)	7.8	被熱
	46			東	Bc(G)	18	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(5.5)	2.9	(0.3)	5.3	
	45			東	Ca(I)	23	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(6.0)	2.2	(1.2)	33.1	
	38	115		西		Ⅲk	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(8.4)	3.1	0.9	33.7	未成品？
	51	?	175-小箱 2(13)-1	西	SW?	Ⅴb4	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(7.5)	1.5	(0.7)	14.3	
	54		箱 10	西	Dc(O)	Ⅴm	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(6.7)	0.4	(0.4)	2.1	被熱
	43	961?		西	Eb(R)	Ⅵb	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(9.3)	3.2	1.4	63.3	
	442	957?		西	Ea(Q)	Ⅵd	石刀・石剣類		粘板岩	小片	(10.1)	3.2	0.3	17.5	
	49	959	110-小箱 1(27) 650601	西	Ea(Q)	Ⅵh	石刀・石剣類		頁岩	先端	(10.1)	4.2	1.4	85.4	未成品
	47			不明			石刀・石剣類		粘板岩	小片	(2.3)	2.7	(0.5)	8.2	
	48			不明			石刀・石剣類		緑色岩	小片	(6.8)	3.0	(0.7)	25.1	
図 40-8	451	96		西	Ba(E)	Ⅲl 上面	石刀片利用製品		粘板岩	刀身	(3.9)	(3.4)	(0.3)	6.6	
図 40-9	453			西	Dc(O)	Ⅴc2	石刀・石剣類		砂岩	小片	(5.9)	(3.2)	1.1	29.8	被熱・擦切石器か
図 40-10	55	761		西	Ea(Q)	Ⅳm	独鈷状石製品		安山岩		11.0	4.0	2.7	175.8	被熱
図 40-11	400						独鈷状石製品		砂岩		4.1	5.1	3.3	86.2	被熱
図 40-12	50	303	110-小箱 7(13)	東		15	独鈷状石製品		安山岩		10.5	3.8	36.1	263.5	未成品
図 40-13	11	825	650529	西	Ea(Q)	Ⅴc1	独鈷状石製品		安山岩		5.8	6.9	5.6	293.1	
図 41-1	383		150-小箱 5(1)	東	Da(M)	9a	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.4	2.1	111.3	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
図 41-2	323	425	425-40	東	Ca(I)	10	円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.2	1.1	55.4	
図 41-3	58	188		東		12	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.9	4.8	1.7	62.6	黒色付着物？
図 41-4	64	199		東		12	円盤状石製品	中型	砂岩		5.7	5.4	1.3	76.9	黒色付着物？砥石を再利用
図 41-5	66	210		東		12	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.4	1.8	93.1	
図 41-6	348	425	425-1	東	Cd(L)	14	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	4.8	1.4	56.6	中央敲打痕
図 41-7	107	293	110-小箱 7(11)	東		15	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.6	5.2	1.8	76.2	アスファルト
図 41-8	115	315	110-小箱 7(2)	東		15	円盤状石製品	中型	玄武岩		6.1	6.0	1.7	104.9	
図 41-9	329		425-43	東	Bd(H)	16	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.1	1.8	102.0	
図 41-10	139	392	110-小箱 8(16)	東		16	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.9	4.9	1.1	58.0	アスファルト
図 41-11	331		425-17	東	Cc(K)	17	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.6	1.6	101.3	4 月 25 日
図 41-12	119	325	110-小箱 5(10)	東		18	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	6.1	2.0	131.9	
図 41-13	172	482	110-小箱 8(5)	東		19	円盤状石製品	大型	安山岩		7.4	7.1	2.1	170.1	
図 41-14	334		425-5	東	Bd(H)	20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	6.0	1.8	106.4	被熱
図 41-15	341		425-48	東	Bd(H)	20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.0	1.4	65.4	
図 41-16	167	475	110-小箱 3(9)	東	Cc(K)	21	円盤状石製品	中型	砂岩		6.9	6.4	2.5	172.1	
図 41-17	149	412	110-小箱 3(11)	東		21	円盤状石製品	大型	安山岩		7.0	6.8	1.5	111.9	黒色付着物
図 41-18	152	426	110-小箱 2(6)	東		22	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.4	2.5	139.9	
図 41-19	163	459	110-小箱 2(1)	東		23	円盤状石製品	大型	安山岩		7.7	7.0	2.6	220.7	中央敲打痕
図 41-20	148	410	110-小箱 2(3)	東		23	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.3	3.8	1.4	36.7	アスファルト
図 41-21	158	440	110-小箱 8(20)	東		24	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	6.2	2.1	127.7	
図 41-22	166	470		東	Ba(E)	25	円盤状石製品	中型	頁岩		6.0	5.7	1.9	94.9	
図 41-23	345		425-13	東	Ba(E)	25	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	(4.6)	2.2	(103.8)	欠損。黒色付着物。凹み
図 42-1	179	518	110-小箱 5(5)	東		25	円盤状石製品	大型	凝灰岩		7.4	6.1	1.7	123.3	線刻。黒色付着物
図 42-2	182	537		東		26	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.2	2.1	83.6	中央敲打痕　被熱
図 42-3	193	737		西	Ec(S)	Ⅳm	円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.3	2.4	223.4	中央敲打痕
図 42-4	185	610		西	Fb(V)	Ⅳl	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.8	4.7	1.7	76.5	被熱
図 42-5	190	698		西		Ⅴl	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.4	5.3	2.1	119.9	
図 42-6	194	763	110-小箱 3(12)	西	Ed(T)	Ⅴm	円盤状石製品	中型	閃緑岩		6.7	6.3	2.1	178.3	
図 42-7	195	783	110-小箱 3(1)	西	Ed(T)	Ⅴn	円盤状石製品	大型	凝灰岩		7.3	6.3	1.9	119.9	
図 42-8	196	797		西	Fd(X)	Ⅴb4	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.0	1.8	82.5	
図 42-9	197	804		西	Eb(R)	Ⅴb5	円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	6.2	1.5	98.9	赤色顔料
図 42-10	297		425-11	西	Eb(R)	Ⅴc7	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	4.9	1.3	49.7	被熱
図 42-11	198	833	110-小箱 3(8)	西	Ec(S)	Ⅴc1	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.1	2.0	144.8	
図 42-12	385		175-小箱 1(5)	西	Ea(Q)	Ⅴc7	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	(5.0)	0.9	(61.6)	欠損？被熱
図 42-13	432	877		西	Ec(S)	Ⅴc7	円盤状石製品	大型	安山岩		9.8	8.9	3.3	481.5	赤色顔料
図 42-14	437	775		西	Eb(R)	Ⅴm	円盤状石製品	大型	安山岩		9.4	9.4	2.8	205.2	大形石棒の一部を転用　被熱
図 43-1	203	939		西	Ec(S)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.3	2.2	58.8	
図 43-2	219	1011	110-小箱 10(19)	西	Ec(S)	Ⅵf	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.6	2.2	139.1	
図 43-3	314		425-28	西	Ec(S)	Ⅵl	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.9	2.7	145.1	
図 43-4	209	971	110-小箱 1(23)	西	Da(M)	Ⅵc	円盤状石製品	小型	安山岩		4.3	4.1	1.3	37.1	
図 43-5	318		425-35	西	Ed(T)	Ⅵe	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	6.1	1.9	115.9	
図 43-6	210	974	110-小箱 1(9)	西	Fb(V)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.1	1.3	70.1	
図 43-7	317		425-32	西	Eb(R)	Ⅵd	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	4.9	2.1	91.6	
図 43-8	218	1010	110-小箱 10(18)	西	Ec(S)	Ⅵf	円盤状石製品	小型	安山岩		3.6	3.4	1.0	18.0	最小
図 43-9	321		425-64	西		Ⅵh	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.7	2.1	170.3	
図 43-10	301		425-50	西	Da(M)	Ⅶa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	5.2	2.5	111.5	
図 43-11	237	1091	110-小箱 9(20)	西	Da(M)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	砂岩		6.9	5.5	1.9	132.1	
図 43-12	375	不明	425-小箱 1(6)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		10.3	10.0	4.1	759.3	最大・未成品
	322	425	425-小箱 1(2)	東	Cd(L)	10	円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.2	2.9	246.7	
	324	425	425-42	東	Bd(H)	10	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	5.0	2.0	123.5	
	347	425	425-49	東		10	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	5.7	1.9	118.1	
	56	185	110-小箱 4(14)	東		12	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.5	1.6	101.3	
	57	187		東		12	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	5.9	0.8	59.2	
	59	190	110-小箱 4(7)	東		12	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.0	3.9	0.9	29.2	
	60	195	110-小箱 4(10)	東		12	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.1	2.2	119.8	
	62	196	110-小箱 4(4)	東		12	円盤状石製品	大型	安山岩		8.8	8.7	2.5	361.6	
	63	198	110-小箱 4(5)	東		12	円盤状石製品	小型	安山岩		3.9	3.8	1.3	34.7	
	65	204	110-小箱 8(3)	東		14	円盤状石製品	中型	粘板岩		6.4	6.2	2.2	187.8	
	98	250	110-小箱 8(15)	東		14	円盤状石製品	小型	粘板岩		3.9	3.6	0.9	24.0	
	99	265	110-小箱 8(2)	東		14	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.4	2.8	200.9	
	100	270	110-小箱 8(14)	東		14	円盤状石製品	小型	安山岩		4.5	4.0	0.9	27.6	
	101	272	110-小箱 8(7)	東		14	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	6.0	1.7	121.2	
	67	216	110-小箱 3(6)	東		15	円盤状石製品	大型	安山岩		7.8	7.1	2.1	206.1	敲打痕？
	68	217	110-小箱 7(4)	東		15	円盤状石製品	大型	安山岩		7.8	7.7	2.4	260.4	
	69	219	110-小箱 7(9)	東		15	円盤状石製品	小型	凝灰岩		3.9	3.8	1.0	22.2	
	70	220	110-小箱 7(8)	東		15	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.8	5.8	1.3	68.2	
	71	221	110-小箱 7(7)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.4	2.0	121.6	
	72	222		東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.3	1.8	109.4	凹み
	73	223	110-小箱 7(12)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	6.2	2.0	136.6	
	74	223		東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.3	1.2	68.5	凹み
	75	224	110-小箱 7(16)	東		15	円盤状石製品	小型	安山岩		4.3	4.2	1.0	27.2	
	76	224		東		15	円盤状石製品	小型	閃緑岩		4.8	4.7	1.4	57.9	
	77	224		東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	5.8	2.0	125.1	
	78	224		東		15	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.7	4.6	1.4	45.7	
	79	224		東		15	円盤状石製品	小型	安山岩		4.5	4.2	1.3	47.4	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
	80	224		東		15	円盤状石製品	小型	安山岩		4.8	4.7	1.2	42.4	
	81	224		東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.2	1.1	59.1	
	82	225	110-小箱7(1)	東		15	円盤状石製品	大型	玄武岩		7.6	7.6	2.6	265.5	
	102	279	110-小箱7(6)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.4	1.4	68.0	
	103	280	110-小箱7(3)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.3	2.1	127.6	
	104	281	110-小箱7(10)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	6.1	1.5	100.9	
	105	282	110-小箱7(5)	東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.0	4.7	1.9	76.6	
	106	284	110-小箱3(4)	東		15	円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	7.1	2.4	188.9	
	108	294		東		15	円盤状石製品	小型	砂岩		4.8	4.6	1.6	52.8	
	109	295	110-小箱3(3)	東		15	円盤状石製品	大型	安山岩		8.3	6.9	2.8	304.9	凹み
	110	296		東		15	円盤状石製品	小型	閃緑岩		4.6	4.0	2.1	58.5	
	112	?299	110-小箱7(18)	東		15	円盤状石製品	中型	砂岩		6.8	6.6	2.5	148.3	
	114	314		東		15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.5	1.6	78.2	
	285	218	110-小箱3(7)	東	Bb(F)	15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.9	6.3	2.1	175.5	
	286	218	110-小箱7(14)	東	Bb(F)	15	円盤状石製品	大型	安山岩		7.1	7.0	2.5	229.8	
	287	218	110-小箱7(15)	東	Bb(F)	15	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.3	2.1	170.6	
	288	218	110-小箱7(17)	東	Bb(F)	15	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.6	1.6	96.3	
	325		425-27	東	Bc(G)	15	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.2	1.0	64.8	
	326		425-47	東		15	円盤状石製品	小型	安山岩		5.0	4.8	1.5	61.6	
	140	393	110-小箱8(6)	東		16	円盤状石製品	大型	安山岩		7.9	7.8	2.5	240.7	
	141	394		東		16	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.2	4.1	1.5	41.2	
	142	394	110-小箱8(1)	東		16	円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	7.1	1.3	137.2	
	143	394	110-小箱8(10)	東		16	円盤状石製品	小型	安山岩		4.7	3.7	1.7	52.6	欠損？
	144	396		東		16	円盤状石製品	中型	安山岩		5.0	4.6	1.6	80.0	
	150	413	110-小箱8(13)	東		16	円盤状石製品	大型	安山岩		8.7	7.8	2.4	292.9	
	327		425-10	東	Cc(K)	16	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.6	4.2	1.4	40.5	
	328		425-41	東	Cc(K)	16	円盤状石製品	小型	安山岩		4.6	4.3	1.2	46.2	
	127	362	110-小箱9(9)	東		17	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	6.3	1.8	122.1	
	128	363		東		17	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.3	5.3	1.7	79.6	
	129	364		東		17	円盤状石製品	中型	安山岩		5.0	4.7	1.5	58.6	
	153	430		東		17	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.4	6.2	1.6	94.8	
	330		425-12	東	Cc(K)	17	円盤状石製品	小型	安山岩		4.7	4.4	1.1	40.3	
	113	306		東		18	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.7	4.7	1.1	38.0	
	120	328		東		18	円盤状石製品	中型	頁岩		5.0	4.8	1.5	61.6	
	121	329	110-小箱5(7)	東		18	円盤状石製品	中型	砂岩		5.7	5.5	1.9	92.7	
	122	330	110-小箱5(16)	東		18	円盤状石製品	大型	砂岩		8.8	8.1	2.6	348.9	
	123	331		東		18	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.3	1.8	85.4	
	124	350		東		18	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	4.7	1.9	80.8	
	126	359	110-小箱5(1)	東		18	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	4.9	1.8	72.1	
	151	417	110-小箱9(14)	東		18	円盤状石製品	小型	砂岩		4.9	4.5	1.3	46.1	
	156	438	110-小箱9(15)	東		18	円盤状石製品	中型	砂岩		6.1	5.6	2.0	116.4	
	157	439	110-小箱9(8)	東		18	円盤状石製品	中型	安山岩		6.9	6.3	1.9	143.6	
	252	218		東	Bd(H)	18	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	4.9	2.2	110.9	
	289		110-小箱6(5)	東	Ad(D)	18	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	4.9	1.2	56.3	
	332		425-15	東	Ac(C)	18	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.0	5.5	1.2	61.3	
	333		425-20	東	Cd(L)	18	円盤状石製品	大型	安山岩		8.1	(5.4)	2.7	(211.1)	欠損
	137	380	110-小箱9(11)	東		19	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	(4.7)	0.6	(48.9)	欠損
	155	437	110-小箱9(10)	東		19	円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	6.0	2.6	161.5	
	170	480	110-小箱9(16)	東	Bd(H)	19	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.5	1.8	93.9	
	173	483	110-小箱9(13)	東		19	円盤状石製品	大型	安山岩		8.8	7.6	1.3	170.8	
	175	494	110-小箱9(17)	東		19	円盤状石製品	大型	安山岩		9.2	8.4	3.6	490.2	
	61	650427 S196	110-小箱8(21)	東	Cc(K)	20	円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.3	1.3	113.3	
	111	297		東		20	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.9	4.7	1.0	36.1	
	125	358	110-小箱8(4)	東		20	円盤状石製品	大型	安山岩		8.5	7.9	2.7	271.8	
	134	372	110-小箱8(19)	東		20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	5.0	2.1	107.8	
	138	390		東		20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.4	1.2	68.9	
	335		425-8	東	Bd(H)	20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.3	1.7	93.8	
	336		425-9	東	Bd(H)	20	円盤状石製品	大型	砂岩		7.5	7.0	2.0	179.1	
	337		425-33	東	Bc(G)	20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	4.4	1.3	39.2	
	338		425-37	東	Da(M)	20	円盤状石製品	大型	閃緑岩		7.0	6.4	2.2	175.9	
	339		425-38	東	Ed(T)	20	円盤状石製品	中型	砂岩		5.9	5.7	1.9	91.1	
	340		425-44	東	Bd(H)	20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	6.0	1.8	97.3	
	116	318	110-小箱4(16)	東		21	円盤状石製品	中型	砂岩		6.7	6.4	2.0	149.1	
	117	318	110-小箱6(6)	東		21	円盤状石製品	大型	砂岩		8.7	8.1	2.7	421.9	
	118	321		東		21	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.6	1.7	108.3	
	130	365	110-小箱4(11)	東		21	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.5	1.6	85.6	
	131	367	110-小箱10(14)	東		21	円盤状石製品	中型	安山岩		7.0	6.7	2.0	166.0	
	132	369		東		21	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.4	1.9	129.6	
	133	370	110-小箱6(4)	東		21	円盤状石製品	小型	粘板岩		4.1	3.9	0.9	22.7	
	135	373	110-小箱8(9)	東		21	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.8	1.4	100.8	
	136	374	110-小箱3(5)	東		21	円盤状石製品	大型	安山岩		7.5	7.2	1.7	146.8	
	168	475	110-小箱3(10)	東	Cc(K)	21	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	(4.7)	1.5	(90.3)	欠損
	169	475		東	Cc(K)	21	円盤状石製品	中型	砂岩		5.3	5.0	1.7	66.6	
	171	481	110-小箱8(11)	東		21	円盤状石製品	大型	安山岩		8.3	7.0	2.7	287.1	
	180	521	110-小箱3(2)	東		21	円盤状石製品	大型	安山岩		8.3	8.0	2.1	267.7	
	253	353	110-小箱4(2)	東		21	円盤状石製品	大型	安山岩		7.1	6.9	2.5	195.6	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
	290			東	Bb(F)	21	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.5	1.7	82.2	
	342		425-小箱1(3)	東	Bc(G)	21	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.6	2.5	223.2	
	343		425-小箱1(4)	東	Cd(L)	21	円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.5	2.5	223.7	
	344		425-小箱1(5)	東	Bd(H)	21	円盤状石製品	大型	安山岩		8.0	7.7	2.6	291.3	
	145	401	110-小箱2(7)	東		23	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	4.9	1.6	62.9	
	146	407	110-小箱5(9)	東	Ba(E)	23	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.7	1.7	97.2	
	147	409	110-小箱2(10)	東	Ba(E)	23	円盤状石製品	小型	安山岩		4.5	4.1	1.2	34.4	
	159	445	110-小箱2(2)	東		23	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	5.5	1.1	78.8	
	160	446	110-小箱2(4)	東		23	円盤状石製品	大型	安山岩		9.2	8.3	2.0	290.2	欠損？
	162	452	110-小箱2(9)	東	Cb(J)	23	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	5.7	1.2	82.5	
	254	405	110-小箱2(5)	東		23	円盤状石製品	大型	凝灰岩		7.7	6.8	1.5	147.6	
	255	424	110-小箱2(8)	東		23	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	5.7	2.1	106.5	
	349		425-46	東	Ca(I)	23	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	5.8	2.0	128.5	
	154	434	110-小箱8(8)	東		24	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.4	1.8	118.1	
	161	451		東	Cb(J)	24	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.1	2.1	92.9	
	164	462	110-小箱5(2)	東	Ca(I)	25	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.9	5.6	1.5	82.7	
	165	466	110-小箱5(15)	東	Ca(I)	25	円盤状石製品	大型	安山岩		7.7	6.2	2.1	164.2	
	174	488	110-小箱5(3)	東		25	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.6	2.1	110.9	
	176	500		東		25	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	5.2	1.2	59.4	
	177	513	110-小箱5(12)	東		25	円盤状石製品	大型	安山岩		9.1	8.0	2.2	265.2	
	178	517	110-小箱5(14)	東		25	円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	6.0	1.8	125.6	
	181	529	110-小箱5(4)	東		25	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	5.9	2.0	133.6	
	346		425-29	東	Bc(G)	25	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	4.6	1.6	59.0	
	431			東		25	円盤状石製品	中型	閃緑岩		6.1	5.7	2.6	175.1	
	83	226	110-小箱6(7)	東		15~20	円盤状石製品	大型	玄武岩		7.9	7.4	2.2	270.4	
	84	227	110-小箱6(3)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.9	6.5	1.7	117.3	
	85	228	110-小箱9(12)	東		15~20	円盤状石製品	中型	砂岩		6.2	5.8	1.8	118.2	
	86	230	110-小箱8(17)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	4.8	1.8	72.4	
	87	231	110-小箱8(18)	東		15~20	円盤状石製品	小型	粘板岩		4.9	4.8	1.7	60.3	
	88	233	110-小箱4(3)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.2	1.3	65.3	敲打痕？
	89	236	110-小箱4(6)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	(3.5)	0.9	(26.7)	欠損
	90	237	110-小箱8(12)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.8	2.5	133.5	
	91	239		東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	5.6	1.0	61.1	
	92	240	110-小箱4(1)	東		15~20	円盤状石製品	大型	安山岩		9.6	8.1	2.9	381.5	
	93	241	110-小箱4(9)	東	Cc(K)	15~20	円盤状石製品	中型	閃緑岩		5.8	5.5	2.3	121.7	
	94	242	110-小箱6(2)	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	6.2	2.1	157.5	
	95	244		東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.0	4.8	1.0	41.6	
	96	246		東		15~20	円盤状石製品	小型	安山岩		4.9	4.8	1.8	86.5	
	97	248	110-小箱6(1)木箱入	東		15~20	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	5.0	1.5	67.9	
	350		425-39	東	Ad(D)	15~26	円盤状石製品	中型	頁岩		5.4	4.5	1.5	66.4	大洞C2
	351		425-19	東	Ac(C)	含砂利粘土直上	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	5.3	1.7	111.9	
	187	634		西		Ⅳ	円盤状石製品	小型	安山岩		4.2	4.0	1.6	43.2	
	256	650		西		Ⅳ	円盤状石製品	大型	凝灰岩		7.0	6.4	1.9	134.5	
	257	79?	110-小箱3(15)	西		Ⅳ	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.2	1.4	70.6	
	240	1132		西		Ⅶ	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.1	5.7	1.2	64.5	
	241	1132	110-小箱4(13)	西		Ⅶ	円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.6	3.1	326.1	
	183	604	110-小箱5(6)	西	Da(M)	Ⅳl	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.0	1.7	69.9	
	184	604	110-小箱(11)	西	Da(M)	Ⅳl	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.0	1.0	35.8	
	186	619		西	Fd(X)	Ⅳl	円盤状石製品	中型	凝灰岩		10.2	7.0	3.5	431.6	
	189	689	110-小箱5(13)	西		Ⅳl	円盤状石製品	大型	安山岩		7.0	5.6	2.2	157.1	
	258	673		西		Ⅳl	円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	6.4	2.1	187.5	
	191	704		西	Eb(R)	Ⅳl2	円盤状石製品	中型	砂岩		6.6	6.2	1.7	105.8	
	192	730		西	Dd(P)	Ⅳm	円盤状石製品	中型	砂岩		5.1	5.1	1.2	53.3	
	386		175-小箱1(10)	西	N.R.V??	Ⅴ?	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	(4.6)	1.3	(50.0)	欠損
	387		422-小箱1	西	N.R.V??	Ⅴb-?	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.2	(5.0)	1.9	(35.0)	欠損
	430	791		西	Dd(P)	Ⅴb4	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.1	(4.3)	1.7	(66.9)	欠損
	298		425-34	西	Ec(S)	Ⅴl4	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.9	5.9	1.3	83.6	
	259	830		西	Ec(S)	Ⅴc1	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.3	1.9	97.8	
	260	832		西	Ec(S)	Ⅴc1	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.6	4.5	1.2	39.4	
	388		422-小箱1	西	Eb(R)	Ⅴc7	円盤状石製品	大型	安山岩		8.2	7.6	1.2	98.4	
	211	975	110-小箱1(19)	西		Ⅵc	円盤状石製品	大型	安山岩		8.0	7.3	2.9	271.6	
	199	926	110-小箱1(28)	西	Ea(Q)	Ⅵa	円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	6.7	2.1	189.0	
	200	930	110-小箱1(18)	西	Ea(Q)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	6.6	2.1	166.2	
	202	938	110-小箱1(13)	西	Ec(S)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.7	1.5	87.5	
	261	924	110-小箱10(11)	西	Da(M)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	6.1	2.2	168.2	
	262	935	110-小箱1(4)	西	Da(M)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.0	1.8	92.6	
	263	945	110-小箱1(7)	西	Db(N)	Ⅵa	円盤状石製品	大型	安山岩		7.0	6.7	3.4	250.7	
	305		425-6	西	Da(M)	Ⅵa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.1	1.2	47.8	
	201	937	110-小箱1(5)	西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.7	4.5	1.1	38.8	
	204	941	110-小箱10(3)	西	Ec(S)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.6	2.3	163.8	
	205	942	110-小箱10(9)	西	Dc(O)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.4	2.1	117.1	
	206	943	110-小箱1(10)	西	Dc(O)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.8	4.3	1.3	45.5	
	207	956	110-小箱10(8)	西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	粘板岩		6.8	6.2	2.2	170.9	
	208	969	110-小箱10(4)	西	Eb(R)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.7	4.5	1.6	53.0	
	212	979	110-小箱1(3)	西	Fb(V)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.5	1.7	91.6	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
	220	1024	110-小箱1(14)	西	Ea(Q)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	4.7	1.3	56.0	
	221	1028	110-小箱10(5)	西	Fa(U)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	5.1	1.5	56.8	
	222	1028	110-小箱10(6)	西	Fa(U)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.4	1.9	92.8	
	223	1030	110-小箱10(2)	西	Fa(U)	Ⅵb	円盤状石製品	大型	凝灰岩		7.0	6.7	2.7	152.0	
	224	1034	110-小箱1(11)	西	Db(N)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.4	4.3	1.6	44.5	
	226	1049	110-小箱1(26)	西	Dc(O)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.6	1.8	106.4	
	227	1054	110-小箱1(17)	西	Eb(R)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.8	1.3	75.8	
	228	1055	110-小箱1(29)	西	Eb(R)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.4	1.8	76.5	
	229	1059	110-小箱10(7)	西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.8	3.8	1.5	53.8	
	230	1061	110-小箱1(21)	西	Ea(Q)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	(5.14)	1.7	(81.4)	欠損
	231	1062		西	Ea(Q)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	4.1	1.7	52.7	
	232	1062	110-小箱10(17)	西	Ea(Q)	Ⅵb	円盤状石製品	大型	頁岩		7.2	6.0	1.6	127.5	
	233	1064	110-小箱2(11)	西	Ea(Q)	Ⅵb	円盤状石製品	大型	安山岩		7.5	7.3	2.2	193.8	
	234	1069	110-小箱1(16)	西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.8	5.5	2.4	110.1	
	235	1069		西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.0	1.5	73.1	
	264	1012	110-小箱1(8)	西	Ec(S)	Ⅵb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.4	4.1	1.1	32.1	
	304		425-4	西	Dc(O)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	凝灰岩		7.0	5.2	1.4	93.8	
	312		425-23	西	Da(M)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	(3.97)	1.3	(62.3)	欠損
	440	964		西	Eb(R)	Ⅵb	円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	5.3	1.8	107.3	
	441	988		西	Ed(T)	Ⅵb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	5.6	2.4	114.9	
	213	980	110-小箱1(20)	西	Da(M)	Ⅵd	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.8	2.0	111.0	
	214	985	110-小箱1(1)	西	Ea(Q)	Ⅵd	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	6.2	2.3	128.5	
	215	990	110-小箱1(24)	西	Db(N)	Ⅵd	円盤状石製品	小型	安山岩		4.7	4.7	1.2	45.9	
	216	995	110-小箱1(15)	西	Eb(R)	Ⅵd	円盤状石製品	中型	頁岩		5.7	5.1	1.5	83.0	
	307		425-14	西	Eb(R)	Ⅵd	円盤状石製品	中型	安山岩		6.5	6.0	2.6	184.4	
	311		425-22	西	Dc(O)	Ⅵd	円盤状石製品	小型	安山岩		4.8	4.4	1.7	63.5	
	225	1037	110-小箱10(1)	西	Dc(O)	Ⅵg	円盤状石製品	大型	安山岩		8.5	7.9	2.8	356.9	
	303		425-3	西	Db(N)	Ⅵg	円盤状石製品	大型	安山岩		7.1	6.1	2.2	179.8	
	265	1025	110-小箱1(2)	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	小型	安山岩		4.6	4.0	1.7	48.8	
	266	1026	110-小箱1(6)	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	4.9	1.6	82.3	
	267	1031	110-小箱1(22)	西	Fb(V)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	6.0	1.6	103.7	
	268	1041	110-小箱1(12)	西	Da(M)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	5.6	2.1	136.0	
	269	1047	110-小箱1(30)	西	Fa(U)	Ⅵh	円盤状石製品	大型	安山岩		8.9	8.0	3.0	382.8	
	270	1056	110-小箱1(25)	西	Db(N)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	5.5	1.5	98.7	
	271	1065	110-小箱10(12)	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	大型	安山岩		8.6	8.1	3.6	446.3	
	272	1068	110-小箱10(13)	西	Eb(R)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.8	2.3	119.0	
	306		425-7	西	Db(N)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	4.5	1.2	57.2	
	308		425-16	西		Ⅵh	円盤状石製品	小型	凝灰岩		4.7	4.3	1.5	62.1	
	309		425-18	西	Dc(O)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	5.5	1.5	111.7	
	310		425-21	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	4.8	1.5	55.6	
	313		425-24	西	Da(M)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	玉髄		5.2	5.2	1.7	70.9	
	315		425-30	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.3	1.8	64.7	欠損？
	319		425-36	西	Ea(Q)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	4.9	1.3	64.0	
	320		425-45	西	Da(M)	Ⅵh	円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	4.8	1.4	60.3	
	302		425-小箱1(1)	西	Ec(S)	Ⅵi	円盤状石製品	大型	安山岩		9.4	7.1	2.6	383.8	
	188	681	110-小箱5(8)	西		Ⅵi	円盤状石製品	中型	凝灰岩						赤色化
	316		425-31	西	Ec(S)	Ⅵ荒	円盤状石製品	小型	安山岩		4.4	4.4	1.4	56.1	
	300		425-25	西	Z	Ⅶ？	円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.7	2.0	120.7	
	384		150-小箱5(2)	西	Da(M)	Ⅶa	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.2	0.9	49.5	
	217	1109	110-小箱10(15)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	小型	安山岩		4.6	4.5	1.2	45.2	
	236	1087		西	Da(M)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	4.7	1.3	54.4	
	238	1100	110-小箱9(21)	西	Da(M)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	玄武岩		6.2	6.1	1.8	141.3	
	239	1103	110-小箱9(22)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.7	2.5	218.7	
	273	1089		西	Da(M)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	5.8	2.3	129.9	
	274	1091	110-小箱9(7)	西	Da(M)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	6.2	2.4	148.0	
	275	1092		西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.9	5.4	1.7	90.1	
	276	1092	110-小箱9(3)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.2	1.7	102.6	
	277	1092	110-小箱9(4)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	6.0	1.8	126.8	
	278	1092	110-小箱9(5)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	6.1	1.7	115.0	
	279	1107	110-小箱9(6)	西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	6.3	1.6	127.7	
	280	1108		西	Db(N)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	4.3	1.6	59.6	
	281	1111	110-小箱9(2)	西	Eb(R)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	凝灰岩		6.8	5.6	1.3	78.2	
	282	1114	110-小箱9(1)	西	Dc(O)	Ⅶb	円盤状石製品	中型	安山岩		6.3	6.2	2.8	149.7	
	299		425-2	西	Db(N)	Ⅶi	円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.8	5.3	1.6	77.2	
	397			不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.3	5.0	2.0	92.7	
	242	?		不明			円盤状石製品	小型	安山岩		4.4	4.4	1.9	66.9	
	243	?		不明			円盤状石製品	中型	閃緑岩		5.5	5.3	1.5	72.6	
	244	?		不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.2	2.0	120.8	
	245	?	110-小箱10(10)	不明			円盤状石製品	小型	安山岩		3.9	3.7	1.3	32.5	
	246	?	110-小箱5(17)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	7.5	2.5	212.4	
	247	?	110-小箱4(15)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	6.2	1.6	126.3	
	248	?	110-小箱3(14)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.6	6.2	1.8	147.6	
	249	1?7	110-小箱4(12)	不明			円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.3	4.7	1.0	41.4	
	250	19?	110-小箱4(8)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	5.1	1.7	79.6	
	251	100?	110-小箱10(16)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.1	0.7	41.9	
	283	?	110-小箱8(22)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	4.9	2.2	110.4	
	284	不明	110-小箱9(19)	不明			円盤状石製品	小型	安山岩		4.5	4.5	1.3	48.1	
	291	1000SN		西	Da(M)		円盤状石製品	大型	安山岩		7.2	6.1	2.3	180.4	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
	292	1000SN		不明			円盤状石製品	大型	凝灰岩		8.7	7.7	2.3	276.9	
	293	解読不能	110-小箱9(18)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.1	5.0	1.0	52.9	
	294	解読不能	110-小箱10(20)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.6	1.6	83.3	
	295	解読不能	110-小箱8(23)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.9	2.2	220.7	
	296	記載なし	110-小箱6(8)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	6.1	2.3	116.7	欠損？
	353	不明	425-51	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.2	4.7	1.5	79.4	
	354	不明	425-52	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.5	2.2	139.5	
	355	不明	425-53	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.6	6.9	2.6	189.0	
	356	不明	425-54	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.5	2.2	121.6	
	357	不明	425-55	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.4	5.1	1.7	84.2	
	358	不明	425-56	不明			円盤状石製品	中型	玉髄		6.8	(5.66)	1.4	(115.2)	欠損
	359	不明	425-57	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	6.0	2.4	177.5	
	360	不明	425-58	不明			円盤状石製品	中型	砂岩		6.6	6.5	1.6	105.2	
	361	不明	425-59	不明			円盤状石製品	小型	安山岩		3.9	3.5	1.4	31.6	
	362	不明	425-60	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.8	1.6	72.8	欠損？
	363	不明	425-61	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	5.6	1.9	118.9	
	364	不明	425-62	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.6	5.2	1.2	65.9	
	365	不明	425-63	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.5	5.2	1.8	92.9	
	366	表示なし	425-65	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.7	5.3	1.6	87.7	
	367	表示なし	425-66	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	(3.32)	2.1	(103)	欠損
	368	表示なし	425-67	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.4	6.1	1.9	109.4	
	369	表示なし	425-68	不明			円盤状石製品？	中型	安山岩		6.4	5.4	2.3	130.0	
	370	表示なし	425-69	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	6.0	2.0	123.4	
	371	表示なし	425-70	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.8	6.8	2.6	167.9	
	372	表示なし	425-71	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.2	6.0	2.0	153.8	
	373	表示なし	425-72	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.7	5.7	1.6	101.3	
	374	表示なし	425-73	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.0	5.1	0.8	33.3	
	376	不明	425-小箱1(7)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.4	6.8	2.1	196.3	
	377	表示なし	425-小箱1(8)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		9.1	8.7	2.7	405.9	
	378	表示なし	425-小箱1(9)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.5	6.6	2.2	212.7	
	379	表示なし	425-小箱1(10)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		7.5	6.1	1.7	121.5	
	380	表示なし	425-小箱1(11)	不明			円盤状石製品	大型	安山岩		8.1	7.3	2.4	279.5	
	381	p.t9	431-小箱3(11)	西	Eb(R)		円盤状石製品	中型	安山岩		8.8	7.2	2.5	278.2	
	382	p.t16	431-小箱3(13)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.3	1.3	64.8	
	389	表示なし	427-小箱2(3)	不明			円盤状石製品	中型	安山岩		6.1	5.6	2.4	149.3	
	395			不明			円盤状石製品	中型	凝灰岩		5.5	4.9	1.7	81.6	
	396			不明			円盤状石製品	中型	安山岩		5.8	5.4	1.9	129.9	
	352		425-26	不明	Bc(G)	??	円盤状石製品	大型	安山岩		7.3	6.9	2.1	215.6	
図 43-13	398			東	Ba(E)	23	異形礫		砂岩		5.8	4.9	2.2	154.2	
図 43-14	433	235		東		15	異形礫		安山岩		10.7	5.4	2.8	442.5	
図 43-15	438						異形礫		安山岩		7.3	8.6	3.0	377.0	
図 43-16	439			東	Cd(L)	13	異形礫		凝灰岩		3.7	2.9	3.0	40.8	
図 44-1	411		1	西		Ⅴb5	石製玉類	勾玉	ネフライト		1.5	0.8	0.4	0.76	比重 2.7
図 44-2	423		13	西		Ⅴb5	石製玉類	勾玉	ネフライト		1.2	0.7	0.4	0.41	比重 2.1
図 44-3	418		8	西		Ⅴb5	石製玉類	勾玉	ネフライト		1.3	0.7	0.2	0.40	比重 2.5
図 44-4	403	147		西	Da(M)	Ⅴa	石製玉類	管玉	緑色岩		0.6		0.3	0.10	比重 1.7
図 44-5	404	861		西	Fb(V)	Ⅵa	石製玉類	平玉	凝灰岩		1.1		0.5	0.60	比重 1.6
図 44-6	405	772		西	Db(N)	Ⅴc7	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.5		0.2	0.04	比重 2
図 44-7	406	652		西	Eb(R)	Ⅴc7	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.9		0.5	0.40	比重 2.1
図 44-8	407	61		東		16	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		1.0		0.7	0.90	比重 2.1
図 44-9	408	100		東		25	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.7		0.4	0.22	比重 2.1
図 44-10	410	206		西	Eb(R)	Ⅴb5	石製玉類	平玉	凝灰岩		0.7		0.4	0.22	比重 2.1
図 44-11	409	193		西	Eb(R)	Ⅴb3	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.9		0.6	0.53	比重 2.1
図 44-12	425		15	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	凝灰岩		0.6		0.2	0.08	比重 1.5
図 44-13	412		2	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.4	0.24	比重 2.6
図 44-14	413		3	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.3	0.14	比重 2.6
図 44-15	414		4	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.3	0.26	比重 2.6
図 44-16	415		5	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.2	0.10	比重 2.6
図 44-17	416		6	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.2	0.08	比重 2.6
図 44-18	417		7	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.6		0.3	0.15	比重 1.8
図 44-19	419		9	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.8		0.5	0.41	比重 2.6
図 44-20	420		10	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.2	0.11	比重 2.4
図 44-21	421		11	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.2	0.14	比重 2.3
図 44-22	422		12	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.2	0.21	比重 2.8
図 44-23	424		14	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.6		0.2	0.13	比重 2.3
図 44-24	426		16	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.3	0.25	比重 2.4
図 44-25	427		17	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	緑色凝灰岩		0.6		0.3	0.10	被熱。比重 1.7
図 44-26	428		18	西		Ⅴb5	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.4	0.22	比重 2.7
図 44-27	434			東	Ca(I)	18	石製玉類	平玉	ネフライト		0.7		0.4	0.28	比重 2.2
図 44-28	無						石製玉類	平玉	凝灰岩		0.6		0.3	0.31	比重 1.5
図 44-29	435			東			石製玉類	丸玉	ヒスイ		1.2		0.9	2.18	比重 3.2
図 44-30	458						石製玉類	平玉	ネフライト		1.2		0.8	0.09	比重 2
図 44-31		29		東		14	石製玉類	管玉	ネフライト		1.4	0.8	0.7	1.26	孔径 4.3 ㎜、被熱。比重 2.8
図 45-1		O884		西	Ea(Q)	Ⅵb	岩版		凝灰岩		7.5	7.5	0.9	50.7	
図 45-2		O920		西	Ea(Q)	Ⅵh	岩版		凝灰岩		5.1	5.1	1.6	17.5	
図 45-3		O33		西	Ed(T)	Ⅴc5	岩版		凝灰岩		4.0	4.5	1.8	15.4	

図番号	弘大番号	台帳番号	注記	区	グリッド	層	器種	分類	石材	残存部位	残存長（長径）	幅（短径）	厚さ	重量	備考
図 45-4		不明		西		Ⅵ	岩版		砂岩		11.3	10.2	2.6	202.1	
図 45-5	443	O507		西	Eb(R)	Ⅴc4	岩版		凝灰岩		11.1	8.5	1.4	181.2	赤色顔料
図 46-1	436	385		東		22	石製品		凝灰岩		7.9	6.9	2.3	93.2	線刻
図 46-2	弘 231 No168-17	S690		西	Ed(T)	Ⅳl	石製品		多孔質凝灰岩		8.9	8.3	3.8	200.8	赤色顔料

表 14　山王囲遺跡土製品観察表　土偶・土版・円形・ミニチュア・円盤状・その他

図番号	弘大番号	台帳番号	区	グリッド	層位	器種	長（高）(cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	部位	備考
図 47-1		P50	東	—	12c	土偶	4.4	12.0	2.9	頭髪部	
図 47-2		O35	東	Aa (A)	13	土偶	3.9	4.4	4.2	腕部	L65.2
図 47-3		不明	東	—	16	土偶	2.6	3.8	2.6	頭部	3・4 は同一個体
図 47-4		O39	東	—	16	土偶	8.5	6.7	5.2	右脚部	3・4 は同一個体
図 47-5		O58	東	—	22	土偶	3.9	3.8	1.5	上脚部	
図 47-6		O76	東	—	23	土偶	4.1	3.6	1.6	上脚部	
図 47-7		不明	東	5.4L9	23	土偶	3.2	3.5	4.1	脚部	
図 47-8		O95	東	Ca (I)	24	土偶	5.6	6.0	3.8	胴部	
図 47-9		O6	西	Dd (P)	Ⅲk	土偶	4.4	7.3	3.4	頭部	
図 47-10		不明	西	—	Ⅲa	土偶	4.5	7.3	2.7	胴部	
図 47-11		O104	西	—	Ⅳl	土偶	6.7	11.7	5.0	頭部	
図 47-12		O105	西	—	Ⅳl	土偶	9.7	7.9	4.9	胴部	
図 47-13		O171	西	Ec (S)	Ⅳm	土偶	3.4	4.1	2.4	頭髪部	
図 48-1		O463	西	Ea (Q)	Ⅴc1	土偶	3.7	5.4	2.0	胴部	
図 48-2		O539	西	Fa (U)	Ⅴc4	土偶	3.4	3.5	1.9	右腕部	
図 48-3		O552	西	Da (M)	Ⅴc4	土偶	3.7	3.9	2.7	頭部	
図 48-4		O637	西	Ea (Q)	Ⅴc7	土偶	3.0	7.8	4.1	上脚部	
図 48-5		O526	西	Ec (S)	Ⅴc7	土偶	3.8	4.1	2.6	上脚部	
図 48-6		O527	西	Ec (S)	Ⅴc7	土偶	8.6	10.3	6.2	下半部	
図 48-7		O874	西	Ea (Q)	Ⅵb	土偶	5.4	4.9	1.9	上半部	
図 48-8		O43 か	東	—	19	土偶	4.8	5.1	3.7	左腕部	台帳より推定
図 48-9		O85 か	東	—	18	土偶	4.9	5.0	4.1	右腕部	台帳より推定
図 49-1		O209	西	Fd (X)	Ⅴb4	土版	3.8	3.0	0.9		
図 49-2		O394	西	Eb (R)	Ⅴc1	土版	4.2	4.4	0.7		完形。17.9g
図 49-3		O148	西	Ea (Q)	Ⅴc	土版	7.0	6.6	1.8		
図 49-4		O864	西	Da (M)	Ⅵb	土版	8.4	6.1	1.3		
図 49-5		不明	西	Da (M)	Ⅵb	土版	6.7	6.5	1.4		完形
図 49-6			西		Ⅶ	土版	6.9	5.6	0.8		完形。
図 69-1	弘 16	—	—		—	円形土製品	2.6	(1.6)	0.4		周縁を花弁状に刻む
図 69-2		P105	西	Ec (S)	Ⅴc7	ミニチュア土器	2.6	(口径)3.3		深鉢形	
図 69-3	弘 19	P222	西		Ⅴc	ミニチュア土器	3.0	(口径)3.6		壺形	
図 69-4		O328	西	Ec (S)	Ⅴb5	有孔土製品	4.8	5.1	2.9		山王 650　529
図 69-5	弘 13	不明	不明			円盤状土製品	3.2	3.0	0.8	11	小型
図 69-6	弘 14	S447	東	—	23	円盤状土製品	3.3	3.1	0.9	12.2	小型
図 69-7	弘 17	—	—		—	その他土製品	4.0	3.7	2.6		土偶か
図 69-8	弘 18	—	—		—	その他土製品	3.9	3.0	3.1		脚付土器片か
図 69-9		P422	—		—	その他土製品	1.5	0.8	0.8		脚付土器片か

表 15　土製品観察表　土玉類

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 51-1	23	不明	不明	不明	丸	完品	5.4	4.2	3.7	1.7	0.1	ナデ		円	○		
図 51-2	125-2	西	Fa（U）	Ⅴc	丸	ほぼ完	4.9	3.9	4.2	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-3	155	西	Da（M）	Ⅴb	丸	完品	4.1	3.6	2.7	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-4	821-1	西	Db（N）	Ⅴc7	丸	完品	4.4	4.2	3.8	1.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-5	873	西	Db（N）	Ⅵb	丸	1/2	7	4	4.5	0.8	0.2	ナデ		円	○		
図 51-6	2	不明	不明	不明	棗	完品	5.3	5.4	4.3	1.8	0.2	ナデ		円	○		
図 51-7	27	東	Bc（G）	11	棗	完品	8.6	7.9	5.3	2.2	0.4	ナデ		円	○		
図 51-8	122	西	Ea（Q）	Ⅴc	棗	1/2	3.7	—	3.6	1.4	0.1	ナデ		円	○		
図 51-9	123	西	Ea（Q）	Ⅴc	棗	ほぼ完	5.6	5.6	4.3	1.4	0.2	ナデ		円	○		
図 51-10	135	西	Ea（Q）	Ⅴa	棗	ほぼ完	4.9	4.7	5.1	2.4	0.1	ナデ		円		黒色	
図 51-11	146	西	Da（M）	Ⅴbc	棗	ほぼ完	5.3	5.2	4.5	2.9	0.1	ナデ		円			
図 51-12	170	西	Da（M）	Ⅴb	棗	1/2	5.6	—	4.2	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-13	179	西	Db（N）	Ⅴb	棗	完品	4.5	4.2	5.4	2.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-14	195	西	Eb（R）	Ⅴ？	棗	1/2	4.7	—	4.7	1.4	0.1	ナデ		円	○		
図 51-15	266	西	Fa（U）	Ⅴc1	棗	1/2	5.7	—	4.4	1.8	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-16	295	西	Dc（O）	Ⅴc1	棗	1/2	4.7	—	3.8	2.1	0.1	ナデ		円	○		
図 51-17	359-1	西	Da（M）	Ⅴc1	棗	完品	5.1	5	4.1	1.9	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-18	365	西	Da（M）	Ⅴc1	棗	完品	5.4	5.3	4.5	1.8	0.2	ナデ		円	○		引抜痕
図 51-19	381	西	Da（M）	Ⅴc1	棗	ほぼ完	5.1	4.9	3.9	1.3	0.1	ナデ		円	○		
図 51-20	387	西	Db（N）	Ⅴc1	棗	完品	4.1	3.8	3.4	1.9	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-21	404	西	Dd（P）	Ⅴc1	棗	完品	5.2	5.4	3.9	1.8	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-22	413	西	不明	不明	棗	完品	5.8	5.4	4.4	2.5	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-23	414-1	西	Dd（P）	Ⅴc1	棗	完品	5.8	5.7	4.3	2.1	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-24	426	西	Db（N）	Ⅴc1	棗	1/2	3.7	2.3	3.2	1.5	0.1	ナデ		円	○		
図 51-25	428	西	Db（N）	Ⅴc1	棗	1/2	4.5	2.7	3.8	1	0.1	ナデ		円	○		
図 51-26	448	西	Dc（O）	Ⅴc1	棗	1/2	4.7	3.8	4.4	1.1	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-27	489	西	Ea（Q）	Ⅴc4	棗	完品	4.5	4.4	4	2	0.1	ナデ		円	○		
図 51-28	511	西	Dc（O）	Ⅴc7	棗	完品	4.2	4	3.9	1.5	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-29	536-1	西	Fa（U）	Ⅴc7	棗	完品	5	4.7	3.8	2.5	0.2	ナデ		円	○		
図 51-30	536-2	西	Fa（U）	Ⅴc7	棗	完品	4.9	4.2	4.2	1.2	0.1	ナデ		円	○		
図 51-31	548-2	西	Da（M）	Ⅴc4	棗	完品	4.9	4.6	3.6	2.2	0.1	ナデ		円	○		
図 51-32	557	西	Da（M）	Ⅴc4	棗	ほぼ完	4.9	4.4	5.3	2.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	細い沈線が巡る
図 51-33	602	西	Ea（Q）	Ⅴc4	棗	完品	4.6	4.4	3.7	1.4	0.1	ナデ		円	○		
図 51-34	611	西	Dd（P）	Ⅴc7	棗	完品	5.6	5.5	4.6	1.6	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-35	612	西	Dd（P）	Ⅴc7	棗	完品	4.6	4.5	4	1.6	0.1	ナデ		円	○		
図 51-36	639	西	Ea（Q）	Ⅴc7	棗	完品	5	4.2	4.3	1.7	0.1	ナデ		円	○		
図 51-37	678	西	Ea（Q）	Ⅴc7	棗	完品	4	3.9	4.7	1.2	0.1	ナデ		円	○		
図 51-38	680-5	西	Eb（R）	Ⅴc7	棗	完品	4.2	4.1	4.9	1.6	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-39	680-1 0	西	Eb（R）	Ⅴc7	棗	完品	5.4	4.7	5.3	1.7	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-40	729-1	西	Eb（R）	Ⅴc7	棗	完品	5.2	5.1	4	2.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-41	749-5	西	Ea（Q）	Ⅴc7	棗	完品	3.9	3.8	3.9	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-42	758	西	Fa（U）	Ⅴc7	棗	完品	4.1	3.9	2.8	1.5	0.1	ナデ		円	○		
図 51-43	767	西	Db（N）	Ⅴc7	棗	完品	5.5	5.3	5.4	2.3	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-44	805	西	Fa（U）	Ⅴc7	棗	1/2	4.6	—	3.4	1.7	0.1	ナデ		円	○		
図 51-45	810	西	Da（M）	Ⅴ	棗	1/2	4.3	—	4.4	2.5	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-46	814	西	Db（N）	Ⅵ	棗	完品	5.2	4.8	5.1	2.2	0.1	ナデ		円	○		
図 51-47	817-1	西	Da（M）	Ⅵ	棗	3/4	5.8	5.4	5	2.5	0.2	ナデ		円	○		
図 51-48	826	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	1/2	6.8	—	6.4	2.3	0.2	ナデ		円	○		
図 51-49	828	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	6.1	5.8	5.2	3.2	0.2	ナデ		円	○		
図 51-50	829-1	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	5.7	5.6	4.8	2.8	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-51	829-2	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	6.2	6	7.3	2.4	0.3	ナデ		円	○	黒色	
図 51-52	829-3	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	6.9	6.5	5.1	3	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-53	832-1	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	4.6	4.5	3.7	1.7	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-54	832-2	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	4.9	4.4	4.1	2.1	0.1	ナデ		円	○		
図 51-55	834	西	Ea（Q）	Ⅵa	棗	完品	6.7	6.6	5.6	3.6	0.3	ナデ		円	○	黒色	
図 51-56	845	西	Fa（U）	Ⅵa	棗	完品	5.7	5.5	4.7	1.9	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-57	846	西	Fa（U）	Ⅵa	棗	完品	6.5	6.1	5.1	2.5	0.3	ナデ		円	○	黒色	
図 51-58	849	西	Fb（V）	Ⅵa	棗	1/2	5.8	—	5.1	—	0.2	ナデ		円	○		
図 51-59	851	西	Db（N）	Ⅵa	棗	1/2	4.9	2.6	5	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 51-60	852	西	Db（N）	Ⅵa	棗	完品	4.1	3.9	3.3	1.7	0.1	ナデ		円	○		
図 51-61	853	西	Dc（O）	Ⅵa	棗	ほぼ完	8.2	7.8	7.7	2	0.5	ナデ		円	○	黒色	
図 51-62	854	西	Dc（O）	Ⅵa	棗	破片	7	4	5.1	0.9	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-63	857	西	Ec（S）	Ⅵa	棗	完品	6.2	6.1	5.2	3.1	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-64	869	西	Da（M）	Ⅵb	棗	ほぼ完	6.9	6.3	5.6	1.9	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-65	870	西	Da（M）	Ⅵb	棗	ほぼ完	5.2	4.9	6.5	2.2	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-66	891	西	Fa（U）	Ⅵb	棗	完品	5.4	5	5.9	2.1	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-67	弘 1-5	西	不明	不明	棗	1/2	3.3	—	4.9	—	0.1	ナデ		円	○		
図 51-68	883	西	Fa（U）	Ⅵb	棗	ほぼ完	6.9	5.7	6.6	2.2	0.3	ナデ		円	○		
図 51-69	892	西	Fa（U）	Ⅵb	棗	完品	5.6	5.4	6.1	2.1	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 51-70	893	西	Ec（S）	Ⅵb	棗	完品	8.8	8.6	8.7	2.4	0.7	ナデ		円	○	黒色	
図 51-71	弘 20	西	不明	不明	棗	3/4	11.2	11.4	13.4	2.4	1.4	ナデ		円	○		
図 52-1	8-1	東	Cc（K）	10	平	完品	6.4	6.2	5.2	2.2	0.2	ナデ		円		黒色	

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 52-2	88	東	不明	21	平	3/4	7.3	7.2	4.2	2.5	0.1	ナデ		円	○	黒色	植物胎。赤漆塗
図 52-3	145	西	Da（M）	Ⅴbc	平	完品	4	3.7	2.7	2.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-4	156	西	Da（M）	Ⅴb	平	完品	5.1	4.8	3.5	1.9	0.1	ナデ		円	○		
図 52-5	205	西	Eb（R）	Ⅴb5	平	1/2	5.8	3.7	2.6	2.3	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-6	212	西	Eb（R）	Ⅴb4	平	完品	4.7	4.6	3.5	1.1	0.1	ナデ		円	○		
図 52-7	285-2	西	Db（N）	Ⅴc1	平	完品	4.5	3.7	2.8	1.9	0.1	ナデ		円	○		
図 52-8	286	西	Db（N）	Ⅴc1	平	完品	4.8	4.9	2.6	1.8	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-9	378	西	Da（M）	Ⅴc1	平	3/4	4.4	3.2	2.8	1.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-10	383	西	Da（M）	Ⅴc1	平	完品	5	4.6	2.5	2.2	0.1	ナデ		円	○		
図 52-11	414-2	西	Dd（P）	Ⅴc1	平	完品	6.2	5.9	4.1	2.1	0.2	ナデ		円	○		
図 52-12	446	西	Dc（O）	Ⅴc1	平	完品	5.5	5.5	3.6	2.1	0.1	ナデ		円	○		
図 52-13	458	西	Dc（O）	Ⅴc1	平	完品	5.5	5.4	3.9	1.8	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-14	540	西	Da（M）	Ⅴc7	平	完品	4.9	4.8	3.5	1.6	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-15	559	西	Ea（Q）	Ⅴc4	平	完品	4.1	3.9	3	1.9	0.1	ナデ		円	○		
図 52-16	672-1	西	Eb（R）	Ⅴc7	平	完品	4.6	4.5	2.6	2.3	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-17	731-1	西	Fb（V）	Ⅴc7	平	完品	5	4.6	2.5	2.1	0.1	ナデ		円	○		
図 52-18	779	西	Db（N）	Ⅴc7	平	完品	4.7	4.3	2.7	1.7	0.1	ナデ		円	○		
図 52-19	789-4	西	Eb（R）	Ⅴc7	平	完品	4.9	4.6	3.2	2	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 52-20	803	西	Fa（U）	Ⅴc7	平	完品	6.1	6	4.4	2.6	0.2	ナデ		円	○	黒色	
図 52-21	806	西	Fa（U）	Ⅴc7	平	完品	5.2	4.2	2.4	1.2	0.1	ナデ		円	○		
図 52-22	815	西	Db（N）	Ⅵ	平	完品	4.9	4.8	3.1	1.9	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 52-23	836	西	Eb（R）	Ⅵa	平	完品	5.8	5.5	4	2.2	0.2	ナデ		円	○		引抜痕
図 53-1	24	不明	不明	不明	括A	完品	4.7	4.4	3.3	1.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-2	26	東	Cc（K）	11	括A	完品	6.4	5.2	5.1	0.9	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-3	103	西	Da（M）	Ⅳk	括A	完品	5.9	5.7	5.5	1.7	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-4	121	不明	不明	不明	括A	完品	4.4	4.3	3.1	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-5	129	西	Ea（Q）	Ⅴbc	括A	完品	5.5	4.7	5.1	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-6	130-3	西	Ea（Q）	Ⅴbc	括A	完品	4.4	3.9	3	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-7	163	西	Da（M）	Ⅴb	括A	ほぼ完	4.6	4.5	4.2	1.6	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-8	219	西	Ed（T）	Ⅴb4	括A	ほぼ完	4.5	4.2	4.6	1.6	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-9	248	西	Ed（T）	Ⅴb5	括A	完品	5	4.6	5.6	2	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-10	260	西	Fa（U）	Ⅴc1	括A	完品	5.7	5.5	4.6	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-11	287	西	Db（N）	Ⅴc1	括A	完品	4	3.7	4.8	1.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-12	303	西	Db（N）	Ⅴc1	括A	1/2	4.3	4.3	4.3	1.3	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-13	305	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	4.7	4.5	4.4	1.7	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-14	309	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	6.7	6.3	5.3	1.6	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 53-15	314	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	5.5	5.2	5.7	2.2	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-16	330	西	Dd（P）	Ⅴb5	括A	完品	4	3.9	2.2	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-17	355	西	Da（M）	Ⅴc1	括A	完品	4.1	4	3.3	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-18	362	西	Da（M）	Ⅴc1	括A	完品	3.7	3.6	4.1	1.7	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-19	374	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	4.3	4.1	4.1	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-20	427	西	Db（N）	Ⅴc1	括A	ほぼ完	4.5	4.4	2.9	1.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-21	462	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	4.9	4.8	4.2	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-22	472	西	Dd（P）	Ⅴc3	括A	完品	4.8	4.4	4.9	2.4	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-23	473	西	Dd（P）	Ⅴc3	括A	完品	5.6	5.5	5.7	1.7	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-24	474	西	Dd（P）	Ⅴc3	括A	完品	4.2	4.1	3.6	1.7	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-25	475-1	西	Dd（P）	Ⅴc3	括A	完品	5	4.5	4.7	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-26	496	西	Db（N）	Ⅴc4	括A	完品	4	3.9	4.9	2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-27	533	西	Fa（U）	Ⅴc7	括A	完品	4.9	4.5	4.4	2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-28	534-1	西	Fa（U）	Ⅴc7	括A	完品	4.8	4.4	4.8	1.7	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-29	535	西	Fa（U）	Ⅴc7	括A	完品	5.3	5.1	5.4	1.9	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-30	544-1	西	Da（M）	Ⅴc4	括A	完品	5.7	5.3	4.8	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-31	546	西	Da（M）	Ⅴc4	括A	1/2	5.2	—	6	—	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-32	550	西	Da（M）	Ⅴc4	括A	完品	4.3	3.7	4	2.4	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-33	554	西	Da（M）	Ⅴc4	括A	完品	4.8	4.4	5.3	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-34	558	西	Ea（U）	Ⅴc4	括A	完品	5.4	5.1	4.6	2.9	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-35	561	西	Ea（U）	Ⅴc4	括A	完品	5.4	5.1	6	2.6	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-36	562-1	西	Ea（U）	Ⅴc4	括A	ほぼ完	3.3	3.3	3.7	1.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-37	562-2	西	Ea（U）	Ⅴc4	括A	完品	3.9	3.6	4	1.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-38	566	西	Ea（U）	Ⅴc4	括A	完品	4.6	4.2	4.9	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-39	615-2	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	5.8	5.6	4.9	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-40	617-1	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.2	3.9	4.1	1.6	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-41	617-2	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4	4.2	4.3	1.7	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-42	618	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.7	4.8	3.7	2	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-43	620	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	6.1	6	6	2	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-44	624-2	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	5.1	4.7	3.7	1.8	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-45	625-2	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.1	4.2	4.1	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-46	626-1	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	5.4	4.8	4.1	1.6	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-47	626-2	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.9	5	3.3	1.9	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-48	629	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	6	5.8	6.7	2.1	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-49	630-1	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	6.1	6.2	5.9	2.8	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 53-50	630-3	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	5.7	5.5	5.4	1.4	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-51	631	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	5.1	4.9	5.2	2.2	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-52	634-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4	4	4.3	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○		

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 53-53	635	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.3	4.2	5.3	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-54	636	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.3	3.9	2.9	1.6	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-55	640	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	3.9	3.6	4.8	1.6	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-56	641-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	3.2	3.1	3	1.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-57	641-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	3.2	3	2.8	1.4	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-58	642	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	7.1	6.3	5.3	2	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-59	646	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.5	4.2	4.9	2.1	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-60	680-2	西	Eb（R）	Ⅴc7	括A	完品	5.6	5.2	3.9	2.7	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-61	687	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.1	4	4.6	2.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-62	689-1	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.6	4.4	4.5	1.4	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-63	691	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.4	4.4	3.9	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-64	701	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	ほぼ完	6.3	6	5.3	2.4	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-65	702	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	ほぼ完	5.5	5	5.3	1.9	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-66	712-3	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.3	3.9	4	2.3	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-67	735-3	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.1	4.9	4.2	2	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-68	739	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	6.1	5.9	5.7	2.5	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 53-69	744	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	ほぼ完	5.6	5.4	5	2.1	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-70	747	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.6	4.2	4.2	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-71	748	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.8	4.8	4.9	1.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-72	749-3	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.8	4.5	4.7	2.3	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 53-73	749-4	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.5	4.5	3.1	2.3	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-74	750	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.1	5	3.1	1.7	0.2	ナデ	沈線	円	○		
図 53-75	752-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5	4.6	4.5	2.2	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-76	752-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	4.9	4.6	5	2.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-77	757	西	Fa（U）	Ⅴc7	括A	完品	5.1	5.3	4.8	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 53-78	760-2	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	6.4	5.9	5.9	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-1	762	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.3	4.4	4.3	2.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-2	763	西	Da（M）	Ⅴc7	括A	完品	4.3	4.1	5.6	2	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-3	766	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	6.4	5.9	6.3	2	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 54-4	769-1	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.4	3.8	3.1	1.3	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-5	781	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	ほぼ完	4.9	4.4	3.1	1.3	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-6	783-1	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4	3.9	4	2.4	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-7	797-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.6	5.6	5.7	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-8	797-3	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.2	5.1	5.2	2.1	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-9	797-4	西	Ea（Q）	Ⅴc7	括A	完品	5.6	5.3	5.6	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-10	807	西	Fa（U）	Ⅴc7	括A	完品	5.7	5.4	5.3	1.9	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-11	808	西	Dc（O）	Ⅵa	括A	完品	4.9	4.4	4.4	2.2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-12	811	西	Da（M）	Ⅵ	括A	ほぼ完	6.7	5.9	6.6	2.5	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-13	813	西	Da（M）	Ⅵ	括A	完品	5.8	5.5	5	2.6	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-14	819-1	西	Db（N）	Ⅴc7	括A	完品	4.6	4.4	5.4	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-15	827	西	Ea（Q）	Ⅵa	括A	完品	6.2	6.1	5.9	1.7	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 54-16	830	西	Ea（Q）	Ⅵa	括A	完品	5.3	4.9	3.5	1.3	0.1	ナデ	沈線	円	○		
図 54-17	855	西	Dc（O）	Ⅵa	括A	完品	4.4	4.2	4.9	2.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-18	858	西	Ec（S）	Ⅵa	括A	完品	4.2	3.8	4.9	1.5	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-19	弘 1-1	西	不明	不明	括A	完品	5.7	5.7	4.7	2.1	0.3	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-20	弘 1-2	西	不明	不明	括A	完品	5.3	4.8	5.3	2.7	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-21	弘 1-3	西	不明	不明	括A	完品	3.9	3.7	4.7	1.4	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-22	弘 2-1	西	不明	不明	括A	完品	4.3	4.1	5.2	2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-23	弘 2-2	西	不明	不明	括A	完品	4.9	4.9	5.6	2	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-24	258	西	Ea（Q）	Ⅴc1	括A	完品	3.8	3.7	5.5	2	0.1	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-25	688	西	Db（N）	Ⅴc7	括B	完品	8.6	4.7	5	4.1	0.3	ナデ		楕円	○		上下に膨らみ、中央に穿孔
図 54-26	689-4	西	Db（N）	Ⅴc7	括B	完品	9.3	4.5	4.5	3.7	0.2	ナデ		楕円	○		上下に膨らみ、中央に穿孔
図 54-27	273	西	Db（N）	Ⅴc1	括B	完品	5.4	4.5	3.9	1.7	0.1	ナデ	沈線	隅丸長方形	○	黒色	
図 54-28	221	西	Dd（P）	Ⅴb4	括B	完品	6.3	5.8	5.8	1.9	0.3	ナデ	沈線	隅丸長方形	○		
図 54-29	530	西	Dd（P）	Ⅴc7	括B	完品	5.6	5.6	6.6	1.4	0.3	ナデ	二重沈線	長方形	○	黒色	樽形
図 54-30	509	西	Ec（S）	Ⅴc7	括B	ほぼ完	5.7	5.3	4.5	2.1	0.2	ナデ	沈線	長方形	○	黒色	下部が突出
図 54-31	778	西	Db（N）	Ⅴc7	管	完品	3.7	3.4	4.8	1.1	0.1	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 54-32	756	西	Ea（Q）	Ⅴc7	管	完品	5.3	4.8	7.4	2.5	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-33	721	西	Eb（R）	Ⅴc7	管	ほぼ完	4.5	4	4.9	2.1	0.1	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 54-34	876	西	Fb（V）	Ⅵa	管	ほぼ完	5.7	4.5	5.7	2.3	0.2	ナデ	沈線	円	○	黒色	
図 54-35	529	西	Ec（S）	Ⅴc7	管	完品	4.9	4.6	7.7	1.8	0.2	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 54-36	823	西	Eb（R）	Ⅴc7	管	完品	4.2	3.7	5.9	1.7	0.2	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 54-37	216-1	西	Dc（O）	Ⅴb4	管	完品	3	3.1	8.5	1.4	0.1	ナデ	多重沈線	円	○		
図 55-1	3	西	不明	不明	楕円	完品	6	3.9	3.6	1.7	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-2	110-2	西	Ed（T）	Ⅳm	楕円	完品	5	3.3	3.3	2.1	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-3	116	西	Fa（U）	Ⅴc	楕円	完品	5.5	3.4	3.5	1.6	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-4	118	西	Ea（Q）	Ⅴc	楕円	完品	5.8	3.8	3.4	1.5	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-5	120	西	Ea（Q）	Ⅴc	楕円	完品	5.7	3.8	3.9	1.1	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-6	192	西	Ec（S）	Ⅴm	楕円	完品	4.5	2.5	3.2	2.2	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-7	216-2	西	Dc（O）	Ⅴb4	楕円	完品	6.9	3.9	3.3	2.1	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-8	217	西	Dc（O）	Ⅴb4	楕円	完品	6.2	4.3	3.4	1.9	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-9	226	西	Ed（T）	Ⅴc上	楕円	完品	6	3.5	3.7	1.2	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-10	227	西	Ed（T）	Ⅴc上	楕円	完品	5.8	2.8	3.4	2.1	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-11	253	西	Ea（Q）	Ⅴc1	楕円	完品	6.1	3.1	3.9	1.5	0.1	ナデ		円	○		

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 55-12	284-16	西	不明	不明	楕円	完品	5.3	3.9	2.9	2	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-13	284-19	西	不明	不明	楕円	完品	4.6	3.4	2.7	1.7	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		引抜痕
図 55-14	284-21	西	不明	不明	楕円	完品	4.4	3.2	2.5	1.5	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-15	288	西	Db（N）	Ⅴc1	楕円	完品	5.5	3.9	3.6	2.4	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-16	301	西	Db（N）	Ⅴc1	楕円	1/2	4.8	3.7	3.1	1.8	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 55-17	366	西	Da（M）	Ⅴc1	楕円	完品	8.4	5	5.6	3.1	0.3	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-18	370	西	Da（M）	Ⅴc1	楕円	完品	7.1	3.9	4.1	2.8	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-19	400	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.3	4.7	4.4	1.7	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	穿孔周り線、引抜痕
図 55-20	402	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.8	4.8	4.8	1.4	0.2	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-21	410	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.6	4.1	4.7	2	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	断面に丸い痕
図 55-22	411	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.2	3.8	4.2	1.3	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	断面に丸い痕
図 55-23	412	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.2	4.5	4.2	1.6	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	断面に痕
図 55-24	417	西	Dd（P）	Ⅴc1	楕円	完品	6.1	4.3	4	1.4	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-25	441-1	西	Eb（R）	Ⅴc1	楕円	完品	4.6	3.1	2.8	1.4	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-26	457	西	Dc（O）	Ⅴc1	楕円	完品	5.2	3.6	3.8	1.6	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-27	475-2	西	Dd（P）	Ⅴc3	楕円	完品	5.6	4.1	3	1.7	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-28	481	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	6.3	4.3	3.7	1.7	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-29	484	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	3/4	6.6	4.1	3.7	2.5	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-30	485	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	6.2	4.5	4.5	1.8	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	引抜痕
図 55-31	486	西	Da（M）	Ⅴc4	楕円	完品	5.6	2.9	3.8	1.6	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-32	494-2	西	Da（M）	Ⅴc4	楕円	完品	6.4	4.7	3.8	1.6	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-33	531	西	Ea（Q）	Ⅴc7	楕円	完品	6.3	4.7	4.8	2.3	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-34	547	西	Da（M）	Ⅴc4	楕円	完品	4.8	3.2	3.2	1.5	0.1	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-35	548-1	西	Da（M）	Ⅴc4	楕円	完品	5.1	3.2	3.9	1.4	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-36	549	西	Da（M）	Ⅴc4	楕円	完品	5.7	4	4.1	1.6	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-37	564	西	Ea（U）	Ⅴc4	楕円	完品	5.4	3.9	3.1	1.4	0.1	ナデ		楕円	○		切断痕
図 55-38	584	西	Db（N）	Ⅴc4	楕円	完品	5.8	3.8	3.4	1.7	0.2	ナデ		楕円	○		
図 55-39	597	西	Ea（Q）	Ⅴc4	楕円	完品	5.7	3.5	3.3	1.4	0.1	ナデ		円	○		
図 55-40	613	西	Dd（P）	Ⅴc7	楕円	3/4	6.7	4.1	4.4	1.8	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-41	625-1	西	Da（M）	Ⅴc7	楕円	完品	5.4	3.7	4.2	1.2	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-42	632	西	Da（M）	Ⅴc7	楕円	完品	7.4	3.9	4.6	1.9	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-43	638-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	楕円	完品	6.2	4	3.4	1.6	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-44	665-2	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	4.4	3.3	3.1	1.4	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-45	665-4	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	4.2	3.3	2.9	1.3	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-46	669-1	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	5.1	4.3	3.2	2	0.1	ナデ		隅丸方形	○	黒色	
図 55-47	674	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	6.2	4.9	3.4	1.3	0.2	ナデ		楕円	○		
図 55-48	680-6	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.5	4.3	3.8	1.2	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 55-49	680-8	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.7	3.4	3.6	1	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-50	680-9	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.1	3.2	3.7	0.9	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-51	686-1	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	6.1	3.9	3.7	2.5	0.2	ナデ		楕円	○		
図 55-52	689-3	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	7.4	3.6	4.6	1.9	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-53	697	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	6.7	3.2	4.2	1.6	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-54	710	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	4.2	2.8	2.7	1.3	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-55	712-4	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	ほぼ完	4.6	3.3	2.7	1.6	0.1	ナデ		円	○		
図 55-56	726	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	6	3.6	4.2	1.6	0.1	ナデ		楕円	○		
図 55-57	728-1	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	6.2	4.2	4.6	1.7	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-58	728-2	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	4.6	3.8	3.2	1.5	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 55-59	735-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	楕円	完品	5.7	3.9	4.1	1.3	0.2	ナデ		楕円	○		
図 55-60	735-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	楕円	完品	6.2	3.5	4.3	1.5	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-61	738-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	楕円	完品	6.5	3.6	4.1	1.9	0.2	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-62	769-2	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	6.4	4.2	3.5	1.8	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-63	771-1	西	Db（N）	Ⅴc7	楕円	完品	7.1	3.5	4.6	2.4	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	断面に痕（凹み）
図 55-64	785-3	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.6	3.5	2.9	1.7	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-65	786-1	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.1	3.4	3.3	2.1	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-66	786-3	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	7.9	4.8	5.7	2.7	0.3	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-67	794	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	5.7	3.2	4.6	1.8	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-68	795	西	Eb（R）	Ⅴc7	楕円	完品	6.1	4.6	4.6	2.7	0.2	ナデ		隅丸長方形	○		
図 55-69	801	西	Fa（U）	Ⅴc7	楕円	完品	5.8	3.6	3.8	1.5	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-70	802-2	西	Fa（U）	Ⅴc7	楕円	完品	5.3	3.2	4.1	1.7	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-71	817-3	西	Da（M）	Ⅵ	楕円	完品	5.9	3.8	3.8	1.5	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 55-72	856-1	西	Dc（O）	Ⅵa	楕円	完品	7.2	3.5	4.4	1.8	0.2	ナデ		楕円	○		
図 55-73	502	西	Eb（R）	Ⅴc4	楕円	完品	4.8	3.5	3	1.7	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 55-74	257	西	Ea（Q）	Ⅴc1	楕円	完品	5.7	5.1	2.7	1.8	0.1	ナデ		隅丸方形	○		
図 55-75	284-17	西	不明	不明	楕円	完品	4.2	4.1	3.3	1.4	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 55-76	284-18	西	不明	不明	楕円	完品	4.5	4	2.6	1.6	0.1	ナデ		円	○		
図 55-77	284-20	西	不明	不明	楕円	完品	4.4	3.7	2.9	1.6	0.1	ナデ		円	○		
図 55-78	596-3	西	Eb（R）	Ⅴc4	楕円	完品	4.6	3.6	2.7	0.9	0.1	ナデ		隅丸方形	○	黒色	
図 56-1	296	西	Dc（O）	Ⅴc1	方	完品	4.9	4.2	4.2	1.5	0.1	ナデ		菱	○		
図 56-2	401	西	Dd（P）	Ⅴc1	方	完品	4.8	4.4	3.8	1.7	0.1	ナデ		菱	○		
図 56-3	222	西	Db（N）	Ⅴc上	方	完品	4.9	3.5	4.2	2.5	0.1	ナデ		長方形	○		
図 56-4	280	西	Dc（O）	Ⅴc1	方	完品	4.9	3.7	3.4	1.9	0.1	ナデ		長方形	○		
図 56-5	367	西	Da（M）	Ⅴc1	方	完品	4.3	3	2.9	1.4	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-6	379	西	Da（M）	Ⅴc1	方	完品	4.5	3.3	2.9	1.6	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-7	418	西	Db（N）	Ⅴc1	方	完品	4.9	3.3	3.4	1.2	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 56-8	422	西	Db（N）	Ⅴc1	方	完品	5.1	3.9	3.2	1.4	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-9	451	西	Dc（O）	Ⅴc1	方	完品	7.6	5.2	6.1	1.5	0.4	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-10	553	西	Da（M）	Ⅴc4	方	完品	9.8	4.6	7.1	1.9	0.4	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-11	590	西	Db（N）	Ⅴc4	方	完品	6.7	3.8	3.8	2.2	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-12	671-1	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	5.3	4.7	3.6	1.7	0.2	ナデ		方形	○		
図 56-13	680-7	西	Eb（R）	Ⅴc7	方	完品	4.5	4	3.1	1.8	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-14	686-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	6.3	4	4.4	1.4	0.1	ナデ		円	○		
図 56-15	690-1	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.8	4.1	3.2	1.7	0.1	ナデ		方形	○		
図 56-16	694	西	Fb（V）	Ⅴc7	方	完品	4.7	3.2	2.9	1.4	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-17	713-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	ほぼ完	6.2	4.8	4.2	2.8	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-18	713-3	西	Db（N）	Ⅴc7	方	ほぼ完	5.9	4.9	4.4	1.7	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	下部に膨らみ
図 56-19	715-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	5	3.8	2.9	1.5	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-20	715-3	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.5	2.7	3.6	1.1	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-21	749-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	方	完品	6.2	3.8	3.8	1.6	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-22	749-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	方	ほぼ完	6.1	3.8	3.7	2.4	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-23	760-1	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	6.2	4.2	3.9	1.3	0.2	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-24	765-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	破片	2.6	2	1.1	1.5	0.1	ナデ		円	○		
図 56-25	821-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	6.4	4	4	1.6	0.2	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 56-26	弘 1-4	西	不明	不明	方	完品	5.6	3.8	3.9	2	0.1	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-27	1-1	西	不明	不明	方	完品	5.3	4.5	3.4	1.4	0.2	ナデ		円	○		
図 56-28	1-2	西	不明	不明	方	完品	5.5	4.2	3.3	2.5	0.2	ナデ		方形	○		
図 56-29	110-3	西	Ed（T）	Ⅳm	方	ほぼ完	5.3	4.1	3.6	2.1	0.1	ナデ		楕円	○	黒色	
図 56-30	130-1	西	Ea（Q）	Ⅴbc	方	完品	6.5	5.3	4.9	2.7	0.2	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	
図 56-31	165	西	Da（M）	Ⅴb	方	完品	3.7	2.9	2.7	1.4	0.1	ナデ		方形	○		
図 56-32	331	西	Dd（P）	Ⅴb5	方	完品	4.4	4.8	2.9	1.2	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-33	390	西	Db（N）	Ⅴc1	方	ほぼ完	4.8	4.3	3.2	1.3	0.1	ナデ		方形	○		
図 56-34	483	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.3	4.7	3.5	2.3	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-35	488	西	Ea（Q）	Ⅴc4	方	完品	5.5	4.8	3.8	2.5	0.1	ナデ		菱	○		
図 56-36	494-1	西	Da（M）	Ⅴc4	方	完品	4	3.5	2.1	1.8	0.1	ナデ		菱	○	黒色	
図 56-37	534-2	西	Fa（U）	Ⅴc7	方	完品	4.6	3.9	3.6	1.8	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-38	542	西	Da（M）	Ⅴc4	方	完品	5.3	4.7	4.1	1.7	0.2	ナデ		方形	○		
図 56-39	565	西	Ea（U）	Ⅴc4	方	3/4	4.4	3.7	2.4	1.7	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-40	580	西	Db（N）	Ⅴc4	方	完品	5.6	4.4	4.1	1.7	0.2	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-41	648	西	Fa（U）	Ⅴc7	方	ほぼ完	4.7	4.4	2.7	1.7	0.1	ナデ		菱	○		
図 56-42	656	西	不明	不明	方	ほぼ完	4.7	4.2	3	1.9	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 56-43	666	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.2	3.5	2.5	1.3	0.1	ナデ		円	○		
図 56-44	668	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.7	4.6	3.3	1.5	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-45	669-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.6	3.9	2.9	2.2	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-46	670	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.9	4.6	3.1	1.8	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-47	705-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	5.9	4.7	3.7	2.2	0.2	ナデ		長方形	○	黒色	
図 56-48	722-6	西	Eb（R）	Ⅴc7	方	完品	4.9	3.9	2.9	2.3	0.1	ナデ		隅丸長方形	○	黒色	湾曲
図 56-49	730-2	西	Fb（V）	Ⅴc7	方	完品	4.6	4.2	3.2	2	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-50	731-2	西	Fb（V）	Ⅴc7	方	完品	5	4.3	2.6	1.8	0.1	ナデ		方形	○		
図 56-51	773-1	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	4.4	4	3.1	2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
図 56-52	804-1	西	Fa（U）	Ⅴc7	方	ほぼ完	4	3.6	3.6	1.9	0.1	ナデ		方形	○	黒色	
図 56-53	804-2	西	Fa（U）	Ⅴc7	方	ほぼ完	4.1	3.7	3.5	1.8	0.1	ナデ		方形	○		
図 56-54	820-2	西	Db（N）	Ⅴc7	方	完品	6.5	5	3.7	2	0.1	ナデ		菱	○	黒色	平面形がひし形
図 56-55	589	西	Db（N）	Ⅴc4	方	完品	5.7	4.4	4.7	1.2	0.2	ナデ		楕円	○	黒色	
図 57-1	634-2	西	Ea（Q）	Ⅴc7	施文	完品	6.4	6.3	6.4	2.4	0.3	ナデ	沈線	円	○		
図 57-2	332	西	Dd（P）	Ⅴb5	施文	完品	5.2	3.8	4.2	1.4	0.2	ナデ	二重沈線	楕円	○	黒色	
図 57-3	333	西	Dd（P）	Ⅴb5	施文	1/2	4.5	2	3.8	0.6	0.1	ナデ	二重沈線	円	○		
図 57-4	334	西	Dd（P）	Ⅴb5	施文	1/2	5.2	3.7	4.5	1.3	0.1	ナデ	二重沈線	円	○		
図 57-5	623	西	Da（M）	Ⅴc7	施文	完品	5.7	5	4.7	2.1	0.1	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 57-6	630-2	西	Da（M）	Ⅴc7	施文	完品	5.8	5.5	5.3	2.9	0.2	ナデ	二重沈線	円	○		
図 57-7	416	西	Dd（P）	Ⅴc1	施文	1/2	5.5	―	3.9	―	0.1	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 57-8	628	西	Da（M）	Ⅴc7	施文	完品	6.8	5.7	5.3	2.2	0.3	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 57-9	685	西	Eb（R）	Ⅴc7	施文	ほぼ完	6.2	5.4	4.8	2.4	0.2	ナデ	二重沈線	円	○		
図 57-10	449	西	Dc（O）	Ⅴc1	施文	完品	6.5	6.4	4.8	2.2	0.2	ナデ	二重沈線	円	○		穿孔と別に小孔、引抜痕
図 57-11	543	西	Da（M）	Ⅴc4	施文	完品	8.6	5.4	6.8	2.4	0.5	ナデ	二重沈線	楕円	○	黒色	
図 57-12	730-1	西	Fb（V）	Ⅴc7	施文	完品	5.2	3.7	4.1	1.1	0.1	ナデ	二重沈線	楕円	○		
図 57-13	782-1	西	Db（N）	Ⅴc7	施文	完品	4.8	3	3.7	1	0.1	ナデ	二重沈線	楕円	○		
図 57-14	809	西	Dc（O）	Ⅴc7	施文	ほぼ完	4.9	3.9	4.3	1.6	0.1	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 57-15	369	西	Da（M）	Ⅴc1	施文	完品	6.2	3.6	4.7	2.5	0.1	ナデ	二重沈線	長方形	○	黒色	
図 57-16	633	西	Da（M）	Ⅴc7	施文	完品	7	5.3	5.7	1.9	0.2	ナデ	二重沈線	楕円	○		
図 57-17	690-2	西	Db（N）	Ⅴc7	施文	完品	5.5	3.8	4.5	1.2	0.2	ナデ	斜沈線	楕円	○	黒色	
図 57-18	715-1	西	Db（N）	Ⅴc7	施文	完品	4.8	3	3.7	1.6	0.1	ナデ	沈線	長方形	○	黒色	
図 57-19	741	西	Ea（Q）	Ⅴc7	施文	完品	6	4.1	5	1.2	0.1	ナデ	二重沈線	楕円	○	黒色	
図 57-20	567	西	Ea（U）	Ⅴc4	施文	完品	7.2	5.2	5.3	2.1	0.3	ナデ	斜沈線	長方形	○	黒色	
図 57-21	777	西	Db（N）	Ⅴc7	施文	完品	7.6	5.4	6.5	1.7	0.3	ナデ	X字沈線	楕円	○	黒色	
図 57-22	839	西	Eb（R）	Ⅴc7	施文	完品	5.7	4.9	4.4	1.6	0.2	ナデ	二重沈線	円	○	黒色	
図 57-23	680-11	西	Eb（R）	Ⅴc7	施文	3/4	5.1	4	4	1.6	0.1	ナデ	二重沈線	方形	○	黒色	
図 57-24	742	西	Ea（Q）	Ⅴc7	施文	完品	7.6	4.7	5.4	2.3	0.2	ナデ	X字沈線	楕円	○	黒色	
図 57-25	弘 4	西	不明	不明	施文	完品	5.9	5	4.5	1.8	0.2	ナデ	二重沈線	楕円	○		小口に圧痕
図 57-26	759	西	Fa（U）	Ⅴc7	施文	完品	5.7	4.4	4	1.9	0.1	ナデ	二重沈線	楕円	○	黒色	

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	長径（mm）	短径（mm）	長さ（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	文様	横断面	赤色顔料	胎土	備考
図 57-27	556-1	西	Da（M）	Ⅴc4	円盤	完品	8.6	8.4	5.2	1.9	0.4	ナデ		楕円	○	黒色	十字穿孔
図 57-28	621	西	Da（M）	Ⅴc7	円盤	完品	8.6	8.1	5.4	2	0.4	ナデ		楕円	○	黒色	十字穿孔
図 57-29	844	西	不明	不明	円盤	完品	9.6	11	4.8	2.3	0.6	ナデ	弧状沈線	長方形	○	黒色	十字穿孔、赤漆塗
図 57-30	879	西	不明	不明	円盤	完品	10.3	10.6	4.5	2.3	0.7	ナデ	弧状沈線	長方形	○		十字穿孔
図 57-31	131	西	Ea（Q）	Ⅴa	十字	完品	4.7	4.8	3.2	1.7	0.1	ナデ	十字沈線	花弁	○	黒色	
図 57-32	816	西	Da（M）	Ⅵ	十字	完品	7.6	4.1	6.3	2.2	0.2	ナデ		X字	○		十字穿孔
図 57-33	282	西	Db（N）	Ⅴc1	三角	完品	7.1	7.9	5.7	1.3	0.3	ナデ		三角		黒色	
図 57-34	436	西	Db（N）	Ⅴc1	三角	完品	6.9	6.6	5.4	1.9	0.2	ナデ		三角	○	黒色	引抜痕
図 57-35	555	西	Da（M）	Ⅴc4	V字	完	9.5	10.9	4.7	—	0.5	ナデ			○	黒色	
図 57-36	768-1	西	Db（N）	Ⅴc7	V字	完	8.8	10.3	4.7	—	0.5	ナデ			○	黒色	
	115	西	Fa（U）	Ⅴc	不明	小片	5.1	—	4.9	—	0.1	ナデ		円	○	黒色	
	119	西	Ea（Q）	Ⅴc	不明	1/2	4.1	3.8	3.1	2.3	0.1	ナデ			○		穿孔部・上部が欠損
	133	西	Ea（Q）	Ⅴa	不明	3/4	6.1	5.1	5	3.4	0.1	ナデ			○	黒色	球体上に突起
	261	西	Fa（U）	Ⅴc1	不明	小片	3.5	2.6	1.4	—	0.1	—		円	○	黒色	
	327	西	Ec（S）	Ⅴb5	不明	1/2	4.6	2.9	4	—	0.1	ナデ		長方形	○		
	386	西	Da（M）	Ⅴc1	不明	小片	4.3	3.3	2	—	0.1	—		円	○	黒色	
	395	西	Ea（Q）	Ⅴc1	不明	小片	5	2	1.2	—	0.1	—		円	○		
	707	西	Db（N）	Ⅴc7	不明	1/2	4.8	4.6	5.7	—	0.2	ナデ			○	黒色	未穿孔、欠損、未製品か
	712-5	西	Db（N）	Ⅴc7	不明	1/2	4.4	2.5	3.7	1.2	0.1	ナデ		円	○	黒色	
	765-1	西	Db（N）	Ⅴc7	不明	1/2	3.8	1.6	3.2	1.3	0.1	ナデ		円	○		
	798-1	西	Ea（Q）	Ⅴc7	不明	1/2	4.8	3.1	4.1	1.9	0.1	ナデ	沈線	円	○		

表 16　土製品観察表　土製小型垂飾

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	環径（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 59-1	8-2	東	Cc(K)	10	a	完	6.9	4.4	4.7	3.2	1.9	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-2	14	東	Da(M)	10	a	完	8.1	4.4	3.1	3	1.9	0.1	ナデ	○		
図 59-3	109	西	Fd(X)	Ⅳm	a	完	7.6	5.2	4.7	4.5	2.5	0.2	ナデ	○		
図 59-4	110-1	西	Ed(T)	Ⅳm	a	完	6.5	4	3.7	3.4	2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-5	167	西	Da(M)	Ⅴb	a	ほぼ完	6.9	3.9	3.7	2.6	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-6	173	西	Db(N)	Ⅴb	a	完	5.9	4	3.6	3	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-7	177	西	Db(N)	Ⅴb	a	完	6.1	3.9	3.9	3	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-8	185	西	Eb(R)	Ⅴb3	a	完	6.9	4.5	5.2	3.2	1.5	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-9	191	西	Db(N)	Ⅴb3	a	完	6.3	3.9	4	3.3	1.4	0.1	ナデ		黒色	抉り弱い
図 59-10	220	西	Dd(P)	Ⅴb4	a	完	7.8	4.3	4.5	3.5	2.2	0.1	ナデ	○		
図 59-11	243-1	西	Dc(O)	Ⅴb4	a	破損	5.8	4.1	3.5	3.4	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	底面凹面
図 59-12	243-2	西	Dc(O)	Ⅴb4	a	完	7	4.3	3.8	3.3	1.8	0.2	ナデ	○		
図 59-13	274	西	Db(N)	Ⅴc1	a	破損	5	4	3.4	3.6	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-14	283	西	Db(N)	Ⅴc1	a	完	5	3.5	3	3	1.2	0.1	ナデ	○		
図 59-15	284-10	西	不明	不明	a	完	5.5	3.4	3.3	2.9	1.7	0.1	ナデ	○		
図 59-16	285-1	西	Db(N)	Ⅴc1	a	完	5.8	3.8	3.1	3.3	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-17	298	西	Dd(P)	Ⅴc1	a	完	5.7	4.1	4.3	2.8	1.4	0.1	ナデ	○		
図 59-18	304	西	Db(N)	Ⅴc1	a	ほぼ完	6.4	4	3.7	3.6	1.3	0.1	ナデ	○		
図 59-19	321	西	Fa(U)	Ⅴc1	a	破損	4.3	4.8	4.4	4.2	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-20	326	西	Ec(S)	Ⅴc1	a	ほぼ完	5.1	3.6	2.8	2.6	1.4	0.1	ナデ	○		
図 59-21	336	西	Dc(O)	Ⅴb5	a	完	6.2	4	3.5	3.4	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-22	338	西	Dc(O)	Ⅴb5	a	完	5.6	3.8	4.2	2.9	1.4	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 59-23	342-1	西	Dc(O)	Ⅴb5	a	完	4.5	3.4	3.1	3	1.2	0.1	ナデ	○		
図 59-24	342-2	西	Dc(O)	Ⅴb5	a	完	6.3	4.2	3.5	3.8	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-25	351	西	Dc(O)	Ⅴc1	a	完	5.4	3.7	3.7	3.2	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-26	359-6	西	Da(M)	Ⅴc1	a	完	5.2	3.1	3	2.7	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 59-27	359-9	西	Da(M)	Ⅴc1	a	完	5.3	4.2	3.8	3.6	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 59-28	360	西	Da(M)	Ⅴc1	a	完	7.6	4.6	4.3	3	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-29	372	西	Ea(Q)	Ⅴc1	a	ほぼ完	10.2	7	5.9	5.6	2.4	0.5	ナデ	○	黒色	
図 59-30	373	西	Ea(Q)	Ⅴc1	a	完	6.9	4.1	3.9	3.3	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-31	376	西	Ea(Q)	Ⅴc1	a	完	7.9	4.8	5	3.4	2.1	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-32	377	西	Ea(Q)	Ⅴc1	a	完	7.2	5.3	4.7	4.4	3.1	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 59-33	382	西	Da(M)	Ⅴc1	a	完	7.1	4.2	4.7	3.2	1.9	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-34	392	西	Eb(R)	Ⅴc1	a	完	5.8	4.4	3.6	3.9	2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-35	393	西	Eb(R)	Ⅴc1	a	完	6.2	4	3.9	2.9	1.6	0.1	ナデ	○		
図 59-36	409-2	西	Dd(P)	Ⅴc1	a	完	5.5	3.7	3.3	3	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-37	447	西	Dc(O)	Ⅴc1	a	完	7.4	4.3	3.6	3.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-38	454	西	Dc(O)	Ⅴc1	a	完	6.9	4.6	5	3.4	1.8	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-39	455	西	Dc(O)	Ⅴc1	a	完	6.6	4.1	4.9	3.1	1.5	0.1	ナデ	○		
図 59-40	461	西	Ea(Q)	Ⅴc1	a	完	6.7	3.7	4	2.8	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-41	468	西	Db(N)	Ⅴc1	a	完	6.8	4.3	4.1	3.3	1.7	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-42	480	西	Db(N)	Ⅴc7	a	完	7.1	4.8	4.5	3.9	1.8	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-43	487	西	Da(M)	Ⅴc4	a	完	6.9	4.1	4.7	3.2	1.9	0.1	ナデ	○		
図 59-44	497	西	Db(N)	Ⅴc4	a	完	5.6	4	4.1	3.5	1.3	0.1	ナデ	○		
図 59-45	504	西	Eb(R)	Ⅴc4	a	完	4.9	3.7	3.6	3.3	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 59-46	512	西	Dc(O)	Ⅴc7	a	破損	6.6	4.9	4.6	3.9	1.6	0.1	ナデ	○		

図番号	台帳番号(弘大番号)	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	環径(mm)	孔径(mm)	重さ(g)	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 59-47	514	西	Dc(O)	V c7	a	完	4.8	3.8	3.4	3.2	1.4	0.1	ナデ	○		平面が達磨形に近い
図 59-48	515	西	Dc(O)	V c7	a	完	6	3.9	3.9	3.4	1.7	0.1	ナデ	○		
図 59-49	518	西	Dc(O)	V c7	a	完	5.3	3.7	3.4	3.2	1.9	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 59-50	520	西	Ec(S)	V c7	a	完	5	4.1	3.8	3.7	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-51	525	西	Ec(S)	V c7	a	完	6.5	4.9	4.4	3.9	2.1	0.2	ナデ	○		
図 59-52	528-1	西	Ec(S)	V c7	a	完	6.2	4.2	3.5	3.3	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 59-53	541	西	Da(M)	V c4	a	ほぼ完	5.6	4	4	3.2	—	0.1	ナデ	○	黒色	穿孔部が破損、
図 59-54	556-2	西	Da(M)	V c4	a	完	8.3	6	5.9	4.7	1.6	0.3	ナデ	○	黒色	
図 59-55	560	西	Ea(U)	V c4	a	完	8.9	5.4	4.9	4	1.8	0.3	ナデ	○		
図 59-56	562-3	西	Ea(U)	V c4	a	完	8.2	4.4	3.9	2.9	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-57	588	西	Db(N)	V c4	a	完	6.9	5.1	4.6	3.8	1.9	0.2	ナデ	○	黒色	
図 59-58	603-1	西	Eb(R)	V c4	a	完	4.9	3.6	3.1	—	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 59-59	610	西	Dd(P)	V c7	a	完	9	5.4	5.1	4	2.5	0.3	ナデ	○		
図 59-60	615-1	西	Da(M)	V c7	a	完	7.1	4	3.8	2.7	1.3	0.1	ナデ	○		
図 59-61	616	西	Da(M)	V c7	a	完	9.8	6.1	5.8	4.2	2.6	0.3	ナデ	○	黒色	
図 59-62	619	西	Da(M)	V c7	a	完	9.2	6.2	5.3	5.2	2.1	0.3	ナデ	○	黒色	
図 59-63	626-3	西	Da(M)	V c7	a	完	8.4	5	4.9	4	1.5	0.2	ナデ	○		
図 59-64	627	西	不明	不明	a	完	9.7	7.3	6.6	5.3	2.8	0.4	ナデ	○	黒色	
図 59-65	643	西	Ea(Q)	V c7	a	完	7.9	5.2	5.3	3.9	2.1	0.2	ナデ	○	黒色	穿孔部屈曲
図 59-66	660	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.8	4.6	3.9	—	1.7	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 59-67	663	西	Eb(R)	V c7	a	完	4.6	3.5	3.1	2.9	1.5	0.1	ナデ	○		
図 59-68	665-3	西	Db(N)	V c7	a	完	5	3.2	2.5	2.8	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-69	667	西	Db(N)	V c7	a	完	5.9	4.4	4.2	3.7	1.7	0.1	ナデ	○		
図 59-70	672-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.4	4.1	3.4	3.3	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 59-71	682	西	Ec(S)	V c7	a	完	5.7	4	3.7	3.7	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 59-72	713-1	西	Db(N)	V c7	a	完	5.1	4.4	3.9	3.9	1.1	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-1	716-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.1	4	4.1	3.7	1.1	0.1	ナデ	○		
図 60-2	716-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.4	4.2	3.5	3.4	1.3	0.1	ナデ	○		
図 60-3	716-3	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.6	4.1	4.1	3.5	1.9	0.1	ナデ	○		
図 60-4	717	西	Eb(R)	V c7	a	完	6	3.7	4.3	2.9	1.4	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 60-5	719-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	5	3.8	3.7	3.4	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-6	719-3	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.1	3.7	3.3	3.4	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-7	719-4	西	Eb(R)	V c7	a	完	4.7	4.1	3.7	3.5	1.3	0.1	ナデ	○		
図 60-8	719-5	西	Eb(R)	V c7	a	完	4.8	4	3.8	3.6	1.3	0.1	ナデ	○		
図 60-9	722-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.4	4	3.2	3.5	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-10	729-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	7.5	5	4.6	4.4	1.1	0.2	ナデ→断面に沈線→ミガキ	○	黒色	頭部に沈線
図 60-11	732	西	Fb(V)	V c7	a	完	5.6	3.8	3.6	3.4	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。穿孔端が凹む
図 60-12	738-2	西	Ea(Q)	V c7	a	完	7.4	4.6	4.3	3.2	1.4	0.2	ナデ	○		
図 60-13	738-3	西	Ea(Q)	V c7	a	完	6.9	4.4	4.7	3.4	1.5	0.2	ナデ	○		
図 60-14	740	西	Ea(Q)	V c7	a	完	8.1	5.6	5.5	5	1.6	0.3	ナデ	○		抉り弱い
図 60-15	743	西	Ea(Q)	V c7	a	完	6.9	4.5	4.8	3.8	1.3	0.2	ナデ	○		平面が瓢箪形に近い
図 60-16	746	西	Ea(Q)	V c7	a	完	8.5	5.2	4.9	3.9	2	0.3	ナデ→断面に沈線→ミガキ	○		頭部に沈線
図 60-17	751	西	Ea(Q)	V c7	a	完	10	6.2	6	5.1	2.7	0.4	ナデ	○	黒色	平面が楕円に近い
図 60-18	761-1	西	Db(N)	V c7	a	破片	4.8	4.8	4.1	3.9	1	0.1	ナデ	○	黒色	穿孔部欠損
図 60-19	768-2	西	Db(N)	V c7	a	完	10.2	5	3.9	3.7	2.2	0.2	ナデ	○		
図 60-20	770	西	Db(N)	V c7	a	完	6.8	4.4	4.3	3.5	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-21	771-3	西	Db(N)	V c7	a	完	6.5	3.8	3.4	2.8	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-22	771-4	西	Db(N)	V c7	a	完	5.8	3.6	3.6	3.2	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面が三角形に近い
図 60-23	785-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	6.5	4.3	3.2	3.3	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-24	788-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	4.3	3.2	2.8	2.8	1.1	0.1	ナデ	○		
図 60-25	788-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	4.3	3.3	2.8	2.7	1.3	0.1	ナデ	○		
図 60-26	789-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	5.6	4.3	4	3.7	2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-27	789-2	西	Eb(R)	V c7	a	完	9.6	5.8	5.2	5.1	1.8	0.3	ナデ	○	黒色	
図 60-28	789-3	西	Eb(R)	V c7	a	完	7.3	4	4.7	3.1	1.5	0.2	ナデ	○	黒色	
図 60-29	792	西	Eb(R)	V c7	a	完	6.9	4.2	3.7	3.1	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-30	797-1	西	Ea(Q)	V c7	a	完	7.9	5.1	4.9	3.8	1.9	0.3	ナデ	○	黒色	
図 60-31	800	西	Ea(Q)	V c7	a	完	9.2	5.4	5.6	4.3	2.3	0.3	ナデ	○	黒色	
図 60-32	802-1	西	Fa(U)	V c7	a	完	9.5	5.8	5	5.1	2.2	0.3	ナデ	○	黒色	頭部に沈線
図 60-33	817-2	西	Da(M)	VI	a	完	7.7	5.7	5.7	—	1.8	0.3	ナデ→沈線→ミガキ	○	黒色	穿孔部に切断痕？
図 60-34	819-2	西	Db(N)	V c7	a	完	6.7	4.1	4.4	3.5	1.7	0.2	ナデ	○	黒色	
図 60-35	840-1	西	Eb(R)	V c7	a	完	6.5	3.8	4.9	3.1	1.7	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 60-36	840-3	西	Eb(R)	V c7	a	完	5	4	3.2	3.4	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-37	850	西	Db(N)	VI a	a	完	6.8	4.8	4.5	3.4	1.1	0.1	ナデ	○		
図 60-38	859	西	Ec(S)	VI a	a	完	9.1	6	5.3	5.2	2.7	0.3	ナデ	○	黒色	頭部に沈線
図 60-39	885	西	Db(N)	VI b	a	完	5.1	4.1	3.8	3.4	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	
図 60-40	弘 3-1	西	不明	不明	a	完	5.7	4.6	4.3	3.9	2.3	0.1	ナデ	○		
図 60-41	弘 3-2	西	不明	不明	a	完	4.8	3.9	3.9	3.5	2.1	0.1	ナデ	○		
図 60-42	弘 3-3	西	不明	不明	a	完	5.3	4.2	3.9	3.6	2	0.1	ナデ	○		
図 60-43	弘 3-4	西	不明	不明	a	完	5.2	4.1	4.2	3.2	1.6	0.1	ナデ	○		
図 60-44	弘 3-6	西	不明	不明	a	完	4.6	3.9	3.6	3.1	1.9	0.1	ナデ	○		
図 60-45	弘 3-7	西	不明	不明	a	完	5.3	4	4	3.5	2.4	0.1	ナデ	○		
図 60-46	弘 3-8	西	不明	不明	a	完	5.4	4.3	4.1	3.7	3	0.1	ナデ	○		
図 60-47	弘 3-9	西	不明	不明	a	完	4.8	4.1	3.7	3.7	1.7	0.1	ナデ	○		
図 60-48	弘 3-10	西	不明	不明	a	完	5.7	4.4	3.9	3.9	2.9	0.1	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形
図 60-49	弘 3-12	西	不明	不明	a	完	5.1	4.2	3.7	3.6	1.9	0.1	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形に近い
図 60-50	弘 3-13	西	不明	不明	a	完	4.8	4.2	3.7	3.5	1.4	0.1	ナデ	○		
図 60-51	弘 3-14	西	不明	不明	a	完	5.5	4.4	4	3.5	1.7	0.1	ナデ	○		

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	環径（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 60-52	弘 3-15	西	不明	不明	a	完	5.3	4.1	4	3.2	2.1	0.1	ナデ	○		
図 60-53	弘 3-16	西	不明	不明	a	完	5.4	4.1	4.2	3.3	2.6	0.1	ナデ	○		
図 60-54	弘 3-17	西	不明	不明	a	完	5.2	4.3	4.3	3.6	2.2	0.1	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形に近い
図 60-55	弘 3-18	西	不明	不明	a	完	4.9	4	4	3.5	1.7	0.2	ナデ	○		断面が潰れた瓢箪形に近い
図 60-56	弘 3-19	西	不明	不明	a	完	5.2	4.7	4.4	3.7	2	0.1	ナデ	○		
図 60-57	弘 3-20	西	不明	不明	a	完	5.2	4.4	4.3	3.4	2.3	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 60-58	弘 3-21	西	不明	不明	a	完	5.6	4.1	4	3.7	2.2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 60-59	弘 3-22	西	不明	不明	a	完	5.2	4.5	4	3.8	2.6	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 60-60	弘 3-23	西	不明	不明	a	完	5.1	4	4.1	3.6	1.9	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 60-61	弘 3-24	西	不明	不明	a	完	5.3	4.4	4.3	3.9	2.4	0.1	ナデ	○		
図 61-1	136	西	Ea(Q)	Ⅴa	b	破損	8	4.2	4.1	3.5	1.7	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○		
図 61-2	139	西	Ea(Q)	Ⅴa	b	完	8	4.9	4.7	4.4	1.9	0.2	ナデ→沈線？→ミガキ	○		
図 61-3	144	西	Da(M)	Ⅴbc	b	完	4.8	3.5	3.1	2.8	0.8	0.1	ナデ	○		
図 61-4	159	西	Da(M)	Ⅴb	b	完	6.7	4.2	4.2	3.7	1.8	0.2	ナデ→沈線→ミガキ	○	黒色	
図 61-5	166	西	Da(M)	Ⅴb	b	完	9.4	5.3	4.2	3.6	2.2	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪に近い
図 61-6	183-1	西	Ec(S)	Ⅳn	b	完	6.2	4.2	3.8	3.4	1.7	0.1	ナデ	○		
図 61-7	183-2	西	Ec(S)	Ⅳn	b	完	7	4.3	3.5	3.6	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	断面形が瓢箪形に近い
図 61-8	225	西	Db(N)	Ⅴc上	b	完	6.4	3.6	3.1	3	1.3	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○		
図 61-9	278	西	Db(N)	Ⅴc1	b	完	5.3	3.1	2.9	2.3	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-10	284-3	西	不明	不明	b	完	5.5	3.3	3.3	2.8	1.4	0.1	ナデ	○		
図 61-11	313	西	Ea(Q)	Ⅴc1	b	完	7.5	3.7	4.2	2.8	1.8	0.2	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 61-12	359-8	西	Da(M)	Ⅴc1	b	完	5.4	3.8	3.3	3.3	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-13	359-10	西	Da(M)	Ⅴc1	b	完	7.1	3.9	4.2	3.1	1.4	0.2	ナデ	○		
図 61-14	371	西	Da(M)	Ⅴc1	b	ほぼ完	8.3	4.5	4.2	3.5	1.4	0.1	ナデ→沈線→ミガキ	○		
図 61-15	403	西	Dd(P)	Ⅴc1	b	完	7.4	4.1	3.9	3.3	1.2	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-16	431	西	Da(M)	Ⅴc1	b	完	6.8	4.2	3.7	3.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-17	433	西	Da(M)	Ⅴc1	b	完	6.5	4.4	3.8	3.8	1.7	0.1	ナデ	○		
図 61-18	465	西	Db(N)	Ⅴc1	b	完	7	5.1	5	4.3	2.4	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-19	470	西	Dd(P)	Ⅴc3	b	完	6.5	3.9	3.8	3.3	1.5	0.1	ナデ	○		
図 61-20	513	西	Dc(O)	Ⅴc7	b	完	6.3	4.7	4.4	4.2	1.6	0.2	ナデ	○		
図 61-21	544-2	西	Da(M)	Ⅴc4	b	完	9.5	5.6	4.5	4.9	3.5	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-22	548-3	西	Da(M)	Ⅴc4	b	破損	8.7	5.3	5.6	4.7	2.4	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-23	583	西	Db(N)	Ⅴc4	b	完	6.1	3.6	2.9	2.8	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-24	638-2	西	Ea(Q)	Ⅴc7	b	完	8.4	5.3	4.8	3.7	2.3	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-25	645	西	Ea(Q)	Ⅴc7	b	完	7.7	4.1	3.4	3.4	1.7	0.1	ナデ	○		
図 61-26	647	西	Fa(U)	Ⅴc7	b	完	7.9	4.8	3.8	3.8	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	全面が白い
図 61-27	689-2	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	7.4	4.1	3.3	3.2	1.8	0.2	ナデ	○		
図 61-28	708	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	6.7	3.7	3.8	3.1	1.6	0.1	ナデ	○		
図 61-29	709	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	5.9	3.6	3.7	3.1	1.9	0.1	ナデ	○		
図 61-30	718	西	Eb(R)	Ⅴc7	b	完	6.4	4.1	4.5	3.2	1.8	0.2	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形
図 61-31	719-2	西	Eb(R)	Ⅴc7	b	完	5.7	3.9	3.6	3.5	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-32	734	西	Ea(Q)	Ⅴc7	b	完	5.6	3.7	3.3	3.2	1.7	0.1	ナデ	○		
図 61-33	754	西	Ea(Q)	Ⅴc7	b	完	8	4.4	4.3	3.4	1.8	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 61-34	755	西	Ea(Q)	Ⅴc7	b	完	6.9	3.6	3.8	3	1.6	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 61-35	761-2	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	5.9	4.2	3.9	3.7	1.5	0.2	ナデ	○		
図 61-36	773-3	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	9.7	6.1	4.9	5.4	1.9	0.3	ナデ	○	黒色	
図 61-37	776	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	7.8	4.4	4.1	3.3	0.9	0.2	ナデ	○		引抜痕？
図 61-38	820-1	西	Db(N)	Ⅴc7	b	完	6.8	4.1	3.5	2.9	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	
図 61-39	837	西	Eb(R)	Ⅴc7	b	完	6.7	4.5	4.3	3.9	1.8	0.2	ナデ	○	黒色	
図 61-40	856-2	西	Dc(O)	Ⅵa	b	完	8.9	5.1	4.9	3.8	1.5	0.2	ナデ	○		
図 61-41	862	西	Fb(V)	Ⅵa	b	完	6.8	4	3.8	2.9	1.9	0.1	ナデ	○		
図 62-1	25	西	不明	不明	c	完	5.1	3.3	3.3	3.1	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-2	113	西	Fa(U)	Ⅴc	c	完	5.5	3.8	3.6	3.5	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-3	117	西	Fa(U)	Ⅴc	c	完	5.6	3.9	4.1	3.4	2.2	0.1	ナデ	○		
図 62-4	125-1	西	Fa(U)	Ⅴc	c	完	5.9	4.4	3.6	3.2	2.2	0.1	ナデ	○		断面が長方形に近い
図 62-5	130-2	西	Ea(Q)	Ⅴbc	c	完	5	3.7	3	3.2	2.3	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-6	149	西	Da(M)	Ⅴa	c	破損	4	2.7	2.5	2.5	1.1	0.1	ナデ	○		穿孔部破損
図 62-7	153	西	Da(M)	Ⅴb	c	完	5	3.6	3	—	1.1	0.1	ナデ	○		
図 62-8	157	西	Da(M)	Ⅴb	c	完	6.1	4	3.5	3.4	2	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-9	158	西	Da(M)	Ⅴb	c	完	4.7	3.5	3.1	3.1	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-10	160	西	Da(M)	Ⅴb	c	完	6.7	4.8	4.3	4.4	2.5	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-11	162	西	Da(M)	Ⅴb	c	破片	3.6	3.1	2.7	2.9	0.9	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○		上部欠損、
図 62-12	172	西	Db(N)	Ⅴb	c	完	4.3	3.1	2.5	2.8	1.3	0.1	ナデ	○		
図 62-13	180	西	Ec(S)	Ⅳm	c	完	4.7	3.7	3.2	3.6	2	0.1	ナデ	○		
図 62-14	196	西	Db(N)	Ⅴ？	c	完	5	3.3	3.5	3	1.7	0.1	ナデ	○		平面が瓢箪に近い
図 62-15	202	西	Dc(O)	Ⅴn	c	完	5.9	4.1	3.3	3.5	2	0.1	ナデ	○		
図 62-16	215	西	Dc(O)	Ⅴb4	c	完	5.3	4.1	3.4	—	2.3	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-17	231	西	Db(N)	Ⅴb5	c	完	4.6	3.1	3.1	—	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-18	232	西	Db(N)	Ⅴb6	c	完	5.4	4.1	2.9	3.8	2	0.1	ナデ	○	黒色	平面が瓢箪に近い
図 62-19	235	西	Eb(R)	Ⅴc上	c	完	6	4.4	3.7	—	2.2	0.2	ナデ	○		抉り弱い
図 62-20	240	西	Fb(V)	Ⅴc	c	完	6.2	5	3.8	—	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	断面形が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 62-21	241	西	Eb(R)	Ⅴc	c	完	5.1	3.5	3	—	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-22	244	西	Dc(O)	Ⅴb4	c	完	6	4.6	3.8	—	1.6	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-23	245	西	Dc(O)	Ⅴb4	c	完	5.7	3.6	3.5	—	2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-24	246	西	Dc(O)	Ⅴb4	c	完	6.7	4.2	4	3.8	2.2	0.2	ナデ	○		平面が瓢箪形に近い
図 62-25	275	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	4.8	3.2	3.2	2.9	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-26	279	西	不明	不明	c	完	4.8	3.5	2.8	2.9	1.9	0.1	ナデ	○		突出や抉り弱い、

図番号	台帳番号(弘大番号)	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	環径(mm)	孔径(mm)	重さ(g)	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 62-27	284-1	西	不明	不明	c	完	5	3.7	3.4	3.3	1.5	0.1	ナデ	○		
図 62-28	284-2	西	不明	不明	c	完	4.3	3.5	2.6	3.4	1.7	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-29	284-6	西	不明	不明	c	完	5.5	3.4	3.6	3	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-30	291-1	西	Dc(O)	Ⅴc1	c	完	5.1	3.3	3	2.8	1.5	0.1	ナデ	○		
図 62-31	292	西	Dc(O)	Ⅴc1	c	完	6.6	4.6	3.6	3.9	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	下部が屈曲、平面が瓢箪形に近い
図 62-32	293	西	Dc(O)	Ⅴc1	c	完	5.5	3.9	3.3	3.6	2.1	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-33	299	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	6.4	4	5	3.7	2.2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-34	302	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	6.8	4.8	3.8	4.5	2.9	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-35	318	西	Fa(U)	Ⅴc1	c	完	6	4.9	3.3	—	2.3	0.2	ナデ	○		平面が正円に近い
図 62-36	319	西	Fa(U)	Ⅴc1	c	完	6.3	4.6	4	4.3	2	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-37	320	西	Fa(U)	Ⅴc1	c	完	6.2	4.7	3.7	4.3	2.4	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○	黒色	
図 62-38	337	西	Dc(O)	Ⅴb5	c	完	5.7	3.7	3.3	3.5	1.9	0.1	ナデ	○		平面が瓢箪形に近い
図 62-39	339	西	Dc(O)	Ⅴb5	c	完	5.4	3.5	2.9	3.3	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-40	343	西	Dc(O)	Ⅴb5	c	完	4.4	3.5	3	3.6	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面が長方形に近い
図 62-41	357	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	4.8	3.6	2.7	3.2	1.9	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-42	359-2	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	5.2	3.6	3.1	3.3	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-43	359-3	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	5.3	3.6	2.9	3.2	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 62-44	359-4	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	5.3	3.5	3	3.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-45	359-5	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	5	3.2	2.8	3.1	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 62-46	359-7	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	4.9	3.3	3.2	2.7	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	平面が瓢箪形に近い。縄文施文か
図 62-47	359-11	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	4.9	3.3	3	3	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-48	359-12	西	Da(M)	Ⅴc1	c	完	4.4	3.5	2.4	—	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。穿孔部が削れている
図 62-49	375	西	Ea(Q)	Ⅴc1	c	完	6.4	5	4.2	4.2	1.7	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-50	388	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	6	3.7	2.9	3.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	断面が長方形に近い
図 62-51	389	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	5.2	3.4	2.6	3	2.3	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○	黒色	断面が長方形に近い
図 62-52	398	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	4.6	3.7	2.9	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	平面・断面が長方形に近い。抉り弱い
図 62-53	399	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	5.2	4	2.9	3.8	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-54	409-1	西	Dd(P)	Ⅴc1	c	完	4.9	3.1	3	—	2	0.1	ナデ	○	黒色	括れ・突出がほとんどない
図 62-55	438	西	Db(N)	Ⅴc1	c	完	5.7	4	4.4	—	2.1	0.1	ナデ	○		平面が長方形に近い。抉り弱い
図 62-56	441-2	西	Eb(R)	Ⅴc1	c	完	5.4	3.7	2.8	—	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い。断面が瓢箪形に近い
図 62-57	444	西	Eb(R)	Ⅴc1	c	完	6.1	3.9	3.3	—	2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-58	459-2	西	Ea(Q)	Ⅴc1	c	完	4.9	2.9	2.6	2.7	1.5	0.1	ナデ	○		断面が長方形に近い。抉り弱い
図 62-59	476	西	Dd(P)	Ⅴc3	c	完	6.5	4.1	3.8	—	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い。断面が楕円に近い
図 62-60	500	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	5	4	3.4	3.8	2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-61	503	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	6.3	4	3.6	3.5	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面がドングリ形に近い
図 62-62	508	西	Ec(S)	Ⅴc7	c	完	5.6	3.8	3.3	—	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-63	510	西	Dc(O)	Ⅴc7	c	完	5.9	4.2	3.1	3.5	1.7	0.1	ナデ	○		平面が瓢箪形に近い
図 62-64	521	西	Ec(S)	Ⅴc7	c	完	6.2	4.2	3.9	—	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	平面が長方形に近い。抉り弱い
図 62-65	523	西	Ec(S)	Ⅴc7	c	完	4.8	3.4	2.9	—	1.3	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 62-66	538	西	Fa(U)	Ⅴc7	c	完	5	3.9	3.3	—	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-67	551	西	Da(M)	Ⅴc4	c	完	5.5	3.7	3.4	—	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-68	571	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	5.5	3.6	3.3	3.4	1.7	0.1	ナデ	○		抉り弱い。断面が長方形に近い
図 62-69	572	西	Fb(V)	Ⅴc4	c	完	4.8	3.6	3.2	—	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 62-70	577	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	4.6	3.5	3.3	3.2	1.4	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 62-71	578	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	5.2	3.6	4.9	—	1.2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-72	581	西	Db(N)	Ⅴc4	c	完	5.7	4.3	4.2	—	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。平面が長方形に近い
図 62-73	582	西	Db(N)	Ⅴc4	c	完	7.1	4.9	3.4	4.2	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 62-74	593	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	5.5	3.8	3.7	3.5	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 62-75	596-1	西	Eb(R)	Ⅴc4	c	完	6.5	5	3.6	4.8	2.4	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 62-76	598	西	Ea(Q)	Ⅴc4	c	完	6.1	4.9	3.6	—	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 62-77	600	西	Ea(Q)	Ⅴc4	c	完	4.7	3.1	2.7	—	1.6	0.1	ナデ	○		断面が長方形に近い。抉り弱い
図 62-78	605	西	Ec(S)	Ⅴc7	c	完	5.6	4.1	3.6	3.8	2.4	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 63-1	608	西	Ec(S)	Ⅴc7	c	完	5	3.9	3.4	3.8	2.2	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 63-2	622	西	Da(M)	Ⅴc7	c	完	7.4	4.9	4.2	4.6	2.3	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-3	655	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	4.5	3.4	2.7	—	1.5	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 63-4	657	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	4.3	3.5	2.2	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 63-5	659	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	4.8	3.5	3.4	—	1.8	0.1	ナデ	○		穿孔部が削れている、
図 63-6	662	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	6	4.8	3.6	—	3	0.2	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い下部が角ばる
図 63-7	675	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	5.4	4.6	3.8	—	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-8	676	西	Ea(Q)	Ⅴc7	c	完	6.2	4.3	3.3	4	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-9	680-3	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	6.5	4.6	4	4.4	2.2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 63-10	680-4	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	6.7	4.3	4.7	—	1.5	0.2	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 63-11	684	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	5.4	3.8	3.1	—	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面がドングリ形に近い
図 63-12	693	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	4.7	3.3	3.2	—	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-13	695	西	Fb(V)	Ⅴc7	c	完	5.9	4	3.6	3.5	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-14	699	西	Db(N)	Ⅴc7	c	完	6.8	4.4	3	4.3	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 63-15	700	西	Db(N)	Ⅴc7	c	完	4.4	3.3	2.7	3.1	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 63-16	723	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	4.9	3.7	3.2	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 63-17	725	西	Eb(R)	Ⅴc7	c	完	7.1	4.5	3.5	3.9	2.2	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。
図 63-18	737	西	Ea(Q)	Ⅴc7	c	完	5.1	3.8	3.3	—	2	0.1	ナデ	○		断面が長方形に近い。抉り弱い
図 63-19	745	西	Ea(Q)	Ⅴc7	c	完	7.5	3.4	4.3	3.2	2	0.2	ナデ	○	黒色	平面が細長い楕円。抉り弱い
図 63-20	771-2	西	Db(N)	Ⅴc7	c	完	6	4	3.8	3.5	1.7	0.1	ナデ	○		
図 63-21	773-2	西	Db(N)	Ⅴc7	c	完	6.1	4.5	3.6	—	1.5	0.2	ナデ	○	黒色	平面が白い、抉り弱い
図 63-22	782-2	西	Db(N)	Ⅴc7	c	破損	6	3.5	3.8	—	1.7	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い。平面が長方形に近い
図 63-23	784-1	西	Db(N)	Ⅴc7	c	完	5.5	3.9	3.3	—	2	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 63-24	860	西	Fb(V)	Ⅵa	c	完	6.4	4.3	4	4.1	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	光沢がある

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	環径（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 64-1	127	西	不明	不明	d	完	5.8	4.9	4.3	4	1.1	0.1	ナデ→括れ部に沈線→ミガキ	○	黒色	断面が楕円に近い
図 64-2	140-1	西	Ea(Q)	V bc	d	破損	4.9	3.3	3.1	2.2	2	0.1	ナデ	○	黒色	穿孔部が削れている
図 64-3	140-2	西	Ea(Q)	V bc	d	完	4.8	2.7	2.4	2.5	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-4	140-3	西	Ea(Q)	V bc	d	完	4.9	3.3	3	2.1	2	0.1	ナデ	○	黒色	被熱
図 64-5	150	西	Ea(Q)	V a	d	完	4.1	3.2	3.2	2.6	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-6	151	西	Ea(Q)	V b	d	完	4.5	3.6	2.8	2.4	2.2	0.1	ナデ	○		
図 64-7	152	西	Da(M)	V b	d	完	4.5	3.5	3.2	2.5	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-8	154	西	Da(M)	V b	d	完	6.1	4.2	3.9	2.9	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-9	161	西	Da(M)	V b	d	完	4.6	3.2	2.7	3.2	1.5	0.1	ナデ	○		
図 64-10	174-1	西	Db(N)	V b	d	完	5.6	5.2	4.1	4.5	2.3	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-11	174-2	西	Db(N)	V b	d	完	5.6	5.3	4.3	5	2.3	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 64-12	175	西	Db(N)	V b	d	完	5.6	5	3.9	4.6	2	0.1	ナデ	○	黒色	平面が瓢箪形に近い
図 64-13	176	西	Db(N)	V b	d	完	5.7	5.1	4.3	4.8	2	0.2	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-14	178	西	Db(N)	V b	d	完	5.9	5.4	4.4	4.5	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	下部に突出、
図 64-15	184	西	Eb(R)	V b2	d	完	5	3.4	2.9	3	1.6	0.1	ナデ	○		
図 64-16	188	西	Db(N)	V k	d	完	4.3	3.7	2.4	—	1.7	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 64-17	189	西	Db(N)	V k	d	完	4.3	4	2.7	—	1.9	0.1	ナデ	○		括れ・突出がほとんどない。
図 64-18	197	西	Db(N)	V ?	d	完	5.6	4.7	4.1	4.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-19	198	西	Dc(O)	V n	d	完	4.3	3.3	3.8	3.3	2	0.1	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-20	199	西	Dc(O)	V n	d	完	4.7	3.2	2.5	2.9	1.7	0.1	ナデ	○		断面が楕円に近い
図 64-21	200	西	Dc(O)	V n	d	完	5	4.2	3.1	—	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 64-22	214	西	Dc(O)	V b4	d	完	5.5	4.2	3.6	3.9	1.7	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪に近い
図 64-23	218	西	Dc(O)	V b4	d	完	6.4	4.9	3.9	4.4	2.7	0.2	ナデ	○	黒色	平面が瓢箪形に近い
図 64-24	224	西	Db(N)	V c 上	d	完	4.5	3.4	2.8	2.4	1.3	0.1	ナデ	○		断面は瓢箪形の半欠
図 64-25	234	西	Eb(R)	V c 上	d	破損	5.3	3.5	3.2	3.3	1.7	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 64-26	239	西	Dc(O)	V c6	d	完	5	3.9	3.4	3.5	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-27	247-1	西	Ec(S)	V b4	d	完	4.6	3.4	2.5	—	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 64-28	247-2	西	Ec(S)	V b4	d	完	4.1	2.8	2.4	2.6	1.1	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 64-29	277	西	Db(N)	V c1	d	完	5.3	4.1	4.4	3.5	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-30	284-4	西	不明	不明	d	完	5.2	3.8	3.5	—	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-31	284-5	西	不明	不明	d	完	5.1	3.9	3.1	—	1.6	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-32	284-7	西	不明	不明	d	完	5.2	3.9	3.6	3.5	1.5	0.1	ナデ	○		抉り弱い。断面が瓢箪形に近い
図 64-33	284-8	西	不明	不明	d	完	5.1	3.7	3.3	3.3	1.8	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-34	284-9	西	不明	不明	d	完	5.3	3.6	3.2	3.5	1.8	0.1	ナデ	○		平面が長方形に近い。断面が瓢箪形に近い
図 64-35	284-11	西	不明	不明	d	完	5.6	3.7	3.5	3.2	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-36	284-12	西	不明	不明	d	完	5.5	3.5	3.4	3.1	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-37	284-13	西	不明	不明	d	完	5.6	3.4	3.7	3.3	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-38	284-14	西	不明	不明	d	完	5.2	3.5	3.5	3.2	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い
図 64-39	284-15	西	不明	不明	d	完	4.9	3.5	3.3	3.1	1.5	0.1	ナデ	○		
図 64-40	289	西	Db(N)	V c1	d	完	5.8	4.3	4.8	4	2.3	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い
図 64-41	290	西	Db(N)	V c1	d	破損	5.8	4.1	3.9	3.7	1.9	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い。
図 64-42	291-2	西	Dc(O)	V c1	d	完	4.7	3.8	3.5	3.5	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-43	335	西	Dc(O)	V b5	d	完	4.6	3.8	3.7	3.4	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-44	350	西	Dc(O)	V c1	d	完	5.7	4	3.5	3.9	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 64-45	356	西	Da(M)	V c1	d	完	5.1	3.5	2.6	3.3	2.1	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 64-46	363	西	Da(M)	V c1	d	完	5.6	4.3	4.3	3.9	2.2	0.2	ナデ	○	黒色	
図 64-47	364	西	Da(M)	V c1	d	完	4.3	3.4	2.8	3	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	断面が長方形、抉り弱い
図 64-48	380	西	Da(M)	V c1	d	完	5.3	4.2	3.2	3.5	2.3	0.1	ナデ	○		
図 64-49	384	西	Da(M)	V c1	d	完	7.5	5.5	5.5	4.5	1.3	0.2	ナデ	○		平面が三角形に近い。頭部に沈線
図 64-50	385	西	Da(M)	V c1	d	完	5.8	4.4	3.9	4	1.7	0.1	ナデ	○		
図 64-51	391-1	西	Db(N)	V c1	d	完	4.7	3.3	3.1	3.2	1.7	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-52	391-2	西	Db(N)	V c1	d	完	5.5	3.6	3.5	—	2.2	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 64-53	397	西	Ea(Q)	V c1	d	完	4.7	3.5	3	3.3	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面が瓢箪形に近い
図 64-54	459-1	西	Ea(Q)	V c1	d	完	5.4	3.3	3.4	3.2	1.7	0.1	ナデ	○		断面が長方形に近い。抉り弱い
図 64-55	490	西	Ea(Q)	V c4	d	完	4.3	3.3	2.9	3	1.7	0.1	ナデ	○		断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 64-56	493	西	Da(M)	V c4	d	完	4.9	4.2	3.6	—	2.3	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 64-57	498	西	Db(N)	V c4	d	完	4.7	3.7	2.9	—	1.9	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 64-58	501	西	Eb(R)	V c4	d	完	4.9	4.3	3.6	3.9	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-59	519	西	Dc(O)	V c7	d	完	5.3	4	3.6	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	白色付着物？抉り弱い
図 64-60	522	西	Ec(S)	V c7	d	完	5.4	4.3	3.7	4.1	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 64-61	524	西	Ec(S)	V c7	d	完	5.2	5.3	4.6	5.1	2	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 64-62	528-2	西	Ec(S)	V c7	d	完	6	3.9	3.8	3.4	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	断面がドングリ形に近い
図 64-63	537	西	Fa(U)	V c7	d	完	5.7	4.9	2.4	—	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	平面が円形に近い。突出・抉り弱い
図 64-64	568	西	Ea(Q)	V c4	d	完	3.8	3.5	3.3	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	下部が小さく突出。抉り弱い
図 64-65	569-1	西	Ea(Q)	V c4	d	完	4.9	4.5	4	—	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 64-66	569-2	西	Ea(Q)	V c4	d	完	4	3.8	3.1	—	1.1	0.1	ナデ→沈線→ミガキ	○	黒色	抉り弱い。断面が三角形に近い
図 64-67	569-3	西	Ea(Q)	V c4	d	完	5.6	4.5	4.3	—	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面が三角形に近い
図 64-68	570-1	西	Eb(R)	V c4	d	完	5	3.8	4.2	—	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面が四角形に近い
図 64-69	570-2	西	Eb(R)	V c4	d	完	5	3.8	4.2	—	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面が四角形に近い
図 64-70	574	西	Fb(V)	V c4	d	完	4.5	4.5	3.2	4.2	1.4	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 64-71	575	西	Fb(V)	V c4	d	完	4.9	4.7	4.2	—	1.4	0.1	ナデ	○		抉り弱い。断面が三角形に近い
図 64-72	586	西	Db(N)	V c4	d	完	5.4	4.3	3.6	—	1.6	0.1	ナデ→沈線？→ミガキ	○	黒色	突出・抉り弱い。平面が長方形に近い
図 64-73	594	西	Eb(R)	V c4	d	破損	5.6	3.7	3.6	3.6	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	穿孔部が破損、
図 64-74	595	西	Eb(R)	V c4	d	完	5.3	4.2	4.5	3.9	1.7	0.1	ナデ	○	黒色	断面が三角形に近い
図 64-75	596-2	西	Eb(R)	V c4	d	完	4.9	3.4	2.9	3.3	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 64-76	601	西	Ea(Q)	V c4	d	完	5.4	4.2	3.7	3.9	2	0.1	ナデ	○		全面が白い。抉り弱い
図 64-77	603-2	西	Eb(R)	V c4	d	完	5.2	4	3.1	—	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高さ（mm）	幅（mm）	厚（mm）	環径（mm）	孔径（mm）	重さ（g）	調整	赤色顔料	胎土	備考
図 64-78	606	西	Ec(S)	V c7	d	完	4.9	3	3.5	—	2.4	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 65-1	614	西	Ed(T)	V c7	d	完	4.6	3.8	3.3	3.6	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-2	624-1	西	Da(M)	V c7	d	完	5.6	3.7	4.5	3.4	1.7	0.2	ナデ→沈線→ミガキ	○		抉り弱い
図 65-3	653-1	西	Eb(R)	V c7	d	完	5.4	4.1	3.8	—	2.2	0.1	ナデ	○	黒色	断面が瓢箪形に近い。抉り弱い
図 65-4	653-2	西	Eb(R)	V c7	d	完	5.1	3.8	3.3	—	2.1	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-5	661	西	Eb(R)	V c7	d	破片	3	3.7	3.8	—	—	0.1	ナデ	○		
図 65-6	664-1	西	Db(N)	V c7	d	完	4.2	3.3	3	3	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-7	664-2	西	Db(N)	V c7	d	完	4.9	4	3.7	—	1.5	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 65-8	665-1	西	Db(N)	V c7	d	完	4.6	3.3	2.7	2.7	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-9	671-2	西	Db(N)	V c7	d	完	7.4	5.5	5.1	5	2.5	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-10	673	西	Eb(R)	V c7	d	完	3.9	2.9	2.7	2.6	1.6	0.1	ナデ	○		
図 65-11	680-1	西	Eb(R)	V c7	d	完	6.7	4.7	4.2	—	2.7	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-12	692	西	Fb(V)	V c7	d	完	4.6	3.5	3.5	—	1.8	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 65-13	704	西	Db(N)	V c7	d	完	5.1	3.5	3.4	3	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い。穿孔部が破損、
図 65-14	705-1	西	Db(N)	V c7	d	完	5.8	4.2	4	—	1.9	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い。平面が長方形に近い
図 65-15	711	西	Db(N)	V c7	d	完	6	4.9	4.2	4.3	1.4	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-16	712-1	西	Db(N)	V c7	d	完	5.9	4	3.6	3.1	1.5	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-17	712-2	西	Db(N)	V c7	d	完	4.2	3.9	5.4	3.7	2.5	0.1	ナデ	○		穿孔部が凹む、断面が瓢箪形の半欠
図 65-18	714-1	西	Db(N)	V c7	d	完	5.7	4	3.9	3.7	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-19	714-2	西	Db(N)	V c7	d	完	6.4	3.7	3.7	3.2	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-20	714-3	西	Db(N)	V c7	d	完	5.8	3.7	3.2	2.9	2	0.1	ナデ	○	黒色	平面が楕円に近い
図 65-21	722-2	西	Eb(R)	V c7	d	完	5.2	4.2	2.7	—	2.5	0.1	ナデ	○		突出・抉り弱い
図 65-22	722-3	西	Eb(R)	V c7	d	完	5.3	4	3.2	—	2	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 65-23	722-4	西	Eb(R)	V c7	d	完	5	4.1	3.2	3.6	1.8	0.1	ナデ	○	黒色	
図 65-24	722-5	西	Eb(R)	V c7	d	完	4.4	3.6	2.8	—	1.6	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 65-25	724-1	西	Eb(R)	V c7	d	完	4.2	3.1	2.6	—	1.9	0.1	ナデ	○		抉り弱い。穿孔部断面が凹む
図 65-26	724-2	西	Eb(R)	V c7	d	完	4.3	3	2.7	2.5	1.7	0.1	ナデ	○		
図 65-27	727	西	Eb(R)	V c7	d	完	5	3.7	4.2	3.2	1.7	0.1	ナデ	○		
図 65-28	733-1	西	Fb(V)	V c7	d	完	5.1	4.1	3.2	—	1.4	0.1	ナデ	○		断面が三角形に近い抉り弱い。引抜痕？
図 65-29	733-2	西	Fb(V)	V c7	d	完	5.3	3.8	4.1	3.3	0.9	0.1	ナデ	○		
図 65-30	783-2	西	Db(N)	V c7	d	完	6.1	5.3	4.2	—	1.9	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い。断面が三角形に近い
図 65-31	784-2	西	Db(N)	V c7	d	完	5	4.1	3.3	—	1.5	0.1	ナデ	○		抉り弱い
図 65-32	785-1	西	Eb(R)	V c7	d	完	7	5.8	4.9	—	2.4	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-33	786-2	西	Eb(R)	V c7	d	完	7.2	5.1	4.6	—	2.2	0.2	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-34	793	西	Eb(R)	V c7	d	完	5.5	3.8	3.2	—	2.4	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い
図 65-35	798-2	西	Ea(Q)	V c7	d	完	5.8	3.8	2.9	3.4	1.2	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-36	835	西	Eb(R)	V c7	d	完	4.9	3.8	3.3	—	1.9	0.1	ナデ	○	黒色	抉り弱い
図 65-37	840-2	西	Eb(R)	V c7	d	完	4.6	3.2	2.9	—	1	0.1	ナデ	○	黒色	突出・抉り弱い。穿孔部断面が凹む
図 65-38	弘 3-5	西	不明	不明	d	完	5.4	3.8	4.2	3.6	2.4	0.1	ナデ	○		抉り弱い。断面は角張った瓢箪形
図 65-39	弘 3-11	西	不明	不明	d	完	5.2	3.9	4.1	3.3	2.1	0.1	ナデ	○		断面が角張った瓢箪形
図 65-40	545	西	Da(M)	V c4	e	ほぼ完	5.6	4.8	5.1	—	1.7	0.1	ナデ	○		横断面T字形
図 65-41	812-1	西	Da(M)	VI	e	完品	5.9	5.6	4.7	—	1.4	0.2	ナデ	○		横断面T字形
図 65-42	812-2	西	Da(M)	VI	e	完品	5.1	5	4.6	—	1.3	0.1	ナデ	○	黒色	横断面T字形
図 65-43	796	西	Eb(R)	V c7	e	完品	7.4	6.1	3.2	—	1.1	0.3	ナデ	○		横断面T字形、垂飾に類似
図 65-44	弘 3-25	西	不明	不明	集中	完								○		4 点一括
図 65-45	532	西	Ea(Q)	V c4	集中	完								○		16 点一括

表 17　土製品観察表　土製耳飾

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高(mm) 全体	高(mm) 外部	高(mm) 装着部	高(mm) 内部	径(mm) 外部	径(mm) 装着部	径(mm) 内部	重さ(g)	穿孔断面	孔径(mm)	外装内部の高さ比	外装内部の高さ径比	調整	赤色顔料	胎土	備考欄
図 67-1	143-1	西	Ea(Q)	Ⅴbc	ネジ状	完	16.5	4.8	7.1	4.5	16.2	9.0	10.1	2.5	漏斗形	6.8	3:4:3	17:9:11	ナデ→ミガキ	○		白色付着物
図 67-2	182-1	西	Ec(S)	Ⅳn	ネジ状	完	18.0	5.8	7.1	4.8	19.9	8.5	13.1	4.3	漏斗形	6.1	3:4:3	20:9:14	ナデ→ミガキ	○	黒色	風化
図 67-3	190	西	Db(N)	Ⅴb3	ネジ状	ほぼ完	17.0	5.1	6.0	5.7	17.9	10.0	12.2	2.5	平行	6.3	3:4:3	18:10:13	ナデ	○		
図 67-4	228	西	Ec(S)	Ⅴc上	ネジ状	完	17.9	4.8	6.9	5.6	18.5	8.7	11.9	2.3	平行	5.5	3:4:3	19:9:12	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-5	229	西	Fc(W)	Ⅴc上	ネジ状	完	19.3	5.1	7.7	6.1	18.2	7.9	12.2	3.4	漏斗形	7.6	3:4:3	19:8:13	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-6	236	西	Fb(V)	Ⅴc上	ネジ状	完	16.9	5.0	6.5	5.0	17.1	7.0	10.7	2	平行	6.2	3:4:3	18:7:11	ナデ→ミガキ	○		白色付着物
図 67-7	317	西	Ea(Q)	Ⅴc1	ネジ状	完	19.6	5.8	7.3	6.2	18.4	8.9	13.2	3.2	漏斗形	7.5	3:4:3	19:9:14	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-8	439	西	Db(N)	Ⅴc1	ネジ状	完	17.9	5.3	7.2	5.1	17.2	8.5	11.8	3	漏斗形	4.6	3:4:3	18:9:12	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-9	491-1	西	Da(M)	Ⅴc4	ネジ状	完	18.3	6.0	6.4	5.3	19.2	8.2	11.9	3.5	内湾	5	3:4:3	20:9:12	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-10	491-2	西	Da(M)	Ⅴc4	ネジ状	完	16.5	4.6	6.8	4.8	15.5	7.9	10.8	2.2	平行	4.1	3:4:3	16:8:11	ナデ	○		風化
図 67-11	499	西	Db(N)	Ⅴc4	ネジ状	ほぼ完	17.7	4.8	7.8	5.2	16.8	9.1	11.4	2.6	内湾	6.3	3:4:3	17:10:12	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-12	弘 9	西	不明	不明	ネジ状	完	16.1	5.3	6.2	4.4	17.9	7.9	10.9	2.4	漏斗形	7.2	3:4:3	18:8:11	ナデ→ミガキ	○		風化
図 67-13	7	東	Cc(K)	10	ネジ状	1/2	17.5	5.0	5.3	5.2	17.9	8.2	12.6	2.3	平行	5.3	3:3:3	18:9:13	ナデ→ミガキ	○		
図 67-14	213	西	Eb(R)	Ⅴb5	ネジ状	完	19.2	6.5	6.1	6.4	17.3	7.9	11.7	2.7	平行	6.2	3:3:3	18:8:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-15	346	西	Ed(T)	Ⅴb5	ネジ状	1/2	14.8	4.1	4.6	5.1	16.6	7.9	11.5	1.6	内湾	6.3	3:3:3	17:8:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-16	579	西	Eb(R)	Ⅴc4	ネジ状	完	19.1	6.4	6.3	6.0	19.4	8.5	12.9	3.6	平行	5.4	3:3:3	20:9:13	ナデ→ミガキ	○		
図 67-17	644	西	Ea(Q)	Ⅴc7	ネジ状	完	17.5	5.6	5.8	5.7	18.1	9.8	11.1	3.4	漏斗形	5.9	3:3:3	19:10:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-18	649	西	Ea(Q)	Ⅴc7	ネジ状	完	14.1	4.5	4.7	4.5	16.2	8.3	11.2	2	平行	5.2	3:3:3	17:9:12	ナデ	○		風化
図 67-19	5	西	不明	不明	ネジ状	完	17.5	5.0	5.8	6.7	18.7	9.2	11.6	3.2	平行	6.8	3:3:4	19:10:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	全体が灰がかっている
図 67-20	516	西	Dc(O)	Ⅴc7	ネジ状	完	15.6	4.2	5.3	5.7	17.0	7.7	11.1	2.2	平行	5.2	3:3:4	17:8:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-21	576	西	Eb(R)	Ⅴc4	ネジ状	ほぼ完	19.5	5.6	6.2	7.6	19.8	9.0	12.2	3.5	漏斗形	7.5	3:3:4	20:9:13	ナデ	○		風化
図 67-22	651	西	Ea(Q)	Ⅴc7	ネジ状	完	20.3	6.5	6.2	7.3	21.4	8.9	13.9	4.8	漏斗形	6.3	3:3:4	22:9:14	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-23	弘 13 O28	東	Cd(L)	10	ネジ状	ほぼ完	15.3	5.6	6.2	3.4	17.4	7.5	10.5	2.6	平行	4.1	4:3:2	18:8:11	ナデ→ミガキ	○		
図 67-24	696	西	Ea(Q)	Ⅴc7	ネジ状	完	16.1	6.8	5.1	3.9	17.3	7.3	10.5	2.7	漏斗形	6.5	4:3:2	18:8:11	ナデ	○		
図 67-25	弘 8	西	不明	不明	ネジ状	完	17.9	4.3	8.1	5.2	18.1	7.8	10.6	2.9	漏斗形	7.2	2:5:3	19:8:11	ナデ→ミガキ	○		
図 67-26	137	西	Ea(Q)	Ⅴa	ネジ状	完	13.5	4.3	5.7	3.0	13.1	6.8	10.1	1.3	平行	4	3:4:2	14:7:11	ナデ→ミガキ	○		
図 67-27	143-2	西	Ea(Q)	Ⅴbc	ネジ状	ほぼ完	18.2	4.6	7.3	6.3	19.2	9.5	11.2	3	漏斗形	7.1	3:4:4	20:10:12	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 67-28	4	東	Cd(L)	不明	ネジ状	完	19.0	4.7	8.6	5.3	15.9	9.1	13.2	2.4	漏斗形	7.8	3:5:3	16:10:14	ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 68-1	281	西	Dc(O)	Ⅴc1	ネジ状	完	16.5	5.8	5.0	5.4	19.4	8.4	12.1	2.9	平行	6.3	4:3:3	20:9:13	ナデ→ミガキ	○		
図 68-2	182-2	西	Ec(S)	Ⅳn	ネジ状	完	12.2	4.4	5.3	2.4	13.6	7.2	(8.8)	1.2	平行	4.4	4:4:2		ナデ→ミガキ	○		白色付着物
図 68-3	108	西	Fd(X)	Ⅳm	ネジ状	1/2	(8.7)	4.9	—	—	19.9	—	—	2.2	有り	5.3			ナデ→ミガキ	○		
図 68-4	128	西	Ea(Q)	Ⅴa	ネジ状	1/3	—	—	6.5	4.7	—	6.4	(9.6)	0.7	有り	4			ナデ→ミガキ	○		
図 68-5	210	西	Eb(R)	Ⅴb5	ネジ状	1/3	(8.8)	—	—	5.3	—	7.3	11.4	1	有り	4.8			ナデ→ミガキ	○		
図 68-6	297	西	Dd(P)	Ⅴc1	ネジ状	1/4	(10.7)	—	—	4.9	—	7.4	10.9	0.5	有り	4.1			ナデ→ミガキ	○		
図 68-7	358	西	不明	不明	ネジ状	1/4	(10.2)	—	—	4.6	—	—	9.3	0.3	有り	1.9			ナデ→ミガキ	○	黒色	
図 68-8	753	西	Ea(Q)	Ⅴc7	ネジ状	1/2	(7.9)	6.5	—	—	17.4	—	—	1.5	有り	5.9			ナデ→ミガキ	○		
図 68-9	775	西	Db(N)	Ⅴc7	ネジ状	1/4	(8.5)	—	—	5.2	—	—	9.4	0.3	有り	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-10	790	西	Db(N)	Ⅴc7	ネジ状	1/4	—	—	—	—	—	—	8.9	0.3	有り	4.9			ナデ		黒色	
図 68-11	弘 7	西	不明	不明	ネジ状	1/2	(10.1)	7.0	—	—	20.4	—	—	2.7	有り	2.2			ナデ	○		
図 68-12	16	不明	不明	不明	猪口状	ほぼ完	12.4	—	—	—	19.7	9.5	11.6	1.9	無し	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-13	831	西	Ea(Q)	Ⅳa	猪口状	1/2	9	—	—	—	12.5	8.2	—	1	無し	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-14	弘 12	不明	不明	不明	猪口状	ほぼ完	8.7	—	—	—	13.2	9	—	0.9	無し	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-15	658	西	Eb(R)	Ⅴc7	猪口状	1/2	13.1	—	—	—	—	9.5	14.8	1.4	無し	—			ナデ	○		
図 68-16	736	西	Ea(Q)	Ⅴc7	猪口状	2/3	13.7	—	—	—	22.6	8.5	11.6	1.4	無し	—			ナデ→ミガキ	○		花弁形
図 68-17	921	西	Dd(P)	不明	猪口状	ほぼ完	9.7	—	—	—	16.8	7.7	12.5	1.1	無し	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-18	841-1	西	Da(M)	Ⅵa	猪口状	1/2	13.1	—	—	—	—	9.1	12.9	1.3	無し	—			ナデ→沈線→ミガキ	○		
図 68-19	867	西	Db(N)	Ⅳb	猪口状	1/2	11.1	—	—	—	—	8.6	12.5	1.1	無し	—			ナデ→沈線→ミガキ	○		
図 68-20	506-1	西	Eb(R)	Ⅴc4	猪口状	ほぼ完	11.4	—	—	—	19	9.6	13.5	2.4	無し	—			ナデ→沈線→ミガキ	○		花弁形、内面に段
図 68-21	506-2	西	Eb(R)	Ⅴc4	猪口状	完	12.2	—	—	—	19.7	10	12.7	1.9	無し	—			ナデ→沈線→ミガキ	○		花弁形、内面に段

図番号	台帳番号（弘大番号）	区	グリッド	層位	分類	状態	高(mm)				径(mm)			重さ(g)	穿孔断面	孔径(mm)	外装内部の高さ比	外装内部の高さ径比	調整	赤色顔料	胎土	備考欄
							全体	外部	装着部	内部	外部	装着部	内部									
図 68-22	868	不明	不明	不明	猪口状	ほぼ完	8.1	—	—	—	16.2	8.5	13.4	1.2	無し	—			ナデ→沈線→ミガキ	○	黒色	花弁形
図 68-23	887	西	Eb（R）	Ⅳb	臼状	ほぼ完	8.7	—	—	—	12.8	8.3	10.5	1.1	無し	—			ナデ→ミガキ	○		
図 68-24	弘 10	西	不明	不明	臼状	完	12.8	—	—	—	18.1	10.6	16.1	2.7	無し	—			ナデ	○		
図 68-25	弘 11	西	不明	不明	臼状	完	13.5	—	—	—	17.9	11.9	16.8	3	無し	—			ナデ→ミガキ	○		

表 18　山王囲遺跡骨角器・貝製品観察表

図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	注記	種/部位	部位所見	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
図 70-1	256	B18	骨鏃	東	Ca (I)	23	1965.－.－	ニホンジカ/角		5.1	0.6	0.6	1.0	Q18 の注記
図 70-2	247	B19	骨鏃	東	Ca (I)	23	1965.－.－	哺乳類/?		6.1	0.8	0.4	1.2	被熱？全面風化
図 70-3	250	B25	ヤス	東	Cd (L)	17	—	ニホンジカ/角		14.2	1.1	0.9	12.5	
図 70-4	218	B39	ヤス	東	Ca (I)	25	1965/5/2	ニホンジカ?/角？		6.7+5.0	0.9-0.9	0.77+0.83	4.5+2.5	同一個体
図 70-5	254	B9	組合式ヤス	東	Ca (I)	16	1965.－.－	ニホンジカ/角		11.7	1.2	0.7	6.2	逆刺あり。基部アスファルト付着。写真有
図 70-6	182	—	組合式ヤス	東	Cd (L)	15	1965/4/24	ニホンジカ/角		10.0	1.1	0.7	5.2	先端欠損。逆刺あり。基部アスファルト付着
図 70-7	229	B38	組合式ヤス	東	Bd (H)	20	1965/5/2	?/?		4.5	0.5	0.4	0.7	全面に黒色付着物
図 70-8	224	B3	組合式ヤス	東	Cc (K)	20	1965/4/24	?/?		6.6	0.5	0.4	1.0	全面に黒色付着物
図 70-9	234-1	B24	組合式ヤス	東	Cd (L)	18	1965/4/28	?/?		4.0	0.4	0.4	0.6	全面に黒色付着物
図 70-10	251	B7	組合式ヤス	東	Ca (I)	22	—	ニホンジカ/角		11.4	1.5	1.0	5.6	
図 70-11	253	B26	組合式ヤス	東	Cd (L)	23	—	ニホンジカ/角		11.8	1.4	0.7	7.9	
図 70-12	259	B42	ヤス状刺突具	東	Ba (E)	25	1965/5/2	ニホンジカ?/中手/中足骨		10.4	0.9	0.6	3.5	劣化
図 70-13	248	B6	刺突具/骨針	東	Ca (I)	19	—	ニホンジカ/中手/中足骨	ab,骨端癒合完了	9.2	1.6	0.8	2.5	
図 70-14	265	B22	刺突具/骨針	東	Cd (L)	17	—	陸獣/骨		6.2	0.7	0.5	1.2	
図 70-15	232	B1	刺突具	東	—	—	1965/4/23	ニホンジカ?/角？		(3.1)	0.6	0.4	0.8	先端。被熱
図 70-16	23-3	B12	刺突具	東	Ca (I)	22	1965/4/27	?/?		(3.0)	0.4	0.4	0.3	焼
図 70-17	257	B19	刺突具	東	Ca (I)	18	1965/4/28	哺乳類/肋骨		(10.1)	0.8	0.4	0.7	
図 71-1	249	B11	弭形角製品	東	Ca (I)	20	—	ニホンジカ/角	先端	2.7	1.1	1.1	1.5	海綿除去
図 71-2	241	B8	髪針？	東	Cc (K)	18	1965/5/1	?/?		11.8	0.5	0.5	1.7	赤漆？
図 71-3	258	B2	髪針	東	—	20	1965/4/24	ニホンジカ?/角？		(3.6)	0.8	0.3	0.7	頭部。アスファルト付着。中心の接合部分内面に小突起があることから中手/中足。断面形が円より潰れた形なので、中手の遠位部と判断。ヤスの可能性あり
図 71-4	183	—	髪針？	東	Cd (L)	13	1965/4/23	?/?		(2.5)	0.4	0.4	0.5	中間。赤漆
図 71-5	261	B5	垂飾？	東	Cd (L)	15	1965/4/25	ニホンジカ/角		(3.1)	1.3	0.4	0.8	
図 71-6	260	B4	垂飾？	東	Cd (L)	15	1965/4/25	ニホンジカ/角		(2.8)	0.9	0.5	0.4	
図 71-7	23-2	B14	垂飾	東	Ca (I)	22	1965/4/27	イノシシ/下歯	I1,右	6.2	0.9	0.7	3.3	
図 71-8	23-1	B20	管状加工垂飾	東	Ca (I)	23	1965/4/27	ニホンジカ/角		2.7	1.4	1.4	3.2	両端擦切。海綿除去
図 71-9	252	—	管状加工垂飾	東？	—	—	1965.－.－	ニホンジカ/中手骨	d	4.3	1.8	1.1	(4.8)	焼。中心の接合部分内面に小突起があることから中手/中足。断面形が円より潰れた形なので、中手の遠位部と判断
図 71-10	239	—	札状加工製品	東	Ba/Ca (E/I)	15	1965/4/24	イノシシ/下歯	C,♂	3.6	2.0	0.7	3.1	エナメル質剥落
図 71-11		O34	勾玉	東	Ec (S)	10	—	イノシシ/下歯		1.9	1.2	0.3	0.4	
図 71-12		O34	勾玉	東	Ec (S)	10	—	イノシシ/下歯		(1.1)	1.1	0.3	0.3	
図 71-13		O34	勾玉	東	Ec (S)	10	—	イノシシ/下歯		(1.9)	1.0	0.3	0.2	
図 71-14	23-4	B17	未製品	東	Ca (I)	23	1965/4/27	ニホンジカ/角		7.4	1.2	0.7	3.0	内面全体に研磨
図 71-15	38	—	未製品/廃材	東	Cc (K)	17	1965.－.－	ニホンジカ/角	尖端	6.5	1.8	1.5	9.0	端部擦切
図 71-16	240	B33	未製品/廃材	東	Cc (K)	19	1965/4/30	ニホンジカ/角	尖端	7.3	1.8	1.6	13.7	上部擦切痕
図 71-17	243	B25	未製品/廃材	東	Cd (L)	17	—	ニホンジカ/角	第２～第３分岐	17.3	3.7	0.3	61.1	２尖とも擦切
図 72-1	227	B51	ヤス状刺突具	西	Ec (S)	V be	1965/5/26	?/?		(6.9)	0.7	0.5	2.8	

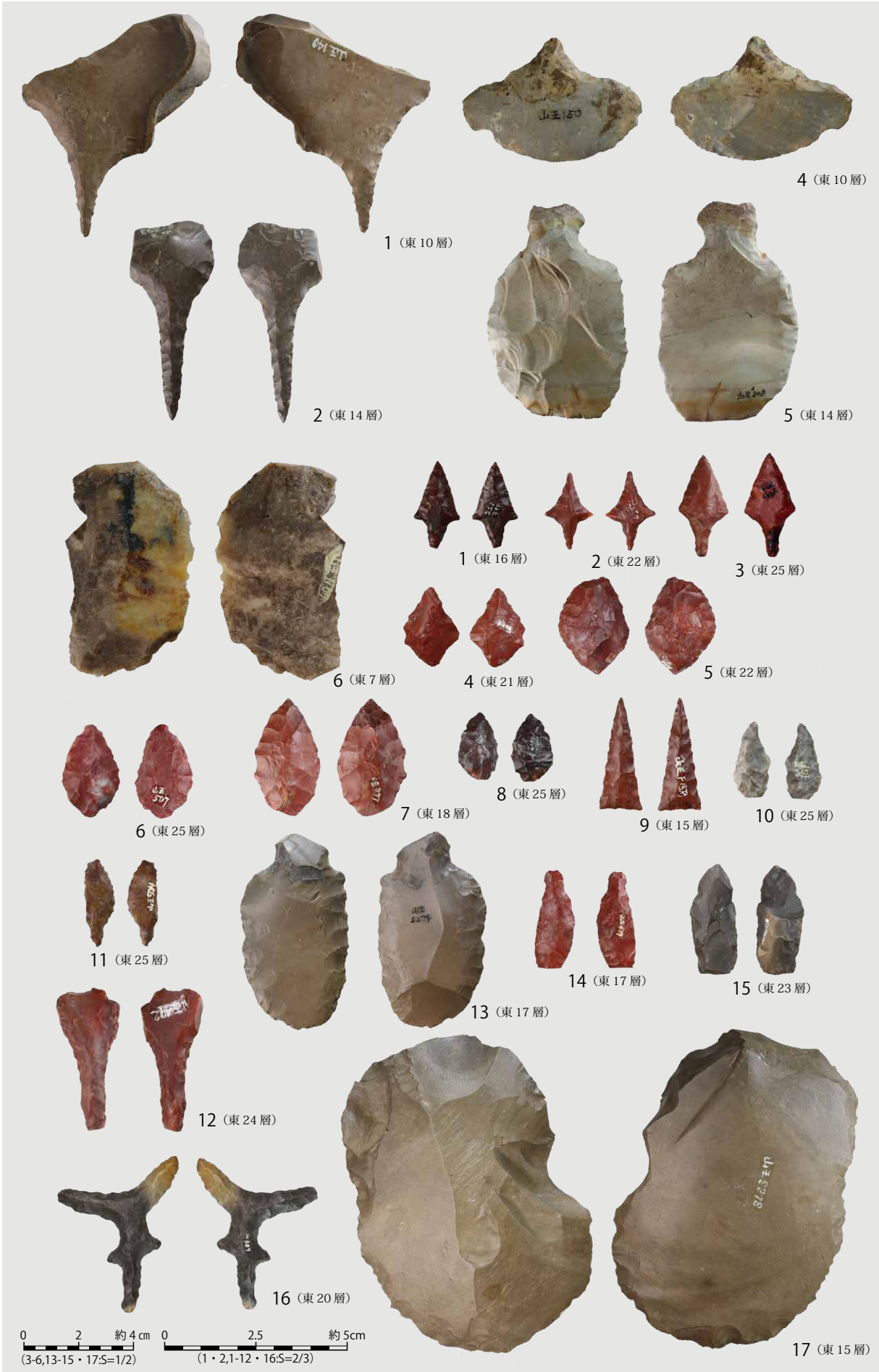
図番号	弘大番号	台帳番号	器種	区	グリッド	層位	注記	種/部位	部位所見	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
図 72-2	262	B53	ヤス状刺突具	西	Eb（R）	Ⅴc上面	—	ニホンジカ?/中手/中足骨		(8.1)	0.9	0.4	2.3	
図 72-3	23-6	B49	ヤス状刺突具	西	Eb（R）	Ⅴb	1965/5/25	ニホンジカ/角		5.6	1.1	0.8	5.2	完存。鏃としては先端丸すぎるか
図 72-4	242	B54	ヤス状刺突具	西	Da（M）	Ⅵb	—	ニホンジカ/中足骨		6.3	0.8	0.6	2.5	先端
図 72-5	89	—	ヤス状刺突具	西	Ec（S）	Ⅴb5	1965/5/29	ニホンジカ/角		(8.0)	0.7	0.7	3.0	劣化。接合しない
図 72-6	225	B55	ヤス状刺突具	西	Eb（R）	Ⅵb	1965/6/3	ニホンジカ/角		(11.5)	0.6	0.5	9.1	劣化
図 72-7	168	B47	刺突具/骨針	西	—	Ⅴb5	1965/5/25	ニホンジカ?/角?		(5.3)	0.5	0.3	0.9	
図 72-8	264	B63	刺突具/骨針	西	Db（N）	Ⅵb	1965/6/5	陸獣/骨		(4.7)	0.4	0.3	0.5	
図 72-9	226	O238	髪針	西	Fb（V）	Ⅴc上面	—	ニホンジカ?/中手/中足骨		12.1	0.9	0.7	4.3	
図 72-10	234-2	O915	髪針	西	Dc（O）	Ⅵh	1965.－.－	?/?		(6.1)	0.5	0.5	1.0	赤漆。劣化
図 72-11	263	O863	髪針	西	Ea（Q）	Ⅵb	—	ニホンジカ/肩甲骨	abc, 左	(8.0)	3.9	3.2	5.9	近位端と後面が残存。赤漆
図 72-12	11	—	垂飾？	西	Da（M）	Ⅶa	1965/6/7	?/歯牙/イノシシ/下歯?	C, ♀?	(2.4)	1.0	1.0	—	（イノシシではない。大型獣の犬歯か?）
図 72-13	230	O204	垂飾	西	Eb（R）	Ⅴb5	—	イノシシ/下歯	I1, 右	5.8	1.0	0.8	3.4	
図 72-14	87		環状加工垂飾	西	Da（M）	Ⅵh	1965/6/7	小型獣/四肢骨		1.9	1.1	1.1	1.1	
図 72-15	266	O911	腰飾	西	Db（N）	Ⅵg	—	ニホンジカ/角		2.4	1.5	0.8	0.7	赤漆
図 72-16		O922	腰飾	西	Db（N）	Ⅵh	—	ニホンジカ/角		9.1	1.3	1.2	—	
図 72-17	O230	垂飾		西	Ec（S）	Ⅴ64	—	ニホンジカ/手根骨	R（橈側）, 右	2.3	1.9	1.2	3.8	靴形
図 73-1	228	B59	未製品	西	Eb（R）	Ⅵd	1965.－.－	イノシシ/腓骨	c, 左	(6.4)	1.2	0.8	3.4	上下端に横位擦痕
図 73-2	73	B30	未製品	西	Ed（T）	Ⅵe	—	/		(11.9)	4.6	2.5	3.9	
図 73-3	93	—	未製品/廃材	西	Ec（S）	Ⅵe?	1965.－.－	ニホンジカ/角		(5.8)	1.6	1.2	5.2	端部擦切 人工的な溝？
図 73-4	231	—	ヤス？	—	—	—	—	?/?		(5.5)	0.8	0.8	—	劣化。破片
図 73-5	219	—	ヤス状刺突具？	—	—	—	—	?/?		(7.1)	1.1	0.7	4.0	劣化
図 73-6	147	—	刺突具	—	—	—	—	ニホンジカ/角		6.1	1.8	1.0	3.6	
図 73-7	255	—	刺突具	—	—	—	1965.－.－	ニホンジカ/尺骨	abcd, 骨幹未癒合, 左	16.1	4.2	2.3	23.2	
図 74-1		O94	漆塗貝製品	東	Ba（E）	25		イシガイ科		11.3	(7.3)	—	—	台紙に貼付　出土時写真有
図 74-2			漆塗貝製品	東	Ba（E）	23		イシガイ科		10.4	16.7	—	—	出土時写真有
図 75-1			漆塗貝製品	西		Ⅵ		イシガイ科		11.2	18.9	—	—	出土時写真有
図 75-2		O81	漆塗貝製品	東	Ba（E）	23		イシガイ科		9.7	(12.3)	—	—	土壌ごと保存処理　出土時写真有
—	235	B25	製品？小片	東	Cd（L）	17	1965/4/28	哺乳類/?	fr	—	—	—	—	小片
—	273	—	未製品/廃材	東	Bb（F）	22	—	ニホンジカ/角	-	13.5	3.2	2.0	37.5	先端を研磨して突起を作出。擦り切り半裁
—	275	—	不明製品	東	Ca（I）	25	1965/5/2	ニホンジカ/尺骨	abcd, 骨端癒合完了, 左	15.0	4.2	2.2	26.2	
—	282	—	未製品/廃材	西	Ec（S）	Ⅵ	1965/4/27	ニホンジカ/角	-	15.2	2.5	0.8	21.2	擦り切り半裁

※部位所見は、角、枝:下顎枝動物遺体の凡例（続刊）に依拠

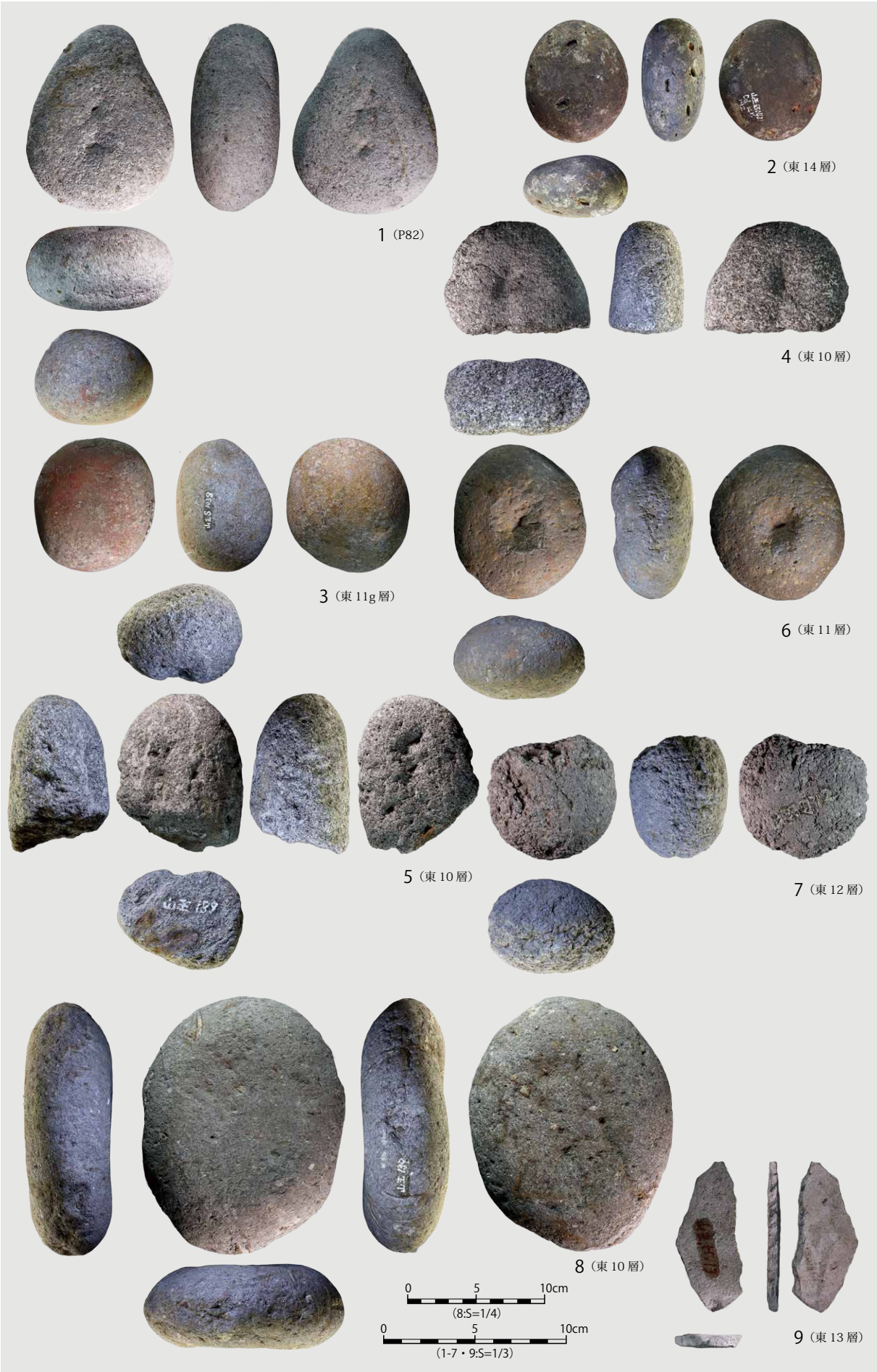
参考文献

一迫町教育委員会1996『国史跡山王囲遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
一迫町教育委員会1997『国史跡山王囲遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
一迫町教育委員会1998『国史跡山王囲遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
伊東信雄1950「東北地方の彌生式文化」『文化』2-4，東北大学文学会
伊東信雄・須藤隆1985『山王囲遺跡調査図録』一迫町教育委員会
金子昭彦 2006「東北地方北部における縄文晩期の『装飾品』(1)」『紀要』ＸＸＶ，㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子浩昌・忍沢成視1986『骨角器の研究　縄文篇Ⅰ』考古民俗叢書22，慶友社
上條信彦2015『縄文時代における脱殻・粉砕技術の研究』六一書房
上條信彦・編2016『八郎潟沿岸における低湿地遺跡の研究秋田県五城目町中山遺跡発掘調査報告書』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター
上條信彦2018「東北地方の稲作の展開と農耕空間の形成」『境界の考古学』日本考古学協会2018年度静岡大会研究発表資料集
草間俊一・金子浩昌1971『貝鳥貝塚』花泉町教育委員会・岩手県文化財愛護協会
栗原市教育委員会2007『国史跡山王囲遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
栗原市教育委員会2013『史跡山王囲遺跡保存整備事業報告書』
後藤信祐 1986・1987「縄文後晩期の刀剣形石製品の研究」上・下『考古学研究』33-3・4，考古学研究会
佐藤由紀夫2012「東北北部出土の弥生系磨製石器について」『籾』弥生時代研究会
杉山浩平2010『東日本弥生社会の石器研究』六一書房
杉山浩平2019「東北・関東地方の弥生時代石器研究」『考古学ジャーナル』721号，ニュー・サイエンス社
須藤　隆1970「青森県大畑町二枚橋遺跡出土の土器・石器について」『考古学雑誌』56-2，日本考古学会，pp.10-65
須藤　隆1987「東日本における弥生文化の受容」『考古学雑誌』73，日本考古学会，pp.1-42
須藤　隆1995『縄文時代晩期貝塚の研究２　中沢目貝塚Ⅱ』東北大学文学部考古学研究会
須藤　隆1999「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究』纂修堂，pp.29-80
須藤　隆・工藤哲司1991「東北地方弥生文化の展開と地域性」『北からの視点日本考古学協会宮城・仙台大会シンポジウム資料集』pp.97-114
高瀬克範2004『本州島東北部の弥生社会誌』六一書房
東北考古学会1981『瀬野遺跡 青森県下北郡脇野沢村瀬野遺跡の研究』
東北大学文学部考古学研究室1995『縄文時代晩期貝塚の研究２ 中沢目貝塚Ⅱ』
長野県埋蔵文化財センター1998『松原遺跡 縄文時代』（長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第27集）日本道路公団名古屋建設局
町田勝則1996「石器の研究法」『長野県の考古学 ㈶長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ』長野県埋蔵文化財センター，pp.139-171
吉井守正・後藤隼次・片田正人1997「北部北上山地古・中生層中のチャートの主成分及び微量成分」『地質調査所月報』48-10，pp.567-584

図　　版



図版 1　山王囲遺跡東区 7・10 ～ 14 層出土石器 1、15～26 層出土石器 1

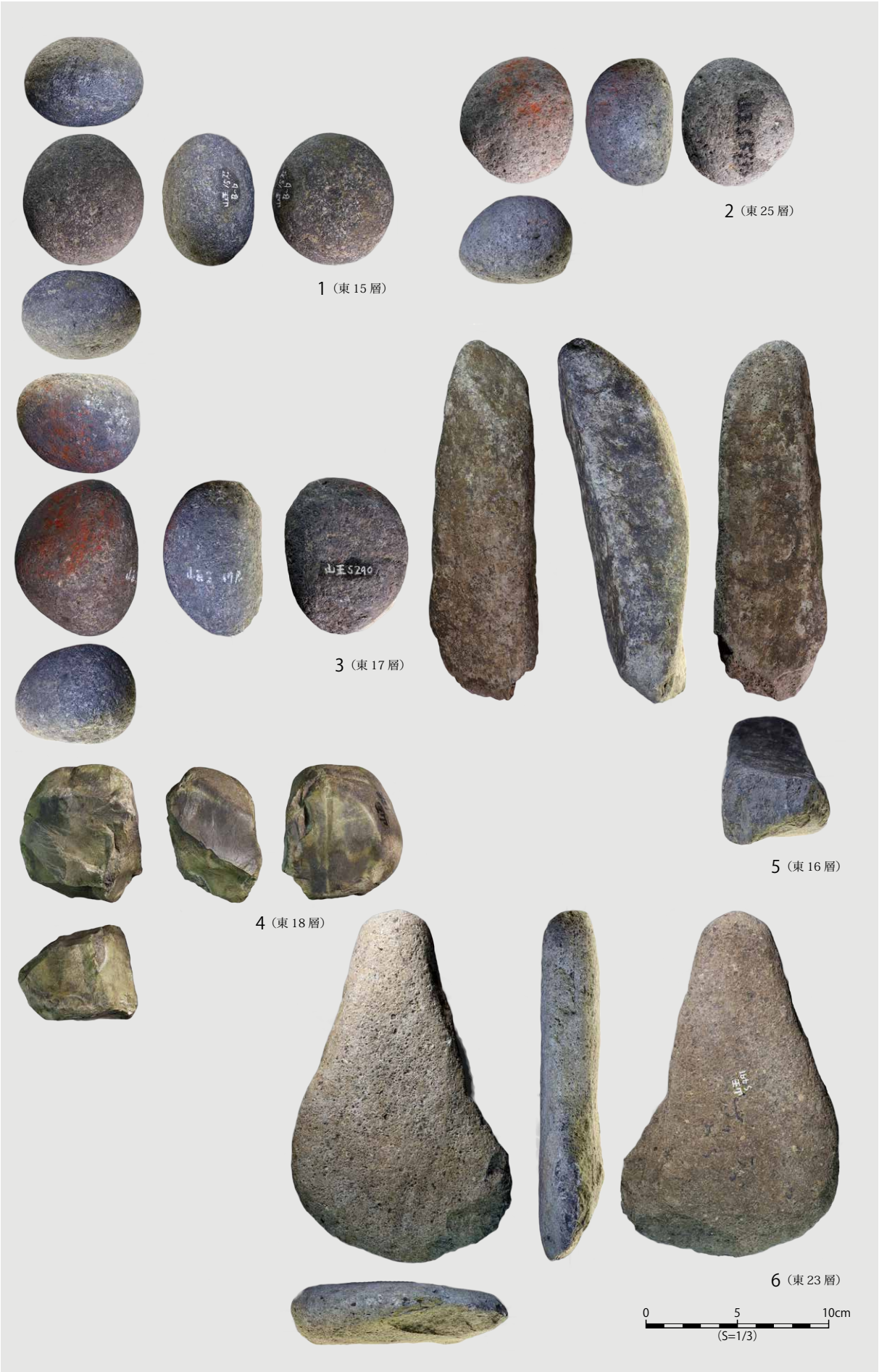


図版２　山王囲遺跡東区 10 ～ 14 層出土石器２

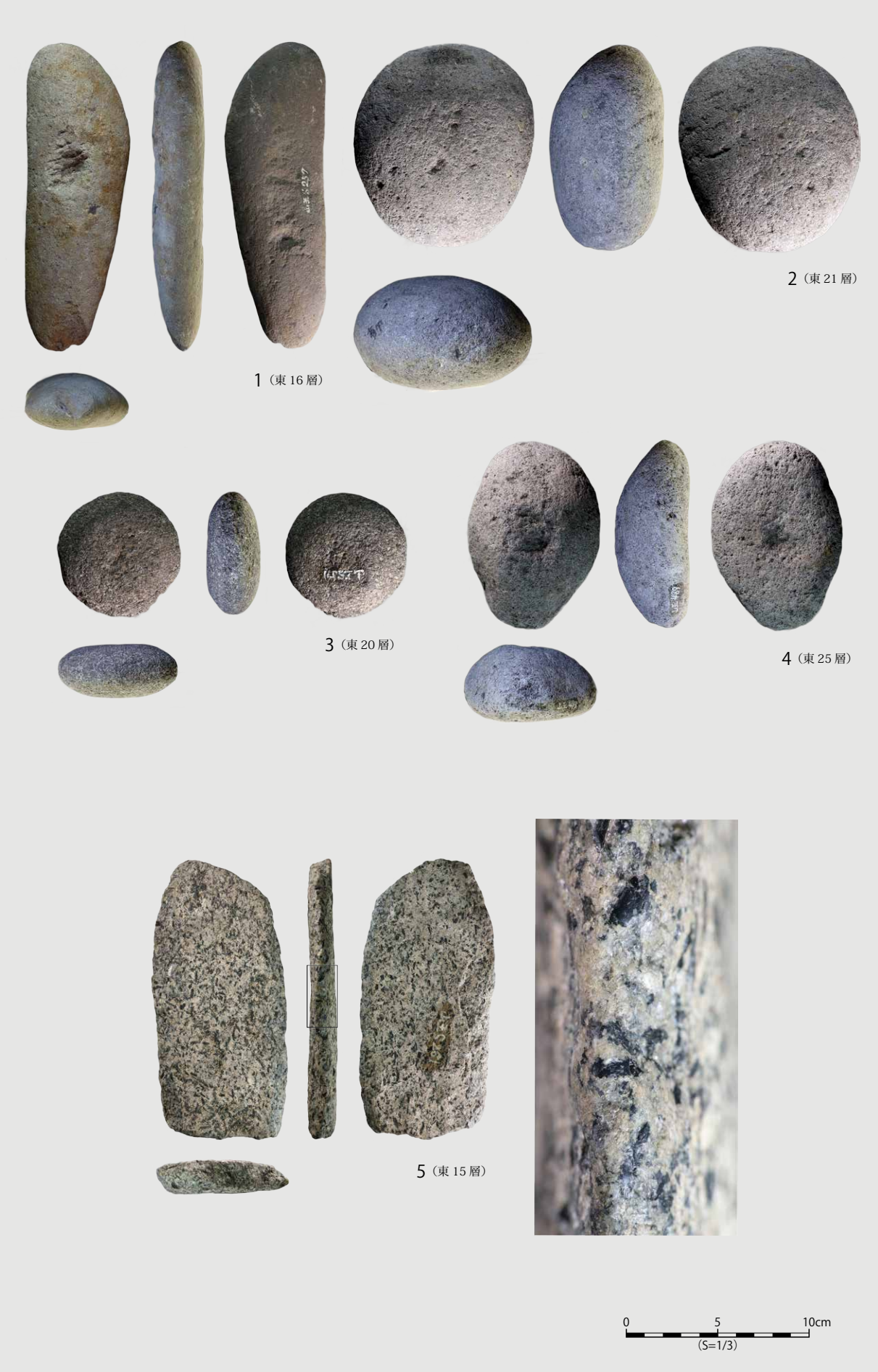
図版３　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器２

図版４　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器３

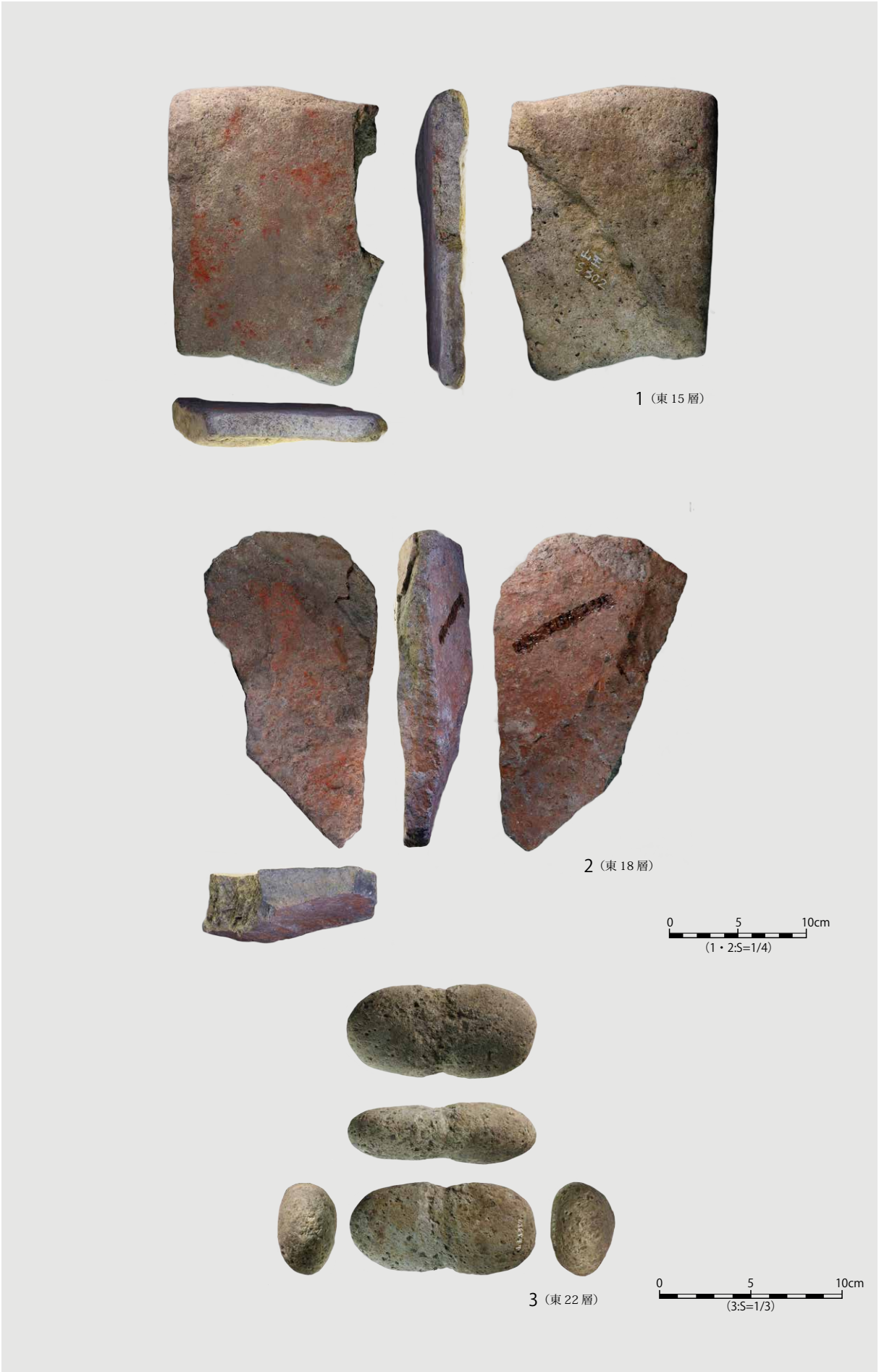
図版５　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器４



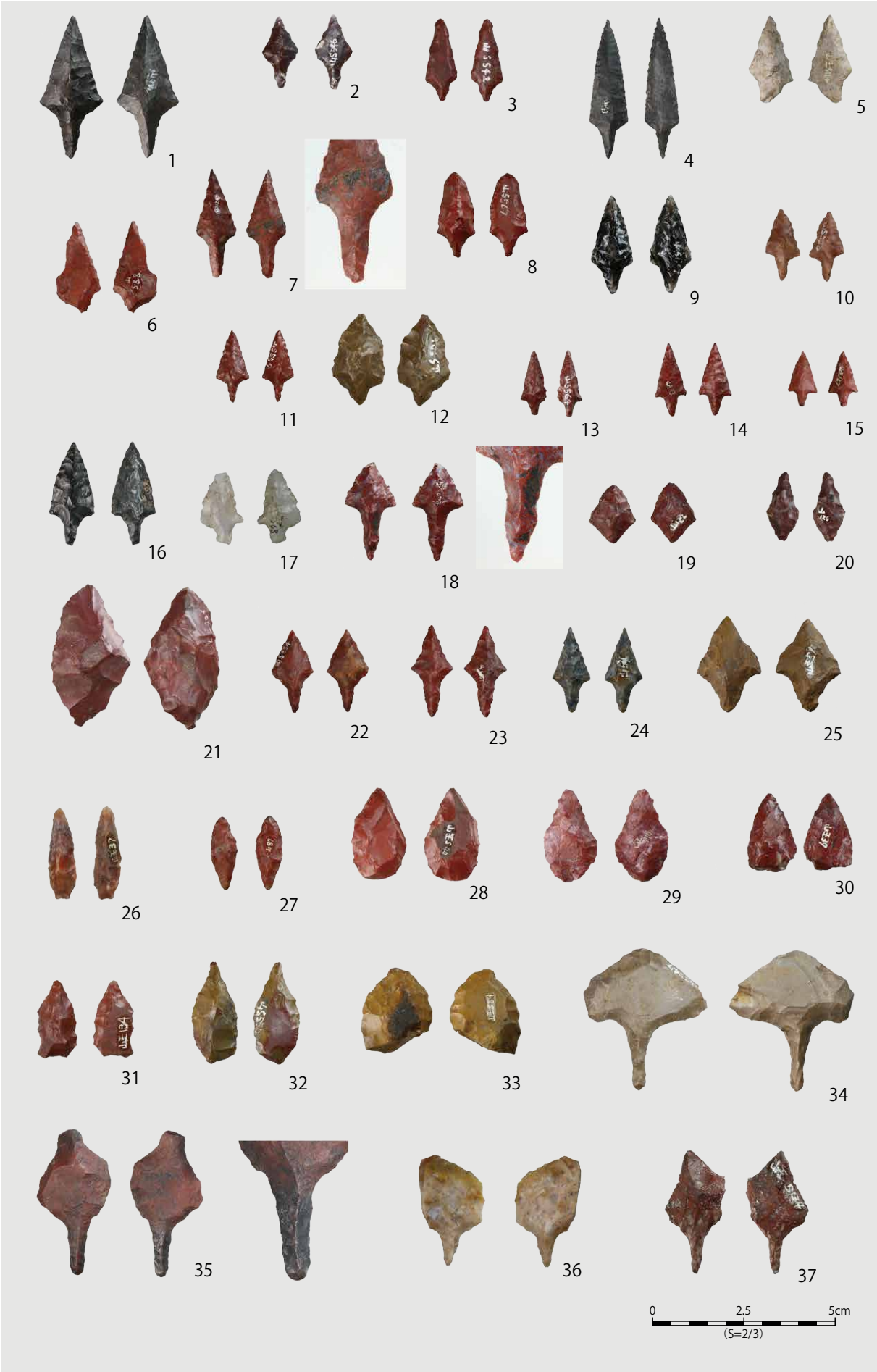
図版６　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器５



図版７　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器６



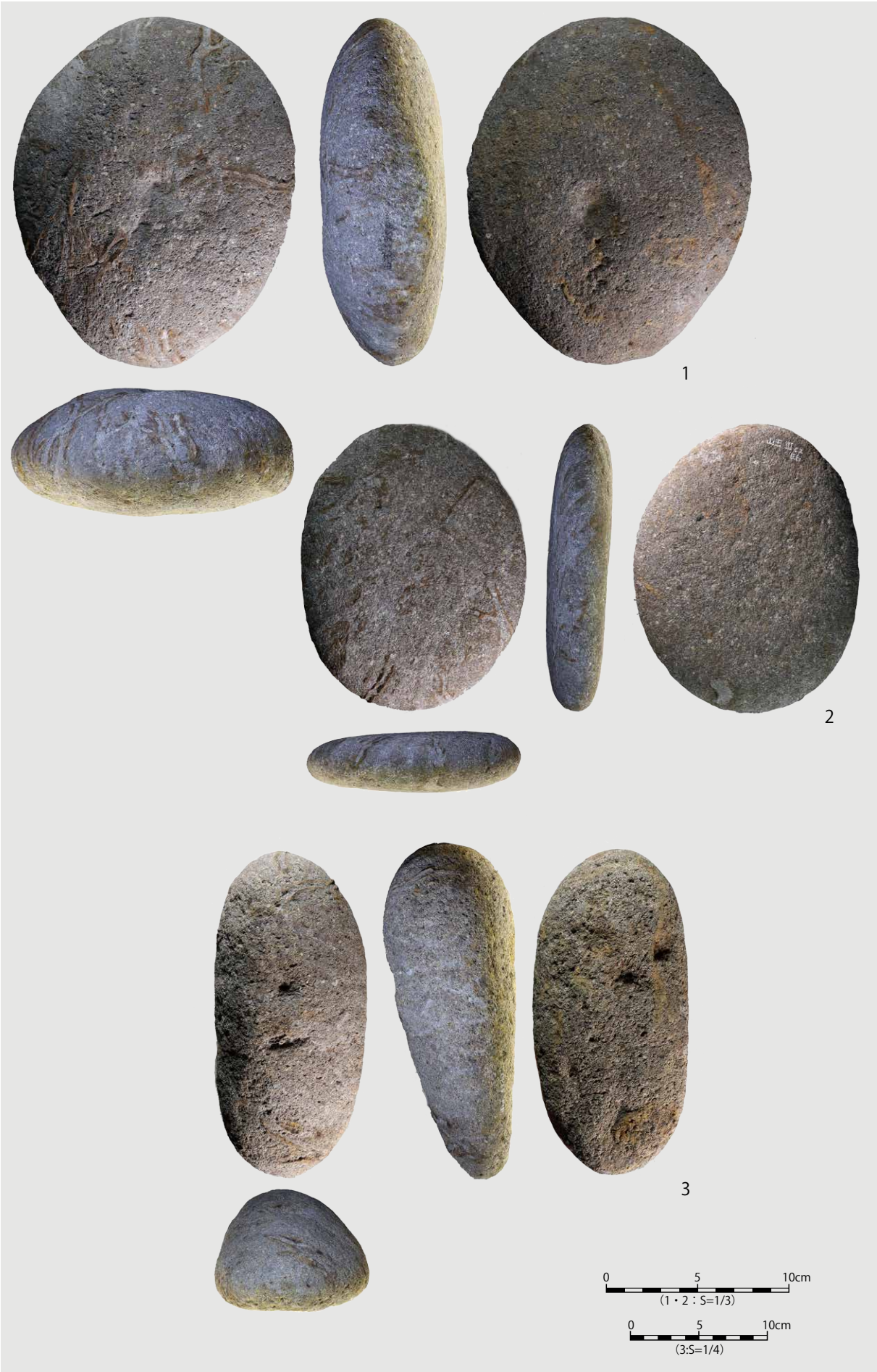
図版８　山王囲遺跡東区 15 ～ 26 層出土石器７



図版９　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器１

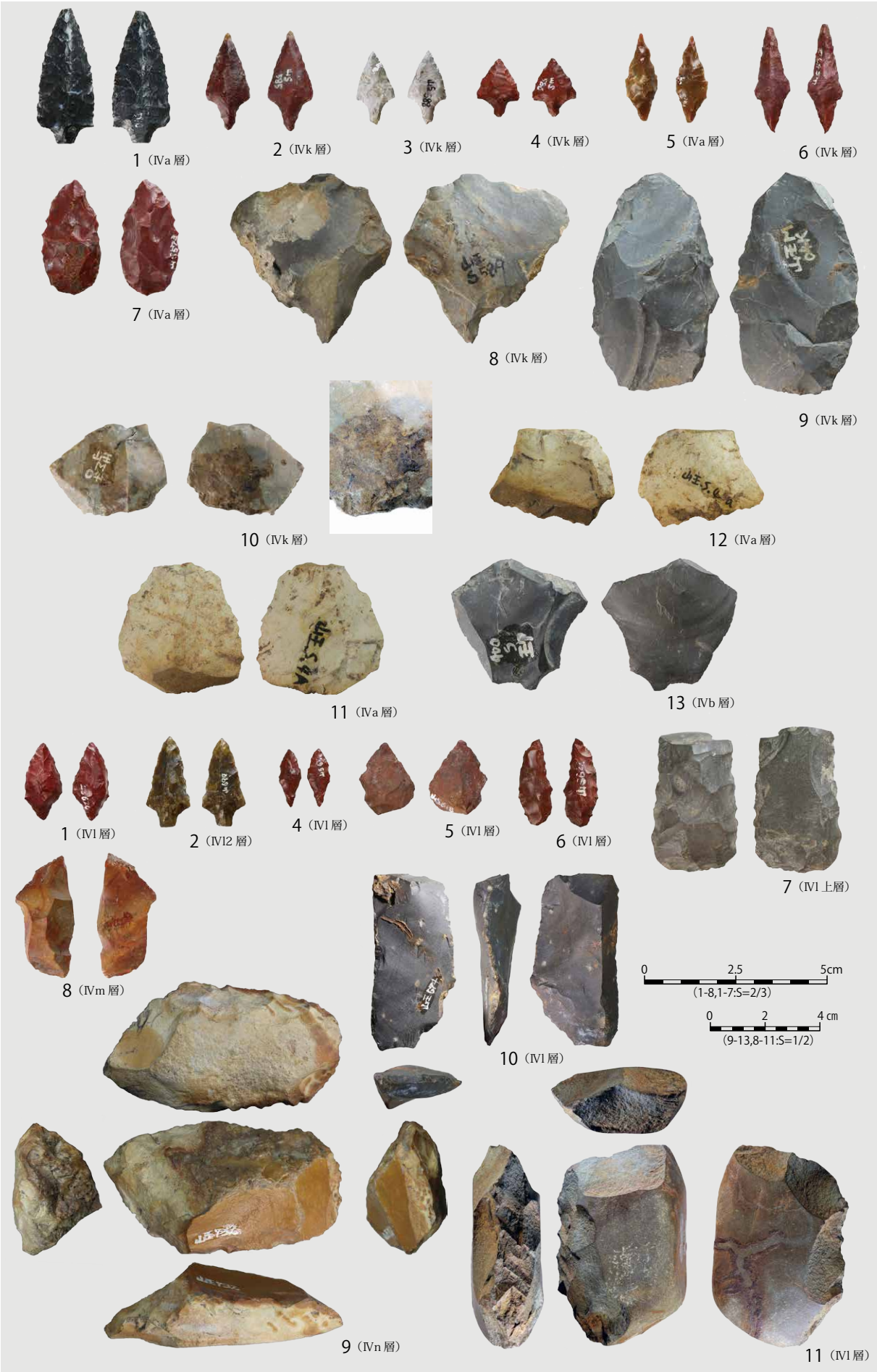
図版 10　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器２

図版 11　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器３

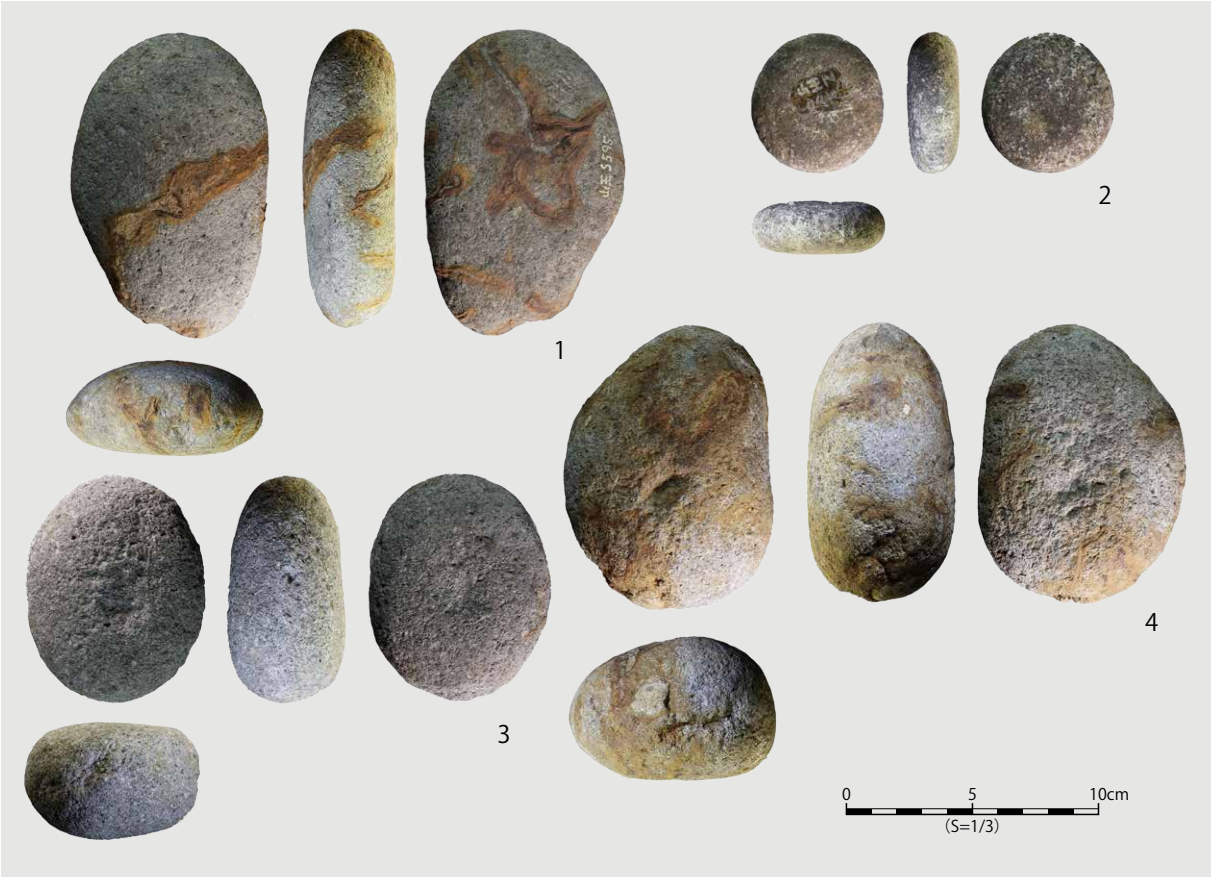


図版 12　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器４

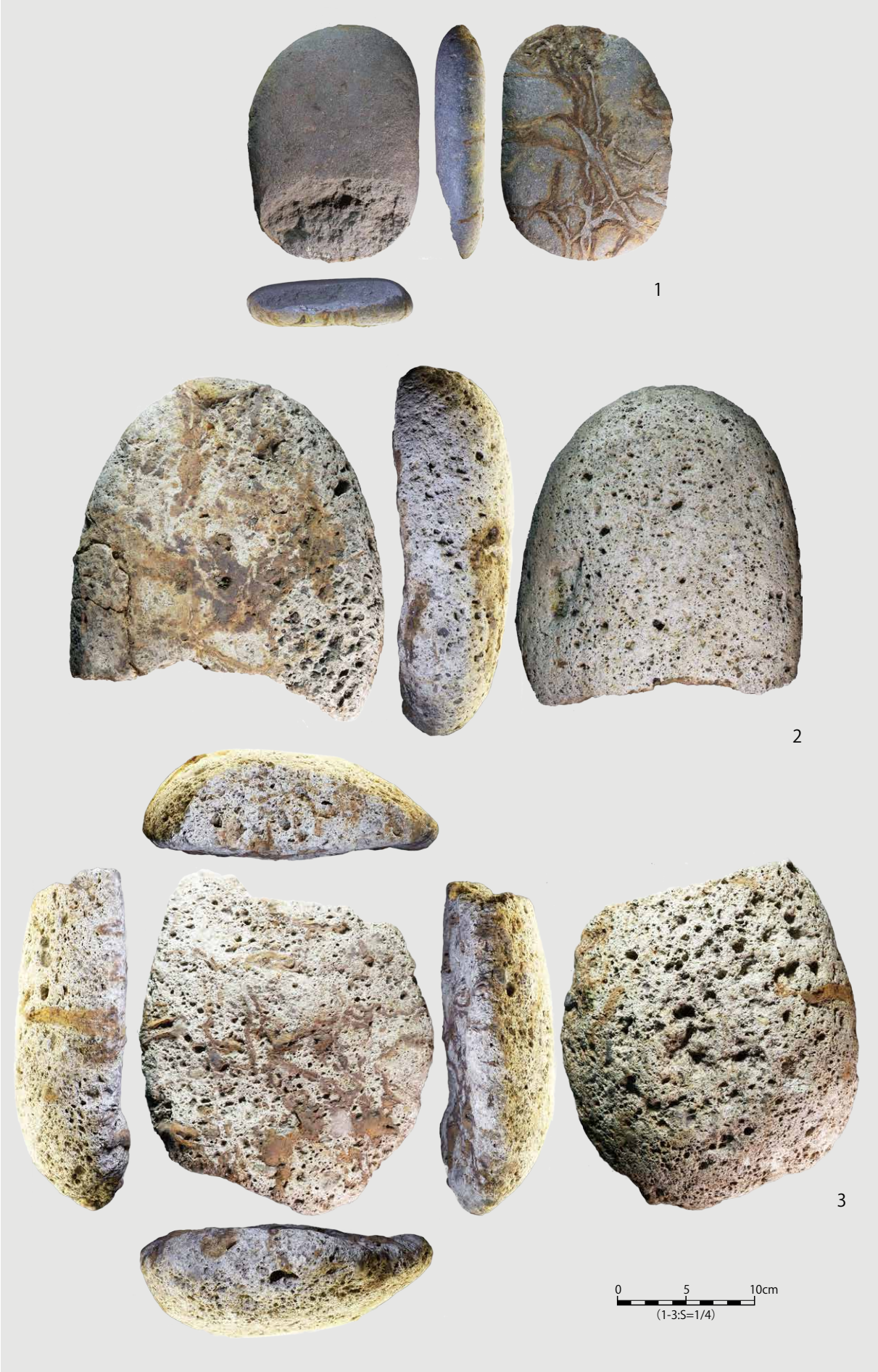
図版 13　山王囲遺跡西区Ⅲ層出土石器５



図版 14　山王囲遺跡西区Ⅳ上層出土石器１・Ⅳ下層出土石器１



図版 15　山王囲遺跡西区Ⅳ上層出土石器２

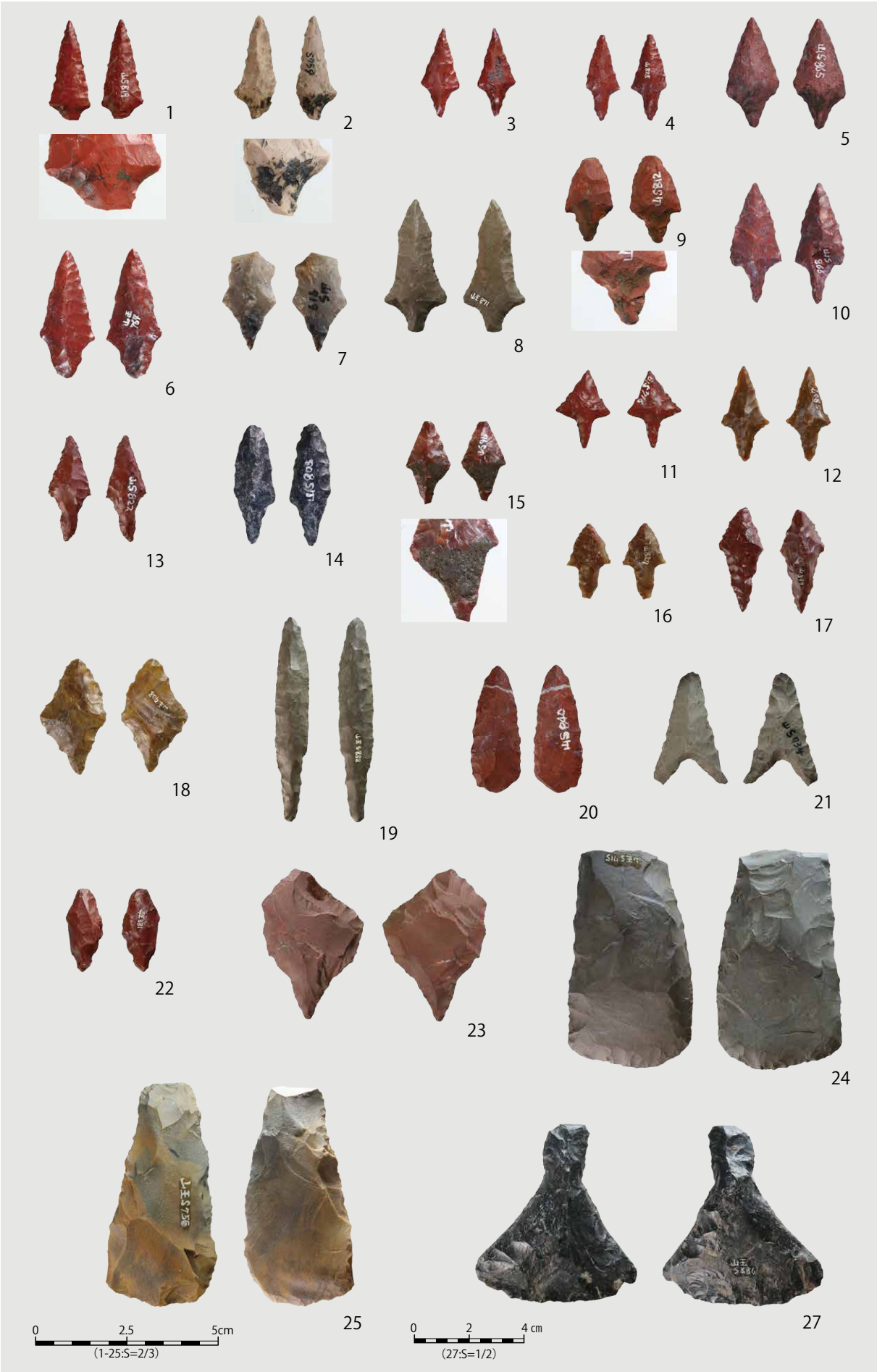


図版 16　山王囲遺跡西区Ⅳ上層出土石器３

図版 17　山王囲遺跡西区Ⅳ下層出土石器２

図版 18　山王囲遺跡西区Ⅳ下層出土石器３

図版 19　山王囲遺跡西区Ⅳ下層出土石器４



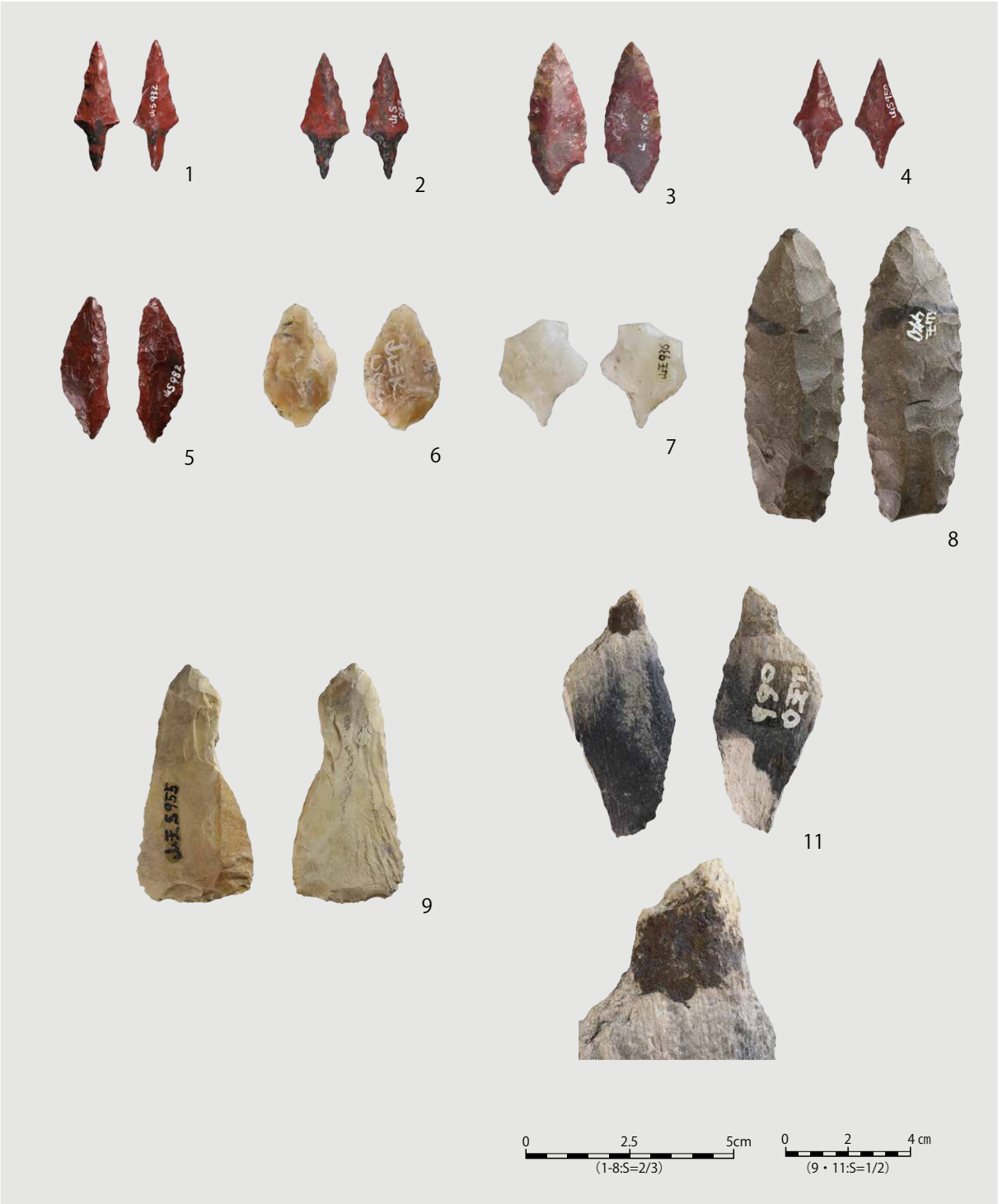
図版 20　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器 1

図版 21　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器２

図版 22　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器３

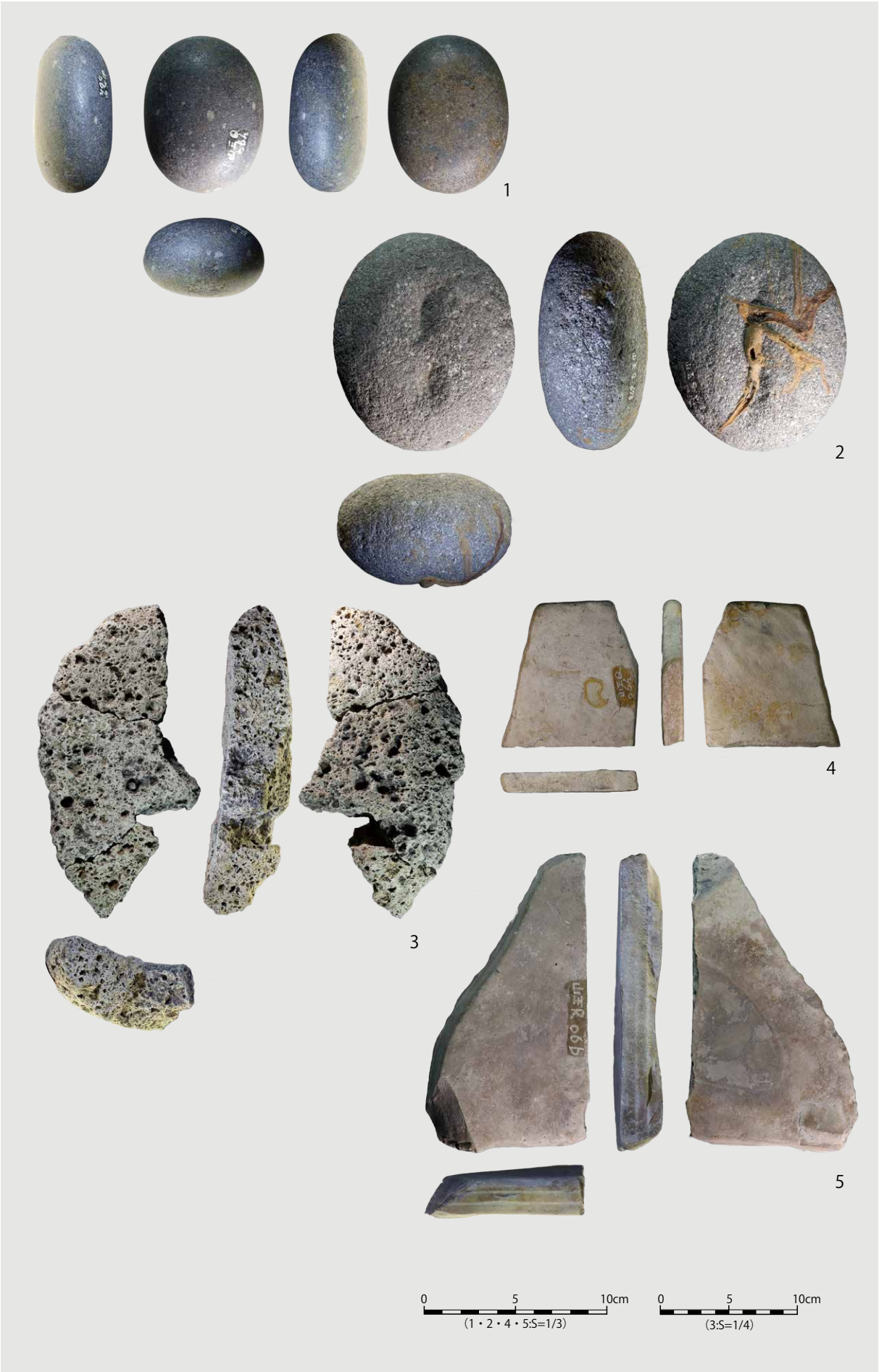
図版 23　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器４

図版 24　山王囲遺跡西区Ⅴ層出土石器５

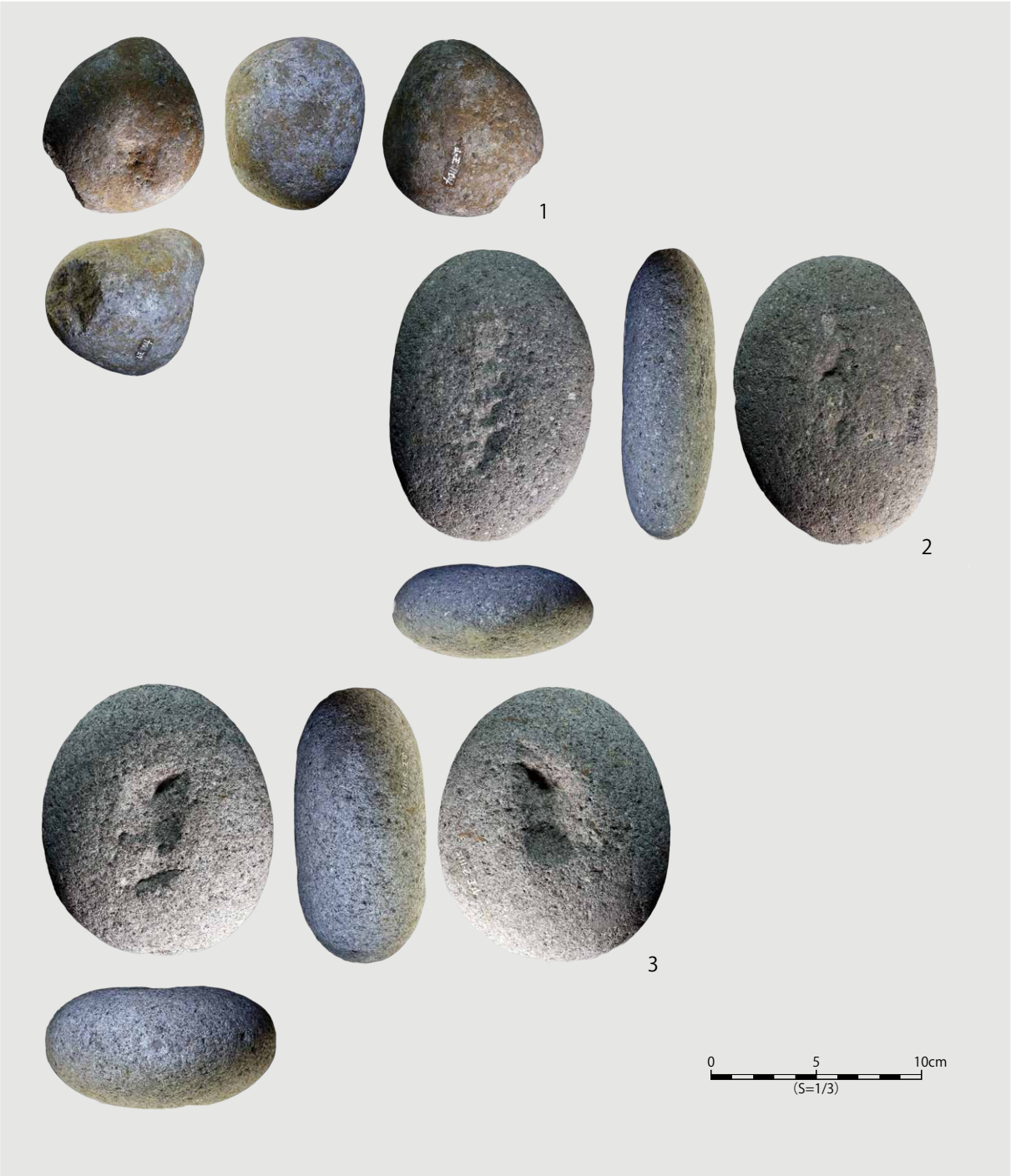


図版 25　山王囲遺跡西区Ⅵ層出土石器 1

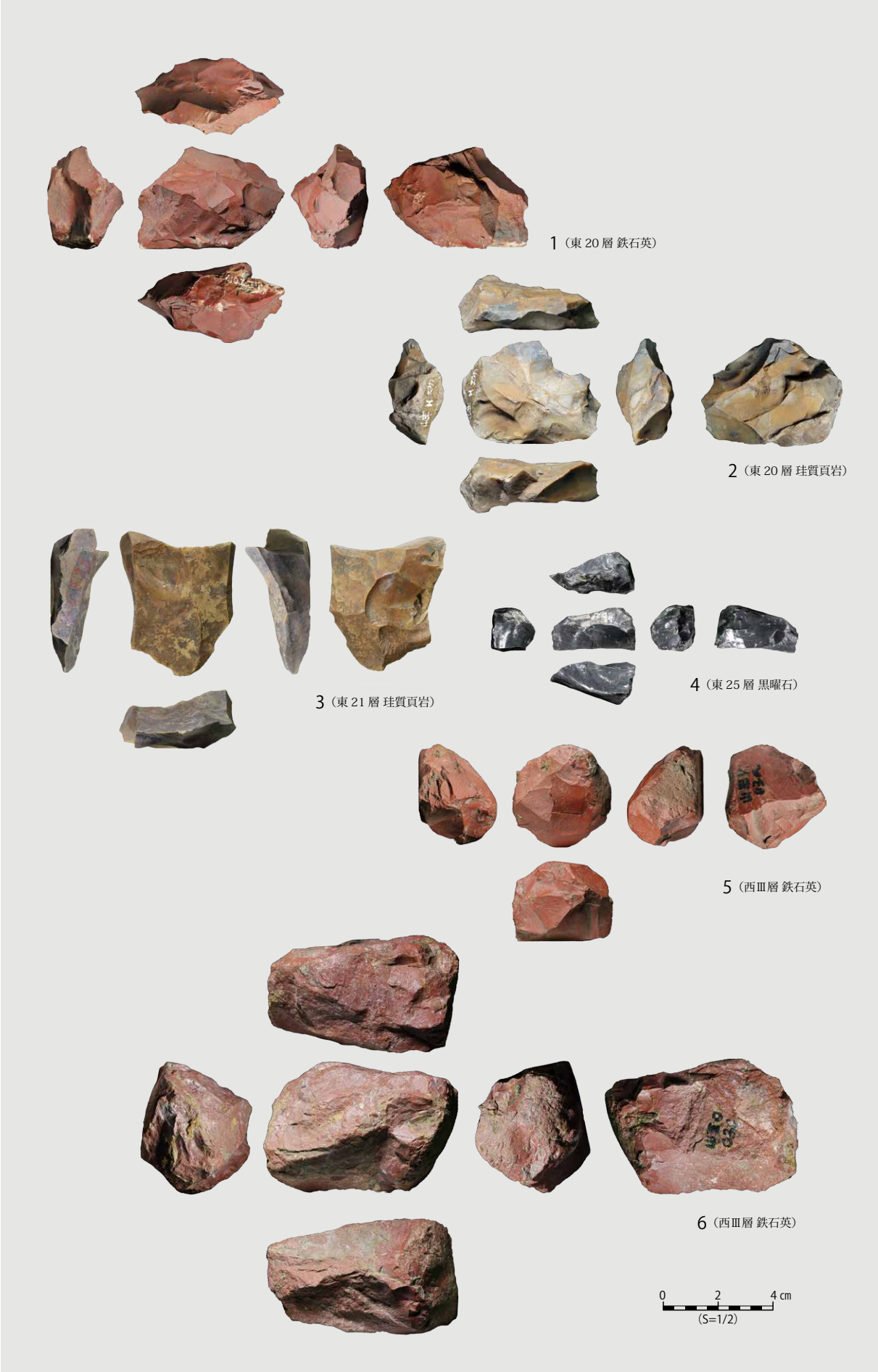
図版 26　山王囲遺跡西区Ⅵ層出土石器２



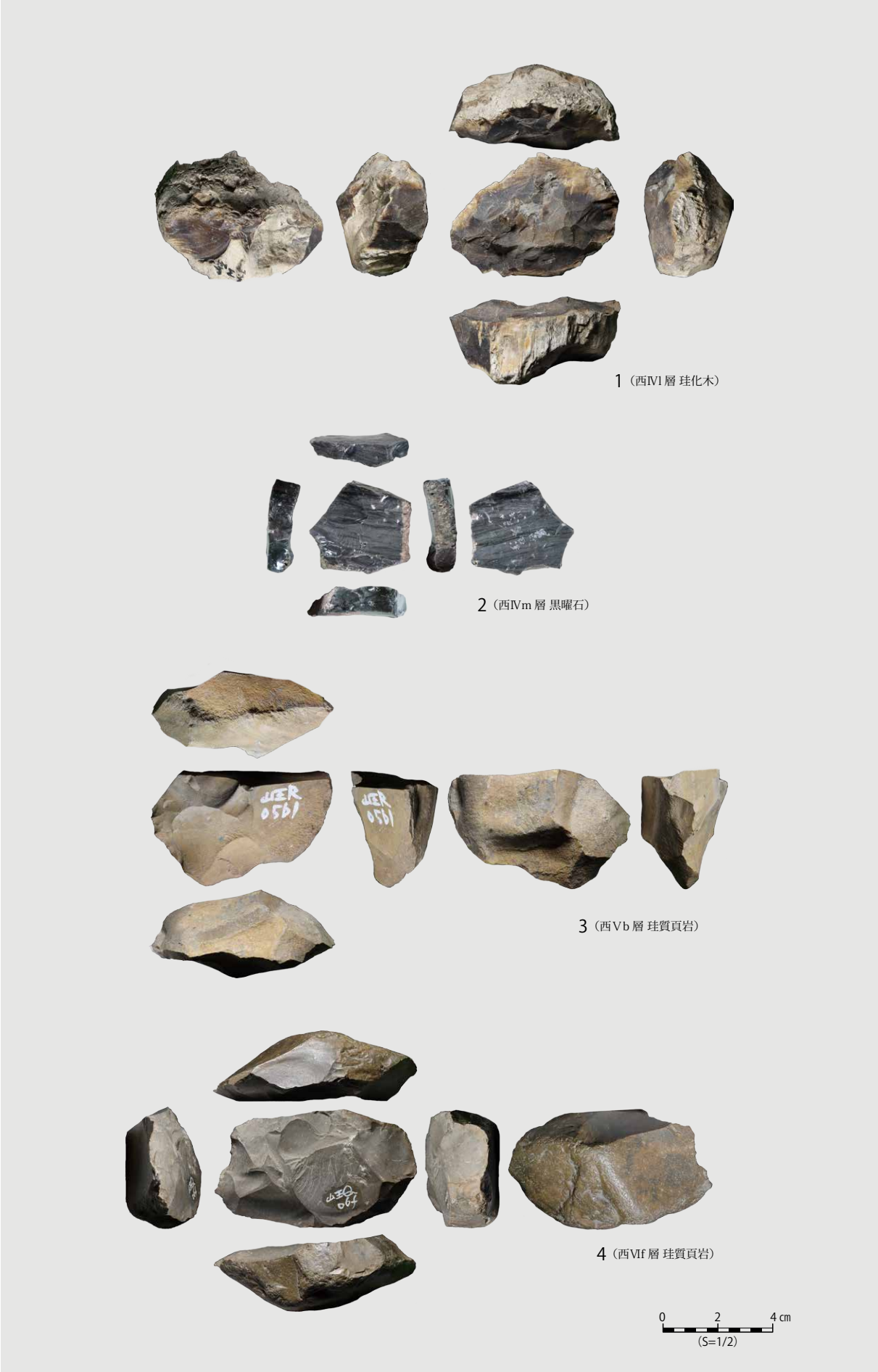
図版 27　山王囲遺跡西区６層出土石器３



図版 28　山王囲遺跡西区Ⅶ層出土石器

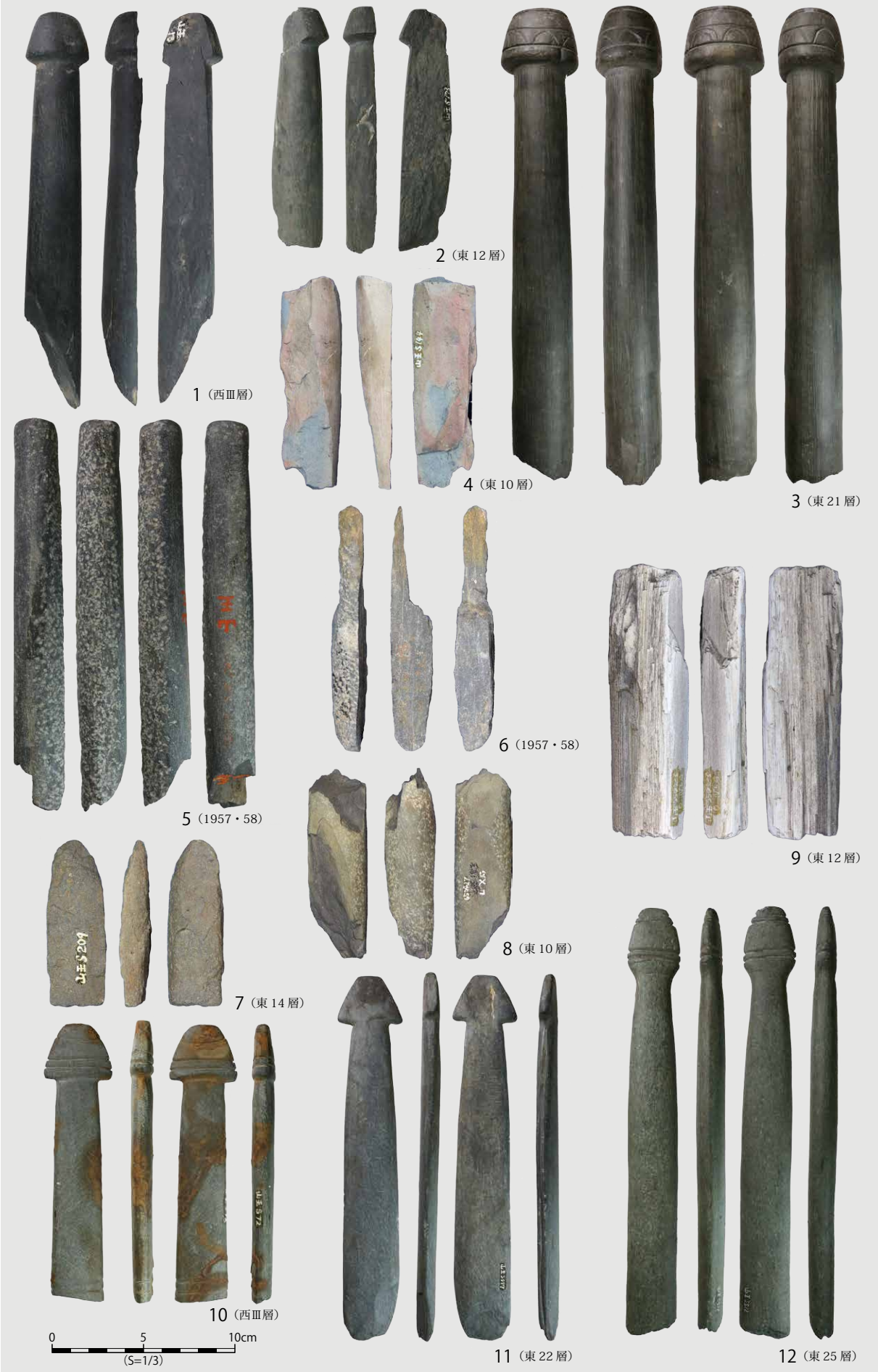


図版 29　山王囲遺跡出土石核 1



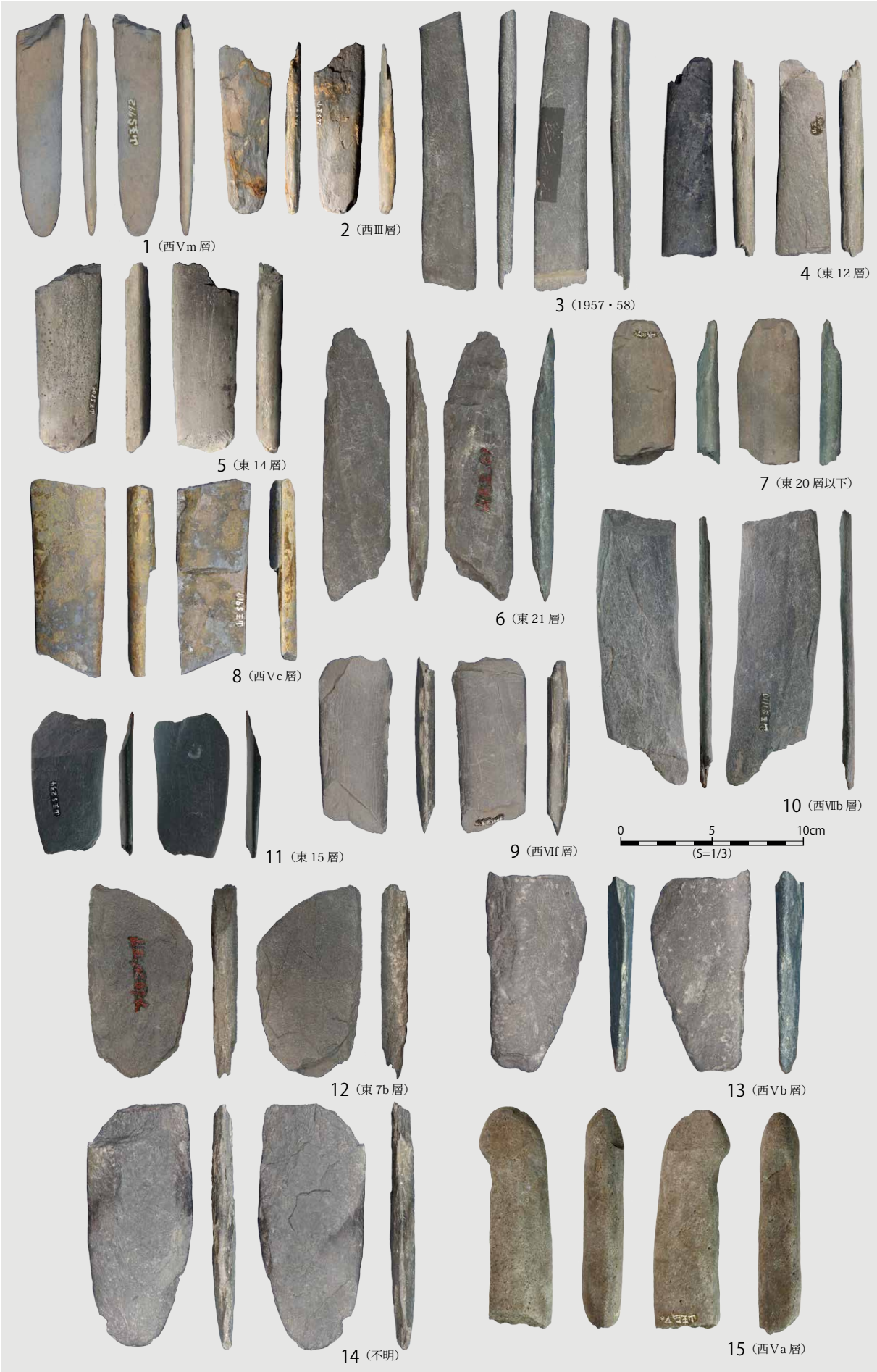
図版 30　山王囲遺跡出土石核２

図版 31　山王囲遺跡出土剥片



図版 32　山王囲遺跡石製品 1　石棒・石刀

図版 33　山王囲遺跡石製品２　石刀



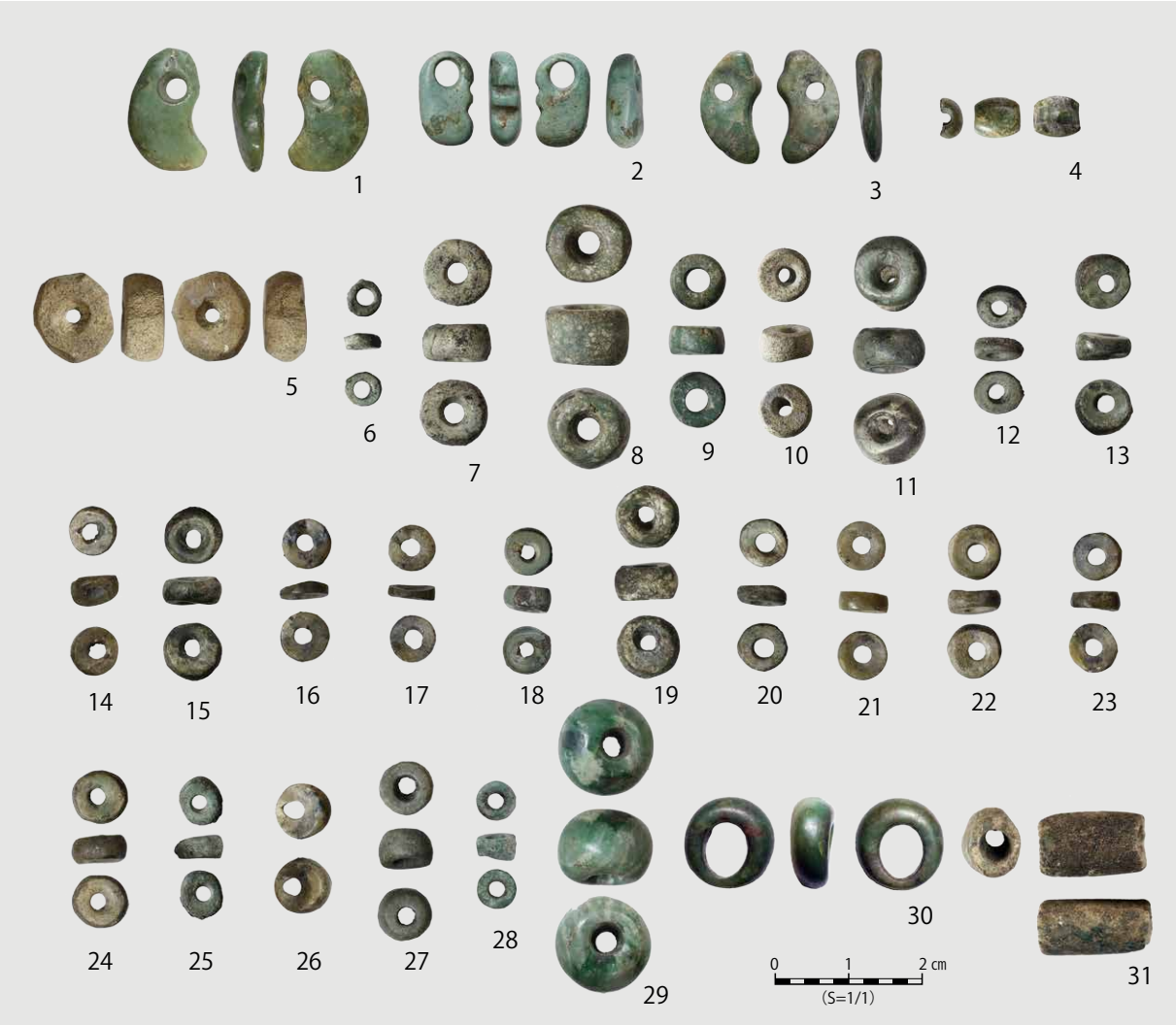
図版 34　山王囲遺跡石製品３　石刀

図版 35　山王囲遺跡石製品４　石剣、石刀・石剣類、独鈷状石器

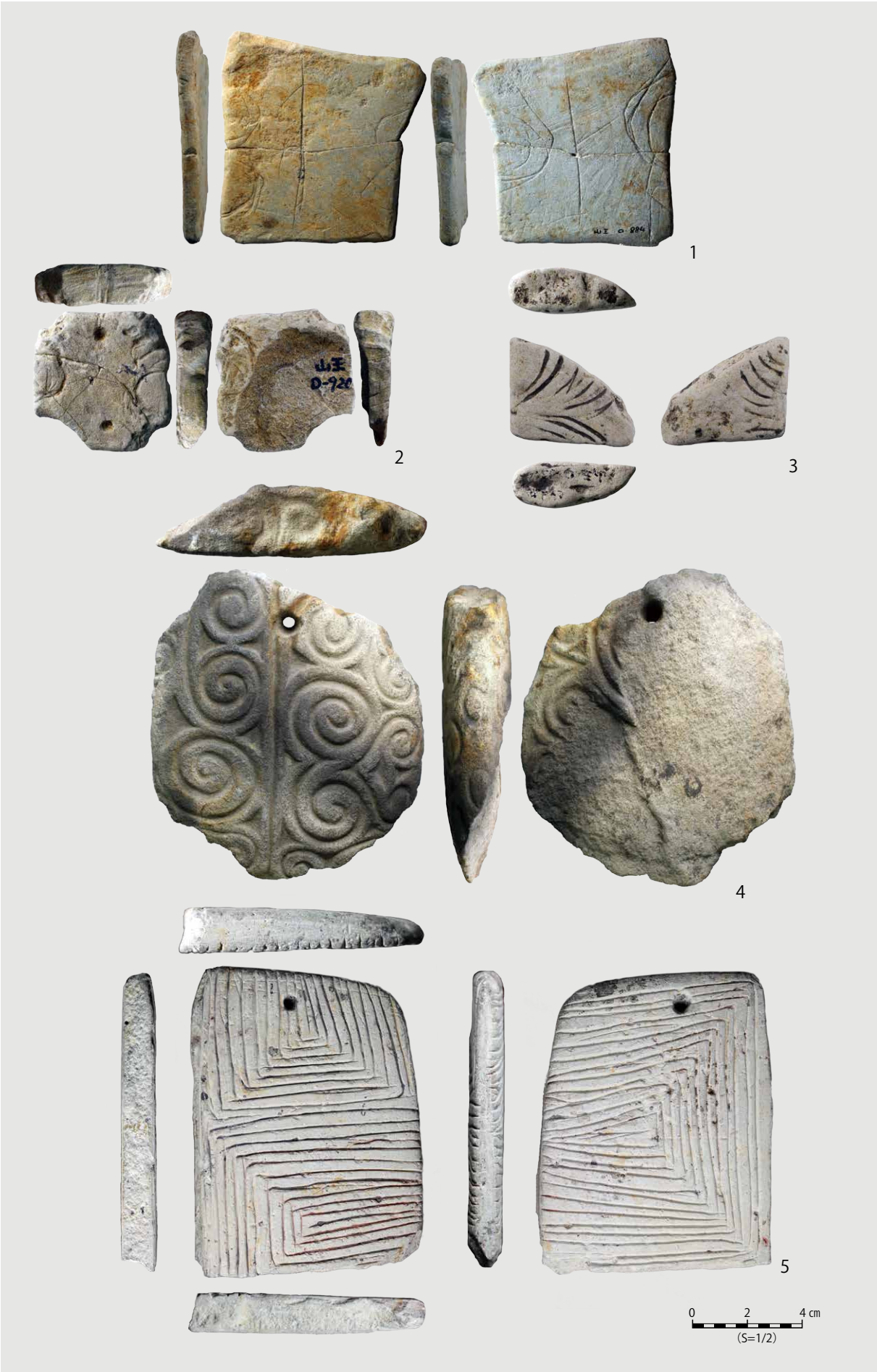
図版 36　山王囲遺跡石製品５　円盤状石製品１

図版 37　山王囲遺跡石製品６　円盤状石製品２

図版 38　山王囲遺跡石製品７　円盤状石製品３・異形礫



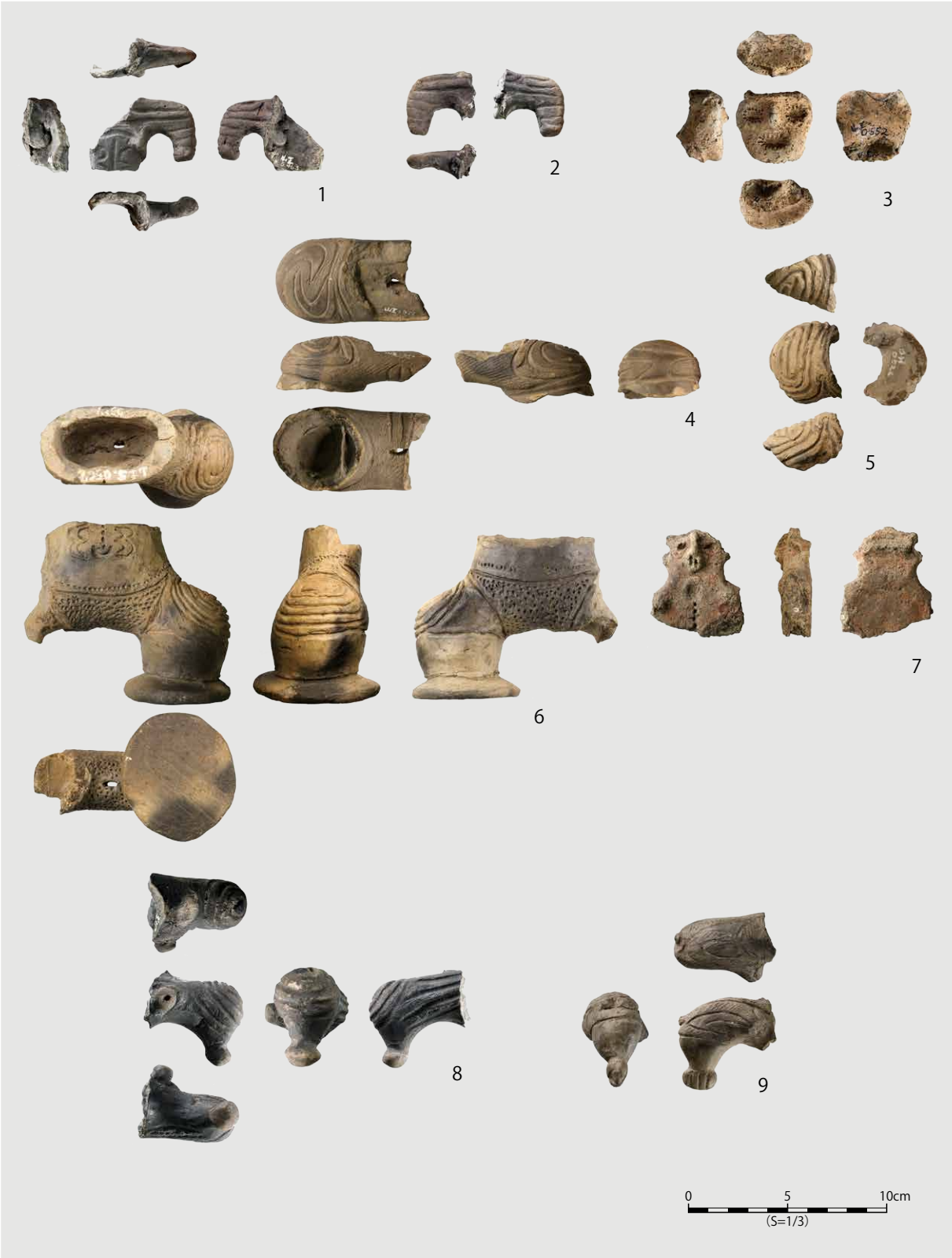
図版 39　山王囲遺跡石製品８　石製玉類



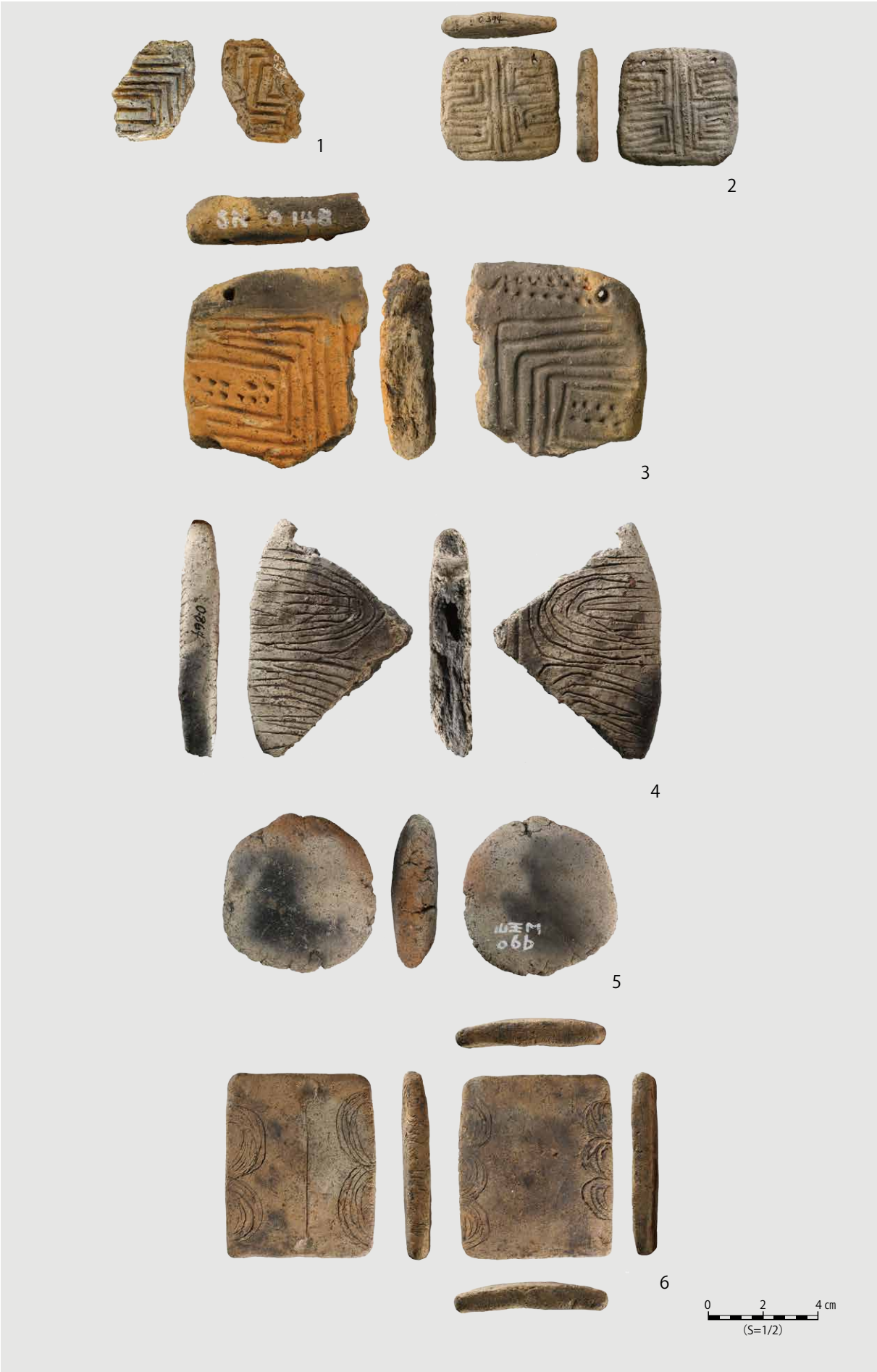
図版 40　山王囲遺跡石製品９ 岩版

図版 41　山王囲遺跡石製品 10 その他 石製品

図版 42　山王囲遺跡土偶 1

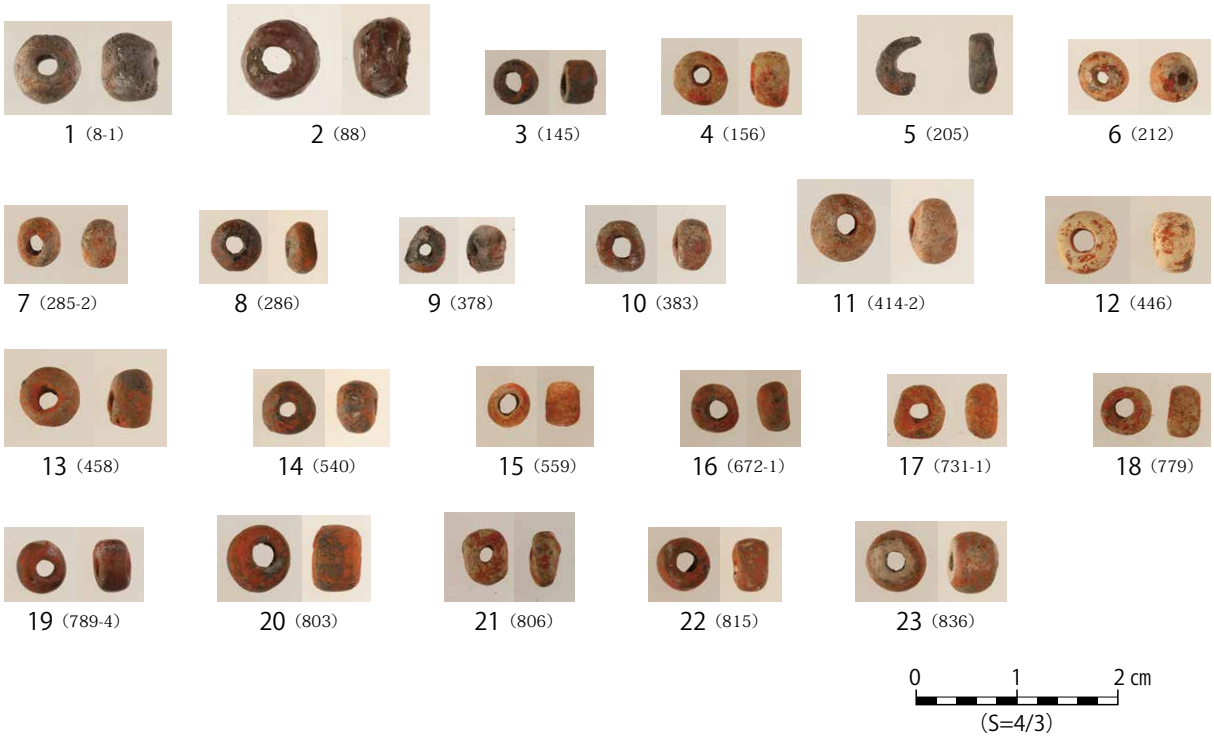


図版 43　山王囲遺跡土偶２

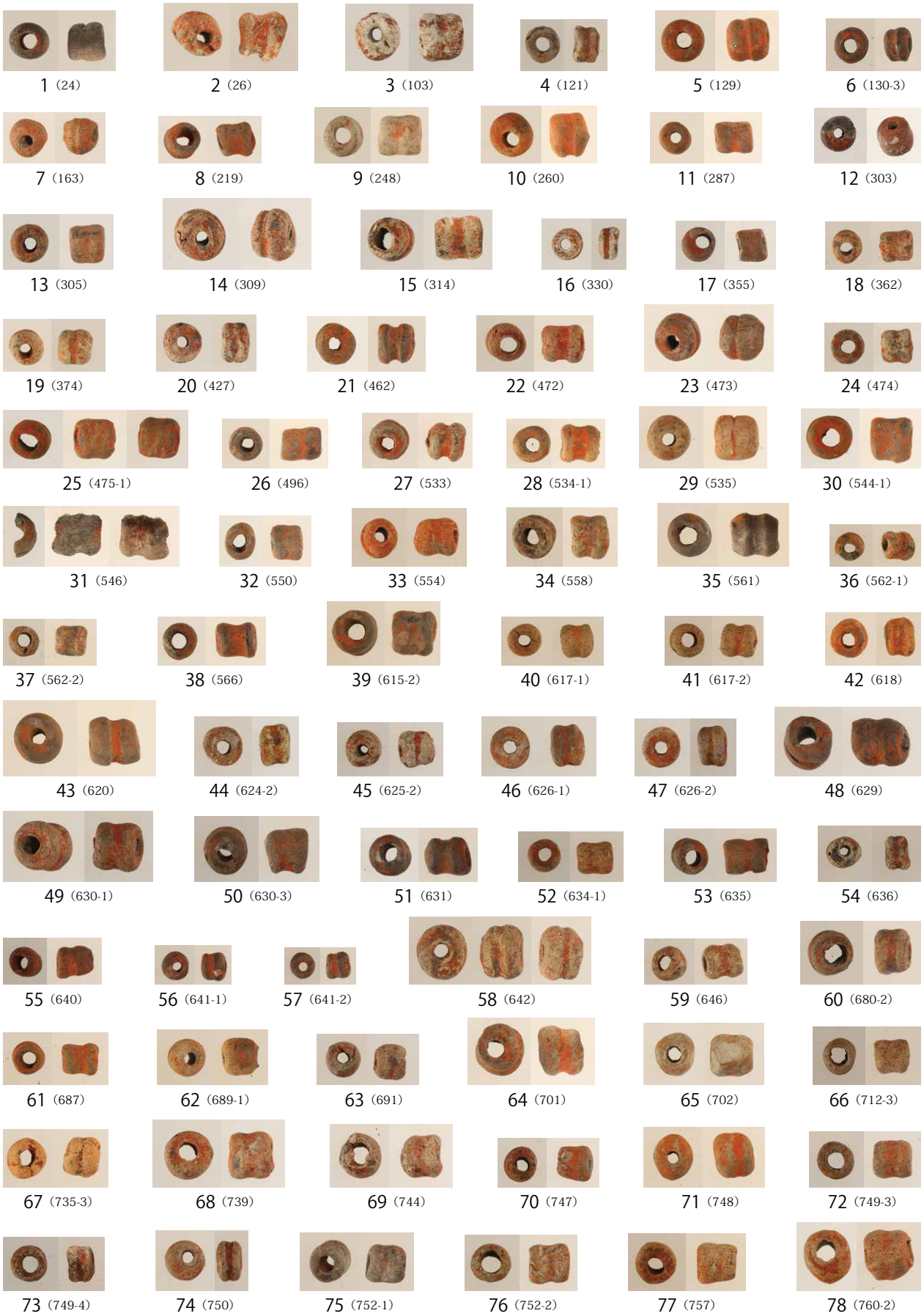


図版 44　山王囲遺跡土版

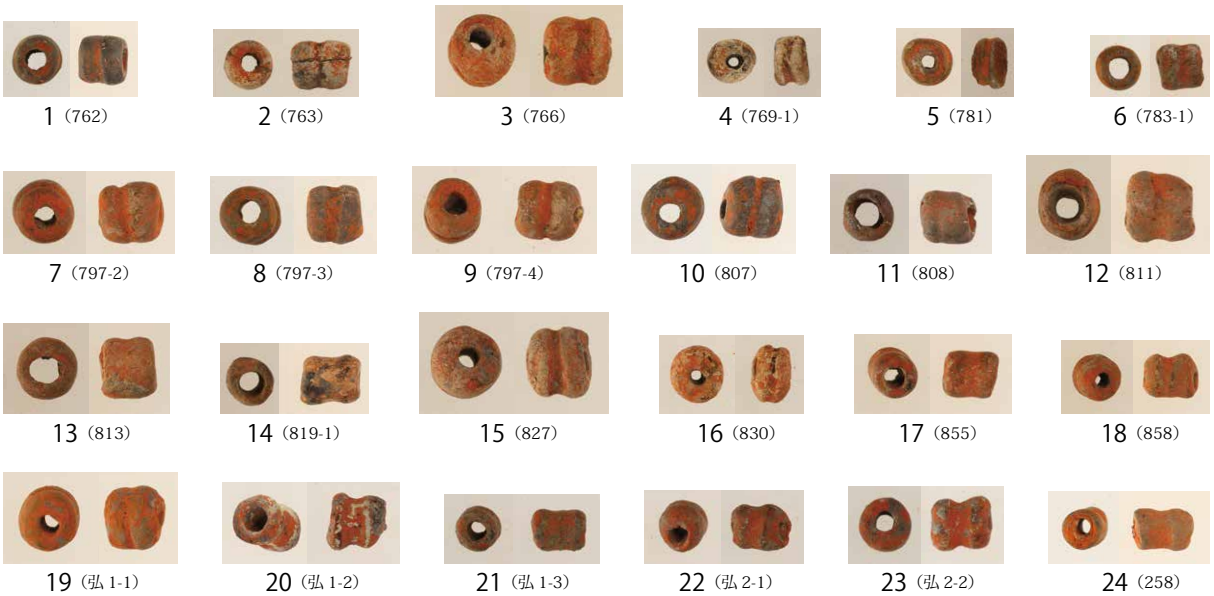
図版 45　山王囲遺跡土玉類 1（丸玉・棗玉）



図版 46　山王囲遺跡土玉類２（平玉）



図版 47　山王囲遺跡土玉類３（括れ玉Ａ）



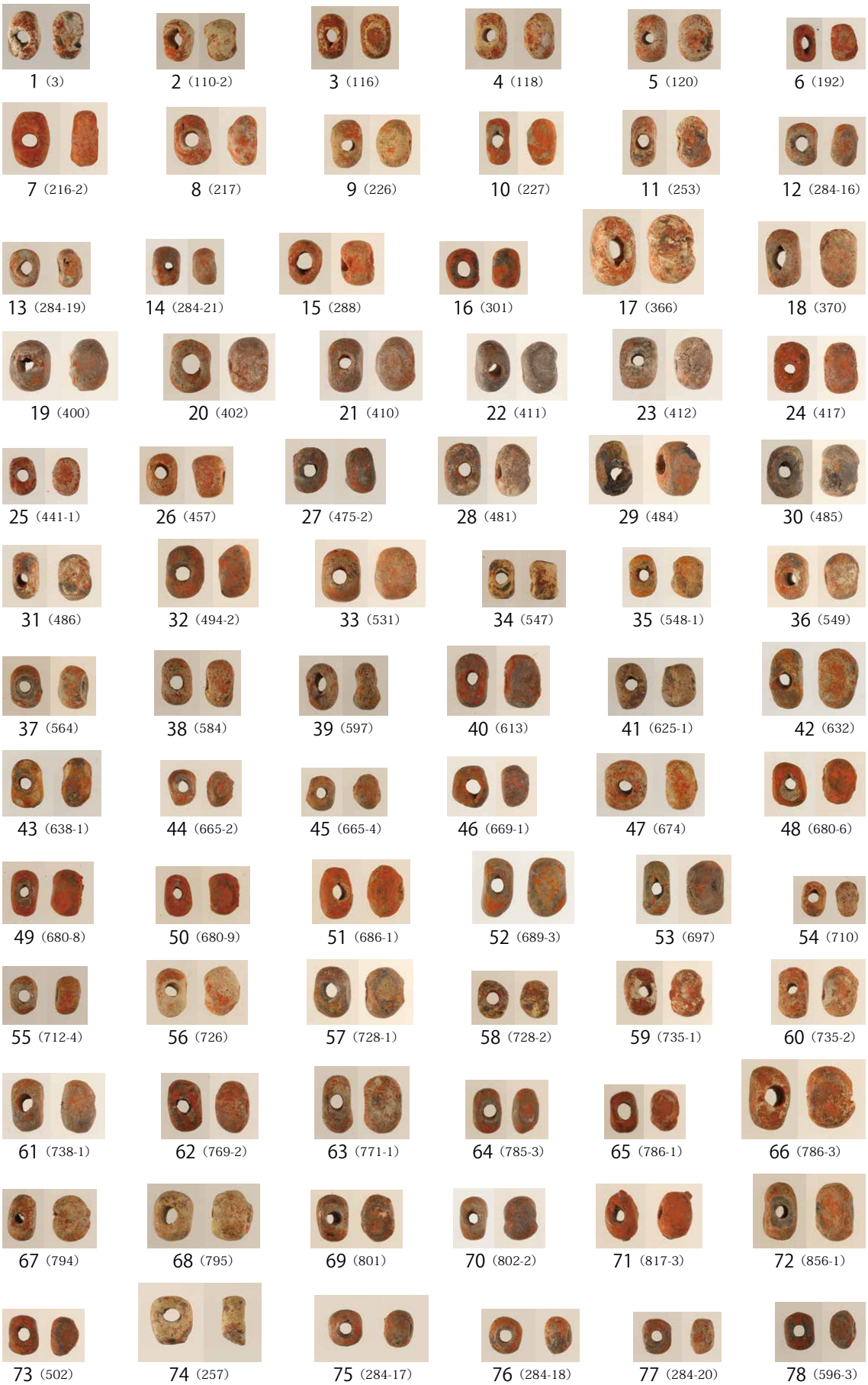
括れ玉Ａ

括れ玉Ｂ

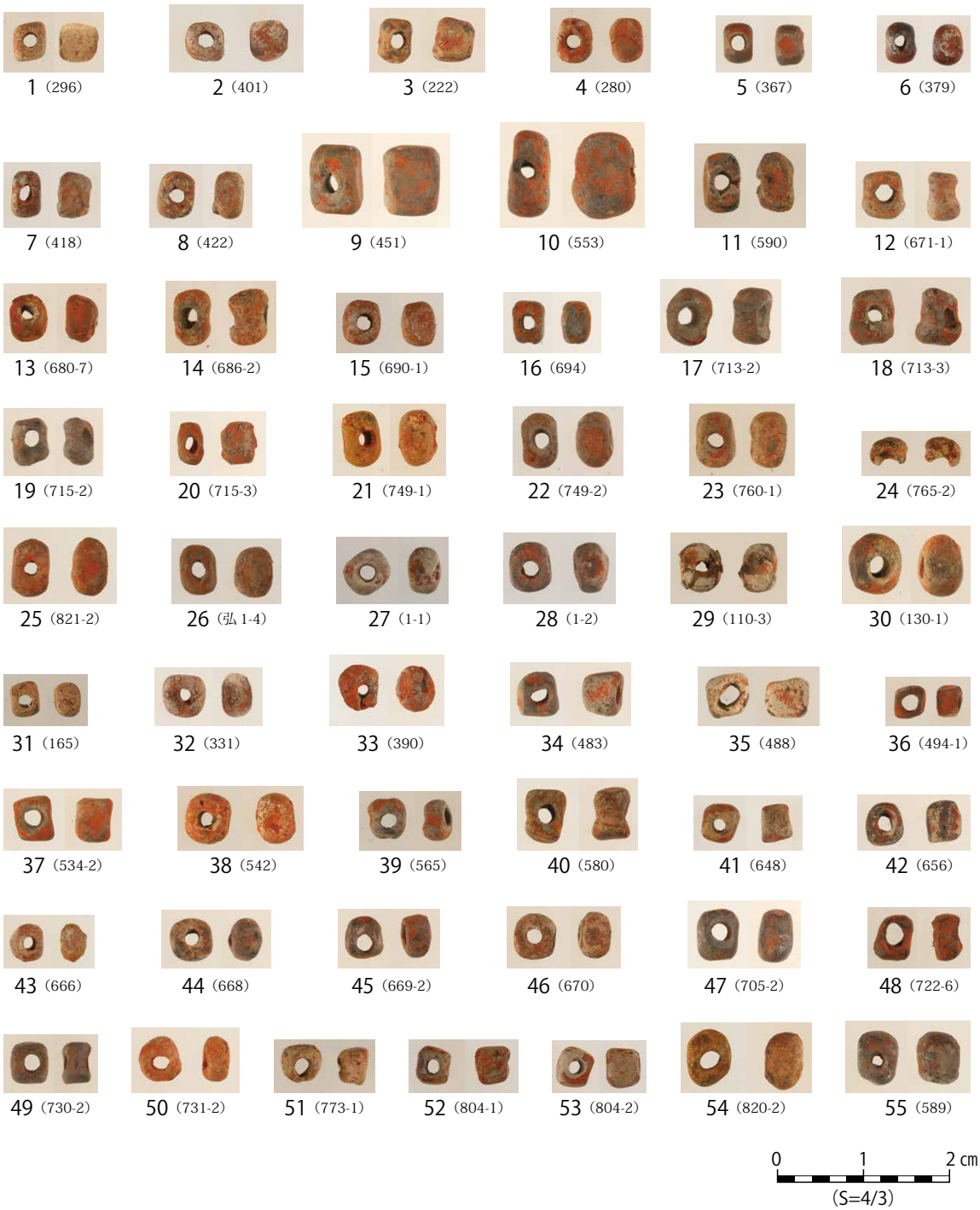
管玉

0　1　2 cm
（S=4/3）

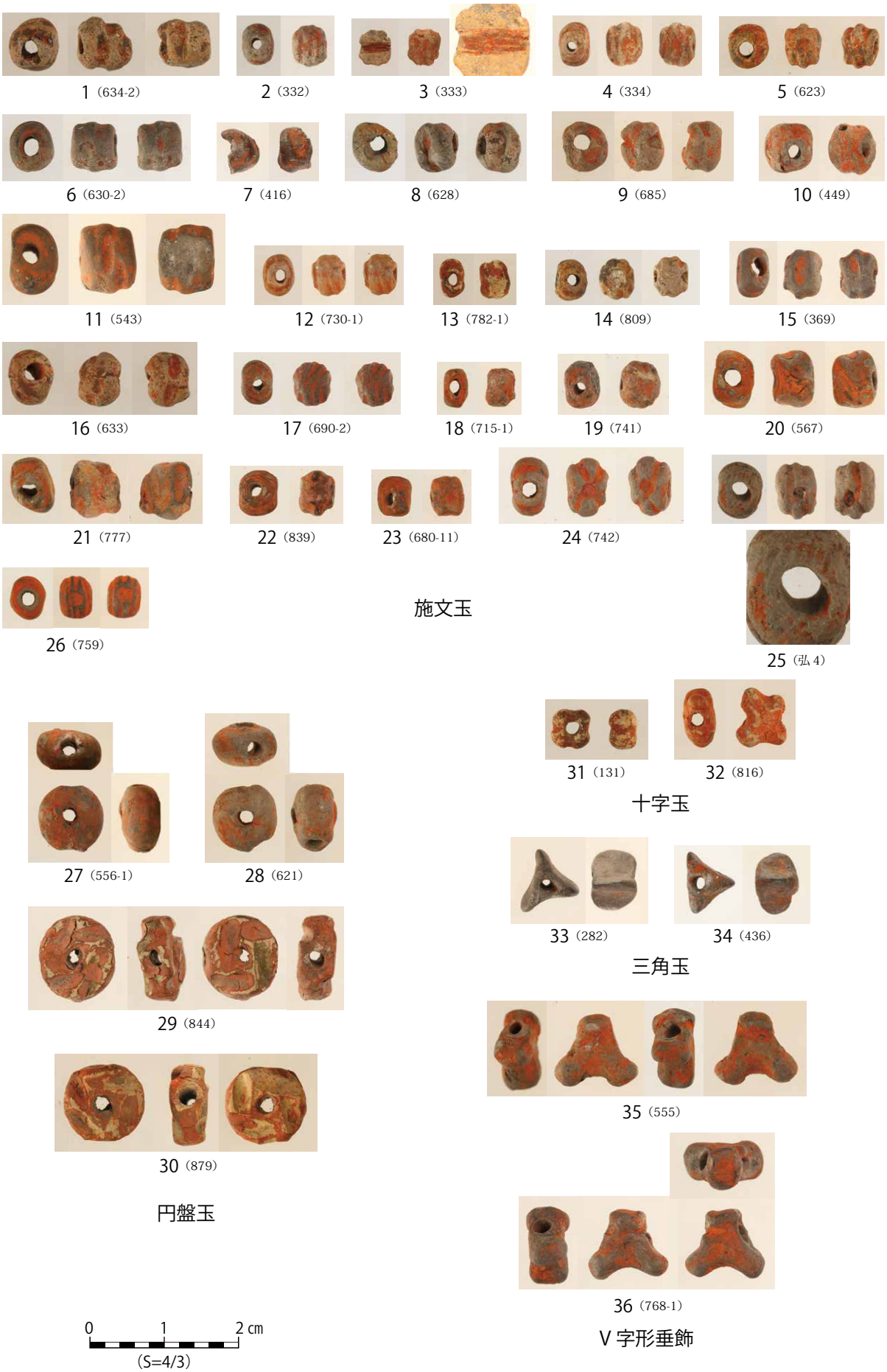
図版 48　山王囲遺跡土玉類４（括れ玉Ａ・Ｂ、管玉）



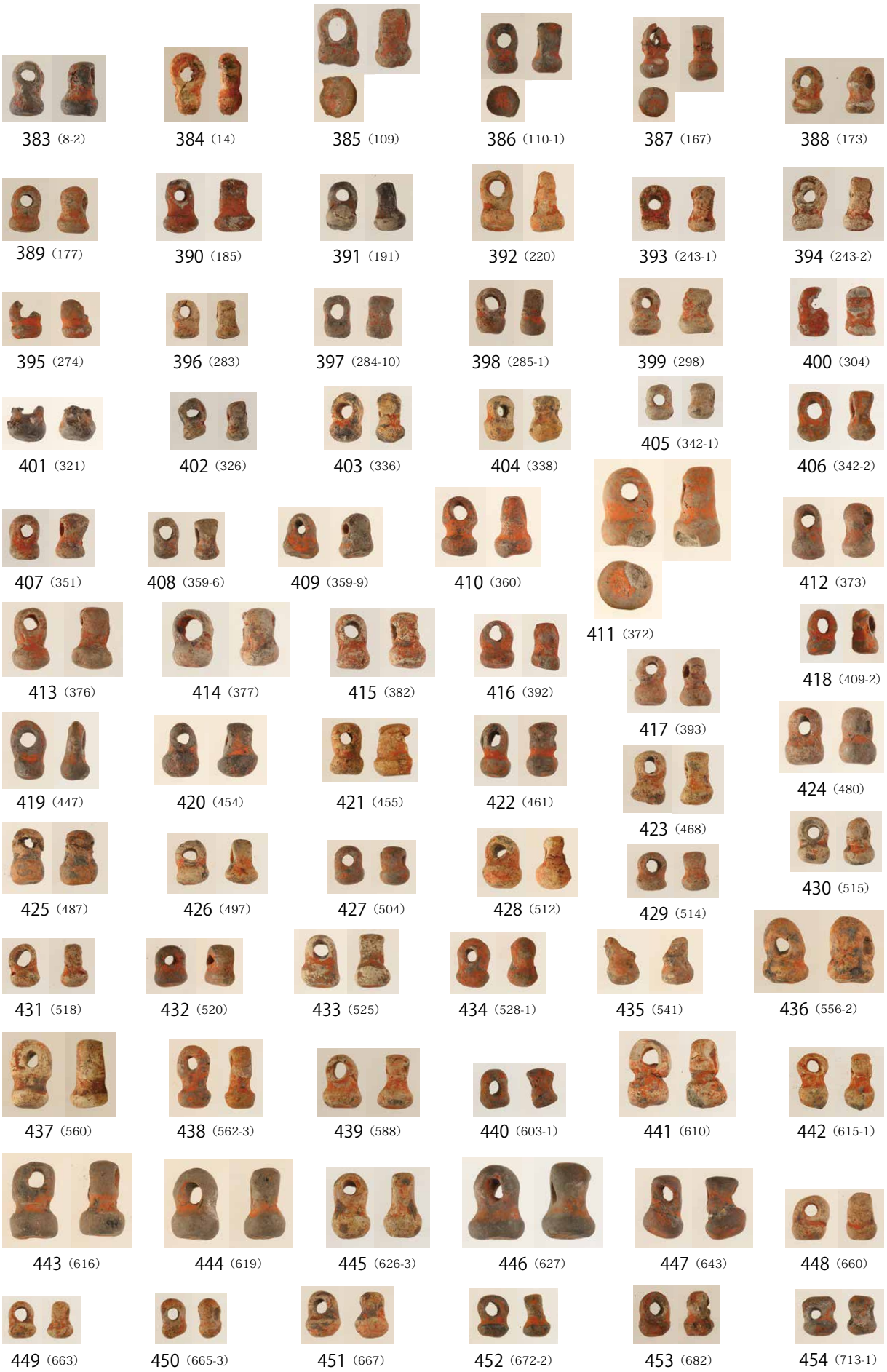
図版 49　山王囲遺跡土玉類５（楕円玉）



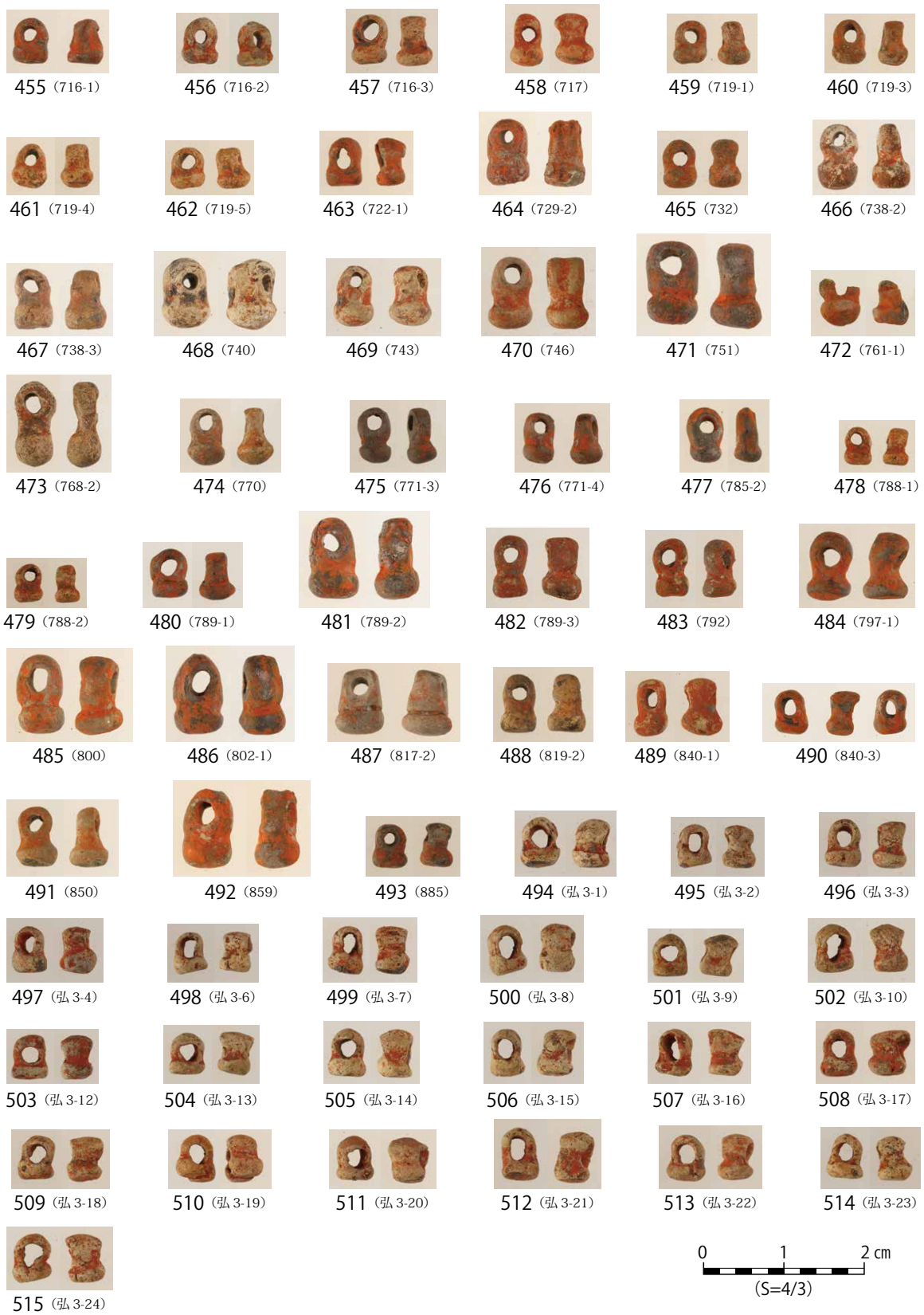
図版 50　山王囲遺跡土玉類６（方形玉）



図版 51　山王囲遺跡土玉類 7（施文玉・円盤玉・十字玉・三角玉・V 字形垂飾）

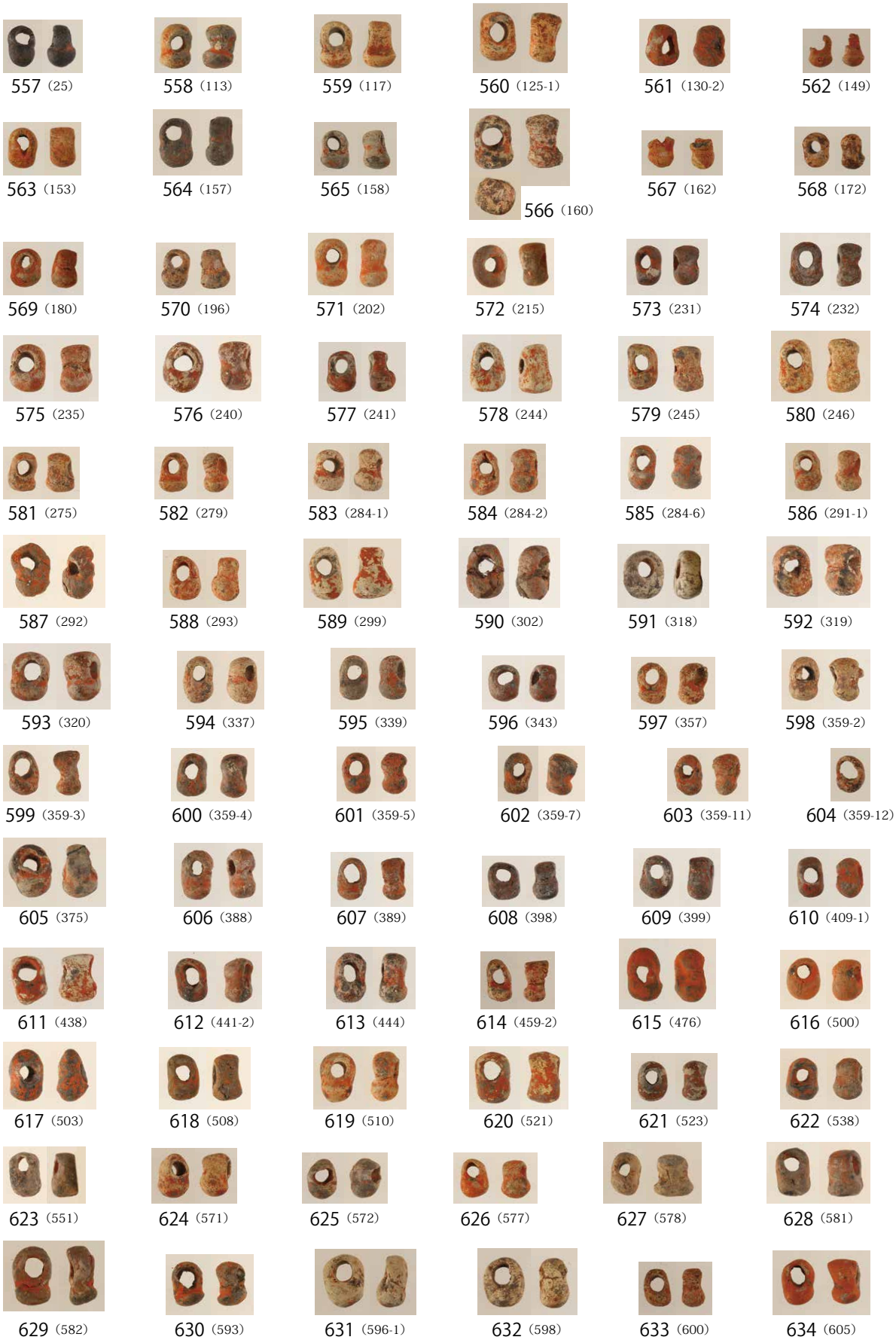


図版 52　山王囲遺跡土製小型垂飾 1 （a 類）



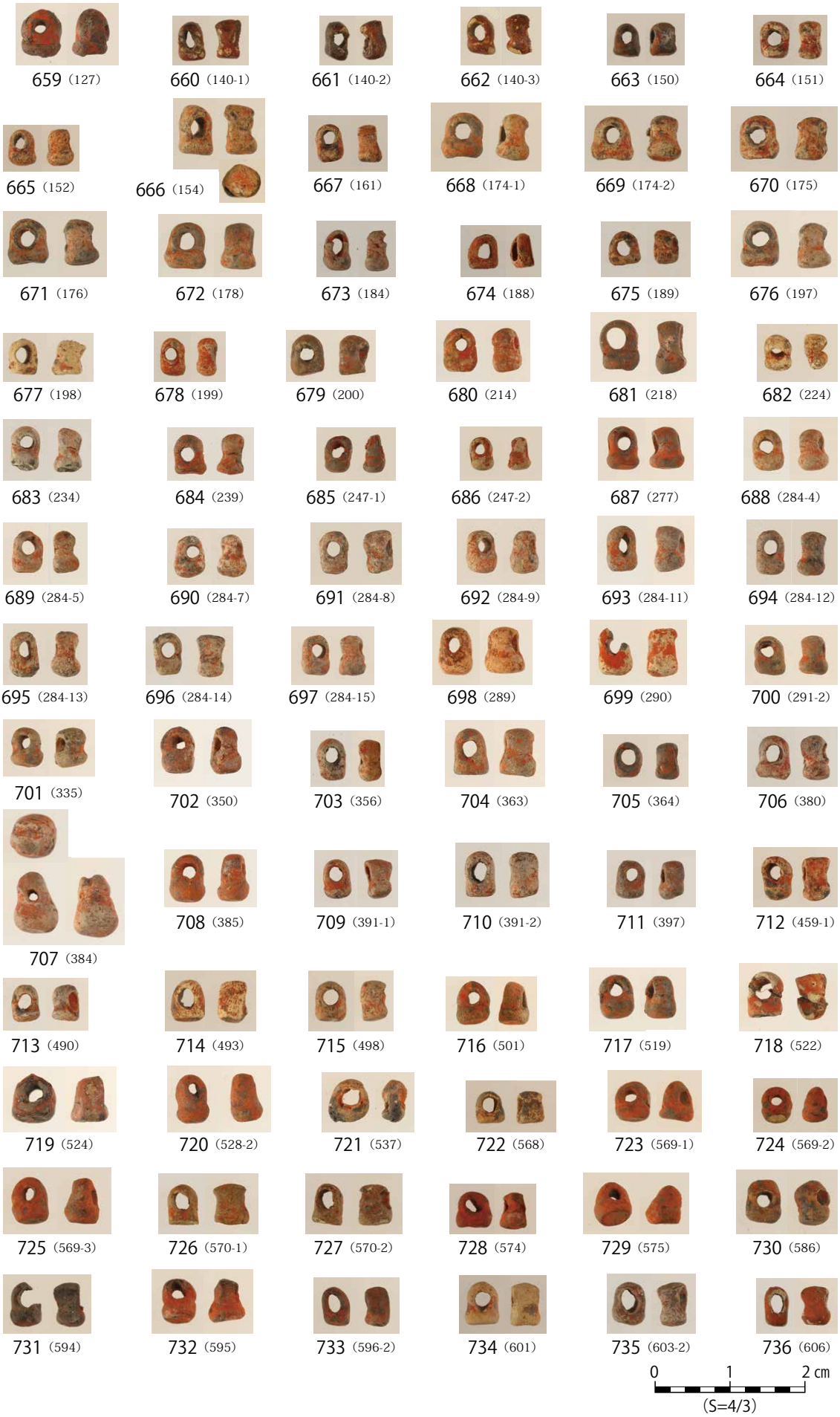
図版 53　山王囲遺跡土製小型垂飾２（a 類）

図版 54　山王囲遺跡土製小型垂飾３（b 類）

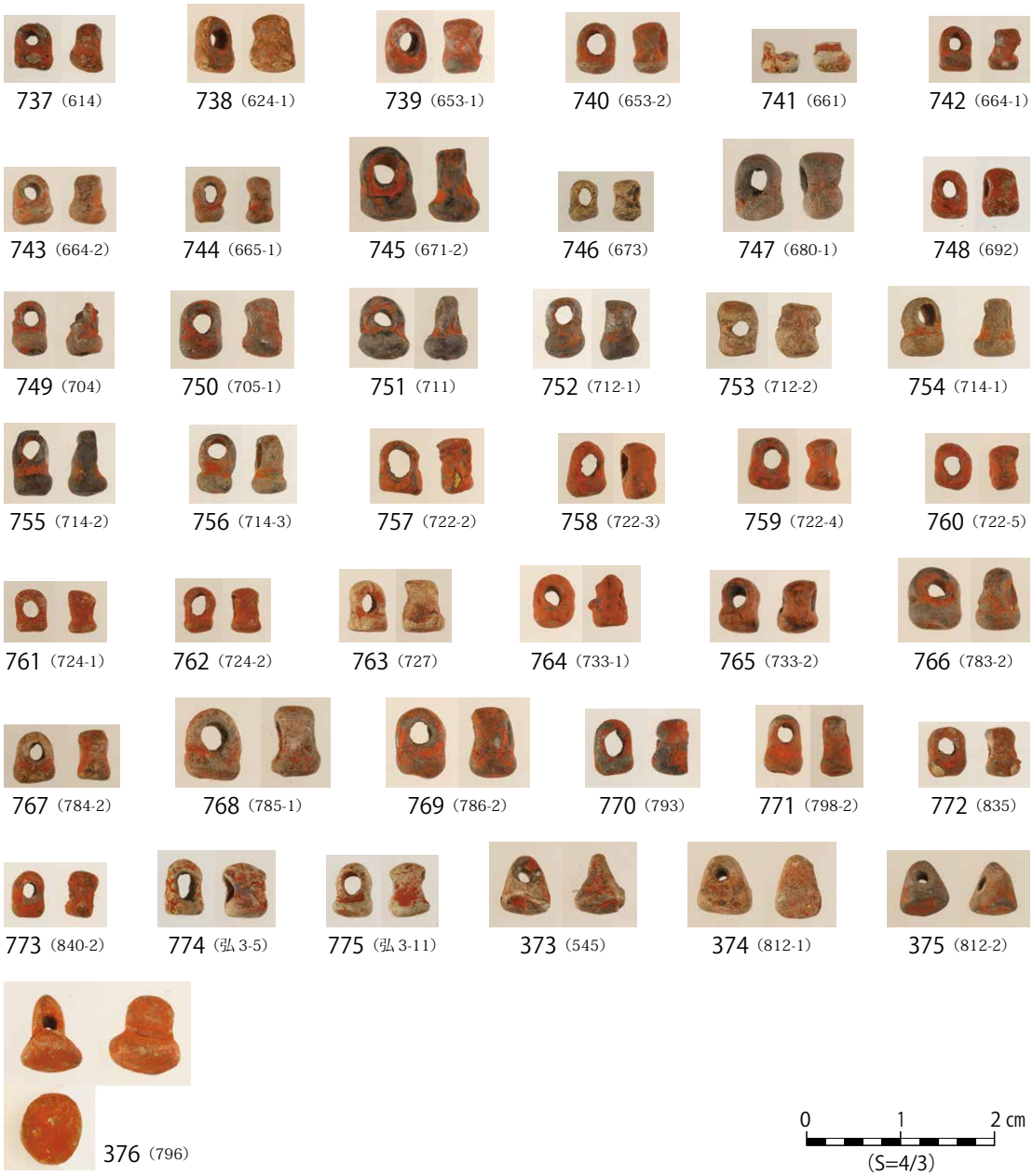


図版 55　山王囲遺跡土製小型垂飾４（c 類）

図版 56　山王囲遺跡土製小型垂飾５（c 類）



図版 57　山王囲遺跡土製小型垂飾６（d 類）

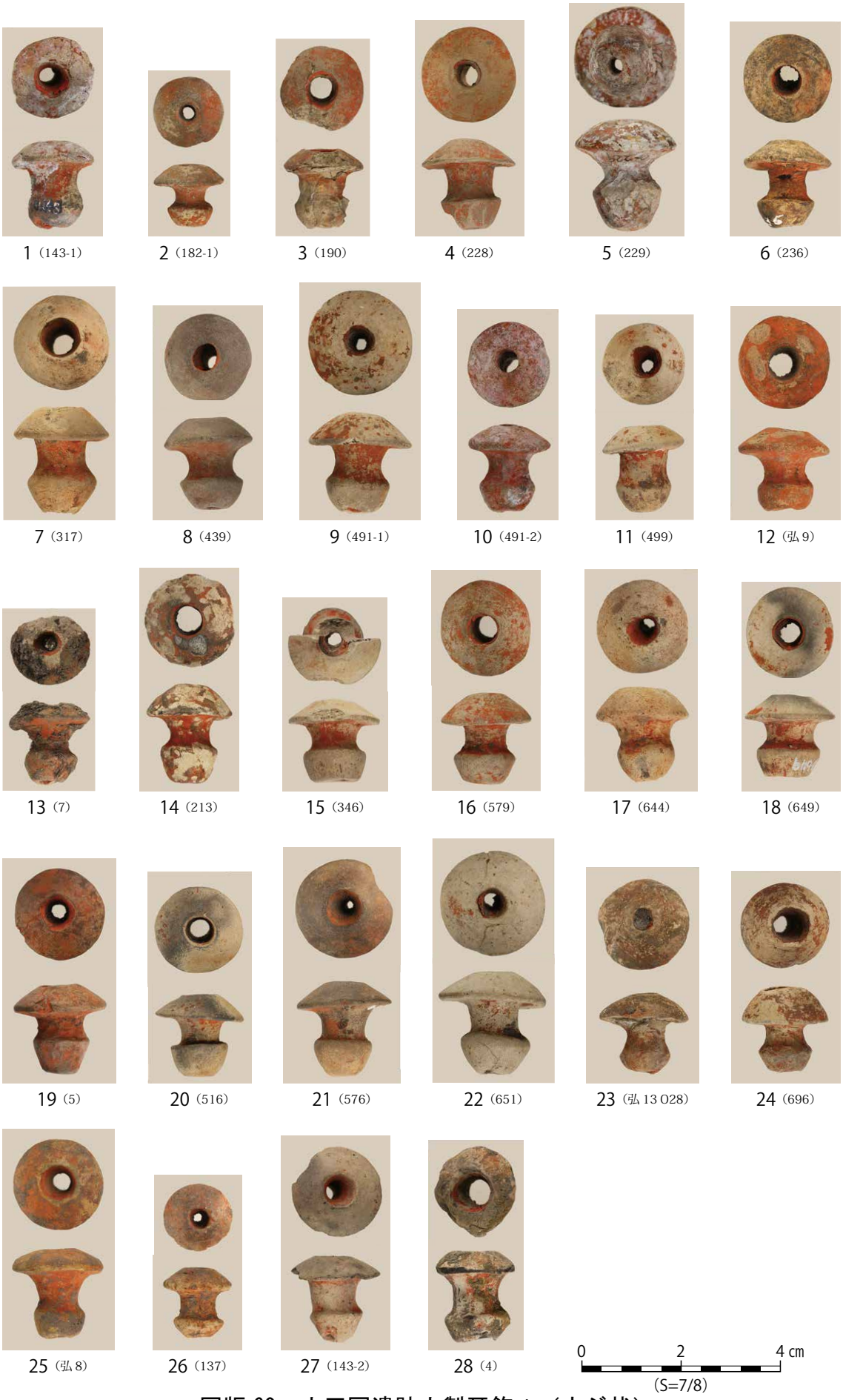


図版 58　山王囲遺跡土製小型垂飾７（d 類・e 類）

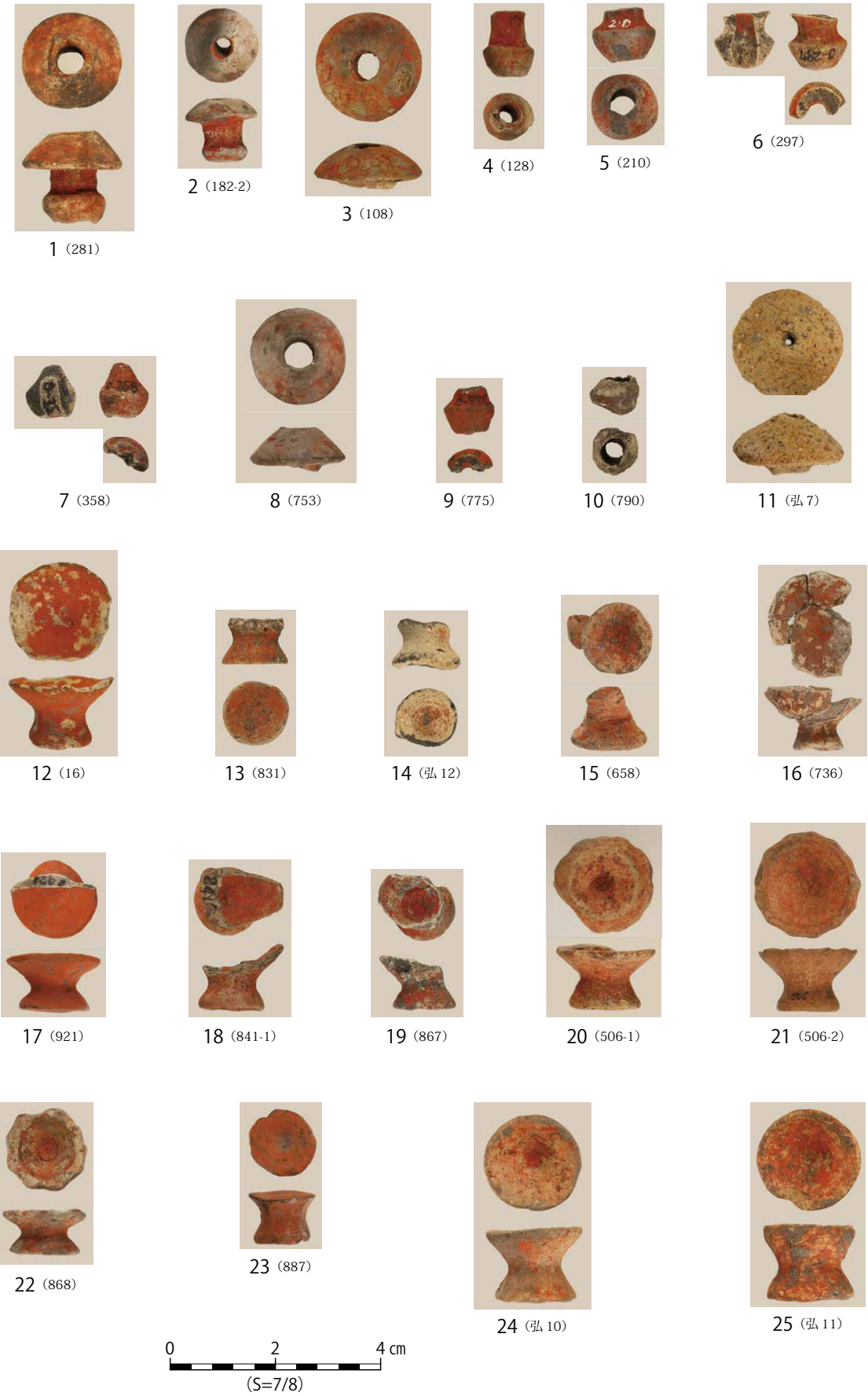
44（弘 3-25）

45（532）

図版 59　山王囲遺跡土玉・土製小型垂飾集中出土状態



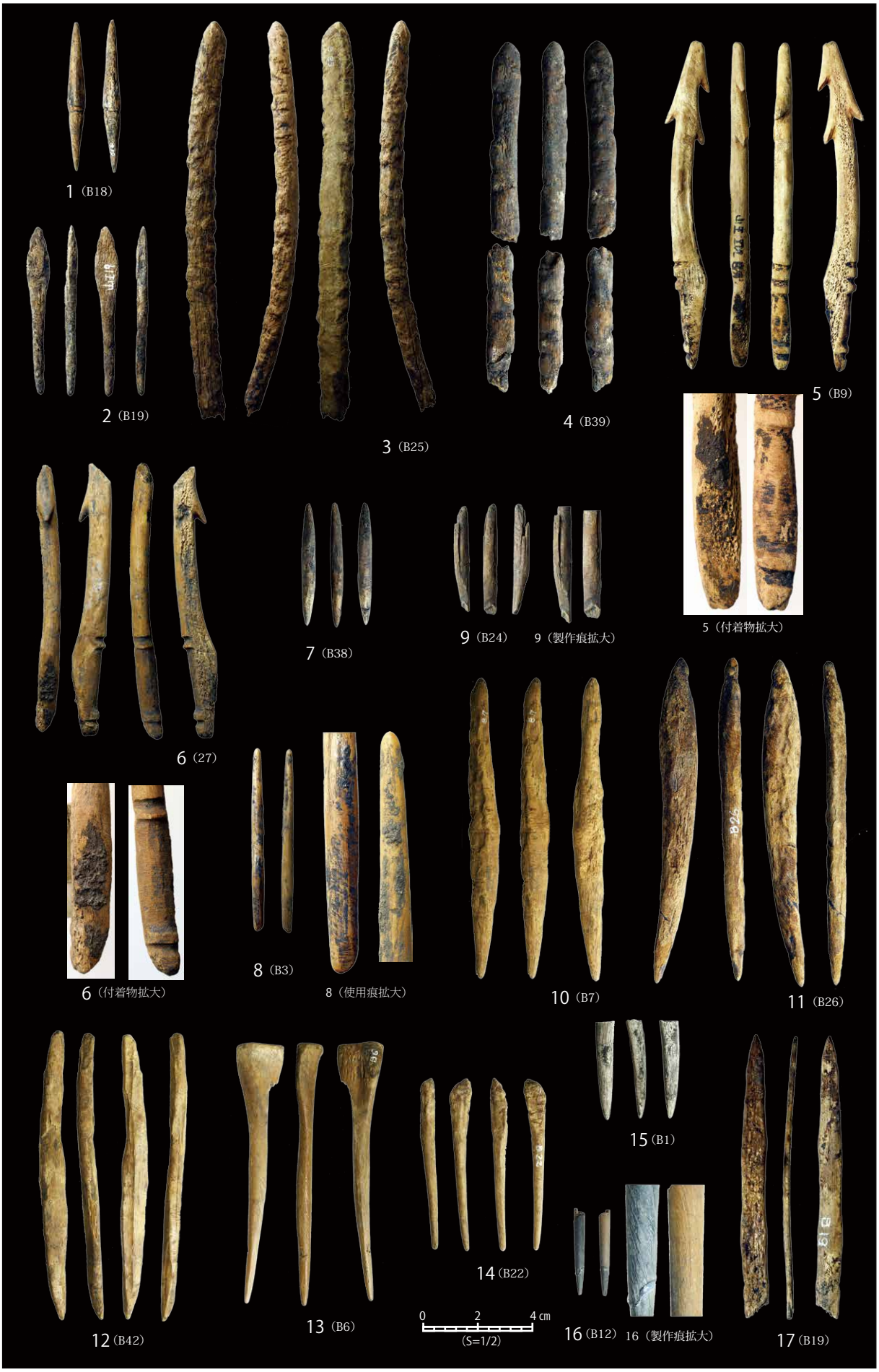
図版 60　山王囲遺跡土製耳飾 1（ネジ状）



1-11：ネジ状、12-22：猪口状、23-25：臼状

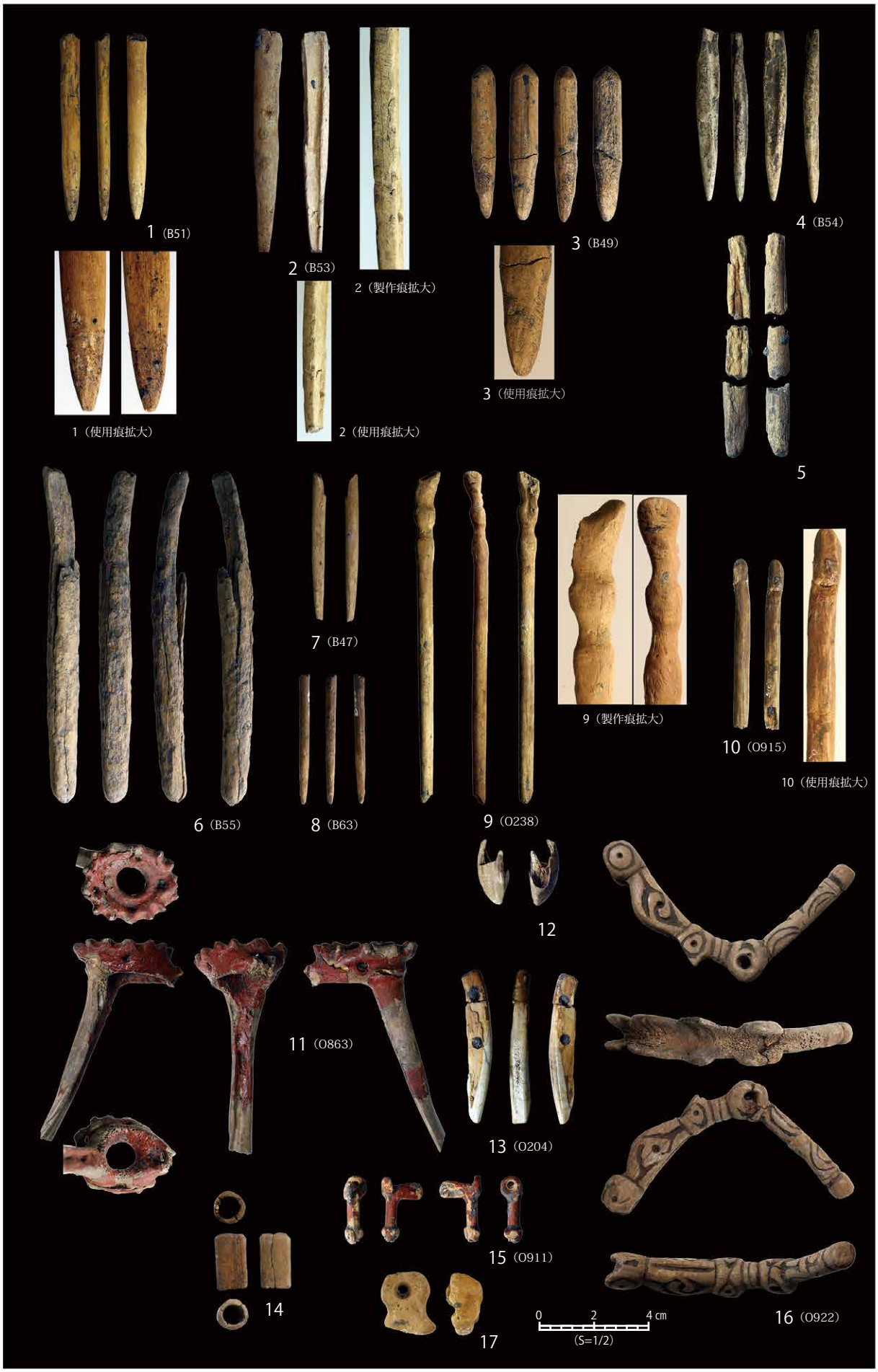
図版 61　山王囲遺跡土製耳飾２（ネジ状・猪口状・臼状）

図版 62　山王囲遺跡土製品（円形・ミニチュア・有孔・円盤状ほか）



図版 63　山王囲遺跡骨角器 1

図版 64　山王囲遺跡骨角器２



図版 65　山王囲遺跡骨角器３

図版 66　山王囲遺跡骨角器４

図版 67　山王囲遺跡漆塗貝製品 1

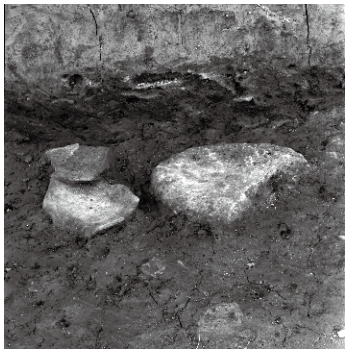
1

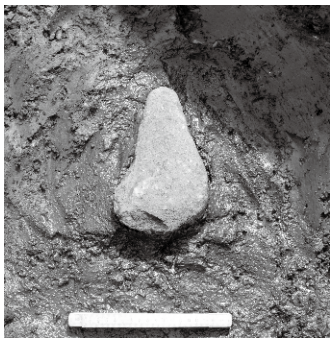
2

0　2.5　5cm
(S=2/3)

図版 68　山王囲遺跡漆塗貝製品２

東 25 層　石鏃・漆塗繊維製品


西Ⅳ上層　石皿（図 18-2）


東 23 層　敲石（図 8-6）

西Ⅳb 層　磨石類

磨石類　集石

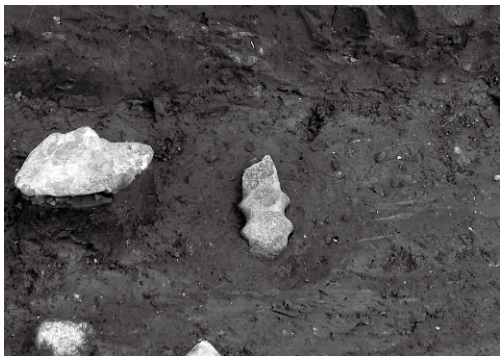
西Ⅲ層　磨製石斧（図 12-8）

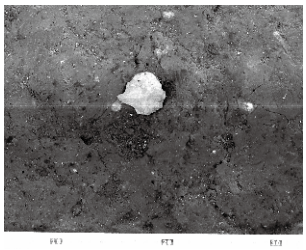
東 21 層　石棒（図 37-3）

西Ⅲ層　石刀（図 38-4）

東 25 層　石刀（図 37-12）

石刀（図 38-8）


西Ⅳm 層　独鈷状石器（図 40-10）


独鈷状石器（図 40-11）

西Ⅴ層　岩版（図 45-5）

東区　石製玉類（図 44-30）

西Ⅴ層　石製玉類集中（図 44-3・12～26 のうち）

図版 69　山王囲遺跡　石器・石製品出土状況写真 1

西Ⅴc７層　土偶（図 48-6）

東 12c 層　土偶（図 47-1）

西Ⅵ層　土偶（図 47-11）

西Ⅴb４層　土版（図 49-2）

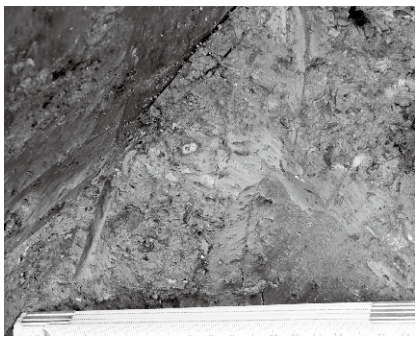
西Ⅴc 層　土版（図 49-3）

西Ⅴb４層・骨角器（図 72-1・17）

西Ⅴ層　土玉類集中（台帳番号　O284 か）

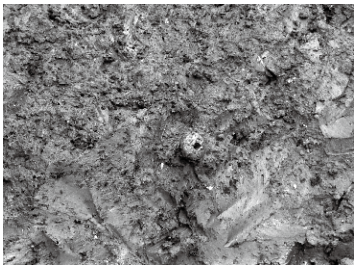
西Ⅴc４層　土玉類（図版 59-45）

東 25 層　土玉類



土製小型垂飾

土製耳飾



土製耳飾

図版 70　山王囲遺跡 土製品・土製玉類出土状況写真

西Ⅵ層 腰飾（図 72-15）

西Ⅴ層 未製品（図 73-3 か）

東 15 層 組合式ヤス（図 70-6）

腰飾

東 18 層 髪針？（図 71-2）

東 20 層 髪針

西Ⅴ層 髪針（図 72-9）

西Ⅵ層 髪針

西Ⅵ層 腰飾（図 72-16）

東 10 層 石製玉・勾玉（図 71・11～13）

西Ⅵ層 漆塗貝製品（図 75-1）

東 23 層 漆塗貝製品（図 75-2）

東 25 層 漆塗貝製品（図 74-1）

東 23 層 漆塗貝製品（図 74-2）

図版 71　山王囲遺跡 骨角器・漆塗貝製品出土状況写真

国史跡山王囲遺跡の研究 Ⅱ
石器・石製品・土製品・骨角器編

2021 年 9 月 10 日　初版発行

編　者　上條信彦

発　行　弘前大学人文社会科学部　北日本考古学研究センター

〒 036-8560　青森県弘前市文京町 1 番地
TEL　0172-39-3190（直通）

印　刷　やまと印刷株式会社

青森県弘前市神田 4 丁目 4 - 5
TEL　0172-34-4111（代表）

ISBN 978-4-907995-11-9　©弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター 2021　Printed in Japan

ISBN 978-4-907995-11-9

The SANNOGAKOI site Ⅱ

THE STONE IMPLEMENTS, STONE OBJECTS, CLAY ARTIFACTS, AND BONE AND ANTLER OBJECTS

2021

Research Center For Archaeology of Nothern JAPAN, Hirosaki University